

【表紙】
【提出書類】 有価証券報告書
【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項
【提出先】 関東財務局長
【提出日】 2021年4月21日
【事業年度】 自 2019年11月1日
至 2020年10月31日
【会社名】 ロイヤル・バンク・オブ・カナダ
(Royal Bank of Canada)
【代表者の役職氏名】 エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント、トレジャラー
(Executive Vice-President and Treasurer)
ジェームズ・サーレム
(James Salem)
ヴァイス・プレジデント、コーポレート・トレジャリー
(Vice-President, Corporate Treasury)
デビッド・M・パワー
(David M. Power)
【本店の所在の場所】 H3C 3A9 カナダ ケベック州モントリオール
プレイス・ヴィル・マリー1
(1 Place Ville Marie, Montreal, Quebec, Canada H3C 3A9)
【代理人の氏名又は名称】 弁護士 小 林 穰
【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号
大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
【電話番号】 03-6775-1000
【事務連絡者氏名】 弁護士 白 川 もえぎ
弁護士 佐 藤 誠 高
弁護士 三 角 侑 子
弁護士 土 肥 俊 樹
【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号
大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
【電話番号】 03-6775-1627
【縦覧に供する場所】 該当事項なし。

- (注1) 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「ドル」、「\$」および「C\$」は、カナダドルを指すものとし、「U.S. \$」は米ドルを指すものとする。本書において、別段の記載がある場合を除き、便宜上記載されている円貨換算額は、1カナダドル＝81.80円の換算レート（2021年2月1日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場仲値）により計算されている。なお、同日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場仲値は、1米ドル＝104.69円である。
- (注2) 本書において、文脈上別段の記載または解釈がなされる場合を除き、「当グループ」または「RBC」は、ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびその子会社を、「当行」はロイヤル・バンク・オブ・カナダを指す。
- (注3) 当行の事業年度は、11月1日に始まり翌年の10月31日に終了する。
- (注4) 本書中の表で計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

将来の予測に関する記述についての注意

当グループは随時、書面または口頭を問わず、1995年米国私的証券訴訟改革法および適用あるカナダの証券法におけるセーフハーバー条項を含む一定の証券法における将来の予測に関する発表を行う。当グループは、本書に記載される将来の予測に関する記述を、カナダの規制当局もしくは米国証券取引委員会（SEC）に対するその他の提出書類、または株主への報告およびその他の情報に記載することがある。本書に記載される将来の予測に関する記述は、当グループの財務業績目標、展望および戦略的目標、カナダ、米国、ヨーロッパおよび世界の経済に関する「経済、市場および規制の概観および展望」、当グループが営業する規制環境、当グループの各事業セグメントに関する「戦略的優先事項」および「見通し」の各項、信用リスク、流動性リスクおよび資金調達リスク、ならびに当グループの事業運営、財務業績、財務状況および財務目標ならびに世界経済および金融市況に対するコロナウィルス（COVID-19）のパンデミックによる潜在的かつ継続する影響、さらに当グループの環境およびガバナンス関連への影響および目標を含むリスク環境に関する記述を含むがこれらに限られない。本書に含まれる将来の予測に関する記述は、当グループの有価証券の保有者および金融アナリストが、記載の日付および記載の日に終了した期間における当グループの財務状況および業績ならびに当グループの財務業績目標、展望および戦略目標を理解する一助として掲載するものであり、その他の目的には適切ではない場合がある。将来の予測に関する記述は、「考える」、「予期する」、「見越す」、「予見する」、「予想する」、「意図する」、「推定する」、「目標とする」、「する予定である」および「計画する」等の用語ならびに「することとなる」、「する可能性がある」、「すべきである」、「かもしれない」または「だろう」等の類似する将来を表す表現または条件付の意味を有する動詞により、主として表される。

将来の予測に関する記述には、その性質上、仮定することが必要となり、特有の内在するリスクおよび不確実性に左右される。そのため、当グループの予測、予見、見通し、予期または結論は正確であることが証明されない、我々の仮定が正確でない、また我々の財務業績目標、展望および戦略的目標が実現しない可能性がある。多くのリスク要因により、当グループの実際の業績が将来の予測に関する記述に記載されている予想から大きく乖離する可能性があるため、これらの記述に過度に依拠しないよう注意されたい。これらの要因（その多くは当グループの制御し得ないものであり、その影響は予測が難しい場合がある。）には、下記「第一部 第3 2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項ならびに「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「リスク管理」および「重要な進展：COVID-19」の各項に記載されている、信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよび資金調達リスク、保険リスク、オペレーショナル・リスク、規制遵守リスク（かかるリスクにより、当グループは様々な法律および規制手続の対象となり、その結果、規制上の制限、罰則および罰金が科される可能性がある。）、戦略リスク、評判リスク、法的・規制的環境リスク、競争リスクならびにシステムに関するリスクおよびその他のリスク（事業の状況および経済状況、情報技術リスクおよびサイバー・リスク、カナダの住宅および家計債務、地政学的な不安定性、プライバシー・リスク、データ・リスクおよび第三者関連リスク、規制の変更、環境リスクおよび社会リスク（気候変動を含む。）ならびにデジタル・ディスラプションおよびイノベーション、文化的リスクおよび行動的リスク、当グループが事業を行っている地域における事業および景気情勢、政府の財政・金融政策およびその他の政策の変更の影響、税金リスクおよび透明性、環境リスクおよび社会リスク、ならびにパンデミックおよび疫病等の広汎な健康上の緊急事態または公衆衛生上の危機の発生（COVID-19のパンデミックとこれによる世界経済、金融市況ならびに当グループの事業運営、財務業績、財務状況および財務目標への影響を含む。）を含む。）が含まれる。

上記は、リスク要因をすべて網羅しているわけではなく、他の要因が当グループの業績に悪影響を与える可能性がある。当グループに関する判断を行うために当グループの将来の予測に関する記述に依拠する場合、投資家およびその他の者は、前述の要因およびその他の不確定要素および潜在的事象を、慎重に検討すべきである。本書に含まれる将来の予測の根拠である経済に関する重大な前提は、下記「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「経済、市場および規制の概観および展望」の項に記載され、各事業セグメントについては「戦略的優先事項」および「見通し」の各項に記載されている。法令により別途必要とされる場合を除き、当グループは、書面または口頭の如何を問わず、当グループによりまたは当グループのために随時行われる将来に関する予測を最新のものにすることを保証するものではない。

かかる要因およびその他の要因についての追加情報については、下記「第一部 第3 2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項ならびに「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「リスク管理」および「重要な進展：COVID-19」の各項を参照のこと。

第一部 【企業情報】

第1 【本国における法制等の概要】

1 【会社制度等の概要】

(1) 【提出会社の属する国・州等における会社制度】

カナダにおいて銀行に適用される法令は銀行法（カナダ）（以下「銀行法」という。）であり、これはカナダ国会により制定された連邦法である。銀行以外のカナダの会社の大多数は、連邦法であるカナダ事業会社法、もしくは各州の州法である会社法に基づいて設立される。

銀行はカナダ国会の特別法もしくは免許状によってのみ設立が可能であり、銀行法に従ってのみ存続することが可能である。銀行法は、銀行法が各銀行の免許状であることを明確に規定しており、従って銀行は個々の基本定款を持たない。各銀行は銀行法に反しない限りにおいて、銀行の事業および業務一般を規制するための附属定款を設けることができる。当行の附属定款の要約は後記(2)に述べられている。

銀行およびその子会社は銀行法以外の一定の連邦および州の一般法規にも服している。カナダには連邦法としての有価証券法は存在しないが、各々の州および准州にはその法域内での有価証券の発行・取引を規制する独自の有価証券に関する法律がある。

銀行法の規定の概要は次のとおりである。

銀行法に従い、銀行は自然人と同様の権利、権限および特権を有し、銀行業務および銀行業務に関連する事業に従事することができる。銀行の名称はその免許状に記載される。銀行の附属定款は、株式の種類、権利、特権、制限および各種の株式に付帯する条件および各種類別の最大株式数を定めることができる。銀行は銀行法が銀行の設立定款に含めることを認めている規定を追加し、変更し、削除することに関する申請をカナダ財務大臣（以下「大臣」という。）に提出することができる。かかる変更を有効に行うためには、特別議決がなされなければならない。特別議決とは、当該決議事項に関して議決権を有する株主の3分の2以上によって可決される決議または当該決議事項に関して議決権を有するすべての株主によって署名された決議をいう。

銀行の事業および業務を規定する附属定款は取締役会の決議によって定められるが、次回の株主総会で株主の普通決議によって承認されなければならない。ただし、授權資本を変更し、種類株式を新設し、銀行株式の名称を変更し、種類株式の数もしくは株式に付帯する権利、特権、制限および条件を変更し、取締役数もしくは取締役の最小・最大員数を加減し、または銀行の本店が所在する州を変更するためには、特別決議を必要とする。ある種類もしくはシリーズの株式に付帯する権利、特権、制限または条件の変更が提案される場合には、当該変更により影響を受ける株式の株主の承認も必要となる。特別決議が必要とされている場合等銀行法で別段の要求がなされていない限り、決議ないし承認はすべてそれに関する投票の単純多数決によって可決される。

銀行法は銀行に対し会社事務、有価証券および会計に関する一定の記録を作成しかつ保持するように要求している。また定期的な財務内容の開示および報告を行うことも義務づけている。銀行は、毎年の年次総会の少なくとも21日前に各株主にその年次財務書類の写しを送付しなければならない。銀行は毎年の年次総会の席上、取締役によって承認された比較年次財務書類、監査報告書および附属定款で要求するその他の情報を株主に提出しなければならない。

(i) 株主総会

各会計年度終了後6ヶ月以内に年次株主総会が開催されなければならない。さらに、取締役は任意に、あるいは総会での議決権を有する発行済株式の5%以上の株主の要求があれば必ず、特別株主総会を招集する。総会の日時と場所に関する通知は、総会開催日に先立つ21日以上60日以内の期間内に総会での議決権を有する各株主、各取締役および各会計監査人に送付されなければならない。さらに総会開催日前の少なくとも連続した4週間の各週に一回は銀行の本店所在地およびカナダ国内における株式名義書換代理機関所在地もしくは銀行株式の名義書換の登録地で発行されている新聞に公告しなければならない。銀行法の規定に従い、各株主は議決権のある各種類の株式1株につき1議決権を認められている。株主は各年次総会で取締役を選出する。銀行法の規定に服することを条件として、株主は特別総会における決議によって取締役を解任することができる。株主は年次総会で検討されるべく提案を行なうことができる。株主総会は当行の附属定款が規定するカナダ国内の場所、もしくはかかる規定のないときは、取締役が決定するカナダ国内の場所で開催されなければならない。

(ii) 事業および業務運営

取締役は銀行の事業および業務の管理または監督にあたる。銀行の取締役のうちその選任または任命時に少なくとも過半数はカナダに居住するカナダ国民でなければならない。また銀行法の規定に従い、取締役のうち当該銀行の関係者が3分の2を超えてはならない。さらに、銀行法は一定の個人に対し取締役の資格がない旨を定めている。

銀行との重要な契約もしくは取引または銀行との間で予定される重要な契約もしくは取引の当事者、これに対して利害を有する者、あるいはこれらの者が役員ないし取締役（または同種の立場の者）である銀行の取締役は、その利害の性質および程度を書面で銀行に対し開示しなければならない。またはかかる利益相反を取締役会の議事録に記録しなければならない。取締役は銀行の最大の利益のために正直かつ誠実に行動し、合理的に慎重な者が同様の状況において行うであろう注意、勤勉さおよび手腕を働かせなければならない。

(iii) 役員

取締役はそこから最高経営責任者（CEO）1名を選出し、かつ銀行法または附属定款に従い適当と考える銀行の事業および業務運営にあたるその他の役員または委員会を任命しなければならない。

(iv) 企業金融および株式

銀行法ないし附属定款の規定に従うことを条件として、取締役が決定する時期に、その決定する者に対し、取締役が決定する対価によって株式を発行することができる。株式は追加出資義務を伴わず、株式の対価は、現金または金融機関監督局長（以下「金融機関監督局長」という。）の承認の下にその他財産で、発行前に全額が払い込まなければならない。株式は、記名式額面あるいは無額面株式である。

(v) 銀行法に基づく銀行株式に関する規制

銀行法にはカナダの勅許銀行の株式の割当、譲渡、取得、所有および議決権行使に関する制限事項が含まれている。要約すると、銀行法に従い、これらの制限事項によって、銀行は下記の行為を認められていない。

(イ) 銀行法による承認を得ずに、特定の者およびその者の支配する法人が実質的に所有する、120億カナダドル超の株主持分を有する銀行のある種類の株式の総数がその種類の株式の10%を既に超えているか、あるいは当該発行または譲渡によって超える場合にはこの者に対し株式を発行ないし譲渡をすること、または、

(ロ) 一定の例外を除き、カナダ連邦政府、州政府ないしそれらの代理人、もしくは外国政府ないし外国政府の下部組織あるいはその代理人に対し株式を発行ないし譲渡をすること。

株式購入者は当行が指定する様式で前述の一定事項に関する陳述書を提出するよう要求されることがある。

(vi) 株式制限と承認

銀行法により、銀行は、金融機関監督局長の同意を経た場合を除き、普通株式を含めた自己株式の償還または買入れを行うことができない。さらに、銀行法により、銀行が、その営業に関連して十分な資本および適切な態様による流動性を維持し、それに関する金融機関監督局長の規制または命令を遵守する銀行法上の義務に違反しているか、そうした義務に違反することになるおそれがあると考えられる合理的な根拠がある場合に、株式の買戻し、償還または配当のための支払を行うことが禁止されている。

(vii) 銀行法

現行の銀行法は、1992年6月1日に発効し、適宜改正されている。

(2) 【提出会社の定款等に規定する制度】

当行の企業制度は、銀行法および当行の附属定款により決定される。上記に記載されているとおり、銀行法自体が当行の定款であるため、当行は基本定款を有していない。別段の記載がない限り、以下の概要は本書提出日現在の当行の附属定款に関するものである。

(i) 株式

本書提出日現在、当行の授權資本は、数量無制限の額面普通株式または無額面普通株式（以下「普通株式」という。）、最高発行総額200億ドルの、数量無制限の額面第一優先株式または無額面第一優先株式（以下「第一優先株式」という。）、および最高発行総額50億ドルの、数量無制限の額面第二優先株式または無額面第二優先株式（以下「第二優先株式」という。）から構成される。

1 普通株式

普通株式は、償還することができない。普通株式の株主の権利は、あらゆる点において同一の権利を有する。これには、①所定のクラスの株式の株主のみが議決権を有する総会を除く、あらゆる総会における議決権、②所有株式について宣言された配当を受領する権利および③解散時における当行の残余財産を受領する権利を含む。

2.1 第一優先株式

第一優先株式は、附属定款に規定されている権利、特権、制限および条件を有し、かつこれに服するものとする。

2.1.1 銀行法の規定に従い、第一優先株式は、以下に規定するシリーズごとに発行されるものとし、各第一優先株式は、配当金の支払および資本配当に関して同順位とする。当行の取締役は、決議により、（銀行法の規定に従い、かつ附属定款の規定および第一優先株式の発行済みの各シリーズに付随した条件に服することを条件として）発行前に、随時第一優先株式を償還可能なシリーズに分割すること、その株式数を確定することおよび第一優先株式の各シリーズの名称、権利、特権、制限および条件を決定することができる。

2.1.2 第一優先株式の各シリーズの株主は、第二優先株式および普通株式ならびに第一優先株式に劣後するその他のクラスの当行の株式の株主に優先して、かかるシリーズに関する規定に従い決定される金額の配当金を、当行の取締役が宣言したときに、当行の取締役が宣言したところにより受領する権利を有し、かかる配当金は、累積的または非累積的に、現金（外貨を含む。）でもしくは株式配当によりまたはその他合法的な方法により支払うことができる。

優先順位は、累積配当の場合には、かかる配当に加えて特定のシリーズに付随する条項所定の配当に関する追加金額（もしあれば）が支払われるべきであった過去の全期間に関して認められ、また非累積配当の場合には、配当金が支払われる旨宣言されたものの未だ支払われていない配当全部について認められる。第一優先株式の各シリーズの株主は、追加配当またはかかる第一優先株式のシリーズに付随する権利、特権、制限および条件に明示された配当以外のその他の配当を受領することはできない。

2.1.3 銀行業務閉鎖のための当行の清算、解散もしくは閉鎖または当行の資産のその他の分配の場合には、第二優先株式、普通株式または第一優先株式に劣後するその他のクラスの当行の株式を有する株主が何らかの支払または財産の分配を受ける前に、第一優先株式の各シリーズの株主は、かかるシリーズに関して定められた範囲において、①かかる株式が発行された金額に相当する額、②かかるシリーズに関し定められたプレミアム（もしあれば）、および③未払い累積的配当金一切（累積的配当金が支払われた最後の期間満了時から分配日までの期間に毎日発生したものとして計算されるものとする。）、ならびに非累積的第一優先株式の配当の場合には、配当金を支払う旨宣言されたものの未だ支払われていない配当金一切を受領することができるものとする。第一優先株式の株主は、上記のとおり支払われるべき金額を受領した後は、それ以上当行の財産または資産の分配を受けることはできないものとする。

2.1.4 銀行法の規定に従いかつその他付属定款または各シリーズの第一優先株式に付随する権利、特権、制限および条件に別段の定めがある場合を除き、第一優先株式の株主は、かかる株主として、当行の取締役の選任のためのまたはその他の目的のための議決権を有さず、また、株主総会の通知を受けまたは株主総会に出席することはできない。

2.1.5 当行は、（銀行法またはその他の法的要件に規定された承認に加えて、）第一優先株式の株主の事前の承認を得ずして、以下に定める事項を行ってはならない。①第一優先株式に優先する株式の設定もしくは発行、または②第一優先株式の追加シリーズまたは第一優先株式と同順位を占める株式の設定もしくは発行。ただし、かかる設定または発行の日において、その時点において発行済みの各シリーズの累積的第一優先株式に関し累積的配当の支払対象となる最後の期間に係る支払日までの累積的配当全部につき配当金が支払われる旨宣言されかつこれが支払われまたは支払のため分離されている場合およびその時点において発行済みの各シリーズの非累積的第一優先株式に関し配当金が支払われる旨宣言されたものの未だ支払われていない配当金が支払われまたは支払のために分離されている場合を除く。

2.1.6 上記2.1.1ないし2.1.5までの規定は、本2.1.6を含めて、銀行法に規定されている承認に加えて、本規定以降所定の第一優先株式の株主の承認のみにより全体または一部を削除、変更、修正、改正または拡張することができる。

第一優先株式の株主総会において、シリーズによる区別なく、第一優先株式の各株主は、その所有する第一優先株式の発行価格の1.00ドルにつき1議決権を有する。特定のシリーズの第一優先株式の株主総会において、各株主はその所有するシリーズの各第一優先株式につき1議決権を有する。

2.2 第二優先株式

第二優先株式は、附属定款に規定される権利、特権、制限および条件を有し、かつこれに服するものとする。

2.2.1 第二優先株式は、配当金の支払および当行の清算、解散または閉鎖の場合（任意的か否かを問わない。）の財産の分配またはその他銀行業務閉鎖のための株主間における当行の財産の分配における優先順位に関し、第一優先株式に劣後するものとし、第一優先株式および第一優先株式の各シリーズに付随する権利、特権、制限および条件に服するものとする。

2.2.2 銀行法の規定に従い、第二優先株式は、以下に規定するシリーズごとに発行されるものとし、各第二優先株式は、配当金の支払および資本配当に関して同順位とする。当行の取締役は、決議により、（銀行法の規定に従い、かつ附属定款の規定および発行済みの各シリーズの第二優先株式に付随した条件に服することを条件として）発行前に、随時第二優先株式を償還可能なシリーズに分割すること、その株式数を確定することおよび各シリーズの第二優先株式の名称、権利、特権、制限および条件を決定することができる。

2.2.3 第二優先株式の各シリーズの株主は、普通株式および第二優先株式に劣後するその他のクラスの当行の株式の株主に優先して、かかるシリーズに関する規定に従い決定される金額の配当金を、当行の取締役が宣言したときに、当行の取締役が宣言したところにより受領する権利を有し、かかる配当金は、累積的または非累積的に、現金（外貨を含む。）でもしくは株式配当によりまたはその他合法的な方法により支払うことができる。

優先順位は、累積配当の場合には、かかる配当に加えて特定のシリーズに付随する条項所定の配当に関する追加金額（もしあれば）が支払われるべきであった過去の全期間に関して認められ、また非累積配当の場合には、配当金が支払われる旨宣言されたものの未だ支払われていない配当全部について認められる。第二優先株式の各シリーズの株主は、追加配当またはかかる第二優先株式のシリーズに付随する権利、特権、制限および条件に明示された配当以外のその他の配当を受領することはできない。

2.2.4 当行の清算、解散または閉鎖の場合またはその他銀行業務閉鎖のための株主間における当行財産の分配の場合には、普通株式または第二優先株式に劣後するその他のクラスの当行の株式を有する株主が何らかの支払または財産の分配を受ける前に、第二優先株式の各シリーズの株主は、かかるシリーズに関して定められた範囲において、①かかる株式が発行された金額に相当する額、②かかるシリーズに関し定められたプレミアム（もしあれば）、および③未払い累積的配当金一切（累積的配当金が支払われた最後の期間満了時から分配日までの期間に毎日発生したものとして計算されるものとする。）、ならびに非累積的第二優先株式の配当の場合には、配当金を支払う旨宣言されたものの未だ支払われていない配当金一切を受領することができるものとする。第二優先株式の株主は、上記のとおり支払われるべき金額を受領した後は、それ以上当行の財産または資産の分配を受けることはできないものとする。

2.2.5 銀行法の規定に従いかつその他附属定款または各シリーズの第二優先株式に付随する権利、特権、制限および条件に別段の定めがある場合を除き、第二優先株式の株主は、かかる株主として、当行の取締役の選任のためのまたはその他の目的のための議決権を有さず、また、株主総会の通知を受けまたは株主総会に出席することはできない。

2.2.6 当行は、（銀行法またはその他の法的要件に規定された承認に加えて、）第二優先株式の株主の事前の承認を得ずして、以下に定める事項を行ってはならない。①第二優先株式に優先する株式の設定もしくは発行、または②第二優先株式の追加シリーズまたは第二優先株式と同順位を占める株式の設定もしくは発行。ただし、かかる設定または発行の日において、その時点において発行済みの各シリーズの累積的第二優先株式に関し累積的配当の支払対象となる最後の期間に係る支払日までの累積的配当全部につき配当金が支払われる旨宣言されかつこれが支払われまたは支払のため分離されている場合およびその時点において発行済みの各シリーズの非累積的第二優先株式に関し配当金が支払われる旨宣言されたものの未だ支払われていない配当金が支払われまたは支払のために分離されている場合を除く。

2.2.7 上記2.2.1ないし2.2.6までの規定は、本2.2.7を含めて、銀行法に規定されている承認に加えて、本規定以降所定の第二優先株式の株主の承認のみにより全体または一部を削除、変更、修正、改正または拡張することができる。

第二優先株式の株主総会において、シリーズによる区別なく、第二優先株式の各株主は、その所有する第二優先株式の発行価格の1.00ドルにつき1議決権を有する。特定のシリーズの第二優先株式の株主総会において、各株主はその所有するシリーズの各第二優先株式につき1議決権を有する。

3 株式譲渡制限

上記「1 (1) (v) 銀行法に基づく銀行株式に関する規制」を参照のこと。

(ii) 株主総会

当行の年次総会は、当行の各会計年度末から6ヶ月以内に、取締役の権限によりその権限に基づき決定した日時にカナダ国内の場所において開催されるものとする。

議決権を有する当行の株主が10名以上出席することにより、当行の株主総会の定足数は満たされるものとする。ただし、株式のクラスまたは株式のシリーズに関する規定がその株主総会の定足数を規定している場合には、かかる規定が適用されるものとする。

(iii) 取締役

当行の取締役会は、銀行法に規定される取締役の最低員数以上で、最高26名の取締役をもって構成する。年次株主総会において選任されるべき取締役の数は、年次総会に先立ち取締役が定めるものとする。取締役は随時、当行に適用される法令に基づき、1名以上の取締役を指名することができる。

2 【外国為替管理制度】

当行により発行された社債またはそれに付された利札に関する元利金の当行による日本国の居住者に対する支払については、現在、一般に、カナダには外国為替管理上の制限はない。

3 【課税上の取扱い】

以下の要約は、カナダの連邦所得税に関する主要な事項について記載したものであり、社債（以下「社債」という。）の保有者のうち、当初申込みにおける社債、もしくは当行またはベイルイン制度（以下「ベイルイン転換」という。）下での転換を含む転換に係する当行のすべての関連会社の普通株式を実質上の所有者として取得する者、ならびにカナダの所得税法（以下「所得税法」という。）の適応の意味における関連するすべての時点において、（a）カナダの居住者ではなくカナダの居住者とはみなされない者であり、（b）対等取引を当行、普通株式の発行人および保有者が社債の譲渡を行うカナダ在住の譲受人居住者（または居住者とみなされる者）との間で行っており、（c）カナダにおいて事業を営む際にまたはその過程で、社債または普通株式を使用もしくは保有しない者であり、（d）実質上の所有者として社債に関するすべての支払（すべての利息および元本を含む。）を受領する権利を有し、（e）所得税法の意味において、当行の特定非居住株主かつ当行の特定株主（所得税法第18条第5項の意義の範囲内。）と対等な立場で取引を行わない非居住者に該当せず、さらに（f）カナダ国内および他の場所において保険業を営む保険会社でない者（以下「非居住者保有者」という。）に一般的に適用される。

本要約は、本書の日付現在効力を有する所得税法およびそれに伴う所得税法規則（以下「所得税法規則」という。）の条項ならびに現行の行政慣例への理解およびカナダ歳入庁（CRA）の評価方針に基づいている。本要約は、本書の日付に先立ってカナダ財務大臣によりまたはカナダ財務大臣を代理して公表された所得税法および所得税法規則のすべての特定修正案（以下「修正案」という。）を考慮し、すべての修正案は、提案された形式で制定されることを前提とする。しかしながら、修正案が提案どおりに成立すること、またはそもそも成立することを保証するものではない。本要約は、法律、管理または評価実務の変更（立法機関、規制、管理または司法による措置いずれの場合も）を考慮に入れず、予測せず、また州、準州または外国の所得税法規も考慮していない。今後の情勢により、以下の記載は重大な影響を受けることがある。

本要約は、一般的性質のものに過ぎず、特定の保有者に対する法律上または税務上の助言を意図したものではなく、特定の保有者に対するカナダの連邦所得税に関する事項の影響に関して表明するものではない。本要約は、カナダの連邦所得税に関するすべての事項を網羅しているわけではない。したがって、将来の投資家は、自らの特定の状況に関して自身の税務アドバイザーに意見を求めるべきである。

社債利息

社債に関し、非居住者保有者に対して当行により支払もしくは計上した利息または支払もしくは計上したとみなされる利息（利息の支払を理由とする金額、利息の支払に代わる金額、または利息の支払を実行するための金額を含む。）は、カナダの非居住者源泉徴収税の課税対象とならない。ただし、当該利息（以下に記載する「特定債券」に係る利息を除く。）のすべてまたは一部が不確定であるかまたはカナダ国内の財産の使用またはカナダ国内の財産からの生産に依存し、もしくは収益、利益、キャッシュ・フロー、商品価格またはその他類似基準の参照もしくは企業の株式資本のいずれかのクラスもしくはシリーズの株主に支払われたもしくは支払われる配当金（以下「参加債務利息」という。）の参照により計算される場合はこの限りでない。「特定債券」とは、貨幣購買力の変動の参照により決定される額以外の、当該債務に関する支払額としての指数連動化された債務（以下に定義する。）であり、偶発的または前文に記載されたいずれかの基準に依存する。「指数連動化された債務」とは、当該債務に関する支払額の未償還期間における調整が要項または条件に規定されている債務であり、その金額は、貨幣購買力の変動の参照により決定される。

カナダの源泉徴収税が免除されていない社債の利息（またはみなし利息）が、一般的に当該社債の発行価格を超過する対価で、当行、その他のカナダ居住者またはカナダ居住者とみなされる者により非居住者保有者から償還、消却または買入される場合、もしくは非居住者保有者によりカナダ居住者もしくはカナダ居住者とみなされる者に対し譲渡もしくは移転される場合、超過分は、利息であるとみなされることがあり、その時期において当該社債につき発生した利息金額とあわせて非居住者源泉徴収税の課税対象となることがある。当該超過分は、社債が所得税法に定義される「適用除外証券」と判断される場合、源泉徴収税の課税対象とならない。（a）指数連動化された債務ではなく、（b）社債の元本額（所得税法に定義される。）の97%以上の金額で発行され、（c）その発行につき得られる年率（所得税法に従い決定される。）で計算される利回りの金額が、その時々元本額残高に対して年率で計算される当該社債につき支払われると決められた利息の3分の4を超えない社債の場合、本項の目的上、適用除外証券に該当する。

転換により取得された普通株式

非居住者保有者により保有されている社債が、当行の普通株式に転換される場合（適用ある場合）に、普通株式の公正市場価値が（i）当該社債が発行された金額および（ii）未払金に関して支払われる金額および転換時に当該社債につき支払われるべき未払いの利息（以下「転換利息」という。）に関し支払われた金額の合計を超える金額（以下この差額を「超過金額」という。）が、もしあれば、その金額が、非居住者保有者に対して払われた利息であるとみなされることがある。当該超過金額（もしあれば）および当該転換利息が参加債務利息とみなされ、その結果として、一定の例外が適用される場合を除き、カナダの非居住者源泉徴収税を課されるリスクがある。

一般に、利息、割引または社債手数料、もしくは償還、満期日の支払い、転換（ペイルイン転換を含む。）、消却または買入を含む社債の譲渡に際して非居住者保有者が受領した収益に対して、非居住者保有者が支払うべきその他の所得税（課税キャピタル・ゲインを含む。）は存在しない。

非居住者保有者にとってカナダ居住法人である当行または当行の関連会社の普通株式に対して支払われたまたは計上された、もしくは所得税法上支払われるまたは計上されるとみなされる配当は、通常、適用所得税条約またはカナダと非居住者保有者の居住国との間の条約の規定に基づき税率が引き下げられない限り、当該配当金の総額に対して25%の税率でカナダの非居住者源泉徴収税の課税対象となる。

非居住者保有者は、普通株式の譲渡またはみなし譲渡によって得られたキャピタル・ゲインについて、所得税法上課税されない。ただし、当該普通株式が所得税法上、非居住者保有者の「課税対象カナダ資産」であるか、または「課税対象カナダ資産」であるとみなされる場合、および非居住者保有者が、カナダとその非居住者保有者の居住国との間の適用ある所得税に関する租税条約に基づく免税を受けることができない場合を除く。

4 【法律意見】

当行のカナダにおける法律顧問であるノートン・ローズ・フルブライト・カナダ・エルエルピーより、下記の趣旨の法律意見書が、当該法律意見書に記載される条件に従い、提出されている。

カナダの法令に関する有価証券報告書（「1 (1) 提出会社の属する国・州等における会社制度」の記述を除く。）に含まれる記述は、すべての重要な点において真実かつ正確である。

当行の内部法律顧問により、下記の趣旨の法律意見書が、当該法律意見書に記載される条件に従い、提出されている。

カナダの法令に関する有価証券報告書中の「1 (1) 提出会社の属する国・州等における会社制度」の記述は、すべての重要な点において真実かつ正確である。

第2 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

以下の表は、表示された期間および日付現在（配当利回り、普通株主資本利益率および従業員数（常勤従業員）を除く。）のRBCの主要な経営指標（国際会計基準審議会（IASB）により発行された国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）に基づき作成された年次連結財務諸表を元にしたものである。）の推移を示すものである。配当利回り、普通株主資本利益率および従業員数（常勤従業員）の値は、表示された期間および日付現在に対応するRBCの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析より抜粋されたものである。

（10月31日現在または当該日に終了した年度）
（単位：百万カナダドル（1株当たりの金額、数および%の数値を除く。））⁽¹⁾

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
受取利息および受取配当金	34,883	41,333	33,021	26,904	24,452
支払利息 ⁽²⁾	14,048	21,584	15,069	9,978	7,921
受取利息純額 ⁽²⁾	20,835	19,749	17,952	16,926	16,531
利息以外の収益 ⁽²⁾⁽³⁾	26,346	26,253	24,624	23,743	22,264
収益合計 ⁽³⁾	47,181	46,002	42,576	40,669	38,795
税引前利益	14,389	15,914	15,760	14,672	13,299
当期純利益	11,437	12,871	12,431	11,469	10,458
総資産	1,624,548	1,428,935	1,334,734	1,212,853	1,180,258
株主に帰属する持分	86,664	83,523	79,861	73,829	71,017
発行済普通株式数－平均基本的 （単位：千株）	1,423,915	1,434,779	1,443,894	1,466,988	1,485,876
1株当たり利益 （単位：カナダドル）	\$ 7.84	\$ 8.78	\$ 8.39	\$ 7.59	\$ 6.80
普通株式1株当たり配当宣言額 （単位：カナダドル）	\$ 4.29	\$ 4.07	\$ 3.77	\$ 3.48	\$ 3.24
配当利回り ⁽⁴⁾	4.7%	4.1%	3.7%	3.8%	4.3%
普通株主資本利益率（ROE） ⁽⁵⁾	14.2%	16.8%	17.6%	17.0%	16.3%
CET 1 資本 ⁽⁶⁾	68,082	62,184	57,001	51,572	48,181
Tier 1 資本 ⁽⁶⁾	74,005	67,861	63,279	58,361	55,270
総資本 ⁽⁶⁾	84,928	77,888	72,494	67,556	64,950
CET 1 自己資本比率 ⁽⁶⁾	12.5%	12.1%	11.5%	10.9%	10.8%
Tier 1 自己資本比率 ⁽⁶⁾	13.5%	13.2%	12.8%	12.3%	12.3%
総資本比率 ⁽⁶⁾	15.5%	15.2%	14.6%	14.2%	14.4%
従業員数（常勤従業員）	83,842	82,801	81,870	78,210	77,825

- (1) 2017年11月1日以降、当グループは、IFRS第9号「金融商品」（IFRS第9号）を適用している。2017年11月1日より前の期間の業績は、IAS第39号「金融商品：認識および測定」（IAS第39号）に従って、報告されている。2018年11月1日以降、当グループは、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用している。2018年11月1日より前の期間の業績は、本書において、IAS第18号「収益」に従って報告されている。2019年11月1日以降、当グループは、IFRS第16号「リース」を適用している。2019年11月1日より前の期間の業績は、本書において、IAS第17号「リース」に従って報告されている。詳細は、下記「第6 1 財務書類」の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。
- (2) 2019年度第4四半期以降、純損益を通じて公正価値で測定される商品（FVTPL）に計上された一部の預金の評価の利息部分（従前はトレーディング収益に計上された。）は、受取利息純額として表示される。比較のための数値は、かかる表示に合わせて再分類されている。
- (3) 2017年度第4四半期以降、取得した特定の手数料および報酬に関連するサービスおよびその他の費用は、利息以外の費用にグロスベースで表示される。数値比は、かかる表示に合わせて再分類されている。
- (4) 普通株式1株当たり配当を該当期間中の株価の最高値および最安値の平均で除したものと定義されている。
- (5) 平均額は、当期の1日の平均残高を概算するための方式を用いて計算されている。これはROEの計算に用いられた平均普通株主資本を含む。ROEは、一般に公正妥当と認められる会計原則（GAAP）に基づく標準的な意味を持たず、他の金融機関が開示する類似の基準と比較できない場合がある。詳細は、下記「第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「事業セグメント業績」の項の「主要な業績および非GAAPによる測定」を参照のこと。
- (6) 資本および自己資本比率は、金融機関監督庁（OSFI）の自己資本充実制度（CAR）ガイドラインを使用して計算されており、かかるガイドラインは、COVID-19のパンデミックに対応して2020会計年度にOSFIにより発表された規制ガイダンスによってアップデートされた。CARガイドラインは、バーゼルIIIの枠組みに基づく。

2 【沿革】

当行は、その免許状を構成する銀行法に基づくスケジュールI銀行である。当行は1864年に商業銀行として創設され、1869年6月22日に承認された「ハリファクス商業銀行設立法」に基づき設立された。当行はその名称を1901年に「ザ・ロイヤル・バンク・オブ・カナダ」に変更し、さらに1990年に「ロイヤル・バンク・オブ・カナダ」に変更した。

当行の本社は M5J 2J5 カナダ オンタリオ州トロント ベイストリート200 ロイヤル・バンク・プラザに所在している。本店所在地は、H3C 3A9 カナダ ケベック州モントリオール プレイス・ヴィル・マリー1である。

当行の普通株式は、1907年からトロント証券取引所（TSX）、1986年からスイス証券取引所（SIX）および1995年からニューヨーク証券取引所（NYSE）に上場している。取引略称は「RY」である。2019年10月31日現在、当行の優先株式は、TSXに上場している。ただし、シリーズC-2優先株式を除く。2019年10月31日現在、シリーズC-2優先株式に関連する預託株式（シリーズC-2優先株式の40分の1の持分をそれぞれ表す。）はNYSEに上場していた。

2019年12月6日、当行は、2024年12月6日に満期を迎える発行済2.99%劣後無担保社債2,000百万ドルを、元本の100%および償還日まで（償還日を除く。）の経過利息ですべて償還した。

2019年12月17日、当行は、預託株式200,000株を現金で買い入れた。各預託株式は、固定配当率／変動配当率非累積型第一優先株式シリーズC-2（C-2優先株式）の1株の40分の1の持分を表しており、未払配当金を含むその対価の総額は、6百万米ドルとなった。買い入れた預託株式および裏付けとなるC-2優先株式は、その後消却された。C-2優先株式は、Tier 1 規制資本に該当しない。

2019年12月23日、当行は、NVCC劣後無担保社債1,500百万ドルを発行した。この社債には、2024年12月23日まで年利2.88%の固定金利が付き、それ以降は2029年12月23日の満期まで3ヶ月のCDORプラス0.89%の金利が付く。

2020年6月4日、当行は、2025年6月4日に満期を迎える発行済NVCC2.48%劣後無担保社債1,000百万ドルを、元本の100%および償還日まで（同日を除く。）の経過利息ですべて償還した。

2020年6月23日、当行は、NVCC劣後無担保社債1,250百万ドルを発行した。この社債には、2025年6月30日まで年利2.088%の固定金利が付き、それ以降は2030年6月30日の満期まで3ヶ月のCDORプラス1.31%の金利が付く。

2020年7月28日、当行は、リミテッドリコース・キャピタルノート（LRCN）シリーズ1を、1口当たり1,000ドルの価格で1,750百万ドル発行した。LRCNシリーズ1には、2025年11月24日まで年利4.5%の固定金利が付き、それ以降は2080年11月24日の満期までカナダの5年物国債の利回りプラス4.137%の金利（年利、5年利率見直し型）が付く。

2020年10月1日、当行は、非累積型第一優先株式を1株当たり25ドルの価格で償還した。これには、発行済シリーズWの全12百万株、発行済シリーズAAの全12百万株、発行済シリーズACの全8百万株、発行済シリーズAEの全10百万株、発行済シリーズAFの全8百万株および発行済シリーズAGの全10百万株が含まれる。

3 【事業の内容】

ロイヤル・バンク・オブ・カナダは、トップクラスの実績の実現に向けて目的を重視し理念を原動力とするアプローチを採る国際的な金融機関である。当グループの成功は、顧客の繁栄と地域社会の繁栄に貢献するために当グループのビジョン、価値観および戦略を体現する想像力と洞察力を活用する86,000名超の従業員によりもたらされる。カナダ最大の銀行であり、時価総額においては世界最大手の一行としての当グループは、イノベーションに重点を置き、カナダ、米国その他34ヶ国の1,700万名の顧客に卓越した体験を提供する多様なビジネスモデルを有している。

当グループの5つのセグメントおよびコーポレート・サポートの概要は以下のとおりである。

パーソナル&コマーシャル・バンキングは、日々の銀行業務、投資および資金調達に関するニーズに即して個人および企業に対し、多種多様な金融商品およびサービスを提供している。当グループは、当グループの事業全般における卓越したクライアント・エクスペリエンス、豊富な商品、深い専門知識およびデジタル・ソリューションという特性に支えられた有意義な関係を顧客と築くことに重点を置いている。

当グループは、カナディアン・バンキングおよびカリブ海地域&米国バンキングという2つの業務を通じて事業を営んでいる。カナディアン・バンキングは、カナダの国内市場にサービスを提供しており、すべての主要なリテール向け商品および企業向け商品において市場シェア上位（第1位または第2位）を維持している。当グループは、カナダ中に最大の支店ネットワーク、最多のATMおよび最大規模のモバイル販売力を有している。カリブ海地域&米国バンキングでは、目標市場において幅広い金融商品およびサービスを提供している。

カナダでは、他のスケジュールI銀行、独立系信託会社、外国銀行、信用組合、庶民金庫および自動車ローン会社と競争している。

カリブ海地域における競合会社には、リテール顧客および法人顧客ならびに公的機関にサービスを提供している銀行、信託会社および投資運用会社等がある。米国では、米国事業を営む他のカナダの金融機関と主に競争している。

ウェルス・マネジメントは、主要な金融センターの顧客にサービスを提供するグローバルな事業である。当グループは、富裕層（HNW）および超富裕層（UHNW）の個人顧客および機関顧客の財務目標実現を支援するために、アドバイスを基本とする包括的なソリューションおよび戦略によりこれらの顧客にサービスを提供している。

当グループの事業ラインは、カナディアン・ウェルス・マネジメント、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）、グローバル・アセット・マネジメント（GAM）およびインターナショナル・ウェルス・マネジメントを含む。カナディアン・ウェルス・マネジメントは、HNWおよびUHNWの顧客にサービスを提供しており、管理資産（AUA）ではカナダ最大のフルサービスの資産管理・運用業務である。USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）にも、プライベート顧客グループ（PCG）ならびに決済および証券保管業務（C&C）が含まれる。当グループのPCGは、アドバイザー数では米国第7位のフルサービス資産管理・運用会社であり、シティ・ナショナルは、HNWおよびUHNWの顧客ならびに商業顧客にサービスを提供する、米国における最高のプライベート・バンクおよびコマーシャル・バンクである。GAMは、運用資産（AUM）⁽¹⁾ではカナダ最大のリテール向けのファンド企業であり、大手の資産管理・運用機関でもある。インターナショナル・ウェルス・マネジメントは、主として英国、チャネル諸島およびアジアの主要な金融センターを通じてHNWおよびUHNWの顧客にサービスを提供している。

⁽¹⁾ 出典：カナダ投資信託協会の2020年9月30日付の四半期ごとの報告。

RBCインシュアランス®は、生命、医療、住宅、自動車、旅行、貯蓄、年金および再保険に係る幅広いアドバイスおよびソリューションならびに信用保険サービスおよび事業保険に係るソリューションを個人顧客、企業顧客および団体顧客に提供している。

RBCインシュアランス®は、カナダ最大級の銀行系保険会社であり、カナディアン・インシュアランスおよびインターナショナル・インシュアランスという2つの事業ラインの下で業務を行っている。

カナダにおいて、当グループは、相談センター、RBCインシュアランス®の店舗、モバイル相談窓口、デジタル、モバイルおよびソーシャル・プラットフォーム、独立代理店ならびに旅行保険会社等、様々な窓口を通じて、生命保険商品、医療保険商品、旅行保険商品、住宅保険商品および自動車保険商品、貯財ソリューションおよび年金に係るアドバイスならびにサービスを提供している。

カナダ以外では、世界の再保険市場および再々保険市場において業務を行い、生命再保険商品、身体障害再保険商品および寿命リスク再保険商品を提供している。

インベスター&トレジャリー・サービスは、資産管理・運用サービスの専門プロバイダー、カナダにおける現金管理およびトランザクション・バンキング・サービスのリーダーならびに世界の機関顧客に対してトレジャリー・サービスを提供するプロバイダーである。

当グループは、資産管理・運用、トランザクション・バンキング、トレジャリー・サービスその他のサービスを提供することで、顧客の資産を保護し、流動性を最大化し、複数の法域にわたるリスクを管理している。当グループは、高度な投資家に対して業界最高水準の資産管理・運用サービスを提供することに重点を置いている。当グループは、北米、ヨーロッパ、英国およびアジア太平洋の主要な国々において世界最大のグローバル・カストディアンと競争している。

当グループは、デジタル対応の商品およびサービスを提供しており、当グループの顧客の変化し続けるニーズに沿うよう継続して強化および発展させている。当グループは、トップレベルのグローバル・カストディ、証券代行機関、資金会計および管理サービスを有している。当グループは、世界の金融機関に対してカナダドルの資金管理、コルレス銀行業務および貿易金融を提供する大手サービス・プロバイダーであり、銀行の短期的な資金調達および流動性管理を行っている。

キャピタル・マーケットは、世界の会社、機関投資家、資産管理・運用会社、政府および中央銀行に対してバンキング、ファイナンスおよび資本市場に関する専門知識を提供している。当グループの専門家は、14ヶ国、58ヶ所のオフィスから当グループの顧客がその業務において必要な助言、商品およびサービスを享受できるよう努めている。当グループのプレゼンスは北米、英国およびヨーロッパ、オーストラリアならびにアジアおよびその他の各地域にも及ぶ。

当グループは、2大事業ラインであるコーポレート&インベストメント・バンキングおよびグローバル・マーケットを運営している。

北米においては、企業向けおよび投資銀行業務、エクイティおよびデット・オリジネーションならびに販売およびトレーディング等、あらゆる商品およびサービスを提供している。カナダにおいては、すべての資本市場事業ラインにおいて戦略的プレゼンスを有する市場リーダーである。米国においては、業種全体および投資銀行商品のすべてをカバーしており、米国および世界の大手投資銀行ならびに地域の中小企業と競合している。また、与信、担保付貸出、地方自治体の資金調達、債券、通貨およびコモディティ、株式ならびにアドバイザリーにおいて、トップクラスの能力を有している。

北米以外では、英国およびヨーロッパ、オーストラリアならびにアジアおよびその他の市場において有意なプレゼンスを有している。英国およびヨーロッパにおいては、エネルギー、鉱業、インフラ、ヨーロッパの工業、消費者、医療、テクノロジーおよび金融サービス等の主要な専門分野において様々なサービスを提供する。オーストラリアおよびアジアにおいては、債券販売および為替取引、担保付資金調達ならびに企業向けおよび投資銀行業務からなるグローバルな専門知識に沿った標的分野において、世界および地域の投資銀行と競合している。

コーポレート・サポートは、商品およびサービスを効率的に顧客に提供するために必要な技術上および業務上の基盤を作るテクノロジー&オペレーションズと、財務、人事、リスク管理、内部監査およびその他の機能グループを統轄するファンクションズならびにコーポレート・トレジャリー部門からなる。コーポレート・サポートの業績は、主として事業セグメントに割り当てられないグループ規模の活動の監視および監督に関する業務を反映している。詳細は、「第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

競合

当グループが2020年10月31日現在、競合している主要な市場は以下のとおりである。

カナダ国内における、当グループのパーソナル&コマーシャル・バンキングにおける競合には、その他のスケジュールI銀行、独立信託銀行、外国銀行、信用組合、庶民金庫および自動車ローン会社が含まれる。カリブ海地域においては、リテール顧客および法人顧客ならびに公的機関にサービスを提供しているその他の銀行、信託会社および投資運用会社が含まれる。米国内においては、米国業務を有する他のカナダの金融機関が含まれる。当グループのカナディアン・ウェルス・マネジメント事業は、国内の銀行および信託会社、投資顧問会社、銀行系フルサービス・ブローカーおよび専門ブローカー、ミューチュアル・ファンド会社ならびに世界のプライベート・バンクと競合している。カナダにおいては、今後も銀行系の資産管理・運用会社が主要プレーヤーとなる。当グループのUSウェルス・マネジメント事業（シティ・ナショナルを含む。）は、細分化され、非常に競争が激しい業界の中で業務を営んでおり、競争相手には、HNWおよびUHNWの個人、事業主ならびにその事業にサービスを提供するその他のブローカーディーラー、商業銀行およびその他の金融機関等がある。当グループのグローバル・アセット・マネジメント事業は、カナダにおいて、銀行、保険会社および資産管理・運用会社と競合しており、米国においては、独立系の資産管理・運用会社ならびに国内および国際銀行ならびに保険会社に保有される資産管理・運用部門と競合している。国際的には、当グループのアセット・マネジメント業務は、国際銀行の資産管理・運用部門ならびに当グループが業務を行う地域における国内および地域の資産管理・運用会社と競合している。当グループのインターナショナル・ウェルス・マネジメント事業の競争相手には、世界の資産管理・運用会社、旧来のオフショア・プライベート・バンクおよび国内の資産管理・運用会社を含む。当グループのカナディアン・インシュアランス業務において、当グループと競合する他社の大部分は生命および医療または損害保険のいずれかを専門とする。当グループのインターナショナル・インシュアランス業務において、当グループは、少数の再保険会社により保有される米国、英国およびヨーロッパにおける市場シェアが顕著に反映される再保険市場において競合している。当グループのインベスター&トレジャリー・サービス業務は、北米、ヨーロッパ、英国およびアジア太平洋の主要国における世界最大のグローバル・カストディアンと競合している。当グループのキャピタル・マーケット業務は、主にカナダにおけるその他のカナダの銀行、米国および世界の大手投資銀行ならびに地域の中小企業と競合している。英国およびヨーロッパにおいて、当グループのキャピタル・マーケット業務は、主要な専門分野において、世界および地域の投資銀行と競合しており、オーストラリアおよびアジアにおいて、当グループは、債券流通および通貨取引、担保付金融ならびに法人銀行業務および投資銀行業務を含む、当グループのグローバルな専門性に合致した分野において世界および地域の投資銀行と競合している。主要な競合要因には、提供する金融商品および金融サービス、価格、分配およびサービスの質の幅ならびに特徴が含まれる。

見通しおよび戦略目標

当グループの事業戦略および行動は、「世界で最も信頼され、成功した金融機関になる」という当グループの構想によって方向付けられている。当グループの3つの戦略目標は次のとおりである。

- ・カナダでは、金融サービスにおいて圧倒的首位に立つこと。
- ・米国では、法人、機関投資家および富裕層ならびにそれらの事業のよきパートナーとなること。
- ・世界の主要な金融センターでは、高い専門知識を評価される金融サービスのリーディングパートナーとなること。

4 【関係会社の状況】

当行には親会社は存在しない。

2020年10月31日現在、当行は26社の主要な子会社を有する。

下記の表には、当行が2020年10月31日現在、議決権株式の100%を直接的または間接的に有する主要な会社が記載されている。当行の連結財務諸表には、これらの会社の資産および負債ならびに経営成績が含まれる（注記に記載されるものを除く。）。

(2020年10月31日現在)

主要な子会社 ⁽¹⁾	主たる営業所の住所 ⁽²⁾	当行が保有する議決権株式の帳簿価額 (百万ドル) ⁽³⁾	投資持分権割合		主たる事業内容
			当行直接保有分 (%)	当行間接保有分 (%)	
ロイヤル・バンク・ホールディング・インク	カナダ オンタリオ州 トロント	67,517	100	—	持株会社
RBCダイレクト・インベスティング・インク	カナダ オンタリオ州 トロント	—	—	100	証券ブローカー／ディーラー
RBCインシュアランス・ホールディングス・インク	カナダ オンタリオ州 ミシサーガ	—	—	100	持株会社
RBCライフ・インシュアランス・カンパニー	カナダ オンタリオ州 ミシサーガ	—	—	100	保険会社
R.B.C. ホールディングス（バハマ）リミテッド	バハマ ニュープロヴィデンス島 ナッソー	—	—	100	持株会社
RBCカリビアン・インベストメンツ・リミテッド	ケイマン諸島 グランドケイマン島 ジョージタウン	—	—	100	持株会社
ロイヤル・バンク・オブ・カナダ・インシュアランス・カンパニー・リミテッド	バルバドス島 セントマイケル	—	—	100	保険会社
インベストメント・ホールディングス（ケイマン）リミテッド	ケイマン諸島 グランドケイマン島 ジョージタウン	—	—	100	持株会社
RBC（バルバドス）ファンディング・リミテッド	バルバドス島 セントマイケル	—	—	100	SPE—ストラクチャー・ファイナンス・ビークル
キャピタル・ファンディング・アルバータ・リミテッド	カナダ アルバータ州 カルガリー	—	—	100	持株会社
RBCグローバル・アセット・マネジメント・インク	カナダ オンタリオ州 トロント	—	—	100	投資アドバイザー／マネジャー
RBCインベスター・サービス・トラスト	カナダ オンタリオ州 トロント	—	—	100	信託会社
RBCインベスター・サービス・バンク・エスエー	ルクセンブルグ エシュ＝シュル＝アルゼット	—	—	100	銀行
RBC（バルバドス）トレーディング・バンク・コーポレーション	バルバドス島 セントジェームズ	—	—	100	銀行
RBC USグループ・ホールディングス・エルエルシー ⁽²⁾	カナダ オンタリオ州 トロント	24,062	100	—	持株会社
RBC USAホールドコー・コーポレーション ⁽²⁾	米国 ニューヨーク州 ニューヨーク	—	—	100	持株会社
RBCキャピタル・マーケット・エルエルシー ⁽²⁾	米国 ニューヨーク州 ニューヨーク	—	—	100	証券ブローカー／ディーラー
シティ・ナショナル・バンク	米国 カリフォルニア州 ロサンゼルス	—	—	100	銀行
RBCドミニオン・セキュリティーズ・リミテッド	カナダ オンタリオ州 トロント	11,126	100	—	持株会社
RBCドミニオン・セキュリティーズ・インク	カナダ オンタリオ州 トロント	—	—	100	証券ブローカー／ディーラー
RBCヨーロッパ・リミテッド	英国 ロンドン	2,738	100	—	銀行
ロイヤル・バンク・モーゲージ・コーポレーション	カナダ オンタリオ州 トロント	1,398	100	—	金融会社
ザ・ロイヤル・トラスト・カンパニー	カナダ ケベック州 モントリオール	954	100	—	信託会社
RBCホールディングス（チャネル・アイランド）リミテッド	チャネル諸島 ジャージー島	912	100	—	持株会社

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ (チャンネル・アイランド) リミテッ ド	チャンネル諸島 ガーンジー島	—	—	100	銀行
ロイヤル・トラスト・コーポレーショ ン・オブ・カナダ	カナダ オンタリオ州 トロント	337	100	—	信託会社

- (1) 当行は、各子会社を直接的または間接的に支配する。
- (2) 各子会社はその主たる営業所が所在する国または州の法令に基づいて設立されまたは組織されている（ただし、RBC USグループ・ホールディングス・エルエルシーおよびRBC USAホールドコー・コーポレーションは米国デラウェア州の法令、ならびにRBCキャピタル・マーケット・エルエルシーは同国ミネソタ州の法令に基づき組織されている。）。
- (3) 議決権株式の帳簿価額は、かかる投資に対する当行の持分が記載される。

5 【従業員の状況】

2020年10月31日現在、RBCは常勤およびパートタイムを合わせて86,000人を超える従業員を雇用している。
2020年10月31日現在のRBCの地域別の常勤従業員（FTE）数は以下のとおりである。

地域別常勤従業員	従業員数（FTE）
カナダ	59,781
米国	14,149
その他世界各国	9,912
合計	83,842

2020年10月31日に終了した12ヶ月間において、RBCの従業員数の著しい増減はなかった。

当グループの従業員の大多数は、金融サービス業界における経営陣と従業員の関係として労働組合が一般に普及した管理方法ではない北米において勤務している。2020年10月31日現在、RBCの常勤従業員の約2%が包括的労働協約の対象であった。これらのすべての従業員は、カリブ海地域またはヨーロッパにおいて働いている。さらに、RBCのヨーロッパの従業員の多くは、職場の問題に関連する相談を受ける職員代表グループを設けている。これらのグループは組合ではなく、その構成員は必ずしも組合化させられない。

過去5年間、当行の業務を妨害する重大なストライキまたはその他の労働争議はなかった。

第3 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

下記「3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

2 【事業等のリスク】

RBCは、RBCの業務に関するリスクを評価するために以下の要因が重要となる可能性があると考えている。これらの要因のほとんどは、その発生が確実でない偶発的なものであり、RBCはかかる偶発的な事象の発生可能性について見解を表明する立場にない。

＜最重要リスクおよび新興リスク＞

当グループのリスク管理アプローチの重要な要素は、変化する最重要リスクおよび新興リスクが特定され、管理され、既存のグループ・リスク管理評価、測定、監視および上申プロセスに組み込まれていることを確保することである。これにより経営陣は、事業を発展させる過程で、また継続的なリスク監視責務遂行の一環として、将来を見通したリスクの評価を行う。最重要リスクおよび新興リスクについては、上級管理職および取締役会が定期的に協議する。

当グループは、補足的な内部向けガイダンスを定めることで、すべての重要なリスク（容易に発見できないものを含む。）をグループ規模で特定および評価できるようにしている。最重要リスクおよび新興リスクには、短期から中期的に当グループの財務業績、評判、事業モデルまたは戦略に重大な影響を与えるおそれのあるもの、およびリスクが進化するにつれて当グループに影響を与える可能性のあるものが含まれている。「3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「重要な進展：COVID-19」に概要を記載したパンデミック・リスク要因の影響のほか、以下が当グループの最重要リスクおよび新興リスクである。

最重要リスクおよび新興リスク

内容

事業および経済の状況



当グループの財務業績は、当グループが業務を行う地域における事業および経済全般の状況から、多かれ少なかれ影響を受ける可能性がある。かかる状況には、消費者の貯蓄および消費性向ならびに消費者の借入および返済パターン、失業率、COVID-19パンデミックまたはその他の健康危機に関する封じ込め対策が事業の運営に与える影響、企業の設備投資レベルおよび企業全体の景況感、政府の財政支出ならびに財政および金融刺激策のレベル、金融市場の活動およびボラティリティのレベル、ならびにインフレ等の要素が含まれる。例えば、景況が悪化すると、失業率の上昇および世帯収入の減少、企業収益の減少、企業の設備投資および個人消費の変化につながる可能性があり、当グループのローンその他の商品の需要など当グループの事業にマイナスの影響を与え、信用損失の増加など利益の減少につながるおそれがある。

金利の変動（システミック・リスクの項に記載）ならびに投資家心理および市況の悪化は、顧客活動および利益の減少につながるおそれがあるため、当グループの財務業績はこれらの影響も受けやすい。

各国がCOVID-19パンデミックに対処するために講じた未曾有の刺激策の回収方法および将来の財政均衡、ならびに拡大する富の不均衡および定年の引上げ等に対して長期的な低金利が与える潜在的な影響に関して、さらなるリスクが生まれている。

COVID-19パンデミックに関連するリスクの管理方法についての詳細は、本書「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「重要な進展：COVID-19」の「パンデミック・リスク要因の影響」の項を参照のこと。

情報技術リスクおよびサイバー・リスク



情報技術（IT）リスクおよびサイバー・リスクは、金融サービス部門にとってのみならず、世界の他の産業にとっても、依然として最重要リスクである。（i）当グループの事業の規模、程度およびグローバルな性質、（ii）日常業務の遂行をインターネットに大きく依存していること、（iii）当グループの複雑な技術インフラならびに（iv）第三者サービス・プロバイダーを利用していることから、当グループは引き続き、サイバー攻撃、情報漏洩、サイバー恐喝および同様のセキュリティ侵害の形で大きなリスクにさらされている。また、顧客が個人の機器を利用することも、当行はそれらの機器の安全性をほとんどまたはまったく管理できないため、サイバー関連インシデントの可能性を生み出している。COVID-19パンデミック中は、COVID-19関連のフィッシングメールや、悪意あるソフトウェアが埋め込まれた感染率追跡モバイル・アプリにマルウェア、在宅勤務措置を続ける企業が多いことからリモート・アクセス・プラットフォームの脆弱性が標的にされたりするなど、悪意のある行為が増加してサイバー攻撃の脅威が増大しているため、ITおよびサイバー・リスクは増加した。結果として、事業の停止、サービスの中断、財務損失、知的財産および秘密情報の盗用、訴訟、規制の対象拡大および罰則強化ならびに評価の毀損に繋がるおそれがある。さらに、クラウド・コンピューティング、AIおよびロボット等の新たな技術の採用も、リスクの効率的な管理を常に重視し、そのために投資することの必要性を生んでいる。これらのリスクの管理方法についての詳細は、「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「オペレーショナル・リスク」の項を参照のこと。

カナダの住宅および家計債務



失業者数が増加し就労率が低下した結果、カナダの住宅および家計債務のリスクが高まっている。利下げ、政府の支援政策および金融機関の提供する救済プログラムは家計を支え、貯蓄の増加および家計債務の減少に寄与した可能性がある。しかし、COVID-19パンデミックが悪化した場合、経済回復にかかる期間が長引いた場合、または救済プログラムが終了し、信用損失等が増加した場合、一部の市場における住宅取得能力、およびCOVID-19パンデミックによってさらなる課題がもたらされる以前から既に高かったカナダの家計債務レベルに関する懸念は、さらに高まるおそれがある。

不動産賃貸市場を取り巻く不確実性、顧客選好および就労形態の変化、ならびにCOVID-19パンデミックの影響を著しく受けた業界からの継続的な影響などに伴ってさらなるリスクが生まれており、そのいずれも将来の不動産投資および需要に影響する可能性がある。例えば、COVID-19パンデミック中、短期賃貸マンションの契約が減少したことと、在宅勤務措置の継続に伴い長期賃貸で好まれる土地が主要な大都市圏からシフトしつつあることが相まって、小規模マンション市場における不確実性が高まっている。いずれの要素も一部の大都市圏市場における空室率の上昇および賃料収入の減少に寄与しているため、将来に向けて販売価格に影響を与え、家計債務を増加させるおそれがあるが、それによりこの貸出ポートフォリオにおける信用に悪影響が生じるおそれがある。

地政学的不確実性



長引く貿易緊張、政策転換ならびにブレグジットならびに米国、英国およびヨーロッパの政治的方向性に関する不確実性は、引き続き世界経済の成長見通しおよび市場心理に影響を与えている。カナダが米国および中国と交易関係にあることを考慮すると、カナダ経済は、長引く貿易緊張の影響を受けやすい。中国と米国は、貿易、テクノロジーおよび人権を含む数々の問題に関して両国間の緊張が依然高いままである。さらに広い目で見ると、国々が世界のサプライチェーンへの依存度を下げようとしているため、世界貿易のパンデミック後の未来は依然不透明であり、また英国およびヨーロッパは移行期限である2020年12月31日より前にブレグジット合意をまとめなければならないため、ヨーロッパにおけるブレグジットの影響は依然不透明である。香港における政治の見通しの変化、および中国と隣国との間の緊張も、世界および経済の不確実性を高めている。当グループは、これらすべての動きの監視を続け、当グループが受ける影響を評価していく。

最重要リスクおよび新興リスク

内容

プライバシー・リスク、データ・リスクおよび第三者関連リスク



データの管理およびガバナンスに加えて、当グループが有するデータの価値の高さを考慮すると、その収集、利用および共有も依然として最重要リスクである。このリスクの管理を怠った場合の影響としては、財務損失、知的財産および秘密情報の盗用、訴訟、規制の対象拡大および罰則強化ならびに評価の毀損等が起る。当グループが業務を行う法域において複雑な規制が策定され続けていることから分かります。プライバシーおよび情報の効果的な管理実務は引き続き重要性を増している。当グループは第三者サービス・プロバイダーとの提携を続け、新しいテクノロジー（クラウド・コンピューティング、AIおよび機械学習等）および事業モデルを採用しているため、これらのリスクに対する当グループの潜在的エクスポージャーも増加している。在宅勤務措置が一般的になってきたことから、プライバシー・リスク、データ・リスクおよび第三者関連リスクが増加している。当グループの従業員の過半数は在宅勤務を続けていることから、当グループでは、すべての機密情報のプライバシーおよび秘密を守るため、継続的に監督しベスト・プラクティスを実行している。当グループでは従業員一人一人に年1回セキュリティ意識向上プログラムの修了を義務付けており、これにはリモートワークにおけるリスク管理についてのサイバー意識向上トレーニングが含まれている。当グループの業務に欠かせない第三者プロバイダーについては、そのサービスを提供する能力に対する影響（第三者プロバイダーの供給元に関連するものを含む。）がないか監督している。これらのリスクの管理方法についての詳細は、「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「オペレーショナル・リスク」の項を参照のこと。

規制の変更



規制が絶えず新設または改正されているため、当グループが業務を行う複数の法域を横断してさらなる規制要件を遵守することが、今後もますます重視される。カナダのマナー・ロンダリング防止規制、金利指標改革、ならびにデータ、プライバシーおよび消費者保護規制、適格被保険モーゲージ向けカナダ指標金利および顧客重視の改革等、複数の法域において行われているまたは行われる予定である財政およびその他の改革は、引き続き当グループの業務および戦略に課題および影響を与えている。詳細は、「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「法的リスクおよび規制環境リスク」の項を参照のこと。

環境および社会的リスク
(気候変動を含む。)



最近の出来事をきっかけに、社会および人種の不平等ならびに人権問題に対処するため、当グループを含む企業や団体はますます厳しい監視の対象となっており、これを怠ると戦略リスク、評判リスクおよび規制リスクが生じる可能性がある。

気候変動に関しては、当グループおよび当グループの顧客に潜在的戦略、評判、規制、コンプライアンス、オペレーショナルおよび信用に関連するリスクを含む広範な影響が生じる可能性のある異常気象事象および低炭素経済への世界的移行に関連することから、さらなるリスクが生まれている。懸念が続き、低炭素経済への移行に向けた世界的取組みが強化されていることから、規制コンプライアンス・リスクおよび評判リスクが増している。これらのリスクの管理方法についての詳細は、「その他のリスク」の項を参照のこと。

デジタル・ディスラプション
およびイノベーション



COVID-19パンデミックにより、消費者の金融サービス業者との取引方法は変化した。デジタル・バンキング・サービスの需要は増加しており、これは当グループにとって技術的優位を活かす好機であるとはいえ、急速に変化する顧客のニーズに応じ、従来とは異なる競争相手と競合する必要があることから、戦略リスクおよび評判リスクが増している。また、人口動向、変化する顧客の期待、データ分析力の向上および創造的破壊者の出現は、複数の部門にわたって競争圧力を生んでいるため、引き続きさらなるリスクが生まれている。また、既存のテクノロジー企業、最近の競合他社および規制の変更は、従来の銀行および金融商品に挑戦する可能性のある新たな事業モデルを進展させている。最後に、AIおよび機械学習等の新技術を採用することで当グループに機会が生まれているが、効果的に管理する必要のある複雑な戦略リスク、評判リスク、オペレーショナル・リスク、規制コンプライアンス・リスクが新たに生まれる可能性もある。

文化的リスクおよび行動的リスク



当グループの目的、価値観およびリスク原則は、当グループの文化の重要な側面である。当グループはその行動—グループおよび従業員の行動様式、判断、決定および行為—によって当グループの文化を体現している。文化的リスクおよび行動的リスクは、当グループの選択、行動および全体的なリスク・ガバナンスが当社のステークホルダーに対する結果に与える影響から、金融サービス業界にとって最重要リスクとみなされている。当グループは意思決定プロセスで顧客に配慮し、顧客を公正に扱うことに重点を置くよう徹底し、当グループの目的に合致する規制の変更を引き続き実行する。当グループは、従業員には常に誠実に行動するよう求める一方、従業員の変化するニーズにも応えている。

カナダ、米国および世界の規制当局は、行動に関する問題およびリスクをますます重要視しており、規制当局全般からの期待が高まっていることで、調査、改善要求、およびコンプライアンス費用の増加につながる可能性がある。当グループはその行動慣行を引き続き強化し、顧客、取引先、従業員または市場の完全性を損なうおそれのある結果を予防および発見するために様々な措置を取っているが、かかる結果は必ず予防または発見できるとは限らない。詳細は、「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「文化的リスクおよび行動的リスク」の項を参照のこと。

その他のリスク

＜政府の財政・金融政策およびその他の政策＞

当グループの事業および収益は、バンク・オブ・カナダ（BoC）、米国のFed、欧州連合のECBおよび当グループが事業を行うその他の法域の金融当局が採用する金融政策ならびにカナダ、米国、ヨーロッパおよびかかるその他の法域の政府の財政政策の影響を受ける。かかる政策は、カナダ、米国および世界の顧客およびカウンターパーティにもマイナスの影響を与える可能性があり、その場合は当該顧客およびカウンターパーティによる不履行のリスクが高まる場合がある。

＜税金リスクおよび透明性＞

税金リスクとは、予想外の税金債務に関する損失のリスクをいう。当グループに適用される税法およびシステムは、複雑で多岐にわたる。このため当グループでは、税金に関する決定または行為を行う際は常に、当グループの評判ならびに当グループの顧客、株主および規制当局との関係に対する影響を含め、長期的費用および関連するリスクに関する当グループの評価を反映していることを確認している。

当グループの税金アプローチは、行動規範に反映された原則の基礎となるものであり、事業税リスク管理対策に基づき、リスク・ドライバーの原理を包含している。課税対策の監視および税金リスクの管理には、グループ・エグゼクティブ、最高財務責任者（CFO）および税務担当シニア・ヴァイス・プレジデントが責任を負う。当グループは監査委員会と年1回、税金戦略を協議し、定期的に当グループの税金ポジションについて更新している。

当グループの税金戦略は、透明性を提供し、事業戦略をサポートするために策定されるもので、企業としてのビジョンおよび価値と一致している。当グループは、事業を節税効果の高い構造にし、かつ、あらゆる法令を遵守した上で評判リスクを考慮することで、株主価値を最大限に高めるよう努めている。当グループの方針は、以下のことを行うよう求めるものである。

- ・すべての税務に関して、清廉、公正、公然かつ正直に行動すること。
- ・税金戦略が、事業目的および経済的実質のある誠実な取引のみをサポートする事業戦略に適合していることを保証すること。
- ・すべての会社間取引が公正な条件で実施されることを保証すること。
- ・税務当局に対して、法令上の義務を完全に遵守し完全に開示していることを保証すること。
- ・税務当局と良好な長期的関係を築き、紛争が発生した場合はこれに建設的に対処するよう努めること。

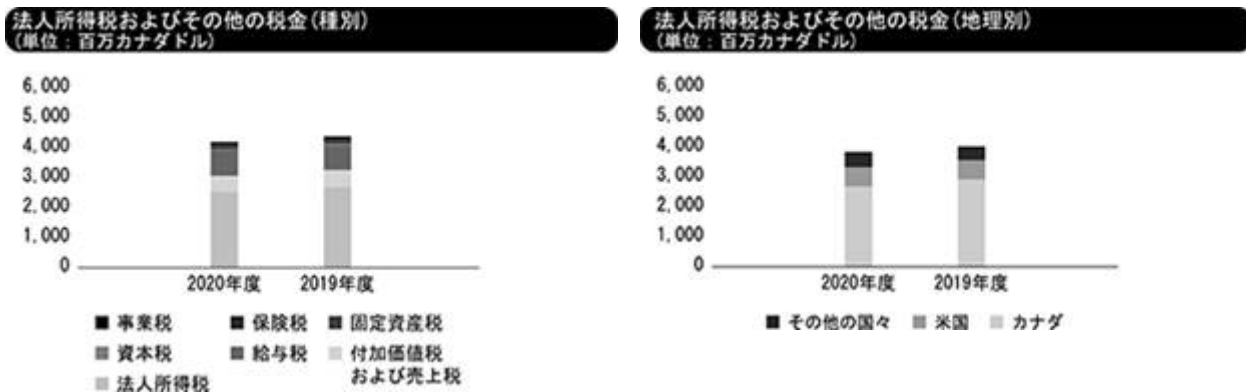
顧客のニーズの評価に関して、当グループは、取引の目的を含む多くの要因を検討している。当グループでは、事業目的および経済的実質のある誠実な顧客取引のみをサポートすることを徹底するよう努めている。万が一、納税義務を逃れることを目的とした顧客取引に気付いた場合は、取引を中断する。

当グループは、世界36ヶ国で業務を行っている。これらの国々における当グループの活動は、カナダおよび国際的な税制ならびにその他の規制に従い、また関連する税務当局に完全に開示される。税務グループおよびグループ・リスク・マネジメント（GRM）の双方は、全企業の活動が税務上の要件およびその他の規制に準拠することを保証するため、全企業の活動を定期的に見直している。

当グループが世界中で業務を行っていることから、当グループを管轄する各税務当局と当グループとの間で、複雑な税法および会計原則の法的解釈に相違が生じており、税務上の以前のポジションが税務当局に否認されるリスクがある。このような場合、当グループでは、問題の迅速な判断および即時解決を容易にするため、税務当局との率直かつ透明性の高い対話を可能な時点で心がけている。税金リスクを適切に管理できない場合および税務当局との問題が納得のいく形で解決できない場合、特定の期間において重大な範囲で当グループの業績に悪影響が生じる可能性があり、または当グループの評判に重大な影響が生じるおそれがある。

財政貢献

2020年度、政府の各レベルに対して世界的に支払った法人所得税およびその他の税金費用（連結包括利益計算書および連結株主資本変動計算書中の法人所得税を含む。）は、総額39億ドル（2019年度は40億ドル）であった。カナダにおいては、2020年10月31日に終了した年度に政府の各レベルに対して支払った法人所得税およびその他の税金費用は、総額27億ドル（2019年度は29億ドル）となった。



法人所得税およびその他の税金費用の詳細は、下記「3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「財務業績」の項を参照のこと。

＜環境および社会リスク＞

環境および社会（E&S）リスクは、当グループ、顧客、取引、商品、サプライヤーまたは活動に関連するE&S問題が当グループの財務状態、業務、法律および規制コンプライアンス、または評判に悪影響を与える可能性である。E&S問題には、土壌汚染、廃棄物処理、土地・資源の利用、生物多様性、水質および水の利用可能性、気候変動、環境規制、人権（原住民の権利を含むがこれに限られない。）ならびに地域の関与等があるが、これに限られない。GRMは、E&Sリスクの特定、評価、監視および報告方針の策定および維持、ならびにE&Sリスク方針の定期的な見直しおよび更新に責任を負う。これらの方針は、当グループをE&Sリスクにさらす可能性のある部門、顧客および事業活動を特定し、強化されたデュー・ディリジェンス手続および上申手続の適用時期を含め、E&Sリスクを管理、軽減および監視するための要件を定めることを目指している。事業セグメントおよび機能分野としては、E&Sリスクの管理要件を、各自の業務に組み込む責任を負う。

当グループは、E&Sリスクの管理に関する実務およびプロセスの重要性を認識しており、定期的かつ明快な開示を約束している。気候関連リスクおよび機会の特定、評価および管理における世界の慣行は、急速に変化している。当グループは、当グループの事業および当グループの顧客の事業に対して気候関連リスクが与え得る影響について、理解を深めるために努力している。エクエーター原則（EP）の署名者である当グループは、EPの枠組みに基づき評価されるプロジェクトについて毎年報告している。RBC GAMおよびブルーベイ・アセット・マネジメント・エルエルピーは、国連責任投資原則（UN PRI）の署名者であり、責任投資活動について毎年UN PRIに報告している。当行の完全保有子会社であるRBCヨーロッパ・リミテッド（RBCCEL）は、グリーンボンド原則に準拠しており、自己のグリーンボンドの引受業務について毎年報告している。当グループのコーポレート・シチズンシップ・チームは、気候変動、重要なE&S問題および人権問題に対処し報告するグループ規模のアプローチを調整し、かつ、年1回のESG実績レポートにおいて当グループの実績を開示している。当グループは、事業およびポートフォリオが人権に与える影響を検討する必要性を認識し、2020年10月に人権声明を公表した。人権声明は、ビジネスと人権に関する国連指導原則に従い、国際的に認められた人権を尊重する姿勢を表明するものである。また、当グループのサプライチェーンまたは事業の中で奴隷制度や人身売買が行われないようにするために当グループが講じてきた措置について記載した現代奴隷法に基づく年次報告書および金融安定理事会（FSB）の気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の勧告を検討する気候関連の開示書類を公表している。

<TCFD開示>

ガバナンス

取締役会およびその委員会は、E&Sリスクおよび機会（気候変動を含む。）の管理遂行責任を負う上級管理職を監督する。取締役会は、気候変動および当グループのE&Sリスクに対する戦略的アプローチを監督するが、これには気候関連リスクおよび機会の管理方法が含まれる。当グループは、当グループおよび当グループの顧客の気候関連リスクおよび機会に対処するため、気候関連リスクの理解を深めるための戦略的方向性を与え、戦略を策定することに専念する、グループ規模の内部気候作業部会を設置した（GEメンバー2人が共同で会長を務める。）。GRMは、必要に応じて気候関連リスクを特定、評価、監視および報告するアプローチを策定する、専門のE&Sリスク・チームを有する。気候関連リスクに関する達成目標は、経営陣が設定している。

戦略

当グループは、低炭素経済への移行を加速し、気候変動に関連するリスクを軽減するために、果たすべき役割があることを認識している。気候関連リスクおよび機会に関する当グループの戦略は、顧客の低炭素移行の支援、当グループの気候リスク管理能力の促進、および複雑な環境課題に対処するテクノロジーへの投資などである。急速に変化する持続可能な金融市場に当グループが参加することで、低炭素移行の支援が容易になる。また当グループは、低炭素経済への移行に向けた戦略および計画の策定を支援する業界団体に積極的に参加している。

リスク管理

気候関連リスクは横断的なリスク・タイプである場合があり、当グループは金融要素および非金融要素が当グループおよび当グループの顧客に対してどのような影響を与えるかを検討しなければならない。当グループは、2017年に初めて気候変動を新興リスクとして特定し、これを管理する当グループの戦略およびアプローチは、上級管理職および取締役会に定期的に報告されている。当グループは気候リスクを、低炭素経済への移行に関連するリスク（移行リスク）および気候変動による物理的影響に関連するリスク（物理的リスク）と定義している。当グループは、気候関連リスクに対する当グループのエクスポージャーおよび当該リスクの影響を評価するため、ポートフォリオ、顧客およびシナリオの分析を行っている。当グループは、新たな規制および法的要件、業務およびサービスの中断ならびに当グループが顧客に提供する商品およびサービスを通じて、気候リスクにさらされる可能性がある。当グループおよび当グループの顧客は、前述した要素に加えて、テクノロジーの変化および市場原理を通じて、気候リスクにさらされる可能性がある。また、当グループおよび当グループの顧客は、物理的な気候リスクの影響も受けやすい。当グループは、当グループが直面しているリスクを定期的に見直し、当グループの顧客に影響するものについては十分に検討している。

新たな規制および法的要件	・銀行、保険会社および資産管理・運用機関に適用される気候変動規制、枠組みおよびガイダンスは、急速に変化している。複数の中央銀行および規制当局は、気候変動の財務リスクおよび経済リスクに関するルールを導入するための措置を講じ、または既に導入している。例えば、EUは金融会社に対し、助言および投資判断プロセスの一環として環境、社会およびガバナンスの要素を検討するアプローチを開示するよう義務付けるサステナビリティ開示規制を発表した。規制および形式要件が変化するにつれ、当グループはかかる動きを注視し、必要に応じて開示をアップデートしていく。 ・中から高程度の環境リスクを有すると分類された部門（炭素排出量の多い部門等）の顧客向けに、顧客が気候変動による規制面の影響を評価および定量化したか否かを評価する。
業務および顧客サービスの中断	・当グループが賃貸または所有する物件のうち、施設の混乱（異常気象事象によるもの等）を軽減するため設備インフラの強化を必要とする事業プロセスおよび支援アプリケーションを含むものを特定する。施設ごとのダウンタイムについての事業リスク許容度、ならびに立地、電力供給、洪水の危険度、地質安定性およびその他の危険要因に基づき、施設環境の危険性を分類する。 ・建築設計および購買決定を通じて、気候変動を軽減しこれに適応するための措置を講じる。 ・必要に応じて、気候関連事象（洪水、ハリケーン等）が当グループの事業および顧客の業務に与える影響を評価する。
当グループが提供する商品およびサービス	・当グループは、地域または部門の低迷に対する強靱性を向上し、信用エクスポージャーの集中を最小限に抑える、分散された貸出ポートフォリオを維持する。 ・各事業セグメントは、重要な気候関連リスクおよび機会を特定する責任を負い、これらは必要に応じてリスク管理プロセスに組み込まれる。当グループは、当グループのポートフォリオについて気候シナリオ分析を行い、異なるシナリオ（2度シナリオを含む。）に基づく移行リスクおよび物理的なリスク・ドライバーの影響を評価した。 ・顧客が気候関連のリスクおよび機会に対処する支援として、商品、サービスおよび助言（炭素取引サービス、グリーンボンドの引受け、クリーン・テクノロジーの貸出および相談サービス、ならびに責任投資等）を提供する。 ・当グループの資産管理・運用業務は、投資リスクまたはリターンに重大な影響を有する可能性がある場合、投資プロセスにESG問題を組み込む。 ・RBCインシュアランス®は、アビバ・カナダ・インクを通じて販売された損害保険商品の保険証券管理を行っているため、これらの商品に伴う気候関連リスクには直接さらされていない。保険業界は総じて、気温上昇およびハリケーンといった気候パターンの長期的な変化にさらされており、当グループの保険事業の業績に間接的な影響が生じる可能性がある。

測定基準および目標

当グループは、業務、調査、協力関係および社会貢献活動における資金調達、投資、リスク管理および二酸化炭素削減に関して取組みを行っており、年1回のTCFD報告書において実績を報告している。カーボン・ディスクロージャー・プロジェクトの署名者である当グループは、2003年以降、温室効果ガス（GHG）プロトコルに基づく複数年のデータを含め、気候関連のデータを公表している。また、当グループのエネルギーおよび排出量の測定基準について、第三者による限定的保証を受けている。当グループは、気候リスクのストレス・テスト実施に対する見解を含め、気候シナリオ分析の実施に対するアプローチを策定するため、業界の競合グループと協力している。

<その他の要因>

当グループの業績に影響を及ぼすおそれのあるその他の要因は、政府の貿易政策の変更、会計基準の変更および当グループの会計方針、予測および判断に対する影響、カナダ、米国および当グループが業務を運営および／または管理する他の法域における通貨および金利の変動、当グループの信用格付の変化、新商品およびサービスの時宜を得た開発成功、技術進歩、プロセスの効果的なデザイン、導入および実施ならびに関連する制御、グループ内部または外部の者による詐欺、地方、国または世界経済に影響を与える疾病による当グループの事業に対する影響の可能性、交通、通信、電力および水道等の公共インフラの混乱、国際紛争およびその他の政治情勢（テロとの戦いに関するものを含む。）ならびに関連リスクの予測および管理の成功等である。

当グループは、リスク要因（その多くは当グループの制御し得ないものである。）に関する上記の記載は網羅的でなく、その他の要因も当グループの業績に影響を及ぼす可能性があることについて注意を促している。

本項中の将来に関する記述は、2020年12月1日現在のRBCの考え、展望、目的、予測および見積もりに基づくものである。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 【業績等の概要】

下記「(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

(2) 【生産、受注及び販売の状況】

下記「(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

(3) 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項中の将来に関する記述は、2020年12月1日現在のRBCの考え、展望、目的、予測および見積もりに基づくものである。

[次へ](#)

概観および見通し

主要な財務ハイライトおよびその他重要情報

(表1)

(単位：百万カナダドル（1株当たりの金額、数 および%の数値を除く。）) ⁽¹⁾		2020年と2019年との比較 増加（減少）		
	2020年	2019年		
収益合計	\$ 47,181	\$ 46,002	\$ 1,179	2.6%
信用損失引当金繰入額（PCL）	4,351	1,864	2,487	133.4%
保険契約者に対する給付、保険金および新契約費 （PBCAE）	3,683	4,085	(402)	(9.8)%
利息以外の費用	24,758	24,139	619	2.6%
税引前利益	14,389	15,914	(1,525)	(9.6)%
純利益	\$ 11,437	\$ 12,871	\$ (1,434)	(11.1)%
セグメントー純利益				
パーソナル&コマーシャル・バンキング	\$ 5,087	\$ 6,402	\$ (1,315)	(20.5)%
ウェルス・マネジメント	2,155	2,550	(395)	(15.5)%
インシュアランス	831	806	25	3.1%
インベスター&トレジャリー・サービス	536	475	61	12.8%
キャピタル・マーケット	2,776	2,666	110	4.1%
コーポレート・サポート	52	(28)	80	n.m.
純利益	\$ 11,437	\$ 12,871	\$ (1,434)	(11.1)%
主要な情報				
1株当たり利益（EPS）ー基本的	\$ 7.84	\$ 8.78	\$ (0.94)	(10.7)%
ー希薄化後	7.82	8.75	(0.93)	(10.6)%
普通株主資本利益率（ROE） ⁽²⁾⁽³⁾	14.2%	16.8%	n.m.	(260)bps
平均普通株主資本 ⁽²⁾	\$ 78,800	\$ 75,000	\$ 3,800	5.1%
純預貸利ざや（NIM）（平均収益資産）	1.55%	1.61%	n.m.	(6)bps
純貸出金および純手形引受けの平均に対する貸出 金に係るPCLの割合	0.63%	0.31%	n.m.	32bps
純貸出金および純手形引受けの平均に対するパ フォーミング・ローンに係るPCLの割合	0.39%	0.04%	n.m.	35bps
純貸出金および純手形引受けの平均に対する減損 貸出金に係るPCLの割合	0.24%	0.27%	n.m.	(3)bps
貸出金および手形引受けに対する減損貸出金総額 （GIL）の割合	0.47%	0.46%	n.m.	1bp
流動性カバレッジ比率（LCR） ⁽⁴⁾	145%	127%	n.m.	1,800bps
自己資本比率、レバレッジ比率および倍率				
普通株式等Tier 1（CET 1）比率	12.5%	12.1%	n.m.	40bps
Tier 1 比率	13.5%	13.2%	n.m.	30bps
総自己資本比率	15.5%	15.2%	n.m.	30bps
レバレッジ比率	4.8%	4.3%	n.m.	50bps
主要な貸借対照表情報およびその他の情報⁽⁵⁾				
総資産	\$1,624,548	\$1,428,935	\$ 195,613	13.7%
有価証券（適用引当金控除後）	275,814	249,004	26,810	10.8%
貸出金（貸倒損失引当金控除後）	660,992	618,856	42,136	6.8%
デリバティブ関連資産	113,488	101,560	11,928	11.7%
預金	1,011,885	886,005	125,880	14.2%
普通株主資本	80,719	77,816	2,903	3.7%
総リスク加重資産	546,242	512,856	33,386	6.5%
運用資産（AUM）	843,600	762,300	81,300	10.7%
管理資産（AUA） ⁽⁶⁾	5,891,200	5,678,000	213,200	3.8%

(単位：百万カナダドル（1株当たりの金額、数 および%の数値を除く。）)	2020年と2019年との比較			
	2020年	2019年	増加（減少）	
普通株式の情報				
発行済株式数（単位：千株）－基本的平均	1,423,915	1,434,779	(10,864)	(0.8)%
－希薄化後平均	1,428,770	1,440,682	(11,912)	(0.8)%
－期末	1,422,473	1,430,096	(7,623)	(0.5)%
普通株式1株当たり配当	\$ 4.29	\$ 4.07	\$ 0.22	5.4%
配当利回り ⁽⁷⁾	4.7%	4.1%	n.m.	60bps
配当性向	55%	46%	n.m.	900bps
普通株式価格（トロント証券取引所（TSX）にお ける略称はRY） ⁽⁸⁾				
	\$ 93.16	\$ 106.24	\$ (13.08)	(12.3)%
時価総額（TSX） ⁽⁸⁾	132,518	151,933	(19,415)	(12.8)%
経営情報（単位：数）				
従業員：常勤相当（FTE）	83,842	82,801	1,041	1.3%
銀行支店	1,329	1,327	2	0.2%
現金自動預払機（ATM）	4,557	4,600	(43)	(0.9)%
当期における1.00カナダドルの平均米ドル換算額 ⁽⁹⁾	\$ 0.744	\$ 0.752	\$ (0.008)	(1.1)%
期末における1.00カナダドルの米ドル換算額	\$ 0.751	\$ 0.759	\$ (0.008)	(1.1)%

(1) 2019年11月1日以降、当グループは、IFRS第16号「リース」（IFRS第16号）を適用している。2019年11月1日より前の期間の業績は、本書においてIAS第17号「リース」（IAS第17号）に従って報告されている。選択された会計方針の説明を含むIFRS第16号の適用による影響についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。

(2) 平均額は、当期の1日の平均残高を概算するための方式を用いて計算されている。これはROEの計算に用いられた平均普通株主資本を含む。詳細については、「主要な業績および非GAAPによる測定」の項を参照のこと。

(3) これらの数値は、一般に公正妥当と認められる会計原則（GAAP）に基づく標準的な意味を持たず、他の金融機関が開示する類似の基準と比較できない場合がある。詳細については、「主要な業績および非GAAPによる測定」の項を参照のこと。

(4) LCRは各該当期間に終了した3ヶ月間の平均値であり、2020会計年度に発表された規制ガイダンスによってアップデートされた、金融機関監督庁（OSFI）の流動性十分性基準（LAR）ガイダンスに基づいて計算される。詳細については、「流動性リスクおよび資金調達リスク」の項を参照のこと。

(5) 年度末の現物残高を示している。

(6) AUAには、証券化された住宅担保ローン156億ドルおよびクレジットカード・ローン67億ドル（2019年度は155億ドルおよび81億ドル）をそれぞれ含む。

(7) 普通株式1株当たり配当を該当期間中の株価の最高値および最安値の平均で除したものとして定義されている。

(8) TSXにおける期末日現在の終値に基づく。

(9) 平均額は、各期の月末の直物相場を用いて計算されている。

n.m. この欄は意味を持たない。

見通しおよび戦略目標

当グループの事業戦略および行動は、「世界で最も信頼され、成功した金融機関になる」という当グループの構想によって方向付けられている。当グループの3つの戦略目標は次のとおりである。

- ・カナダでは、金融サービスにおいて圧倒的首位に立つこと。
- ・米国では、法人、機関投資家および富裕層ならびにそれらの事業のよきパートナーとなること。
- ・世界の主要な金融センターでは、高い専門知識を評価される金融サービスのリーディングパートナーとなること。

当グループの事業戦略および戦略目標に照らした2020年度の進展については、「事業セグメント業績」の項を参照のこと。

経済、市場および規制の概観および展望－2020年12月1日現在

本項の予測および見通しは、当グループが信頼できると判断したソースからの情報および仮定条件に基づいている。この情報または仮定条件が正確でなかった場合、実際の経済的成果は本項に記載された見通しと著しく乖離する可能性がある。

<経済および市場の概観および展望>

COVID-19パンデミックの封じ込め対策によって多くの国々の経済活動が急速に縮小し、結果としてGDPは未曾有の落ち込みとなり、2020年春以降は失業率が大幅に上昇した。大規模な財政および金融の刺激策は、現在まで部分的な回復の助けとはなっている。しかしながら、ウイルス感染の再拡大、およびそれに伴い一部の地域において程度の差こそあれ封じ込め対策が再開されたこと、ならびに財政支援の一部縮小により、回復の時期および程度はさらに不透明となっている。最近は前向きな試験結果が出ているものの、効果的なワクチンの開発および配布の推移も不確実性を高めている。

カナダ

2020暦年のカナダ経済は、暦年上半期にCOVID-19封じ込め対策によって経済活動が未曾有の落ち込みとなったため、5.6%のマイナス成長が見込まれる。夏の間、封じ込め対策が緩和されたことで、経済活動は急激だが部分的な回復を見せた。しかしながら、石油およびガス部門に対する投資は激減し、カナダにおける掘削活動は引き続き前年の水準を下回っている。このことが、ソーシャル・ディスタンスが困難な宿泊施設および食品サービス業と併せて、より広範な回復を遅らせている。失業率は、パンデミック前の水準である6%未満から2020年5月のピーク時で13.7%まで上昇し、2020年10月現在は8.9%に高止まりしている。当暦年下半期にCOVID-19の感染が再拡大したことで、回復のペースが遅くなり、一部の地域において程度の差こそあれ封じ込め対策が再開されたことは、経済展望には引き続き重大なリスクとなっている。政府による特別所得扶助は、家計の逸失賃金収入の相殺に一役買っており、縮小または終了されるまで、雇用保険の適用拡大および新たなカナダ回復給付プログラムなど、今後も家計の助けとなる予定である。政策金利は2020暦年に低水準に落ち込み、バンク・オブ・カナダ（BoC）は、翌日物金利を現在の低水準に長期間維持し、現行の量的緩和（QE）プログラムを継続すると見られる。低金利、政府の支援政策およびCOVID-19拡大防止対策の段階的縮小により、2021年の経済は最終的に一部回復すると予測される。

米国

2020暦年の米国経済は、3.6%のマイナス成長が見込まれる。政府支出を除く総需要のすべての要素は、2020年第2暦四半期、大規模なCOVID-19パンデミック封じ込め対策によって落ち込んだ。労働市況もCOVID-19パンデミックの発生に伴って急速に悪化し、失業率は2020年4月のピーク時で、パンデミック前の2月の失業率の3.5%をはるかに上回る14.7%に達した。当暦年下半期初めは、経済が急速に回復したものの部分的に過ぎず、2020年10月の失業率は6.9%であり、依然としてパンデミック前の水準を大幅に上回っていた。家計支出は、政府による特別所得移転および政策金利の引下げによって支えられている。一部の連邦所得扶助制度は夏の間に終了したが、連邦準備制度理事会（Fed）は、景気後退が完全に解消され労働市場が回復するまで、特別政策による支援を続けることを約束している。今後はより緩やかな回復になると見られ、2021暦年において、実質GDPは、2020年の減少を一部繰り返すと予測される。

ヨーロッパ

2020暦年のユーロ圏のGDPは、貿易圏内の国ごとのパフォーマンスは異なるが、7.2%のマイナス成長が見込まれる。他の多くの中央銀行と同様、欧州中央銀行（ECB）は、低金利を維持し、COVID-19パンデミックによる影響に対処する追加景気刺激策（QEプログラムの拡大を含む。）を発表した。イングランド銀行（BoE）も、COVID-19パンデミックへの対応として、金利を引き下げ、QEプログラムを拡大した。英国のGDPは、2020暦年、11.5%減少する見込みである。2020年第4暦四半期にCOVID-19の感染が再拡大し、一部の地域において程度の差こそあれ封じ込め対策が再開されたことで、2020年度上半期に未曾有の落ち込みとなった英国およびユーロ圏における回復のペースは制限されると予測される。英国では、ブレグジットに関する不確実性が成長をさらに圧迫する見込みである。2021暦年、ユーロ圏および英国の両方において、GDP成長率は比較的緩やかなペースで回復すると予想される。

金融市場

低インフレおよび金融緩和政策が長期間続くという期待から、国債の利回りは歴史的低水準にとどまっている。金融刺激策および政府による大規模な所得扶助により、COVID-19パンデミック期間を通じて株式市場は広く支えられており、2020年8月には、主要指数がパンデミック前の水準に完全に回復した。ワクチンについて最近前向きな試験結果が発表されたことも、市場の地合いを押し上げている。石油価格は、ロシア－サウジアラビア間の価格競争、およびウイルス封じ込め対策が需要に重くのしかかったことから春に急落したが、幾分回復した。需要は戻りつつあるため、当グループは、2021年は石油価格が徐々に回復すると引き続き期待している。

＜規制環境＞

当グループでは、新たな規制を確実に遵守するよう努める一方、事業または財政に対するマイナスの影響を軽減する等、規制の進展および変化に対する監視および準備を続けている。マイナスの影響は、法令の新設または改正およびそれらを執行する側の期待度等から発生しうる。当グループの費用および事業の複雑さを増減する可能性のある主要な規制の変化については、本書「法的リスクおよび規制環境リスク」の項に高度な要約が記載されている。2020暦年、COVID-19パンデミックに対応して世界各国の政府およびOSFIが追加的に行った規制の変更の要約は、本書「重要な進展：COVID-19」、「流動性リスクおよび資金調達リスク」および「資本管理」の各項に記載されている。

これらおよびその他の変化の結果、当グループの事業および財務業績に影響を与える可能性のあるリスク要因については、本書「2 事業等のリスク」および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクに関する各項を参照のこと。リスク管理体系および活動についての詳細は、本書「重要な進展：COVID-19」の項、「2 事業等のリスク」および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクに関する各項ならびに「資本管理」の項を参照のこと。

株主還元率による業績の決定および測定

当グループは、中期（3年間から5年間）にわたって世界の競合グループの上位半分の業績を達成することで、株主還元率（TSR）を最大化することを目標としている。これは、好調な財務業績を持続するという長期的な視野を反映したものであると当グループは考えている。

TSRの最大化は、前述した当グループの3つの戦略目標と連動するものであり、当グループは、これが株主利益創出のための最も適切な方策であると考えている。TSRは、一定期間における普通株式の実績を、株価の上昇および普通株主に対して支払われた配当を反映して比較するために用いる指標である。TSRの絶対規模は、市況に応じて変化し、当行のポジションは、競合グループと比較した、当グループの全体的な実績に対する市場の一定期間の認識を反映している。

財務業績目標は、中期TSR目標に照らして当グループの業績を測定するために用いられ、戦略的優先事項に照らして執行する目標として使用されている。当グループでは、経済、市場および規制環境の変化に応じて、これらの財務業績目標の見直しを行っている。

下表は、3年間および5年間における当グループの中期財務業績目標に対する実績の概要である。

当グループの中期目標と比較した財務業績 (表2)		
中期目標 ⁽¹⁾	3年間 ⁽²⁾	5年間 ⁽²⁾
希薄化後1株当たり利益 (EPS) 7%超	1%	3%
普通株主資本利益率 (ROE) 16%超	16.2%	16.4%
高い自己資本比率 (CET 1) ⁽³⁾	12.0%	11.6%
40%–50%の配当性向	49%	48%

(1) 中期目標 (3年間から5年間) は、業績目標が3年間または5年間のいずれかの期間で実現した場合に達成されたとみなされる。これらの目標は、通常の事業環境を前提とし、当グループがこれらの目標を達成できる能力は、COVID-19パンデミックおよび現在の低金利環境といった重要な進展により、悪影響を及ぼされる可能性がある。

(2) 希薄化後1株当たり利益は、複合年間成長率 (CAGR) を用いて測定される。ROE、CET 1 および配当性向は平均値を用いて測定される。

(3) CET 1 比率についての詳細は、「資本管理」の項を参照のこと。

2021会計年度について、当グループの3年間および5年間の中期財務業績目標は、変更されない。

当グループではTSRを、取締役会が承認した世界の競合グループのものと比較している。なお、世界の競合グループは、下記の9の金融機関からなる。

- ・カナダの金融機関：バンク・オブ・モントリオール、カナディアン・インペリアル・バンク・オブ・コマーシ、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション、ナショナル・バンク・オブ・カナダ、ザ・バンク・オブ・ノバ・スコシアおよびトロント・ドミニオン・バンク
- ・米国の銀行：ジェー・ピー・モルガン・チェース・アンド・カンパニーおよびウェルズ・ファースト&カンパニー
- ・その他の国々の銀行：ウェストパック・バンキング・コーポレーション

中期目標—競合グループの平均と比較した3年間および5年間におけるTSR ⁽¹⁾ (表3)		
	3年間におけるTSR ⁽²⁾	5年間におけるTSR ⁽²⁾
ロイヤル・バンク・オブ・カナダ	1% 上位半分	9% 上位半分
競合グループの平均 (RBCを除く。)	(6)%	3%

(1) 2020会計年度において、パワー・フィナンシャル・コーポレーションは、世界の競合グループから外された。

(2) 3年間および5年間の年率換算TSRは、2017年10月31日から2020年10月31日までの期間および2015年10月31日から2020年10月31日までの期間におけるTSXにおける期末日現在の終値に基づく当グループの普通株式価格の上昇幅および同期間に再投資された配当金を用いて計算されている。

普通株式および配当に関する情報

(表4)

10月31日に終了した年度	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
普通株式価格 (TSX)における略称はRY) 一期末の終値	\$ 93.16	\$ 106.24	\$ 95.92	\$ 100.87	\$ 83.80
1株当たりの支払済配当	4.26	4.00	3.70	3.40	3.20
株価の上昇 (下落)	(12.3)%	10.8%	(4.9)%	20.4%	12.1%
株主還元率	(8.4)%	15.2%	(1.0)%	25.0%	16.8%

重要な進展：COVID-19

2020年3月11日、世界保健機関は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の大流行を世界的パンデミックであると宣言した。COVID-19パンデミックが世界の経済および金融市場に与える影響の範囲と規模は拡大を続け、当グループが事業を行う国々およびその他の国々を混乱させる一方、市場ボラティリティの拡大およびマクロ経済的環境の変化にも寄与している。また、COVID-19パンデミックは当グループの従業員、一部の顧客および地域に影響を及ぼし続け、結果として当グループの事業、財務業績ならびに現在および将来の当グループの事業に対するリスクに影響を与えている。これらのリスクについての詳細は、本書「パンデミック・リスク要因の影響」の項ならびに「2 事業等のリスク」および「3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクに関する各項を参照のこと。

COVID-19の感染拡大を封じ込めるため、事業の閉鎖、ソーシャル・ディスタンス・ルール、移動制限、学校閉鎖、隔離ならびに集会およびイベントの制限等の対策が引き続き広く行われている。段階的および完全な再開計画は地域ごとに異なり流動的であるとはいえ、これらの対策は、世界経済 (回復のペースおよび規模を含む。) ならびに関連する市場機能、失業率ならびに財政政策および金融政策に対して、引き続き広範囲にわたる影響を有している。封じ込め対策の緩和と経済再開計画に伴っていくつかの地域ではCOVID-19の感染が再拡大し、結果として制限を再開したケースもある。これらの要因はすべて、完全な回復時期に関する不確実要素となっている。最近は前向きな試験結果が出ているものの、効果的なワクチンの開発および配布の推移も不確実性を高めている。COVID-19パンデミック、封じ込め対策および複数の地域において取られている段階的な再開計画は、COVID-19パンデミックが収束し封じ込め対策が完全に解除された後も、経済活動および商業活動ならびに消費者行動に長期にわたって影響を与えるおそれがある。COVID-19パンデミックの封じ込め政策と同時に、世界各国の政府、規制当局、中央銀行および民間組織は、世界経済および金融システムの運営継続を促進するため、いずれも個人および企業を支援することを目的とした前例のない救済プログラムおよび暫定措置を継続している。2020年度第2四半期以降、カナダ政府およびOSFIも、COVID-19パンデミック対策として実施しているプログラムをサポートするため、既存のファシリティの拡大、新たな資金調達プログラムおよび資本修正の導入等、カナダの金融システムの継続的な強さを促進することを意図した規制ガイダンスを実施した。また、BoC、Fedおよびその他の中央銀行はさらに一歩踏み込み、ベンチマーク金利を引き下げることで経済の活性化を図った。経済全体をサポートするため、これらのプログラムの一部は現在も行われ、または引き続き展開されている。政府および連邦機関は、これらのプログラムの必要性の評価を続けている。これらの対策およびプログラムにもかかわらず、COVID-19の影響の規模および期間は依然として不明である。

これらの対策および当グループに対する影響についての詳細は、本書「パンデミック・リスク要因の影響」および「救済プログラム」の各項、「2 事業等のリスク」および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクに関する各項ならびに「資本管理」の項を参照のこと。

従業員、顧客、地域および事業に対するCOVID-19パンデミックの広範な影響に加えて、COVID-19パンデミックは、程度の差こそあれ当グループのすべての事業セグメントを通じて、財務業績に影響を与え続けている。連結業績に対する影響は主として、その他の包括利益の変動を含め、市場ボラティリティの影響によるPCLの増加および変動に反映されている。当グループのすべての事業セグメントの業績も、金利の低下、パンデミック前の水準と比較した個人消費の低迷および信用スプレッドの変動等、マクロ経済的環境の変化による下流の影響、ならびに顧客主導の取引高の増加および営業費用の変動を含むその他の影響を受けており、現在も受け続けている。このような難しい状況にもかかわらず、その最中に当グループが成し遂げた財務業績および財政状態は、この危機が始まった時点および当年度を通じて、当グループの強い立場によって強化されている資本基盤および流動性ポジションの柔軟性を証明している。

COVID-19パンデミックの規模および期間、経済および社会全体に対するその影響、ならびに経済の完全再開への移行時期が不確実であることを考慮すると、当グループの事業ならびに財務業績および財政状態に対する今後の影響は、依然として不明である。最近は前向きな試験結果が出ているものの、効果的なワクチンの開発および配布の推移も不確実性を高めている。

2020年度第2四半期以降、COVID-19パンデミックを受けて、当グループは、顧客に対するサービスを確実に継続しながら、従業員、顧客および地域を守り支援するため様々な対策およびプログラムを実施した。当グループは、これらの対策およびプログラムの効果を継続的に見直し、適宜調整を行っている。

<パンデミック・リスク要因の影響>

カナダまたは世界における感染症のパンデミック、流行または大流行は、当グループの事業（事業の運営方法の変更を含む。）ならびに当グループの財務業績および財政状態にマイナスの影響を与えるおそれがある。COVID-19パンデミックの拡大は、その深刻度および規模を考慮すると、程度の差こそあれ当グループの事業および一部の顧客に引き続きマイナスの影響を与えており、世界経済にとっては依然としてリスクである。COVID-19パンデミックの発生当初、影響を受けた地域の政府および規制当局は、広範囲にわたる事業の閉鎖、ソーシャル・ディスタンス・ルール、移動制限、学校閉鎖、隔離ならびに集会およびイベントの制限等、COVID-19パンデミックを封じ込めるための数々の対策を行った。一部の地域においては、いくつもの封じ込め対策が徐々に緩和または解除されつつあるが、COVID-19の感染拡大を封じ込めるため、追加の安全対策および営業ルールは引き続き導入されている。また、COVID-19パンデミックの第二波の到来を受け、一部の地域では様々な規模の封じ込め対策が再開されている。この結果、封じ込め対策は、回復のペースおよび規模を含め世界の経済活動に引き続き影響を与えており、市場ボラティリティの拡大およびマクロ経済的環境の変化に寄与している。COVID-19パンデミックの様々な影響が現れ続ける中、混乱の長期的影響は、当グループの事業戦略およびイニシアチブにマイナスの影響を与え続けており、結果として信用リスク、市場リスクまたはオペレーショナル・リスクによる損失が実現するなど、当グループの財務業績に影響が生じている。

政府、金融当局、規制当局および金融機関（当グループを含む。）は、経済および金融システムを支えるための対策を取っており、今後も引き続き取っていく。具体的には、個人顧客、中小企業顧客、商業顧客および企業顧客の流動性を高め、財政的に援助するための財政、金融およびその他の財務措置などである。また、金融機関向けの規制緩和措置も実施された。これらのプログラムについての詳細は、「流動性リスクおよび資金調達リスク」および「資本管理」の各項を参照のこと。

当グループは、COVID-19パンデミックの刻々と変化し続ける潜在的な継続的效果および影響を注意深く監視している。世界経済、金融市場および当グループ（当グループの財務業績、規制資本および流動性比率ならびに規制上およびその他の要件を満たす能力を含む。）に対してCOVID-19パンデミックが与える影響の全体像は、依然として不明である。最終的な影響は、COVID-19パンデミックの範囲、深刻度、期間およびさらなる波、ならびに政府、金融当局・規制当局およびその他の第三者の行動および対策の有効性等、きわめて不確実で予測不可能な将来の動向に左右される。最近では前向きな試験結果が出ているものの、効果的なワクチンの開発および配布の推移も不確実性を高めている。顧客救済プログラムに関しては、市場環境および経済情勢に対するCOVID-19パンデミックの影響の結果、顧客との紛争、訴訟、政府および規制当局による調査のリスクの増加、またかかる状況に対応して政府当局が講じる措置等、数々の課題に直面する可能性がある。また、個人顧客、中小企業顧客、商業顧客および企業顧客に対するこれらの顧客救済プログラムの有効性に応じて、当グループは、オペレーショナル・リスクおよび評判リスク、ならびにとりわけ貸倒れの増加を含む財務損失の増加に直面する可能性もある。これらのプログラムの有効性は、COVID-19パンデミックの期間および規模によって異なり、地域および産業によっても、また顧客に対する恩恵の程度も異なるだろう。

COVID-19パンデミックは、一部の支店の閉鎖、スタッフの在宅勤務期間の延長および顧客の要請の増加による業務の変更ならびに当グループの商品およびサービスの主要なサプライヤーの混乱等、当グループの一部の顧客および当グループが事業を行う方法に影響しており、今後も影響を与え続ける可能性がある。これらの要素は、当グループの事業運営ならびに顧客サービスの質および継続性に悪影響を与えており、今後も悪影響を与え続ける可能性がある。当グループはこれまでに、現在の在宅勤務措置に対応するため事業継続性計画を通じて積極的な対策を取り、一部の従業員をオフィス勤務に復帰させる計画を慎重に進めており、当グループの危機管理チームは、従業員の健康と安全および当グループの顧客サービス能力を維持するための取組みを強化している。また、経済的問題を抱えた顧客にさらなる支援を行うため、当グループでは、現在利用可能な政府のプログラムのほかに様々な一時的救済プログラムを開始した。当グループの救済プログラムについての詳細は、下記「救済プログラム」の項を参照のこと。

COVID-19パンデミックは、当グループの事業に対して及ぼし続ける影響に加えて、一部の顧客を財政的に圧迫し続ける可能性がある。この場合、ソーシャル・ディスタンスの影響による業務上の制約（完全閉鎖または営業時間の短縮、販売機会の喪失および／または営業費用の増加を含むがこれらに限定されない。）に伴って、当グループの一部の個人顧客ならびに一部の中小企業顧客、商業顧客および企業顧客の財務業績がさらに圧迫され、結果として当グループに想定を超える貸倒れが発生するおそれがある。

さらなる波の可能性を含め、COVID-19パンデミックが長引いた場合、または同様の影響を引き起こす別の病気が発生した場合、経済に対するマイナスの影響が深刻化し、金融市場のさらなるボラティリティおよび下落につながるおそれがある。さらに、マクロ経済的環境、ならびに社会的通念および業務規範がこのCOVID-19パンデミック後にどのような影響を受けるかは、依然として不明である。金融市場、規制環境または消費者行動および消費者心理に想定外の変化があれば、当グループの財務業績および財政状態、事業運営ならびに評判に、相当期間マイナスの影響が生じる可能性がある。

当グループはその事業活動により多種多様なリスクにさらされているため、当グループの業務のほぼすべての面において、当グループのリスク観は固定的ではない。グループ・リスク管理体系（ERMF）に従い、当グループは、事業を保護し可能にする一助として、積極的にリスクを管理している。また、最重要リスクおよび新興リスク、オペレーショナル・リスクおよび評判リスク、ならびに信用リスク、市場リスクならびに流動性リスクおよび資金調達リスクを含め、COVID-19パンデミックが当グループの事業に与え続ける影響について、評価を継続している。当グループの最重要リスクおよび新興リスクならびにオペレーショナル・リスクについての詳細は、本書「2 事業等のリスク」および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクの各項を参照のこと。

<救済プログラム>

COVID-19パンデミックに対応して、個人向けの賃金代替措置、企業向けの賃金助成および賃料軽減措置、ならびに当グループが顧客のために管理している企業向けの貸出プログラム等、個人および企業を財政的に支援するための複数の政府プログラムが策定され続けている。経済的問題を抱えた顧客にさらなる支援を行うため、現在利用可能な政府のプログラムのほかに様々な一時的救済プログラムが開始された。

RBC救済プログラム

2020年度第2四半期中、当グループは、COVID-19パンデミックの影響を受けた顧客を即時かつ長期的に救済することを目指すRBC顧客救済プログラムを発表した。当グループはこのプログラムを通じて、支払猶予、クレジットカード手数料の引下げおよび借換えまたは与信条件の緩和、手数料免除、ならびに様々な小売、中小企業および市販商品の一時的な限度額引上げ等、各種救済措置を実施することで、顧客を支援した。当グループの商業顧客および中小企業顧客の大部分を対象とするRBC顧客救済プログラムは2020年6月30日に終了し、このプログラムに基づくリテール顧客向けの返済猶予は2020年9月30日に終了した。このプログラムに既に参加している顧客は、かかる終了日以降も支払猶予またはその他の救済を受けることができる。RBC顧客救済プログラムは段階的に終了しているが、当グループは、それぞれの個人顧客のニーズの評価を続け、引き続き臨機応変に顧客サービスを提供していく。

2020年10月31日現在、支払いを継続している顧客を含む51,500人（2020年7月31日現在は278,400人）を超える世界各国の顧客が、支払猶予プログラムを利用している。下表は、貸出金件数および関連する貸出金残高の帳簿価額総額をまとめたものである。

(表5)

(単位：百万カナダドル（貸出金 件数を除く。）)	2020年10月31日現在		2020年7月31日現在	
	貸出金件数数	貸出金残高の 帳簿価総額	貸出金件数数	貸出金残高の 帳簿価総額
住宅担保ローン	22,300	\$ 6,829	138,827	\$ 41,270
個人	16,291	712	74,115	2,592
クレジットカード	14,864	172	96,542	1,012
中小企業	984	138	8,465	1,134
ホールセール	4,682	2,618	26,592	16,810
合計	59,121	\$ 10,469	344,541	\$ 62,818

詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2および注記5を参照のこと。

政府のCOVID-19パンデミック対策プログラム

<カナダ政府>

2020年度第2四半期以降、カナダ財務省は、市場の機能および金融業を支援すると同時に、COVID-19パンデミックの影響を踏まえた上で金融セクターが依然として健全で、十分な資本を有し、かつ、強靱であることを確保するための、新たなプログラムおよび既存プログラムの改定を発表した。このような前例のない時代にキャッシュ・フローの問題を抱えた企業を支援するため、カナダ連邦政府は以下の重要なプログラムを立ち上げ、カナダの金融機関がその財政援助を支援する。

- ・カナダ緊急ビジネス口座（CEBA）－このプログラムに基づき、カナダの銀行は、既存の適格中小企業顧客に対し、短期的な営業費用の流動性源として60,000ドルを上限に無利息融資を支援することができる。貸出金は、カナダ政府が資金を提供するもので、カナダの銀行は信用リスクを負わない。CEBAプログラムの申請期限は、2020年12月31日に延長された。
- ・ビジネス信用枠プログラム（BCAP）－このプログラムは、輸出開発カナダ（EDC）によるBCAP保証およびカナダ産業開発銀行（BDC）による協調融資プログラムで構成される。
 - ・EDC BCAP保証－このプログラムに基づき、カナダの銀行は、既存の中規模および大規模な適格企業顧客に対し、輸出志向の事業および国内販売を基本とする事業の両方に焦点を当て、短期的な流動性ニーズを支援するため6.25百万ドルを上限に貸し出すことができる。これらの貸出金は特定の営業費用のために使用されなければならない、EDCがその80%を保証する。EDC BCAP保証プログラムの申請期限は、2021年6月30日に延長された。
 - ・BDC協調融資プログラム－このプログラムに基づき、BDCおよびカナダの銀行は、適格企業顧客に対して、その業務上および流動性のニーズに応えるため、6.25百万ドルを上限に共同で貸出しを行う（拋出割合はそれぞれ80%/20%）。最大貸出金額は事業の規模によって異なり、初年度は利息のみの支払義務を設定することも可能である。BDC協調融資プログラムの申請期限は、2021年6月30日に延長された。

- ・BDCミッドマーケット融資プログラム—このプログラムに基づき、BDCおよびカナダの銀行は、中規模の適格企業顧客に対して、その業務上および流動性のニーズに応えるため、12.5百万ドルから60百万ドルまでの貸出しを行う（拠出割合はそれぞれ90%/10%）。BDCミッドマーケット融資プログラムの申請期限は、2021年6月30日である。
- ・EDCミッドマーケット保証および融資プログラム—このプログラムに基づき、カナダの銀行は、既存の中規模および大規模な適格企業顧客に対し、輸出志向の事業および国内販売を基本とする事業の両方に焦点を当て、流動性のニーズを支援するため、12.5百万ドルから最大80百万ドルまでの最長5年間の貸出しを行うことができる。これらの貸出しは特定の営業費用に充てられなければならない、その75%をEDCが保証する。EDCミッドマーケット保証および融資プログラムの申請期限は、2021年6月30日である。

2020年10月31日現在、当グループは、これらのプログラムに登録した174,200（2020年7月31日現在は158,100）を超える顧客に、救済の事務処理の支援を行った。これは合計71億ドル（2020年7月31日現在は64億ドル）に相当し、うち57億ドル（2020年7月31日現在は42億ドル）の資金を提供した。詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記6を参照のこと。

これらの重要なプログラムに加えて、カナダ政府およびその他の監督機関は、規制当局および税務当局に対する届出の期間延長等のその他の分野に関するガイダンスを発表した。これらのいずれも、当グループに対する影響は重要ではないと考えられる。

<米国政府>

2020年3月27日、米国連邦政府が制定したその他のプログラムに追加して、コロナウイルス支援・救済・経済安全保障（CARES）法が成立した。CARES法の一環として、給与保護プログラム（PPP）は中小企業に対し、人件費、モーゲージ金利、賃料および水道光熱費の支払いを支援する、米国連邦政府保証付きの貸出しを行う。当グループはこのプログラムを通じて、一定の適格要件の評価に基づき顧客に直接貸出しを行っており、これらの要件を満たさない場合は債務者に対して求償請求がなされる。場合により、米国中小企業庁は、貸出金の全部または一部を免除することがある。2020年6月5日、2020年給与保護プログラム柔軟化法（柔軟化法）が成立した。これはCARES法を改正したもので、PPPの当初の条件を追加的に緩和することを目的としている。これには、支払支援のための期間をPPPの融資組成後8週間から24週間に延長すること、供与されたPPP融資の満期を2年から5年に延長すること、および適格要件の修正が含まれるが、これらに限定されない。PPPの申請は、2020年8月8日に締め切られた。2020年10月31日現在、当グループはこのプログラムを通じて、15,888の顧客に対し5,776百万ドル（4,336百万米ドル）の資金を提供している。2020年7月31日現在、当グループはこのプログラムを通じて、15,533の顧客に対し5,804百万ドル（4,334百万米ドル）の資金を提供した。

これとは別に、米国財務省はガイダンスを発表し、各種納税申告、その他税金に関する届出および税金の支払いの期限を延期した。これらのいずれも、当グループに対する影響は重要ではないと考えられる。

＜流動性および資金調達の支援プログラム＞

2020年度第2四半期以降、政府および連邦機関は、既存の資金調達プログラムの適格基準を拡大し、銀行にさらなる流動性および追加の資金調達源を提供する新規プログラムを発表した。当グループは、これらを通じてこの不安定な時期に顧客を支援することができる。以下にその例を挙げる。

- ・既存の資金調達プログラム－BoCは、利用可能な財源を増やし、既存のターム・レポ・ファシリティおよびカナダ抵当住宅公社（CMHC）を通じた改定政府保証付きモーゲージの買取プログラムの適格要件を拡大した。これらのプログラムは、イングランド銀行の米ドル・スワップ・ファシリティ等、他の法域における中央銀行のプログラムも含む。
- ・新規の資金調達プログラム－BoCは、銀行引受手形買取制度および定期流動性ファシリティを追加した。さらに、Fedはプライマリー・ディーラー信用制度を導入した。

政府および連邦機関は、これらのプログラムの必要性の評価を行っており、今後も引き続き行う予定である。銀行引受手形買取制度、およびCMHCを通じた改定政府保証付きモーゲージの買取プログラム等、一部のプログラムは2020年10月21日付で終了し、既存のターム・レポ・ファシリティは、パンデミック前の水準まで徐々に縮小される予定である。

当グループの流動性および資金調達特性の管理方法についての詳細は、本書「流動性リスクおよび資金調達リスク」の項を参照のこと。

前述のプログラムのすべてをサポートするため、中央銀行および国内外の規制当局は、規制資本、流動性要件および報告要件についてガイダンスを行っている。これらのイニシアチブについての詳細は、本書「流動性リスクおよび資金調達リスク」および「資本管理」の各項を参照のこと。当グループは、当グループ、政府および連邦機関の発表を引き続き監督していく。

財務業績

概観

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、前年度比1,434百万ドル減すなわち11%減の11,437百万ドルとなった。希薄化後1株当たり利益（EPS）は0.93ドル減すなわち11%減の7.82ドル、普通株主資本利益率（ROE）は260bps低下して14.2%となった。普通株式等Tier 1（CET 1）比率は、前年度比40bps上昇の12.5%であった。

当グループの業績は、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおける利益の減少が、キャピタル・マーケットにおける好調な利益、ならびにコーポレート・サポート、インベスター&トレジャリー・サービスおよびインシュアランスにおける業績向上によって一部相殺されたことを反映するものであった。

パーソナル&コマーシャル・バンキングにおける利益の減少は、主として、主にCOVID-19パンデミックがパフォーマンス・ローンに与えた影響およびスプレッドの縮小によってPCLが増加したことによる。COVID-19パンデミックに関連する費用の純増（追加の従業員関連費用を含む。）も、この減少に寄与した。これらの要素は、カナディアン・バンキングにおいて平均取引高が10%増加したことで、一部相殺された。

ウェルス・マネジメントにおける業績の低下は、主として前年度におけるブルーベイの民間融資事業売却による利益、受取利息純額の減少および従業員関連費用の増加によるものである。スイープ口座からの利益の減少も、この低下に寄与した。これらの要素は、手数料ベースの平均顧客資産の増加（変動報奨金を除く。）による利益の増加により一部相殺された。

キャピタル・マーケットにおける業績の向上は、グローバル・マーケットおよびコーポレート&インベストメント・バンキングにおける収益の増加に牽引された。これらの要素は、PCLの増加、税率の高い法域からの利益の割合の増加に伴う税金の増加、主として残余調達コストの増加を反映したアザーの収益の減少、ならびに業績向上に伴う報奨金の増加により、一部相殺された。

コーポレート・サポートの純利益は52百万ドルであった。これは主として、資産／負債管理行動が、不利な税金調整および未配分残余費用により一部相殺されたことによる。前年度の純損失は28百万ドルであった。これは主として、会計上の不利な修正の影響、未配分残余費用および税金によるマイナスの影響によるものであるが、資産／負債管理行動により一部相殺された。

インベスター&トレジャリー・サービスにおける業績の向上は、前年度に事業の見直しに伴う退職費用および関連費用が含まれていたためである。事業の見直しおよび継続中の効率化イニシアチブの影響も、当年度の従業員関連費用の減少につながった。これらの要素は、顧客預金収益の減少により一部相殺された。

インシュアランスにおける利益の増加は、主として好調な投資関連実績によるものであるが、年に一度の保険数理上の仮定の不利な修正によって一部相殺された。

当グループの事業セグメント別業績およびCET 1 比率についての詳細は、「事業セグメント業績」および「資本管理」の各項を参照のこと。

外貨換算の影響

下表は、主要な損益計算書項目について想定される外貨換算の影響を表している。

(表6)

(単位：百万カナダドル（1株当たりの金額を除く。）)		2020年度と 2019年度との比較	
増減：			
収益合計		\$	172
PCL			34
利息以外の費用			135
法人所得税			(3)
当期純利益			6
EPSへの影響			
基本的		\$	0.00
希薄化後			0.00

下表は、当グループの事業に影響を及ぼす関連平均為替レートを示している。

(表7)

(1.00カナダドルの平均外貨換算額) ⁽¹⁾	2020年	2019年
米ドル	0.744	0.752
英ポンド	0.579	0.591
ユーロ	0.658	0.670

(1) 平均額は、各期の月末の直物相場を用いて計算されている。

収益合計

(表8)

(単位：百万カナダドル（%の数値を除く。））	2020年	2019年
受取利息および受取配当金	\$ 34,883	\$ 41,333
支払利息	14,048	21,584
受取利息純額	\$ 20,835	\$ 19,749
NIM	1.55%	1.61%
保険料収益、投資収益および手数料収益	\$ 5,361	\$ 5,710
トレーディング収益	1,239	995
投資運用手数料および保管手数料	6,101	5,748
ミューチュアル・ファンド収益	3,712	3,628
有価証券ブローカー手数料	1,439	1,305
サービス料	1,842	1,907
引受業務手数料およびその他のアドバイザー業務の手 数料	2,319	1,815
トレーディング以外の外国為替収益	1,012	986
カード・サービス収益	969	1,072
与信手数料	1,321	1,269
投資有価証券に係る純利益	90	125
共同支配企業および関連会社の持分利益	77	76
その他	864	1,617
利息以外の収益	\$ 26,346	\$ 26,253
収益合計	\$ 47,181	\$ 46,002

＜2020年度と2019年度との比較＞

収益合計は、前年度比1,179百万ドル増すなわち3%増となった。これは主として、受取利息純額、引受業務手数料およびその他のアドバイザー業務の手数料、投資運用手数料および保管手数料の増加、ならびにトレーディング収益の増加によるものである。外国為替換算の影響によっても、収益合計は172百万ドル増加した。これらの要素は、その他の収益の減少、保険料収益、投資収益および手数料収益（保険収益）の減少によって、一部相殺された。

受取利息純額は、1,086百万ドル増すなわち5%増となった。これは主として、カナディアン・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおける取引高の増加、ならびにキャピタル・マーケットにおける債券および株式のトレーディング収益の増加によって牽引された。インベスター&トレジャリー・サービス事業における資金調達および流動性収益の増加も、この増加に寄与した。これらの要素は、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおける金利低下の影響により、一部相殺された。インベスター&トレジャリー・サービス事業における資金調達および流動性収益の増加に関する影響は、その他の収益における非トレーディング・デリバティブの関連利益の減少によって相殺された。

NIMは、前年度比6bpsの低下となった。これは主として、主に金利低下の影響によりウェルス・マネジメントのスプレッドが縮小したこと、ならびに金利低下および競争価格圧力の影響によりカナディアン・バンキングのスプレッドが縮小したことによるものである。

保険収益は、349百万ドル減すなわち6%減となった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動（その大部分がPBCAEにおいて相殺された。）を反映している。これは、主として長寿リスクの再保険事業および団体年金保険における事業拡大（いずれも大部分がPBCAEにおいて相殺された。）により一部相殺された。

トレーディング収益は、244百万ドル増すなわち25%増となった。これは主として、ヨーロッパにおける債券トレーディングの増加、カナダにおけるコモディティ・トレーディングの増加、ならびに米国およびヨーロッパにおける株式トレーディングの増加によるものである。これらの要素は、カナダにおける株式トレーディングの減少および米国における債券トレーディングの減少によって、一部相殺された。

投資運用手数料および保管手数料は、353百万ドル増すなわち6%増となった。これは、純売上高および相場上昇を反映した手数料ベースの平均顧客資産の増加が、前年度にカナディアン・ウェルス・マネジメントにおいて会計上の有利な修正が行われた影響により一部相殺されたものである。

引受業務手数料およびその他のアドバイザリー業務の手数料は、504百万ドル増すなわち28%増となった。これは主として、ほとんどの地域におけるデット・オリジネーションおよびエクイティ・オリジネーションの増加によるものである。

その他の収益は、753百万ドル減すなわち47%減となった。これは主として、インベスター&トレジャリー・サービス事業における非トレーディング・デリバティブの利益の減少（その大部分が受取利息純額において相殺された。）を反映している。前年度のブルーベ이의民間融資事業売却による151百万ドルの利益、および現金のスweep口座からの利益の減少も、この減少に寄与した。これらの要素は、経済的ヘッジによるプラスの影響により一部相殺された。

<追加トレーディング情報>

(表9)		
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
受取利息純額	\$ 3,459	\$ 2,266
利息以外の収益	1,239	995
トレーディング収益合計	\$ 4,698	\$ 3,261
商品別のトレーディング収益総額		
金利および信用	\$ 2,838	\$ 1,664
株式	1,234	1,037
外国為替およびコモディティ	626	560
トレーディング収益合計	\$ 4,698	\$ 3,261

<2020年度と2019年度との比較>

受取利息純額および利息以外の収益に計上されるトレーディング関連収益からなるトレーディング収益合計は、前年度比1,437百万ドル増すなわち44%増の4,698百万ドルとなった。これは主として、すべての地域における債券トレーディングの増加および米国を中心とした株式トレーディングの増加によるものである。

信用損失引当金繰入額**<2020年度と2019年度との比較>**

PCL総額は、前年度比2,487百万ドル増となった。

貸出金に係るPCLは、COVID-19パンデミックの影響を受け、パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタル・マーケットおよびウェルス・マネジメントにおける引当金繰入額の増加を反映し、前年度比2,340百万ドル増すなわち124%増となった。貸出金に係るPCL比率は、32bps上昇した。

PCLの詳細は、「信用リスク」の「信用の質の実績」の項を参照のこと。

保険契約者に対する給付、保険金および新契約費（PBCAE）**<2020年度と2019年度との比較>**

PBCAEは、前年度比402百万ドル減すなわち10%減の3,683百万ドルとなった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動（その大部分が収益により相殺された。）および好調な投資関連実績の増加を反映している。これらの要素は、事業の成長（その大部分が収益により相殺された。）および主に死亡率に関連した、当年度の年に一度の保険数理上の仮定の不利な更新により一部相殺された。

利息以外の費用

(表10)

(単位：百万カナダドル（%の数値を除く。））	2020年	2019年
給与	\$ 6,758	\$ 6,600
変動報酬	6,040	5,706
給付金および留保報酬	1,994	1,876
株式に基づく報酬	460	418
人件費	\$ 15,252	\$ 14,600
設備費	1,907	1,777
施設費	1,660	1,635
通信費	989	1,090
専門家報酬	1,330	1,305
その他の無形資産の償却費	1,273	1,197
その他	2,347	2,535
利息以外の費用	\$ 24,758	\$ 24,139
効率性比率⁽¹⁾	52.5%	52.5%
調整後効率性比率⁽²⁾	52.8%	53.6%

(1) 効率性比率は、利息以外の費用を収益合計で除して計算されている。

(2) 当該数値は、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動を除いて調整されており、非GAAP基準である。詳細は、「主要な業績および非GAAPによる測定」の項を参照のこと。

<2020年度と2019年度との比較>

利息以外の費用は、619百万ドル増すなわち3%増となった。これは主として、収益増加に伴う変動報酬金の増加および従業員関連費用の増加（COVID-19パンデミック中に接客業務を行う者を中心とした一部の従業員に対する追加報酬を含む。）によるものである。テクノロジー費用（デジタル・イニシアチブを含む。）および関連費用の増加、外国為替換算の影響およびCOVID-19関連のその他の増分費用の増加も、この増加に寄与した。これらの要素は、裁量支出の減少、ならびに前年度のインベスター&トレジャリー・サービス事業の見直しに伴う退職費用および関連費用によって、一部相殺された。

効率性比率は52.5%で、前年度から変わらなかった。保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動を除く効率性比率は、前年度比で80bps低下し、52.8%となった。

保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動を除く効率性比率は、非GAAPによる測定である。調整を含む詳細は、「主要な業績および非GAAPによる測定」の項を参照のこと。

法人所得税およびその他の税金

(表11)

(単位：百万カナダドル（%の数値を除く。）)	2020年		2019年	
法人所得税	\$	2,952	\$	3,043
その他の税金				
付加価値税および売上税	\$	496	\$	519
給与税		771		738
資本税		52		73
固定資産税		140		139
保険税		29		30
事業税		43		55
	\$	1,531	\$	1,554
法人所得税およびその他の税金の合計	\$	4,483	\$	4,597
税引前利益	\$	14,389	\$	15,914
法人所得税の実効税率		20.5%		19.1%
実効税率の合計 ⁽¹⁾		28.2%		26.3%

(1) 法人所得税およびその他の税金控除前利益に対する法人所得税およびその他の税金の合計の割合。

<2020年度と2019年度との比較>

法人所得税費用は、前年度比91百万ドル減すなわち3%減となった。これは主として、税引前利益の減少および非課税利益の増加によるものである。これらの要素は、当年度は税率の低い法域からの利益が減少したこと、および前年度に有利な税金調整があったことにより、一部相殺された。

実効税率は、140bps上昇して20.5%となった。これは主として、当年度における税率の低い法域からの利益の減少および前年度の税金調整による純益が、非課税利益の増加によって一部相殺されたことによるものである。

その他の税金は、前年度比23百万ドル減すなわち1%減となった。これは主として、購入行動の減少（裁量支出の減少を含む。）に比例する付加価値税および売上税の減少、ならびにキャピタルゲイン税および事業税の減少によるものである。これらの要素は、従業員関連費用の増加による賃金税の増加によって、一部相殺された。

顧客資産

<管理資産>

管理資産（AUA）は、顧客が実質所有し当グループが管理する資産である。当グループは、保護預かり、投資収益の回収、売買取引の決済、記録管理といった管理サービスを提供している。AUAにおける基本投資戦略は顧客が決定しており、そのことが、当グループが受領する管理手数料に影響することは通常はない。管理手数料は、市場動向、管理するサービスの種類、取引高、地域および取引高または複数のサービスに基づく顧客関係ベースの価格設定等の資産評価水準の変動による影響を受ける場合がある。

当グループのインベスター&トレジャリー・サービス事業がAUAを有する主要な事業セグメントであり、2020年10月31日現在、全AUAの約76%を保有している。続くウェルス・マネジメント事業およびパーソナル&コマーシャル・バンキング事業は、それぞれ全AUAの約19%および約5%を保有している。

<2020年度と2019年度との比較>

AUAは、前年度比2,130億ドル増すなわち4%増となった。これは主として、相場上昇および外国為替換算の影響を反映しており、顧客活動の低下により一部相殺された。

下表は、AUAを地域別および資産区分別にまとめたものである。

AUAの地域別および資産区分別内訳		(表12)
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
カナダ⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 42,800	\$ 35,300
債券	763,500	752,000
株式	591,200	652,000
マルチ・アセットおよびその他	954,800	902,100
カナダ合計	\$ 2,352,300	\$ 2,341,400
米国⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 40,100	\$ 26,500
債券	107,300	114,500
株式	195,400	189,600
マルチ・アセットおよびその他	256,000	226,700
米国合計	\$ 598,800	\$ 557,300
その他の国々⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 40,700	\$ 44,100
債券	375,400	358,200
株式	837,200	787,900
マルチ・アセットおよびその他	1,686,800	1,589,100
その他の国々合計	\$ 2,940,100	\$ 2,779,300
AUA合計	\$ 5,891,200	\$ 5,678,000

(1) 地域情報は当グループの顧客がサービスを受けている所在地に基づく。

<運用資産>

運用資産（AUM）は、顧客が実質所有し当グループが運用する資産である。運用報酬は、運用会社としての投資能力に対して投資ファンドおよびその他の顧客が支払うが、管理サービスも対象とする場合がある。運用報酬は、販売チャネル、商品および投資戦略に応じてAUMの百分率により日次、月次または四半期ごとに計算される。一般的に、株式戦略の報酬レートのほうが債券またはマネー・マーケット戦略の報酬レートよりも高くなる。報酬は、資産構成や複数のサービスを使う顧客のためのリレーションシップ・ベースの価格設定によっても影響される。通常はリスクが高い資産ほど報酬が高くなるが、複数のサービスを使用する顧客は相乗効果により報酬を低くすることができる。一定のファンドに関しては、成功報酬の取決めを置く場合があり、成功報酬は、一定のベンチマークまたは業績目標を達成した場合に計上される。これらの要素により、商品について発生する報酬の間に差異が生じ、その結果平均AUMが類似しているにもかかわらず資産の区分によって利益率が異なる場合がある。2020年10月31日現在、ウェルス・マネジメント・セグメントは、AUM合計の約99%のAUMを有する主要な事業セグメントである。

<2020年度と2019年度との比較>

AUMは、前年度比810億ドル増すなわち11%増となった。これは主として、純売上高および相場上昇を反映している。

下表は、2020年10月31日に終了した年度におけるAUMの変動を示したものである。

顧客資産－AUM						(表13)
(単位：百万カナダドル)	2020年					2019年
	マネー・ マーケット	債券	株式	マルチ・ アセット およびその他	合計	合計
AUM期首残高	\$ 29,900	\$ 206,900	\$ 90,000	\$ 435,500	\$ 762,300	\$ 671,000
機関投資家資産流入額	38,600	49,400	9,900	8,800	106,700	111,000
機関投資家資産流出額	(21,000)	(46,900)	(3,300)	(9,100)	(80,300)	(105,100)
個人資産流出入額（純額）	1,700	5,300	(700)	25,300	31,600	31,200
資産流出入純額合計	\$ 19,300	\$ 7,800	\$ 5,900	\$ 25,000	\$ 58,000	\$ 37,100
市場の影響	200	10,400	-	7,300	17,900	60,000
取得／処分	-	-	-	700	700	(5,500)
外国為替	(500)	2,500	100	2,600	4,700	(300)
市場、取得／処分および外国 為替による影響合計	\$ (300)	\$ 12,900	\$ 100	\$ 10,600	\$ 23,300	\$ 54,200
AUM期末残高	\$ 48,900	\$ 227,600	\$ 96,000	\$ 471,100	\$ 843,600	\$ 762,300

事業セグメント業績

事業セグメント別業績

								(表14)
(単位：百万カナダ ドル（%の数値を除く。））	2020年							2019年
	パーソナル& コマーシャル・ バンキング	ウェルネス・ マネジメント	インシュア ランス	インベス ター&トレ ジャー・ サービス	キャピタル・ マーケッツ (1)	コーポレート・ サポート ⁽¹⁾	合計	合計
受取利息純額	\$ 12,568	\$ 2,860	\$ -	\$ 329	\$ 5,135	\$ (57)	\$ 20,835	\$ 19,749
利息以外の収益	5,163	9,360	5,361	1,982	4,749	(269)	26,346	26,253
収益合計	\$ 17,731	\$ 12,220	\$ 5,361	\$ 2,311	\$ 9,884	\$ (326)	\$ 47,181	\$ 46,002
PCL	2,891	214	-	6	1,239	1	4,351	1,864
PBCAE	-	-	3,683	-	-	-	3,683	4,085
利息以外の費用	7,946	9,212	592	1,589	5,362	57	24,758	24,139
税引前利益	\$ 6,894	\$ 2,794	\$ 1,086	\$ 716	\$ 3,283	\$ (384)	\$ 14,389	\$ 15,914
法人所得税	1,807	639	255	180	507	(436)	2,952	3,043
純利益	\$ 5,087	\$ 2,155	\$ 831	\$ 536	\$ 2,776	\$ 52	\$ 11,437	\$ 12,871
ROE ⁽²⁾	21.7%	13.1%	36.1%	15.9%	11.7%	n.m.	14.2%	16.8%
平均資産	\$ 494,600	\$ 119,500	\$ 20,300	\$ 204,300	\$ 755,400	\$ 42,600	\$1,636,700	\$1,436,200

(1) 受取利息純額、利息以外の収益、収益合計、税引前利益および法人所得税は、キャピタル・マーケッツにおいて課税対象ベース（teb）で表示されている。teb調整は、コーポレート・サポートのセグメントでは除外されている。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

(2) この数値は、GAAPに基づく標準的な意味を持たず、他の金融機関が開示する類似の基準と比較できない場合がある。詳細は、「主要な業績および非GAAPによる測定」の項を参照のこと。

n.m. この欄は意味を持たない。

事業セグメントの測定および報告方法

当グループの管理報告体系は、各事業セグメントの業績について、それぞれが独立した事業であるかのような測定を意図し、各事業セグメントの管理方法を反映している。この手法では、事業セグメント別の業績が、事業遂行に基づくすべての収益および費用を含むよう意図されており、その業績を経営陣がどのように見ているかを表している。

<主要な方法>

以下は、管理報告体系において用いている主要な方法および仮定条件をまとめたものである。これらは、経営陣が定期的にチェックし、有効であることを確認している。

費用および税金の配分

各事業セグメントの業績に、それぞれの事業遂行に伴う費用を反映させるため、テクノロジー&オペレーションズおよびファンクションズが各事業セグメントのために直接負担する費用または提供するサービスを配分している。一般経費およびその他の間接費用等、事業セグメントに直接配分できないその他の費用については、管理報告体系を活用し、実質的な恩恵を反映させる目的で各事業セグメントに配分している。

資本の配分

当グループの管理報告体系は、各事業セグメントの活動に伴う実質的な恩恵およびリスクを含め、経済費用を継続的に測定・調整するため、各事業セグメントへの資本の配分をも決定する。各事業セグメントに割り当てられた資本金額は、配分資本という。未配分資本および関連純費用は、コーポレート・サポートに計上される。詳細については、「資本管理」の項を参照のこと。

資金移転価格

資金移転価格とは、管理報告目的上の社内での借入れまたは貸付けについての価格をいう。当グループは、セグメント業績のリスク調整を施した管理報告を可能にするために資金移転価格手続を採用している。当該手続は、当グループの金利リスクおよび流動性リスクの管理目標ならびに適用ある規制要件を考慮した後、社内における資金の借入れおよび貸付けに係る費用および収益を決定する。

信用損失引当金繰入額

PCLは、減損評価の対象とならない損益を通じて公正価値で測定される商品に分類または指定された金融資産（FVTPL）およびその他の包括利益を通じて公正価値で指定される出資証券（FVOCI）を除いて、すべての金融資産の見積信用損失を認識するために計上されている。信用損失引当金（ACL）に関する当グループの会計方針についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。

PCLは、各事業セグメントの業務に関連する適切な費用が全部反映されるように、各事業セグメントの業績に含まれる。

上記の主要な方法に加えて、当グループの管理報告枠組みの以下の要素はまた、当グループの事業セグメントの管理方法および報告方法に影響を与える。

- ・ウェルス・マネジメントの業績には、主にUSウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）につき、当該事業の業績を主として米ドルベースで評価および管理していることから、同通貨による開示が含まれている。
- ・キャピタル・マーケットの業績は、課税優遇措置を受ける一部の収入源（カナダにおいて課税対象となる株主配当および米国の税額控除投資業務）からの収益合計を有効な課税対象額にグロスアップし、所得税引当金から同額を相殺するtebで報告される。コーポレート・サポートにおいて、teb調整の相殺控除を行っている。これらの調整は、課税対象収益および主要な課税優遇対象の収入源における収益および関連比率の比較可能性を向上させることから有益であり、キャピタル・マーケットの事業管理方法を反映していると確信している。teb調整およびteb測定を行った場合、他の金融機関が類似のGAAPを用いて測定し、または同様の方法で調整し開示した金額と、比較できない場合がある。
- ・コーポレート・サポートの業績には、グループの資金調達、証券化、未配分資本に関する純費用および連結調整（tebのグロスアップ金額の消去を含む。）等、組織のために行ったが5つの事業セグメントに割り当てられないグループ規模のすべての活動が含まれている。

主要な業績および非GAAPによる測定

<業績の測定>

普通株主資本利益率

当グループでは、純利益およびROE等、数々の財務測定基準を用いて、連結事業および各事業セグメントの業績を測定および評価している。当グループは、事業に対して投資した資本総額に対する利益率の基準として、連結および各事業セグメントの双方のレベルでROEを用いている。経営陣は、各事業セグメントのROEを、事業セグメントおよび特定の競争相手との比較可能性に影響を与える特定の項目を調整することから、投資および資源配分決定を支える有益な基準であると考えている。

連結ROEは、普通株主に分配可能な純利益を、当期の平均普通株主資本総額で除して算出する。事業セグメントのROEは、普通株主に分配可能な純利益を、当期の平均配分資本で除して算出する。各セグメントにおける平均配分資本には、「資本管理」の項に記載のとおり各種リスクを支えるために必要とされる資本ならびにのれんおよび無形資産に投資した金額が含まれている。

資本の配分においては、必要ある場合には経営陣が定期的に審査および修正した仮定条件、判断および方法を使用する。かかる仮定条件、判断および方法が変更された場合、当グループが報告する事業セグメントのROE情報に重大な影響を与える可能性がある。類似の配分および関連利益の測定に関して情報を開示するその他の企業は、異なる仮定条件、判断および方法を用いている場合がある。

ROEの計算 (表15)

	2020年							2019年
	パーソナル & コマー シャル・ バンキング	ウェルス・ マネジメント	インシュア ランス	インベス ター&トレ ジャー・ サービス	キャピタル・ マーケット サポート	コーポレート・ サポート	合計	合計
(単位：百万カナダドル (%の数値を除く。))								
普通株主に分配可能な 純利益	\$ 5,006	\$ 2,101	\$ 823	\$ 523	\$ 2,698	\$ 13	\$ 11,164	\$ 12,591
平均普通株主資本合計 ⁽¹⁾								
(2)	23,100	16,050	2,300	3,300	23,150	10,900	78,800	75,000
ROE ⁽³⁾	21.7%	13.1%	36.1%	15.9%	11.7%	n.m.	14.2%	16.8%

(1) 平均普通株主資本合計の数値は、四捨五入された数値である。

(2) セグメントの金額の表示は、配分された資本である。

(3) ROEは、四捨五入する前の平均普通株主資本の実質残高に基づいている。

n.m. この欄は意味を持たない。

<非GAAPによる測定>

当グループは、以下に詳述する特定の非GAAP測定基準が、現在の営業成績を鮮明に反映し、当グループの業績に対する経営陣の考え方を的確に表すことができると考えている。かかる測定基準により、2020年10月31日に終了した年度と前年度の財務業績の比較可能性が増す。非GAAP測定基準は、GAAPに基づく標準的な意味を持たないため、他の金融機関が開示する類似の基準と比較できない場合がある。

以下は、当グループが営業成績の評価に用いている非GAAP測定基準に関する記述である。

インシュアランスにおける投資の公正価値の変動を除く効率性比率

当グループの効率性比率は、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動（収益に計上され、PBCAEにおいて大部分が相殺される。）により影響を受ける。

連結非GAAP効率性比率 (表16)

	2020年			2019年		
	除外された項目 保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動			除外された項目 保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動		
(単位：百万カナダドル (%の数値を除く。))	報告額	調整後		報告額	調整後	
収益合計	\$ 47,181	\$ (277)	\$ 46,904	\$ 46,002	\$ (987)	\$ 45,015
利息以外の費用	24,758	-	24,758	24,139	-	24,139
効率性比率	52.5%		52.8%	52.5%		53.6%

パーソナル&コマーシャル・バンキング

パーソナル&コマーシャル・バンキングは、日々の銀行業務、投資および資金調達に関するニーズに即して個人および企業に対し、多種多様な金融商品およびサービスを提供している。当グループは、当グループの事業全般における卓越したクライアント・エクスペリエンス、豊富な商品、深い専門知識およびデジタル・ソリューションという特性に支えられた有意義な関係を顧客と築くことに重点を置いている。



(1) 90日間のアクティブ顧客数を表す。

当グループは、カナディアン・バンキングおよびカリブ海地域&米国バンキングという2つの業務を通じて事業を営んでいる。カナディアン・バンキングは、カナダの国内市場にサービスを提供しており、すべての主要なリテール向け商品および企業向け商品において市場シェア上位（第1位または第2位）を維持している。当グループは、カナダ中に最大の支店ネットワーク、最多のATMおよび最大規模のモバイル販売力を有している。カリブ海地域&米国バンキングでは、目標市場において幅広い金融商品およびサービスを提供している。

カナダでは、他のスケジュールI銀行、独立系信託会社、外国銀行、信用組合、庶民金庫および自動車ローン会社と競争している。

カリブ海地域における競合会社には、リテール顧客および法人顧客ならびに公的機関にサービスを提供している銀行、信託会社および投資運用会社等がある。米国では、米国事業を営む他のカナダの金融機関と主に競争している。

<2020年度の事業環境>

- >2020会計年度上半期は、失業率が低くGDPが緩やかに増加するなど事業環境が有利であったことから収益が堅調に増加し、信用損失が安定するなど、利益が支えられた。しかしながら、会計年度下半期は、COVID-19パンデミックの広範な影響に起因して市況が厳しくなった。
- >COVID-19パンデミックの影響を受けて経済的苦境に陥った顧客を支援するため、当グループは、支払猶予、借換えおよび限度額の引上げ等、個人および企業向けに様々な一時的救済プログラムを開始した。また、支店を改修して推奨される安全対策を講じ、一部の従業員には追加報酬を支払うなど、従業員の安全および福利を重視した。
- >COVID-19パンデミックに対応して、BoCは、指標金利を150bps引き下げた。2020会計年度の低金利環境を受け、当グループの純預貸利ざやは当年度、著しく縮小した。
- >COVID-19の感染拡大封じ込め対策は個人消費を圧迫した。経済が再開され始め、封じ込め対策が緩和されるにつれ、当グループのほとんどの事業においては緩やかな回復が見られた。また封じ込め対策によって旅行が厳しく制限され、クレジットカード購入額および外国為替収益が減少した。
- >2020会計年度を通じて消費が減少し、かつ、現金残高を増やす安心感を顧客が選好したことで、個人預金および企業預金が大幅に増加した。
- >COVID-19パンデミックが発生し、これに伴う封じ込め対策が実施される中、住宅市場は低迷したが、これらの対策が緩和されると、主に繰延需要の影響および低金利環境を反映して急速に回復した。この結果、当会計年度は住宅担保ローンが大幅に増加した。
- >第2会計四半期は市場が著しく変動し、投資商品の残高、特にミューチュアル・ファンドの残高を圧迫した。第3会計四半期までに、ミューチュアル・ファンドの残高はパンデミック前の水準まで回復したとはいえ、ボラティリティは引き続き通常より大きい。
- >与信環境はCOVID-19パンデミックによる影響を受け、当年度は不確実性が増しボラティリティが持続した結果、パフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加した。
- >COVID-19パンデミックの影響により、デジタル・サービスを選好する顧客が増加した。この結果、クライアント・エクスペリエンスを向上し、個別のアドバイスをを行うため、当グループは引き続きデジタル・ソリューションに対する投資を優先した。
- >カリブ海地域においては、COVID-19パンデミックが観光産業ならびに石油およびガス産業に次々変化する影響を与えていることから、様々な地域が課題に見舞われた。
- >米国においては、COVID-19パンデミックの結果、米国Fedが金利を引き下げ、外国旅行が厳しく制限されたことで、利益がマイナスの影響を受けた。

＜戦略的優先事項＞

当グループの戦略	2020年度の進捗状況	2021年度の優先事項
顧客にサービスを提供する方法を変える。	個人顧客および企業顧客向けの完全デジタル化口座開設サービス、リモート・アカウント・オープンを導入し、CEBAに基づき170,000を超える中小企業に対し資金調達の迅速なデジタル処理を可能とすることで、顧客の商品およびサービスの利便性を高めた。	引き続きあらゆるチャネルを通じて時間や場所にとらわれないソリューションを顧客に提供し、モバイルおよびデジタル・サービスを途切れなく顧客の生活に組み込むことで、柔軟性を提供する。 顧客の進化するニーズに応えるために引き続き支店ネットワークを再構築する。
成長を加速させる。	顧客に対し、個別のアドバイスおよび評価された銀行ソリューションを引き続き提供した。 退職者、若年者、新入社員、事業主、富裕層の顧客、および医療従事者等の主要な急成長かつ高価値セグメントを引き続き重視した。 サンコーの一事業であるペトロ・カナダで、顧客が60百万ドルを超えるガソリン料金の割引を受けられるようにするなど、引き続き関係を進展させた。 顧客のカナダ・ブランド支援および国産品購入を奨励することで、カナダ経済を振興するキャンペーン、ポイント・フォー・カナダを開始した。 地域社会の地元企業を支援する全国運動であるカナダ・ユナイテッド、および中小企業に対して特定の支出をカバーする交付金を提供するカナダ・ユナイテッド中小企業救済基金を導入した。 モーゲージに対する相互アプローチの最適化を引き続き重視し、市場トップクラスの獲得および保有を実現した。 業界特有の信用戦略を通じて引き続き商業市場シェアを獲得した。 Wello社と提携し、企業が従業員に対してバーチャル医療サポートを提供できるようにした。	新たな関係やより深い関係を構築し、業界トップとなる取引高の伸びを実現するために、主要な急成長顧客セグメントの取り込みおよびアドバイザーの能力向上に重点を置く。 引き続き顧客にとっての価値を高めるため、重要な関係を構築する。

デジタル・ソリューションを素早く顧客に提供する。	受賞歴のあるモバイル・アプリを通じて、引き続きトップクラスのデジタル能力および機能を提供した。 人工知能（AI）によるデジタルガバナメントの身元確認ソリューションを導入したカナダ初の銀行となり、より安全な身元確認、より強力な不正防止、およびより迅速な口座開設サービスを顧客に提供した。 無料のリアルタイム・ストリーミングによる相場表示を行い、顧客が当グループのRBC®モバイル・アプリから取引できるように再構築した、ダイレクト・インベスティング・エクスペリエンスを導入した。 企業が複数の支払請求を一度に送信できるサブスクリプション・サービス、パルク・リクエスト・マネーを初めて市場に投入した。 AIを利用して質問に回答し、顧客にアプリをナビゲートし、イートランスファーのキャンセル、支払明細のチェックおよび消費傾向の理解等、日常的な金融タスクを簡素化する、テキストおよび音声によるチャットボット、アスク・NOMI™機能を導入した。 顧客とアドバイザーをデジタルで繋げるためのオンライン・アドバイス・プラットフォームであるMyAdvisor®を引き続き展開し、2017年度の導入以来、個別の投資計画を稼働させた顧客は200万人を超えた。	日々の銀行業務の簡素化およびデジタル化を継続する一方で、クライアント・エクスペリエンスを改善するためにより個別的な判断を活用する。 中小企業および商業顧客のデジタル・サービスを向上させ、当グループと取引しやすくする。
より俊敏で効率的な銀行となるために刷新する。	顧客および従業員のためにエクスペリエンスを簡素化、デジタル化および自動化し、かつ、従業員が適切な専門アドバイスを提供できるようにするプログラムに対する投資を加速させた。 機動性をさらに高め能力を改変するほか、顧客サービスを高めるため、従業員のデジタル能力に対する投資を継続した。	新たなツールや性能へ投資するとともに、社内手続を簡素化および合理化する方法およびクライアント・エクスペリエンスを積極的に追求する。

カリブ海地域	引き続き収益性を高めながらクライアント・エクスペリエンスを転換し、業務を簡素化し、COVID-19パンデミックならびに顧客および従業員に対するその影響を戦略的に乗り切った。 富裕世帯ならびに商業および企業顧客を含む主要な急成長セグメントを引き続き重視した。	収益拡大を加速し、クライアント・エクスペリエンスを転換し、業務を簡素化し、従業員が成功できるようにすることで、トップクラスのデジタル対応リレーションシップ・バンクとなることを引き続き重視する。
米国	年度初めは引き続き顧客が大幅に増加し、COVID-19封じ込め対策に伴う国境閉鎖および旅行制限を考慮して顧客サポートおよび関与を重視した。 生産性を向上させ、デジタル対応を進めたクライアント・エクスペリエンスを提供するため、強化型不動産貸出プラットフォームを実施した。	助言サービスおよびパートナーシップを拡大し、米国におけるカナダ人向けの不動産所有サービスを充実させる。 米国において支払および回収サービスを必要とするカナダ企業を支援するため、中小企業向けサービスを拡充する。 効率性、拡張性および品質保証を向上させるため、業務プロセスのデジタル化をさらに進める。 米国におけるクライアント・エクスペリエンスを向上させ預金獲得能力を強化するため、最新のデジタル・バンキング・プラットフォームを開発する。

<見通し>

COVID-19パンデミックが世界経済に与える影響の範囲および期間は、現在の第二波の深刻度、および一部の地域における封じ込め対策の再開（程度の差はある。）を含め、依然として不確実である。また、中央銀行は、当面の間低金利を継続する予定であることを示唆している。これは、個人消費、GDPおよび失業率に対する圧力と併せて、2021会計年度の営業成績に引き続き影響を与えることが予測される。当グループは、業界トップとなる取引高の伸び、業務効率化に向けた取り組みおよびデジタル対応のリレーションシップ・バンクになるというビジョンを実現するためのチャネル変革を、引き続き追求する。

カリブ海地域においては、COVID-19パンデミックの影響が変化を続けているため旅行および観光が控えられる可能性が高く、また低金利環境の影響などから、厳しい状況が続く見込みである。当グループは引き続き、業務効率を向上し、顧客に付加価値を与えながら、ターゲット市場における成長戦略に重点を置く。

経済の概観および展望についての詳細は、「経済、市場および規制の概観および展望」の項を参照のこと。

パーソナル&コマーシャル・バンキング

(表17)

(単位：百万カナダドル(％の数値および別段の記載がある場合を除く。))

	2020年	2019年
受取利息純額	\$ 12,568	\$ 12,653
利息以外の収益	5,163	5,212
収益合計	17,731	17,865
正常な資産に係るPCL	1,818	109
減損金融資産に係るPCL	1,073	1,339
PCL	2,891	1,448
利息以外の費用	7,946	7,768
税引前利益	6,894	8,649
当期純利益	\$ 5,087	\$ 6,402
業務別収益		
カナディアン・バンキング	\$ 16,838	\$ 16,894
パーソナル・バンキング	12,703	12,843
ビジネス・バンキング	4,135	4,051
カリブ海地域&米国バンキング	893	971
主要な比率		
ROE	21.7%	27.2%
NIM	2.67%	2.84%
効率性比率	44.8%	43.5%
営業レバレッジ	(3.1)%	2.4%
主要な貸借対照表およびその他の情報		
平均総資産	\$ 494,600	\$ 466,200
平均総収益資産(純額)	470,200	445,200
貸出金および手形引受けの平均(純額)	473,400	447,100
平均預金	447,300	393,200
その他の情報		
AUA ⁽¹⁾⁽²⁾	\$ 292,800	\$ 283,800
平均AUA	287,600	276,100
AUM ⁽²⁾	5,300	5,000
従業員数(FTE)	35,964	35,467
信用情報		
純貸出金および純手形引受けの平均に対する減損貸出金に係るPCLの割合		
合	0.23%	0.30%
その他主要な情報—カナディアン・バンキング		
純利益	\$ 5,077	\$ 6,168
NIM	2.64%	2.79%
効率性比率	43.2%	41.8%
営業レバレッジ	(3.3)%	2.0%

(1) AUAは、2020年10月31日現在の証券化された住宅担保ローンおよびクレジットカード・ローン、それぞれ156億ドルおよび67億ドル(2019年10月31日現在は155億ドルおよび81億ドル)を含む。

(2) 年度末の現物残高を示している。

<財務業績>

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、前年度比1,315百万ドル減すなわち21%減となった。これは主として、主にパフォーミング・ローンに対するCOVID-19パンデミックの影響およびスプレッドの縮小に起因するPCLの増加によるものである。COVID-19パンデミックに関する費用の純増（追加の従業員関連費用を含む。）も、この減少に寄与した。これらの要素は、カナディアン・バンキングにおいて平均取引高が10%増加したことで一部相殺された。

収益合計は、前年度比134百万ドル減すなわち1%減となった。これは主として、主に金利の低下および競争価格圧力の影響を反映したスプレッドの縮小によるものである。主として購入額の減少に伴うカード・サービス収益の減少も、この減少に寄与した。これらの要素は、カナディアン・バンキングにおける貸出金の平均取引高の6%の増加および預金の平均取引高の14%の増加、ならびに有価証券ブローカー手数料の増加によって、一部相殺された。

純預貸利ざや17bps低下した。これは主として、金利の低下および競争価格圧力の影響によるものである。

PCLは、1,443百万ドル増となった。これは、カナディアン・バンキングおよびカリビアン・バンキングのポートフォリオにおいて、COVID-19パンデミックの影響によりパフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加したことを反映しているが、カナディアン・バンキング・ポートフォリオにおける貸倒引当金繰入額の減少により一部相殺された。詳細は、「信用リスク」の「信用の質の実績」の項を参照のこと。

利息以外の費用は、178百万ドル増すなわち2%増となった。これは主として、従業員関連費用の増加（COVID-19パンデミック中に接客業務を行う者を中心とした一部の従業員に対する追加報酬を含む。）ならびにテクノロジー費用（デジタル・イニシアチブを含む。）および関連費用の増加によるものである。COVID-19関連のその他の増分費用も、この増加に寄与した。これらの要素は、裁量支出の減少により一部相殺された。

貸出金および手形引受けの平均は、モーゲージおよび企業向けローンの増加により、260億ドル増すなわち6%増となった。

平均預金残高は、企業預金残高および個人預金残高の増加を反映して540億ドル増すなわち14%増となった。

事業ライン別概観

カナダにおいて、当グループは、パーソナル・バンキングおよびビジネス・バンキングの2つの事業ラインによって業務を行っている。

パーソナル・バンキング

パーソナル・バンキングでは、多種多様な融資、投資商品およびサービスを通じて、カナダの顧客の人生のあらゆるステージにおけるニーズに応えることに重点を置いたあらゆる種類の商品を提供している。具体的には、住宅担保ローン、個人向けローン、当座預金および普通預金口座、プライベート・バンキング、間接融資（自動車ローンを含む。）、ミューチュアル・ファンドおよび自己主導型証券口座、保証付投資証券（GIC）、クレジットカードならびに支払商品およびソリューション等である。

当グループは、すべての主要な個人向け銀行商品においてカナダ第1位または第2位の市場シェアを誇り、リテール銀行ネットワークはカナダ最大で1,201の支店と4,182台のATMを有している。

<財務業績>

収益合計は、前年度比140百万ドル減すなわち1%減となった。これは主として、金利の低下および価格競争圧力の影響によるスプレッドの縮小、ならびに主に購入額の減少によるカード・サービス収益の減少を反映している。サービス料の減少および外国為替収益の減少も、この減少に寄与した。これらの要素は、住宅担保ローンおよび預金の平均残高の増加、有価証券ブローカー手数料の増加、ならびに平均残高の増加によるミューチュアル・ファンドの販売手数料の増加によって、一部相殺された。

住宅担保ローン（平均）は、前年度比9%増となったが、これは主に住宅市場が堅調でモーゲージ・オリジネーションが好調となったことによるものである。

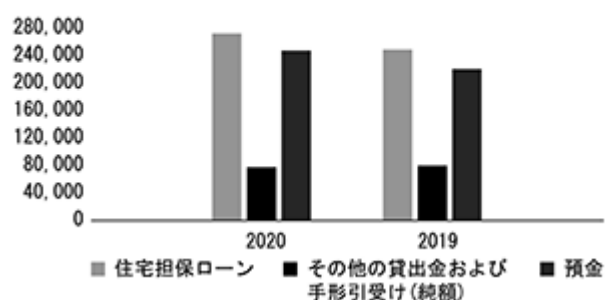
平均預金残高は、前年度比12%増となった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響に関連して個人消費が減少し、現金残高を増やす安心感を顧客が選好したことによる。

主要なハイライト**(表18)**

(単位：百万カナダドル（数を除く。）)	2020年	2019年
収益合計	\$ 12,703	\$ 12,843
その他の情報		
住宅担保ローン（平均）	\$ 273,200	\$ 249,600
その他の貸出金および手形引受けの平均（純額）	77,800	79,800
平均預金残高	248,100	221,400
クレジットカード残高（平均）	18,100	19,100
クレジットカード購入額	118,100	125,800
支店のミューチュアル・ファンド残高 ⁽¹⁾	166,000	162,000
支店のミューチュアル・ファンド残高（平均）	163,600	155,300
AUA—自己主導型証券 ⁽¹⁾	96,400	89,500
10月31日現在の数：		
支店	1,201	1,201
ATM	4,182	4,240

(1) 年度末の現物残高を示している。

住宅担保ローン、貸出金および預金 (単位：百万カナダドル)



ビジネス・バンキング

ビジネス・バンキングでは、カナダの中小企業および商業を営む顧客に対して、多種多様なローン、リース、預金、投資、外国為替、現金管理、自動車ディーラー融資、取引商品およびサービスを提供している。業界随一の関連マネージャーおよび専門家チームの一員として、クライアント・エクスペリエンスおよび信頼できるアドバイスを提供する真摯な姿勢により、企業向け貸出金および預金の市場においてはトップクラスのシェアを占めている。

<財務業績>

収益合計は、前年度比84百万ドル増すなわち2%増となった。これは主として、平均取引高の増加および与信手数料の増加を反映している。これらの要因は、主として低金利、サービス料の減少および外国為替収益の減少の影響により引き起こされた、スプレッドの縮小により一部相殺された。

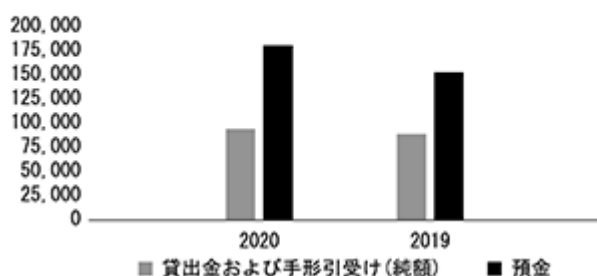
貸出金および手形引受けの平均は6%増となった。これは主として、既存顧客関係の深化によるものである。平均預金残高は、18%増となった。これは主として、当グループの顧客がCOVID-19パンデミックの渦中で現金残高の増加を維持していることによるものである。

主要なハイライト

(表19)

(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計	\$ 4,135	\$ 4,051
その他の情報 (平均)		
貸出金および手形引受け (純額)	\$ 94,600	\$ 89,400
預金	180,800	153,400

貸出金および手形引受けの平均ならびに平均預金残高 (単位：百万カナダドル)



カリブ海地域&米国バンキング

カリビアン・バンキングの業務は、広範な支店、ATM、オンラインおよびモバイル・バンキングのネットワークを通じ、包括的な銀行商品およびサービスならびに国際金融および貿易振興サービスを提供している。

当行の米国バンキング事業は、米国内全50州のカナダのリテール顧客および中小企業顧客のバンキング・ニーズに応えている。

<財務業績>

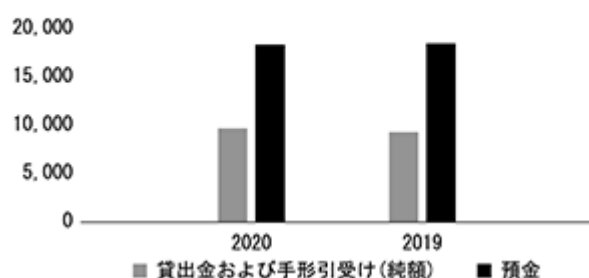
収益合計は、前年度比78百万ドル減すなわち8%減であった。これは主として、低金利の影響により引き起こされたスプレッドの縮小によるものであるが、平均取引高の1%の増加により、一部相殺された。

貸出金および手形引受けの平均は、米国バンキングのモーゲージの増加により4%増であり、平均預金は1%減であった。

主要なハイライト	(表20)	
(単位：百万カナダドル(数および%の数値を除く。))	2020年	2019年
収益合計	\$ 893	\$ 971
その他の情報		
NIM	3.46%	4.13%
貸出金および手形引受けの平均(純額)	\$ 9,700	\$ 9,300
平均預金残高	18,400	18,500
AUA ⁽¹⁾	5,900	6,700
平均AUA	6,400	7,100
AUM ⁽¹⁾	5,200	4,900
10月31日現在の数：		
支店	51	52
ATM	298	287

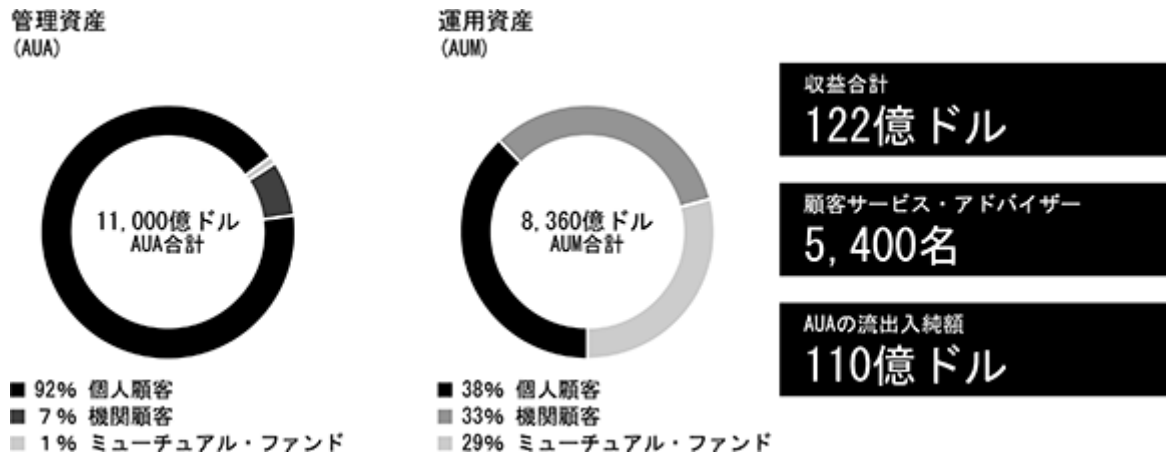
(1) 年度末の現物残高を示している。

貸出金平均および平均預金残高
(単位：百万カナダドル)



ウェルス・マネジメント

ウェルス・マネジメントは、主要な金融センターの顧客にサービスを提供するグローバルな事業である。当グループは、HNWおよびUHNWの個人顧客および機関顧客の財務目標実現を支援するために、アドバイスを基本とする包括的なソリューションおよび戦略によりこれらの顧客にサービスを提供している。



当グループの事業ラインは、カナディアン・ウェルス・マネジメント、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）、グローバル・アセット・マネジメント（GAM）およびインターナショナル・ウェルス・マネジメントを含む。

- ・カナディアン・ウェルス・マネジメントは、HNWおよびUHNWの顧客にサービスを提供しており、AUAではカナダ最大のフルサービスの資産管理・運用業務である。
- ・USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）にも、プライベート顧客グループ（PCG）ならびに決済および証券保管業務（C&C）が含まれる。当グループのPCGは、アドバイザー数では米国第7位のフルサービス資産管理・運用会社であり、シティ・ナショナルは、HNWおよびUHNWの顧客ならびに商業顧客にサービスを提供する、米国における最高のプライベート・バンクおよびコマーシャル・バンクである。
- ・GAMは、AUM⁽¹⁾ではカナダ最大のリテール向けのファンド企業であり、大手の資産管理・運用機関でもある。
- ・インターナショナル・ウェルス・マネジメントは、主として英国、チャネル諸島およびアジアの主要な金融センターを通じてHNWおよびUHNWの顧客にサービスを提供している。

⁽¹⁾ 出典：カナダ投資信託協会の2020年9月30日付の四半期ごとの報告。

<2020年度の事業環境>

- >当会計年度の利益は、2019暦年下半期に米国Fedが利下げを行ったこと、ならびに2020暦年上半期にCOVID-19パンデミックによる世界的影響に関連して市場ボラティリティが高まり、米国Fedおよびその他の中央銀行がさらなる利下げを行ったことにより、マイナスの影響を受けた。
- >COVID-19パンデミックの影響を受けて経済的苦境に陥った顧客を支援するため、当グループは、支払猶予等、企業向けに一時的救済プログラムを開始した。
- >厳しい市況にもかかわらず当グループの中核事業は好調であり、シティ・ナショナルの取引高は2桁増となり、GAMの取引高は好調で、仲介業務においては手数料の発生する顧客資産の純キャッシュ・フローがプラスとなった。これらの結果は、当グループのアドバイスの質、ソリューションの幅、および当グループのブランドに対する顧客の信頼に牽引された、当グループの事業の強靱性を反映している。
- >利ざやの圧迫、デジタルおよびデータ能力の継続的向上、規制当局による監視の強化、人口動態の変化、ならびに競争の激化など、資産管理・運用業界にとって厳しい構造的傾向が続いた。
- >人材および技術に対する投資を継続したことで、当グループは、COVID-19パンデミックの中、市場ボラティリティおよび経済の不安定性に対処し、かつ、顧客サービスを途切れず提供することができた。また、テクノロジーに対する投資を活用したことで、従業員がバーチャルな環境で効率的に働くことができ、従業員の安全および福利を支えることができた。
- >与信環境がCOVID-19パンデミックによる影響を受け、これにより当会計年度において不確実性が増しボラティリティが持続した結果、パフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加した。

＜戦略的優先事項＞

当グループの戦略	2020年度の進捗状況	2021年度の優先事項
カナダでは、HNWおよびUHNW顧客にとって最高のサービス・プロバイダーになる。	フルサービスのプライベート・ウェルズ事業で業界のリーダーとしての地位を強化した。 世代間および事業間の資産移転についてのアドバイザーの研修を含む、総合的な財産計画を引き続き重視した。 ウェルズ・マネジメントの顧客とのバンキング・リレーションシップを深めるRBC®プレミア・バンキングの提供に引き続き重点を置いた。 新規口座および既存口座向けのeSign機能の開始等、顧客満足度およびアドバイザーの生産性を高めるためデジタルおよびデータ能力を強化した。	当グループの人材優位性を強化するため、引き続き一流の新規アドバイザーを保持および誘致する。 アドバイザー顧客間の豊かなコミュニケーションおよび説得力のあるデジタル・エクスペリエンスを通じて、差別化したクライアント・エクスペリエンスを提供する。 他の事業セグメントとの複合的な強みを活かすことで、顧客との関係を広げ、深める。 効率性およびアドバイザーの生産性を高めることで事業を簡素化および合理化するため、デジタル化ソリューションに引き続き投資する。
米国では、当グループの主要市場において最大手のプライベート・バンクおよびコマーシャル・バンクならびに資産管理・運用会社になる。	大規模な人材募集および当グループのテクノロジー変革の確実な実行を含む、USウェルズ・マネジメント事業を拡大するために必要な主要分野に投資した。 シティ・ナショナルは急成長するコア・バンキング事業を引き続き重視し、ニューヨークおよびワシントンD.C.地域を含む優先市場に新たな拠点を開設し、エンターテインメント・エコシステムにおいて拡大を続け、デジタル能力を向上させ、収益向上プログラムおよび効率化プログラムに投資した。	ターゲットとするHNW、UHNW、ミドル・マーケットおよび企業向け銀行業務の各セグメントに卓越したクライアント・エクスペリエンスを引き続き提供する。 米国での拡大をさらに加速させるためにUSウェルズ・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）およびキャピタル・マーケットの双方の強みを活かす。 裕福な顧客およびHNW顧客向けのバンキング・サービスの成長を重視する。 クライアント・エクスペリエンスを向上し業務効率を上げるため、デジタル能力をさらに構築する。
世界の主要金融センターでは、最も信頼される地域のプライベート・バンクになる。	特別なクライアント・エクスペリエンスを提供する一方、グローバルな強みを活かすことで販売能力を強化した。 世界的能力を活かしてクライアント・エクスペリエンスの差別化を重視した。	ターゲット市場における市場シェア拡大を重視する。 顧客サービスを向上するため、引き続きグローバルな強みを活かしていく。 引き続き特別なクライアント・エクスペリエンスを提供する。 引き続き事業の有効性を向上し、人材能力を伸ばす。

資産管理・運用では、世界の機関顧客および北米のリテール顧客に注力した最大手の多角的な資産管理・運用会社になる。	カナダのミューチュアル・ファンド運用資産では市場シェアNo.1を維持した。 戦略的提携RBC®iSharesはカナダの上場投資信託において第1位の市場シェアを維持し、引き続き売上高の増加を加速させた。 ポートフォリオを横断する気候シナリオ分析の実施および気候変動イニシアチブ「Climate Action 100+」への参加等、GAM全体の気候変動に対するアプローチを発表した。	ターゲットとする販売地域において進化する顧客のニーズに応えるため、引き続き投資能力を強化する。 グループおよびGAMのグローバル規模、資源およびインフラをよりうまく活用するため、資産管理・運用の業務モデルの統一性を高める。

<見通し>

COVID-19パンデミックが世界経済に与える影響の範囲および期間は、現在の第二波の深刻度、および一部の地域における封じ込め対策の再開（程度の差はある。）を含め、依然として不確実である。また、中央銀行は、低金利を継続する予定であることを示唆している。

当グループは事業が多角化しているため、COVID-19パンデミックの影響からの回復期間を十分に持ちこたえることができる。当グループの戦略は変わらず、総合的な目標に基づくアドバイスを行って他にはないクライアント・エクスペリエンスを提供すること、一流のアドバイザーを誘致および保持すること、ならびにグループ全体で協力して顧客に対して能力をフルに発揮することを引き続き重視している。当グループは、今後も当グループのブランド、評判および強固な財務状態を活かしてカナダにおける主導的地位を強化し、世界のHNWおよびUHNW顧客セグメントにおいて市場シェアを伸ばしていく。また、COVID-19パンデミックにより急な在宅勤務措置が取られたことで、デジタル化の重要性が強調され、またクライアント・エクスペリエンスおよびアドバイザー・エクスペリエンスを向上させ、業務効率を高めるため、デジタル能力に絶えず投資することが必要になった。

経済全般の概観および見通しについての詳細は、「経済、市場および規制の概観および展望」の項を参照のこと。

ウェルス・マネジメント (表21)

(単位：百万カナダドル (数、%の数値および別段の記載がある場合を除く。))

	2020年	2019年
受取利息純額	\$ 2,860	\$ 2,993
利息以外の収益	9,360	9,150
収益合計	12,220	12,143
正常な資産に係るPCL	157	37
減損金融資産に係るPCL	57	80
PCL	214	117
利息以外の費用	9,212	8,813
税引前利益	2,794	3,213
当期純利益	\$ 2,155	\$ 2,550
業務別収益		
カナディアン・ウェルス・マネジメント	\$ 3,319	\$ 3,294
USウェルス・マネジメント (シティ・ナショナルを含む。)	6,206	6,112
USウェルス・マネジメント (シティ・ナショナルを含む。)		
(単位：百万米ドル)	4,624	4,601
グローバル・アセット・マネジメント	2,308	2,361
インターナショナル・ウェルス・マネジメント	387	376
主要な比率		
ROE	13.1%	17.4%
NIM	2.79%	3.55%
税引前利ざや ⁽¹⁾	22.9%	26.5%
主要な貸借対照表情報		
平均総資産	\$ 119,500	\$ 98,500
平均総収益資産 (純額)	102,600	84,400
貸出金および手形引受けの平均 (純額)	76,700	63,600
平均預金	122,000	95,800
その他の情報		
AUA ⁽²⁾⁽³⁾	\$ 1,100,000	\$ 1,062,200
AUM ⁽²⁾	836,400	755,700
平均AUA	1,082,000	1,027,400
平均AUM	801,500	717,500
貸出金および手形引受けの平均 (純額) に対する減損貸出金に係るPCLの割合	0.07%	0.13%
従業員数 (FTE)	18,978	18,613
アドバイザー数 ⁽⁴⁾	5,428	5,296

米ドル換算、英ポンド換算およびユーロ換算が損益計算書上の主要項目に与えた推定影響額

2020年度と

(単位：百万カナダドル (%の数値を除く。))

2019年度との比較

増加 (減少) :

収益合計	\$ 73
PCL	5
利息以外の費用	62
当期純利益	6
1.00カナダドルの平均米ドル換算額の変動率	(1)%
1.00カナダドルの平均英ポンド換算額の変動率	(2)%
1.00カナダドルの平均ユーロ換算額の変動率	(2)%

- (1) 税引前利ざやは、収益合計に対する税引前利益の割合である。
- (2) 年度末の現物残高を示している。
- (3) カナディアン・ウェルス・マネジメント、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）およびインターナショナル・ウェルス・マネジメントに加え、数値には、GAMに関連する6,100百万ドル（2019年度は6,000百万ドル）のAUAが含まれる。
- (4) すべての資産管理・運用業務における顧客サービス・アドバイザーを示す。

顧客資産—AUA		(表22)	
(単位：百万カナダドル)		2020年	2019年
AUA期首残高	\$	1,062,200	\$ 970,500
資産流入額		356,800	315,500
資産流出額		(345,400)	(293,400)
資産流出入純額合計	\$	11,400	\$ 22,100
市場の影響		17,500	72,100
取得／処分		-	(2,200)
外国為替		8,900	(300)
市場、取得／処分および外国為替の影響合計	\$	26,400	\$ 69,600
AUA期末残高	\$	1,100,000	\$ 1,062,200

顧客資産—AUM						(表23)
(単位：百万カナダドル)	2020年					2019年
	マネー・ マーケット	債券	株式	マルチ・ アセット および その他	合計	合計
AUM期首残高	\$ 29,900	\$ 204,800	\$ 89,900	\$ 431,100	\$ 755,700	\$ 664,900
機関投資家資産流入額	38,600	49,400	9,900	8,800	106,700	111,000
機関投資家資産流出額	(21,000)	(46,900)	(3,300)	(9,100)	(80,300)	(105,100)
個人資産流出入額（純額）	1,600	5,300	(800)	25,200	31,300	31,000
資産流出入純額合計	\$ 19,200	\$ 7,800	\$ 5,800	\$ 24,900	\$ 57,700	\$ 36,900
市場の影響	200	10,300	-	7,200	17,700	59,700
取得／処分	-	-	-	700	700	(5,500)
外国為替	(500)	2,500	100	2,500	4,600	(300)
市場、取得／処分および外国 為替の影響合計	\$ (300)	\$ 12,800	\$ 100	\$ 10,400	\$ 23,000	\$ 53,900
AUM期末残高	\$ 48,800	\$ 225,400	\$ 95,800	\$ 466,400	\$ 836,400	\$ 755,700

AUAの地理別および資産区分別の構成 (表24)

(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
カナダ⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 25,900	\$ 23,200
債券	32,000	36,300
株式	68,800	90,500
マルチ・アセットおよびその他	288,800	255,800
カナダ合計	\$ 415,500	\$ 405,800
米国⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 39,700	\$ 26,100
債券	107,300	114,500
株式	195,400	189,600
マルチ・アセットおよびその他	241,400	213,100
米国合計	\$ 583,800	\$ 543,300
その他の国々⁽¹⁾		
マネー・マーケット	\$ 17,400	\$ 17,700
債券	10,100	13,500
株式	38,800	39,500
マルチ・アセットおよびその他	34,400	42,400
各国合計	\$ 100,700	\$ 113,100
AUA合計	\$ 1,100,000	\$ 1,062,200

(1) 地域情報は当グループの顧客がサービスを受けている所在地に基づく。

<財務業績>

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、前年度比395百万ドル減すなわち15%減となった。これは主として、前年度におけるブルーベイの民間融資事業売却による利益、受取利息純額の減少および従業員関連費用の増加によるものである。スweep口座からの利益の減少も、この減少に寄与した。これらの要素は、手数料ベースの平均顧客資産の増加による利益の増加（これに伴う変動報酬金を除く。）により一部相殺された。

収益合計は、77百万ドル増すなわち1%増となった。これは主として、平均貸出残高の21%増、ならびに主に純売上高および相場上昇を反映した手数料ベースの平均顧客資産の増加によるものである。顧客活動および外国為替換算の影響によって取引収益が増加したことも、この増加に寄与した。これらの要素は、金利低下が受取利息純額およびスweep口座からの利益に与えた影響により、一部相殺された。前年度には、ブルーベイの民間融資事業売却による151百万ドルの利益、およびカナディアン・ウェルス・マネジメントにおける会計上の有利な修正の影響も含まれていた。

PCLは、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）を中心に97百万ドル増すなわち83%増となった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響によりパフォーマンス・ローンに係る引当金繰入額が増加したことを反映している。詳細は、「信用リスク」の「信用の質の実績」の項を参照のこと。

利息以外の費用は、399百万ドル増すなわち5%増となった。これは主として、手数料収益の増加に比例した変動報酬金の増加、および事業拡大に伴う従業員関連費用の増加によるものである。テクノロジー費用および関連費用の増加、ならびに外国為替換算の影響も、この増加に寄与した。

AUAは、主として相場上昇および純売上高により、380億ドル増すなわち4%増となった。外貨換算の影響も、この増加に寄与した。

AUMは、主として純売上高および相場上昇により、810億ドル増すなわち11%増となった。

事業ライン別概観

カナディアン・ウェルス・マネジメント

カナディアン・ウェルス・マネジメントには、カナダにおける総合資産管理・運用助言業務（管理資産ではカナダ最大規模）が含まれ、1,850人を超える投資アドバイザーを通じて、HNWおよびUHNWの顧客に注力したアドバイスを基本とする包括的な金融サービスを提供している。さらに、カナダに配置した100人超の投資カウンセラーおよび100人超の信託の専門家を通じ、顧客に対して、投資一任運用ならびに不動産業務および信託業務を提供している。

当グループは、国内の銀行および信託会社、投資顧問会社、銀行系フルサービス・ブローカーおよび専門ブローカー、ミューチュアル・ファンド会社ならびに世界のプライベート・バンクと競合している。カナダにおいては、今後も銀行系の資産管理・運用会社が主要プレーヤーとなる。

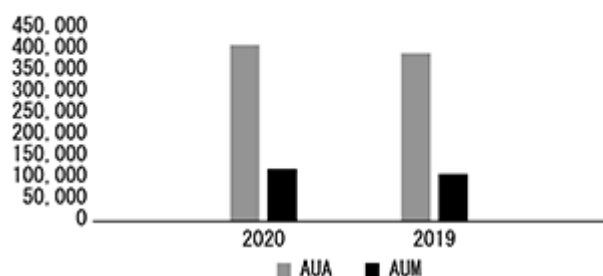
<財務業績>

収益は、前年度比25百万ドル増すなわち1%増となった。これは主として、純売上高および相場上昇を反映する手数料ベースの平均顧客資産の増加による。これは、受取利息純額の減少を招いた低金利および前年度に有利な会計調整が行われた影響により一部相殺された。

主要なハイライト	(表25)			
(単位：百万カナダドル)	2020年		2019年	
収益合計	\$	3,319	\$	3,294
その他の情報				
貸出金および手形引受けの平均（純額）	\$	3,900	\$	3,700
平均預金残高		21,900		17,100
AUA ⁽¹⁾		416,700		407,000
AUM ⁽¹⁾		125,700		116,700
平均AUA		410,300		391,100
平均AUM		121,600		109,400

(1) 年度末の現物残高を示している。

平均AUAおよび平均AUM(単位: 百万カナダドル)



USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）

USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）には、PCGおよびC&C事業も含まれる。PCGは、2,000人を超えるフィナンシャル・アドバイザーを擁する、アドバイザー数では米国第7位のフルサービス資産管理・運用会社である。C&C事業は、中小規模の独立ブローカーディーラーおよび登録投資顧問会社に対して、決済および実行サービスを提供している。シティ・ナショナルは、裕福な個人、事業主、専門家、それらの事業および家族に、包括的な金融ソリューションを提供し、ハイタッチ・サービス・モデル、先を見越した助言および金融ソリューションを通じて、第一級のバンキング・サービスおよび金融サービスを提供する。シティ・ナショナルは、貸出、預金、資金管理、設備融資等、ウェルス・マネジメントならびに幅広い商品およびサービスを提供する。米国では、細分化され、非常に競争が激しい業界の中で業務を営んでいる。競争相手には、HNWおよびUHNWの個人、事業主およびその事業にサービスを提供するその他のブローカーディーラー、商業銀行およびその他の金融機関等がある。

<財務業績>

収益は、前年度比94百万ドル増すなわち2%増となった。米ドル建ての収益は、23百万ドル増となった。これは主として、主に純売上高および相場上昇を反映して、貸出金の平均が22%増となったことおよび手数料ベースの平均顧客資産の増加によるものである。顧客活動による取引収益の増加もまた、増加に寄与した。これらの要因は、受取利息純額およびスweep口座からの利益に係る低金利により一部相殺された。

スプレッドの縮小は、主として低金利の影響によるものであり、前年度比72bpsのNIM圧縮となった。

主要なハイライト

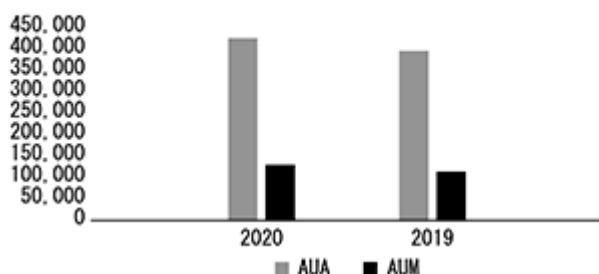
(表26)

(単位：百万カナダドル（別段の記載がある場合を除く。）)

	2020年	2019年
収益合計	\$ 6,206	\$ 6,112
その他の情報（単位：百万米ドル）		
収益合計	\$ 4,624	\$ 4,601
NIM	2.65%	3.37%
平均収益資産（純額）	\$ 68,900	\$ 56,100
貸出金、信用保証状および信用状の平均（純額）	51,600	42,400
平均預金残高	64,700	50,200
AUA ⁽¹⁾	438,200	412,600
AUM ⁽¹⁾	137,300	123,700
平均AUA	424,600	393,900
平均AUM	130,200	112,800

(1) 年度末の現物残高を示している。

平均AUAおよび平均AUM(単位：百万米ドル)



グローバル・アセット・マネジメント

GAMは、カナダ、英国、米国、ヨーロッパおよびアジアにおける個人投資家および機関投資家に対して、国際投資運用サービスを提供している。当グループは、ミューチュアル・ファンド、プール・ファンド、プライベート・ファンド、手数料ベースの口座および個別管理ポートフォリオを通じて、様々な投資運用サービスを提供している。当グループの投資商品は、銀行支店の広範なネットワーク、自己主導型の総合資産管理・運用助言業務、独立した第三者であるアドバイザーおよびプライベート・バンクを通じて、または個人顧客に直接販売される。当グループはまた、年金、保険会社、企業および養老基金を含む機関投資家に直接投資運用サービスを提供している。

当グループは、AUMではカナダ最大のリテール向けのファンド企業であり、大手の資産管理・運用機関でもある。カナダにおいては、銀行、保険会社および資産管理・運用会社と競合している。カナダのファンド運用業界は大規模で成熟しているものの、依然として比較的細分化された業界である。

米国においては、当グループのアセット・マネジメント業務は、主として機関投資家に対して投資運用ソリューションおよびサービスを提供しており、独立系の資産管理・運用会社ならびに国内および国際銀行ならびに保険会社の資産管理・運用部門と競合している。

国際的には、当グループはブルーベイおよびRBCグローバル・アセット・マネジメント®の世界的機能を通じて機関に対する投資運用ソリューションを提供し、RBCウェルス・マネジメント®を含むプライベート・バンクを通じてHNWおよびUHNWの投資家に対する投資運用ソリューションを提供している。当グループは、国際銀行の資産管理・運用部門ならびに当グループが業務を行う地域における国内および地域の資産管理・運用会社と競合している。

<財務業績>

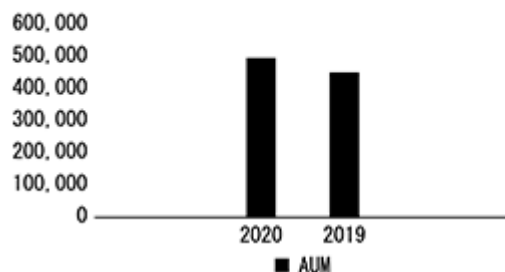
収益は、前年度比53百万ドル減すなわち2%減となった。これは主として、前年度においてブルーベイの民間融資事業の売却益が151百万ドルとなったことによるものであったが、相場上昇および純売上高を反映する手数料ベースの平均顧客資産の増加により一部相殺された。

主要なハイライト	(表27)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計	\$ 2,308	\$ 2,361
その他の情報		
カナダ長期ミューチュアル・ファンドの売上高純額 ⁽¹⁾	\$ 7,710	\$ 8,263
カナダマネー・マーケット・ミューチュアル・ファンドの 売上高（償還高）純額 ⁽¹⁾	1,323	552
AUM ⁽²⁾	518,500	467,200
平均AUM	496,000	449,700

(1) カナダの投資ファンド協会に過去に報告されたとおり、カナディアンGAM事業全域にわたるすべての目論見書ベースのミューチュアル・ファンドを含む。

(2) 年度末の現物残高を示している。

平均AUM(単位：百万カナダドル)



インターナショナル・ウェルス・マネジメント

インターナショナル・ウェルス・マネジメントには、英国、チャネル諸島およびアジアにおける事業が含まれる。当グループは、主要な金融センターのHNW、UNHWおよび法人顧客に対して、カスタマイズした総合的な信託、銀行、信用および投資サービスを提供している。インターナショナル・ウェルス・マネジメント事業の競争相手は、世界の資産管理・運用会社、旧来のオフショア・プライベート・バンクおよび国内の資産管理・運用会社を含む。

<財務業績>

収益は、主として顧客取引活動の増加、外国為替換算および手数料ベースの収益の増加の影響により前年度比11百万ドル増すなわち3%増となった。これらの要因は、主として金利の低下の影響による受取利息純額の減少により一部相殺された。

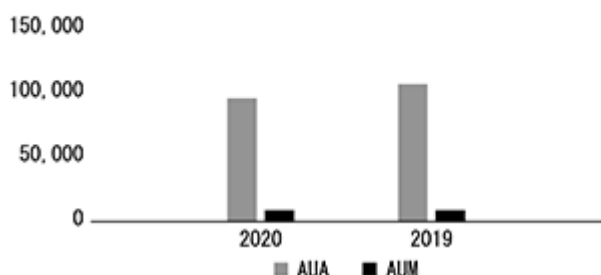
主要なハイライト

(表28)

(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計	\$ 387	\$ 376
その他の情報		
貸出金、信用保証状および信用状の平均（純額）	\$ 4,400	\$ 4,400
平均預金残高	13,000	11,900
AUA ⁽¹⁾	93,400	105,900
AUM ⁽¹⁾	9,200	8,800
平均AUA	95,500	106,700
平均AUM	9,000	8,600

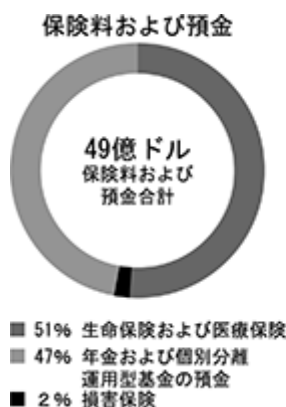
(1) 年度末の現物残高を示している。

平均AUAおよび平均AUM(単位：百万カナダドル)



インシュアランス

RBCインシュアランス®は、生命、医療、住宅、自動車、旅行、貯蓄、年金および再保険に係る幅広いアドバイスおよびソリューションならびに信用保険サービスおよび事業保険に係るソリューションを個人顧客、企業顧客および団体顧客に提供している。



収益合計
54億ドル

顧客数
5百万

従業員数
2,772名

RBCインシュアランス®は、カナダ最大級の銀行系保険会社であり、カナディアン・インシュアランスおよびインターナショナル・インシュアランスという2つの事業ラインの下で業務を行っている。

カナダにおいて、当グループは、相談センター、RBCインシュアランス®の店舗、モバイル相談窓口、デジタル、モバイルおよびソーシャル・プラットフォーム、独立代理店ならびに旅行保険会社等、様々な窓口を通じて、生命保険商品、医療保険商品、旅行保険商品、住宅保険商品および自動車保険商品、貯財ソリューションおよび年金に係るアドバイスならびにサービスを提供している。

カナダ以外では、世界の再保険市場および再々保険市場において業務を行い、生命再保険商品、身体障害再保険商品および長寿再保険商品を提供している。

<2020年度の事業環境>

- >COVID-19パンデミックは、程度の差こそあれ当グループのすべての事業ラインに影響を与えた。当グループは、日常的な資金難を緩和する一助として顧客救済プログラムを提供して顧客のケアをすること、COVID-19パンデミックの期間中信頼されるサポートを提供すること、ならびに旅行関連の支援および保険金支払処理を適時に進めて旅行保険の顧客の多くを援助することに重点を置いた。また、従業員がバーチャルな環境で信頼されるアドバイスを引き続き提供できるようツールおよびテクノロジーを完全に整備することで、従業員の安全および福利も重視した。
- >2020会計年度中、COVID-19パンデミックは、保険業界に現在ある課題を増幅し、加速させた。具体的には、顧客の選好および行動の変化、規制要件および規制当局による監視の強化、デジタル対話を増やす必要性、ならびに情報およびアドバイスの必要性の高まり等である。当グループはこれらの課題に対処するため、顧客第一の文化の強化、顧客と当グループとの新たな取引方法への投資、アクセスおよび利便性の向上、デジタル化に関する取組みの加速、ならびに商品および価格を超えた付加価値の顧客への提供に重点を置いた。
- >カナダの州および連邦の規制当局は、COVID-19パンデミックの期間中、顧客の公正な取扱いおよび保険会社の支払能力を引き続き重視している。このため、当グループでは引き続き、顧客を保護し、連邦および州両方の規制当局の期待に応えるべく、堅牢な枠組み、統制およびリスク文化を展開している。
- >英国の企業は、資産を保護し、年金費用の不安定さを軽減するため、引き続き積極的に長寿リスクを管理した。このため、長寿再保険市場は当会計年度も依然競争が激しい。しかしながら、当グループは、この市場において、リスク許容度の範囲内で引き続き大幅に成長した。

<戦略的優先事項>

当グループの戦略	2020年度の進捗状況	2021年度の優先事項

顧客関係の深化	カナダ全国でサンキュー・トゥ・エッセンシャルワーカーズ・キャンペーンを開始し、主要な個人向け身体障害保険につき期間限定の保険料割引を行った。 団体顧客向けの複数のメンタルヘルス・ソリューションを強化した。これには、療法士が補助するオンラインの認知行動療法およびメンタルヘルス・トレーニングのオンラインセミナーが含まれ、COVID-19パンデミックに伴って困難に直面する顧客および保険商品加入者を支援した。 RBC®保証付投資ファンド・ポートフォリオに新商品を発売し、顧客の選択の幅を広げた。 一部の団体顧客に対して団体医療および歯科治療の給付を拡大し、個人の状況および必要に応じて商品の加入者に選択肢を提示するモジュラー・フレックス・オプションを追加した。	サービスの行き届いていない多数の顧客、多数の裕福なおよび富裕層の顧客に対し、あらゆる保険ソリューションを提供する顧客重視の革新的な会社であり続ける。
簡素化、俊敏、刷新	オンライン保険プラットフォームを導入し、顧客が安全なメイン・ロケーションからすべての保険ニーズを自分で賄うことができるようにした。 十分な保険に入っていないカナダ人の変化するニーズおよび期待を理解しこれに応えるため研究開発に投資することで、イノベーションを続けた。	品質および費用効率を向上しつつ、デジタル・イニシアチブに対する投資を加速することで簡素化および刷新を行う。
販売の実効性および効率性の改善	ユーザー・エクスペリエンス全体を簡素化する電子アプリを改良し、購入にかかる時間を短縮し、当グループとの取引を容易にした。 生命保険の自動引受プロセスを引き続き改良し、顧客の待ち時間を短縮し、申込プロセスを簡略化した。 新たなデジタル・ツールを導入し、顧客がよりよいアドバイスを得られるようにし、また団体信用生命保険の購入および管理を簡略化した。	独自および第三者の両方のチャネルを拡大し、テクノロジーおよび業務のソリューション提供を重視することで、引き続き販売の実効性および効率性を向上させる。
再保険業務を拡大するための厳選された国際的機会の追求	主として英国の保険および再保険市場における当グループの関係、ならびに長寿事業および引受けの専門知識により、長寿再保険事業が非常に大幅に伸びた。	リスク許容の範囲内で再保険業務を拡大するため、死亡および長寿市場におけるニッチ機会を追求する。

<見通し>

保険業界は、COVID-19パンデミックの持続する影響によって、来会計年度、顧客の期待の変化、デジタル・ディストラクションの加速、および販売イノベーション等、引き続き変化を経験する見込みである。政府および規制当局による圧力は、2021会計年度も継続すると予測される。消費者が健康および福利全般により関心を持つようになったため、当グループでは引き続き、顧客を支援するためにサービスを提供し、業界でパートナーシップを構築していく。急速に変化するこの業界および経済環境において、当グループは、テクノロジー、商品およびサービスのイノベーション、効率的な販売チャネルならびに強固なリスク文化に対する投資を通じて、当グループの強みを維持していく。また、顧客へのアドバイスの仕方について見直しを続け、顧客が安心できるように努める。当グループは、その事業戦略を実行すればこの変化する環境で今後も成功できると確信している。

経済全般の概観および展望についての詳細は、「経済、市場および規制の概観および展望」の項を参照のこと。

インシュアランス		(表29)
(単位：百万カナダドル（%の数値および別段の記載がある場合を除く。）)		
	2020年	2019年
利息以外の収益		
保険料純益	\$ 4,267	\$ 3,984
保険契約者の債務を裏付ける資産に係る投資収益の利益		
(損失) ⁽¹⁾	938	1,569
手数料収益	156	157
収益合計	5,361	5,710
保険契約者に対する給付および保険金 ⁽¹⁾	3,384	3,749
保険契約者に対する新契約費	299	336
利息以外の費用	592	606
税引前利益	1,086	1,019
当期純利益	\$ 831	\$ 806
業務別収益		
カナディアン・インシュアランス	\$ 2,974	\$ 3,643
インターナショナル・インシュアランス	2,387	2,067
主要な比率		
ROE	36.1%	39.6%
主要な貸借対照表情報およびその他の情報		
平均総資産	\$ 20,300	\$ 17,600
その他の情報		
保険料および預金 ⁽²⁾	\$ 4,950	\$ 4,604
カナディアン・インシュアランス	2,493	2,415
インターナショナル・インシュアランス	2,457	2,189
保険請求および保険給付負債	12,215	11,401
保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動 ⁽¹⁾	277	987
従業員数 (FTE)	2,772	2,927

- (1) FVTPLに指定された資産の変動に帰属する保険契約者の債務の裏付けとなる投資に係る未実現の利益（損失）を含む。保険数理上の債務を維持する投資は、主にFVTPLに分類される債券資産である。その結果、これら資産の公正価値の変動は、連結損益計算書の保険料、投資収益および手数料収益において認識されており、その大部分が保険数理上の債務の公正価値の変動によって相殺され、その影響はPBCAEに反映されている。
- (2) 保険料および預金は保険業界の実務に従い、リスク・ベースの保険および年金商品に係る保険料ならびに個人およびグループの個別分離運用型基金の預金を含む。

<財務業績>

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、25百万ドル増すなわち3%増となった。これは主として、好調な投資関連実績の増加によるものであるが、年に一度の保険数理上の仮定の不利な修正により一部相殺された。

収益合計は、349百万ドル減すなわち6%減となった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動が、後述のとおりその大部分がPBCAEにおいて相殺されたことを反映している。これは、長寿リスクの再保険事業および団体年金保険を中心とした事業の拡大（後述のとおりいずれも大部分がPBCAEにおいて相殺された。）により一部相殺された。

PBCAEは、402百万ドル減すなわち10%減となった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動および好調な投資関連実績の増加を反映している。これらの要素は、事業が拡大したこと、および当年度に主に死亡率に関して年に一度の保険数理上の仮定の不利な修正が行われたことで、一部相殺された。

利息以外の費用は、14百万ドル減すなわち2%減となった。これは主として、技術投資による効率化に伴う費用の減少によるものであるが、事業拡大に伴う費用の増加によって一部相殺された。

事業ライン別概観

カナディアン・インシュアランス

当グループは、カナダの個人、団体、HNWおよび法人顧客に対して、生命、医療、旅行、住宅および自動車保険商品（アビバ・カナダとの提携契約）、貯蓄サービスならびに支払年金保険を提供している。生命および医療ポートフォリオには、一般生命保険、定期生命保険、重病保険、身体障害保険および長期障害等の団体給付ならびに医療保険および歯科保険が含まれる。旅行保険には、地域／国医療保険の適用外ならびに旅行のキャンセルおよび中断に備えた保険も含まれている。

当グループの団体年金保険事業は、確定給付年金制度の出資者がリスク管理および統制を向上させる支援をする。年金支払義務に関するリスクを（団体年金保険契約または長寿スワップ商品を通じて）保険会社に移転しようとする企業が増える中、RBCインシュアランスは、この機運に乗り、商品ラインを伸ばすための戦略およびイニシアチブを取っている。

カナダにおいては、当グループの競合他社の大部分は生命および医療または損害保険のいずれかを専門とする。マルチプルライン保険会社として当グループは、身体障害保険商品においては市場首位であり、ウェルス・ソリューションにおけるプレゼンスも高まっている。

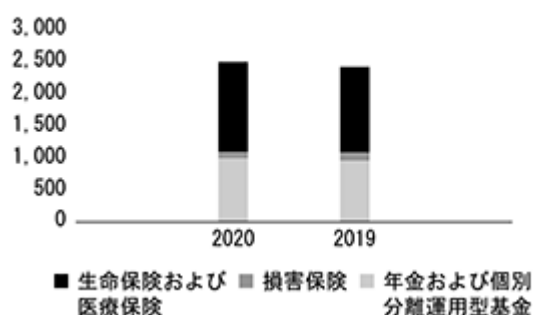
<財務業績>

収益合計は、前年度比669百万ドル減すなわち18%減となった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動によるものであったが、団体年金保険の売上高の増加により一部相殺され、それらは、その大部分がPBCAEにおいて相殺された。

保険料および預金は、78百万ドル増すなわち3%増となった。これは主として、個人生命保険商品および団体年金保険の売上高によるものであったが、旅行保険商品の減少により一部相殺された。

主要なハイライト	(表30)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計	\$ 2,974	\$ 3,643
その他の情報		
保険料および預金		
生命保険および医療保険	\$ 1,397	\$ 1,328
損害保険	98	131
年金および個別分離運用型基金の預金	998	956
保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動	351	1,099

保険料および預金(単位：百万カナダドル)



インターナショナル・インシュアランス

インターナショナル・インシュアランスは、主として他の保険会社および再保険会社のリスクを保証する再保険業務からなる。当グループは、生命、身体障害および長寿の再保険商品を提供している。

世界の再保険市場は、競争が激しく、米国、英国およびヨーロッパにおける少数の再保険会社の著しい市場シェアを反映している。

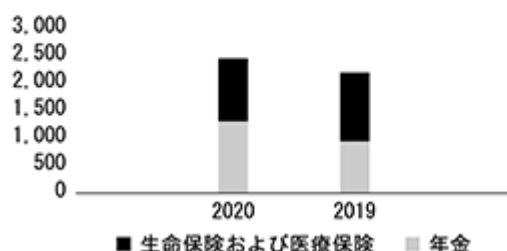
<財務業績>

収益合計は、主として長寿再保険の増加による事業の成長により、前年度比320百万ドル増すなわち15%増となった。

保険料および預金は、長寿再保険の増加を反映して268百万ドル増すなわち12%増となった。

主要なハイライト	(表31)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計	\$ 2,387	\$ 2,067
その他の情報		
保険料および預金		
生命保険および医療保険	\$ 1,144	\$ 1,254
損害保険	-	(1)
年金	1,313	936
保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動	(74)	(112)

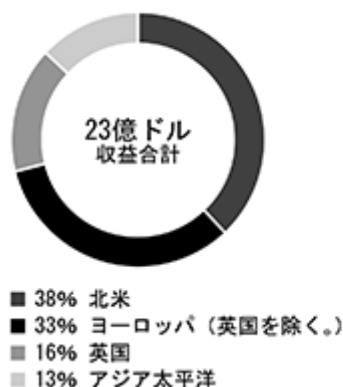
保険料および預金(単位：百万カナダドル)



インベスター&トレジャリー・サービス

RBCのインベスター&トレジャリー・サービスは、資産管理・運用サービスの専門サービス・プロバイダー、カナダにおける現金管理およびトランザクション・バンキング・サービスのリーダーならびに世界の機関顧客に対してトレジャリー・サービスを提供するプロバイダーである。

地域別収益



管理資産
4.5兆ドル

普通株主資本利益率
15.9%

顧客預金平均
630億ドル

当グループは、資産管理・運用、トランザクション・バンキング、トレジャリー・サービスその他のサービスを提供することで、顧客の資産を保護し、流動性を最大化し、複数の法域にわたるリスクを管理している。当グループは、高度な投資家に対して業界最高水準の資産管理・運用サービスを提供することに重点を置いている。当グループは、北米、ヨーロッパ、英国およびアジア太平洋の主要な国々において世界最大のグローバル・カストディアンと競争している。

当グループは、デジタル対応の商品およびサービスを提供しており、当グループの顧客の変化し続けるニーズに沿うよう継続して強化および発展させている。当グループは、トップレベルのグローバル・カストディ、証券代行機関、資金会計および管理サービスを有している。当グループは、世界の金融機関に対してカナダドルの資金管理、コルレス銀行業務および貿易金融を提供する大手サービス・プロバイダーであり、銀行の短期的な資金調達および流動性管理を行っている。

<2020年度の事業環境>

- >COVID-19パンデミックに関連して市場の逆風および厳しい事業環境が続いたにもかかわらず、当グループの資産管理・運用サービス業務は、市場ボラティリティによる恩恵を受けた。
- >COVID-19パンデミックが当グループの事業に影響を与える中、バーチャルな環境において顧客のニーズに引き続き応えるために必要なサポートを行うことで、従業員の安全および福利も重視した。
- >費用構造を改善し効率化を図るため、再配置イニシアチブを実施した。
- >短期金利が変動しグループの流動性が高まる中、効果的に対処した。

<戦略的優先事項>

当グループの戦略	2020年度の進捗状況	2021年度の優先事項
カナダにおける第1位になる。	引き続き既存の関係を深めパイプラインを構築することを重視した。	カナダにおける資産管理・運用会社、投資カウンセラー、年金基金、保険会社およびトランザクション・バンキングの顧客の間で、引き続き利益および市場シェアを伸ばす。
厳選した急成長する資産管理・運用サービス・セグメントおよび市場において競争する。	再配置イニシアチブを実行し、利益が最小の、または不採算の、既存のノンコア業務から撤退した。 ヨーロッパにおいて、ブランドの知名度の高さおよびセグメント間協力により、ファンド・ファイナンスの売上高が増加した。	当グループが競争上有利な市場および商品を重視する。
継ぎ目のないクライアント・エクスペリエンスを提供し、テクノロジーを利用することで、顧客の成功を可能にする。	技術およびデータに関する見識を活用し、顧客のニーズに応えた。 顧客のデジタル・セルフサービス能力を高めオペレーショナル・リスクを低減するため、対話型アプリを改良し、デジタル・サービスを進化させた。	引き続き継ぎ目のないデジタル・クライアント・エクスペリエンスを提供する。 顧客が成功できるよう技術投資を継続する。

<見通し>

2021会計年度、世界の資産管理・運用サービス業界は、厳しい状況が続く見込みである。当グループは、引き続き業務効率の向上に重点を置くとともに、進行中の再配置イニシアチブを今後も実行していく。当グループは、継ぎ目のないデジタル・クライアント・エクスペリエンスを提供し、顧客の成功を可能にするため、技術投資を活用しながら、当グループが競争優位性を有する市場およびセグメントを選んで事業を拡大する意向である。

低金利環境が持続する可能性から収益には逆風が予想される。短期的にはグループの流動性の高まりにより厳しい状況が予測されるが、これは徐々に解消され则认为している。

経済の概観および展望についての詳細は、「経済、市場および規制の概観および展望」の項を参照のこと。

インベスター&トレジャリー・サービス

(表32)

(単位：百万カナダドル(％の数値および別段の記載がある場合を除く。))		
	2020年	2019年
受取利息純額	\$ 329	\$ (44)
利息以外の収益	1,982	2,389
収益合計	2,311	2,345
正常な資産に係るPCL	6	-
減損金融資産に係るPCL	-	-
PCL	6	-
利息以外の費用	1,589	1,725
税引前利益	716	620
当期純利益	\$ 536	\$ 475
主要な比率		
ROE	15.9%	13.2%
主要な貸借対照表の情報		
平均総資産	\$ 204,300	\$ 146,100
平均預金	187,900	175,100
平均顧客預金	63,000	58,800
ホールセール資金の預金の平均	124,900	116,300
その他の情報		
AUA ⁽¹⁾	\$ 4,483,500	\$ 4,318,100
平均AUA	4,386,300	4,262,300
従業員数 (FTE)	4,564	4,684

米ドル換算、英ポンド換算およびユーロ換算が損益計算書上の主要項目に与えた推定影響額

(単位：百万カナダドル(％の数値を除く。))	
	2020年度と 2019年度との比較
増加(減少)：	
収益合計	\$ 17
PCL	-
利息以外の費用	18
当期純利益	(1)
1.00カナダドルの平均米ドル換算額の変動率	(1)％
1.00カナダドルの平均英ポンド換算額の変動率	(2)％
1.00カナダドルの平均ユーロ換算額の変動率	(2)％

(1) 年度末時点の残高を示す。

<財務業績>

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、前年度比61百万ドル増すなわち13%増となった。これは、前年度に事業の見直しに伴う退職費用および関連費用が含まれていたことによる。事業の見直し、および継続中の効率化イニシアチブの影響も、当年度の従業員関連費用の減少につながった。これらの要素は、顧客預金収益の減少により一部相殺された。

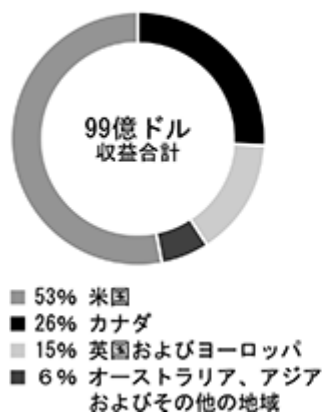
収益合計は、34百万ドル減すなわち1%減となった。これは主として、顧客預金残高の増加が利ざやの縮小によって相殺されたため、顧客預金収益が減少したことによる。資金調達および流動性利益の減少も、この減少に寄与した。これは主として、グループの流動性の高まりによるものであるが、有価証券の処分益の増加、ならびに市場ボラティリティおよび金利の変動によるプラスの影響によって一部相殺された。これらの要素は、外国為替換算の影響により一部相殺された。

利息以外の費用は、前年度比136百万ドル減すなわち8%減となった。これは、前年度に事業の見直しに伴う退職費用および関連費用が含まれていたことによる。継続中の効率化イニシアチブによる恩恵を含む従業員関連費用の減少も、この減少に寄与した。これらの要素は、外国為替換算の影響により一部相殺された。

キャピタル・マーケット

RBCキャピタル・マーケット®は、世界の会社、機関投資家、資産管理・運用会社、政府および中央銀行に対してバンキング、ファイナンスおよび資本市場に関する専門知識を提供している一流の国際投資銀行である。当グループの専門家は、14ヶ国、58ヶ所のオフィスから当グループの顧客がその業務において必要な助言、商品およびサービスを享受できるよう努めている。当グループのプレゼンスは北米、英国、ヨーロッパ、オーストラリアならびにアジアおよびその他の各地域にも及ぶ。

地域別収益



顧客数

15,500

グローバル・リーグ・テーブル・ランキング

12位⁽¹⁾

従業員

4,027名

当グループは、2大事業ラインであるコーポレート&インベストメント・バンキングおよびグローバル・マーケットスを運営している。

北米においては、企業向けおよび投資銀行業務、エクイティ・オリジネーションおよびデット・オリジネーションならびに販売およびトレーディング等、あらゆる商品およびサービスを提供している。カナダにおいては、すべての資本市場事業ラインにおいて戦略的プレゼンスを有する市場リーダーである。米国においては、業種全体および投資銀行商品のすべてをカバーしており、米国および世界の大手投資銀行ならびに地域の中小企業と競合している。また、与信、担保付貸出、地方自治体の資金調達、債券、通貨およびコモディティ、株式ならびにアドバイザーにおいて、トップクラス的能力を有している。

北米以外では、英国およびヨーロッパ、オーストラリアならびにアジアおよびその他の市場において有意なプレゼンスを有している。英国およびヨーロッパにおいては、エネルギー、鉱業、インフラ、ヨーロッパの工業、消費者、医療、テクノロジーおよび金融サービス等の主要な専門分野において様々なサービスを提供する。オーストラリアおよびアジアにおいては、債券販売および為替取引、担保付資金調達ならびに企業向けおよび投資銀行業務からなるグローバルな専門知識に沿った標的分野において、世界および地域の投資銀行と競合している。

<2020年度の事業環境>

>2020会計年度の事業環境は、COVID-19パンデミックの結果、未曾有の市場ボラティリティおよび不確実性の高まりが特徴であった。当会計年度上半期、レポおよび金利トレーディング業務は、金利環境の低下に伴うボラティリティを十分に活用したが、これは、信用スプレッドの拡大による時価評価のマイナス、および株式市場の著しい混乱によって、一部相殺された。当会計年度下半期、市況が回復し始めるにつれ、当グループは、信用スプレッドの縮小、ならびに好調な顧客活動および株式市場の正常化によって恩恵を受けた。これにもかかわらず、ボラティリティは高水準であったため、当会計年度を通じてトレーディング残高は高いままであった。

>世界の投資銀行手数料プールは、14%増⁽¹⁾となった。これは、様々な政府、規制当局および金融機関による刺激策、指標金利の引下げ、ならびに流動性需要の増加の恩恵により、当会計年度中の債券発行業務が過去最高を記録したためである。一方、M&A活動およびシンジケートローン活動は、市場の不透明性から多くの取引が保留されたため、不振であった。

>COVID-19パンデミックが変化する中、当グループは顧客の支援に加えて、従業員がバーチャルな環境で効率的に働けるようツールおよびテクノロジーを完全に整備し、オフィス勤務への復帰アプローチを慎重に管理することで、従業員の安全および福利も重視した。

>与信環境はCOVID-19パンデミックによる影響を受け、当年度は不確実性が増しボラティリティが持続した結果、パフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加した。

⁽¹⁾ 出典：ディーロジック 2020会計年度の世界の投資銀行手数料に基づく。

＜戦略的優先事項＞

当グループの戦略	2020年度の進捗状況	2021年度の優先事項
革新的で信頼できるパートナーとして顧客との関係を深める。	当グループの世界的能力を活かした付加価値のあるアドバイスを提供することで、顧客との長期的関係を引き続き深めた。 ・AT&Tによる125億ドルのマルチトランシェ無担保優先債発行においてジョイント・ブックランナーを務めた。この取引の結果、重点顧客との関係が深まっている。 ・T-MobileによるSprint買収を支援する230億ドルの資金調達において、ブックランナー兼共同主幹事会社を務めた。	クラス最上級の能力および専門知識を有する革新的かつ信頼できるパートナーとして、顧客に認識されるようになる。 投資銀行業務において、上位の企業顧客および最大級の民間資本企業に重点を置き、引き続き関係を深め差別化したコンテンツでリードすることで、すべての商品において市場シェアを拡大する。
アイデア、アドバイスおよびイノベーションによってリードする。	データ戦略、電子化およびAIといった技術革新イニシアチブの一環として、AIベースの電子取引プラットフォーム、Aiden®を導入した。 セノバス・エナジーによるハスキー・エナジーとの戦略的提携（提携後の事業価値は最大で240億ドル）においてファイナンシャル・アドバイザーを務めた。 クラフト・ハインツがそのナチュラルチーズ事業を32億ドルでラクタリス・グループに売却する契約において、専属ファイナンシャル・アドバイザーを務めた。	当グループの貸出能力の強みを活かして顧客をサポートしながら、戦略的アドバイザリー&オリジネーションならびにクライアント・トレーディング商品およびサービスを顧客に提供する。 テクノロジー、機械学習およびAIに投資することで、革新的な取引ソリューションを提供する。
プラットフォーム間の協力およびコンバージェンスを推進する。	当グループ全体で事業間の協力を推進することで、引き続き顧客との関係を深めることに重点を置いた。 K+Sが南北アメリカ大陸で展開していた塩事業をストーン・キャニオン・インダストリーズに売却する際（取引価値は32億ドル）にファイナンシャル・アドバイザーを務め、米国チームとヨーロッパ・チームとの共同努力を示した。	複数の事業および資産区分にわたり、プラットフォーム間および地域間の協力およびコンバージェンスを引き続き奨励する。 引き続きシニア・カバレッジ・チームを強化する。
事業を簡素化し、財源を最適化する。	コストおよびリスクの管理につき統制の取れたアプローチを維持しつつ、COVID-19パンデミックを通じて顧客に資金を提供して支援した。 厳しい市場環境において、多様な事業モデルを通じ好調な成果を上げることができた。	コストベースおよび調達戦略を見直して効率化を図ることを重視する。 バランス・シートを最適化し、資本利益率の増加を支える事業に資金を再配分する。

人材、文化およびブランドに投資する。	カナダ第1位⁽¹⁾の市場シェアを維持し、13年連続でカナダのベスト・インベストメント・バンク⁽²⁾となった。 米国において2.3%の市場シェア⁽¹⁾を獲得し、カナダの投資銀行第1位となった。 英国／ヨーロッパにおいて、この地域に対する最近の投資から恩恵を得て、数々の革新的かつ前例のないマンドートにおいて幹事を務めた。例えば ・英国政府国債管理局の幹事銀行として、80億ドルの英ポンド債発行（政府からの史上最大のマンドート）を行った。 見識およびアイデアの力を利用して革新的なアドバイスおよびソリューションを提供することで、顧客が持続可能な開発目標を達成する手助けをする。 ・ゼネラルモーターズがEVgoと結んだ他に類を見ない電気自動車急速充電パートナーシップ（米国に最大の急速充電ネットワークを構築する。）において、専属ファイナンス・アドバイザーを務めた。	カナダにおいて主導的な地位、および最良の成長機会がある当グループ最大の市場である米国においてカナダ・トップの地位を維持する。 グローバルな専門知識を活かして英国、ヨーロッパならびにオーストラリア、アジアおよびその他の地域の標的分野において主導的な地位を維持する。 世界的な多様化および包摂戦略の強化に重点を置く。 顧客に対して引き続き環境、社会・ガバナンス（ESG）および持続可能性に関するアドバイスを提供する（2025年までにサステナブル・ファイナンスにより1,000億ドルを調達するという取組みを含む。）。

(1) 出典：ディーロジック 2020会計年度の世界の投資銀行手数料に基づく。

(2) 出典：ユーロマネー 2020年アウォーズ・フォー・エクセレンス

<見通し>

2020会計年度、トレーディング事業はボラティリティの高まりの恩恵を受け、債券発行業務も好調となるなど、当グループは市場機会を活用することができた。2021会計年度、これらの状況は正常化するかもしれないが、当グループでは引き続き、絶えず資源を最適化し、クロスセリング活動を加速し、強固なリスク管理実務を活かすことで、グローバル・マーケットズのフランチャイズにおいて堅調な結果を出すことを重視する。投資銀行業務においては、引き続きターゲットとする部門に重点を置き、市場シェアの拡大に努める。また、市況の正常化はM&A活動およびシンジケートローン活動にとっては追い風となる可能性がある。法人銀行業務においては、当会計年度、COVID-19パンデミックの影響から顧客をサポートしたことで業績が伸びた。これらの貸付の大部分は、当会計年度下半期を通じて急速に実行された。この事業は今後、信用リスクの管理、リスク調整後資産（RWA）の最適化および顧客プランの実行を引き続き重視することで、緩やかに成長していくと期待している。

経済全般の概観および展望についての詳細は、「経済、市場および規制の概観および展望」の項を参照のこと。

キャピタル・マーケット

(表33)

(単位：百万カナダドル(％の数値および別段の記載がある場合を除く。))

	2020年	2019年
受取利息純額 ⁽¹⁾	\$ 5,135	\$ 4,043
利息以外の収益 ⁽¹⁾	4,749	4,245
収益合計 ⁽¹⁾	9,884	8,288
正常な資産に係るPCL	750	36
減損金融資産に係るPCL	489	263
PCL	1,239	299
利息以外の費用	5,362	5,096
税引前利益	3,283	2,893
当期純利益	\$ 2,776	\$ 2,666
業務別収益		
コーポレート&インベストメント・バンキング	\$ 4,031	\$ 3,792
グローバル・マーケット	6,251	4,663
アザー	(398)	(167)
主要な比率		
ROE	11.7%	11.4%
主要な貸借対照表情報		
平均総資産	\$ 755,400	\$ 666,500
平均トレーディング目的の有価証券	108,300	102,100
貸出金および手形引受けの平均(純額)	108,700	99,800
平均預金	76,800	77,300
その他の情報		
従業員数(FTE)	4,027	4,269
信用情報		
純貸出金および純手形引受けの平均に対する減損貸出金に係るPCLの割合	0.44%	0.26%

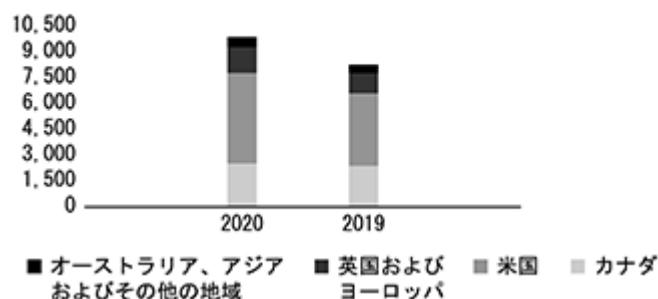
米ドル換算、英ポンド換算およびユーロ換算が損益計算書上の主要項目に与えた推定影響額

(単位：百万カナダドル(％の数値を除く。))

	2020年度と 2019年度との比較
増加(減少)：	
収益合計	\$ 70
PCL	27
利息以外の費用	46
当期純利益	1
1.00カナダドルの平均米ドル換算額の変動率	(1)%
1.00カナダドルの平均英ポンド換算額の変動率	(2)%
1.00カナダドルの平均ユーロ換算額の変動率	(2)%

(1) 2020年度のteb調整は、513百万ドル(2019年度は450百万ドル)であった。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

地域別収益(単位:百万カナダドル)



<財務業績>

<2020年度と2019年度との比較>

当期純利益は、前年度比110百万ドル増すなわち4%増となった。これは主として、グローバル・マーケットおよびコーポレート&インベストメント・バンキングにおける収益の増加によって牽引された。これらの要素は、PCLの増加、税率の高い法域からの利益の割合の増加に伴う税金の増加、主として残余調達コストの増加を反映したアザーの収益の減少、ならびに業績向上に伴う報奨金の増加により、一部相殺された。

収益合計は、1,596百万ドル増すなわち19%増となった。これは主として、すべての地域における顧客活動増加に伴う債券トレーディング収益の増加、および大部分の地域におけるデット・オリジネーションの増加によるものである。

PCLは、940百万ドル増となった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響によるパフォーマンス・ローンに係る引当金繰入額の増加を反映している。貸倒引当金繰入額の増加もこの増加に寄与し、主として石油およびガス部門における引当金繰入額により、減損貸出金に係るPCL比率は18bps上昇した。詳細は、「信用リスク」の「信用の質の実績」の項を参照のこと。

利息以外の費用は、266百万ドル増すなわち5%増となった。これは主として、業績向上による報奨金の増加によるものである。

事業ライン別概観

コーポレート&インベストメント・バンキング

コーポレート&インベストメント・バンキングは、企業向け貸出し、シンジケートローン、デットおよびエクイティ・オリジネーション、M&Aアドバイザリー業務、顧客証券化ならびに世界の信用業務からなる。デットおよびエクイティ・オリジネーションについては、合意に沿った各グループの寄与度に基づき、コーポレート&インベストメント・バンキングとグローバル・マーケットに収益が配分される。

<財務業績>

コーポレート&インベストメント・バンキングの収益は、前年度比239百万ドル増すなわち6%増の4,031百万ドルとなった。

投資銀行業務の収益は、85百万ドル増すなわち5%増となった。これは主として、主に米国におけるデット・オリジネーションの増加およびほとんどの地域にわたるエクイティ・オリジネーションの増加によるものである。これらの要素は、主として米国およびヨーロッパにおける融資引受割引からの債券トレーディング収益の減少により一部相殺された。

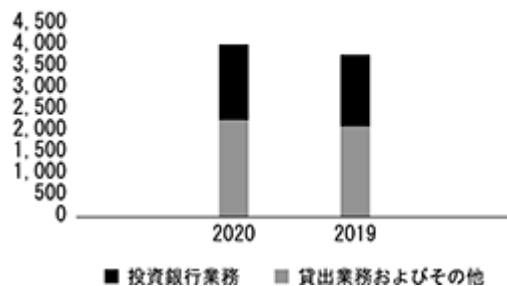
貸出業務およびその他の収益は、主にヨーロッパおよび米国における平均取引高の増加を反映して154百万ドル増すなわち7%増となった。

主要なハイライト	(表34)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計 ⁽¹⁾	\$ 4,031	\$ 3,792
収益の内訳 ⁽¹⁾		
投資銀行業務	\$ 1,757	\$ 1,672
貸出業務およびその他 ⁽²⁾	2,274	2,120
その他の情報		
平均資産	\$ 92,600	\$ 86,400
貸出金および手形引受けの平均	83,000	76,700

(1) 2020年10月31日に終了した年度におけるteb調整は、56百万ドル（2019年10月31日に終了した年度は80百万ドル）であった。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

(2) 企業向け貸出業務、顧客証券化業務および世界の信用業務からなる。

収益合計の内訳(単位：百万カナダドル)



グローバル・マーケット

グローバル・マーケットは、債券、為替、株式販売およびトレーディング、レポ取引および担保付資金調達ならびにコモディティ業務からなる。

<財務業績>

収益合計は、前年度比1,588百万ドル増すなわち34%増の6,251百万ドルとなった。

債券、為替およびコモディティ業務の収益は、1,093百万ドル増すなわち51%増となった。これは主として、すべての地域にわたる債券トレーディング収益の増加およびほとんどの地域におけるデット・オリジネーションの増加によるものである。

株式業務の収益は、237百万ドル増すなわち20%増となった。これは主として、米国を中心とした株式トレーディング収益の増加およびすべての地域にわたるエクイティ・オリジネーションの増加によるものである。

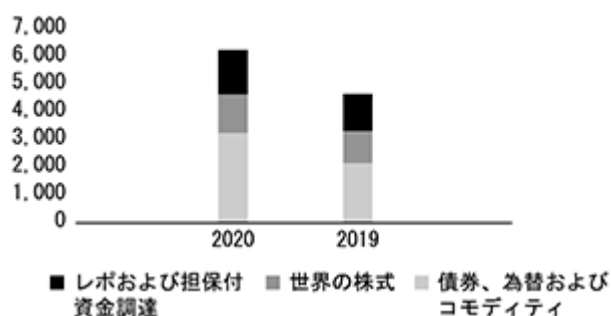
レポおよび担保付資金調達業務の収益は、主として顧客活動の増加により、258百万ドル増すなわち19%増となった。

主要なハイライト	(表35)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
収益合計 ⁽¹⁾	\$ 6,251	\$ 4,663
収益の内訳 ⁽¹⁾		
債券、為替およびコモディティ	\$ 3,243	\$ 2,150
株式	1,403	1,166
レポおよび担保付資金調達 ⁽²⁾	1,605	1,347
その他の情報		
平均資産	\$ 667,900	\$ 583,700

(1) 2020年10月31日に終了した年度におけるteb調整は、457百万ドル（2019年10月31日に終了した年度は370百万ドル）であった。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

(2) 内部事業および外部顧客に対する担保付資金調達事業からなる。

収益合計の内訳(単位：百万カナダドル)



アザー

アザーには、主として米国商業用モーゲージ担保証券（MBS）、銀行負担生命保険（BOLI）デリバティブ契約およびアジアにおけるストラクチャード・レートからなるレガシー・ポートフォリオが含まれる。

<財務業績>

収益は、主として残余資金調達費用の増加およびレガシー米国ポートフォリオの損失により前年度比231百万ドル減となった。

コーポレート・サポート

コーポレート・サポートは、商品およびサービスを効率的に顧客に提供するために必要な技術上および業務上の基盤を作るテクノロジー&オペレーションズと、財務、人事、リスク管理、内部監査およびその他の機能グループを統轄するファンクションズならびにコーポレート・トレジャリー部門からなる。コーポレート・サポートの業績は、主として事業セグメントに割り当てられないグループ規模の活動の監視および監督に関する業務を反映している。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

コーポレート・サポート	(表36)	
(単位：百万カナダドル)	2020年	2019年
受取利息純額（損失） ⁽¹⁾	\$ (57)	\$ 104
利息以外の収益（損失） ⁽¹⁾	(269)	(453)
収益合計 ⁽¹⁾	(326)	(349)
PCL	1	-
利息以外の費用	57	131
税引前利益（損失） ⁽¹⁾	(384)	(480)
法人所得税（戻入） ⁽¹⁾	(436)	(452)
当期純利益（損失）	\$ 52	\$ (28)

(1) teb調整後。

このセグメントの活動の性質および連結調整により、年度比の分析は意味がないと考えている。以下は、各年度の業績に影響を与えた重要な項目である。

コーポレート・サポートにおける各期間の収益合計および法人所得税（戻入）には、キャピタル・マーケットに計上されたカナダの課税対象企業配当収入および米国の税額控除投資業務のグロスアップに関連するteb調整の控除が含まれている。収益から控除された金額は、法人所得税（戻入）の同額の増加により相殺された。

2020年10月31日に終了した年度のteb金額は513百万ドルであり、前年度は450百万ドルであった。

以下は、各年度の業績に影響を与えた重要な項目（前述のteb調整の影響を除く。）である。

<2020年度>

当期純利益は、52百万ドルであった。これは主として、資産／負債管理行動によるものであるが、税金によるマイナスの影響および未配分残余費用により一部相殺された。

<2019年度>

前年度の純損失は、28百万ドルであった。これは主として、会計上の不利な修正の影響、未配分残余費用および税金によるマイナスの影響によるものであるが、資産／負債管理行動により一部相殺された。

四半期財務情報

第4四半期の業績

<2020年度第4四半期と2019年度第4四半期との比較>

第4四半期の純利益は3,246百万ドルで、前年度比40百万ドル増すなわち1%増となった。希薄化後EPSは0.05ドル増の2.23ドル、ROEは20bps低下して16.0%となった。キャピタル・マーケット、コーポレート・サポートおよびインベスター&トレジャリー・サービスにおける業績の向上は、ウェルス・マネジメント、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびインシュアランスにおける利益の減少によって大部分が相殺された。

収益合計は、278百万ドル減すなわち2%減となった。これは主として、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおける金利低下の影響、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動（後述のとおりその大部分がPBCAEにおいて相殺された。）ならびに前年度におけるブルーベイの民間融資事業売却による151百万ドルの利益によるものである。これらの要素は、カナディアン・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおける取引高の増加、ならびに有利な市況および顧客活動の増加を反映した米国を中心とした株式トレーディング収益の増加により、一部相殺された。

PCL総額は前年度比72百万ドル減すなわち14%減、貸出金に係るPCL比率は前年度比で9bps低下して23bpsとなった。これは主として、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびキャピタル・マーケットにおける引当金繰入額の減少が、ウェルス・マネジメントにおける引当金繰入額の増加によって一部相殺されたことによるものである。

PBCAEは、193百万ドル減すなわち30%減となった。これは主として、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動、好調な投資関連実績の増加および保険金支払額の減少によるものである。これらの要素は、当年度は主に死亡率に関連して年に一度の保険数理上の仮定の不利な修正があったこと、有利な長寿リスクの再保険契約の減少、事業の成長、および再保険契約の再交渉による影響の減少により、一部相殺された。

利息以外の費用は、261百万ドル減すなわち4%減となった。これは、前年度にインベスター&トレジャリー・サービス事業の見直しに伴う退職費用および関連費用が含まれていたことによるものである。裁量支出の減少、変動報酬金の減少、およびコーポレート・サポートにおける前年度の会計上の不利な修正の影響も、この減少に寄与した。これらの要素は、テクノロジー費用（デジタル・イニシアチブを含む。）および関連費用の増加ならびにCOVID-19関連で追加された営業費用によって、一部相殺された。

法人所得税費用は、前年度比208百万ドル増すなわち30%増となった。法人所得税の実効税率は、当四半期は税率の低い法域からの利益が減少したこと、および前年度の同四半期に有利な税金調整があった影響により、前年度から390bps上昇して21.7%となった。

＜2020年度第4四半期と2020年度第3四半期との比較＞

純利益は、前四半期比45百万ドル増すなわち1%増の3,246百万ドルとなった。これは主として、PCLの減少、および収益の減少に伴う変動報奨金の減少によるものである。主に相場上昇および純売上高による手数料ベースの平均顧客資産の増加も、この増加に寄与した。これらの要素は、キャピタル・マーケットにおける債券トレーディング収益の減少、ならびにテクノロジー費用（デジタル・イニシアチブを含む。）および関連費用の増加によって、一部相殺された。

四半期の業績および動向分析

当グループの四半期の業績は、一部事業の季節性、景気全般および市場状況ならびに他の通貨に対するカナダドルの変動等、数々のトレンドおよび循環的要因の影響を受ける。下表は、最近8四半期（当該期間）における業績をまとめたものである。

四半期の業績 ⁽¹⁾					(表37)			
(単位：百万カナダドル (1株当たりの金額および%の数値を除く。))	2020年				2019年			
	第4 四半期	第3 四半期	第2 四半期	第1 四半期	第4 四半期	第3 四半期	第2 四半期	第1 四半期
パーソナル&コマーシャル・バンキング	\$ 4,373	\$ 4,348	\$ 4,400	\$ 4,610	\$ 4,568	\$ 4,546	\$ 4,333	\$ 4,418
ウェルス・マネジメント	3,068	3,164	2,822	3,166	3,187	3,029	2,979	2,948
インシュアランス	958	2,212	197	1,994	1,153	1,463	1,515	1,579
インベスター&トレジャー・サービス	521	484	709	597	566	561	587	631
キャピタル・マーケット ⁽²⁾	2,275	2,748	2,313	2,548	1,987	2,034	2,169	2,098
コーポレート・サポート ⁽²⁾	(103)	(36)	(108)	(79)	(91)	(89)	(84)	(85)
収益合計	\$ 11,092	\$ 12,920	\$ 10,333	\$ 12,836	\$ 11,370	\$ 11,544	\$ 11,499	\$ 11,589
PCL	427	675	2,830	419	499	425	426	514
PBCAE	461	1,785	(177)	1,614	654	1,046	1,160	1,225
利息以外の費用	6,058	6,380	5,942	6,378	6,319	5,992	5,916	5,912
税引前純利益	\$ 4,146	\$ 4,080	\$ 1,738	\$ 4,425	\$ 3,898	\$ 4,081	\$ 3,997	\$ 3,938
法人所得税	900	879	257	916	692	818	767	766
当期純利益	\$ 3,246	\$ 3,201	\$ 1,481	\$ 3,509	\$ 3,206	\$ 3,263	\$ 3,230	\$ 3,172
EPS—基本的	\$ 2.23	\$ 2.20	\$ 1.00	\$ 2.41	\$ 2.19	\$ 2.23	\$ 2.20	\$ 2.15
—希薄化後	2.23	2.20	1.00	2.40	2.18	2.22	2.20	2.15
法人所得税の実効税率	21.7%	21.5%	14.8%	20.7%	17.8%	20.0%	19.2%	19.5%
当期における1.00カナダドルの平均米ドル換算額	\$ 0.756	\$ 0.737	\$ 0.725	\$ 0.760	\$ 0.755	\$ 0.754	\$ 0.751	\$ 0.749

(1) 他の通貨に対するカナダドルの変動は、当期における当グループの連結業績に影響を及ぼした。

(2) teb調整後。詳細は、「事業セグメントの測定および報告方法」の項を参照のこと。

＜季節性＞

季節的要因は、一部四半期において当グループの業績に影響を与える場合がある。歴史的に見て、第1四半期は、キャピタル・マーケット事業が好調になる。第2四半期は、その他の四半期より日数が少ないため、一般的に受取利息純額および一部の費目は少なくなる。第3四半期および第4四半期は、通常、顧客活動が低下する夏季を含むため、キャピタル・マーケットの仲介業務の業績にマイナスの影響が生じることがある。

＜動向分析＞

当該期間中、利益は概ね増加傾向にあった。しかし、2020年度第2四半期の利益は、COVID-19パンデミックの発生がすべての事業セグメントにもたらした影響によりPCLが大幅に増加したこと、ならびに金利および信用スプレッドならびに顧客活動等、市場ボラティリティの影響から収益が変動したことを反映している。市況は2020年度下半期に回復したが、当グループの利益は引き続きCOVID-19パンデミックの影響およびそれに伴う下流の影響を受けた。四半期の利益は、外国為替換算の影響も受けている。

パーソナル&コマーシャル・バンキングの収益は、当該期間中の取引高の堅調な増加によって恩恵を受けている。当該期間前半のスプレッドは金利の上昇を反映していたが、当該期間後半のスプレッドは主として金利環境の低下に伴って縮小した。競争価格圧力の影響が続いていることで、当該期間の大半はスプレッドにマイナスの影響が生じた。カナディアン・バンキングのNIMは、2020年度第2四半期にBoCが累積150bpsの利下げを行うなど、主に金利低下の影響を反映して、当該期間後半は概して減少した。また、当該期間の後半は、主として購入額の減少に伴ってカード・サービス収益が減少した。

ウェルス・マネジメントの収益は、概ね増加傾向にあった。これは、主として純売上高および相場上昇による手数料ベースの平均顧客資産の増加を反映している。受取利息純額は、当該期間前半の取引高の増加および利上げの影響により増加し、当該期間後半は主として米国Fedによる利下げの影響を反映して取引高の継続的増加がスプレッドの縮小により相殺されたことで減少した。ブルーベ이의民間融資事業売却による利益は、2019年度第4四半期における収益の増加に寄与した。米国の株式に基づく報酬制度に関するヘッジの公正価値の変動（その大部分が利息以外の費用において相殺されている。）も、当該期間中の収益の変動に寄与した。2020年度第2四半期の市場ボラティリティ、およびその後の2020年度第3四半期における市況の回復を受けて、これらのヘッジ、手数料ベースの平均顧客資産、ならびに金利デリバティブおよびシードキャピタル投資の公正価値は変動性が高まった。

インシュアランスの収益は、主として保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動（その大部分がPBCAEにおいて相殺された。）によって、当該期間中変動した。収益は、当該期間の大半にわたるカナディアン・インシュアランスおよびインターナショナル・インシュアランスにおける事業の拡大により恩恵を受けた。2019年度第1四半期および2020年度第1四半期は、団体年金保険の売上高の増加を反映している。

インベスター&トレジャリー・サービスの収益は、当該期間中の市況および顧客活動の変動によって影響を受けている。資金調達および流動性業務における収益は、当該期間後半にグループ流動性の高まりの影響を受けたことで、当該期間中変動した。資産管理・運用サービス業務は、2019年度上半期に市況が厳しかったことの影響を受け、当該期間の後半は、顧客活動の減少および顧客預金利ざやの減少によって概して影響を受けた。2020年度第2四半期および第3四半期の変動は、2020年度第2四半期における金利変動および市場ボラティリティの影響を反映している（第2四半期は有価証券の処分益等、金利の低下および市場ボラティリティの恩恵を受けていた。）。2020年度第3四半期の収益は、2020年度第2四半期における短期金利の変動の影響により一部相殺された。

キャピタル・マーケットの収益は、コーポレート&インベストメント・バンキングおよびグローバル・マーケットの各事業における顧客活動に影響する市況に大きく影響され、第1四半期はその他の四半期より業績がいいのが常である。2019年度の顧客活動は、市況が厳しく業界全体の投資銀行手数料収益が減少したことで、影響を受けた。厳しい市況による影響も、2019年度下半期の大部分における株式トレーディング収益の減少につながった。2020年度第1四半期は、市況がより有利になり顧客活動が増加して、債券トレーディング収益およびM&A活動が増加した。2020年度第2四半期は市場ボラティリティが高まり、顧客活動が増加したが、これは融資引受割引による影響を含む債券トレーディング収益の減少によって相殺された。2020年度第3四半期は、債券トレーディング収益が増加した。これは主として、市況の回復および顧客活動の増加を反映して、融資引受割引が解消され、株式トレーディング収益が増加したことによるものである。2020年度第4四半期も、2019年度の水準より市況が有利で顧客活動が増加したことで恩恵を受けた。

正常な資産に係るPCLは、マクロ経済的条件、ポートフォリオ・バランスおよび信用の質の変化、ならびにモデル変更によって影響を受け、当該期間中変動した。COVID-19パンデミックの影響によっても、2020年度、主に第2四半期の引当金繰入額が大幅に増加した。減損金融資産に係るPCLは、2019年度末にかけて標準的な貸倒水準を反映していたが、2020年度第1四半期は、パーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントにおいて貸倒引当金繰入額が減少した。当年度の残る期間は、キャピタル・マーケットにおいて石油およびガス部門を中心に貸倒引当金繰入額が増加した。政府支援および支払猶予の影響は、2020年度下半期、カナディアン・バンキングのリテール・ポートフォリオにおける貸倒引当金繰入額の減少に寄与した。

PBCAEは、保険契約者の債務の裏付けとなる投資の公正価値の変動および団体年金保険の売上高の影響を含む事業の拡大の影響（いずれも大部分が収益において相殺された。）を含むため、四半期ごとに変動した。またPBCAEは、当該期間中の投資関連実績および保険金支払額によっても変動し、2020年度第2四半期および第3四半期はCOVID-19パンデミックに関連して旅行保険の保険金支払額が増加したことを反映している。当該期間中、PBCAEは、再保険契約の有利な再交渉によりプラスの影響を受けている。各年度の第4四半期に通常行われる保険数理上の調整も、PBCAEに影響を与えている。

当グループでは経営効率化に向けた活動を引き続き重視しているが、利息以外の費用は、当該期間の大半は増加傾向にあった。増加は、主として事業拡大に伴う費用の増加およびテクノロジー費用（デジタル・イニシアチブを含む。）および関連費用への継続的な投資ならびに変動報奨金を含む従業員関連費用の増加を反映している。2019年度第4四半期における増加は、インベスター&トレジャリー・サービス事業の見直しに伴う退職費用および関連費用を反映している。2020年度第2四半期は、業績低下に伴い変動報奨金が減少したこと、および市場ボラティリティが高まった影響で米国の株式に基づく報酬制度の公正価値が減少したこと（2020年度第3四半期に市況が回復してからは増加に転じた。）を反映していた。米国の株式に基づく報酬制度の公正価値の変動は、大部分が収益において相殺された。2020年度第2四半期以降、利息以外の費用は、COVID-19パンデミック中に接客業務を行う者を中心とした一部の従業員に対する追加報酬、およびCOVID-19関連のその他の増分費用の影響も受けているが、これらは当該期間中の裁量支出の減少によって相殺された。

法人所得税の実効税率は、主として様々な税金調整および利益構成の変化によって、当該期間中変動した。2019年度第1四半期には、バルバドスにおける法人税率改定による繰延税金資産の評価減が含まれていた。2020年度第2四半期は主として、当該四半期における利益の減少に関連して非課税利益および税率の低い法域からの利益の割合が増加したことで、実効税率は低下した。

財政状態

要約貸借対照表

(表38)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在	2019年10月31日現在
資産		
現金および預け金	\$ 118,888	\$ 26,310
利付銀行預け金	39,013	38,345
有価証券（適用引当金控除後） ⁽¹⁾	275,814	249,004
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	313,015	306,961
貸出金		
リテール	457,976	426,086
ホールセール	208,655	195,870
貸倒引当金	(5,639)	(3,100)
その他－デリバティブ	113,488	101,560
－その他 ⁽²⁾	103,338	87,899
総資産	\$ 1,624,548	\$ 1,428,935
負債		
預金	\$ 1,011,885	\$ 886,005
その他－デリバティブ	109,927	98,543
－その他 ⁽²⁾	406,102	350,947
劣後無担保社債	9,867	9,815
負債合計	1,537,781	1,345,310
株主に帰属する株式	86,664	83,523
非支配持分	103	102
資本合計	86,767	83,625
負債および資本合計	\$ 1,624,548	\$ 1,428,935

(1) 有価証券は、トレーディング目的の有価証券および投資目的の有価証券からなる。

(2) その他－その他の資産および負債は、それぞれ個別分離運用型基金純資産および負債を含む。

＜2020年度と2019年度との比較＞

総資産は、前年度から1,960億ドル増すなわち14%増となった。外国為替換算の影響により、総資産は150億ドル増加した。

現金および預け金は、主として短期資金および流動性管理業務を反映する中央銀行への預金の増加により、930億ドル増となった。

有価証券（適用引当金控除後）は、270億ドル増すなわち11%増となった。これは主として、主に流動性管理業務に牽引されて国債が増加したことによる。

売戻し条件（リバース・レポ）付購入資産および借入有価証券担保金は、顧客活動およびネットティングの減少により60億ドル増すなわち2%増となったが、流動性管理業務の減少により一部相殺された。

貸出金（貸倒引当金控除後）は、420億ドル増すなわち7%増となった。これは主として、住宅担保ローンの取引高の増加によるものである。このような前例のない時期に顧客を支援するためもあってホールセール貸出金が増加したことも、この増加に寄与した。

デリバティブ資産は、120億ドル増すなわち12%増となった。これは主として、金利オプションおよび株式オプションの公正価値の増加によるものである。外国為替換算の影響も、この増加に寄与した。これらの要素は、外国為替契約の公正価値の減少によって一部相殺された。

その他の資産は、150億ドル増すなわち18%増となった。これは主として、IFRS第16号適用による建物設備の増加を反映している。委託保証金の増加、ならびに現金担保および貴金属の持ち高がいずれも増加したことも、この増加に寄与した。

負債合計は、前年度から1,920億ドル増すなわち14%増となった。外国為替換算の影響により、負債合計は150億ドル増加した。

預金は、1,260億ドル増すなわち14%増となった。これは主として、顧客の支出が減少した上、COVID-19パンデミックを受けて現金残高を増やす安心感を顧客が選好したことにより、企業預金およびリテール預金が増加したためである。銀行預金の増加および外国為替換算の影響も、この増加に寄与した。

デリバティブ負債は、110億ドル増すなわち12%増となった。これは主として、金利オプションおよび株式オプションの公正価値の増加によるが、外国為替契約の公正価値の減少によって一部相殺された。

その他の負債は、550億ドル増すなわち16%増となった。これは主として、資金調達活動の増加およびネットティングの減少を反映して買戻契約に関連する債務が増加したことによる。

資本合計は、30億ドル増すなわち4%増となった。これは、配当および株式買戻しを控除した後の利益、ならびにリミテッドリコース・キャピタルノートの発行によるものであるが、優先株式の償還と、キャッシュ・フロー・ヘッジに対する金利低下の影響の両方により一部相殺された。

オフバランス・シート処理

当グループは、通常の営業過程において、会計上の目的のため連結貸借対照表に計上されない様々な金融取引を行っている。オフバランス・シート取引は、通常、当グループおよび当グループの顧客の利益のために、リスク管理、資本管理および資金管理の目的で行われる。これらには、組成された企業との取引が含まれ、信用保証の授与が含まれることもある。これらの取引は、その他のリスクの中でもとりわけ「2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「リスク管理」の各項に記載されている様々な市場、信用、流動性および資金調達リスクの発生につながる。

当グループは、金融資産を証券化し、また顧客がその金融資産を証券化する際の支援として、組成された企業を活用している。これらの事業体は事業会社ではなく、通常は従業員も有さず、当グループの連結貸借対照表には計上している場合もあればしていない場合もある。

通常業務の過程において、当グループは認識の中止の対象となり得る多様な金融取引に従事している。当グループは、当グループが金融資産に関連するほとんどすべてのリスクおよび経済価値または支配を第三者に移転しているかの判断にあたり認識の中止のルールを適用している。取引が特定の基準を満たした場合、かかる取引については当グループの連結貸借対照表上で完全にまたは部分的に認識が中止される。

<金融資産の証券化>

当グループでは、主として資金源を分散し、流動性を高めるためおよび資本目的のために、クレジットカード債権、住宅担保ローンおよび商業用不動産担保ローンを定期的に証券化する。当グループはまた、当グループの売却およびトレーディング活動の一環として、住宅担保ローンおよび商業用不動産担保ローンを証券化する。

当グループは、クレジットカード債権を、連結している組成された企業を通じてリボルビング・ベースで証券化している。単身および家族住宅担保ローンは国民住宅法モーゲージ担保証券（NHA MBS）プログラムに基づいて証券化している。当グループは認識の中止の基準を満たさないため、当グループの証券化活動の大部分は、当グループの連結貸借対照表に計上されている。2020年度および2019年度において、当グループはNHA MBSプログラムを通じて証券化されたいかなる住宅担保ローンも認識を中止しなかった。詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記6および注記7を参照のこと。

また当グループでは、分散効果、レバレッジおよび債務回収率等一定の基準を満たした担保プールによって組成された企業（うち1つは当グループの出資による。）に売却することで、商業用不動産担保ローンを定期的に証券化している。商業用不動産担保ローンを証券化すると、証券化された資産の所有に係るほぼすべてのリスクと経済価値が移転するため、連結貸借対照表における認識は中止される。2020年10月31日に終了した年度中、当グループは469百万ドル（2019年10月31日に終了した年度は696百万ドル）の商業用不動産担保ローンを証券化した。譲渡された資産に対する当グループの継続的関与は、売却した一定の商業用不動産担保ローンのサービシングに限定される。2020年10月31日現在、これらの証券化活動に関しては、商業用不動産担保ローンが20億ドル（2019年10月31日現在は19億ドル）残っており、サービスが継続している。

<非連結の組成された企業への関与>

当グループは、顧客の金融資産の証券化、投資商品の作成およびその他のストラクチャード・ファイナンス等、顧客の資金調達需要および投資ニーズに応えるため、通常の営業過程で組成された企業との多様な金融取引を行っている。

当グループは、第三者保証、クレジット・デフォルト・スワップおよび担保等の信用リスク軽減ツールを用いて、証券化を通じて引き受けたリスクおよび再証券化エクスポージャーを軽減することができる。証券化および再証券化エクスポージャーの信用の質を監視するために用いるプロセスとして、その他の方法の中でも特に、原資産の実績データの評価を行っている。格付は四半期ごとに確認し、少なくとも年1回は新たな格付を正式に確認または決定する。リスク管理業務についての詳細は、「2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「リスク管理」の各項を参照のこと。

以下は、特定の重要な非連結の組成された企業に関する当グループの活動の記述である。連結および非連結の組成された企業に対する当グループの持分についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記7を参照のこと。

RBCが管理するマルチセラー・プログラム

当グループは、主として顧客の金融資産の証券化に使用されているマルチセラー・プログラムを管理している。顧客が当グループのマルチセラー・プログラムを活用する主たる理由は、資金源を分散するためおよび質の高い担保価値を利用して調達コストを抑えるためである。これらのプログラムは有利な収益の流れおよびリスク調整後収益を提供する。

当グループは、マルチセラー・プログラムに対して、取引のストラクチャリング、管理、バックストップ流動性ファシリティおよび部分的信用補完等のサービスを提供している。かかるすべてのサービスに対する収益は、当年度は合計277百万ドル（2019年10月31日現在は254百万ドル）となった。

バックストップ流動性ファシリティおよび信用補完ファシリティの形によるプログラムへのコミットメント総額は、下表に示すとおりである。これらのファシリティにおけるコミットメント総額は、購入契約に基づきプログラムが購入しなければならない可能性のある資産の最大総額を超過している。この結果、バックストップ流動性ファシリティおよび信用補完ファシリティの損失に対する最大エクスポージャーは、これらのファシリティのコミットメント総額を下回る。

流動性および信用補完ファシリティ				(表39)			
	2020年10月31日現在			2019年10月31日現在			
	約定済名目 金額 ⁽¹⁾	割当名目 金額	損失への 最大エクス ポージャー ⁽²⁾	約定済名目 金額 ⁽¹⁾	割当名目 金額	損失への 最大エクス ポージャー ⁽²⁾	
(単位：百万カナダドル)							
バックストップ流動性 ファシリティ	\$ 42,803	\$ 40,137	\$ 40,137	\$ 37,935	\$ 36,229	\$ 36,229	
信用補完ファシリティ ⁽³⁾	2,666	2,666	2,666	1,706	1,706	1,706	
合計	\$ 45,469	\$ 42,803	\$ 42,803	\$ 39,641	\$ 37,935	\$ 37,935	

(1) 約定済の融資限度合計に基づく。

(2) 上記表には、マルチセラー・プログラムの持分による損失への最大エクスポージャー総額を構成する、デリバティブ資産の公正価値60百万ドル（2019年10月31日現在は97百万ドル）が含まれていない。詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記7を参照のこと。

(3) 金融スタンドバイ信用状の2百万ドル（2019年10月31日現在は14百万ドル）が含まれる。

2020年10月31日現在、当グループが提供するバックストップ流動性ファシリティの想定元本は、前年度比49億ドル増すなわち13%増となった。前年度と比較した金額の増加は、主としてマルチセラー・プログラムの証券化資産残高の増加によるものである。当グループが提供する部分的信用補完ファシリティの想定元本は、前年度比960百万ドル増となった。前年度と比較した金額の増加は、主として信用補完ファシリティにおける利用可能額の算定方法が変更されたことによるものである。

顧客の種類別による損失への最大エクスポージャー

(表40)

(単位：百万)	2020年10月31日現在			2019年10月31日現在		
	米ドル	カナダドル	合計 カナダドル	米ドル	カナダドル	合計 カナダドル
証券化資産残高						
自動車およびトラックの						
ローンおよびリース	\$ 10,163	\$ 3,738	\$ 17,277	\$ 9,003	\$ 2,882	\$ 14,738
消費者ローン	2,869	-	3,823	2,150	-	2,831
クレジットカード	4,070	510	5,932	4,258	510	6,117
ディーラー在庫品担保債権	889	858	2,042	910	878	2,077
設備債権	2,349	-	3,129	1,479	-	1,948
フリート金融債権	715	245	1,197	602	306	1,099
保険料	216	428	716	213	286	566
住宅担保ローン	-	864	864	-	1,014	1,014
学資ローン	1,956	-	2,606	1,777	-	2,340
売掛金	2,445	-	3,258	2,338	-	3,079
トランスポートेशन・						
ファイナンス	1,394	102	1,959	1,498	153	2,126
合計	\$ 27,066	\$ 6,745	\$ 42,803	\$ 24,228	\$ 6,029	\$ 37,935
カナダドル換算額	\$ 36,058	\$ 6,745	\$ 42,803	\$ 31,906	\$ 6,029	\$ 37,935

当グループの全体的なエクスポージャーは、マルチセラー・プログラムの証券化資産残高の増加を反映して前年度比13%増となった。同様に、マルチセラー・プログラムの資産合計は、主として自動車およびトラックのローンおよびリース、設備債権ならびに消費者ローンの資産区分における増加を受けて、前年度比48億ドル増すなわち13%増となった。マルチセラー・プログラムの資産の大部分（前年度と同等）は、A以上の内部格付を有していた。非連結マルチセラー・プログラムによって資金を調達したすべての取引は、「信用リスク」の項の内部格付表にまとめられている格付システムを用いて、内部で格付を行っている。

マルチセラー・プログラムが行うすべての取引については、複数の独立債券格付機関が審査を行っている。米国のマルチセラー・プログラムが資金を調達する取引は、ムーディーズ・インベスターズ・サービス（ムーディーズ）、スタンダード&プアーズ（S&P）およびフィッチ・レーティングス（フィッチ）による審査を受けている。カナダのマルチセラー・プログラムにおける取引は、ドミニオン・ボンド・レーティング・サービス（DBRS）およびムーディーズによる審査を受けている。また、適格格付機関はそれぞれ、月1回、現行の取引の業績を検討し、プログラムに関するポートフォリオおよびプログラムの情報について詳述した報告書を発行することができる。

2020年10月31日現在、プログラムが発行した資産担保コマーシャル・ペーパー（ABCP）の総額は、前年度比346百万ドル減すなわち1%減の234億ドルとなった。マルチセラー・プログラムが発行したABCPの金額が前年度より減少したのは、主として顧客の利用が減少したことによるものである。ABCPの格付を行う格付機関は、発行総額の100%（2019年10月31日現在は100%）を最高区分に格付した。

ストラクチャード・ファイナンス

当グループは、短期優先債および劣後債の発行によって学資ローンに対する長期投資資金を調達する一部の信託の金利入札証券（ARS）に投資を行っている。2020年10月31日現在、これらのARS信託の損失に対する当グループの最大エクスポージャーは46百万ドル（2019年10月31日現在は60百万ドル）であった。当グループの損失に対する最大エクスポージャーの減少は、主として第三者へ売却および償還に関連していた。

当グループは、当グループが持分を有するが、テnder・オプション・ボンド（TOB）信託の発行する残りの証券を第三者が保有しているため連結していない特定の地方債TOB信託に対しても、流動性ファシリティを提供している。2020年10月31日現在、かかる非連結地方債TOB信託の損失に対する最大エクスポージャーは29億ドル（2019年10月31日現在は31億ドル）であった。前年度に比べ、損失に対する最大エクスポージャーが減少したのは、主として当年度を通じた第三者の信用の緊張緩和によるものであった。

当グループは、第三者が融資を受け、定期ローン担保証券（CLO）を発行するために設立した個別かつ非関連の組成された企業に対して、シニア・ウェアハウス・ファイナンスングを行っている。CLOの売却益の一部は、当グループが提供するシニア・ウェアハウス・ファイナンスングの完済に充てられる。2020年10月31日現在、当グループのシニア・ウェアハウス・ファイナンスング・ファシリティの残高に関する損失に対する最大エクスポージャーは88百万ドル（2019年10月31日現在は253百万ドル）であった。前年度と比較した損失に対する最大エクスポージャーの減少は、既存のファイナンスング・ファシリティの返済に関連している。

当グループは、第三者が融資を受けるために設立した非連結の組成された企業に対して、シニア・ファイナンスングを行っている。これらのファシリティは、CLOウェアハウス・ファシリティより長期化する傾向があり、複数の損失実績をカバーするように設計された信用補完の恩恵を受ける。2020年10月31日現在、当グループのシニア・ファイナンスング・ファシリティの残高に関する損失に対する最大エクスポージャーは、31億ドル（2019年10月31日現在は28億ドル）であった。前年度の損失に対する最大エクスポージャーの増加は、顧客使用の増加および新たなファイナンスング・ファシリティの追加によるものである。

投資ファンド

当グループは、主として顧客に対して参照ファンドの希望エクスポージャーを提供するために、ヘッジ・ファンドに対する投資を行っている。当グループが参照ファンドに投資することで、当該ファンドに対するエクスポージャーは、同時にデリバティブ取引を通じて顧客にも移転する。参照ファンドにおける損失に対する最大エクスポージャーは、当該ファンドに対する投資額を限度とする。2020年10月31日現在、損失に対する最大エクスポージャーは、23億ドル（2019年10月31日現在は18億ドル）となった。損失に対する最大エクスポージャーが前年度より増加したのは、第三者投資ファンドの保有額が増加したことによるものである。

当グループは、一部の第三者投資ファンドに対しても流動性ファシリティを提供している。これらのファンドは、無担保の変動配当優先株式を発行したり、免税債のポートフォリオに投資を行ったりしている。2020年10月31日現在、これらのファンドに対する最大エクスポージャーは、278百万ドル（2019年10月31日現在は275百万ドル）であった。

第三者証券化ビークル

当グループは、組成された企業である非連結第三者証券化ビークルに、持分を有している。当グループは、他の金融機関と同様、これらの事業体に対して、最大コミットメントを上限に資金提供を行う義務を有し、様々な信用補完を行った上で、対象となる資産の貸倒リスクを負う。2020年10月31日現在、これらの事業体における損失に対する最大エクスポージャーは104億ドル（2019年10月31日現在は107億ドル）であった。損失に対する最大エクスポージャーが前年度と比較して減少したのは、これらの事業体の証券化資産の減少によるものであるが、外国為替換算の影響により一部相殺された。これらの投資に関連して計上される受取利息および利息以外の収益は、112百万ドル（2019年10月31日現在は195百万ドル）であった。

<保証、リテールおよび商業コミットメント>

当グループは、顧客に対して保証およびコミットメントを提供しており、それにより、当グループは流動性リスクおよび資金調達リスクにさらされている。2020年10月31日現在、コミットメントおよび保証商品に関して支払わなければならない可能性のある最大額は、3,867億ドル（前年度は3,803億ドル）であった。前年度よりも増加したのは、主としてその他の与信、バックストップ流動性ファシリティおよび協賛会員保証のコミットメントの増加によるものであり、有価証券貸付補償を削減したことで一部相殺された。保証およびコミットメントについての詳細は、「流動性リスクおよび資金調達リスク」の項および下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記24を参照のこと。

リスク管理

当グループは、株主、顧客、従業員および社会に対して最大限の価値を創造することを目指しているため、金融サービス業に伴うリスクを管理している。リスク管理能力は、当行の重要な機能であり、当グループの強固なリスク管理行動およびリスクを意識した文化によってサポートされている。当グループのリスクに対する見識は、金融サービス業界における変化の速度を反映してダイナミックである。

概要

多様な事業モデルを展開する世界的な金融機関である当グループは、事業を保護し可能にする一助として、以下のリスク管理原則に従って様々なリスクを積極的に管理している。

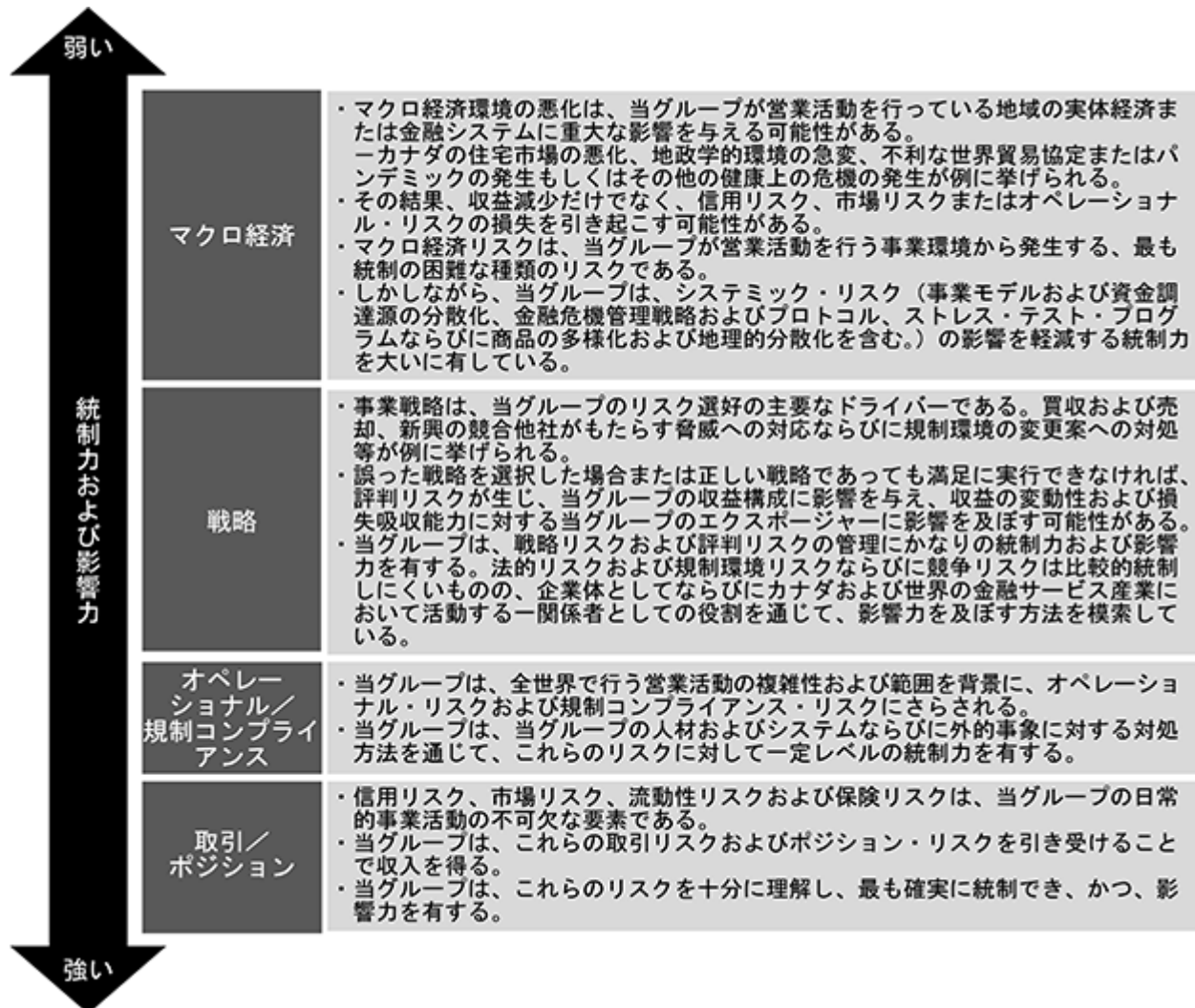
<リスク管理原則>

- ・持続可能な成長を可能にするため、リスクとリターンの効果的なバランスを取る。
- ・リスク管理責任を共有する。
- ・当グループの評判ならびに顧客、同業者および社会の信頼を維持するため、常に目的および展望を掲げ、当グループの価値観および行動規範に一貫して従う。
- ・当グループが理解しているリスクのみ引き受ける。リスクに関する決定は慎重に、かつ将来を考慮して行う。
- ・当グループのステークホルダーを保護するため、健全かつ厳格な統制環境を維持する。
- ・判断力および常識を用いる。
- ・潜在的な危機に対して常に経営上備えておき、財務上強靱である。

金融サービス業界の動的性質および技術革新により、当グループのプロセス、ツールおよび実務は絶えず改良を重ね、変化する情勢および新興リスクに対応する必要がある。当グループはこれを、効果的かつ進化するリスク管理アプローチを通じて達成するよう努めている。リスクを伴うあらゆる行為およびエクスポージャーは、取締役会の承認したリスク選好、リスク制限ならびに対応する資本および流動性要件の範囲内である。当グループは、事業活動および取引が、引き受けたリスクおよび負担した費用に見合う収益を生むよう徹底して努めている。当グループの組織設計およびガバナンス・プロセスにより、グループ・リスク・マネジメント（GRM）機能は、そのサポートする事業からの独立性が確保されるよう意図されている。

<リスク・ドライバー>

当グループのリスクの定義は、利益のダウンサイド・ボラティリティの生じる可能性または当グループの柔軟性に対するマイナスの影響が生じる可能性である。リスクは、期待利益に対する利益の変動、自己資本比率もしくは流動性に関する損失または望ましくない結果を通して認識される。主要なリスクには、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、保険リスク、オペレーショナル・リスク、規制コンプライアンス・リスク、戦略リスク、評判リスク、法的リスクおよび規制環境リスク、競争リスクならびにシステミック・リスクが含まれる。これらのリスクは、当グループが行使しうる統制力および影響力の程度に応じて、4つのカテゴリーに分類されている。これらのカテゴリーは、GRMによって管理され、すべての主要なリスクが反映されていることを確認するため定期的に見直される。この分類方法は、既存の事業、新規の事業、商品またはプロジェクトならびに買収および提携におけるリスクを特定および評価するための共通言語および規律を規定する。

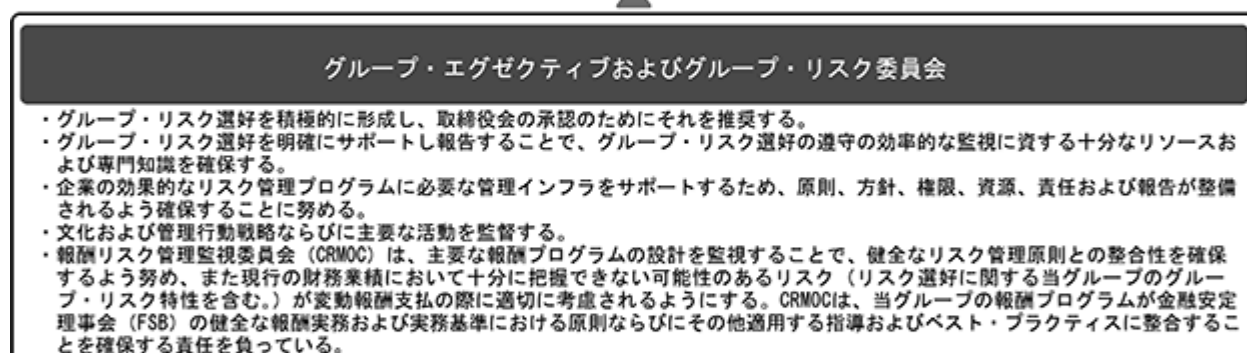
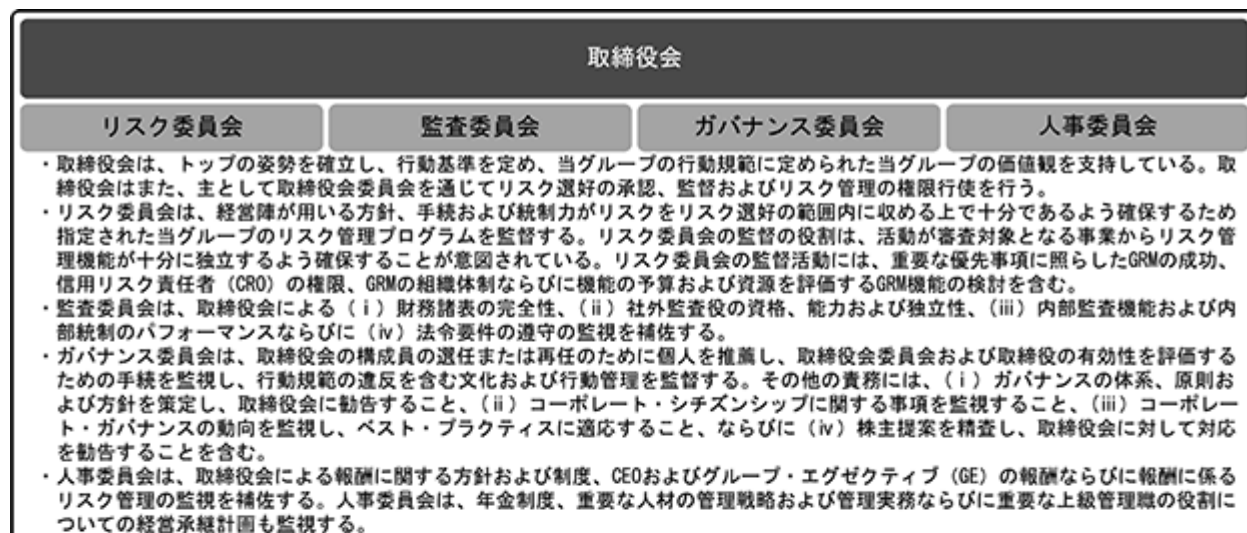


グループ・リスク管理

取締役会および上級管理職の監督の下、ERMFは、グループが直面する重大なリスクの特定、評価、測定、統制、監視および報告を含む、リスク管理に関するグループ規模のプログラム概要を規定する。

<リスク・ガバナンス>

当グループは、事業に影響するリスクが適時に特定され、適切に分類され、評価され、管理され、また取締役会に報告されていることを確認するため、効果的なガバナンス体系を確立している。リスク・ガバナンス体系は、OSFIの期待値、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）のコーポレート・ガバナンス原則ならびに当グループが営業活動を行う法域および事業におけるその他の規制当局による要件および期待値に沿い、かつ、業界の最良の慣行に従って、確立および整備されている。取締役会は、リスク管理体系の適用状況の監視を行い、組織内のあらゆる地位にある従業員は、その権限との関連で生じる日々のリスク管理に責任を有する。下記のとおり当グループは、戦略目標を達成するべく、グループ全体でリスクが適切かつ十分に管理されていることを確認することを目的とする、3つの防衛線ガバナンス・モデルを使用している。


[次へ](#)

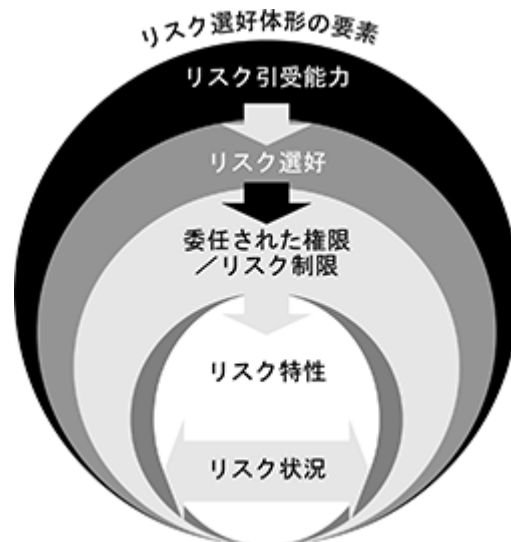
＜リスク選好＞

リスクを効果的に管理することで、利益の変動性、自己資本の充実もしくは流動性、評判リスクまたはその他のリスクに関する許容範囲を超える損失または望ましくない結果から当グループを保護しながら、グループ全体の事業戦略をサポートし可能にすることができる。そのためには、当グループのリスク選好（事業目的の追求に際して当グループが引き受ける能力および意思のあるリスクの金額および種類）を明確に策定する必要がある。これは、規制の範囲および制約内の水準に当グループ自ら設定したリスク引受上限を反映したもので、当グループのリスク管理理念、行動規範、取引慣行および資源配分に影響を与える。これは明確な境界線であり、組織が長く存続できるよう、リスクとリターンをトレード・オフするための全体的な方向性を設定する。

リスク選好は、戦略、財務および資本計画プロセスならびに継続的な経営意思決定プロセスに組み込まれ、取締役会が年1回これを見直し、承認する。

グループ・リスク選好体系（ERAF）は、当グループのリスク選好に対するアプローチの基本的な側面をまとめ、グループ、事業セグメント、事業ユニットおよび法人レベルに適用できる定量的および定性的リスク選好の内容ならびにそのサポート基準および関連する制約を決定し、組織全体に効果的なリスク選好判断を定着させるための当グループの要求および期待を述べている。

銀行への当グループのリスク選好の配分は、委任される権限またはリスク制限の確立によって支えられている。これらの委任された権限またはリスク制限は、事業ライン、ポートフォリオ、個人またはグループに認められるリスクの上限を表し、継続事業のガバナンスに使用される。目標、戦略および外的要素が変化した結果リスク特性に予測される変化を表すリスク状況は、リスク選好内で確実に戦略を実行できるよう経営陣が留意する可能性がある主要な分野について、見識を提供する際に使用される。



リスク選好の内容		
定量的説明		定性的説明
・通常時およびストレス時の状況において利益の変動性および将来の損失に対するエクスポージャーを管理すること。 ・リスクの過度な集中を回避すること。 ・オペレーショナル・リスクおよび規制コンプライアンス・リスクを確実に健全に管理すること。 ・自己資本の充実を確保し、流動性リスクおよび資金調達リスクを確実に健全に管理すること。 ・高い信用格付および競合グループの上位半分に入るリスク特性を維持すること。		・当グループが理解しているリスクのみ引き受ける。リスクに関する決定は慎重かつ将来を考慮し、環境および社会に配慮したものである。 ・持続可能な成長を可能にするため、リスクとリターンの効果的なバランスを取る。 ・当グループのステークホルダーを保護するため、健全かつ厳格な統制環境を維持する。 ・潜在的な危機に対して常に経営上備えておき、財務上強靱である。 ・当グループの評判ならびに顧客、同業者および社会の信頼を維持するため、常に目的および展望を掲げ、当グループの価値観および行動規範に一貫して従う。

＜リスク測定＞

リスクの定量化は、グループ規模のリスクおよび資本管理プロセスの主たる要素である。リスクの測定および計画プロセスは、ストレス・テスト、再建・破綻処理計画および信用損失引当金繰入等、グループの将来に関する予測および分析に組み込まれている。ファイナンスおよびリスクの各部門における組み込みの程度は、財務業績とリスクの実績のいずれを測定する際においても増え続けている。

信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよび保険リスクなど一部のリスクは、オペレーショナル・リスク、評判リスク、戦略リスク、法的リスク、ならびに規制コンプライアンス・リスクなどその他のリスクより、定量化が比較的容易である。定量化がより困難なリスクについては、全体的なリスク・レベルを測定するため、定性的リスク要因および業務評価をより重視している。さらに判断に基づくリスク指標およびストレス・テスト等の技法、ならびにシナリオおよび感応度分析をリスクの評価および測定に活用することができ、当グループはリスク指標およびリスク管理技法を絶えず進化させている。当グループの主なリスク測定方法には、以下のものがある。

- ・予想損失の定量化：一定期間中に業務を遂行した結果、統計的に発生が予測される損失を示す。
- ・予想外損失の定量化：一定期間における実際の利益と予想利益との乖離を推定する。

- ・ストレス・テスト：例外的であるが起こりうる経済または金融市場の有害事象に相当するリスク要因の特定の変化について、将来を考慮した視点を示し、その潜在的な影響を評価する。
- ・バックテスト：規制資本および経済資本の計算に用いるのに依然として適切であることを確認するために、現在用いられている見積予想パラメータと実際の数値を比較する。

ストレス・テスト

ストレス・テストは、当グループのリスク管理体系の重要な要素である。ストレス・テストの結果は、以下に利用される。

- ・長期的な事業計画および戦略の実行可能性の評価
- ・リスクのある収益および資本に関するリスク選好と比較したリスク特性の監視
- ・制限の設定
- ・自己資本水準および流動性水準ならびに財政状態が変わる可能性に対する主要なリスクの特定
- ・潜在的で不利な出来事に対して取りうる軽減策の理解促進
- ・自己資本水準および流動性水準の適切性の評価

グループ規模のストレス・テストは、リスク・エクスポージャーおよび利益の変動から生じる、主要な貸借対照表、損益計算書、レバレッジ、資本および流動性への影響を評価する。この結果は、取締役会、グループ・リスク委員会（GRC）および上級管理職リスク委員会が、ストレス下における業績達成要因を理解し、規制値および内部制限に照らしてストレス自己資本比率、ストレス・レバレッジ比率および流動性比率を検討するのに利用される。またこの結果は、自己資本充実度に関する内部評価プロセス（ICAAP）および資本計画の分析にも組み込まれる。

当グループでは、複数年分の多数のグループ規模のストレス・シナリオについて、多様な悪条件を設定し、評価を行っている。当グループの取締役会が提案シナリオを検討し、GRMがシナリオの評価プロセスを主導する。グループ内からの結果は集約され、GRM、コーポレート・トレジャリー、ファイナンスおよびエコノミクスにおける当該テーマの専門家からの意見を参考に、影響に対するグループ全体の見解がまとめられる。当グループのストレス・テスト・シナリオは概して、世界的な景気後退、株式市場の反落、負債比率の上昇、貿易政策、金利変動、不動産価格の調整および信用スプレッドやコモディティ市場へのショック等を取りわけ評価している。2020会計年度中、当グループのストレス・テストは特にCOVID-19パンデミックに対応して実施されており、複数のシナリオおよび感応度を通じて評価し、信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよび資本計画ならびにオペレーショナル・リスクの予測を通じて潜在的な影響を推定した。COVID-19パンデミックに起因する経済への未曾有の影響により、大多数のパラメータは即時に歴史的なストレス・レベルとなった。このため、より頻繁にストレス・テストを実施し、重要なストレス・ドライバーに注目した。手始めとして、マクロ経済および市場のパラメータにおけるストレスの高まり、および著しい悪化を反映して、シナリオを調整した。これと前後して、ショックが持続した場合および潜在的な回復手段を想定し、代替シナリオも策定した。

グループ規模の分析を補完およびサポートするものとして、市場リスク、流動性リスク、銀行勘定の金利リスク（IRRBB）、リテールおよびホールセール信用リスク、オペレーショナル・リスクならびに保険リスク等、個々のリスク・タイプについてのストレス・テストおよびシナリオ分析を現在実施している。これらのリスク別プログラムの結果は、リスク制限の設定、ポートフォリオ構成の評価、当グループのリスク選好の明確化および事業戦略の実施等、様々な意思決定プロセスに活用される。

現在実施中であるグループ規模およびリスク別のストレス・テスト・プログラムのほか、当グループが直面するリスクに関する理解を深めるため、臨時および逆ストレス・テストを行っている。臨時ストレス・テストは、特定のポートフォリオの変化する状況およびストレスをより詳しく調査するために用いる、1回限りの分析である。逆ストレス・テストは、深刻な結果を想定し、その結果につながりうるシナリオを解析し、リスクを特定し、リスクとリターンの境界線を理解する際に用いられる。

当グループでは、内部のストレス・テストに加え、規制当局が定める数々のストレス・テスト訓練にも複数の法域において定期的に参加している。

モデルのガバナンスおよび検証

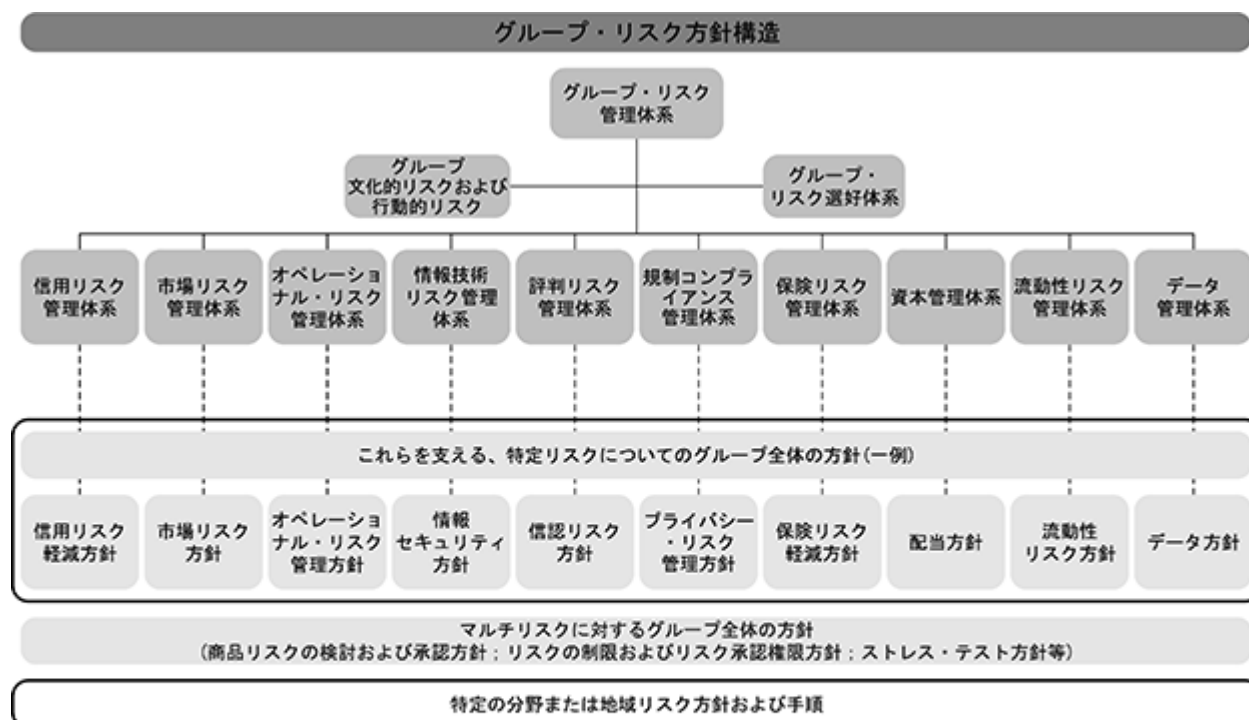
定量的モデルは、金融商品の評価、異なるタイプのリスクの特定、測定および管理、ストレス・テスト、自己資本比率の評価、事業およびリスクに関する決定の通知、内部制限の遵守確認、財務報告および規制要件の充足ならびに情報開示を含むがこれらに限定されない、様々な目的に使用される。

モデル・リスクとは、モデルのライフサイクルのあらゆる時点においてモデルを使用または誤用したことによって当グループの財務および／または評価に悪影響が生じるリスクであり、モデル・リスク・ガバナンスおよび監督体系を通じて管理される。ガバナンスおよび監督体系は、3つの防衛線ガバナンス・モデルを通じて実施され、モデル・リスク管理は各モデルのライフサイクルのすべての局面にわたる当該3つの防衛線を横断する共同責任である、という原則に基づいて策定されている。当グループは、組織のモデルにおいてAI手法およびアプリケーションの利用が増加していることを考慮し、ガバナンス・モデルを継続して改善している。

モデルは、使用前に、当グループのモデル・リスク管理機能（モデル・オーナー、開発者およびユーザーから独立した指揮系統を有するモデリング専門家チーム）による独自の検証および承認を受ける。この検証により、モデルが健全であり、意図された目的を実現しうることを確認するよう努める。使用前に独自に検証するほか、グループ・モデル・リスク管理機能は、モデル変更管理手続、継続的監督要件および各モデルが引き続き意図した目的を果たすことを保証するための年1回の評価等、モデルのライフサイクルにわたって統制を行う。

<リスク統制>

グループ規模のリスク管理アプローチは、ERMFに規定される広範囲にわたるリスク統制によってサポートされている。ERMFは、リスク管理に対する当グループのアプローチの基礎をなし、方針の策定および情報交換、正式かつ独自のリスク検討および承認プロセスの決定ならびに委任を受けた権限および制限の確立の期待値を設定する。ERMFは、取締役会の承認を受けたその他数々のリスク体系、それらに基づく様々な方針および広範囲にわたるリスク統制によって、さらに補強およびサポートされている。当グループのリスク体系およびこれをサポートする方針は、各リスクの特定、評価、測定、管理、軽減、監視および報告方法について方向性および見識を与える。グループ規模の方針は、最低限の要件とみなされ、事業グループおよび従業員が業務上従うべきパラメータを決定する。



リスク体系および方針文書の承認階層

- ☒ 取締役会または取締役会委員会
- ☐ 上級管理職委員会(ポリシー審査委員会、オペレーショナル・リスク委員会、資産負債委員会等)がその他方針を承認する。取締役会または取締役会委員会の承認が必要な場合(RBC行動規範、配当方針等)もある。
- ☐ 通常、業務または機能ユニットの管理/委員会による。重要なリスクが予測される場合は、グループ・リスク・マネジメントの承認が必要である。

委任された権限およびリスク制限

リスク選好は、戦略的かつ将来を見据えた事項を考慮するように設計されている一方、権限およびリスク制限は、日々の事業活動を管理し、監視するために用いられている。信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよび保険リスクに関する権限委任および制限は取締役会によって設定され、リスク選好および規制要件の範囲内で上級管理職に対して委任される。上級管理職は、権限の一部または全部を組織内の他の管理者に委任することができる。かかる委任された権限により、単一エクスポージャー、地理別エクスポージャーおよび業種別エクスポージャーならびに商品およびポートフォリオ・エクスポージャーを所定の範囲および制限内で承認することが可能となる。また、委任された権限は、集中リスクを管理し、トレーディングおよび投資銀行業務の引受け制限および残高制限を設定し、市場リスク許容を設定することにも用いられている。上級管理職の委任された権限を超える取引には、取締役会のリスク委員会の承認が必要となる。

リスクの検討および承認プロセス

リスクの検討および承認プロセスは、制御機構を提供し、当該リスクの内容、規模および複雑さに基づき、GRMにより策定される。同プロセスには通常、起案者とは独立した個人、グループまたは委員会による正式な審査および承認が含まれる。承認の責任は、取引、仕組信用、プロジェクトおよび戦略ならびに新商品およびサービスのカテゴリーに基づく制限の下、委任された権限およびリスクの制限に基づき、統治されている。

リスクの監視および報告

グループ規模セグメントおよび事業セグメントレベルのリスク監視および報告は、当グループのグループ・リスク管理プログラムの重要な要素であり、上級管理職および取締役会がリスク管理および監督責任を効果的に履行できるようサポートする。さらに、当グループは規制要件を遵守するため、リスク事項に関する外部報告書を多数提出している。四半期に一度、当グループは、上級管理職および取締役会のリスク委員会に対して、グループ・リスク報告書を提出している。この報告書は、特に最重要リスクおよび新興リスク、当グループのリスク選好に照らしたリスク特性、ポートフォリオの品質要求基準ならびに当グループが直面する様々なリスクについて、関連する問題、主要な傾向および（必要に応じて）経営陣の活動分析とともにまとめたものである。当グループは、年に一度、ベンチマーク・レビューを取締役に提出している。このレビューは、多様なリスク指標において当グループの業績と同業者とを比較し、同業者と比較した際の当グループの位置付けを客観的に測定する複合リスク・スコアカードを含む。定期的なリスク監視に加え、上級管理職および取締役会に対して、最重要リスクおよび新興リスクの問題または当グループのリスク特性の変化について、その他のリスク特有の説明および議論が行われる。

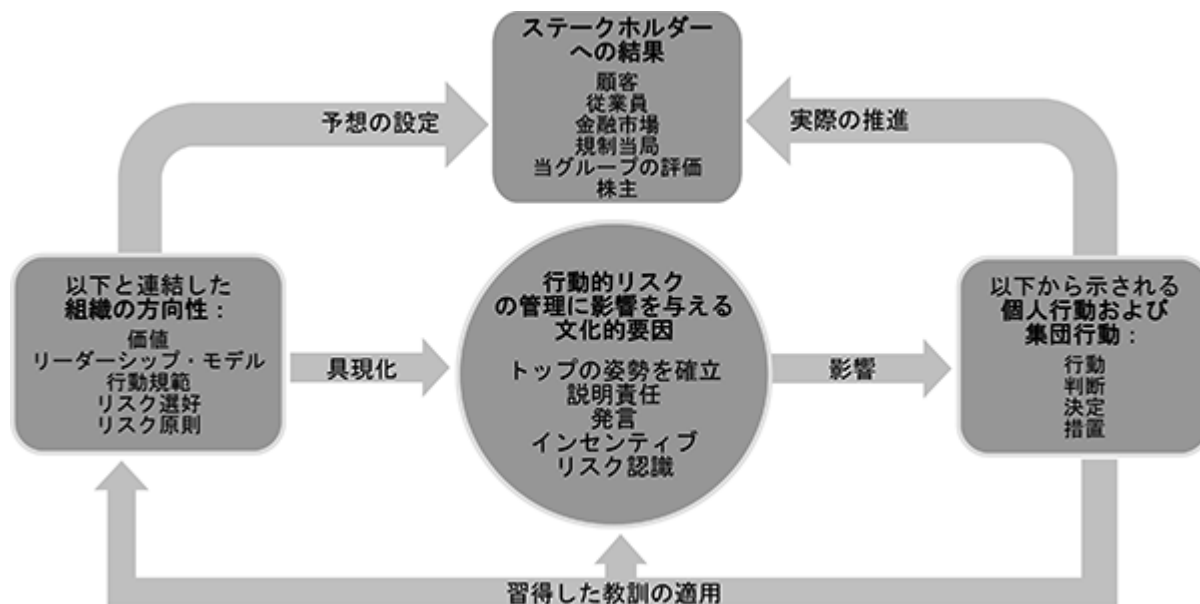
<文化的リスクおよび行動的リスク>

当グループの価値観は当グループの組織としてのリスク文化の姿勢を定め、行動規範およびリーダーシップ・モデルに明示された望ましい行動につながる。当グループではリスク管理行動の定義につき、当グループおよびその個人の行動、判断、決定および行為を通じた文化の表明であるとしている。当グループの傾向は、リスク管理行動による良好な結果への期待値を、当グループ、全従業員および当グループを代理して業務を行う第三者サービス・プロバイダーの業務基準として確立しており、これによって当グループがリスク管理行動を取ると当グループの顧客、従業員、ステークホルダー、金融市場および当グループの評価にプラスの結果が生じることになる。当グループは、顧客、投資家、同業者および社会の信頼を築くため、最も高い行動水準を維持している。文化慣行および管理行動を効果的に実践したことによる望ましい結果は、当グループの価値観と一致し、当グループのリスク選好内容を支えている。

リスク文化とは、当グループが個別にまたは共同でどのようにリスクを引き受け管理するかに影響を与える、当グループ全体の一連の文化である。当グループのリスク文化により当グループは、リスクの特定および理解、リスクについての率直な議論ならびに当グループの現在および認識される将来のリスクに関する行動が容易になる。当グループのリスク文化慣行は、当グループの既存のリスク管理ならびに人事の規範および手続に基づいている。効果的なリーダーシップおよび価値観の要素と相まったとき、これらの慣行は、結果としてのリスク文化およびリスク管理行動を評価、監督、維持および継続的に強化する基礎となる。

当グループの取締役会が承認したグループの文化的リスクおよび行動的リスクの枠組みは、組織の方向性を示し、顧客およびその他の利害関係者に対する公正な成果、説明責任およびリスク文化を含む文化、行動的リスク、販売行為および顧客慣行ならびに不正行為等のすべてのリスク・カテゴリーに適用可能な一連の関連トピックに対するアプローチを説明している。

経営陣は、従業員に対して定期的に行動の期待値を伝え、リスク管理行動および価値観を強調している。また当グループのリーダーシップ・モデルも、事業と管理機能の効果的なチャレンジをサポートし、これを奨励する。かかる行動の期待値は、行動規範を含む複数のオンライン・ツールおよびリソースによって支えられており、これらは従業員が当グループの価値観を実践し、不正行為を報告し、懸念を表明する一助となるように策定されている。当グループは、従業員が報復を受けず安全に報告できる環境づくりに積極的に取り組んでいる。従業員は、グローバルで匿名性のある管理行動ホットラインを通じて問題を報告することが可能である。さらに、当グループの行動規範は、信頼される人になること、他者を尊重することならびに法令および当グループの方針を遵守することは従業員の責務である、とまとめている。行動規範に違反した者または実際の違反もしくは違反の可能性について報告を怠った者は、是正措置または懲戒処分の対象となる。これは、戒告ならびに成績評価および報酬への影響から機関との雇用関係の終了まで多岐にわたる。



本書の以下の網掛け部分およびアスタリスク(*)のついた表は、IFRS第7号「金融商品－開示」に従って、信用リスク、市場リスクならびに流動性リスクおよび資金調達リスクについて開示したものであり、当グループのリスクの測定方法ならびにこれらのリスクの管理目的、方針および方法についての議論が含まれている。したがって、これらの網掛け部分およびアスタリスク(*)のついた表は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部を構成している。

取引リスク／ポジション・リスク要因

信用リスク

信用リスクとは、債務者が契約債務を適時に履行する能力または意思がない状態に関連する損失リスクであり、一次的債務者（発行者、債務者、契約相手方、借主または保険契約者等）のデフォルト・リスクによって直接発生する場合と、二次的債務者（保証人または再保険者等）によってオフバランス・シート・エクスポージャー、偶発信用リスク、関連信用リスクおよび／または取引リスクを通じて、間接的に発生する場合がある。信用リスクには、トレーディング活動および非トレーディング活動双方から生じるカウンターパーティ信用リスクが含まれている。

信用リスクの管理責任は、概して3つの防衛線ガバナンス・モデルに従って共有されている。取締役会は、リスク選考およびリスク制限を通じた信用リスクの承認権限を総裁兼CEOおよびCROに委任する。これらの権限を超越する信用取引は、取締役会のリスク委員会の承認を受けなければならない。日々の事業活動を円滑に行うため、CROは、必要に応じて、GRM、事業セグメントおよび機能ユニットの個人に対して、信用リスクの承認権限をさらに委任する権限を有する。

当グループは、信用リスクを管理するための以下の目標を設定することによりリスクとリターンのバランスを保っている。

- ・信用の質が成長を損なうものではないことを確認すること。
- ・取引、取引関係およびポートフォリオにおいて信用リスクを軽減すること。
- ・当グループの信用リスク格付および評価制度またはその他の承認された信用リスクの評価もしくは格付方法、方針およびツールを活用すること。

- ・引き受けた信用リスクに見合う価格設定を行うこと。
- ・効果的なシステムおよび管理を通じて不適切な信用リスクを感知し、防止すること。
- ・一貫した信用リスク・エクスポージャーの測定を行うこと。
- ・継続的に信用リスクを監視し、管理すること。
- ・必要に応じて、承認された信用リスク軽減手法（売却、ヘッジ、保険、証券化等）を用いて、信用リスクを第三者に移転すること。
- ・当グループの価値観、行動規範または方針と一致しない活動を回避すること。

企業信用リスク管理体系（ECRMF）は、企業内の信用リスクの管理のために存在する原則、方法、システム、役割および責任、報告ならびに統制を定めたものである。企業内の役割および責任、許容可能な実務、制限および主要な統制をさらに明確に分類するために策定された、追加の補足方針がある。

<信用リスクの測定>

当グループでは、利益の不安定さを制限し、当グループが十分な資本金を確保する目的で、予想信用損失を管理し、予想外損失を最小限に抑えるために、個人借主およびポートフォリオ・レベルの両方において、信用リスクを定量化している。

当グループでは、ホールセールおよびリテール信用ポートフォリオの信用リスクを測定および定量化するために様々なリスク測定方法を採用している。ホールセール・ポートフォリオは、企業、ソブリン、公共セクター事業体、銀行およびその他の金融機関ならびに特定の資産家および中小企業からなる。リテール・ポートフォリオは、住宅担保ローン、個人向けローン、クレジットカードおよび中小企業向けローンからなる。信用リスク格付制度は、信用活動に特有のリスクを正確かつ矛盾なく評価および定量化するよう設計されている。これによる格付および点数は、顧客レベルおよび取引レベルのリスクに関する意思決定のために用いられるほか、当グループのリスクの測定および資本の計算のための重要な情報として用いられる。

<経済資本および規制資本の測定>

当グループ内部のリスクを定量化したものである経済資本は、制限を設定するために用いられる。これはまた、内部自己資本充実度および保険会社へ自己資本を配分するためにも用いられる。保険セグメント以外の事業セグメントへの資本の配分方法は、規制要件に基づく。詳細は、「資本管理」の項を参照のこと。

信用リスクを測定し規制資本を設定するには、内部格付（IRB）手法および標準的手法の2つのアプローチがある。

主として当グループのカリビアン・バンキング業務およびシティ・ナショナルに適用される標準的手法では、信用リスク・エクスポージャーに関するRWAを計算するためにOSFIが定めたリスク・ウェイトに基づく。

IRB手法は、信用リスク・エクスポージャーの大部分に適用され、規制資本と経済資本の両方に対する信用リスク測定の基礎となる3つの主要なパラメータを用いる。

- ・デフォルト率（PD）：特定の格付に関して、または特定のエクスポージャー・プールに関して、借主が一定期間内にデフォルトに陥る可能性を表す推定率
- ・デフォルト時エクスポージャー（EAD）：デフォルト時に借主が支払義務を有すると推定される金額
- ・デフォルト時損失率（LGD）：回収・回復プロセスの中で回復を期待できないEADの推定率

これらのパラメータは、主として監督基準に従った内部信用リスク格付制度による経験に基づいて決定される。

各信用ファシリティには、主として、借主がデフォルトに陥った場合に予想される損失の範囲に影響を及ぼす要素に基づくLGD率が割り当てられる。こうした要素には、主として債務の優先順位、担保および借主の業種を含む。LGD率の見積もりは、主に内部損失記録に基づいている。内部損失記録が限られている場合には、見積もり過程で補足となる、適切な外部データも参照する。LGD率は、不況の際に優勢となり得る状況を反映するため、その過程において確認された情報制限および統計的不確実性を反映し、やや保守的に見積もられている。

EADの見積もりは、借主に対する現在のエクスポージャーならびに信用コミットメントの性質等の要素に応じた当該エクスポージャーの変化予測に基づいて行われている。LGD同様、当該率は、不況を反映するため、モデリング・プロセスにおいて確認されたデータおよび統計的不確実性を反映しやや保守的に見積もられている。

PD、LGDおよびEADの見積もりは、年に一度、検討された後に認証され、当行内の独立認証チームによって検証試験にかけられる。さらに、四半期ごとに、見積もりチームによってモニタリングおよび検証試験が実施される。これらの格付およびリスクの測定は、経済資本および規制資本、リスク制限の設定、ポートフォリオ管理ならびに商品の価格決定のみならず予想損失を決定するために用いられる。

財務および規制の測定の相違

予想損失モデルは、規制資本および会計の両方の目的に使用されている。両モデルにおいて、予想損失はPD、LGDおよびEADの積として計算される。ただし、現行のバーゼルおよびIFRSの報告体系には、以下を含む予想損失の見積もりが著しく異なる可能性のある大きな違いがいくつかある。

- ・バーゼルにおいてPDは、経済サイクル全体にわたる長期的平均に基づく。IFRSにおいてPDは、確率加重マクロ経済シナリオに基づきPDに影響を与えるであろう将来の状況の予測について調整した、現在の状況に基づく。
- ・バーゼルにおいてPDは、向こう12ヶ月間のデフォルト率を検討する。IFRSにおいてPDは、ステージ1の商品についてのみ、向こう12ヶ月間のデフォルト率を検討する。ステージ2の商品の予想信用損失は、全期間PDを使用して計算される。
- ・バーゼルにおいてLGDは、重大だが起こりうる景気後退に基づく。IFRSにおいてLGDは、確率加重マクロ経済シナリオに基づきLGDに影響を与えるであろう将来の状況の予測について調整した、現在の状況に基づく。

詳細は、「重要な会計方針および見積もり」の項を参照のこと。

信用リスク・グロス・エクスポージャー

信用リスク・グロス・エクスポージャーは、（i）貸出関係の信用リスクおよびその他の信用リスクまたは（ii）トレーディング関係の信用リスクに分類され、バーゼルⅢの枠組みに基づき計算される。この方法によると、すべての貸出関係の信用リスクとその他の信用取引およびトレーディング関係のレポ形式取引に係るEADは、担保は含まず、当該信用エクスポージャーに将来起こりうる変化の予測を踏まえて、計算される。規制要件に従い、デリバティブに関するEADは、担保を含めて算出している。

貸出関係の信用リスクおよびその他の信用リスクとは、

- ・貸出金および手形引受けの残高、未履行コミットメントならびに信用状および信用保証状等の偶発債務、FVOCIまたは償却原価で計上される債務証券および金融機関への預金を含むその他のエクスポージャー等である。未履行コミットメントは、契約金額のうち、債務者が不履行時に引き出す可能性のある推定金額をいう。

トレーディング関係の信用リスクとは、

- ・レポ取引には、買戻し条件付および売戻し条件付取引ならびに有価証券貸借取引が含まれる。レポ取引のグロス・エクスポージャーは、有価証券が最初に調達された金額（担保は含まない。）をいう。
- ・デリバティブ金額は、規制要因により調整された再調達原価および将来の想定信用エクスポージャーの追加金額としてOSFIが定めた信用相当額をいう。

<信用リスクの評価>

ホールセール信用リスク

ホールセール信用リスク格付制度は、当グループのホールセール貸付活動に固有の信用リスクを測定するよう設計されている。

各借主は、当該借主の信用の質の評価を反映した、借主リスク格付（BRR）を割り当てられる。各BRRは、それに対して測定されたPDを有している。BRRは、借主の危険性を区別し、3年という期間において、時宜にかなって借主が契約債務を返済する能力および意思があるかどうかについて、当グループが行った評価を表している。BRRの割り当ては、基礎的信用分析による債務者の事業リスクおよび財務リスクに対する評価ならびにデータ主体のモデル化に基づいている。各BRRに関するPDの決定は、2006年以降の内部デフォルト記録によるところが大きい。PDの試算は、規制要件に従い、経済サイクルに対する当グループの経験の長期平均となるように構成されている。

当グループの格付制度は、債務者を22の等級に分類するように作られている。下表は、当グループの22等級制内部リスク格付による対応順位を、S&Pやムーディーズの用いる外部格付と並べたものである。

内部格付表^{*}

(表41)

格付	PD帯域		BRR	S&P	ムーディーズ	分類
	事業および銀行	ソブリン				
1	0.0000% - 0.0300%	0.0000% - 0.0150%	1+	AAA	Aaa	投資適格
2	0.0000% - 0.0300%	0.0151% - 0.0250%	1H	AA+	Aa1	
3	0.0000% - 0.0350%	0.0251% - 0.0350%	1M	AA	Aa2	
4	0.0351% - 0.0475%		1L	AA-	Aa3	
5	0.0476% - 0.0650%		2+H	A+	A1	
6	0.0651% - 0.0875%		2+M	A	A2	
7	0.0876% - 0.1150%		2+L	A-	A3	
8	0.1151% - 0.1475%		2H	BBB+	Baa1	
9	0.1476% - 0.1925%		2M	BBB	Baa2	
10	0.1926% - 0.3170%		2L	BBB-	Baa3	
11	0.3171% - 0.5645%		2-H	BB+	Ba1	非投資適格
12	0.5646% - 0.9360%		2-M	BB	Ba2	
13	0.9361% - 1.5380%		2-L	BB-	Ba3	
14	1.5381% - 2.3030%		3+H	B+	B1	
15	2.3031% - 3.3460%		3+M	B	B2	
16	3.3461% - 6.7890%		3+L	B-	B3	
17	6.7891% - 10.2880%		3H	CCC+	Caa1	
18	10.2881% - 13.0635%		3M	CCC	Caa2	
19	13.0636% - 22.1820%		3L	CCC-	Caa3	
20	22.1821% - 99.9990%		4	CC	Ca	
21	100%		5	D	C	支払不能
22	100%		6	D	C	

* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

カウンターパーティ信用リスク

カウンターパーティ信用リスクは、当行が金融契約または非金融契約を締結した相手方が、契約上の合意を履行できず債務不履行となるリスクである。当該リスクは、契約時の価値だけでなく、市況の変化につれて価値がどう変動するかも考慮される。カウンターパーティ信用リスクは、通常、トレーディング関連のデリバティブ取引およびレポ取引において発生する。デリバティブ取引には、予約、先物、スワップおよびオプションが含まれ、金融デリバティブ（金利、為替、信用または株式等）または非金融デリバティブ（貴金属およびコモディティ等）のいずれかの基準となりうる。デリバティブ商品および信用リスクの軽減についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記8を参照のこと。

カウンターパーティ信用交換業務は、当グループの信用リスク管理方針文書の範囲内のECRMFおよび企業市場リスク管理体系（EMRMF）の関連要件ならびに適切な代理権に従って承認に沿う形で行われる。

カウンターパーティ信用リスクを交換する際の最も重要なリスク軽減テクニックは、クローズ・アウト・ネットティングおよび担保化である。クローズ・アウト・ネットティングは、債務不履行のカウンターパーティ間の契約上の債務の正味価値を検討することで、全体の信用エクスポージャーを削減する。担保化は、借主が資産を担保に入れ、不履行時の貸主に対する提供資金とする。これらのテクニックによるリスク軽減の認識に関して当グループが維持する方針は、以下を考慮している。

- ・国際スワップ・デリバティブ協会マスター・アグリーメントおよびクレジット・サポート・アネックス等の標準的な契約を使用すること。
- ・適格担保を適切な割引後の質の高い流動性資産、主として現金および高格付国債に限定すること。
- ・規制要件および内部リスク基準に従って当初証拠金および変動証拠金を使用すること。

同様に、証券金融およびレポ・トレーディング業務については、標準的な証券金融契約を使用して、および通常は適格流動証券の形で担保を受けることで、カウンターパーティ信用リスクを軽減する。

また当グループは、清算機関（CCP）の使用によってもカウンターパーティ信用リスクの軽減を行う。これらの厳しく規制された事業体が、参加する２者のカウンターパーティ間の取引を仲介し、当初証拠金および変動証拠金の使用ならびに参加者間におけるオフセット取引を相殺する能力によって、信用リスクを軽減する。個々のCCPに固有の構造および資本構成は、偶発資本の取決めを含め、カウンターパーティ信用リスクの内部格付およびカウンターパーティ信用リスクの適切な制限の決定の一環として分析される。

誤方向リスク

誤方向リスクは、カウンターパーティに対するエクスポージャーが、当該カウンターパーティの信用の質と負の相関にあるリスクをいう。誤方向リスクには次の２種類がある。

- ・個別誤方向リスクー特定のカウンターパーティに対するエクスポージャーが、当該カウンターパーティとの取引の内容（株式を担保とする貸出金または当該カウンターパーティもしくはその関係者が発行する債務等）により、当該カウンターパーティのPDと正の相関にあるときに存在する。個別誤方向リスクのある店頭（OTC）デリバティブ取引は、特例としてのみ行われるもので、GRMが事前に明示的に承認した場合にのみ許可される。かかる取引を審査する際に検討される要素は、当該カウンターパーティの信用の質、当該デリバティブの原資産の内容および信用リスクの軽減策の有無等である。
- ・一般誤方向リスクーカウンターパーティのPDと一般のマクロ経済的または市場要因とが正の相関にあるときに存在する。これは通常、デリバティブ（例えば、エクスポージャーの額が増加する。）または担保付取引（例えば、担保額が減少する。）とともに発生する。当グループは、ストレス・シナリオ、投資戦略の集中、カウンターパーティが現金および流動性を生み出しうるか否か、担保の流動性および融資期間等、様々な測定基準を使用して、一般誤方向リスクのあるカウンターパーティ信用リスクを監督している。

リテール信用リスク

信用度評価は、リテール・エクスポージャーについて、借主および取引リスクを評価するための主要なリスク格付制度である。評価モデルは、債務者を評価および「採点」し、将来の業績を予測し、既存の貸出および回収活動に関する制限を管理するために内部および外部のデータを利用する。信用度の点数は、新規顧客の獲得および既存顧客の管理において用いられる要素の1つである。債務者の信用度の点数は、独立した獲得行為または顧客管理行為ごとに予測される信用リスクを評価するために用いられ、判定者のための自動的な判断または指針となる。信用度評価は、与信判断の質、判定期間、与信決定手続の一貫性を向上させ、リスク・ベースの価格設定を促進する。COVID-19発生以来、当グループは、高度な分析およびポートフォリオの監視によって製品レベルの信用戦略を強化することで、当グループのリテール信用リスク手法を適用した。

リテール・リスク格付を行うために、債務者の点数は分類され、そしてさらにリスク格付の分類のため、PDとの関連付けが行われる。下表は、PD帯域からリテール・エクスポージャーに関する様々な要約リスク・レベルへのマッピングを概算したものである。

内部格付表 [*] (表42)	
PD帯域	分類
0.030% - 1.828%	低リスク
1.829% - 5.670%	中リスク
5.671% - 99.99%	高リスク
100%	支払不能／デフォルト

* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

<信用リスクの軽減>

当グループは、取引のストラクチャリングおよび担保の活用を含め、さまざまな方法を用いて信用リスク・エクスポージャーの軽減を追求する。

取引のストラクチャリング

取引のストラクチャリングについては、個別の与信の方針および手続においてその要件を定めている。リスクの軽減手段には、保証、担保、優先順位、ローン・トゥ・バリュー要件およびコベナントが含まれる。商品固有のガイドラインで、適切な商品のストラクチャリングならびに顧客および保証人の基準を設定している。

担保

通常、信用を供与する際、借主に対して担保の差入れを求めている。担保によるリスクの軽減度は、受け入れた担保の金額、種類および質に左右される。担保の評価および管理に関連する特定の条件は、当グループの信用リスク管理方針において記載されている。

当行の信用または売買ファシリティを安全に確保するための担保の種類は様々である。例えば、当グループの証券金融や担保付OTCデリバティブ業務については、主として現金や格付および流動性の高い国債ならびに機関債が担保として設定される。企業顧客に対するホールセール貸付については、多くの場合、売掛金や棚卸資産、営業資産および商業不動産等、当該企業の資産が担保に供される。カナディアン・バンキングおよびウェルス・マネジメントでは、担保は通常、不動産または公認の取引所における債務証券および株式ポートフォリオの取引に対する担保で構成される。

- ・不動産の評価には、リスク・ベースのアプローチを取っている。不動産の評価方法には、自動査定モデル（AVM）および鑑定評価が含まれる。AVMは、評価対象の不動産が所在する大都市統計圏に特有の、同等の不動産の売却および価格動向等の市場データを参照して、不動産の価値を評価するツールである。リスク・ベースのアプローチを用いて、走行する車からの鑑定または現場での完全鑑定等の鑑定評価も行っている。
 - ・当グループでは引き続き、住宅担保ローン・ポートフォリオ全体を積極的に管理し、失業率の上昇、金利の上昇および不動産市場の沈滞等の要素を組み合わせたストレス・テストを行う。
 - ・当グループは、ローン・トゥ・バリュー・パラメータおよび不動産評価要件をはじめとする、住宅担保ローンの引受実務を定める規制上の要件を遵守する。
- 期間中、担保または保有担保の質に関する当グループのリスク管理方針に、重要な変更はなかった。

<信用リスクの承認>

取締役会およびその委員会、GE、GRCおよびその他の上級管理職委員会は、連携して、信用リスクを管理し、関連する信用リスク制限を承認するためのECRMFならびにこれに伴う方針、プロセスおよび手続が整備されるようにする。取締役会、GRCおよび上級幹部に対して報告書が提出され、重要な信用リスク問題、エクスポージャーの変化およびリスクの傾向を含む、当グループのリスク特性についての情報を提供するとともに、必要に応じて適切かつ適時な措置を取れるようにする。グループ規模の信用リスク方針は、様々な債務者、取引およびポートフォリオ管理の状況において、信用リスクを管理するための最低限の要件を定めている。

取引の承認

信用取引は、経営陣に委任された制限を把握するリスク制限およびリスク承認権限に関する当グループのRBCのグループ方針ならびに個々の顧客関係レベルおよび／または取引レベルで信用リスクを管理するための最低限の基準をまとめた信用ルール方針により管理される。信用ルール方針は、適宜、事業および／または商品固有の方針ならびにガイドラインによってさらにサポートされる。取引の承認は、委任された承認権限に従うものとし、上級管理職の権限を超える場合は、取締役会のリスク委員会の承認を要する。

商品の承認

信用商品およびサービスの提案は、リスク評価体系に基づいて総合的に審査および承認され、リスク・レベルが上がると強化される承認権限に従う。新商品および改良商品は、すべてのリスク・ドライバー（信用リスクを含む。）について審査を受けなければならない。すべての既存商品は、リスク・ベースの評価アプローチに基づいて定期的な審査を受けなければならない。

信用リスク制限

- ・信用リスク権限は、取締役会が委任し、規制の制約および内部のリスク管理判断の両方を考慮している。制限は、単名制限、地域、国および業種制限（名目資本および経済資本）、大きなエクスポージャーの規制的制限、商品およびポートフォリオ制限ならびに引受および販売リスク制限について設定されている。これらの制限は、すべての事業、ポートフォリオ、取引および商品の枠を超えて適用される。
- ・当グループは、リスク選好との整合性を積極的に確保し、目標とする事業内容を維持し、また不当なリスク集中が存在しないようにするために信用エクスポージャーおよび信用制限を管理している。
- ・集中リスクは、大きなエクスポージャーから生じ、契約債務を履行する能力が、経済、政治その他のリスク・ドライバーの変化に同様に影響されるような高度に相関したリスクと定義される。
- ・信用集中制限は、事業、経済、金融および規制環境を考慮した後、定期的に審査されている。

<信用リスクの管理>

ローンの猶予

当グループ全体の債務者関係管理において、経済上または法律上の理由から、特定の顧客に対する貸出金について、当初の貸出条件を猶予する必要がある場合がある。当グループには、延滞または債務不履行に陥った債務者の管理を指導する専門グループおよび正式な方針がある。当グループは、回収率を最大化し、抵当流れ、担保差押えまたはその他の法的救済手段を回避するため、財政難の債務者の早期特定および貸出条件の修正に努めている。このような場合、債務者に対しては、通常は検討されない譲歩を行う可能性がある。リテール債務者に対する譲歩の例としては、金利引下げ、支払延期、元本免除および期限延長等がある。ホールセール債務者に対する譲歩には、支払延期、契約の改定、契約当初の条件の修正および／またはコベナントの緩和等がある。リテール貸出金およびホールセール貸出金のいずれについても、適切な救済方法は、個人債務者の状況、当行の方針ならびに新たな条件を履行する顧客の意思および能力に基づく。

<ポートフォリオ、部門および地域別信用リスク・エクスポージャー>

下表は、バーゼル規制の定義によるクラスに基づく信用リスク・エクスポージャーを示し、EADを反映している。当グループの部門分けは、産業別信用リスクに対する当グループの見解に即している。

ポートフォリオおよび部門別信用リスク・エクスポージャー

(表43)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在						
	信用リスク ⁽¹⁾			カウンターパーティ			エクスポージャー総額
	オフバランス・			信用リスク ⁽²⁾			
	シート金額 ⁽³⁾						
	オンバランス・	未履行	その他 ⁽⁴⁾	レポ取引	デリバティブ		
リテール	シート金額						
住宅担保 ⁽⁵⁾	\$ 338,653	\$ 88,728	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 427,381
適格リボルビング ⁽⁶⁾	24,328	67,779	-	-	-	-	92,107
その他のリテール	68,325	14,183	67	-	-	-	82,575
リテール総額	\$ 431,306	\$ 170,690	\$ 67	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 602,063
ホールセール							
農業	\$ 9,560	\$ 1,854	\$ 34	\$ -	\$ 108	\$ -	\$ 11,556
自動車	8,410	7,564	289	-	791	-	17,054
銀行業務	39,228	1,501	562	42,745	19,891	-	103,927
一般消費財	14,436	9,303	510	-	649	-	24,898
生活必需品	6,069	6,945	538	-	1,252	-	14,804
石油およびガス	7,800	10,779	1,600	-	2,492	-	22,671
金融サービス	32,853	22,257	3,256	109,772	21,162	-	189,300
金融商品	3,755	1,098	522	90	1,055	-	6,520
林産品	1,155	851	125	-	41	-	2,172
政府	245,204	4,727	1,624	43,806	6,963	-	302,324
工業製品	6,962	9,397	723	-	801	-	17,883
情報テクノロジー	4,632	5,073	257	13	3,898	-	13,873
投資	17,636	2,963	437	13	230	-	21,279
鉱業および金属	1,692	3,930	979	-	338	-	6,939
公共事業およびインフラ	1,345	2,007	340	-	239	-	3,931
不動産関係	72,006	13,729	1,573	-	1,180	-	88,488
その他のサービス	24,965	12,285	1,336	5	1,857	-	40,448
テクノロジーおよびメディア	4,987	7,451	83	-	1,752	-	14,273
輸送	7,492	5,612	1,533	-	1,714	-	16,351
公益事業	8,739	18,705	3,849	-	3,852	-	35,145
その他の部門	1,699	647	1	17	9,291	-	11,655
ホールセール総額	\$ 520,625	\$ 148,678	\$ 20,171	\$ 196,461	\$ 79,556	\$ -	\$ 965,491
エクスポージャー総額 ⁽⁷⁾	\$ 951,931	\$ 319,368	\$ 20,238	\$ 196,461	\$ 79,556	\$ -	\$ 1,567,554
地域別 ⁽⁸⁾							
カナダ	\$ 688,813	\$ 247,258	\$ 10,887	\$ 85,735	\$ 31,490	\$ -	\$ 1,064,183
米国	188,791	54,101	8,086	53,445	21,390	-	325,813
ヨーロッパ	40,331	15,450	1,131	43,287	21,537	-	121,736
その他の国々	33,996	2,559	134	13,994	5,139	-	55,822
エクスポージャー総額 ⁽⁷⁾	\$ 951,931	\$ 319,368	\$ 20,238	\$ 196,461	\$ 79,556	\$ -	\$ 1,567,554

2019年10月31日現在

(単位：百万カナダドル)	2024年12月31日現在						
	信用リスク ⁽¹⁾			カウンターパーティ			
				信用リスク ⁽²⁾			
	オフバランス・						
	オンバランス・	シート金額 ⁽³⁾				エクスポー	
	シート金額	未履行	その他 ⁽⁴⁾	レポ取引	デリバティブ	ジャー	総額
リテール							
住宅担保 ⁽⁵⁾	\$ 316,047	\$ 64,825	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	380,872
適格リボルビング ⁽⁶⁾	26,834	73,530	-	-	-	-	100,364
その他のリテール	61,095	13,927	72	-	-	-	75,094
リテール総額	\$ 403,976	\$ 152,282	\$ 72	\$ -	\$ -	\$ -	556,330
ホールセール							
農業	\$ 9,084	\$ 1,744	\$ 46	\$ -	\$ 79	\$ -	10,953
自動車	9,710	6,990	298	-	1,217	-	18,215
銀行業務	45,444	1,857	615	46,601	17,908	-	112,425
一般消費財	15,972	8,641	766	-	533	-	25,912
生活必需品	5,346	8,543	518	-	1,116	-	15,523
石油およびガス	8,165	10,661	1,390	-	1,551	-	21,767
金融サービス	30,194	21,023	2,749	118,239	16,688	-	188,893
金融商品	667	848	516	81	1,146	-	3,258
林産品	1,468	688	97	-	27	-	2,280
政府	105,011	8,120	1,432	8,228	7,214	-	130,005
工業製品	7,793	8,237	565	-	644	-	17,239
情報テクノロジー	4,604	5,704	229	9	2,355	-	12,901
投資	16,507	2,722	398	9	309	-	19,945
鉱業および金属	1,698	4,209	878	-	227	-	7,012
公共事業およびインフラ	1,738	1,769	397	-	192	-	4,096
不動産関係	61,178	12,372	1,374	-	728	-	75,652
その他のサービス	25,528	11,811	1,148	35	1,645	-	40,167
テクノロジーおよびメディア	4,855	9,645	109	-	1,872	-	16,481
輸送	5,390	6,557	2,141	-	1,844	-	15,932
公益事業	9,189	19,233	4,266	-	3,347	-	36,035
その他の部門	1,677	382	2	8	19,904	-	21,973
ホールセール総額	\$ 371,218	\$ 151,756	\$ 19,934	\$ 173,210	\$ 80,546	\$ -	796,664
エクスポージャー総額⁽⁷⁾	\$ 775,194	\$ 304,038	\$ 20,006	\$ 173,210	\$ 80,546	\$ -	1,352,994
地域別⁽⁸⁾							
カナダ	\$ 551,503	\$ 224,258	\$ 9,890	\$ 65,915	\$ 37,273	\$ -	888,839
米国	149,514	58,344	8,694	55,391	17,387	-	289,330
ヨーロッパ	41,860	18,600	1,258	40,529	21,644	-	123,891
その他の国々	32,317	2,836	164	11,375	4,242	-	50,934
エクスポージャー総額⁽⁷⁾	\$ 775,194	\$ 304,038	\$ 20,006	\$ 173,210	\$ 80,546	\$ -	1,352,994

(1) 標準的エクスポージャーに係るEADは、減損資産に係る引当金純額が報告され、エクスポージャーに基づくIRBに係るEADは、規制に関する定義に従い、信用損失引当金の全部および部分的な償却の総額が報告された。

(2) カウンターパーティ信用リスクEADは、ネットティング後のエクスポージャー金額を反映している。担保は、規制ガイドラインにより許可された範囲におけるレポ取引に係るEADに含まれる。上場デリバティブは、その他の部門に含まれる。

(3) 未履行信用コミットメントに係るEADおよびその他のオフバランス・シート金額は、クレジット・コンバージョン・ファクターの適用後に報告された。

(4) 信用状および信用保証状等のその他のオフバランス・シート・エクスポージャーを含む。

(5) 住宅担保ローンおよび住宅担保信用供与を含む。

- (6) クレジットカード、無担保信用供与およびオーバードラフト・プロテクション商品を含む。
- (7) 標準的手法またはIRB手法および米国政府が2020年度第2四半期に策定した給与保護プログラム（PPP）からのエクスポージャーの対象とならない証券化、銀行勘定資本およびその他の資産を除く。PPPについての詳細は、「重要な進展：COVID-19」の項を参照のこと。
- (8) 地理的分布は、債務者の居住する国を基準としている。

<2020年度と2019年度との比較>

信用リスク・エクスポージャー総額は、前年度比2,150億ドル増すなわち16%増となった。これは主として、バンク・オブ・カナダへの預金の増加、リテール・ポートフォリオおよびホールセール・ポートフォリオにおける貸出金および手形引受けの残高増加、有価証券の増加ならびにレポ取引の増加によるものである。

リテール・エクスポージャーは、主として住宅担保ポートフォリオの残高増加に牽引され、460億ドル増すなわち8%増となった。

ホールセール・エクスポージャーは、1,690億ドル増すなわち21%増となった。これは主として、主に資金および流動性管理業務に牽引され、バンク・オブ・カナダへの預金が増加し、国債およびレポ取引が増加したことによるものである。貸出金および手形引受けの残高増加も、この増加に寄与した。

信用リスク・エクスポージャーの地理的構成は、前年度からわずかに変化した。カナダ、米国、ヨーロッパおよびその他の国々における当グループのエクスポージャーは、それぞれ68%、21%、8%および3%（2019年10月31日現在はそれぞれ66%、21%、9%および4%）であった。

カナダにおける当グループのエクスポージャーは、前年度比1,750億ドル増すなわち20%増となった。これは主として、資金および流動性管理業務に牽引されたバンク・オブ・カナダへの預金の増加、ならびに住宅担保ポートフォリオの残高増加によるものである。

米国における当グループのエクスポージャーは、主として有価証券の増加ならびに貸出金および手形引受けの残高増加により、前年度比370億ドル増すなわち13%増となった。

ヨーロッパにおける当グループのエクスポージャーは、前年度比20億ドル減すなわち2%減となった。

その他の国々における当グループのエクスポージャーは、主として有価証券およびレポ取引の増加により前年度比50億ドル増すなわち10%増となった。

ヨーロッパに係る国別正味エクスポージャー⁽¹⁾⁽²⁾

(表44)

(単位：百万カナ ダドル)	2020年10月31日現在								2019年 10月31日 現在
	資産タイプ				顧客タイプ				合計
	貸出金 残高	有価 証券 ⁽³⁾	レポ取引	デリバ ティブ	金融機関	ソブリン	企業	合計	
英国	\$ 9,417	\$ 10,114	\$ 592	\$ 4,834	\$ 13,207	\$ 2,579	\$ 9,171	\$ 24,957	\$ 23,487
ドイツ	2,247	7,785	22	177	5,112	2,548	2,571	10,231	7,227
フランス	1,498	2,546	18	380	1,256	2,072	1,114	4,442	9,211
英国、ドイツ、 フランス合計	\$ 13,162	\$ 20,445	\$ 632	\$ 5,391	\$ 19,575	\$ 7,199	\$ 12,856	\$ 39,630	\$ 39,925
アイルランド	\$ 761	\$ 21	\$ 376	\$ 50	\$ 631	\$ 1	\$ 576	\$ 1,208	\$ 1,467
イタリア	114	114	-	17	55	82	108	245	821
ポルトガル	-	10	-	-	-	-	10	10	67
スペイン	266	215	2	37	109	21	390	520	520
周辺国合計	\$ 1,141	\$ 360	\$ 378	\$ 104	\$ 795	\$ 104	\$ 1,084	\$ 1,983	\$ 2,875
ルクセンブルグ	\$ 2,696	\$ 6,930	\$ 38	\$ 60	\$ 1,887	\$ 6,425	\$ 1,412	\$ 9,724	\$ 11,723
オランダ	1,406	754	22	216	607	7	1,784	2,398	2,250
ノルウェー	114	1,433	28	31	1,394	57	155	1,606	2,553
スウェーデン	153	1,747	-	20	863	910	147	1,920	2,225
スイス	827	5,239	149	192	562	5,031	814	6,407	5,308
その他	2,169	2,045	88	170	1,404	1,095	1,973	4,472	4,818
その他ヨーロッパ 諸国合計	\$ 7,365	\$ 18,148	\$ 325	\$ 689	\$ 6,717	\$ 13,525	\$ 6,285	\$ 26,527	\$ 28,877
ヨーロッパに対す る正味エク スポージャー⁽⁴⁾⁽⁵⁾	\$ 21,668	\$ 38,953	\$ 1,335	\$ 6,184	\$ 27,087	\$ 20,828	\$ 20,225	\$ 68,140	\$ 71,677

- (1) 地理的分布は国のリスクを基準としており、これは当グループによる当該エクスポージャーに関する地理的リスクの評価を反映している。通常、これは債務者の居住地である。
- (2) エクスポージャーは、公正価値ベースで担保を控除して計算されており、レポ取引に対する1,377億ドル（2019年10月31日現在は1,205億ドル）およびデリバティブに対する135億ドル（2019年10月31日現在は114億ドル）を含む。
- (3) 有価証券には、トレーディング有価証券53億ドル（2019年10月31日現在は94億ドル）、預金191億ドル（2019年10月31日現在は225億ドル）およびFVOCIとして認識された債務証券146億ドル（2019年10月31日現在は129億ドル）が含まれる。
- (4) 主にルクセンブルグに所在する、超国家機関に対する25億ドル（2019年10月31日現在は15億ドル）のエクスポージャーを除く。
- (5) クレジット・デフォルト・スワップによる軽減分14億ドル（2019年10月31日現在は10億ドル）を含むが、これは単名エクスポージャーおよび市場リスクをヘッジするために大部分が使われた。

<2020年度と2019年度との比較>

ヨーロッパに係る正味信用リスク・エクスポージャーは、前年度比35億ドル減すなわち5%減となった。これは主として、ヨーロッパの大部分においてトレーディング目的の有価証券が減少したことによる。フランスおよびルクセンブルグの中央銀行への預金の減少が、スイスおよび英国の中央銀行への預金の増加によって一部相殺されたことも、この減少に寄与した。これらの要素は、ドイツ、英国およびフランスを中心に貸出金残高が増加したことで、一部相殺された。

ヨーロッパの企業向けローン勘定は世界規模で管理されており、引受基準は、カナダおよび米国の両国において貸借対照表の使用に適用しているアプローチと同じものを反映している。貸出金に係るPCLは、当年度、303百万ドルであった。減損貸出金総額（GIL）は206百万ドル、GIL比率は、石油およびガス部門を含む複数の部門において前年度から51bps上昇し、95bpsであった。

<住宅担保ローンおよび住宅担保信用供与（付保および無保険）>

住宅担保ローンおよび住宅担保信用供与は、居住用財産を担保としている。下表は、地域別の内訳を表している。

住宅担保ローンおよび住宅担保信用供与								(表45)	
(単位：百万カナダドル（％の数値を除く。）)		2020年10月31日現在						住宅担保信用供与 合計	
		住宅担保ローン				合計			
		付保 ⁽¹⁾		無保険					
地域 ⁽²⁾									
カナダ									
大西洋州	\$	8,181	51%	\$	7,824	49%	\$	16,005	\$ 1,684
ケベック州		13,265	36		24,059	64		37,324	3,300
オンタリオ州		37,779	26		110,247	74		148,026	16,147
アルバータ州		21,245	52		19,300	48		40,545	5,830
サスカチュワン州およびマニトバ州		9,350	48		10,163	52		19,513	2,148
ブリティッシュ・コロンビア州および準州		14,491	25		43,383	75		57,874	7,926
カナダ合計 ⁽³⁾	\$	104,311	33%	\$	214,976	67%	\$	319,287	\$ 37,035
米国 ⁽⁴⁾		1	-		20,331	100		20,332	1,651
その他の国々 ⁽⁴⁾		-	-		2,978	100		2,978	1,282
国外合計	\$	1	-%	\$	23,309	100%	\$	23,310	\$ 2,933
合計	\$	104,312	30%	\$	238,285	70%	\$	342,597	\$ 39,968

2019年10月31日現在

(単位：百万カナダドル（％ の数値を除く。）)	住宅担保ローン						住宅担保信用供与			
	付保 ⁽¹⁾			無保険		合計	合計			
地域 ⁽²⁾										
カナダ										
大西洋州	\$	7,715	52%	\$	7,169	48%	\$	14,884	\$	1,838
ケベック州		12,385	36		22,091	64		34,476		3,512
オンタリオ州		36,195	28		92,947	72		129,142		16,585
アルバータ州		20,688	53		18,143	47		38,831		6,324
サスカチュワン州およびマ ニトバ州		8,951	49		9,238	51		18,189		2,363
ブリティッシュ・コロンビ ア州および準州		14,711	28		37,534	72		52,245		8,267
カナダ合計 ⁽³⁾	\$	100,645	35%	\$	187,122	65%	\$	287,767	\$	38,889
米国 ⁽⁴⁾		1	-		17,011	100		17,012		1,652
その他の国々 ⁽⁴⁾		5	-		3,307	100		3,312		1,373
国外合計	\$	6	-%	\$	20,318	100%	\$	20,324	\$	3,025
合計	\$	100,651	33%	\$	207,440	67%	\$	308,091	\$	41,914

(1) 付保住宅担保ローンとは、CMHCまたはその他の民間モーゲージ・デフォルト保険会社を通して、当グループの債務不履行に陥るエクスポージャーが保険により軽減されているモーゲージである。

(2) 地域は担保財産の所在地に基づく。大西洋州はニューファンドランド・ラブラドル州、プリンスエドワードアイランド州、ノバ・スコシア州およびニューブランズウィック州からなり、ブリティッシュ・コロンビア州および準州はブリティッシュ・コロンビア州、ヌナブト準州、ノースウエスト準州およびユーコン準州からなる。

(3) カナダの連結住宅担保ローン3,190億ドル（2019年10月31日現在は2,880億ドル）の大部分は、カナディアン・バンキングにおける住宅担保ローン2,910億ドル（2019年10月31日現在は2,630億ドル）および70億ドル（2019年10月31日現在は40億ドル）の保険付モーゲージを含む商業顧客向けモーゲージ100億ドル（2019年10月31日現在は70億ドル）ならびにキャピタル・マーケットにおける証券化目的で保有されている住宅担保ローン180億ドル（2019年10月31日現在は180億ドル）からなる。

(4) 住宅担保信用供与には、住宅担保ローンにより担保されるタームローンを含む。

住宅担保信用供与は無保険であり、個人向けローンのカテゴリーに含まれる。2020年10月31日現在、カナディアン・バンキングの住宅担保信用供与は、370億ドル（2019年度は390億ドル）であった。

<償却期間別住宅担保ローン・ポートフォリオ>

下表は、現在の顧客支払金額（最低契約金額を超える支払と最低契約金額より頻度の高い支払とを加えたもの）に基づき、残存償却期間別の住宅担保ローンの割合をまとめたものである。

償却期間別住宅担保ローン・ポートフォリオ				(表46)		
	2020年10月31日現在			2019年10月31日現在		
	カナダ	米国および その他の国々	合計	カナダ	米国および その他の国々	合計
償却期間						
25年以下	77%	35%	74%	72%	38%	70%
25年超 30年以下	22	65	25	24	62	26
30年超 35年以下	1	-	1	3	-	3
35年超	-	-	-	1	-	1
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

＜平均ローン・トゥ・バリュー（LTV）比率＞

下表は、新たにオリジネートまたは取得した無保険住宅担保ローンおよび無保険RBCホームライン・プラン[®]商品の平均LTV比率を地域別にまとめたものである。

平均LTV比率	(表47)			
	2020年10月31日に終了した年度		2019年10月31日に終了した年度	
	無保険		無保険	
	RBCホームライン・		RBCホームライン・	
	住宅担保ローン ⁽¹⁾	プラン®商品 ⁽²⁾	住宅担保ローン ⁽¹⁾	プラン®商品 ⁽²⁾
地域 ⁽³⁾				
大西洋州	74%	75%	74%	74%
ケベック州	73	73	72	73
オンタリオ州	71	68	70	68
アルバータ州	73	72	73	72
サスカチュワン州およびマニトバ州	74	75	74	74
ブリティッシュ・コロンビア州および準州	69	66	68	65
米国	72	n.m.	74	n.m.
その他の国々	69	n.m.	71	n.m.
当期中に新たにオリジネートまたは取得したものの平均 ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	71%	69%	71%	69%
カナディアン・バンキングの住宅担保ローン・ポートフォリオ合計 ⁽⁶⁾	57%	49%	57%	50%

(1) 住宅担保ローンは、RBCホームライン・プラン[®]商品に含まれる住宅担保ローンを含まない。

(2) RBCホームライン・プラン[®]商品は、住宅担保ローンおよび住宅担保信用供与の両方から構成されている。

(3) 地域は担保財産の所在地に基づく。大西洋州はニューファンドランド・ラブラドル州、プリンスエドワードアイランド州、ノバ・スコシア州およびニューブランズウィック州からなり、ブリティッシュ・コロンビア州および準州はブリティッシュ・コロンビア州、ヌナブト準州、ノースウエスト準州およびユーコン準州からなる。

(4) 新たにオリジネートまたは取得した無保険住宅担保ローンおよび無保険RBCホームライン・プラン[®]商品の平均LTV比率は、組成時のモーゲージ額による加重ベースで計算されている。

(5) 新たにオリジネートした住宅担保ローンおよびRBCホームライン・プラン[®]商品のLTVは、住宅担保ローンおよびRBCホームライン・プラン[®]商品に充てられた融資総額を当該居住用財産の価値で除して計算される。

(6) 住宅担保ローン残高による加重およびテラネットー国立銀行・全国総合住宅価格指数に基づく不動産価値での調整が行われている。

n.m. この欄は意味を持たない。

<信用の質の実績>

下記の信用の質の実績表およびその分析は、貸出金、手形引受けおよびコミットメントを含む貸出金ならびにその他の金融資産についての情報を提供するものである。

信用損失引当金繰入額		(表48)	
(単位：百万カナダドル（%の数値を除く。））		2020年10月31日に 終了した年度	2019年10月31日に 終了した年度
パーソナル&コマーシャル・バンキング	\$	2,875	\$ 1,470
ウェルス・マネジメント		212	117
キャピタル・マーケット		1,140	304
コーポレート・サポートおよびその他		4	-
PCL—貸出金	\$	4,231	\$ 1,891
PCL—その他の金融資産		120	(27)
PCL総額	\$	4,351	\$ 1,864
貸出金に係るPCLの構成：			
リテール	\$	1,071	\$ 133
ホールセール		1,560	67
バフォーミング・ローンに係るPCL	\$	2,631	\$ 200
リテール	\$	937	\$ 1,092
ホールセール		663	599
減損貸出金に係るPCL	\$	1,600	\$ 1,691
PCL—貸出金	\$	4,231	\$ 1,891
貸出金および手形引受け純額の平均に対する貸出金に係るPCLの割合			
		0.63%	0.31%
貸出金および手形引受け純額の平均に対する減損貸出金に係るPCLの割合			
		0.24%	0.27%
地域別の追加情報⁽¹⁾			
カナダ			
住宅担保ローン	\$	35	\$ 32
個人		395	488
クレジットカード		471	505
中小企業		49	36
リテール	\$	950	\$ 1,061
ホールセール		163	292
減損貸出金に係るPCL	\$	1,113	\$ 1,353
米国			
リテール	\$	5	\$ 12
ホールセール		377	223
減損貸出金に係るPCL	\$	382	\$ 235
その他の国々			
リテール	\$	(18)	\$ 19
ホールセール		123	84
減損貸出金に係るPCL	\$	105	\$ 103
減損貸出金に係るPCL	\$	1,600	\$ 1,691

(1) 地域別情報は債務者の居住地に基づく。

<2020年度と2019年度との比較>

PCL総額は、4,351百万ドルとなった。貸出金に係るPCLは、前年度比2,340百万ドル増すなわち124%増の4,231百万ドルとなった。これは、主としてパーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタル・マーケットおよびウェルス・マネジメントにおける引当金繰入額の増加によるものである。貸出金に係るPCL比率は32bps上昇し、63bpsとなった。

パフォーミング・ローンに係るPCLは、2,431百万ドル増の2,631百万ドルとなった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響による、パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタル・マーケットおよびウェルス・マネジメントにおける引当金繰入額の増加を反映している。

減損貸出金に係るPCLは、91百万ドル減すなわち5%減の1,600百万ドルとなった。これは主として、パーソナル&コマーシャル・バンキングにおける引当金繰入額の減少によるものであるが、キャピタル・マーケットにおける引当金繰入額の増加によって一部相殺された。

その他の金融資産に係るPCLは、前年度の(27)百万ドルに対して120百万ドルとなった。前年度は主としてパラメータの有利なアップデートによるパーソナル&コマーシャル・バンキングの回収額を反映していたのに対し、当年度は主としてCOVID-19パンデミックの影響によりキャピタル・マーケットの引当金繰入額が増加したことを反映している。

パーソナル&コマーシャル・バンキングにおける貸出金に係るPCLは、1,405百万ドル増となった。これは主として、主にCOVID-19パンデミックの影響によりマクロ経済的要素および当グループの信用の質の見通しに不利な変化があったことで、カナディアン・バンキングおよびカリビアン・バンキングのポートフォリオにおけるパフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加したことを反映している。これらの要素は、COVID-19パンデミックの影響に伴う政府の支援および支払猶予プログラムに関して、カナディアン・バンキングの商業ポートフォリオおよびリテール・ポートフォリオにおいて減損貸出金に係る引当金繰入額が減少したことで、一部相殺された。

ウェルス・マネジメントにおける貸出金に係るPCLは、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）を中心に95百万ドル増となった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響により、マクロ経済的要素および当グループの信用の質の見通しの両方に不利な変化があった結果、パフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加したことを反映している。

キャピタル・マーケットにおける貸出金に係るPCLは、836百万ドル増となった。これは主として、COVID-19パンデミックの影響により、当グループの信用の質の見通しおよびマクロ経済的要素に不利な変化があったため、パフォーミング・ローンに係る引当金繰入額が増加したことを反映している。主として当年度、石油価格に対する圧力を受けた石油およびガス部門における引当金繰入額、ならびに一般消費財部門およびその他のサービス部門における引当金繰入額により、減損貸付金に係る引当金繰入額が増加したことも、この増加に寄与した。これは、前年度に工業製品部門および公益事業部門の引当金繰入額が増加していたことで、一部相殺された。

減損貸出金総額 (GIL)

(表49)

	2020年10月31日	2019年10月31日
(単位：百万カナダドル (％の数値を除く。))	現在／終了した年度	現在／終了した年度
パーソナル&コマーシャル・バンキング	\$ 1,645	\$ 1,712
ウェルス・マネジメント	345	266
キャピタル・マーケット	1,205	998
コーポレート・サポートおよびその他	-	-
GIL総額	\$ 3,195	\$ 2,976
カナダ⁽¹⁾		
リテール	\$ 692	\$ 788
ホールセール	754	678
GIL	1,446	1,466
米国⁽¹⁾		
リテール	\$ 32	\$ 36
ホールセール	1,039	869
GIL	1,071	905
その他の国々⁽¹⁾		
リテール	\$ 216	\$ 272
ホールセール	462	333
GIL	678	605
GIL総額	\$ 3,195	\$ 2,976
減損貸出金期首残高	\$ 2,976	\$ 2,183
当期間中に減損として分類 (新規減損) ⁽²⁾	3,837	3,749
返済純額 ⁽²⁾	(1,498)	(657)
償却額	(1,681)	(1,776)
その他 ⁽²⁾⁽³⁾	(439)	(523)
減損貸出金期末残高	\$ 3,195	\$ 2,976
関連する貸出金および手形引受けに対するGILの割合		
関連する貸出金および手形引受けに対するGILの割合合計	0.47%	0.46%
パーソナル&コマーシャル・バンキング	0.33%	0.37%
カナディアン・バンキング	0.26%	0.29%
カリビアン・バンキング	4.59%	5.05%
ウェルス・マネジメント	0.41%	0.39%
キャピタル・マーケット	1.22%	1.02%

(1) 地域別情報は債務者の居住地に基づく。

(2) 返済純額およびその他変動は合理的に判断できないため、カナディアン・バンキングのリテールおよびホールセール・ポートフォリオの特定GIL変動は、ほとんど新規減損に割り当てられている。返済純額およびその他変動は合理的に判断できないため、カリビアン・バンキングのリテールおよびホールセール・ポートフォリオの特定GIL変動は、ほとんど返済純額および新規減損に割り当てられている。

(3) 当期間中のパフォーマンスへの回復、償却された貸出金および融資の回収、売却ならびに外国為替換算およびその他変動を含む。

＜2020年度と2019年度との比較＞

GIL総額は前年度比219百万ドル増すなわち7%増の3,195百万ドルとなり、全体のGIL比率は1bp上昇して47bpsとなった。これは、キャピタル・マーケットおよびウェルス・マネジメントにおける減損貸出金の増加が、パーソナル&コマーシャル・バンキングにおける減損貸出金の減少により一部相殺されたことを反映している。

パーソナル&コマーシャル・バンキングにおけるGILは、67百万ドル減すなわち4%減となった。これは主として、COVID-19関連の政府の支援および支払猶予プログラムの影響を反映したカナディアン・バンキングのリテール・ポートフォリオにおける減損貸出金の減少、ならびにカリビアン・バンキング・ポートフォリオにおける減損貸出金の減少によるものである。これらの要素は、主として不動産関係部門および一般消費財部門において、カナディアン・バンキングの商業ポートフォリオの減損貸出金が増加したことで、一部相殺された。

ウェルス・マネジメントにおけるGILは、79百万ドル増すなわち30%増となった。これは、USウェルス・マネジメント（シティ・ナショナルを含む。）の生活必需品部門およびインターナショナル・ウェルス・マネジメントの投資部門において、それぞれ減損貸出金が増加したことを反映している。

キャピタル・マーケットにおけるGILは、207百万ドル増すなわち21%増となった。これは主として、輸送部門、その他のサービス部門および一般消費財部門における減損貸出金の増加によるものであるが、公益事業部門における減損貸出金の減少によって一部相殺された。

信用損失引当金

(表50)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在	2019年10月31日現在
パーソナル&コマーシャル・バンキング	\$ 4,424	\$ 2,710
ウェルス・マネジメント	404	252
キャピタル・マーケット	1,281	455
コーポレート・サポートおよびその他	6	2
ACL—貸出金	\$ 6,115	\$ 3,419
ACL—その他の金融資産	147	45
ACL総額	\$ 6,262	\$ 3,464
貸出金に係るACLの構成：		
リテール	\$ 2,932	\$ 1,886
ホールセール	2,234	701
パフォーミング・ローンに係るACL	\$ 5,166	\$ 2,587
減損貸出金に係るACL	\$ 949	\$ 832

地域別の追加情報⁽¹⁾

カナダ		
リテール	\$ 164	\$ 187
ホールセール	220	172
減損貸出金に係るACL	\$ 384	\$ 359
米国		
リテール	\$ 1	\$ 1
ホールセール	267	141
減損貸出金に係るACL	\$ 268	\$ 142
その他の国々		
リテール	\$ 116	\$ 156
ホールセール	181	175
減損貸出金に係るACL	\$ 297	\$ 331
減損貸出金に係るACL	\$ 949	\$ 832

(1) 地域別情報は債務者の居住地に基づく。

<2020年度と2019年度との比較>

ACL総額は6,262百万ドルで、前年度比2,798百万ドル増すなわち81%増となった。これは主として、貸出金に係るACLが2,696百万ドル増加したことを反映している。

パフォーミング・ローンに係るACLは5,166百万ドルで、前年度比2,579百万ドル増となった。これは主として、パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタル・マーケットおよびウェルス・マネジメントにおいて、COVID-19パンデミックの影響によってACLが増加したことを反映している。

減損貸出金に係るACLは949百万ドルで、前年度比117百万ドル増となった。これは主として、キャピタル・マーケットにおけるACLの増加によるものであるが、パーソナル&コマーシャル・バンキングにおけるACLの減少により一部相殺された。

市場リスク

市場リスクとは、市場価格が当グループの財務状況に与える影響として定義される。これには、金利、信用スプレッド、株価、商品価格、為替レートおよび予想変動率等の市場決定指標の変動による潜在的な利益または損失が含まれる。

市場リスクの影響を受ける財務状況の測定は、以下のとおりである。

1. 再評価損益が収益に計上されるポジション。例えば、
 - a) FVTPLに分類または指定された商品の公正価値の変動
 - b) ヘッジの非有効部分
2. CET 1 資本。例えば、
 - a) 上記すべて
 - b) 再評価損益がOCIに計上される場合に、FVOCI有価証券の公正価値の変動
 - c) 外国子会社に対する投資のカナダドル価値の外国為替換算による変動（ヘッジを除く。）
 - d) 従業員給付制度損失の公正価値の変動
3. CET 1 比率。例えば、
 - a) 上記すべて
 - b) トレーディング市場リスク要因の変化によるリスク調整後資産（RWA）の変動
 - c) RWAのカナダドル価値の外国為替換算による変動
4. 当行の経済的価値。例えば、
 - a) 上記 1 および 2
 - b) 市場リスク要因の変動の結果として、その他の非トレーディング・ポジション、受取利息純額および手数料ベースの利益の経済価値の変動

<市場リスク管理－FVTPLの状況>

ERAFの要素として、取締役会は、当グループ全体の市場リスク引受能力を承認する。GRMはFVTPLの状況について、事業が取締役会の要求に基本的に従って行われるよう確保する統制構造を策定し、これを管理する。GRMの市場およびトレーディング信用リスク部門は、取締役会にて設定されたリスク選好引受能力とリスクが釣り合うことを確保する統制およびガバナンス手続の策定および管理に責任を負う。これらの統制には、以下に定義されるバリュー・アット・リスク、ストレス・バリュー・アット・リスクおよび増分リスク費用のような潜在的損失に関する推定的測定についての制限が含まれる。

バリュー・アット・リスク（VaR）は、一定の信頼度および所定の保有期間において計算した、金融ポートフォリオに想定される損失を測定する統計的テクニックである。当グループは、信頼度99%の百分位数として、過去2年間の市場データを均等に調整した実績シミュレーションを用いて、1日の保有期間における価格の変動についてVaRを測定している。これらの計算は、その時々リスクの状況に応じて毎日更新されるが、活発に取り立てられていない一部のさほど重要でない状況については少なくとも月に1回更新される。

ストレス・バリュー・アット・リスク (SVaR) は、VaRと同じ方法で計算されるが、直近2年間のデータの代わりに、極度に変動した1年間の固定実績データおよびその逆のシナリオを使用して計算される。使用するストレス期間は、2020年度第3四半期初めに更新され、世界金融危機に対する2008年度/2009年度の期間から、2020年度第2四半期に観測された市場ボラティリティに対する1年間に更新された。SVaRは、すべてのポートフォリオについて毎日計算されるが、活発に取引されていない一部のさほど重要でない状況については少なくとも月に1回更新される。

VaRおよびSVaRは、実績市場データに基づく統計的推定であり、以下を含む限界を知った上で解釈されるべきである。

- ・ VaRおよびSVaRは、実際の市場の動きが計算に用いた実績期間と著しく異なる場合、将来の損失を予測できない。
- ・ VaRおよびSVaRは、保有期間が1日である場合の潜在的損失を予測するものであり、それより長期間保有した場合のリスク・ポジションについては潜在的損失を予測できない。
- ・ VaRおよびSVaRは、営業終了時点のポジションを用いて測定されており、1日のうちに行われたトレーディング活動の影響は考慮していない。

当グループでは、トレーディング収益の実際の結果がVaRの予測を超過した事象を特定および調査するため、モデル開発者と無関係のグループにモデルを審査および検証させたり、毎日の時価評価差益と比較してVaRをバックテストしたり、様々な手段を用いてVaRおよびSVaRを検証している。

増分リスク費用 (IRC) は、発行者が取引した特定の債権商品のデフォルトまたは格付変更に伴う損失リスクを反映している。IRCは、1年間にわたり信頼度99.9%で測定され、一定レベルのリスクを仮定し、商品および発行者の集中に対して異なる流動性期間を反映する。測定されたリスク水準の変化は、主に、適用される債券トレーディング・ポートフォリオの棚卸資産の変化に関連する。

ストレス・テスト—当グループの市場リスク・ストレス・テスト・プログラムは、市場価格および金利が大きく変動することによるリスクを特定および統制するために使用される。値洗いポジションについては、毎日ストレス・テストを行う。ストレス・テストでは、深刻かつ長期間続いた実際の事象と仮想上の事象の両方について、シミュレーションを行う。実績に基づくシナリオは実際の市場の出来事から作成し、期間は90日までとする。例としては、2008年の世界金融危機および2013年のテーパー・タントラム・パニック等がある。仮想シナリオは、潜在的な将来の市場ストレスを見通すように作成されており、重大だが起こりうるシナリオとなっている。当グループでは、市況の変化に応じて、これらのシナリオを絶えず評価し改良している。ストレス結果は、当グループのポジションについて、経営陣の措置なく即時に再評価したと仮定して計算される。

これらの値は、財務報告の際にFVTPLにおけるすべてのポジションについて計算されるが、所定のヘッジ関係および保険業務のポジションについては例外とする。

<市場リスクの測定－FVTPLポジション>

市場リスクの測定 [*] (表51)									
(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日					2019年10月31日			
	現在	終了した年度				現在	終了した年度		
		平均	最高	最低			平均	最高	最低
株式	\$ 23	\$ 33	\$ 64	\$ 13	\$ 22	\$ 19	\$ 32	\$ 11	
外国為替	3	3	6	1	3	4	13	2	
コモディティ	3	3	7	1	2	2	4	1	
金利 ⁽¹⁾	47	54	178	11	13	14	19	11	
信用特有 ⁽²⁾	7	6	7	4	5	5	6	4	
分散 ⁽³⁾	(18)	(25)	n.m.	n.m.	(17)	(17)	n.m.	n.m.	
市場リスクVaR	\$ 65	\$ 74	\$ 232	\$ 18	\$ 28	\$ 27	\$ 45	\$ 15	
市場リスクSVaR	\$ 86	\$ 109	\$ 228	\$ 49	\$ 85	\$ 106	\$ 161	\$ 76	

* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

- (1) 一般的な信用スプレッド・リスクおよび無担保デリバティブに基づく資金調達スプレッド・リスクは、金利VaRにおいて含まれる。
- (2) 信用特有リスクは発行者個別の信用スプレッドの変動を反映している。
- (3) 市場リスクVaRの数値は、ポートフォリオの分散のため個別リスク要因VaRの数値の合計よりも小さくなっている。
- n.m. この欄は意味を持たない。

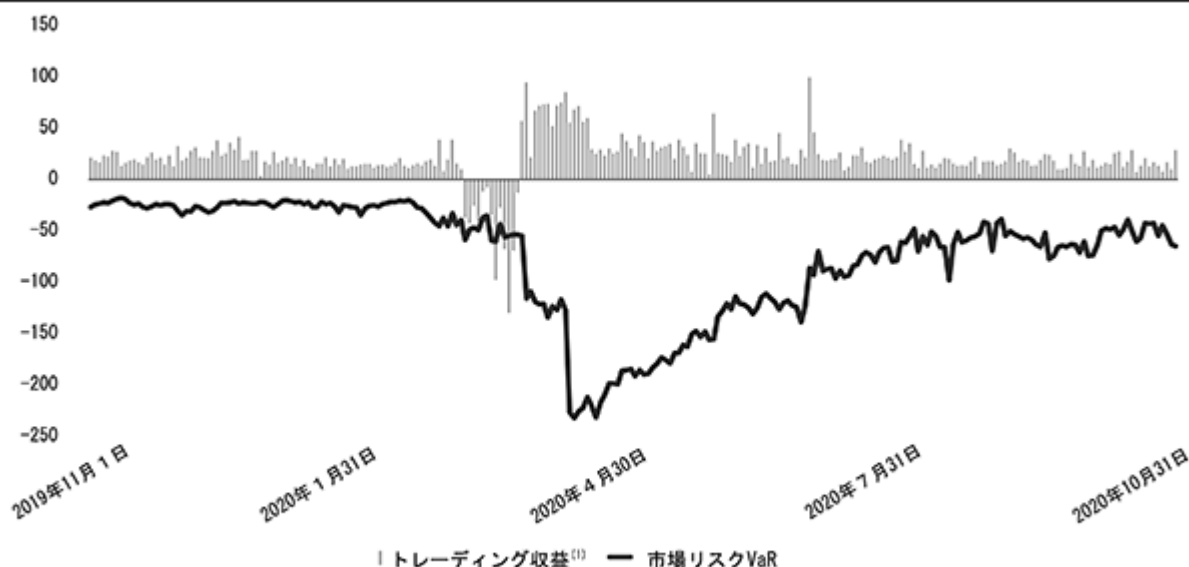
<2020年度と2019年度との比較>

平均市場リスクVaRは、前年度比47百万ドル増の74百万ドルとなった。これは主として、2020年4月に開始したヒストリカルVaR期間に含まれる2020年度第2四半期に、信用スプレッドが拡大し市場のボラティリティが高まったことの影響によるものである。これらの要素は、融資引受額ならびに債券および株式のポートフォリオに影響を与えた。下記のトレーディング収益およびVaRのグラフに示されているとおり、2020会計年度下半期、市場全体のボラティリティおよび信用スプレッドが回復した上、融資引受額が減少したことから、VaRレベルは低下した。

平均SVaRは、前年度比3百万ドル増の109百万ドルとなった。VaRと同様、SVaRも、2020会計年度は信用スプレッドの変化および市場全体のボラティリティの影響を受けており、前述「市場リスク管理」の項のとおり、SVaR期間は当年度アップデートされた。しかし、SVaRの計算に用いられるヒストリカル期間は市場ボラティリティの類似した期間を反映しているため、平均SVaRの増加は平均VaRの増加より小さい。

下図は、日次トレーディング損益を表した棒グラフおよび日次市場リスクVaRを表した線グラフである。主として2020年度第2四半期の著しい市場ボラティリティを受け、2020年度にトレーディング純損失が発生した日は13日であった。トレーディング純損失が発生したこれらの日数のうち4日は、VaRを超過した。

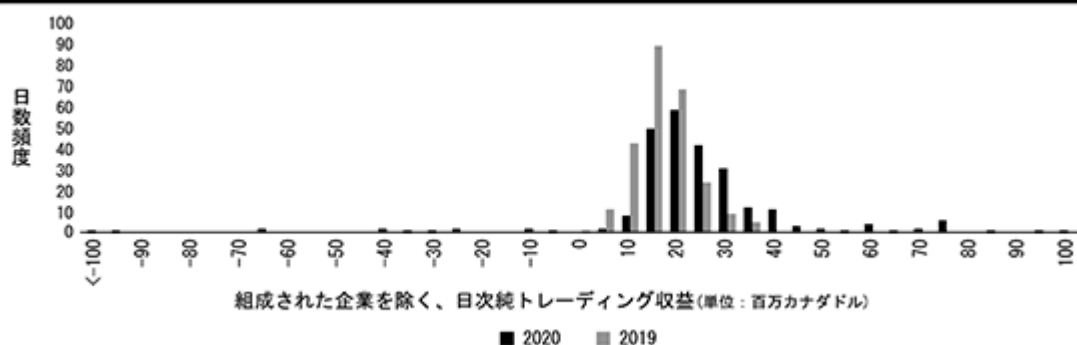
トレーディング収益⁽¹⁾およびVaR(単位: 百万カナダドル)



(1) 融資引受コミットメントを含む。

下図は、2020年度および2019年度における日次トレーディング損益の分布を表しており、2020年度中に上記で言及された13日の損失および2019年度中に1日の損失があった。報告された最大の利益は99百万ドル、平均日次利益は21百万ドルであった。

2020年10月31日に終了した年度のトレーディング収益⁽¹⁾ (teb)



(1) 融資引受コミットメントを含む。

<市場リスクの測定—RBCインシュアランス®の資産および負債>

当グループは、顧客に対して様々な保険商品を提供しており、保険契約者に対する将来の債務を履行するために投資を保有している。責任準備金の裏付けとなる投資は、大部分がFVTPLとして指定された債券資産である。このため、これらの資産の公正価値の変動は、連結損益計算書上に計上され、責任準備金の公正価値の変動によって大部分が相殺される（その影響は保険契約者の給付、保険金および新契約費に反映される。）。2020年10月31日現在、当グループは、122億ドル（2019年10月31日現在は114億ドル）の保険義務に係る債務の裏付けとして資産を保有していた。

<市場リスク管理－銀行勘定の金利リスク（IRRBB）・ポジション⁽¹⁾>

IRRBB活動は、主に、預金やローンといった旧来の顧客由来の銀行商品から生じ、流動性管理を目的として保有される証券から生じる金利リスクに加え、関連あるヘッジも含まれる。IRRBB発生の要因として、資産および負債のリプライシング日のミスマッチ、市場金利シナリオに応じて資産および負債の比率の相対的变化ならびにキャッシュ・フローの予想時期に影響を及ぼす可能性のあるその他の商品特性（ローンの繰上返済オプションまたは定期預金の契約満期以前の中途解約等）が挙げられる。IRRBBエクスポージャーは、制限および管理の対象であり、GRMによる独立した監督の下で定期的に測定され、報告される。

取締役会は、IRRBBについてリスク選好を承認し、資産負債委員会（ALCO）はGRMとともに、リスク政策、制限、運用基準その他の統制により、IRRBBの測定および管理に対する継続的監視を行う。IRRBBに係る報告は、GRM、ALCO、GRC、取締役会のリスク委員会および取締役会が、定期的に審査する。

(1) IRRBBポジションには、ヘッジ会計関係におけるデリバティブおよび金利リスク管理に用いるFVOCI有価証券の影響が含まれている。

<IRRBBの測定>

IRRBBの監視および統制のため、当グループは、一連の市場の動揺、シナリオおよび時間軸に基づき、2つの基本的財務指標として受取利息純額（NII）リスクおよび株式の経済価値（EVE）リスクの評価を行う。市場シナリオとしては、通貨固有の平行および非平行のイールドカーブの変動、金利変動ショックおよび規制当局の定める金利ショック・シナリオがある。

NIIリスクの測定にあたっては、市場ストレス・シナリオが予想NIIに及ぼす影響を判断するため、詳細な構造的貸借対照表および損益計算書が動的にシミュレーションされる。資産、負債およびオフバランス・シート・ポジションについて、様々な時間軸でシミュレーションが行われる。このシミュレーションは、繰上返済および繰上償還という行動とともに、商品の満期、更新および成長を組み込んだものである。商品の価格設定および取扱量は、過去の実績および所定の市場ストレス・シナリオに関する期待に基づく予測である。EVEリスクは、金利の変動に対する市場価値感応度を把握するものである。EVEリスクの測定にあたっては、決定論的（単一シナリオ）評価手法および確率論的（複数シナリオ）評価手法が詳細なスポット・ポジション・データに適用される。NIIリスクおよびEVEリスクは、極端ではあっても妥当な市場金利およびボラティリティの変動を織り込んだ一連の市場リスク・ストレス・シナリオに関して測定される。こうしたIRRBBの測定は、エクスポージャーを削減するための管理行動の恩恵を含まない。

NIIリスクおよびEVEリスクの管理は補完的なものであり、持続可能な高品質のNIIストリームの生産に向けた当グループの取組みをサポートする。特定の部門に関するNIIリスクおよびEVEリスクは、重要性、複雑性およびヘッジ戦略に応じて日次、週次または月次に測定される。

NIIリスクおよびEVEリスクの測定に使用されるモデルは、キャッシュ・フロー、商品のリプライシングおよび利率の管理に影響を及ぼす多数の仮定を前提としている。主要な仮定は、モーゲージの金利約定に関する予想される調達概要、固定金利ローンの繰上返済という行動、定期預金の解約という行動および満期のない預金の取扱いに関するものである。すべての仮定は、過去の顧客の行動および商品の価格設定に基づき経験的に導かれており、可能な将来の変化を考慮したものである。IRRBBの測定に用いられるすべてのモデルおよび仮定は、GRMによる独立した監督の対象となる。

<市場リスク基準－IRRBBの感応度>

下表は、さらなるヘッジを行わないという前提で、即時かつ持続的な100bpsの利上げまたは利下げが、予測12ヶ月NIIおよびEVEに与える潜在的な税引前の影響を示したものである。金利下降シナリオには金利の下限が適用され、主要通貨のEVE評価およびNIIシミュレーションの金利水準が最低平均水準であるマイナス25bpsを下回らないようになっている。金利リスク基準は、特定時期における金利エクスポージャーに基づいており、事業活動および管理行動に応じて徐々に変化している。

市場リスク－IRRBBによる測定 [*]							(表52)	
(単位：百万カナダドル)	2020年						2019年	
	EVEリスク			NIIリスク ⁽¹⁾			EVEリスク	NIIリスク ⁽¹⁾
	カナダドルの影響	米ドルの影響	合計	カナダドルの影響	米ドルの影響	合計		
	カナダドルの影響	米ドルの影響	合計	カナダドルの影響	米ドルの影響	合計		
税引前の影響：								
100bpsの利上げ ⁽²⁾	\$(1,486)	\$ (270)	\$(1,756)	\$ 571	\$ 247	\$ 818	\$(1,356)	\$ 479
100bpsの利下げ ⁽²⁾	1,145	176	1,321	(472)	(149)	(621)	920	(637)

* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

(1) 金利の即時かつ持続的变化に対する12ヶ月間のNIIエクスポージャーを表す。

(2) IRRBBの100bpsの利上げおよび利下げシナリオは、2020年1月1日付で施行されたOSFIのB-12：金利リスク管理ガイドラインに従って、予想基準で更新された。これにより、2020年度において、キャピタル・マーケットおよびトレジャリーから生じるEVEリスクおよびNIIリスクは、インベスター&トレジャリー・サービスの銀行勘定活動に含まれた。

2020年10月31日現在、即時かつ持続的な-100bpsの金利下落ショックが発生した場合、当グループのNIIに621百万ドルのマイナスの影響があったものと予想され、前年度の637百万ドルから減少している。2020年10月31日現在、即時かつ持続的な+100bpsの金利上昇ショックが発生した場合、当行のEVEに1,756百万ドルのマイナスの影響があったものと予想され、前年度に報告された1,356百万ドルから増加した。前年度比の変動で見たNIIの感応度は、主として企業預金およびリテール預金の成長に起因したが、前年度比の変動で見たEVEの感応度は、主として当行の簿価資本ベースの増加によるものである。2020年度中のNIIリスクおよびEVEリスクは、承認限度内に収まった。

＜市場リスクの測定－その他の重要な非トレーディング・ポートフォリオ＞

FVOCIで計上される投資有価証券

当グループは、2020年10月31日現在、FVOCIで計上される投資有価証券を819億ドル（前年度は577億ドル）保有していた。当グループは、主に投資として、またトレーディング目的以外の銀行業務に関する貸借対照表において流動性リスクの管理および金利リスクのヘッジを目的として、FVOCIで計上される債務証券を保有している。2020年10月31日現在、FVOCIで計上される投資有価証券のポートフォリオは金利に敏感で、7百万ドルの税引前価値変動（イールドが1bp同時に上昇した場合の当該有価証券の価値変動で測定される。）がOCIに影響を与えうる。また同ポートフォリオにより、20百万ドル（税引前）の価値変動という信用スプレッド・リスク（信用スプレッドが1bp拡大した場合の価値変動で測定される。）も有している。当グループのIRRBBの測定に含まれるFVOCIで計上される投資有価証券の価値は、2020年10月31日現在、790億ドルであった。またFVOCIで計上される投資有価証券には、2020年10月31日現在、5億ドル（前年度は4億ドル）の株式エクスポージャーが含まれている。

非トレーディング為替リスク

為替リスクとは、為替相場の変動が、当グループの収益および経済価値に与える潜在的なマイナスの影響をいう。カナダドル以外の通貨建ての収益、費用および利益は、当該通貨の平均値に対するカナダドルの平均値の変動により影響を受ける。当グループの最も重要なエクスポージャーは、米国において行う事業およびその他の業務も米ドル建てで行っていることを考慮して、米ドルである。その他の重要なエクスポージャーは、英ポンドおよびユーロ建てでも国際的に業務を行っているため、英ポンドおよびユーロに対するエクスポージャーである。カナダドルが米ドル、英ポンドおよびユーロに対して上昇または下落すると、外貨建ての収益、費用および利益の換算後の金額は減少または増加し、当グループの業績に重大な影響を与える可能性がある。また当グループは、在外営業活動体に対する投資から発生する為替リスクにもさらされている。ヘッジされていない株式投資の場合、カナダドルがその他の通貨に対して上昇すると、対外純投資に係る未実現為替差損がその他の資本項目を通じて株主資本を減少させ、外貨建て資産のうちRWAの換算後の金額を減少させることになる。カナダドルがその他の通貨に対して下落すると、逆の現象が起こる。したがって、当グループでは、在外営業活動体に対する投資のうちヘッジすべき適正水準を決定する際、これらの影響を考慮している。

非トレーディング業務に関連するデリバティブ

デリバティブは、当グループのトレーディング活動に関連しない市場リスク・エクスポージャーをヘッジするためにも利用される。必要に応じてヘッジ会計が選択されている。かかるデリバティブは、当グループのIRRBBの測定およびその他の内部非トレーディング市場リスクの測定に含まれる。当グループでは、IRRBB、資金調達および投資業務の管理に金利スワップを利用している。金利スワップは、一部の固定利付資産の公正価値の変動をヘッジするためにも利用される。また、外貨建て、特に米ドル、英ポンドおよびユーロ建ての子会社に対する株式投資に対するエクスポージャーの管理には、為替デリバティブも利用している。

ヘッジ会計の適用およびヘッジ活動におけるデリバティブの利用についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2および注記8を参照のこと。

＜市場リスクと主要な貸借対照表項目との関連＞

下表は、トレーディング市場リスクの開示と非トレーディング市場リスクの開示とに含まれるポジションを有する主要な貸借対照表項目の関連を表し、当グループが異なるリスクを測定することによって資産および負債の市場リスクをいかに管理しているかも示している。

市場リスクと主要な貸借対照表項目の関連 (表53)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在			
	貸借対照表上の 計上額	市場リスクの測定		市場で取引されないリスクの 主なリスク感応度
		市場で 取引される リスク ⁽¹⁾	市場で取引 されない リスク ⁽²⁾	
市場リスクの影響を受ける資産				
現金および預け金	\$ 118,888	\$ -	\$ 118,888	金利リスク
利付銀行預け金	39,013	21,603	17,410	金利リスク
有価証券				金利リスク、 信用スプレッド・リスク
トレーディング	136,071	124,884	11,187	金利リスク、信用スプレッド・リスク、株式リスク
投資（適用引当金控除後）	139,743	-	139,743	
売戻し条件付購入資産および借入有価証券				
担保金	313,015	264,394	48,621	金利リスク
貸出金				
リテール	457,976	10,392	447,584	金利リスク
ホールセール	208,655	6,855	201,800	金利リスク
貸倒引当金	(5,639)	-	(5,639)	金利リスク
個別分離運用型基金資産純額	1,922	-	1,922	金利リスク
その他				金利リスク、 外国為替リスク
デリバティブ	113,488	109,175	4,313	金利リスク
その他の資産	90,937	6,475	84,462	
市場リスクの影響を受けない資産⁽³⁾	10,479			
資産合計	\$ 1,624,548	\$ 543,778	\$1,070,291	
市場リスクの影響を受ける負債				
預金	\$ 1,011,885	\$ 107,450	\$ 904,435	金利リスク
個別分離運用型基金負債	1,922	-	1,922	金利リスク
その他				
空売りした有価証券に関連する債務	29,285	29,285	-	
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	274,231	255,922	18,309	金利リスク
デリバティブ	109,927	108,147	1,780	金利リスク、 外国為替リスク
その他の負債	86,994	8,977	78,017	金利リスク
劣後無担保社債	9,867	-	9,867	金利リスク
市場リスクの影響を受けない負債⁽⁴⁾	13,670			
負債合計	\$ 1,537,781	\$ 509,781	\$1,014,330	
資本合計	\$ 86,767			
負債および資本合計	\$ 1,624,548			

- (1) 市場で取引されるリスクは、FVTPLに分類または指定されるポジションおよび再評価利益または損失が収益に計上されるポジションを含む。市場で取引されるリスクのリスク管理のため、VaR、SVaR、IRCおよびストレステストにおける市場リスク測定が用いられる。
- (2) 市場で取引されないリスクは、IRRBBおよびその他の非トレーディング・ポートフォリオの管理に用いられるポジションを含む。その他の重要な非トレーディング・ポートフォリオには、RBCインシュアランス®によるポジションおよびIRRBBに含まれない投資有価証券（適用引当金控除後）が含まれる。
- (3) 市場リスクの影響を受けない資産は、物的資産およびその他の資産10,479百万ドルを含む。
- (4) 市場リスクの影響を受けない負債は、給与関係およびその他の負債13,670百万ドルを含む。

2019年10月31日現在

		市場リスクの測定			
		市場で	市場で取引		
		取引される	されない		
(単位：百万カナダドル)		リスク ⁽¹⁾	リスク ⁽²⁾	市場で取引されないリスクの 主なリスク感応度	
貸借対照表上の 計上額					
市場リスクの影響を受ける資産					
現金および預け金	\$ 26,310	\$ -	\$ 26,310	金利リスク	
利付銀行預け金	38,345	22,287	16,058	金利リスク	
有価証券					
トレーディング	146,534	136,609	9,925	金利リスク、 信用スプレッド・リスク	
投資（適用引当金控除後）	102,470	-	102,470	金利リスク、信用スプレッ ド・リスク、株式リスク	
売戻し条件付購入資産および借入有価証券					
担保金	306,961	246,068	60,893	金利リスク	
貸出金					
リテール	426,086	10,876	415,210	金利リスク	
ホールセール	195,870	7,111	188,759	金利リスク	
貸倒引当金	(3,100)	-	(3,100)	金利リスク	
個別分離運用型基金資産純額	1,663	-	1,663	金利リスク	
その他					
デリバティブ	101,560	99,318	2,242	金利リスク、 外国為替リスク	
その他の資産	79,802	4,648	75,154	金利リスク	
市場リスクの影響を受けない資産⁽³⁾	6,434				
資産合計	\$ 1,428,935	\$ 526,917	\$ 895,584		
市場リスクの影響を受ける負債					
預金	\$ 886,005	\$ 99,137	\$ 786,868	金利リスク	
個別分離運用型基金負債	1,663	-	1,663	金利リスク	
その他					
空売りした有価証券に関連する債務	35,069	35,069	-		
買戻し条件付売却資産および貸付有価証 券に関連する債務	226,586	218,612	7,974	金利リスク	
デリバティブ	98,543	96,512	2,031	金利リスク、 外国為替リスク	
その他の負債	79,040	8,918	70,122	金利リスク	
劣後無担保社債	9,815	-	9,815	金利リスク	
市場リスクの影響を受けない負債⁽⁴⁾	8,589				
負債合計	\$ 1,345,310	\$ 458,248	\$ 878,473		
資本合計	\$ 83,625				
負債および資本合計	\$ 1,428,935				

(1) 取引リスクは、FVTPLに分類または指定されるポジションおよび再評価利益または損失が収益に計上されるポジションを含む。取引リスクのリスク管理のため、VaR、SVaR、IRCおよびストレステストにおける市場リスク測定が用いられる。

(2) 非取引リスクは、IRRBBおよびその他の非トレーディング・ポートフォリオの管理に用いられるポジションを含む。その他の重要な非トレーディング・ポートフォリオには、RBCインシュアランス®によるポジションおよびIRRBBに含まれない投資有価証券（適用引当金控除後）が含まれる。

(3) 市場リスクの影響を受けない資産は、物的資産およびその他の資産6,434百万ドルを含む。

(4) 市場リスクの影響を受けない負債は、給与関係およびその他の負債8,589百万ドルを含む。

流動性リスクおよび資金調達リスク

流動性リスクおよび資金調達リスク（流動性リスク）とは、期限内に債務を返済するために、費用効率の高い方法で、十分な現金または現金同等物を生み出すことができないおそれがある、というリスクである。流動性リスクは、オンバランス・シート、オフバランス・シートのキャッシュ・フローの発生時期および金額のミスマッチから生じる。

当グループの流動性特性は、通常時およびストレス時の状況において現在および将来の債務を返済する十分な流動性を確実に満たす構造になっている。当グループはこの目的を達成するため、包括的な流動性リスク管理体系（LRMF）および担保方針のもとで業務を行っている。当グループは、以下を含む複数の流動性リスクを軽減する戦略も用いている。

- ・当グループのリスク選好のもとで許容されるエクスポージャーの度合いと、リスク軽減にかかる費用との適切なバランスの達成
- ・コア顧客の安定した預金基盤の確保および促進ならびに企業向けの多角的資金源の継続的利用等、広範な資金調達力の維持
- ・担保権が設定されていない有価証券および特定の資産区分を現金化する確かな能力の充足性を保証するための、包括的流動性ストレス・テスト・プログラム、危機管理計画、再建・破綻処理計画およびステータス監視
- ・将来的な担保権設定行為に関する制限および流動性資産バッファーを通じた担保権設定行為の管理
- ・適時かつ精緻化されたリスク測定情報
- ・透明な流動性移転価格および原価配分
- ・3つの防衛線ガバナンス・モデル

2020年度第2四半期以降、政府および連邦機関は、既存の融資プログラムの適格基準を拡大し、銀行に対してさらなる流動性を提供する新たなプログラムを発表した。これらの措置に加えて、OSFIは複数の規制措置を発表し、銀行が自らの強靱化計画に集中するため、および金融システムの安定性を高めるための、追加のガイダンスを行った。その後、政府および連邦機関は、これらのプログラムの必要性の評価を行っており、今後も引き続き行う予定である。銀行引受手形買取制度、およびCMHCを通じた改定政府保証付きモーゲージの買取プログラム等、一部のプログラムは2020年10月21日付で終了し、既存のターム・レポ・ファシリティは、パンデミック前の水準まで徐々に縮小される予定である。残りの措置は引き続き貸出業務にさらなる柔軟性を提供し、規制当局が認める流動性カバレッジ比率（LCR）の最低限を上回る利用可能なバッファーおよび制限の一時的な改定（カバード・ボンドに使用される制限を含む。）、ならびにその他の流動性指標の調整を活用することで、銀行が規制上の最低限を下回ることを認めている。

＜リスク統制＞

当グループの流動性リスクの目標、方針および方法は、定期的に見直され、また市況および事業構成内容の変化に照らし、更新されている。これは、現地の規制に適合させることを含む。流動性および資金調達状況については、戦略の実行に適切な水準を引き続き維持している。流動性リスクは、リスク選好に十分収まっている。

取締役会は、年1回、上級管理職に対する流動性リスク権限の委任を承認する。取締役会のリスク委員会は、年1回、LRMFおよび担保方針を承認し、それらの監督責任を負う。取締役会、取締役会のリスク委員会、GRCおよびALCOは、当グループのグループ規模の流動性ポジションに関する報告書を定期的に審査する。GRC、ポリシー審査委員会（PRC）および／またはALCOは、取締役会およびその委員会のために作成された、流動性に関する書類の調査も行う。

・PRCは、年1回、取締役会が承認したリスク選好度およびLRMFに基づき、リスク統制に関して最低限必要な要素を設定する流動性リスク方針を承認する。

・ALCOは、年1回、流動性危機管理計画（LCP）を承認し、コーポレート・トレジャリー、その他の部門および事業セグメントに対して、流動性管理に関する戦略的方向性を示し、監督を行う。

これらの方針は、パラメータ、手法、管理に係る範囲ならびに流動性の測定および管理を監督する権限等のリスク管理の要素を導入する業務レベル、事務レベルおよび商品レベルの方針によってサポートされている。管理体制の構造安定性を評価し、流動性危機管理計画を報告することを目的として、ストレス・テストも採用されている。

＜リスクの測定＞

流動性リスクは、異なる期間にわたって予想キャッシュ・フロー特性を導出するため、資産および負債ならびにオフバランス・シート・コミットメントに照らしてシナリオ別の仮定を適用することで測定される。例えば国債は通常、満期にかかわらず価値を著しく損失することなく素早くかつ容易に現金化することができる。同様に、リレーションシップ・ベースの要求払い預金は契約上直ちに引き出すことができると同時に、実務面では、これらの残高は、顧客の種類およびその用途等、複数の要因に応じて比較的安定した資金調達源となりうる。リスク方法論および基礎となる仮定は、事業環境や予想される経済状況、市況、格付機関の選好、規制要件、一般に公正妥当と考えられる業界の実務に確実に見合うように定期的に見直され検証される。

当グループの流動性リスク選好に収まるように流動性リスクを管理するため、当グループは、様々な期間および深刻度のストレス状況を反映して、様々な測定基準に制限を設定し、危機管理計画、再建・破綻処理計画を策定している。当グループの流動性リスクの測定および制御活動は、以下のとおり3つのカテゴリーに分けられる。

構造的（長期的）流動性リスク

担保付および無担保のホールセール定期性資金調達活動を導くため、当グループは、長期的な流動性に欠ける資産とホールセール投資家および中核をなすリレーションシップ・ベースの預金からの長期資金調達との構造的な一致を管理および統制する内部基準および規制基準の両基準を採用している。

戦略的（短期）流動性リスク

ストレス時の潜在的な緊急のキャッシュ・フローのリスクに対応するため、当グループは短期的な正味キャッシュ・フロー制限を使用し、重要なユニット、子会社および通貨のリスクを統制し、ストレス・テスト評価を行っている。正味キャッシュ・フロー・ポジションは、すべての重要な非担保差入れ資産、負債およびオフバランス・シート活動に関し既知および見越されるキャッシュ・フローに内部導出リスク仮定およびパラメータを適用することで決定される。担保差入れ資産は、利用可能な流動性の源泉とはみなされない。当グループは、LCR等、関連する規制基準を遵守することで戦略的流動性も統制している。

偶発的な流動性リスク

偶発的な流動性リスクに係る計画では、突然のストレスの影響およびそれに対する計画された対応を評価する。LCPIは、コーポレート・トレジャリーが維持および管理し、流動性の危機に対する潜在的対応の指針として策定されている。コーポレート・トレジャリーの指揮の下、グループと地域ごとの流動性危機管理チーム（LCT）は定期的に会合を開いて流動性の状況を評価し、LCPを承認し、ストレス時には第一線およびリスク機能との重要なつながりとなって危機管理プロセスをサポートする。LCTには、主要な事業セグメント、GRM、ファイナンスおよびオペレーションの構成員が含まれ、関連事項の専門家とコミュニケーションを取る。

シナリオ分析および感応分析の要素を含むストレス・テストにより、数週間にわたるシステム上の事象およびRBC特有の事象に対する潜在的エクスポージャーが測定される。それぞれの危機については深刻度を検討し、いくつかのシナリオでは当グループの信用格付の複数段階の格下げの可能性を反映している。

偶発的な流動性リスクに係る計画プロセスは、様々なストレス・シナリオにおける偶発的な資金調達ニーズ（信用コミットメントおよび流動性枠の引出し、さらなる担保需要ならびに預金の払い戻し等）および源泉（偶発的な流動性資産の売却およびホールセール資金調達能力の増強等）を特定し、その結果、無担保の特定流動性資産ポートフォリオに関する要求を明らかにする。

当グループの無担保の流動性資産ポートフォリオは、分散した、高格付かつ流動性のある有価証券、政府系翌日物リバース・レポおよび中央銀行への預金を含む。これらのポートフォリオは、必要なときに利用可能な追加の現金を最大化しておくための最低限の資産品質水準および必要に応じてその他の適格指針（満期、分散および中央銀行の融資を受けられるか否か等）に服する。これらの有価証券は、当グループが資本市場またはその他の活動により保有したその他の無担保流動性資産に追加される場合は、当グループの流動性準備金に組み入れられ、後述する資産の担保差入れに開示上反映される。

<流動性準備金および資産の担保差入れ>

下表は、当グループの流動性準備金および資産の担保差入れについてまとめたものである。両方の表における非担保差入れ資産は、様々なレベルの既存の資金調達源である。非担保差入れ資産は、総資産から、オンバランス・シートおよびオフバランス・シートの調達源からの担保差入れ資産を差し引いたものである。担保差入れ資産は、

(i) 銀行保有流動資産のうち、担保提供されたもの（レポ金融およびデリバティブによる担保権設定等）または規制もしくは内部政策要件のため自由に利用できないもの（法定準備金または現地の自己資本比率規制を満たすためならびに支払および決済システムを継続的に利用可能に保つための特定の資産等）、(ii) 証券金融およびデリバティブ取引により担保として受領した有価証券のうち、例えば、レポ取引により資金を調達するためまたは空売り証券をカバーするために（可能な場合）再担保に供されたものまたは再担保が禁止されているため流動的価値を失ったものならびに (iii) 証券化され市場に売却されたまたは仕組み定期性資金調達手段の一助として担保に供された非流動資産を含む。当グループの流動性管理体系および実務では、流動性リスクを測定する際、担保差入れ資産は流動性源と考えていない。

流動性準備金

流動性準備金は、利用可能な非担保差入れ流動資産である。未使用のホールセール資金調達能力は、ストレス状況を軽減するための潜在的な流動性源の1つとなり得、定期的に評価されているが、流動性準備金の測定からは除外されている。さらに、各中央銀行（BoC、Fed、イングランド銀行およびフランス銀行等）が設定した一定の前提条件が満たされる場合に限り利用可能となる未使用の中央銀行借入枠ならびにニューヨークの連邦準備銀行（FRBNY）および連邦住宅貸付銀行（FHLB）の適格担保に該当する資金も、流動性準備金の測定からは除外されている。

流動性準備金						(表54)
2020年10月31日現在						
(単位：百万カナダドル)	当行が 保有する 流動性資産	証券金融 およびデリバ ティブ取引に おいて担保と して受領した 有価証券	流動性資産 合計	担保差入れ 流動性資産	非担保差入れ 流動性資産	
現金および預け金	\$ 118,888	\$ -	\$ 118,888	\$ 4,022	\$ 114,866	
利付銀行預け金	39,013	-	39,013	-	39,013	
ソブリン、中央銀行または多国間開発銀行に より発行または保証されている 有価証券 ⁽¹⁾	236,910	309,512	546,422	358,233	188,189	
その他有価証券	93,781	101,317	195,098	89,764	105,334	
その他流動性資産 ⁽²⁾	30,305	-	30,305	27,934	2,371	
流動性資産合計	\$ 518,897	\$ 410,829	\$ 929,726	\$ 479,953	\$ 449,773	

2019年10月31日現在⁽³⁾

(単位：百万カナダドル)	証券金融 およびデリバ ティブ取引に 当行が 保有する				
	流動性資産	流動性資産 において担保と して受領した 有価証券	流動性資産 合計	担保差入れ 流動性資産	非担保差入れ 流動性資産
現金および預け金	\$ 26,310	\$ -	\$ 26,310	\$ 2,860	\$ 23,450
利付銀行預け金	38,345	-	38,345	329	38,016
ソブリン、中央銀行または多国間開発銀行に より発行または保証されている 有価証券 ⁽¹⁾	206,960	311,019	517,979	345,753	172,226
その他有価証券	90,026	115,261	205,287	96,184	109,103
その他流動性資産 ⁽²⁾	21,732	-	21,732	21,316	416
流動性資産合計	\$ 383,373	\$ 426,280	\$ 809,653	\$ 466,442	\$ 343,211

(単位：百万カナダドル)	2020年 10月31日現在	2019年 10月31日現在 ⁽³⁾
ロイヤル・バンク・オブ・カナダ	\$ 261,940	\$ 136,511
海外支店	44,037	61,528
子会社	143,796	145,172
非担保差入れ流動性資産合計	\$ 449,773	\$ 343,211

(1) 州政府および米国連邦政府の公的管理の下で機能する米国政府後援団体（連邦住宅抵当公庫、連邦住宅金融抵当公庫等）により発行された流動性証券を含む。

(2) 抵当権の設定されていない流動性資産の数値は、OTCおよび上場デリバティブ取引に関連して差入れられた現金担保および証拠金の預け入れを表す。

(3) 数値は、当該期間のかかる表示に合わせて修正されている。

流動性準備金は、通常、流動資産ポートフォリオが現金残高の変動に合わせて調整される場合は顧客の銀行活動の日常的な流れの影響を最も受け、加えて事業戦略および顧客の流れが流動性準備金全体の計算における流動資産の加算または減算に影響する場合は資本市場活動からも影響を受ける。債券発行と事業活動への展開との時期のずれを準備金で吸収できる場合には、コーポレート・トレジャリーも、調達発行の管理を通じて流動性準備金に影響を与える。

<2020年度と2019年度との比較>

流動性資産合計は、1,200億ドル増すなわち15%増となり、非担保差入れ流動性資産合計は、前年度比1,070億ドル増すなわち31%増となった。これは主として、中央銀行への預金およびオンバランス・シート証券が増加したことにより、COVID-19パンデミックの結果として顧客預金が増加し、流動性管理活動が活発化したことを反映している。

資産の担保差入れ

下表は、現金、有価証券およびその他の資産を、担保差入れ資産と、担保付資金調達取引において売却可能または担保として利用可能な資産とに分けて、オンバランス・シートおよびオフバランス・シートの金額をまとめたものである。モーゲージやクレジットカード債権等のその他の資産も、市場性のある有価証券より長い期間が必要であるが、現金化可能である。2020年10月31日現在で、担保として利用可能な非担保差入れ資産は、資産総額の28% (2019年10月31日現在は23%) ⁽¹⁾を占める。

(1) 金額は、従前の公表値から修正されている。

資産の担保差入れ

(表55)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在					2019年10月31日現在				
	担保差入れ		非担保差入れ			担保差入れ		非担保差入れ		
	担保として 差入れ	その他 ⁽¹⁾	担保として 利用可能 ⁽²⁾	その他 ⁽³⁾	合計	担保として 差入れ	その他 ⁽¹⁾	担保として 利用可能 ⁽²⁾⁽⁴⁾	その他 ⁽³⁾⁽⁴⁾	合計
現金および預け金	\$ -	\$ 4,022	\$114,866	\$ -	\$ 118,888	\$ -	\$ 2,860	\$ 23,450	\$ -	\$ 26,310
利付銀行預け金	-	-	39,013	-	39,013	-	329	38,016	-	38,345
有価証券										
トレーディング	48,505	-	91,245	3,684	143,434	44,431	-	99,420	2,683	146,534
投資（適用引当金控除後）	13,337	-	126,353	53	139,743	16,376	-	86,045	49	102,470
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金 ⁽⁵⁾	400,807	17,209	37,879	5,037	460,932	399,013	22,793	49,325	5,214	476,345
貸出金										
リテール										
モーゲージ証券	31,460	-	40,050	-	71,510	31,345	-	40,401	-	71,746
モーゲージローン	62,131	-	26,389	182,567	271,087	42,103	-	22,598	171,644	236,345
非モーゲージローン	5,711	-	12,006	97,662	115,379	7,094	-	9,534	101,367	117,995
ホールセール	-	-	-	208,655	208,655	-	-	-	195,870	195,870
貸倒引当金	-	-	-	(5,639)	(5,639)	-	-	-	(3,100)	(3,100)
個別分離運用型基金資産純額	-	-	-	1,922	1,922	-	-	-	1,663	1,663
その他										
デリバティブ	-	-	-	113,488	113,488	-	-	-	101,560	101,560
その他 ⁽⁶⁾	27,934	-	2,371	71,111	101,416	21,316	-	416	64,504	86,236
総資産	\$589,885	\$ 21,231	\$490,172	\$678,540	\$1,779,828	\$561,678	\$ 25,982	\$369,205	\$641,454	\$1,598,319

(1) 法的その他制約から資金調達に充てることが制限される資産を含む。

(2) NHA MBS、FHLBにおいて適格担保とみなされる当グループの抵当権の設定されていないモーゲージローンに加えて、当グループの利用可能な連銀貸出ファシリティの適格担保とみなされるFRBNYに差し入れているローンなど、担保として容易に利用可能な資産を表す。

(3) その他の非担保差入れ資産は、資金調達の保証または担保としての利用につき制限を受けないが、利用可能とはみなされない。2020年度第2四半期に公表した適格性基準の拡大に基づくBoCへの担保提供を含む、中央銀行融資の担保として利用可能な貸出金も含まれる。

(4) 金額は、従前の公表値から修正されている。

(5) 銀行保有流動資産ならびにオフバランス・シート証券金融、デリバティブ取引および委託融資から担保として受領した有価証券を含む。現行の法形式において再担保できない売戻し取引を通じて受領した担保172億ドル（2019年10月31日現在は228億ドル）を含む。

(6) 担保として差入れの数値は、店頭（OTC）および上場デリバティブ取引に関連して差入れられた現金担保および証拠金の預け入れを表す。

<資金調達>

資金調達戦略

資本、長期ホールセール負債ならびに個人預金ならびに（それより割合は小さいが）企業および機関の預金に分散化されたプールからなるコア資金調達は、構造的流動性を保つための基礎である。

預金および資金調達構造

2020年10月31日現在、リテール貸出金およびモーゲージの主要な資金調達源であるリレーションシップ・ベースの預金は7,080億ドルで、資金調達総額の54%（2019年10月31日現在は5,940億ドル、資金調達総額の51%）を占めていた。残りの部分は、短期および長期のホールセール資金調達であった。

流動性の高い資産の資金調達は、主として、これらの資産の現金化期間を反映した短期ホールセール資金調達により構成されている。長期ホールセール資金調達は、ほとんどの場合、流動性の低いホールセール資産の調達および流動性資産バッファのサポートに利用される。

2018年4月18日、財務省は、カナダ預金保険公社（CDIC）法および銀行法に基づき、ベイルイン規則を発表（2018年9月23日付で施行）した。2018年9月23日以降に当行が発行した、当初期間が400日を超え、かつ、市場性のある長期優先債は、一定の例外を除き、カナダの銀行資本増強（ベイルイン）制度の適用を受ける。ベイルイン制度に基づき、銀行が存続不可能であると金融機関監督局が判断した場合、総督は、公益のためにそうすべきであるとの財務大臣の勧告に基づき、当該銀行の特定の株式および負債の全部または一部を普通株式に転換するようCDICに指示する命令を発することができる。2020年10月31日現在、ベイルイン制度に基づく転換対象となる発行済長期債の想定元本は、37,365百万ドル（2019年10月31日現在は20,320百万ドル）であった。

当グループのホールセール資金調達についての詳細は、下表「ホールセール資金調達の内訳」を参照のこと。

長期債券発行

2020年度中、当グループは、無担保ホールセール資金調達および価格設定において、引き続き世界の競合グループの多くと比較して有利であった。直接または子会社を通じて間接的に、各種通貨および市場を厳選し、無担保長期資金調達として200億ドルを発行したが、満期により一部相殺された。

当グループは、代替資金源としてならびに流動性および資産／負債の管理目的で、主に住宅担保ローンおよびクレジットカード証券化プログラムを利用している。当グループ全体の担保付長期資金調達には、売却したMBSの残高、住宅担保ローンを担保とするカバード・ボンドならびにクレジットカード債権によって担保された証券が含まれる。

2019年度と比較すると、売却したMBSは、7億ドル増加した。当グループのカバード・ボンドおよび証券化されたクレジットカード債権の残高は、それぞれ1億ドルおよび14億ドル減少した。

詳細は、「オフバランス・シート処理」の項を参照のこと。

長期資金源^{*} (表56)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在	2019年10月31日現在
無担保長期借入資金	\$ 88,055	\$ 94,662
担保付長期借入資金	63,043	63,853
劣後無担保社債	9,574	9,788
	\$ 160,672	\$ 168,303

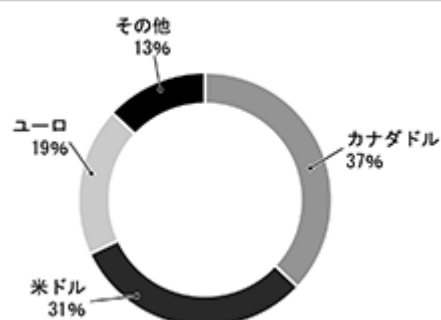
* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

ホールセール資金調達には、地理、投資セグメント、商品、通貨、ストラクチャーおよび満期が十分に分散されている。様々な資金調達市場において持続的に活動することで、継続して市場の動きと傾向を監視し、チャンスおよびリスクを見きわめ、適切な行動を適時に行うことができる。当グループは、長期債券発行登録プログラムを実施している。下表は、それぞれの承認された制限内でのかかるプログラムを地理別に示している。

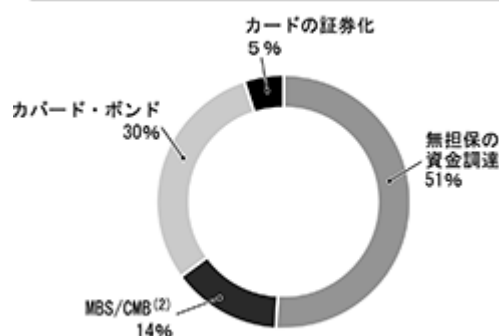
地理別プログラム (表57)

カナダ	米国	ヨーロッパ/アジア
・カナダにおける発行登録プログラム—250億ドル	・米国における発行登録プログラム—400億米ドル	・ヨーロッパ債券発行プログラム—400億米ドル ・グローバル・カバード・ボンド・プログラム—600億ユーロ ・日本における発行プログラム—1兆円

当グループはまた、カナダ優先社債、カナダ国民住宅法MBS、カナダ・モーゲージ債券、クレジットカード債権担保証券、カンガルー債（オーストラリア国内市場で外国企業により発行されたもの）およびヤンキー預金証書（米国国内市場で外国企業により発行されたもの）を使用して長期的な資金調達を行っている。当グループは、新たな市場および未開発の投資セグメントを拡大するための進出機会について、常に評価を行っている。これは、そのような拡大によってホールセール資金調達の柔軟性が増す上、資金源の集中および依存を最小限に抑え、全体的な調達費用を削減することができるからである。下図に示すとおり、当グループの現在の長期負債の構成は、通貨別および商品別に、十分に分散されている。競争力の高い信用格付を維持することも、費用効率の高い資金調達に不可欠である。

長期負債⁽¹⁾－発行通貨別の資金調達の構成

(1) 当初の満期期間が1年超のものを基準にしている。

長期負債⁽¹⁾－商品別の資金調達の構成

(1) 当初の満期期間が1年超のものを基準にしている。

(2) モーゲージ担保証券およびカナダ・モーゲージ債券

下表は、満期までの期間に基づく当グループにおけるホールセール資金調達の内訳を表す。

ホールセール資金調達の内訳⁽¹⁾

(表58)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在							
	1年未満							合計
	1ヶ月未満	1－3ヶ月	3－6ヶ月	6－12ヶ月	小計	1－2年	2年以上	
銀行からの預金 ⁽²⁾	\$ 8,681	\$ 133	\$ 73	\$ -	\$ 8,887	\$ -	\$ -	\$ 8,887
譲渡性預金証書および コマーシャル・ペーパー 資産担保コマーシャル・ ペーパー ⁽³⁾	2,542	6,858	11,145	23,783	44,328	-	-	44,328
無担保優先メディアムターム ノート ⁽⁴⁾	2,618	2,167	1,381	6,081	12,247	-	-	12,247
無担保優先仕組債 ⁽⁵⁾	230	165	401	1,136	1,932	1,485	5,333	8,750
証券化されたモーゲージ カバード・ボンド／資産担保証券 ⁽⁶⁾	-	1,171	267	2,178	3,616	2,561	12,225	18,402
劣後負債	-	3,688	5,919	5,131	14,738	6,896	23,196	44,830
その他 ⁽⁷⁾	-	1,499	-	1,000	2,499	205	6,870	9,574
合計	7,906	892	1,134	1,037	10,969	624	6,726	18,319
合計	\$ 22,014	\$ 21,039	\$ 30,156	\$ 47,509	\$ 120,718	\$ 21,184	\$ 91,609	\$ 233,511
内訳：								
－担保付	\$ 10,089	\$ 7,508	\$ 7,643	\$ 13,573	\$ 38,813	\$ 9,457	\$ 35,421	\$ 83,691
－無担保	11,925	13,531	22,513	33,936	81,905	11,727	56,188	149,820

(単位：百万カナダドル)	2019年10月31日現在							
	1ヶ月未満	1-3ヶ月	3-6ヶ月	6-12ヶ月	1年未満 小計	1-2年	2年以上	合計
銀行からの預金 ⁽²⁾	\$ 4,087	\$ -	\$ 388	\$ 33	\$ 4,508	\$ -	\$ -	\$ 4,508
譲渡性預金証書および コマーシャル・ペーパー	2,917	12,037	17,390	22,038	54,382	132	-	54,514
資産担保コマーシャル・ ペーパー ⁽³⁾	2,542	3,188	6,543	3,905	16,178	-	-	16,178
無担保優先ミディアムターム ノート ⁽⁴⁾	11	2,293	9,183	14,188	25,675	18,856	29,756	74,287
無担保優先仕組債 ⁽⁵⁾	847	676	171	1,342	3,036	1,810	5,047	9,893
証券化されたモーゲージ カバード・ボンド／資産担保証券	-	524	1,796	727	3,047	3,523	11,015	17,585
⁽⁶⁾	-	-	6,282	2,305	8,587	14,337	23,426	46,350
劣後負債	-	2,000	-	998	2,998	2,500	4,290	9,788
その他 ⁽⁷⁾	9,489	1,224	157	1,663	12,533	141	9,976	22,650
合計	\$ 19,893	\$ 21,942	\$ 41,910	\$ 47,199	\$ 130,944	\$ 41,299	\$ 83,510	\$ 255,753
内訳：								
－担保付	\$ 10,339	\$ 3,929	\$ 14,621	\$ 6,937	\$ 35,826	\$ 17,860	\$ 34,441	\$ 88,127
－無担保	9,554	18,013	27,289	40,262	95,118	23,439	49,069	167,626

(1) 銀行引受手形およびレポ取引を除く。

(2) 銀行に対して当グループが提供するサービス（証券保管、現金管理等）に関連する預金を除く。

(3) 連結負債のみを含み、当グループの担保付コマーシャル・ペーパープログラムを含む。

(4) 預金証書を含む。

(5) 外国為替、コモディティおよび株式の値動きに連動する支払のある債券を含む。

(6) クレジットカードおよびモーゲージローンを含む。

(7) テンダーオプション・ボンド（担保付）8,199百万ドル（2019年10月31日現在は8,014百万ドル）、無記名式預金証書（無担保）2,036百万ドル（2019年10月31日現在は4,813百万ドル）、その他長期仕組預金（無担保）8,071百万ドル（2019年10月31日現在は9,823百万ドル）およびFHLB融資（担保付）13百万ドル（2019年10月31日現在はゼロドル）を含む。

<信用格付>

当グループが無担保資金市場を利用し、費用効率の高い担保付事業活動を行うことができるのは、主として、優位な信用格付を維持しているためである。格付機関による信用格付および見通しは、当該格付機関の見解および手法を反映している。格付は、当グループの財務力、競争力、流動性および当グループが完全に制御できないその他の要因等、様々な要因に基づき、変更される。

下表は、当グループの主要な信用格付である。

信用格付 ⁽¹⁾	2020年12月1日現在			
	レガシー			見通し
	短期債務	長期優先債務 ⁽²⁾	長期優先債務 ⁽³⁾	
ムーディーズ ⁽⁴⁾	P-1	Aa2	A2	安定的
スタンダード&プアーズ ⁽⁵⁾	A-1+	AA-	A	安定的
フィッチ・レーティングス ⁽⁶⁾	F1+	AA+	AA	ネガティブ
DBRS ⁽⁷⁾	R-1(高)	AA(高)	AA	安定的

- (1) 信用格付は、市場価格または特定の投資家に対する適合性に関して意見を述べるものではなく、当グループの金融債務の購入、売却または保有を推奨するものではない。格付は、格付機関が随時設定する基準に基づき格付機関により決定され、格付機関はいつでも格付を変更または撤回できる。
- (2) 2018年9月23日より前に発行された長期優先債務および2018年9月23日以降に発行されたベイルイン制度に含まれない長期優先債務を含む。
- (3) 2018年9月23日以降に発行された長期優先債務で、ベイルイン制度による転換の対象となるものを含む。
- (4) 2020年11月18日付で、ムーディーズは、当行の見通しを安定的と確認した。
- (5) 2020年10月28日付で、S&Pは、当行の見通しを安定的と確認した。
- (6) 2020年4月3日付で、フィッチ・レーティングスは、当行のレガシー長期優先債務の格付をAAからAA+に引き上げ、当行の見通しを安定的からネガティブへと修正した。
- (7) 2020年6月11日付で、DBRSは、当行の見通しを安定的と確認した。

格下げされた場合の追加の契約上の債務

当グループの信用格付が引き下げられた場合には、当グループは特定のカウンターパーティに担保を受渡すことが要求されている。下表は、当グループの信用格付が1、2または3段階引き下げられた場合に報告日付で要求される追加担保債務を示している。これらの追加担保債務は、連続するそれぞれの格下げの増分要件であり、複数の格下げの累積的影響を表すものではない。報告される数値は、集中清算される金融市場インフラおよび取引所へのトレーディング活動の移行、格下げ要因を有する取引の終了、格下げ要因排除のための新規契約に対する内部制限の設定ならびに通常の時価評価等、複数の要因の結果、定期的に変化する。元本の繰上返済につながる格付要因を有するような、市場で発行された優先債務残高はない。

格下げに関する追加の契約上の債務 (表60)						
(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在			2019年10月31日現在		
	1段階の 格下げ	2段階の 格下げ	3段階の 格下げ	1段階の 格下げ	2段階の 格下げ	3段階の 格下げ
契約上のデリバティブ資金または委託保証金	\$ 318	\$ 78	\$ 149	\$ 165	\$ 64	\$ 124
その他の契約上の資金または委託保証金 ⁽¹⁾	187	-	-	180	176	-

(1) ニューヨーク以外の公的市場により発行されたGICを含む。

<流動性カバレッジ比率（LCR）>

LCRとは、深刻なストレス・シナリオにおける30日間の流動性ニーズを満たすために利用できる適格流動性資産（HQLA）の十分性を測定するバーゼルIIIの数値基準をいう。BCBSおよびOSFIの規制上の最低LCRカバレッジ水準は100%である。しかしながら、2020年度第2四半期中に行われた、COVID-19パンデミックの影響に関する懸念についてのOSFIの発表に基づき、カナダの銀行は引き続き、HQLAバッファを利用して規制上の最低水準である100%を一時的に下回ることが認められている。

OSFIは、カナダの銀行に対し、標準的なバーゼルの開示テンプレートをを用い、各四半期中の日次LCRポジションの平均を用いて計算したLCRを開示することを要求している。

流動性カバレッジ比率⁽¹⁾

(表61)

	2020年10月31日に 終了した3ヶ月間		2020年7月31日に 終了した3ヶ月間	
	非加重価値 合計 (平均) ⁽²⁾	加重価値 合計 (平均)	非加重価値 合計 (平均) ⁽²⁾	加重価値 合計 (平均)
(単位：百万カナダドル (％の数値を除く。))				
適格流動性資産				
適格流動性資産 (HQLA) 合計	n.a.	\$ 362,130	n.a.	\$ 363,107
キャッシュ・アウトフロー				
リテール預金および中小企業預金：	\$ 328,988	\$ 31,305	\$ 315,366	\$ 30,611
安定預金 ⁽³⁾	112,745	3,382	105,342	3,160
準安定預金	216,243	27,923	210,024	27,451
無担保ホールセール資金調達：	381,795	175,207	362,969	161,583
オペレーショナル預金（カウンターパー ティすべて）および信用金庫ネットワー クにおける預金 ⁽⁴⁾	166,253	39,457	157,399	37,514
非オペレーショナル預金	184,917	105,125	173,445	91,944
無担保負債	30,625	30,625	32,125	32,125
担保付ホールセール資金調達	n.a.	26,032	n.a.	25,635
追加的要件：	253,070	58,184	252,341	61,042
デリバティブ・エクスポージャーおよび その他担保要件に関するアウトフロー 負債商品による資金調達の損失に関する アウトフロー	43,442	16,668	50,398	20,632
与信および流動性ファシリティ	8,524	8,524	9,154	9,154
その他資金調達における偶発債務 ⁽⁵⁾	201,104	32,992	192,789	31,256
その他資金調達における偶発債務 ⁽⁶⁾	18,928	18,928	19,408	19,408
その他資金調達における偶発債務 ⁽⁶⁾	563,574	8,682	592,465	8,488
キャッシュ・アウトフロー合計	n.a.	\$ 318,338	n.a.	\$ 306,767
キャッシュ・インフロー				
担保付貸出（例：リバース・レポ）	\$ 260,609	\$ 40,151	\$ 261,600	\$ 41,235
完全にパフォーミングであるエクスポ ージャーによるインフロー	10,408	6,121	10,689	6,232
その他のキャッシュ・インフロー	21,656	21,656	23,108	23,108
キャッシュ・インフロー合計	n.a.	\$ 67,928	n.a.	\$ 70,575
		調整後 価格合計		調整後 価格合計
HQLA合計		\$ 362,130		\$ 363,107
キャッシュ・アウトフロー純額合計		250,410		236,192
流動性カバレッジ比率		145%		154%

- (1) LCRは、OSFIのLARガイドラインに基づいて計算されており、それはBCBSの発行する流動性関連要件を反映するものであり、2020会計年度に発行された規制ガイダンスに従って更新される。2020年10月31日に終了した四半期におけるLCRは、63日分の日次LCRポジションの平均として計算される。
- (2) その他資金調達における偶発債務を除き、非加重インフローおよび非加重アウトフローの合計は、30日以内に満期を迎えるかまたは償還可能な項目である。その他資金調達における偶発債務には満期残存期間が30日を超える債務証券も含まれる。
- (3) BCBSが定義するように、リテールおよび中小企業顧客の安定預金とは、付保対象であり、取引口座として保有されているか当該銀行と顧客間で引出しをあまり行わない関係が確立されている預金である。
- (4) リテールおよび中小企業以外の顧客のオペレーショナル預金とは、顧客がクリアリング、カストディおよびキャッシュマネジメント活動を主たる目的として支払・決済システムを利用するためのアクセス権と能力を備えるため、銀行に預ける必要のある預金である。
- (5) その他資金調達における契約上の債務は、主として、未決済証券取引および空売りした有価証券に関連する債務からのアウトフローを含む。
- (6) その他資金調達における偶発債務は、LCRの低い流出係数（0%から5%）を有するその他オフバランス・シート・ファシリティに関連するアウトフローを含む。

n.a. 該当なし。

当グループは、自らのLCRポジションを、当グループの流動性リスク許容度を反映し、事業内訳、資産構成および資産調達能力を考慮した目標範囲内で管理している。当該範囲は、内部要件および外部での発展に係る変化に照らし、定期的に見直される。当グループのLCRは、進行中のCOVID-19パンデミックの結果として、現在、通常の目標範囲を上回っている。2020年度の当該四半期および前四半期における流動性水準の上昇は、主として業界全体に対するパンデミックの影響およびそれに伴う各中央銀行の措置により顧客預金が流入したことによるものであった。

当グループは、信頼できる市場の深さと広さをもって主要通貨におけるHQLAを保持している。当グループはその資金管理慣行により、LCR目標値を満たすため、HQLAのレベルに対する能動的管理を確実なものとしている。OSFIのLARおよびBCBSのLCR要件に従って算出された当グループのレベル1資産は、HQLA合計の89%を占めている。かかる資産は、現金、中央銀行に対する預け金ならびに政府、中央銀行および超国家機関が発行または保証する高格付証券からなる。

LCRは、深刻なストレス・シナリオのもとで30日以内に予測されるか潜在的に起こりうるオンバランス・シートおよびオフバランス・シート活動からのキャッシュ・フローを把握する。キャッシュ・アウトフローは、顧客タイプ（ホールセール、リテール、中小企業）別に区別された要求払預金および定期預金への払戻しおよび不更新申請に起因する。また、キャッシュ・アウトフローは、レボ資金調達、デリバティブ取引、有価証券の空売り、顧客の信用および流動性コミットメントの延長といった偶発的資金調達および担保要件を生む事業活動からも生じる。キャッシュ・インフローは、主として満期の担保付貸出金、銀行間貸出金および非HQLA証券から生じる。

ストレス状況下で利用できると当グループが考えている市場での資金調達能力は、LCRに反映されていない。満期ホールセール債務はすべて、LCRの計算において100%アウトフローに割り当てられている。

＜2020年度第4四半期と2020年度第3四半期との比較＞

2020年10月31日に終了した四半期に係る平均LCRは145%であり、約1,120億ドルの余剰となる（前四半期は154%で約1,270億ドルの余剰）。平均LCRは、主として業界全体に対するパンデミックの影響およびそれに伴う各中央銀行の措置によって顧客預金の増加が続いたことで通常の水準を上回ってはいるが、経営陣が講じた流動性最適化措置によって四半期ごとに減少している。流動性水準は2021会計年度にかけて引き続き中央銀行の政策の影響を受けると予測されることから、当グループは今後も、これらの動きおよびその他業界全体の動きに鑑みてLCRの管理を行っていく。

＜金融資産、金融負債およびオフバランス・シート項目の契約上の満期＞

下表は、当グループのすべての資産、負債およびオフバランス・シート項目の契約上の残存期間について、決算日現在の帳簿価額（償却原価または公正価値等）でまとめたものである。オフバランス・シート項目は、契約満了日に基づいて振り分けられている。

契約上の満期および資金提供コミットメントの詳細は、流動性リスク管理のための情報源である。これらの詳細には、他の目的もあるがとりわけ、流動性リスクの測定のため、実質的な満期を用いて貸借対照表の行動モデルを作成する基礎となる。詳細は、「リスクの測定」の項を参照のこと。

金融資産、金融負債およびオフバランス・シート項目の契約上の満期

(表62)

(単位: 百万カナダドル)	2020年10月31日現在									満期日の 定めなし	合計
	1ヶ月未満	1-3 ヶ月	3-6 ヶ月	6-9 ヶ月	9-12 ヶ月	1-2年	2-5年	5年以上			
資産											
現金および預け金	\$ 155,418	\$ 2	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	2,481	\$ 157,901
有価証券											
トレーディング ⁽¹⁾	82,486	51	49	25	80	50	98	9,615	43,617		136,071
投資 (適用引当金控除後)	3,213	4,762	6,445	10,765	9,079	26,313	25,315	53,355	496		139,743
売戻し条件付購入資産および借入有価証券											
担保金	162,269	61,661	47,211	25,083	9,990	2	-	-	6,799		313,015
貸出金 (適用引当金控除後)	24,334	21,593	24,742	28,236	25,951	132,783	266,935	56,253	80,165		660,992
その他											
手形引受見返	12,157	6,402	50	-	-	-	5	-	(107)		18,507
デリバティブ	5,035	10,946	4,932	3,433	2,726	13,550	20,205	52,650	11		113,488
その他の金融資産	32,713	2,741	1,520	499	71	323	257	2,099	2,692		42,915
金融資産合計	\$ 477,625	\$ 108,158	\$ 84,949	\$ 68,041	\$ 47,897	\$ 173,021	\$ 312,815	\$ 173,972	\$ 136,154	\$1,582,632	
その他の金融資産以外の資産	4,540	1,411	97	860	234	1,939	1,802	5,988	25,045		41,916
資産合計	\$ 482,165	\$ 109,569	\$ 85,046	\$ 68,901	\$ 48,131	\$ 174,960	\$ 314,617	\$ 179,960	\$ 161,199	\$1,624,548	
負債および資本											
預金 ⁽²⁾											
無担保借入金	\$ 74,636	\$ 35,167	\$ 53,458	\$ 34,733	\$ 29,763	\$ 21,843	\$ 58,702	\$ 17,234	\$ 590,020	\$ 915,556	
担保付借入金	2,794	6,605	4,022	6,242	4,142	7,400	18,705	6,427	-	56,337	
カバード・ボンド	-	1,942	5,412	1,295	2,501	3,707	16,195	8,940	-	39,992	
その他											
手形引受け	12,158	6,401	50	-	-	-	-	-	9	18,618	
空売りした有価証券に関連する債務	29,285	-	-	-	-	-	-	-	-	29,285	
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券											
に関連する債務	219,075	19,396	20,606	376	1,492	4,971	-	-	8,315	274,231	
デリバティブ	4,467	11,553	4,423	3,355	2,709	11,900	20,985	50,396	139	109,927	
その他の金融負債	34,767	2,183	1,133	484	435	851	2,180	10,994	563	53,590	
劣後無担保社債	-	-	-	-	-	205	110	9,552	-	9,867	
金融負債合計	\$ 377,182	\$ 83,247	\$ 89,104	\$ 46,485	\$ 41,042	\$ 50,877	\$ 116,877	\$ 103,543	\$ 599,046	\$1,507,403	
その他の金融負債以外の負債	1,053	5,395	209	212	193	951	1,010	11,910	9,445	30,378	
資本	-	-	-	-	-	-	-	-	86,767	86,767	
負債および資本合計	\$ 378,235	\$ 88,642	\$ 89,313	\$ 46,697	\$ 41,235	\$ 51,828	\$ 117,887	\$ 115,453	\$ 695,258	\$1,624,548	
オフバランス・シート項目											
金融保証	\$ 401	\$ 1,745	\$ 2,186	\$ 3,137	\$ 3,004	\$ 700	\$ 4,529	\$ 1,383	\$ 56	\$ 17,141	
信用供与予約	5,285	4,803	14,821	16,163	12,306	45,633	161,524	16,876	4,828	282,239	
その他の信用関連のコミットメント	1,982	903	1,634	1,745	1,400	260	623	10	78,768	87,325	
その他のコミットメント	7	14	20	20	20	82	209	344	551	1,267	
オフバランス・シート項目合計	\$ 7,675	\$ 7,465	\$ 18,661	\$ 21,065	\$ 16,730	\$ 46,675	\$ 166,885	\$ 18,613	\$ 84,203	\$ 387,972	

(1) FVTPLに分類されるトレーディング目的の債務証券は、満期保有の見込みがないため1ヶ月未満の欄に含まれる。

(2) リレーションシップ・ベースの預金の大部分は、契約に基づき、要求に応じてまたは直前の通知によって払い戻すことができるが、実際には、これらの顧客残高は、前述「預金および資金調達構造」の項で説明されているように、当グループの業務および流動性ニーズに対するコアベースを形成している。

	2019年10月31日現在									
(単位：百万カナダドル)	1ヶ月未満	1－3ヶ月	3－6ヶ月	6－9ヶ月	9－12ヶ月	1－2年	2－5年	5年以上	満期日の定めなし	合計
資産										
現金および預け金	\$ 62,095	\$ 3	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 2,557	\$ 64,655
有価証券										
トレーディング ⁽¹⁾	96,229	14	45	10	21	64	97	8,601	41,453	146,534
投資（適用引当金控除後）	3,069	3,960	3,857	2,886	3,511	16,203	24,638	43,907	439	102,470
売戻し条件付購入資産および借入有価証券										
担保金	164,870	62,971	41,569	10,985	14,993	133	-	-	11,440	306,961
貸出金（適用引当金控除後）	23,097	17,145	25,854	28,796	29,533	120,524	232,364	51,049	90,494	618,856
その他										
手形引受見返	12,940	5,119	27	-	-	-	-	-	(24)	18,062
デリバティブ	5,668	8,635	4,265	3,227	3,547	9,815	18,753	47,649	1	101,560
その他の金融資産	28,296	1,400	1,193	48	61	169	277	1,861	2,164	35,469
金融資産合計	\$ 396,264	\$ 99,247	\$ 76,810	\$ 45,952	\$ 51,666	\$ 146,908	\$ 276,129	\$ 153,067	\$ 148,524	\$1,394,567
その他の金融資産以外の資産	2,907	1,475	108	865	109	1,373	1,507	1,696	24,328	34,368
資産合計	\$ 399,171	\$ 100,722	\$ 76,918	\$ 46,817	\$ 51,775	\$ 148,281	\$ 277,636	\$ 154,763	\$ 172,852	\$1,428,935
負債および資本										
預金 ⁽²⁾										
無担保借入金	\$ 50,872	\$ 36,251	\$ 47,307	\$ 38,376	\$ 42,885	\$ 28,886	\$ 51,557	\$ 20,230	\$ 470,027	\$ 786,391
担保付借入金	2,588	4,874	10,679	3,596	2,395	10,351	19,535	5,755	-	59,773
カバード・ボンド	-	-	4,828	-	5,255	10,818	13,263	5,677	-	39,841
その他										
手形引受け	12,944	5,119	27	-	-	-	-	-	1	18,091
空売りした有価証券に関連する債務	35,069	-	-	-	-	-	-	-	-	35,069
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券 に関連する債務	192,855	14,281	13,462	6	-	4	-	-	5,978	226,586
デリバティブ	6,325	7,779	4,519	3,430	3,442	9,155	17,348	46,515	30	98,543
その他の金融負債	29,008	1,066	849	290	443	272	701	8,510	691	41,830
劣後無担保社債	-	-	-	-	-	-	316	9,499	-	9,815
金融負債合計	\$ 329,661	\$ 69,370	\$ 81,671	\$ 45,698	\$ 54,420	\$ 59,486	\$ 102,720	\$ 96,186	\$ 476,727	\$1,315,939
その他の金融負債以外の負債	1,314	5,288	276	154	142	898	903	11,179	9,217	29,371
資本	-	-	-	-	-	-	-	-	83,625	83,625
負債および資本合計	\$ 330,975	\$ 74,658	\$ 81,947	\$ 45,852	\$ 54,562	\$ 60,384	\$ 103,623	\$ 107,365	\$ 569,569	\$1,428,935
オフバランス・シート項目										
金融保証	\$ 427	\$ 2,409	\$ 2,088	\$ 2,829	\$ 2,382	\$ 986	\$ 5,394	\$ 45	\$ 48	\$ 16,608
リース・コミットメント	69	137	204	197	198	719	1,619	3,032	-	6,175
信用供与予約	2,996	6,367	8,821	10,655	11,638	41,740	150,267	27,827	3,865	264,176
その他の信用関連のコミットメント	469	934	1,615	1,863	1,365	191	634	10	92,392	99,473
その他のコミットメント	35	-	-	-	-	-	-	-	484	519
オフバランス・シート項目合計	\$ 3,996	\$ 9,847	\$ 12,728	\$ 15,544	\$ 15,583	\$ 43,636	\$ 157,914	\$ 30,914	\$ 96,789	\$ 386,951

(1) FVTPLに分類されるトレーディング目的の債務証券は、満期保有の見込みがないため1ヶ月未満の欄に含まれる。

(2) リレーションシップ・ベースの預金の大部分は、契約に基づき、要求に応じてまたは直前の通知によって払い戻すことができるが、実際には、これらの顧客残高は、前述「預金および資金調達構造」の項で説明されているように、当グループの業務および流動性ニーズに対するコアベースを形成している。

<金融負債およびオフバランス・シート項目の契約上の満期一割引前ベース>

下表は、当グループの金融負債およびオフバランス・シート項目について、契約上の残存期間を分析したものである。下表において開示されている金額は、すべての金融負債の契約上の割引前キャッシュ・フロー（額面価額または満期時に支払うべき金額等）である。下表は満期時における支払に関するキャッシュ・フローのみを表示しているため、これらの金額は、連結貸借対照表上の金額と直接は対応せず、当該商品の決算日現在の帳簿価額に反映されたプレミアム、割引または時価評価調整も認識していない。金融負債は、支払義務が発生する最も早い期間で表示されている。オフバランス・シート項目については、金融保証および信用供与予約に基づき支払義務が発生する可能性のある割引前キャッシュ・フローは、請求される可能性のある最も早い期間で分類されている。

金融負債およびオフバランス・シート項目（割引前ベース）の契約上の満期^{*} (表63)

(単位：百万カナダドル)	2020年10月31日現在					
	要求払	1年以内	1－2年	2－5年	5年以上	合計
金融負債						
預金 ⁽¹⁾	\$ 510,849	\$ 343,201	\$ 33,168	\$ 91,871	\$ 31,706	\$1,010,795
その他						
手形引受け	9	18,609	-	-	-	18,618
空売りした有価証券に関連する債務	-	29,121	-	-	-	29,121
買戻し条件付売却資産および 貸付有価証券に関連する債務	8,315	260,945	4,971	-	-	274,231
その他の負債	199	37,681	188	358	8,678	47,104
リース債務	-	633	604	1,545	2,575	5,357
劣後無担保社債	-	-	205	110	9,552	9,867
	519,372	690,190	39,136	93,884	52,511	1,395,093
オフバランス・シート項目						
金融保証 ⁽²⁾	\$ 17,141	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 17,141
その他のコミットメント ⁽³⁾	-	81	82	209	344	716
信用供与予約 ⁽²⁾	239,212	43,025	2	-	-	282,239
	256,353	43,106	84	209	344	300,096
金融負債およびオフバランス・シート 項目合計	\$ 775,725	\$ 733,296	\$ 39,220	\$ 94,093	\$ 52,855	\$1,695,189

(単位：百万カナダドル)	2019年10月31日現在					
	要求払	1年以内	1－2年	2－5年	5年以上	合計
金融負債						
預金 ⁽¹⁾	\$ 406,042	\$ 315,398	\$ 50,218	\$ 83,651	\$ 30,560	\$ 885,869
その他						
手形引受け	-	18,091	-	-	-	18,091
空売りした有価証券に関連する債務	-	35,125	-	-	-	35,125
買戻し条件付売却資産および 貸付有価証券に関連する債務	5,977	220,592	4	-	-	226,573
その他の負債	617	31,794	190	640	8,512	41,753
劣後無担保社債	-	-	-	316	9,499	9,815
	412,636	621,000	50,412	84,607	48,571	1,217,226
オフバランス・シート項目						
金融保証 ⁽²⁾	\$ 16,608	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 16,608
リース・コミットメント	-	805	719	1,619	3,032	6,175
信用供与予約 ⁽²⁾	226,021	38,148	6	1	-	264,176
	242,629	38,953	725	1,620	3,032	286,959
金融負債およびオフバランス・シート 項目合計	\$ 655,265	\$ 659,953	\$ 51,137	\$ 86,227	\$ 51,603	\$1,504,185

* 上表は下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表の不可欠な一部分を表している。

- (1) リレーションシップ・ベースの預金の大部分は、要求に応じてまたは契約に基づく直前の通知によって払い戻されるが、実際には、かかる顧客残高が当グループの業務および流動性ニーズに対するコアベースを形成しており、前述「預金および資金調達構造」の項で説明されている。
- (2) 当グループは、保証のすべてまたはほとんどすべてが1年以内に履行または決済される可能性はきわめて低く、契約は履行または決済されずに失効する可能性があると考えている。潜在的な資金の拡大に関連する流動性リスクの管理は、「流動性リスクおよび資金調達リスク」の「リスクの測定」の項において概説されている。
- (3) 短期および低ドル価値のリースに関連するコミットメント、未開始のリースならびに控除対象外税金に関連するリース支払を含む。

＜規制の変化＞

安定調達比率

2020年1月1日、改定LARガイドラインに基づき、安定調達比率（NSFR）のOSFI規制上の最低比率が100%となった。NSFRは、当グループの資産、負債およびオフバランス・シート・エクスポージャーの流動性特性および満期構成に基づいて決定され、銀行に義務付けられた安定調達を上回る余剰の安定調達を維持するよう求めることで、構造的な調達リスクの軽減を図るものである。当グループは、この要件を満たしている。カナダ国内のシステム上重要な銀行（D-SIB）については、2021年1月31日付で、連結NSFRおよびその主要な要素の開示義務が発生する。

保険リスク

保険リスクとは、保険契約および再保険契約に基づく給付金支払および／または保険料支払の金額、時期および／または頻度が予想と異なった場合に発生する可能性のある、潜在的な財務損失である。保険リスクは、リスク管理体系のその他の部分の対象であり、リスクの移転に付帯または付随するリスク（信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスク等）とは異なる。保険の4つのサブリスクは、罹患リスク、死亡リスク、長寿リスクおよび旅行リスクである。

当グループの保険リスク体系は、グループの保険リスクの特定、評価、管理、軽減および報告のためのプロセスおよびツールの概要を示すものである。これらは、3つの防衛線という強固なガバナンス構造によっても支えられている。

オペレーショナル・リスク・ドライバー／規制コンプライアンス・リスク・ドライバー

オペレーショナル・リスク

オペレーショナル・リスクとは、人材、内部のプロセス、統制およびシステムの不適切さもしくは失敗または外部的事象によって、損失または損害が発生するリスクである。オペレーショナル・リスクは、当グループおよび第三者のすべての活動に伴い、オペレーショナル・リスクを管理できなければ、直接もしくは間接的な財務損失、評判に対する影響または規制当局による監視および当グループが運営する様々な管轄区域の手続につながる可能性がある。

当グループのオペレーショナル・リスクの管理は、3つの防衛線ガバナンス・モデルに準じている。このモデルは、グループ規模の協調アプローチにおける組織の役割および責任を網羅するものである。詳細は、「リスク管理」の「グループ・リスク管理」の項を参照のこと。

＜オペレーショナル・リスク体系＞

当グループは、オペレーショナル・リスクの特定、評価、監視、測定、報告および情報交換のプロセスを提示するグループ・オペレーショナル・リスク体系を有している。このプロセスは、以下を通じて確立されている。

- ・リスク事象データの収集および分析を含むリスクの特定ツールおよび評価ツールは、リスク・オーナーがオペレーショナル・リスク・エクスポージャーを理解し、これを積極的に管理する助けとなる。リスク評価によって、リスク・エクスポージャーとそれらを管理する努力とが確実に一致する。経営陣は、これらのツールの結果を利用して、十分な情報に基づくリスク判断を行う。
- ・リスク監視ツールは、経営陣に、オペレーショナル・リスク特性の変化を警告する。リスク監視ツールは、上申および監視基準と組み合わせることで、リスク傾向を特定し、リスク・レベルが所定の制限に近づいたことまたはこれを超過したことを経営陣に警告し、かつ、取るべき措置および軽減計画を促すことができる。
- ・リスク資本測定は、潜在的なリスク・エクスポージャーを確実に見積もり、リスクの脆弱性を表面化させ、戦略および資本計画の決定を知らせる。このことで、究極的には、当行が通常時およびストレス状況下のいずれもオペレーショナル・リスクによる損失に耐えるだけの十分な強靱性を有することが確実となる。
- ・リスク報告および情報交換プロセスにより、経営陣が該当するオペレーショナル・リスクの情報を適時に入手し、リスクの情報を踏まえた経営判断の一助とすることが可能となる。

オペレーショナル・リスク・プログラムからの結論は、機関のいずれで発生する可能性があるかに関わらず、当グループに実際に起こった、修正または実行すべき統制に基づいた学習を可能とする。これらの結論は、当グループのオペレーショナル・リスク選好を明確にし、それにより当グループのオペレーショナル・リスク特性を決定する、オペレーショナル・リスク・エクスポージャーの全体的なレベルを把握するために用いられる。かかる特性には、重大なオペレーショナル・リスク・エクスポージャー、潜在的な新規および新興のエクスポージャーおよび傾向ならびに制御環境およびリスクの見通しに関する総合的な結論が含まれる。当グループは、オペレーショナル・リスクによる将来の潜在的影響を緩和および軽減するため、企業の保険機会を積極的に見極め、調査している。

当グループは、潜在的損失の引受けとその軽減費用の負担との両立をするため、オペレーショナル・リスク選好という形で当グループの潜在的リスクおよびリターンの判断を行う。オペレーショナル・リスク選好は、取締役会レベルで決定され、各事業セグメントに伝えられる。

オペレーショナル・リスクおよびリスク・エクスポージャーの透明性の積極的管理をサポートするため、各レベルで管理報告が行われている。上級管理職に対するこれらの報告は定期的に行われ、各事業セグメントおよび当行全体のリスク状況および傾向の主たる要因について詳しい情報を提供する。また、事業戦略またはオペレーショナル・リスク選好に合わないオペレーショナル・リスク特性の変化をGRCおよび取締役会のリスク委員会において特定し、検討する。

事業を行うことで当グループは多くの異なるオペレーショナル・リスクにさらされ、事業や財務業績に悪影響が生じる可能性がある。その他の要因も当グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があるため、以下のリストは網羅的でない。

オペレーショナル
・リスク

管理戦略

サイバー・セキュリティ



サイバー・セキュリティ・リスクとは、事業に対するリスクのうち、当グループの業務を妨害し、もしくは中断させること、またはデータを暴露し、もしくは破壊させることを目的として開始されたサイバー攻撃に関連するものをいう。当グループは、適切なセキュリティおよび業務管理体制があることを確認することで、違反およびその他のインシデントから組織を保護する一助として、包括的なプログラムを専門に管理するテクノロジーおよびサイバー・セキュリティの専門家チームを有する。当グループは、サイバー・コントロール体系の強化、ならびに24時間監視、内部脅威および外部脅威のサイバー・インテリジェンス分析ならびに潜在的に疑わしいセキュリティ事象およびインシデントの警告を含めた強靱性およびサイバー・セキュリティ能力の向上を続けている。1年を通じて、プログラムおよび複数のシナリオに対する投資を継続し、強靱性戦略をテストするため評価およびシミュレーションが行われた。

データ管理および
プライバシー

データ管理とは、不適切なプロセスまたは制御によりライフサイクルを通して情報を適切に管理できず、法的もしくは規制上の帰結が生じ、評判が傷つき、または財務損失を被る結果となるリスクをいう。プライバシーとは、情報を不適切に作成もしくは収集、使用、開示、保管または破棄するリスクをいう。当グループは、デジタル・ソリューションおよびイノベーションならびに事業活動の拡大に対して投資を継続しているため、データの収集、使用および共有、ならびにデータの管理およびガバナンスの重要性はますます高まっている。これは、データプライバシーに関する最近の規制の動きにも表れている。個人情報保護に関する最高事務局および最高データ責任者は、データの使用、保護、管理および運営方法を定めたグループ規模の基準および実務を策定および実施する、部門を超えたチームと協力する。

マネー・ロンダリング
およびテロリスト資金調達

マネー・ロンダリングおよびテロリスト資金調達リスクとは、当グループの商品およびサービスが犯罪収益洗浄の手段（テロ活動の資金調達を含む。）として使用されるリスクをいう。当グループは、当グループが営業活動を行う各法域における法令の確実な遵守に努めながら、当グループにおけるマネー・ロンダリングおよびテロリストの資金調達活動を防止、発見し、その疑いを報告するための、グループ規模のプログラムを有している。当グループのグローバルAMLコンプライアンス・グループは、絶えず進化するマネー・ロンダリングおよびテロリストの資金調達リスクに従業員が対処する一助として、厳格な方針、指針、研修およびリスク評価ツールならびにモデルの継続的開発および維持管理に専念する。マネー・ロンダリングおよびテロリストの資金調達を防止するためのグローバル・プログラムは、業界基準、最良の慣行ならびに適用されるすべての法律、規則および指針に従っていることを確認するため、定期的に評価されている。違反リスクとしては、強制執行、刑事訴追および評判の失墜等が挙げられる。

第三者リスク



第三者リスクとは、第三者を効果的に管理できず、サービスの中断、規制措置、財務損失、訴訟または評判の失墜につながる可能性のあるリスクをいう。当グループは、サービスの中断、財務損失またはその他当グループに影響を与え得る様々なリスクを引き起こすおそれのある事象に対して効果的に対処できるよう、第三者との関係を監督するためのリスク・ベースのグループ規模のプログラムを有している。当グループの第三者リスク軽減アプローチは、世界の規制を確実に遵守しながら、第三者との関わりにおけるリスクを特定および管理するための最低限の要件を定めた方針および基準に要約されている。当グループは、当グループの業務に不可欠である第三者プロバイダーについて、当グループに対してサービスを提供する能力（第三者プロバイダーの供給元を含む。）に対する影響がないか監督に努めている。

事業継続性リスク



事業継続性リスクとは、当グループの通常の実業運営を妨げる事象の発生中および／または発生後、重要な事業運営を維持、継続または復旧できないリスクをいう。業務を混乱させる事象にさらされると、当グループは事業運営を継続できなくなり、また財務業績、評判、顧客に対する成果に悪影響を与え、かつ／または従業員に損害を与えるおそれがある。これら業務上の事象は、異常気象、パンデミック、プロセスの失敗、テクノロジーの不具合またはサイバー脅威の影響から発生する可能性がある。当グループのリスク・ベースのグループ規模の事業継続性管理プログラムは、混乱の影響、ならびに当グループの人材、プロセス、施設、テクノロジーおよび第三者との契約の利用可能性に及ぼす効果に対処するため、複数のシナリオを検討している。事業継続性管理に対する当グループのアプローチは、グループ全体に根付く方針および基準に要約されており、関連するリスクは、定期的に測定、監視、報告され、オペレーショナル・リスクの管理および統制体系に組み込まれている。

<オペレーショナル・リスク資本>

オペレーショナル・リスク資本の要件は、OSFI発表のガイドラインに従って決定される。現在、当グループのオペレーショナル・リスク資本は、総収益に基づくフォーミュラ・ベースの計算である標準的手法（TSA）を使用して評価している。バーゼルIII改革の実施に伴い、OSFIは、銀行等がオペレーショナル・リスク資本の測定に新たな標準的手法（SA）を採用することを義務付ける予定である。SA手法は、財務諸表に基づくオペレーショナル・リスクの代替であるビジネス指標要素（BIC）およびBICと比較した内部の平均損失実績に基づく倍率である内部損失係数を基本としている。SAが実践されれば、TSAに取って代わることになる。オペレーショナル・リスク資本についての詳細は、「資本管理」の項を参照のこと。

<オペレーショナル・リスクの損失発生事由>

2020年10月31日現在、オペレーショナル・リスクの損失は当グループのリスク選好内に収まっている。訴訟を含む不測の事態についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記24および注記25を参照のこと。

規制コンプライアンス・リスク

規制コンプライアンス・リスクとは、当グループが業務を行う法域において、法律、規則、規制および実務規定を遵守できないリスクである。当行のような大規模かつ複雑な金融機関にとって、法律および規制の遵守に関する問題は様々な分野で起こりうるものであり、内部プロセス、統制、人材またはシステムが不適切であった、または機能しなかった結果であることが多い。

顧客、投資家および公共の経済的利益およびその他の利益を保護するために、様々な法規制が定められている。大規模な世界的金融機関として、当グループは、カナダ、米国、英国、ヨーロッパおよび当グループが業務を行うその他の法域において、無数の法律ならびに政府機関、監督当局および自主規制団体による、広範囲にわたる、変わりゆく規制の適用を受けている。かかる規制は近年、ますます広範かつ複雑になっている。さらに、カナダ、米国、英国、ヨーロッパおよび世界の大規模金融機関について、特にガバナンス、リスク管理実務および統制、実行に関する規制当局の監視および期待、ならびに規制コンプライアンスの施行は強化されている。これらの要求および期待に応えられず、または特定された欠陥を解消できない場合、規制当局による監督および制約が強化される可能性がある。他の世界的金融機関に関する最近の判決では、多額の罰金支払、将来の事業運営に関する合意、関係者に関する法的措置および刑事告発における有罪答弁等が決定されている。

このようにますます複雑化する規制環境および厳しい規制の施行状況において業務を行うことで、当グループは、様々な法域における各種政府規制機関および法執行機関による民事請求および訴訟、刑事告訴、規制当局による監視、調査および手続、監査ならびに情報請求等、様々な法的手続の対象となっており、現在行っている事業活動も、将来同様の事態を引き起こすことが予想される。当行の業務が世界規模であることから、単一の問題が、異なる法域において規制当局による調査、規制手続および／または民事訴訟による請求を重複して引き起こす可能性がある。RBCは、法律違反の疑いで、または方針、手続もしくは欠陥の是正が不適切であったと規制当局が判断した場合、かかる手続の当事者となる可能性がある。税法を含む法律、規則または規制方針が改正され、その解釈、施行または執行方法が変更されると、例えば当グループが業務を行う事業への新規参入が容易になり、当グループのコンプライアンス費用が増大し、または当グループの活動および戦略的計画の実行能力が制限される等、当グループに悪影響が生じるおそれがある。さらに、当グループが、法律、規則または規制方針もしくは期待を常に遵守している、または遵守しているとみなされるという保証はない。したがって、当グループが司法当局または規制当局の執行判決または決定を受け、当グループの評判を傷つけ、当グループの収益および事業の一部を実施する能力に悪影響を及ぼすような罰金、損害、違約金およびその他の損失または差止命令、有罪判決もしくは免許もしくは登録の取消しを受ける可能性がある。さらに、通常の業務の過程において発生する訴訟のリスクもあり、訴訟について不利な決定がなされた場合、当グループの業績は重大な悪影響を受け、または評判が大きく傷つき、結果として将来の事業展望に影響を与えるおそれがある。

当グループの規制コンプライアンス管理体系は、当グループが業務を行う法域における現行および改正法ならびに規則の遵守または適用に失敗した場合、これに関連する規制コンプライアンス・リスクを管理および軽減する方法をまとめている。

規制コンプライアンス・リスクには、金融犯罪（マネー・ロンダリング、贈収賄および制裁等が挙げられるがそれだけに限られるものではない。）、プライバシー、市場行動、消費者保護、業務遂行、ならびに健全性要件およびその他の一般的な非金融要件に関連する規制リスクを含む。規制コンプライアンス・リスクを管理するために、具体的なコンプライアンス政策、手続およびサポート体系が策定されている。

戦略リスク要因

戦略リスク

戦略リスクとは、グループまたは特定の事業分野が、不適切な戦略的選択を行うリスクまたは主要な戦略もしくは予測した利益を達成できないリスクである。事業戦略は、当グループのリスク選好の主たる要因であるため、事業構成に関して行う戦略的選択によってリスク特性も変化する。

事業戦略の選択および達成の責任は、各事業セグメントの個々の責任者にある。戦略リスクの監視は、事業セグメントの責任者、事業運営委員会、グループ戦略グループ、GEおよび取締役会が行う。グループ戦略オフィスは、グループ戦略計画方針に明記されたグループ戦略計画方針に従って戦略リスクの管理を行い、事業、財務、資本およびリスク計画全体を通して整合性を確保する。

毎年行われる事業ポートフォリオの見直しおよびプロジェクトの承認要求に係るプロセスは、新たなイニシアチブ、事業ラインおよびグループ全体に関する戦略が当グループのリスク選好およびリスク状況と整合するよう確保することで戦略リスクの特定および軽減に寄与している。GRMは、かかるプロセスについて独自の検討を行い、グループのリスク体系を策定し、3つの防衛線ガバナンス・モデルに基づくリスク選好指標に照らして設定されたりリスク水準を独自に監視および報告することで戦略リスクを監視している。

事業セグメントの主要な戦略的優先事項についての詳細は、「事業セグメント業績」の項を参照のこと。

評判リスク

評判リスクとは、i) 当行、当行の従業員、第三者サービス・プロバイダーもしくは顧客の作為または不作為、ii) これらの作為または不作為が、当行のステークホルダーの期待に沿わないと認識されること、またはiii) グローバルもしくは業界の問題に対する否定的な世論により、ステークホルダーによる当行の認識にマイナスの影響が生じるリスクである。当グループの評判はステークホルダーの認識に根差しており、ステークホルダーが当グループに寄せる信頼および愛着は、当グループの金融サービス機関としての目的の中核である。強固で信頼に足る評判があれば、通常、当グループの市場における地位が強化され、資本コストが減少し、株主の利益が増加し、弾力性が増し、一流の人材を誘致および保持する助けとなる。反対に、評判が損なわれると、株価および時価総額が下落し、資本コストが増加し、戦略的柔軟性が失われ、市場への参入もしくは拡大ができなくなり、顧客の愛着および事業が失われ、規制当局に罰金および違約金を科され、規制当局もしくは検察官との制限的合意をし、または刑事訴追されるおそれがある。評判リスクの源は様々である。当グループの評判に対するリスクは、信用リスク、規制リスク、法律リスクおよびオペレーショナル・リスクに関連して発生しうる。また、効果的な統制環境を維持できない場合、良好な行動を示せない場合および適切な文化慣行を維持しない場合にも、評判リスクが発生する可能性がある。

評判リスクの管理は、当グループの組織文化およびグループ全体のリスク管理アプローチの不可欠な一部であり、従業員および取締役会の優先事項である。取締役会の承認を受けた評判リスク管理体系は、評判リスクの特定、評価、管理、監視および報告アプローチの概要を示すものである。この体系は、評判リスクを管理するためのガバナンス権限、役割および責任ならびに統制およびメカニズム（誠実な文化、行動規範の遵守およびリスク選好内での業務遂行等）をまとめたものである。

当グループの評判リスクのガバナンスは、大局的であることを目指しており、グループ全体の評判に関する潜在的な問題について総合的な見解を示すものである。このようなガバナンス構造により、評判リスクの帰属および説明責任はグループ全体で理解され、評判リスクに関する能動的および受動的両方の決定が上級執行委員会に上申されて検討および評価され、評判リスクの報告は包括的かつ総合的なものとなる。

法的リスクおよび規制環境リスク

法的リスクおよび規制環境リスクとは、新たな法令や改正後の法令および当該法令の解釈または適用がカナダの国内および当グループが業務を運営する他の法域における当グループの業務のあり方に悪影響を与えるリスクである。このような変化が当グループの事業に与える影響の全容は、最終的なルールが施行され、これに対応する市場慣行が出来上がってからでないと、把握できない。当グループはこのような変化またはその他の変化に引き続き対応し、業務上または経済的なマイナスの影響の可能性を最小限にとどめるよう努めている。下記は、当グループの費用を増減させ、収益性に影響を与え、事業の複雑性を増大させるおそれがある重要な規制の変更の概要である。2020年、COVID-19パンデミックに対応して世界各国政府およびOSFIが追加的に行った規制の変更は、本書「重要な進展：COVID-19」、「流動性リスクおよび資金調達リスク」および「資本管理」の各項に要約されている。

<世界的な不安定要素>

COVID-19パンデミック、貿易政策および地政学的緊張の影響に関する大きな不安定要素は、世界経済の見通しにとって依然としてリスクである。国際通貨基金（IMF）は2020年10月、2020暦年の世界成長率がマイナス4.4%と予測した。これは、先進国において当初の封じ込め対策が緩和された後、経済活動が予想より早く回復したためであり、6月の予測マイナス4.9%よりはわずかに改善されているが、2019年10月の水準は大きく下回っている。IMFの2021年の世界成長予測は、ソーシャル・ディスタンスおよび封じ込め対策が続くとの予測どおり、6月の予測5.4%より低い5.2%となった。COVID-19パンデミックのさらなる波、ならびにCOVID-19パンデミックに対応して導入された財務政策および金融政策の有効性を含む、COVID-19パンデミックがいつまで続くかに今後の予定が大きく左右されるため、2020暦年以降の回復に関する予測は定かではない。また、英国と欧州連合（EU）は移行期限である2020年12月31日より前にブレグジット合意をまとめなければならないため、貿易政策も依然として不安定要素である。カナダ・米国・メキシコ協定が発効し、北米間の貿易についての不安定要素は減ったものの、各国が世界のサプライチェーンへの依存度を下げようとしているため、パンデミック後の世界経済の見通しは依然として不確実である。当グループが事業モデルや商品および地域を分散していることで、世界的な不安定要素によるリスクは引き続き軽減されている。

<カナダのマネー・ロンダリング防止（AML）規制>

カナダの犯罪収益（マネー・ロンダリング）およびテロ資金供与法の改正が、2021年6月に施行される。これらの改正は、カナダにおけるマネー・ロンダリングおよびテロリストの資金調達活動の防止制度の効果を拡大し、遵守状況を国際基準に合わせることを目指すものである。当グループはこれらの要件を評価済みであり、施行日までに要件を満たす上で大きな課題は予想していない。

<金利指標改革>

ロンドン銀行間取引金利（LIBOR）は、デリバティブ、債券、融資およびその他の変動利付債について、世界で最も広く参照されている指標金利である。しかしながら、市場の金利をLIBORおよびその他の指標金利からリスクがないまたはほぼないに近い実際のオーバーナイト取引に基づく代替金利に転換するよう、規制当局主導の動きがある。米国および英国以外にも、世界の規制当局およびBoCを含む中央銀行は市場に対し、2021暦年末の特定の指標金利（LIBORのほとんどの期間を含む。）の廃止に備える必要があると警告した。期間が当該廃止日以降におよび、かつ特定の指標金利（LIBORを含む。）を参照金利とするデリバティブ、変動利付債、融資およびその他の金融契約は、影響を受ける。このため清算機関は新たな指標金利に移行しつつあり、当グループはこれに協力している。詳細は、本書「重要な会計方針および見積もり」の項を参照のこと。

<適格保険付モーゲージのカナダ指標金利>

2020年2月18日、カナダ財務省は、保険付モーゲージの最低適格金利の変更を発表した。連邦金融機関が検討した結果、最低適格指標金利は市況の変化により敏感に応じたものでなければならないと結論づけられた。政府はCOVID-19パンデミックの影響を受け、当初2020年4月6日としていた効力発生日を当面の間延期してはいるが、現在の指標金利がD-SIBの設定する5年固定金利であるのに対し、新しい指標金利は5年固定金利保険付モーゲージ金利の週中央値プラス2%となる予定である。当グループは現在この影響の評価を行っており、無保険モーゲージの指標金利の将来的な変更を含め、今後の動きについて監視を続ける。

<顧客本位改革>

カナダ証券管理局は、カナダの証券登録者に求める行動規範の強化を目的とした顧客本位改革（本改革）を実施するため、ナショナル・インスツルメンツ第31-103の改正を発表した。本改革は、利益相反、適合性、商品を知ることおよび顧客を知ること等に関する主要な要件を強化し、関係の開示、研修および記録管理に関する新たな要件を導入している。変更は2段階に分けて施行される。第1段階は利益相反および関連する開示要件に関するもので、COVID-19パンデミックの影響により当初の施行日2020年12月31日から延期されて2021年6月30日付で施行される。第2段階は残りの要件に関するもので、2021年12月31日付で施行される。これらの要件は、主として当グループのパーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントのプラットフォームに影響すると予測される。当グループは、当該要件および当グループの事業に対するその影響について、評価を続けていく。

<米国の規制イニシアチブ>

政策立案者は、米国の様々な金融規制の改革を引き続き評価および実施しており、米国の規制要件が強化または軽減され、それに伴ってコンプライアンス費用が変動する可能性がある。2020年5月、通貨監督庁は、地域社会の低・中所得者に対する銀行貸出、投資および各種サービスを増加させることを目的とした地域社会再投資法（CRA）の施行規則について、2023年1月1日より発効する改正を発表した。当グループは、今後の動きおよび結果的に当グループに生じる影響について、引き続き監視していく。

＜英国およびヨーロッパの規制改革＞

ブレグジットによる影響に加えて、その他予定されている規制の動きには、以下が含まれる。

- ・金融サービス会社に対し、助言および投資判断プロセスの一環として環境、社会およびガバナンスの要素を検討するアプローチを開示するよう義務付けるサステナビリティ開示規制。これらの要件は、2021年3月10日付で施行され、当グループは現在その影響を評価しているところである。
- ・証券取引の決済における規律強化を目的とするEU証券集中保管機関規則のルール。EUは、この施行日を当初の2021年2月から2022年2月に延期した。

規制資本および関連要件についての詳細は、本書「2 事業等のリスク」および「3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のリスクに関する各項ならびに「資本管理」の項を参照のこと。

競争リスク

競争リスクは、任意の市場において持続可能な競争優位性を確立または維持できないリスクであり、競合他社が優れた商品およびサービスを提供することで市場シェアを失う可能性を含む。競争リスクは、金融部門の内外で、国内または世界の従来または新しい競争相手から発生しうる。当グループが事業を行う市場における金融サービス会社間の顧客獲得は、熾烈な競争である。顧客のロイヤルティおよび保持率は、当グループの競争相手によって使用される新たな技術または提供されるサービス、相対的なサービスのレベルおよび価格、商品およびサービスの特性、当グループの評判、競争相手の行動ならびに競争法および独占禁止法の遵守といった数々の要因の影響を受ける。保険会社および非金融会社ならびに新技術アプリケーション等、その他の会社で、従来銀行が提供していたサービスを提供する会社が増えている。かかる競争によって、当グループの収益が減少し、当グループの業績が悪影響を受ける可能性がある。

当グループは、全体的なリスク管理プロセスの一環として競争リスクを特定し、評価している。当グループの商品およびサービスは、既存の競合会社および潜在的な競合会社に照らして定期的に評価される。また、当グループは、当グループの商品、サービス、合併および買収戦略に関するリスク・レビューを定期的に行うほか、競争法および反トラスト法の遵守を徹底している。年1回の戦略設定プロセスも、競争リスクの管理にあたり不可欠な役割を担っている。

マクロ経済リスク要因

システミック・リスク

システミック・リスクは、金融システムに対する実質的なショックを引き起こす不測の事態により金融システム全体またはその主要部分（個別の国、地域または世界の別を問わない。）が破綻または重大な打撃を受ける現実の危険が迫っており、経済に対しても甚大な被害をもたらす可能性があるリスクであり、かつ、結果として当グループの財務リスク、評判リスク、法的リスクまたはその他のリスクを伴うものをいう。

システミック・リスクは、当グループがさらされているリスクのうち最も制御しにくいリスクとみなされており、2008年の世界金融危機およびCOVID-19パンデミックのような事態となれば、脆弱性が増大する。主要な業界関係者と、状況に応じて公共部門および規制当局との、これらのリスクの頻度および影響を低下させる協調メカニズムを通じて行う以外、当グループが事業活動を引き受ける際にシステミック・リスクを軽減できる方法は限定的である。システミック・リスクの影響を軽減する際に最も重要な2つの手段は、分散化およびストレス・テストである。

当グループが事業モデル、ポートフォリオ、商品、業務および資金調達源を分散しているおかげで、システミック・リスクからの潜在的影響はある程度軽減されている。また当グループでは、ポートフォリオが十分に分散され、集中リスクが減少し、また、当グループのリスク選好内に収まるよう、リスク制限を設定することによっても、システミック・リスクを軽減している。

ストレス・テストでは、多くのリスク要因の動きを同時に検討する。これは、困難な経済状況下における信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよびオペレーショナル・リスクの当グループに対する潜在的影響を測定することで、当グループの事業戦略および資本計画が堅牢であることを確認するために用いられるものである。グループ規模のストレス・テスト・プログラムは、起こりうる経済および金融市場を除く例外事由を考慮した、リスク要因における一連の特定の変化の潜在的な影響を評価する。これらのストレス・シナリオは、グループ全体で評価され、その結果は統合され、当グループの財務業績および自己資本比率への影響についてのグループ全体の見解が形成される。ストレス・テストの詳細は、「リスク管理」の「グループ・リスク管理」の項を参照のこと。

当グループの財務業績は、業務を行う地域における事業および経済の状況によって影響を受ける。これらの条件は、個人貯蓄および消費性向ならびに個人借入および返済の傾向、企業の設備投資、政府支出、為替、ソブリン債リスク、活動の水準および資本市場の不安定性、経済の強さならびにインフレを含む。カナダおよび米国における業務の重要性を考慮すると、景気後退が続くことで、個人向けおよび企業向け貸出業務は打撃を受け、当グループの信用損失引当金繰入額が増加するおそれがある。世界の資本市場の悪化および不安定要素は、ボラティリティの継続的な高まりをもたらし、キャピタル・マーケットの業績に影響を与える可能性がある一方、ウェルス・マネジメントにおいては、市況が軟化した場合、手数料ベースの平均顧客資産および取引高が減少する可能性がある。さらに、金融市場および信用市場の情勢悪化によって、有利な条件で資本市場にアクセスできなくなり、流動性にマイナスの影響が生じ、結果としてキャピタル・マーケットおよびインベスター&トレジャリー・サービスの調達費用が増加し、取引高が減少する可能性がある。

また、当グループの財務業績は、金利の変動の影響も受けやすい。世界の中央銀行は2020年、主としてCOVID-19パンデミックの影響に対処して金融システムの強靱性および安定性の維持を支援するため、指標金利を引き下げた。カナダや米国においておよび世界的に低金利環境が続く場合、当グループの多くの業務にわたるスプレッド縮小によって、受取利息純額は引き続きマイナスの影響を受ける可能性があるが、金利が上がれば、当グループの業務にはプラスとなる。しかしながら、金利が大幅に上がった場合は、消費者の家計にマイナスの影響を与えるおそれがあり、結果として信用が悪化し、財務業績、特にパーソナル&コマーシャル・バンキングおよびウェルス・マネジメントのいくつかの業務等にマイナスの影響を与える可能性がある。

資本管理

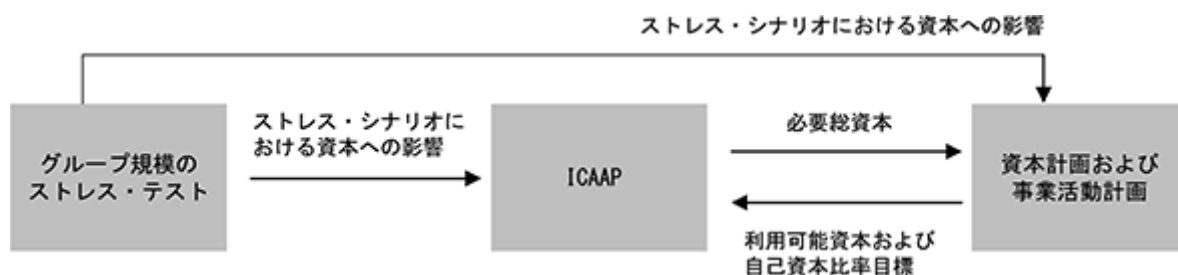
当グループでは、株主に対して多額の利益を還元しつつも高い自己資本比率および格付を維持するために、積極的な資本管理を行っている。当グループは、規制当局の要求のほか、信用格付機関、預金者および株主の予想ならびに当グループの事業計画、ストレス・テスト、同業者との比較および当グループの自己資本比率の内部目標について検討している。当グループの目標は、資本の活用方法および構成を最適化し、事業セグメントおよび顧客をサポートすることである。また、当グループは、預金者および債権者を保護しつつ、株主に対してより多額の利益を生み出すことも企図している。

<資本管理体系>

当グループの資本管理体系は、統合的でかつ一貫性のある方法により、あらゆる形態の資本を規定、測定、調達および投資するための方針およびプロセスを定めている。これは、資本要件ならびに取引、配当、ソロ・キャピタルならびにRWAおよびレバレッジ比率エクスポージャーの管理に関する指針、役割および責任を含む、資本管理の当グループの全体的なアプローチを規定している。規制資本およびソロ・キャピタルを含むいくつかの観点から、資本の管理および監督を行っている。

当グループの資本計画プロセスはダイナミックであり、ファイナンス、コーポレート・トレジャリー、GRMおよびエコノミクス等、様々なチームおよび当グループの事業が関与しており、自己資本比率目標、資本取引の可能性ならびに予想配当性向および株式買戻しを網羅している。このプロセスは、事業活動計画、グループ規模のストレス・テストおよび自己資本充実度に関する内部評価プロセス（ICAAP）、規制資本の変更および要件、会計方針の変更、自己資本規制、格付機関の測定基準ならびにソロ・キャピタルを考慮している。

資本計画は毎年策定され、事業戦略、市場および経済情勢の予測ならびに競合グループの位置付けを踏まえた資産および利益の成長予測を含む、年間事業計画における経営陣の措置との間で調整がなされる。これには、予想留保利益、事業予測、自己資本規制に影響を与えるおそれのある会計および規制の変更等、市況その他の動きに基づく、資本取引の可能性も組み込まれている。資本計画のすべての要素は、1年を通じて監視され、適宜修正される。



グループ規模のストレス・テストおよび毎年行われるICAAPプロセスにより、自己資本比率目標の設定等、資本計画にとって重要な情報が提供される。ストレス・シナリオはグループ全体で評価され、その結果から財務的影響や資本要件に関するグループ全体の見解をまとめ、不利な状況を吸収するための行動を軽減する計画の助けとする。ICAAPは、資本充実度およびすべての重要なリスクを網羅する必要性を評価し、起こりうる不測の事態を和らげるものとなる。OSFIのガイドラインに従い、ICAAPプロセスの主要な要素には、包括的なリスク評価、ストレス・テスト、資本評価および計画、取締役会および上級管理職による監督、監視および報告ならびに内部統制審査が含まれる。

当グループの自己資本比率目標は、OSFIのバーゼルⅢ規制目標を超える健全な資本基盤を維持するために設定するものである。グループ規模のストレス・テストおよびICAAPプロセスによるストレス・テストの結果は、当グループのリスク特性およびリスク選好を考慮したあらゆるストレス・シナリオ（COVID-19パンデミックを含む。）において当行がリスクを支え損失を吸収するのに十分な資本を有するよう、OSFIの資本バッファ、D-SIB／グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）の資本上乗せ規制および国内安定化バッファ（DSB）に組み込まれる。さらに、当グループは、リスク選好、潜在的なマイナスの下降予測を反映し、近い将来の規制および会計方針の変更、競争相手、格付機関に対する感応度およびソロ・キャピタル・レベルのための資本力を維持するため、OSFIの規制目標に加えて任意の緩衝帯を含めている。

取締役会は、資本計画の年1回の審査および承認を含め、資本管理の最終的な監視責任を負う。ALCOおよびGEは、資本管理責任を共同で負い、承認された制限およびガイドラインのコンプライアンス状況について詳述した報告書を定期的に受け取る。監査委員会およびリスク委員会は、ICAAPプロセスを連帯して承認する。

<バーゼルⅢ>

当グループの連結規制資本要件は、OSFIが発表したガイドラインによって決定されているが、このガイドラインはBCBSが採用するバーゼルⅢ最低自己資本比率に基づいている。

バーゼルⅢに基づき、銀行は、主要な2つの選択肢、すなわち標準的手法およびIRBの中から、信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクを支えるために必要とされる最低限の規制資本の計算方法を決定する。当グループは、規制当局に対する連結報告の目的上、信用リスク資本の計算にバーゼルⅢのIRBを採用した。当グループの信用リスク・エクスポージャーの大部分は、規制資本目的のためバーゼルⅢのIRBによって報告されているが、ポートフォリオの一部（カリビアン・バンキング業務およびシティ・ナショナル等）については、引き続き信用リスクにバーゼルⅢ標準的手法を用いている。規制当局に対する市場リスク資本の連結報告には、内部モデル手法および標準的手法の両方を用いている。規制当局に対するオペレーショナル・リスクの連結報告については、先進的計測手法の使用がOSFIによって廃止されたため、当グループは2019年11月1日、標準的手法（SA）を採用した。当グループは、BCBSのバーゼルⅢレバレッジ比率要件を反映したOSFIのレバレッジ要件（LR）ガイドラインに基づき規制レバレッジ比率を決定している。当グループは、最低レバレッジ比率を3%以上に維持することが求められている。

銀行のグローバルなシステム上の重要性の相対的水準の透明性およびデータの質を高めるために、連邦政府の規制を受けており、事業年度末時点でバーゼルIIIレバレッジ比率のエクスポージャー総額が2,000億ユーロを超えるすべての銀行は、最低でも年度末の次の第1四半期に、G-SIBの評価手法に用いられる12の指標を公表するよう義務づけられる。FSBは、最新のG-SIBリストを毎年公表している。2020年11月11日、当グループは、FSBによってG-SIBに再指定された。この指定により当グループは、D-SIBの要件と同じ1%という、より高い損失吸収要件（株主資本がRWAに占める割合）を義務付けられている。

2018年4月18日、OSFIは、連邦政府のバイルイン制度の一環としてカナダのD-SIBに適用される総損失吸収能力（TLAC）に関する最終ガイドラインを公表した。このガイドラインは、G-SIBに指定された機関についてFSBが2015年11月9日に公表したTLAC基準に合致するが、カナダの実情に合わせたものとなっている。TLAC要件は、システム上重要な銀行が破綻した場合の資本増強を支援するにあたっての当該銀行の損失吸収能力の十分性について扱うことが意図されている。TLACは、Tier 1 資本、Tier 2 資本およびCDIC法に基づき全部または一部が普通株式に転換可能であり、ガイドラインの適格性基準をすべて満たしているその他のTLAC証券の合計と定義される。

TLAC要件は、2021年11月1日付で満たすことを義務付ける2つの最低基準を定めた。すなわち、自己資本比率規制（CAR）ガイドラインに記載されたリスク・ベースの自己資本比率に基づくリスク・ベースのTLAC比率、およびOSFIのLRガイドラインに記載されたレバレッジ比率に基づくTLACレバレッジ比率である。OSFIは2020年4月16日、システム上重要な銀行に対して最低22.5%のTLAC比率（現在のDSB1.0%を含む。）を維持することを義務付ける通知を行った。TLACレバレッジ比率については、OSFIは引き続き6.75%を義務付ける。当グループは、2018年度第4四半期にバイルイン適格債の発行を開始し、これがTLAC比率の上昇に寄与している。当グループのTLAC比率は、支払期限を迎える無担保定期債務の通常の借換えにおいて上昇することが予測される。

2018年6月20日、OSFIは、すべてのD-SIBが、他の現行の資本関連開示要件と同様に、四半期開示の一環として第2の柱のDSBを公開することを義務付けられる、と発表した。カナダのシステム上重要な銀行6行のバッファのレベルは、当該事業体のRWA総額の0%から2.5%である。DSB要件は、CET 1 資本レベルで充足しなければならない。OSFIは、6月と12月の半年に1回、DSBの見直しを行い、当該時点において変更があれば公表する予定である。しかし、COVID-19パンデミックに関する混乱に対処し、かつ、銀行が経済にさらなる信用を供給するのを支援するため、OSFIは2020年3月13日、DSBをRWA総額の2.25%から1.0%に引き下げることを発表し、バッファの減少は即時に生じた。OSFIはこの時、18ヶ月間はDSBを引き上げないことを約束し、すべての銀行は増配を行わないこと、および株式の買戻しを中止することを想定していると発表した。2020年6月23日、OSFIは、DSBをRWA総額の1.0%とすることを改めて確認した。

OSFIは2020年3月27日、COVID-19パンデミックに関して、銀行部門の財務上および業務上の柔軟性をさらに支援するため、一連の規制調整およびガイダンスを公表し、その後もこれらを施行および／または明確化するための規定を随時公表している。

・RWAに関する規制調整

- ・すべての貸出金の延滞について支払遅延の取扱いを実行日から6ヶ月遅らせることで、顧客が自らの貸出金（モーゲージ、クレジットカード、自動車ローン、中小企業向けローンまたは商業貸出を含むが、これらに限定されない。）について支払猶予を求めた場合のRWAの増加を軽減する。
- ・ストレス・バリュエーション・アット・リスクの係数を2021年4月以降まで一時的に3から1に引き下げ、調達評価調整ヘッジを市場リスクから恒久的に除外する。
- ・2020年度第1四半期から2020会計年度の残る各四半期までの間におけるステージ1およびステージ2の引当金の増加につき、70%の税引後除外率を適用することで、CET1資本に係る推定貸倒引当金の増加を修正する。除外率はその後、2021会計年度に50%に、2022会計年度に25%にそれぞれ引き下げる予定である。金融機関が引当金不足である四半期については、当該金融機関のIRBポートフォリオにこれらの修正は行わない。
- ・規制上認められるレバレッジ比率の下限を超えて利用可能なバッファの利用を認める。

カナダ政府が開始し、本書「重要な進展：COVID-19」の項に記載されている救済プログラムに関して、OSFIは2020年3月30日、かかるプログラムに関連する資本の取扱いについてガイダンスを公表した。

- ・CEBAプログラムに基づき行われる融資は、政府が全面的に保証するものであるため、リスク・ベースの資本比率およびレバレッジ比率からは除外する。
- ・EDCによるBCAP保証プログラムの一環として行われる融資の保証付き部分および無保証部分の両方につき、既存の規制ガイドラインに従って適切なリスク調整を行う。ただし、レバレッジ比率の計算には当該融資の全額を算入しなければならない。
- ・リスク・ベースの資本比率およびレバレッジ比率の計算には、BDCの融資プログラムに基づき行われる新規融資のうち、当該金融機関自体が関与する部分のみを反映すればよい。

2020年4月9日および2020年4月16日には、自己資本および流動性の計測をサポートするため、OSFIがさらなる規制ガイダンスを公表し、その効力は即時発生した。

- ・レバレッジ比率のエクスポージャー金額から、HQLAに該当する中央銀行の準備金および政府発行証券を除外する。期間は、当初発表された終了日2021年4月30日から延長して2021年12月31日までとする。
- ・IRB手法を使用する金融機関の現行の規制資本最低水準を、SAに基づくRWAの75%から70%に引き下げる。引き下げた最低水準係数は、2023年度第1四半期にバーゼルIII改革が適用されるまで有効とする。
- ・米国政府が開始した給与保護プログラム（PPP）により取得したエクスポージャーは、RWAおよびレバレッジ・エクスポージャー金額から除外する。

OSFIは、これらの救済措置の必要性について評価を行っており、今後も引き続き行う予定である。2020年8月31日以降、すべての返済猶予の2020年9月30日以降の支払遅延の取扱い等、一部の救済措置はOSFIにより必要なしと判断され、支払猶予が認められた時期に応じて段階的に縮小されつつある。当グループは、当グループの業績および現在行っている資本計画活動に、上記の調整およびガイダンスを適宜組み込んでいる。

下表は、バーゼルIIIおよび第2の柱の要件に基づくOSFIの現行の規制目標比率をまとめたものである。当グループは、OSFIが規定するすべての資本要件およびレバレッジ要件を遵守している。

バーゼルIII—OSFIの規制目標						(表64)		
バーゼルIIIの自己資本比率およびレバレッジ	バーゼルIIIでの大手銀行に対するOSFIの規制目標設定					2020年 10月31日 現在のRBC 自己資本および レバレッジ 比率	国内安定化 バッファ (3)	自己資本バッ ファ、 D-SIB/G-SIBの サーチャージお よび国内安定化 バッファを 含む最低水準
	自己資本 バッファ		自己資本 バッファ を含む D-SIB/G-SIBの サーチャージ ⁽²⁾		自己資本バッ ファおよび D-SIB/G-SIBの サーチャージを 含む最低水準 ⁽²⁾			
	最低水準	(1)	最低水準	サーチャージ ⁽²⁾	含む最低水準 ⁽²⁾			
普通株式等Tier 1 比率	4.5%	2.5%	7.0%	1.0%	8.0%	12.5%	1.0%	9.0%
Tier 1 資本	6.0%	2.5%	8.5%	1.0%	9.5%	13.5%	1.0%	10.5%
資本総額	8.0%	2.5%	10.5%	1.0%	11.5%	15.5%	1.0%	12.5%
レバレッジ比率	3.0%	n.a.	3.0%	n.a.	3.0%	4.8%	n.a.	3.0%

- (1) 自己資本バッファは、OSFIにより規定された資本保全バッファおよび景気連動抑制的な自己資本バッファを含む。
- (2) 当グループのD-SIBのサーチャージおよびBCBSのG-SIBのサーチャージの増加と同等の自己資本サーチャージはリスク調整後資本に適用する。
- (3) 2020年3月13日以降、上記で言及された改定ガイダンスに従い、OSFIは、DSBを2.25%からRWAの1.0%の水準へと引き下げた。2020年6月23日、OSFIは、DSBをRWA総額の1.0%と再確認した。
- n.a. 該当なし。

<規制資本、RWAおよび自己資本比率>

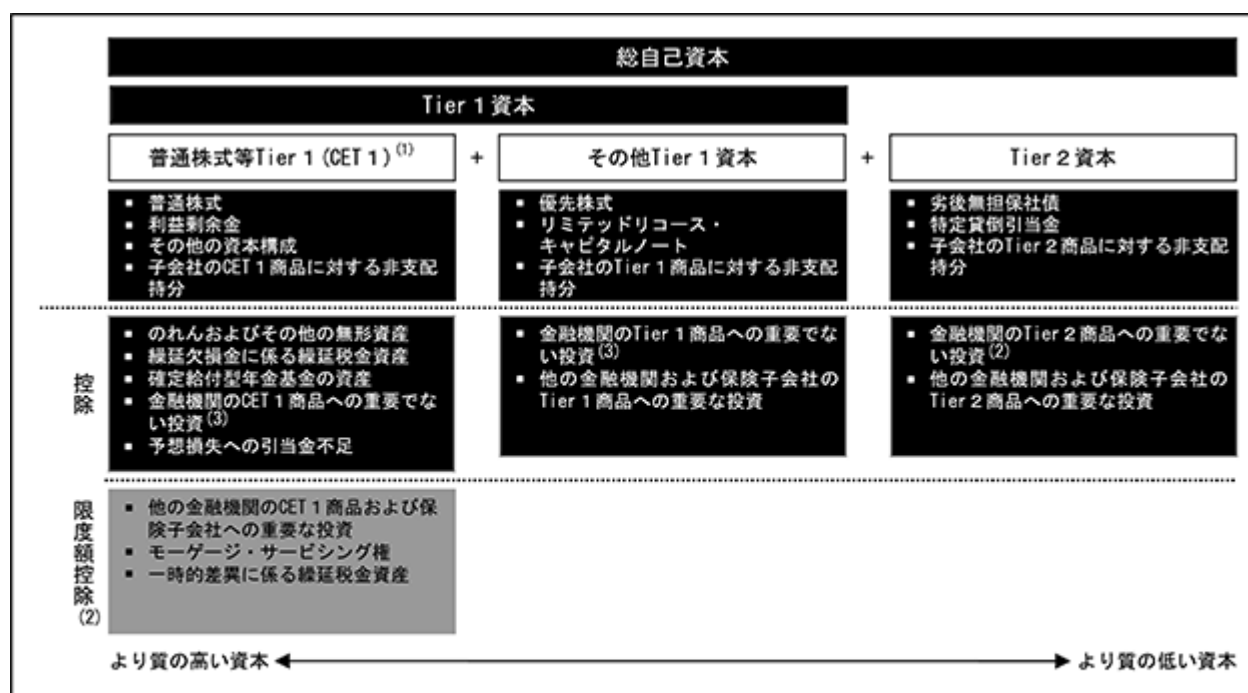
バーゼルIIIに基づき、規制資本はCET 1 資本、その他Tier 1 資本およびTier 2 資本からなる。

CET 1 資本は、最も質の高い資本である。バーゼルIIIに基づく規制調整は、特定の項目の全額控除および限度額控除の対象となるその他の資本要素を含む。

Tier 1 資本は、主としてCET 1 および一定の基準を満たす非累積型優先株式およびリミテッドリコース・キャピタルノート (LRCN) を含むその他Tier 1 の各項目からなる。Tier 2 資本には、主として一定の基準を満たす劣後無担保社債および特定貸倒引当金が含まれる。総資本は、Tier 1 資本とTier 2 資本の合計と定義される。2013年1月1日より後に発行された優先株式、LRCNおよび劣後無担保社債に関しては、実質破綻コンティンジェント・キャピタル (NVCC) の特徴を規制資本に含める必要がある。NVCC要件は、銀行が政府の財政支援を求める前に一般的な規制資本証券が損失を被らないよう確保するものである。

規制自己資本比率は、CET 1 資本、Tier 1 資本および資本総額をそれぞれのRWAで除して算出する。

下図は、CET 1 資本、その他Tier 1 資本およびTier 2 資本の主な内容をまとめたものである。



(1) 2020年3月27日以降、OSFIの規制調整に従い、CET 1 資本の予想信用損失引当金の増加に関する修正は、2020年1月31日の残高と比較して、ステージ1およびステージ2の引当金の増加に対して70%の税引後控除率を適用する対象である。

(2) 第一段階：CET 1 資本の基準値(すべての控除後かつ限度額控除前)の10%を超えた各項目は、それぞれCET 1 資本より控除される。第二段階：前述の第一段階より控除されず、かつ規制調整後CET 1 資本の15%を超えた3項目の総額は、資本より控除され、残額は250%にてリスク調整される。

(3) 重要でない投資は、控除可能金額を決定する、特定のCAR基準の対象である。

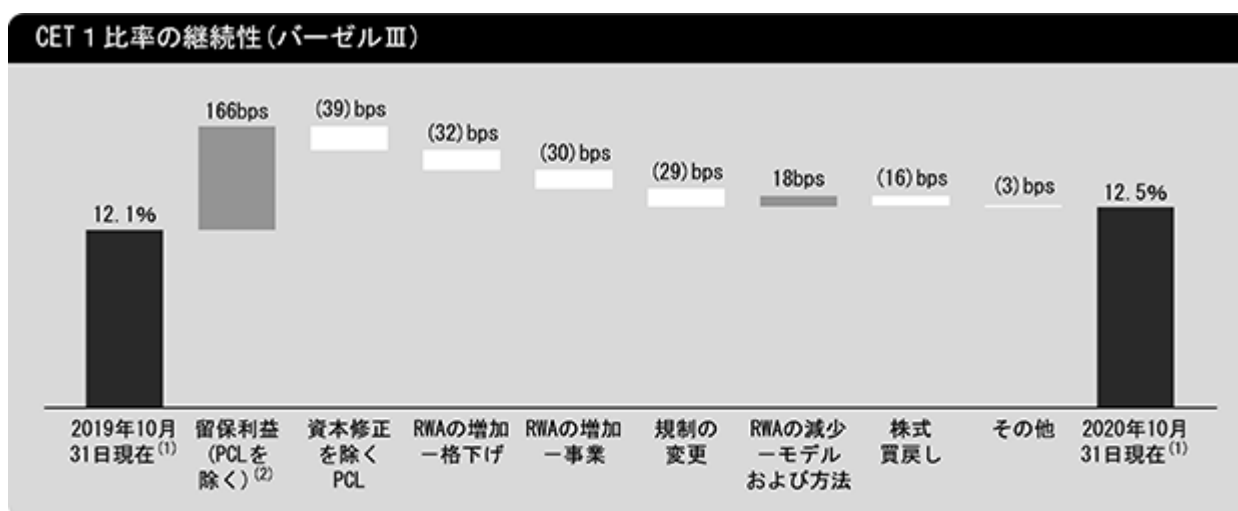
下表は、規制資本、RWAならびに自己資本比率およびレバレッジ比率に関する詳細である。当グループの資本基盤は引き続き強固であり、自己資本比率およびレバレッジ比率は引き続きOSFIが規定する目標を大幅に超えている。

規制資本、リスク調整後資産（RWA）ならびに自己資本およびレバレッジ比率		（表65）	
（単位：百万カナダドル（%の数値および別段の記載がある場合を除く。））		2020年 10月31日現在	2019年 10月31日現在
資本⁽¹⁾			
CET 1 資本	\$	68,082	\$ 62,184
Tier 1 資本		74,005	67,861
資本総額		84,928	77,888
自己資本比率の計算に使用されるリスク調整後資産（RWA）⁽¹⁾			
信用リスク	\$	448,821	\$ 417,835
市場リスク		27,374	28,917
オペレーショナル・リスク		70,047	66,104
RWA総額	\$	546,242	\$ 512,856
自己資本比率およびレバレッジ比率⁽¹⁾			
CET 1 比率		12.5%	12.1%
Tier 1 比率		13.5%	13.2%
総自己資本比率		15.5%	15.2%
レバレッジ比率		4.8%	4.3%
レバレッジ比率エクスポージャー（単位：十億）	\$	1,552.9	\$ 1,570.5

(1) 資本、RWAおよび自己資本比率はOSFIのCARガイドラインを使用して計算されており、レバレッジ比率は、COVID-19パンデミックに対応し、OSFIにより2020会計年度に発行された規制ガイダンスに従い改定したOSFIのLRガイドラインを使用して計算されている。CARガイドラインおよびLRガイドラインのいずれもバーゼルIIIの枠組みに基づく。

規制資本	(表66)	
(単位：百万カナダドル)	2020年 10月31日現在	2019年 10月31日現在
CET 1 資本：資本商品、準備金、規制調整		
直接発行の適格普通株式資本（非合資会社相当）および関連過剰株式	\$ 17,732	\$ 17,888
利益剰余金	59,573	55,680
その他の累積包括利益（およびその他の準備金）	3,414	4,248
CET 1 より廃止対象の直接発行資本（非合資会社にのみ適用）	-	-
子会社が発行し第三者が保有する普通株式資本（CET 1 グループに割当）	12	12
バーゼルIIIに基づきCET 1 に適用される規制調整	(12,649)	(15,644)
普通株式等Tier 1（CET 1）	\$ 68,082	\$ 62,184
その他Tier 1 資本：資本商品、規制調整		
直接発行のその他Tier 1 適格資本商品および関連過剰株式	\$ 5,921	\$ 4,175
その他Tier 1 から段階的に廃止される直接発行の資本商品	-	1,500
子会社が発行し第三者が保有するその他Tier 1 資本商品 （AT 1 グループに割当）	2	2
バーゼルIIIに基づきその他Tier 1 に適用される規制調整	-	-
その他Tier 1 資本（AT 1）	\$ 5,923	\$ 5,677
Tier 1 資本（T1 = CET 1 + AT 1）	\$ 74,005	\$ 67,861
Tier 2 資本：資本商品、引当金、規制調整		
直接発行のTier 2 適格資本商品および関連過剰株式	\$ 9,049	\$ 6,998
Tier 2 から段階的に廃止される直接発行の資本商品	488	2,509
子会社が発行し第三者が保有するTier 2 資本商品（Tier 2 グループに割当）	29	25
引当金全体	1,357	495
バーゼルIIIに基づきTier 2 に適用される規制調整	-	-
Tier 2 資本（T2）	\$ 10,923	\$ 10,027
資本合計（T1 + T2）	\$ 84,928	\$ 77,888

<2020年度と2019年度との比較>



(1) 四捨五入された金額である。

(2) 留保利益に含まれる85億ドルは、PCLを除く株主に分配可能な当期純利益から、普通株式および優先株式配当ならびにその他資本性金融商品に係る配当をそれぞれ差し引いたものを表す。

当グループのCET 1 比率は、前年度から40bps上昇して12.5%となった。これは主として、留保利益によるものであるが、RWAの増加、予想損失への引当金に関する資本修正を控除後のPCL増加の影響、規制の変更の影響および株式の買戻しにより一部相殺された。

Tier 1 比率は、30bps上昇して13.5%となった。これは、上記のCET 1 比率に関して記載した要因、およびLRCNの発行によるプラスの影響によるものであるが、優先株式の償還により一部相殺された。

総自己資本比率は、上記のTier 1 比率に関して記載した要因を反映して、30bps上昇して15.5%となった。また総自己資本比率は、適用された資本修正を控除後の超過引当金の算入（劣後無担保社債の純償還により一部相殺された。）によっても、プラスの影響を受けている。

レバレッジ比率は50bps上昇して4.8%となった。これは主として、留保利益、HQLAに該当する中央銀行の準備金および政府発行証券に関する規制の修正の影響、ならびにLRCNの発行を反映している。これらの要素は、レバレッジ・エクスポージャーの上昇、予想損失への引当金に関する資本修正を控除後のPCL増加の影響、優先株式の償還、株式の買戻し、およびIFRS第16号採用の影響によって、一部相殺された。

レバレッジ・エクスポージャーは176億ドル減少した。これは主として、HQLAに該当する中央銀行の準備金および政府発行証券に関する規制の修正の影響によるものであるが、現金、貸出金および有価証券を中心とした事業拡大、外国為替換算の影響ならびにIFRS第16号採用の影響によって一部相殺された。

<バーゼルⅢRWA>

OSFIは、信用リスク、オペレーショナル・リスクおよび大規模なトレーディング活動を行っている場合は市場リスクに対するエクスポージャーについて、銀行が、リスク・ベースの必要資本を最低限満たすよう定めている。RWAは、これらのリスク・タイプのそれぞれについて計算され、その合計がRWA総額となる。さらに、OSFIのCARガイドラインが定めるとおり資本最低水準要件を最低限維持しなければならない。2020年4月9日以降、資本最低水準要件は、CARガイドラインに記載された現行のバーゼルⅢ標準的信用リスクおよび市場リスク手法に基づき計算したRWAの70%となっていた。必要資本が要求される基準に満たない場合、OSFIのCARガイドラインが定めるとおり、報告されたRWAについてRWAへの最低水準調整を行わなければならない。

総リスク調整後資産							(表67)
(単位：百万カナダドル (%の数値を除く。))	エクスポ ジャー ⁽¹⁾	リスク 加重平均 ⁽²⁾	2020年 10月31日現在				2019年 10月31日現在
			リスク調整後資産				合計
			標準的 手法	先進的 手法	その他	合計	
信用リスク							
貸付関連およびその他							
住宅担保ローン	\$ 302,980	8%	\$ 9,294	\$ 15,310	\$ -	\$ 24,604	\$ 23,629
その他リテール	299,180	20%	6,848	53,696	-	60,544	59,443
事業	378,188	58%	51,175	167,628	-	218,803	215,342
ソブリン	281,426	5%	2,385	12,986	-	15,371	9,400
銀行	29,911	17%	1,720	3,508	-	5,228	7,648
貸付関連およびその他							
総額	\$1,291,685	25%	\$ 71,422	\$ 253,128	\$ -	\$ 324,550	\$ 315,462
トレーディング関連							
レポ取引	\$ 857,349	1%	\$ 88	\$ 9,352	\$ 56	\$ 9,496	\$ 10,469
CVAを含むデリバ ティブ (CET1の 段階的導入調整)	93,930	46%	2,073	22,347	18,497	42,917	33,617
トレーディング関連							
総額	\$ 951,279	6%	\$ 2,161	\$ 31,699	\$ 18,553	\$ 52,413	\$ 44,086
貸付関連およびその他 ならびにトレーディ ング関連合計							
銀行帳簿エクイティ	\$2,242,964	17%	\$ 73,583	\$ 284,827	\$ 18,553	\$ 376,963	\$ 359,548
証券化エクスポ ージャー	3,456	143%	-	4,931	-	4,931	4,583
規制スケーリング因子	64,421	18%	5,270	6,219	-	11,489	7,794
その他の資産	n.a.	n.a.	n.a.	17,385	-	17,385	17,089
その他の資産	29,459	129%	n.a.	n.a.	38,053	38,053	28,821
信用リスク総額	\$2,340,300	19%	\$ 78,853	\$ 313,362	\$ 56,606	\$ 448,821	\$ 417,835
市場リスク							
金利			\$ 2,309	\$ 5,532	\$ -	\$ 7,841	\$ 7,264
株式			2,066	1,562	-	3,628	3,381
外国為替			2,544	373	-	2,917	1,756
コモディティ			238	49	-	287	296
個別リスク			4,932	1,053	-	5,985	8,885
増分リスク費用			-	6,716	-	6,716	7,335
市場リスク総額			\$ 12,089	\$ 15,285	\$ -	\$ 27,374	\$ 28,917
オペレーショナル・ リスク							
			\$ 70,047	n.a.	n.a.	\$ 70,047	\$ 66,104
総リスク調整後資産	\$2,340,300		\$ 160,989	\$ 328,647	\$ 56,606	\$ 546,242	\$ 512,856

(1) エクスポージャー総額とは、債務者のデフォルト時に予想されるグロス・エクスポージャーであるEADを指す。かかる額は、減損貸出引当金または評価損の一部が計上される前であり、信用リスクの軽減および保有する担保による影響を反映していない。

(2) 特定のカテゴリーにおける相手方リスクの加重平均を表す。

n.a. 該当なし。

<2020年度と2019年度との比較>

当年度中、RWAは330億ドル増加した。これは主として、正味信用格付が最終的に引下げとなった影響、デリバティブ、現金および貸出金を中心とした事業拡大ならびに外国為替換算の影響によるものである。IFRS第16号採用を反映した規制の変更、ならびに一部の証券化およびカウンターパーティ信用リスク・エクスポージャーに認められていた適用除外および移行措置の廃止によるマイナスの影響も、この増加に寄与した。これらの要素は、市場リスクの削減に伴う資本修正を含む、通常のモデルおよび手法の正味変更により一部相殺された。RWAに対する外国為替換算の影響は、CET 1 比率における経済的ヘッジにより大部分が相殺された。

<主要資本管理活動>

主要資本管理活動 (表68)			
(単位：百万カナダドル (株式数を除く。))	2020年10月31日に終了した年度		
	発行日 または償還日	株式数 (単位：千株)	金額
Tier 1 資本			
発行済普通株式			
株式に基づく報酬制度に関連する発行 ⁽¹⁾		1,043	\$ 80
消却のための買入		(7,860)	(97)
リミテッドリコース・キャピタルノート・シリーズ			
1の発行 ⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾		1,750	\$ 1,750
優先株式シリーズWの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(12,000)	\$ (300)
優先株式シリーズAAの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(12,000)	(300)
優先株式シリーズACの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(8,000)	(200)
優先株式シリーズAEの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(10,000)	(250)
優先株式シリーズAFの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(8,000)	(200)
優先株式シリーズAGの償還 ⁽³⁾	2020年10月1日	(10,000)	(250)
Tier 2 資本			
2024年12月6日満期劣後無担保社債の償還 ⁽⁵⁾	2019年12月6日		\$ (2,000)
2029年12月23日満期劣後無担保社債の発行 ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	2019年12月23日		1,500
2025年6月4日満期劣後無担保社債の償還 ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	2020年6月4日		(1,000)
2030年6月30日満期劣後無担保社債の発行 ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	2020年6月23日		1,250
その他			
優先株式シリーズC-2の買入および消却 ⁽³⁾	2019年12月17日	(5)	\$ (8)

(1) 当期中に行使されたストック・オプションおよびストック・オプションに係る公正価格の調整により受け取った現金を含む。

(2) LRCNについて、株式数は発行された社債の数を示す。

(3) 詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記20を参照のこと。

(4) NVCC商品。

(5) 詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記19を参照のこと。

2019年2月27日、当グループは、当グループの普通株式を20百万株を限度として買い付けるための通常発行者ビッド（NCIB）について発表した。これは2019年3月1日に開始し、2020年2月29日または当グループが当該ビッドに基づき許可されたすべての株式の買戻しを完了する日のいずれか早い方に終了する。このNCIBは2020年2月26日に完了し、買い戻され消却された普通株式は14.0百万株で、要した費用は総額約1,457百万ドルであった。

2020年2月27日、当グループは、当グループの普通株式を20百万株を限度として買い付けるためのNCIBプログラムを発表した。このNCIBは、2020年3月2日に開始し、2021年3月1日または当グループが当該ビッドに基づき許可されたすべての株式の買戻しを完了する日のいずれか早い方に終了する。このNCIBの開始以降、買い戻され消却された普通株式の総数は約0.4百万株で、費用は約39百万ドルであった。株式の買戻しは終了するとの想定をOSFIが発表したことに従い、当グループは、2020年3月13日付で当グループの普通株式の買戻しを中止した。

2020会計年度において、当グループのNCIBプログラムに基づき買い戻され消却された普通株式の総数は約7.9百万株で、株式の買戻しに要した費用は総額814百万ドルであった。

当グループは、OSFIとの事前協議を条件として、NCIBに基づく買付けの金額および時期を決定する。買付けは、トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびその他の指定された取引所ならびにカナダの代替取引システムを介して行うことができる。買い戻される株式の代金は、取得時の実勢市場価格である。

2019年12月6日、当グループは、2024年12月6日に満期を迎える発行済2.99%劣後無担保社債2,000百万ドルを、元本の100%および償還日まで（償還日を除く。）の経過利息ですべて償還した。

2019年12月17日、当グループは、預託株式200,000株を現金で買い入れた。各預託株式は、固定配当率／変動配当率非累積型第一優先株式シリーズC-2（C-2優先株式）の1株の40分の1の持分を表しており、未払配当金を含むその対価の総額は、6百万米ドルとなった。買い入れた預託株式および裏付けとなるC-2優先株式は、その後消却された。C-2優先株式は、Tier 1規制資本に該当しない。

2019年12月23日、当グループは、NVCC劣後無担保社債1,500百万ドルを発行した。この社債には、2024年12月23日まで年利2.88%の固定金利が付き、それ以降は2029年12月23日の満期まで3ヶ月のカナダ銀行間取引金利（CDOR）プラス0.89%の金利が付く。

2020年6月4日、当グループは、2025年6月4日に満期を迎える発行済NVCC2.48%劣後無担保社債1,000百万ドルを、元本の100%および償還日まで（同日を除く。）の経過利息ですべて償還した。

2020年6月23日、当グループは、NVCC劣後無担保社債1,250百万ドルを発行した。この社債には、2025年6月30日まで年利2.088%の固定金利が付き、それ以降は2030年6月30日の満期まで3ヶ月のCDORプラス1.31%の金利が付く。

2020年7月28日、当グループは、LRCNシリーズ1を、1口当たり1,000ドルの価格で1,750百万ドル発行した。LRCNシリーズ1には、2025年11月24日まで年利4.5%の固定金利が付き、それ以降は2080年11月24日の満期までカナダの5年物国債の利回りプラス4.137%の金利（年利、5年利率見直し型）が付く。

2020年10月1日、当グループは、非累積型第一優先株式を1株当たり25ドルの価格で償還した。これには、発行済シリーズWの全12百万株、発行済シリーズAAの全12百万株、発行済シリーズACの全8百万株、発行済シリーズAEの全10百万株、発行済シリーズAFの全8百万株および発行済シリーズAGの全10百万株が含まれる。

2020年11月2日、当グループは、LRCNシリーズ2を、1口当たり1,000ドルの価格で1,250百万ドル発行した。LRCNシリーズ2には、2026年2月24日まで年利4%の固定金利が付き、それ以降は2081年2月24日の満期までカナダの5年物国債の利回りプラス3.167%の金利（年利、5年利率見直し型）が付く。

配当

当グループの普通株式配当方針は、収益の見通し、配当性向目標および事業計画を支える十分な資金を備えられるよう適切な資本水準を維持する必要性を反映している。2020年度の配当性向は55%となった。当年度の普通株式配当は、61億ドルであった。2020年3月13日にOSFIが行った、すべての銀行は増配を行わないことを想定しているとの発表に従い、当グループは同日以降配当を維持している。

主要な株式情報⁽¹⁾

(表69)

(単位：百万カナダドル（株式数および別段の記載がある場合を除く。）)	2020年			2019年		
	株式数 (単位：千株)	金額	1株当たり 配当金	株式数 (単位：千株)	金額	1株当たり 配当金
発行済普通株式	1,423,861	\$ 17,628	\$ 4.29	1,430,678	\$ 17,645	\$ 4.07
自己株式－普通株式	(1,388)	(129)		(582)	(58)	
発行済普通株式（自己株式を除く。）	1,422,473	\$ 17,499		1,430,096	\$ 17,587	
ストック・オプションおよび株式報酬						
発行残高	7,735			7,697		
行使可能	3,314			2,980		
付与可能	7,082			8,171		
発行済第一優先株式						
非累積型シリーズW ⁽²⁾⁽³⁾	-	\$ -	\$ 1.05	12,000	\$ 300	\$ 1.23
非累積型シリーズAA ⁽³⁾	-	-	0.95	12,000	300	1.11
非累積型シリーズAC ⁽³⁾	-	-	0.98	8,000	200	1.15
非累積型シリーズAE ⁽³⁾	-	-	0.96	10,000	250	1.13
非累積型シリーズAF ⁽³⁾	-	-	0.95	8,000	200	1.11
非累積型シリーズAG ⁽³⁾	-	-	0.96	10,000	250	1.13
非累積型シリーズAZ ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	20,000	500	0.93	20,000	500	0.96
非累積型シリーズBB ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	20,000	500	0.91	20,000	500	0.96
非累積型シリーズBD ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	24,000	600	0.85	24,000	600	0.90
非累積型シリーズBF ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	12,000	300	0.90	12,000	300	0.90
非累積型シリーズBH ⁽⁵⁾	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
非累積型シリーズBI ⁽⁵⁾	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
非累積型シリーズBJ ⁽⁵⁾	6,000	150	1.31	6,000	150	1.31
非累積型シリーズBK ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	29,000	725	1.38	29,000	725	1.38
非累積型シリーズBM ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	30,000	750	1.38	30,000	750	1.38
非累積型シリーズBO ⁽⁴⁾⁽⁵⁾	14,000	350	1.20	14,000	350	1.27
非累積型シリーズC-2 ⁽⁶⁾	15	23	US\$ 67.50	20	31	US\$ 67.50
発行済その他資本性金融商品						
リミテッドリコース・キャピタルノート・シリーズ1 ⁽⁴⁾						
(5)(7)	1,750	1,750	4.50%	-	-	-
発行済優先株式およびその他資本性金融商品	168,765	\$ 5,948		227,020	\$ 5,706	
自社保有の金融商品－優先株式およびその他資本性金融商品	(8)	(3)		34	1	
優先株式およびその他資本性金融商品（自己株式を除く。）	168,763	\$ 5,945		227,054	\$ 5,707	
普通配当に係る配当		\$ 6,111			\$ 5,840	
優先株式に係る配当およびその他資本性金融商品に係る分配	(9)	268		269		

(1) 資本管理活動についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記20を参照のこと。

(2) 2010年2月24日付で、当グループは、一定の制限に従い、当グループの選択によりこれらの株式を普通株式に転換する権利を有している。

(3) 2020年10月1日付で、当グループは、非累積型第一優先株式（発行済のシリーズWの全12百万株、発行済のシリーズAAの全12百万株、発行済のシリーズACの全8百万株、発行済のシリーズAEの全10百万株、発行済のシリーズAFの全8百万株および発行済のシリーズAGの全10百万株を含む。）を、1株当たり25ドルで償還した。

(4) 配当率は5年ごとに修正される。

- (5) NVCC商品。
- (6) 優先株式シリーズC-2に関連する預託株式615,400株を示す。各預託株式はシリーズC-2の1株の40分の1の持分を表している。
- (7) LRCNについて、株式数は発行された社債の数を示し、1株当たりの配当金は、報告日現在に発行された社債に適用される年利率を表している。2020年7月28日、当グループは、LRCNシリーズ1の発行に関連し、1,750百万ドルの第一優先株式シリーズBQ（シリーズBQ）を、シリーズBQ当たり1,000ドルで発行した。シリーズBQは、LRCN構造に関連する信託財産として保有される連結信託に対して発行された。
- (8) プラスの金額は、自社保有の金融商品における売り持ちを表している。
- (9) 非支配持分への配分を除く。

2020年11月27日現在、発行済普通株式（自己株式917,878株を除く。）は1,423,065,739株であり、ストック・オプションおよび株式報酬の株式数は、7,616,167株であった。

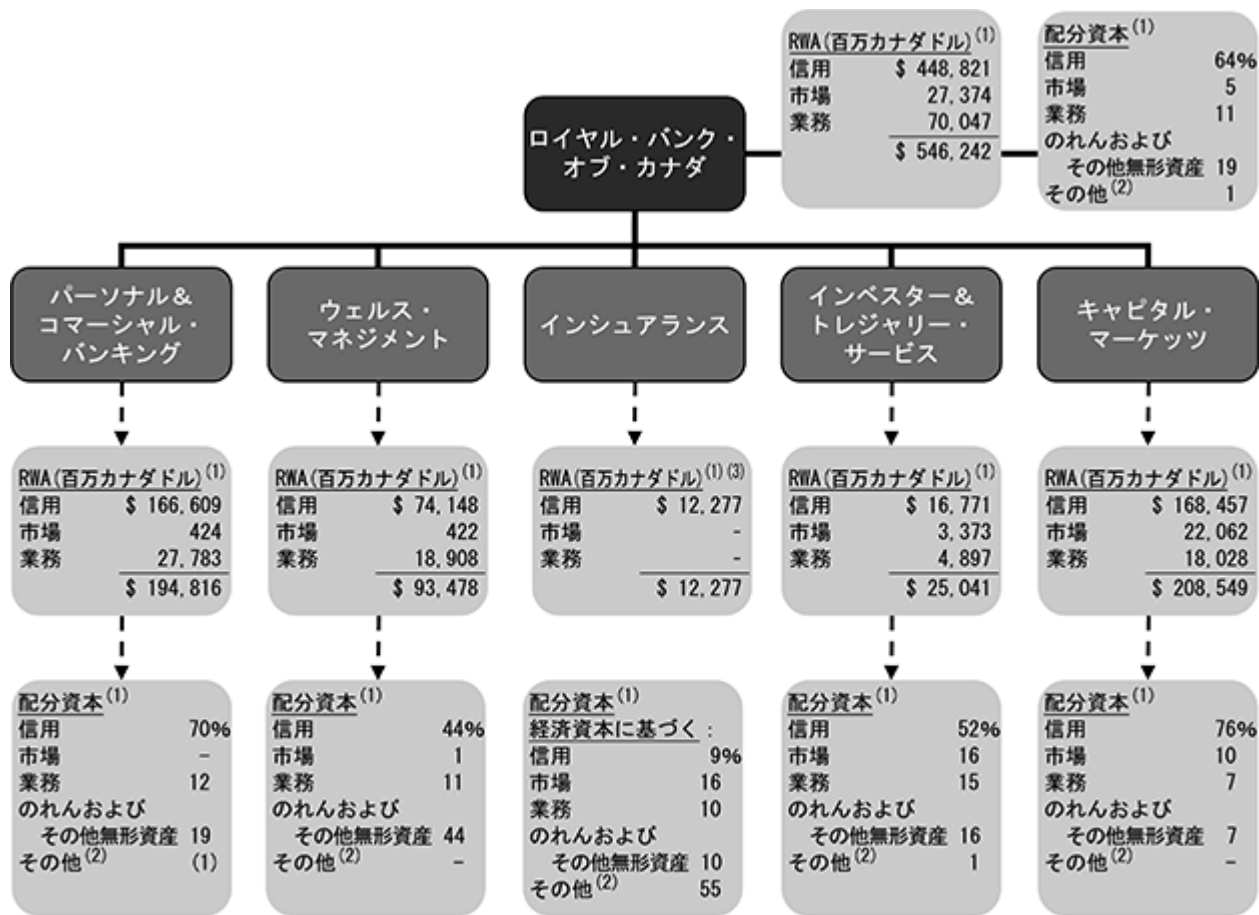
NVCC条項は、銀行が存続不能であるとOSFIが判断した場合、または銀行が資本注入を受け入れたかもしくは受入れに同意したとカナダの連邦政府もしくは州政府が公表した場合、資本商品を様々な数の普通株式に転換することを定めている。2020年10月31日現在、NVCCの適用事由が発生した場合、優先株式シリーズAZ、BB、BD、BF、BH、BI、BJ、BK、BM、B0およびLRCNシリーズ1ならびに2026年9月29日、2026年1月20日、2026年1月27日、2029年7月25日、2029年12月23日および2030年6月30日にそれぞれ満期を迎える劣後無担保社債である当グループのNVCC資本商品は、（i）5.00ドルの約定最低価格および（ii）適用事由発生時点における当グループ普通株式の市場価格（10日間の加重平均）のいずれか高い方に基づく転換価格で、自動転換方式に従って普通株式に転換される。5.00ドルの最低価格に基づき、かつ、未払配当金および利息の見積もりを含めると、これらのNVCC資本商品は、最大で合計3,870百万株の普通株式に転換される。これは、2020年10月31日現在の発行済普通株式数に基づく73.12%の希薄効果である。

<配分資本>

事業セグメントへの資本の配分方法は、インシュアランスを除き、バーゼルⅢ自己資本比率規制に基づいている。インシュアランスについては、資本配分は、分散された経済資本に基づいている。リスク・ベースで資本を配分することにより、事業セグメント間に業績測定の統一基準を作ってグループ全体の利益目標と比較し、経営陣が他の要因と組み合わせて資源配分を決定するのが容易になる。

資本の計算および配分には、経営陣による相当な仮定および判断が必要であり、それは規制資本の構成の包括性および一貫性を維持するために監視されている。これらのモデルは、調査への参加、手法の見直しおよび外部のリスク管理業界の専門家との持続的交流を通じ、主要な業界慣行に従って評価されている。

下記の主要なリスクについての詳細は、「リスク管理」の各項および上記「2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項を参照のこと。



(1) RWA数値は、期末の現物残高を表す。配分資本は、平均残高を表す。

(2) その他には、(a) 非保険セグメント（のれんおよびその他無形資産以外の、パーゼルIII規制上の自己資本控除項目を支えるために必要な資本ならびに予想損失引当金に関する資本修正）ならびに(b) インシュアランス・セグメント（事業リスク、固定資産リスクおよび保険リスクを支えるために必要な自己資本）を含む。

(3) インシュアランスRWAは、OSFIのCARガイドラインに基づく所定の規制比率にて出資した保険子会社への当グループの投資を表す。

<資本に影響を与えるその他の検討>

その他の事業体に対する株式投資に関する資本の取扱い、当該投資の規模または内容に基づいて、会計および行政指針を勘案して決定される。以下のとおり、大きく3つのアプローチが適用される。

- ・連結：当グループが支配する事業体は、当グループの連結貸借対照表に連結される。
- ・控除：一部の持分は、規制資本から控除される。これには、すべての非連結「大型投資」（銀行法（カナダ）の金融機関の資本における定義による。）および保険子会社に対するすべての投資が含まれる。
- ・リスク・ウェイト：資本から控除されない株式投資は、資本コストの決定における所定の比率による加重リスクである。

証券化エクスポージャーに関する規制資本アプローチ

当グループの証券化規制資本アプローチは、OSFIのCARガイドラインの第7章を反映している。証券化エクスポージャーについては、ABCPに関するエクスポージャーのための内部評価手法（IAA）を利用し、規制ガイドラインのとおり、その他の証券化エクスポージャーについては外部格付に基づくアプローチ、IRBに基づくアプローチおよび標準的手法を組み合わせて利用している。

当グループのIAA格付法は、S&P等の外部信用評価機関（ECAI）が発表した基準に大部分が基づいており、これらの機関が利用する方法と同じではないが類似している。当グループの格付プロセスには、証券化構造において利用可能な信用補完と、予測損失のストレス・レベルとの比較が含まれる。使用するストレス・レベルは、当該取引に求められるリスク構造によって決定される。このため、当グループでは高い格付を獲得するために、取引のキャッシュ・フローに高めのストレスを加える。これに対して、ストレス・レベルが低い取引は、低い格付となっている。

その他の証券化エクスポージャー（非ABCP）の大部分は外部の格付を取得しており、当グループがこれらのポジションの適切な資本配分を決定する際には、当グループの外部格付を使用する。当グループは、ECAIによる格付が妥当であることを確認するため、当グループの格付とECAIによる格付を定期的に比較検討している。

GRMは、すべての銀行勘定エクスポージャーに関して、資本目的のリスク評価を行う責任がある。GRMは、証券化エクスポージャーを生む事業とは無関係であり、分析に際して当該事業と協力することはあっても、当該事業からは独立した存在として、独自の分析を行う。GRMは、資産区分ごとの格付方法を定めた資産区分別基準ガイドラインを策定した。ガイドラインは定期的に見直され、バーゼルに基づく第1の柱に定められた格付複写プロセスの対象である。

<規制の変化>

バーゼルIII改革

新たなバーゼルIII改革に基づき、OSFIは、預金受入機関に適用されるオペレーショナル・リスクの所要自己資本を修正しており、新たな標準的手法（SA）が義務付けられる予定である。OSFIは2020年1月20日、この実施日を従前の2021年度第1四半期から2022年度第1四半期に延期した。

2020年3月27日、BCBSは、OSFIのような銀行監督当局と当該当局が監督する銀行の両方に対してCOVID-19パンデミックがもたらした業務上の課題に鑑み、以下を含む規制要件の効力発生日を延期した。

- ・バーゼルIII改革（信用リスクおよびオペレーショナル・リスク）－効力発生日を従前の2022年1月1日から2023年1月1日に延期
- ・市場リスクの最低資本要件－効力発生日を従前の2022年1月1日から2023年1月1日に延期
- ・開示要件（第3の柱）の改訂－2023年1月1日に延期

2020年3月27日、OSFIも、当グループおよびその他のカナダD-SIBに適用されるバーゼルIII改革の効力発生日をBCBSに合わせて2023年1月31日に、市場リスクの最低資本要件の効力発生日を2024年1月31日に延期すると発表した。

グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）

2020年4月3日、BCBSは、COVID-19パンデミックの観点から銀行および監督当局に十分な実施能力を与えるため、G-SIB枠組みの改訂実施を2021年から2022年に延期すると発表した。

バーゼルIII改革－信用評価調整（CVA）

2020年7月8日、BCBSは、デリバティブおよび証券金融取引のCVAリスクについて、規制資本の取扱いに関する基準を改定した。改定後の基準は、再調整後のリスク・ウェイト、および一部の顧客清算デリバティブの取扱いに関するガイダンスを反映しており、CVAの枠組みに許可された2つの手法の間の再調整を容認する。これらの変更により、CVAの枠組みは、市場リスクの最低資本要件のアップデートに一層合致することになる。この基準のBCBSの効力発生日は2023年1月1日だが、OSFIは、OSFIの市場リスク・フレームワークの施行日に合わせて、施行日を2024年1月1日に延期することを認めている。当グループは、現在ガイドラインの影響を評価しているところであり、OSFIの施行日に施行することに何の問題も予測していない。

会計管理等

重要な会計方針および見積もり

<重要な会計方針、判断、見積もりおよび仮定の適用>

当グループの重要な会計方針は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2に記載されている。これらの方針のいくつかおよび関係する見積もりは、不確実な性質の事項については特に主観的または複雑な判断をせざるを得ないため重要であると認識されており、また、異なる条件下でまたは異なる仮定を用いた場合には大幅に異なる金額が報告される可能性がある。信用損失引当金およびのれんに関する重要な判断の中には、現在の不確実な環境においては特に複雑なものがある。COVID-19パンデミックは絶えず変化し、当グループが業務を行う経済環境は持続的に変動するおそれがあり、COVID-19パンデミックがいつまで続くか、ならびに政府および中央銀行が講じた対策が有効か否かは依然として不確実であるため、当グループの財務業績は引き続き影響を受ける可能性がある。当グループは、COVID-19パンデミックが当グループの重要な会計判断、見積もりおよび仮定に与える影響について、引き続き監視および評価を行う。詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2、注記5および注記10を参照のこと。

当グループの重要な会計判断、見積もりおよび仮定とは、金融商品の公正価値、信用損失引当金、のれんその他無形資産、従業員給付、連結、金融資産の認識の中止、実効金利法の適用、引当金繰入額、保険請求および保険給付負債、ならびに法人所得税に関連するものである。重要な会計方針および見積もりは、当グループの監査委員会が、当グループの重要な会計方針、判断、見積もりおよび仮定の審査ならびに承認の一環として、経営陣と協議の上、審査および承認している。

＜会計方針の変更＞

2020年度第1四半期中、当グループは、IFRS第16号を適用した。IFRS第16号の移行規定が認めているとおり、当グループは、比較期間の業績を再表示しないことを決定した。したがって、2020年度第1四半期より前のすべての比較情報は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2で示すとおり、当グループの従前の会計方針に従って表示されている。IFRS第16号適用の結果として、当グループは、2019年11月1日付で、使用権資産、リース負債および利益剰余金の期首の数値の調整を認識した。これらの変更の詳細については、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。

2020年度第1四半期中、当グループは、IFRS第9号「金融商品」（IFRS第9号）、IAS第39号「金融商品：認識および測定」およびIFRS第7号「金融商品：開示（修正）」の改訂を適用した。当該変更の詳細については、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。

＜金融商品の公正価値＞

金融商品の公正価値は、測定日時点で、市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格である。公正価値の決定は、価格設定の際に市場参加者が検討するであろう要因を踏まえて行われる（一般に認められた評価アプローチを含む。）。

当グループは、最も一貫性があり最も正確な第三者の価格設定サービスおよび評価方法を優先している。正確性とは、第三者が設定した価格価値をトレーダーまたはシステムの価値、その他の価格設定サービスが設定した価値および可能であれば実際の取引のデータベースと比較することで、長い時間をかけて決定されるものである。価格または相場が利用不可能な場合は、その他の評価方法が用いられる。評価プロセスの中には、公正価値の決定にモデルを用いるものもある。当グループは、モデルの使用を管理するため、系統立った一貫したアプローチを有している。

公正価値を決定する際は、評価方法への情報提供を高く評価するヒエラルキーを用いる。公正価値ヒエラルキーでは、活発な市場における無調整の相場価格に最も高い優先順位を与え、観察可能でない情報を最も低い優先順位としている。このヒエラルキーに基づき決定される公正価値は、可能な限り観察可能な市場データの利用が必要となる。レベル1の情報は、当グループが測定日現在利用可能な資産または負債と同一のものについての、活発な市場における無調整の相場価格である。レベル2の情報には、活発な市場における類似の資産または負債の相場、活発ではない市場における同一または類似の資産もしくは負債の相場および当該資産もしくは負債の期間の大部分において観察可能であるか、または観察可能な市場データによって裏付けられたモデル情報が含まれる。レベル3の情報は、観察可能でない、当該資産または負債の公正価値にとって重要な複数の情報を含む。観察可能でない情報は、観察可能な情報が測定日現在において入手できない場合に、公正価値の測定に使用される。評価に用いる情報の有無は、評価手法の選択に影響する場合がある。開示を目的とした、金融商品の公正価値ヒエラルキーへの分類は、公正価値の測定にとって重大なインプットのうち、最も低いレベルのインプットに基づいて行われる。

観察可能な価格または情報がない場合は、公正価値を決定する際、過去のデータ、類似の取引に関する代用情報等、その他の情報源を評価したり、また外挿法および内挿法を用いたりする等、経営陣による判断が必要となる。より複雑なまたは流動性のない商品については、使用するモデルの決定、モデル情報の選択、また場合によっては活発に取引されていない金融商品のモデル価値または相場に評価調整を行う等、重要な判断が必要となる。モデル情報の選択が主観的なもので、情報が観察可能でない場合もある。観察可能でない情報は、通常の事業環境において取引を行いうる水準を決定できるような市場データが、ほとんどまたはまったくないため、本質的に不確実である。このような場合は必ず、かかる情報の適切なパラメータ不確実性を算定し、市場リスク評価調整およびその他のモデル・リスク評価調整を行う。

評価調整は、デフォルト率および回収率等、情報の選択に重要な判断を要するため、主観的となる可能性があり、市場参加者が金融商品の価格設定時に使用するという前提で公正価値を導き出すことを意図している。取引の実際の価格は、従前経営陣の判断で見積もられた価値とは異なる可能性があり、したがって利息以外の収益－トレーディング収益またはその他に認識される未実現損益に影響が生じる可能性がある。

金融商品の公正価値についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2および注記3を参照のこと。

<信用損失引当金>

信用損失引当金（ACL）は、FVTPLで測定するものとして分類または指定された金融資産およびFVOCIで測定するものとして指定された出資証券（これらは、減損評価の対象外とされる。）を除き、すべての金融資産に適用される。減損評価の対象となる資産には、一部の貸出金、債務証券、利付銀行預け金、手形引受、受取債権および未収利息ならびにファイナンス・リース債権およびオペレーティング・リース債権が含まれる。減損評価の対象となるオフバランス・シート項目には、金融保証および未使用のローン・コミットメントが含まれる。

当グループは、各貸借対照表日のACLを、3つのステージからなる予想信用損失減損モデルに従って測定している。

・正常な金融資産

- ・ステージ1－金融資産の当初認識時から、資産の当初認識時以降の信用リスクが相対的に著しく増大した日までの間は、報告日からの12ヶ月間にデフォルトから生じると予想される信用損失相当の信用損失引当金が認識される。
- ・ステージ2－金融資産の当初認識時以降に信用リスクが相対的に著しく増大した場合は、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の信用損失引当金が認識される。

・減損した金融資産

- ・ステージ3－金融資産の信用が減損していると判断される場合には、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の信用損失引当金が認識される。受取利息は、当該資産の帳簿価額総額ではなく、信用損失引当金控除後の帳簿価額を基に計算される。

ACLは、関連する期間にわたりデフォルトから生じると予想される確率加重かつ割引後の回収不能額の見積もりである。ローン・コミットメントの信用損失の見積もりでは、関連期間にわたり使用が予想されるコミットメント部分が検討される。金融保証の信用損失の見積もりは、保証契約に基づき求められる予想支払額を基礎とする。ファイナンス・リース債権に係る信用損失の見積もりは、リース債権の測定に使用されたキャッシュ・フローと整合するキャッシュ・フローを基礎とする。

ACLは、貸借対照表日における当行の金融資産に係る予想信用損失の偏りのない見積もりを表している。ACLの計算にあたり行う仮定および見積もりには、判断が必要とされ、これには3ステージ間の移動や、将来予測的な情報の算入、専門家の信用判断の適用が含まれる。基礎となる仮定および見積もりにより各期間の引当金変動し、ひいては当行の業績に重要な影響を与える可能性がある。

信用損失引当金についての詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2、注記4および注記5を参照のこと。

<のれんおよびその他の無形資産>

当グループは、のれんを資金生成単位（CGU）のグループに割り当てている。のれんは償却せず、年に1回以上減損テストを行うが、実際に減損が発生した可能性がある場合には、より短い間隔で減損テストを行う。当グループは、CGUの回収可能額と帳簿価額とを比較して減損のテストを行う。

当グループは、CGUの使用価値および売却コスト控除後の公正価値を、主として、各CGUによる収益および費用の予測を反映した割引キャッシュ・フロー法によって評価している。将来の予想キャッシュ・フロー（時期および金額は不明。）、割引率（CGU固有のリスクに基づく。）および期間成長率の決定においては、経営陣の重要な判断が行われる。CGU固有のリスクには、カントリー・リスク、事業リスク／オペレーショナル・リスク、地域リスク（政治的リスク、評価引下げリスクおよび政府の規制等）、通貨リスクおよび価格リスク（商品価格リスクおよびインフレ等）が含まれる。将来の予想利益およびその他の仮定条件が、減損テストに用いた現在の数字と大幅に異なる場合、のれんの価値は減損している可能性がある。

当グループは、各報告期間において、その他の無形資産につき減損の兆候の判定を行う。資産に減損の兆候がある場合、減損のテストは、当該無形資産の帳簿価額を回収可能額と比較することで行われる。個別の資産の回収可能額が予測不能である場合、当該資産が属するCGUの回収可能額を予測する。無形資産の耐用年数および回収可能額の予測ならびに事象または状況が減損の客観的証拠であるか否かの評価には、重大な判断が適用される。当グループは、耐用年数を確定できない無形資産を有しない。

詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2および注記10を参照のこと。

<従業員給付>

当グループは、適格従業員に対して、登録年金制度、追加年金制度、医療保険、歯科保険、身体障害保険および生命保険制度を含む給付金制度を多数保証している。

確定給付費用および債務の計算は、割引率、医療費変動率、推定昇給率、退職年齢ならびに死亡率および解約率等、様々な仮定条件に依存している。割引率は、高品質の企業の債券の直物相場に基づくイールドカーブを用いて決定される。その他の仮定については当グループが決定し、保険数理人が検査する。数理人による仮定と実際の数値が異なる場合、当グループが認識する給付債務および再測定のコストに影響が生ずる。使用した加重平均仮定条件および主たる仮定条件の感応度については、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記17に記載されている。

<組成された企業の連結>

子会社とは、当グループが支配する事業体をいい、組成された企業を含む。当グループがある事業体への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャーまたは権利を有し、かつ、投資先に対するパワーを通じて当該リターンに影響を及ぼす能力を有する場合、当グループは当該事業体を支配している。ある事業体のリターンに重要な影響を及ぼす活動（関連性のある活動）について、当グループが指図できるような既存の権利を有する場合、当グループは当該事業体に対してパワーを有する。パワーは、議決権または、組成された企業の場合はその他の契約上の取決めに基づいて判断される。

当グループが第三者の代理人として事業体に対するパワーを行使する場合、当グループは当該事業体を支配しているとはみなされない。当グループが代理人として行為しているか否かを判断する際は、（i）意思決定権の範囲、（ii）他者が保有する権利、（iii）当グループが受け取る権利を有する報酬および（iv）収益の変動性に対する当グループのエクスポージャーに関して、当グループ、投資先およびその他の者との全体的関係を検討する。

支配については、現時点の事実および状況に基づいて判断され、絶えず評価を受ける。要素および条件を個別に評価したか全体で評価したかによっては、ある事業体を支配する者が複数存在する結果となる場合がある。当グループがある事業体を支配しているか否かを決定する際、具体的には、当グループが関連性のある活動について実質的な意思決定権を有するか否かおよび当グループが本人または代理人のいずれとしてパワーを行使しているかを評価する際には重要な判断が下される。

当グループは、子会社の支配権が当グループに移転した日からすべての子会社を連結し、当グループがある事業体を支配しなくなった時点で連結を中止する。連結に関する決定は、連結財務諸表上で報告される資産、負債、収益および費用の分類および金額に影響する。

詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記7を参照のこと。

＜金融資産の認識の中止＞

当グループでは定期的に、貸出金やモーゲージ担保证券等の金融資産を、投資家に有価証券を発行する組成された企業または信託に譲渡する取引を行っている。当グループは、資産からのキャッシュ・フローを受ける契約上の権利が失効したとき、キャッシュ・フローを受ける権利は保持しているが、パススルー規定によりかかるキャッシュ・フローを第三者に支払う義務を負う場合、またはキャッシュ・フローを受ける契約上の権利を譲渡し、当該資産の実質上すべてのリスクおよび経済価値を譲渡した場合、当該資産の認識を中止する。譲渡された資産の実質上すべてのリスクおよび経済価値を保持している場合、譲渡された資産は連結貸借対照表上で認識を中止されず、担保付資金調達取引として計上される。当該資産の所有権の実質上すべてのリスクおよび経済価値を保持も譲渡もしていない場合は、当該資産に対する支配が放棄されたとき、認識を中止する。譲渡された資産に対して当グループが支配を保持している場合、継続的関与の範囲で、引き続き当該譲渡資産を認識する。譲渡された金融資産の所有に係る実質上すべてのリスクおよび経済価値を当グループが譲渡したかまたは保持しているかについては、経営陣が判断を下す。

買戻し契約、有価証券貸付契約およびカナダの住宅担保ローン証券化取引において譲渡された資産のほとんどは認識の中止の対象ではない。このため、当グループでは引き続き、関連譲渡資産を連結貸借対照表に認識しており、それらの証券化取引の利益または損失を認識していない。そうではなく、譲渡された資産の帳簿価額を譲渡日現在の公正価値と比較することで、証券化の利益または損失を認識している。金融資産の認識の中止に関する詳細については、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記2および注記6を参照のこと。

＜実効金利法の適用＞

利息は、一般的にすべての利付金融商品に実効金利法を適用して、連結損益計算書の受取利息および支払利息に認識される。実効金利とは、金融資産または負債の残存期間にわたる見積もり将来キャッシュ・フローを当初認識時の正味帳簿価額まで割り引く利率である。将来キャッシュ・フローの時期および金額は不確実であるため、実効金利の算定には重要な判断が用いられる。

＜引当金＞

引当金とは、その発生時期と金額が不確実となる負債をいい、過去の事象の結果として、現在の法的債務または推定的債務が存在し、債務を決済するために資源の流出が必要となる可能性が高く、その債務の金額について信頼性のある見積もりが可能となる場合に認識される。引当金は報告日時点の現在の債務を決済するのに求められる対価の最も正確な見積もりとして測定される。現在の債務の有無の決定、流出の可能性、時期および金額の見積もりには重要な判断が求められる。当グループは、訴訟、資産除去債務に関連する引当金およびその他の項目に関する引当金を計上している。

これらの見積もりの将来予測的な性質のため、当行の将来キャッシュ・フローの時期および金額の予測には、重要な判断が必要となる。当グループは、報告期間末時点で入手可能なすべての情報に基づき引当金を計上し、最新の予想を反映させるよう四半期ごとに修正を行っている。実際の結果が当グループの予想と異なる場合、認識済みの引当金を上回る費用が発生する可能性がある。

<保険請求および保険給付負債>

保険請求および保険給付負債は、現在の保険請求および将来の保険給付の見積もりを表す。生命保険契約に関する負債は、カナダ資産負債法を用いて算出される。カナダ資産負債法は、死亡率、罹病率、保険契約の失効および解約、運用利回り、契約者配当、営業費および保険契約維持費ならびに不利な変動に対する引当金等を盛り込む。これらの主要な仮定は年1回見直され、実際の経験および市況に即して更新される。不動産および損害保険負債は、報告済みおよび未報告の保険請求に係る見積引当金を表す。生命保険、不動産および損害保険に関する負債は、保険請求および保険給付負債に計上される。保険請求および保険給付負債の変動部分は、見積もりが変更される期間の連結損益計算書の保険契約者給付、保険金および保険契約獲得費用に含まれる。詳細については、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記15を参照のこと。

<法人所得税>

当グループは、営業活動を行う様々な法域の税法に服することになり、複雑な税法は、当グループと関係する税務当局の解釈の違いにつながる可能性がある。関係する税法の解釈、関係する税務当局により当グループの税金ポジションが承認される可能性評価、ならびに当期法人税および繰延法人所得税の引当金の予想計上時期および予想金額の見積もりについては、経営者の判断が用いられる。繰延税金資産または繰延税金負債は、資産が実現されるか、または負債が決済される期間に予想される税率を基にそれぞれの一時差異に関し算定される。一時差異が予見可能な将来に解消されない場合、いかなる繰延税金金額も認識されることはない。

当グループは、四半期ごとに、繰延税金資産に関連して生じる便益が、有利、不利な証拠の両方を用いて、実現する可能性が高いかを検討する。詳細については下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記22を参照のこと。

<会計方針および開示に関する今後の変更>

財務報告に関する概念フレームワーク（概念フレームワーク）

2018年3月、IASBは、概念フレームワークの改訂を公表した。これは、2010年に発表された前バージョンの概念フレームワークに取って代わるものである。改訂版概念フレームワークは、2020年11月1日付で発効する予定である。概念フレームワークは基準ではないため、いかなる基準の概念または要件も無効にするものではない。適用可能な基準がない場合に一貫性のある会計方針を策定するために利用することができる。改訂には、いくつかの新概念、資産および負債の定義および認識基準のアップデート、ならびに重要な概念の明確化が含まれる。これらの変更は、当グループの連結財務諸表に重大な影響を与えないと予測されている。

＜金利指標改革＞

2020年8月、IASBは、金利指標改革－フェーズ2、IFRS第9号、IAS第39号、IFRS第7号、IFRS第4号「保険契約」およびIFRS第16号の改訂（フェーズ2の改訂）を公表した。フェーズ2の改訂は、既存の金利指標を代替金利に置き換えるときに起こる問題を扱い、開示に関する追加要件を導入する。フェーズ2の改訂は、2つの主要な救済措置を提供する。

- ・経済的に同等の基準で本改革の直接の結果として行われる変更は、即時の利益または損失としてではなく、将来に向かって実効金利に反映される。
- ・適格基準を満たす場合、本改革によって直接影響を受けるヘッジ関係は、代替金利への移行時にヘッジ会計を継続することができる。

フェーズ2の改訂は、2021年11月1日付で当グループに適用される予定であるが、それより前の適用も認められている。当グループは現在、フェーズ2の改訂を適用した場合に当グループの連結財務諸表が受ける影響について、評価を行っている。

代替金利への移行を管理するため、当グループは、契約の修正、資金調達および流動性計画、リスク管理、財務報告および評価、システム、プロセス、顧客教育および情報交換を含む、影響を受ける主要な分野に対応するグループ規模の包括プログラムおよびガバナンス構造を実施している。移行業務は、大きく2つの作業を中心としている。すなわち、（i）リスクのない新たな代替金利に連動する商品の開発、および（ii）既存のLIBORベースの契約をリスクのない代替金利に転換することである。当グループのプログラムのスケジュールは、最終的には、リスクのない新たな代替金利を参照する商品がより広域な市場で受け入れられるか否か、ならびに当グループの顧客が代替商品を受け入れる用意および能力があるか、に左右される。当グループが評価を続ける重要な事項は、顧客向けの商品の種類、短期および長期の資金調達戦略、ならびにヘッジ・プログラムなどである。当グループは、LIBORベースの商品の提供中止につき、規制当局の推奨する目標期限に従っている。

＜IFRS第17号「保険契約」（IFRS第17号）＞

2017年5月、IASBは、保険契約の認識、測定、表示および開示に関する指針を提供する包括的な国際保険基準を定めるIFRS第17号を公表した。IFRS第17号は、企業に対し、3つの手法のいずれか1つを用いた現在履行価値で保険契約債務を測定することを義務付ける。2020年6月、IASBは、発効日の2年延期を含め、IFRS第17号の改正案を公表した。この新たな基準は、2023年11月1日付で当グループに適用され、実務上不可能な場合を除き比較数値を修正再表示して遡及的に適用される予定である。当グループは、この基準および改正案の採用が当グループの連結財務諸表に及ぼす影響について現在評価中である。

管理および手続

＜開示管理および手続＞

当グループの開示管理および手続は、カナダおよび米国の証券法に基づき提出された報告書により当グループが開示すべき情報が、それぞれの証券法に基づき定められた期間内に記録、処理、要約および報告されるよう合理的に保証することを目的としており、必要な開示について適時決定ができるよう情報が収集され、総裁兼最高経営責任者および最高財務責任者を含む経営陣に伝達されるよう保証することを目的とした管理および手続を含む。

2020年10月31日現在、経営陣は、米国SECにより採用されている規則に基づき定義された開示管理および手続の効果について、総裁兼最高経営責任者および最高財務責任者による監督および参加のもとで、評価を実施した。かかる評価に基づき、総裁兼最高経営責任者および最高財務責任者は、当グループの開示管理および手続は、2020年10月31日現在有効である、との結論に達した。

＜財務報告に関する内部統制＞

経営陣は、財務報告に対して適切な内部統制を確立し、これを維持する責任を負う。財務報告に対する内部統制は、財務報告の信頼性およびIFRSに基づく外部提出目的の財務諸表の作成に関して、合理的な保証を行うことを目的としている。しかし、財務報告に対する内部統制にも内在的な限界があり、虚偽記載を適時に防止または発見できない場合がある。

財務報告に対する内部統制には、2020年10月31日に終了した年度に、当グループの財務報告に対する内部統制に重大な影響を与えるか、またはそのような合理的な可能性がある、いかなる変更もなかった。

関連当事者取引

通常の営業過程において、当グループでは、関連会社およびその他の関連のある企業（共同支配企業を含む。）に対して、関連当事者ではない者の場合と同様の条件により、通常の銀行業務および運用業務を提供し、その他の取引を行っている。取締役、役員およびその他の従業員に対しては、通常は優先顧客に認めている金利で、貸付けを行う。さらに、従業員ではない取締役、役員およびその他一部の主要な従業員に対して、後配株およびその他の制度を提供する。詳細は、下記「第6 1 財務書類」に記載の連結財務諸表に対する注記12および注記26を参照のこと。

[前へ](#)

4 【経営上の重要な契約等】

2019年11月1日以降、当行は、通常業務の過程において締結した契約以外は、当行の事業に関して重要な契約を締結していない。

5 【研究開発活動】

該当事項なし。

第4 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

下表は最近の2会計年度末におけるRBCの動産・不動産を示したものである。

2020年10月31日に終了した年度										
(単位：百万カナダドル)	当行保有 ⁽¹⁾⁽²⁾						使用権付リース資産			
	土地	建物	コンピューター機器	備品、設備およびその他の付帯設備	リース物件改良費	建設仮勘定	建物	設備	合計	
費用										
期首現在における残高	\$ 153	\$ 1,395	\$ 2,062	\$ 1,557	\$ 3,001	\$ 432	\$ 4,956	\$ 363	\$ 13,919	
追加費用	-	26	82	42	14	623	281	115	1,183	
建設仮勘定からの振替	-	9	279	93	449	(830)	-	-	-	
処分	(1)	(4)	(157)	(42)	(124)	(2)	(58)	(57)	(445)	
外国為替換算	1	4	7	4	10	(2)	38	1	63	
その他	(1)	(14)	(51)	30	33	(18)	(46)	(1)	(68)	
期末現在における残高	\$ 152	\$ 1,416	\$ 2,222	\$ 1,684	\$ 3,383	\$ 203	\$ 5,171	\$ 421	\$ 14,652	
累積減価償却										
期首現在における残高	\$ -	\$ 703	\$ 1,553	\$ 1,137	\$ 2,074	\$ -	\$ -	\$ 205	\$ 5,672	
減価償却	-	47	267	109	224	-	600	86	1,333	
処分	-	(3)	(155)	(39)	(112)	-	(12)	(16)	(337)	
外国為替換算	-	1	4	3	3	-	(2)	-	9	
その他	-	6	(17)	55	(1)	-	(2)	-	41	
期末現在における残高	\$ -	\$ 754	\$ 1,652	\$ 1,265	\$ 2,188	\$ -	\$ 584	\$ 275	\$ 6,718	
期末現在における繰越価額純額	\$ 152	\$ 662	\$ 570	\$ 419	\$ 1,195	\$ 203	\$ 4,587	\$ 146	\$ 7,934	

2019年10月31日に終了した年度										
(単位：百万カナダドル)	当行保有 ⁽¹⁾⁽²⁾						使用権付リース資産			
	土地	建物	コンピューター機器	備品、設備およびその他の付帯設備	リース物件改良費	建設仮勘定	建物	設備	合計	
費用										
期首現在における残高	\$ 153	\$ 1,399	\$ 2,123	\$ 1,373	\$ 2,726	\$ 264	\$ 8,038			
追加費用 ⁽¹⁾	-	-	195	129	81	591	996			
建設仮勘定からの振替	-	4	84	82	262	(432)	-			
処分	-	(10)	(68)	(29)	(65)	-	(172)			
外国為替換算	-	-	3	(1)	2	-	4			
その他	-	2	(12)	3	(5)	9	(3)			
期末現在における残高	\$ 153	\$ 1,395	\$ 2,325	\$ 1,557	\$ 3,001	\$ 432	\$ 8,863			
累積減価償却										
期首現在における残高	\$ -	\$ 669	\$ 1,556	\$ 1,051	\$ 1,930	\$ -	\$ 5,206			
減価償却	-	45	273	113	196	-	627			
処分	-	(8)	(61)	(26)	(56)	-	(151)			
外国為替換算	-	-	1	-	1	-	2			
その他	-	(3)	(11)	(1)	3	-	(12)			
期末現在における残高	\$ -	\$ 703	\$ 1,758	\$ 1,137	\$ 2,074	\$ -	\$ 5,672			

期末現在における繰越価額 純額	\$	153	\$	692	\$	567	\$	420	\$	927	\$	432	\$	3,191

- (1) 2020年10月31日現在、有形固定資産を取得するための契約総額は94百万ドル（2019年10月31日現在は338百万ドル）であった。
- (2) これらの数値は、IFRS第16号の適用による移行の一定の調整を反映する。詳細は、下記「第6 1 財務書類」の連結財務諸表に対する注記2を参照のこと。

2020年10月31日以降、RBCの重要な資産について、売却、廃棄または除却は行われていない。

2 【主要な設備の状況】

上記「1 設備投資等の概要」を参照のこと。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項なし。

第5 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

(2020年10月31日現在)

授 権 株 数 (株)	発行済株式総数 (千株) ⁽¹⁾	未発行株式数 (株)
制限なし	1,590,876	該当なし

(1) 取引日（決済日と対するものとして）に基づいて発行される株式（自己株式を除く。）を含む「発行済株式」の会計上の定義に従って計算されており、LCRNシリーズ1取引に関連して発行された第一優先株式（レオLCRNリミテッドリコース・トラスト™の受託者としてカナダ・コンピュータシェア信託会社が保有している。）を含まない。

普通株式

数量無制限の額面普通株式または無額面普通株式を発行することができる。

優先株式

シリーズごとに発行される、数量無制限の額面第一優先株式または無額面第一優先株式および額面第二優先株式または無額面第二優先株式である。第一優先株式および第二優先株式の最大発行総額はそれぞれ、200億ドルおよび50億ドルである。

② 【発行済株式】⁽¹⁾

(2020年10月31日現在)

記名・無記名の別 及び額面・無額面の別	種類	発行済株式総数 (千株) ⁽¹⁾	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	株式の内容
記名式無額面株式	普通株式	1,423,861	トロント、ニューヨーク、 スイス	(注記1)
記名式無額面株式	第一優先株式	167,015	トロント	(注記2)
記名式無額面株式	第二優先株式	0	—	(注記3)
計	—	1,590,876	—	

(1) 取引日（決済日に対するものとして）に基づいて発行される株式を含む「発行済株式」の会計上の定義に従って計算されており、LCRNシリーズ1取引に関連して発行された第一優先株式（レオLCRNリミテッドリコース・トラスト™の受託者としてカナダ・コンピュータシェア信託会社が保有している。）を含まない。

(注記1) 普通株式はすべての株主総会における議決権を有する。ただし、特定のクラスの株主にのみ議決権が与えられている場合を除く。

(注記2) 第一優先株式は議決権を有さない。ただし、(i) 第一優先株式よりも先順位の株式の設定または発行に関する場合、(ii) 第一優先株式またはそれと同列の株式の追加シリーズが設定または発行（ただし、当該設定または発行の日において、支払可能な累積的配当に関して最後に配当支払が完了したものを含むすべての累積的配当が、その時発行済みの累積型第一優先株式の各シリーズについて、支払済みまたは支払のために分離されていると公表され、かつ、公表されたが未払いの非累積的配当が、その時発行済みの非累積型第一優先株式の各シリーズについて、支払済みまたは支払のために分離されている場合を除く。）される場合、または(iii) 法律による場合を除く。

(注記3) 第二優先株式は議決権を有さない。ただし、(i) 第二優先株式よりも先順位の株式の設定または発行に関する場合、(ii) 第二優先株式またはそれと同列の株式の追加シリーズが設定または発行（ただし、当該設定または発行の日において、支払可能な累積的配当に関して最後に配当支払が完了したものを含むすべての累積的配当が、その時発行済みの累積型第二優先株式の各シリーズについて、支払済みまたは支払のために分離されていると公表され、かつ、公表されたが未払いの非累積的配当が、その時発行済みの非累積型第二優先株式の各シリーズについて、支払済みまたは支払のために分離されている場合を除く。）される場合、または(iii) 法律による場合を除く。

(2020年10月31日現在)

	株 式 数 (単位：千株)
第一優先株式	
非累積型シリーズW ⁽¹⁾⁽²⁾	-
非累積型シリーズAA ⁽²⁾	-
非累積型シリーズAC ⁽²⁾	-
非累積型シリーズAE ⁽²⁾	-
非累積型シリーズAF ⁽²⁾	-
非累積型シリーズAG ⁽²⁾	-
非累積型シリーズAZ ⁽³⁾⁽⁴⁾	20,000
非累積型シリーズBB ⁽³⁾⁽⁴⁾	20,000
非累積型シリーズBD ⁽³⁾⁽⁴⁾	24,000
非累積型シリーズBF ⁽³⁾⁽⁴⁾	12,000
非累積型シリーズBH ⁽⁴⁾	6,000
非累積型シリーズBI ⁽⁴⁾	6,000
非累積型シリーズBJ ⁽⁴⁾	6,000
非累積型シリーズBK ⁽³⁾⁽⁴⁾	29,000
非累積型シリーズBM ⁽³⁾⁽⁴⁾	30,000
非累積型シリーズBO ⁽³⁾⁽⁴⁾	14,000
非累積型シリーズC-2 ⁽⁵⁾	15
その他資本性金融商品	
リミテッドリコース・キャピタル ノート・シリーズ1 ⁽³⁾⁽⁴⁾⁽⁶⁾	1,750
第一優先株式およびその他資本性金融商品合計	168,765
発行済普通株式	1,423,861
自己株式－優先株式およびその他資本性金融商品	(2)
自己株式－普通株式	(1,388)
ストック・オプション	
発行済	7,735
行使可能	3,314
付与可能	7,082

- (1) 2010年2月24日付で、当行は、一定の制限に従い、当行の選択によりこれらの株式を普通株式に転換する権利を有している。
- (2) 2020年10月1日付で、当行は、非累積型第一優先株式（発行済のシリーズWの全12百万株、発行済のシリーズAAの全12百万株、発行済のシリーズACの全8百万株、発行済のシリーズAEの全10百万株、発行済のシリーズAFの全8百万株および発行済のシリーズAGの全10百万株を含む。）を、1株当たり25ドルで償還した。
- (3) 配当率は5年ごとに修正される。
- (4) NVCC商品。
- (5) 優先株式シリーズC-2に関連する預託株式615,400株を示す。各預託株式はシリーズC-2の1株の40分の1の持分を表している。
- (6) LRCNについて、株式数は発行された社債の数を示し、1株当たりの配当金は、報告日現在に発行された社債に適用される年利率を表している。2020年7月28日、当行は、LRCNシリーズ1の発行に関連し、1,750百万ドルの第一優先株式シリーズBQ（シリーズBQ）を、シリーズBQ当たり1,000ドルで発行した。シリーズBQは、LRCN構造に関連する信託財産として保有される連結信託に対して発行された。

2020年11月27日現在、発行済普通株式（自己株式917,878株を除く。）は、1,423,065,739株であり、ストック・オプションおよび株式報酬の株式数は7,616,167株であった。

(2) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(3) 【発行済株式総数及び資本金の推移】

	年月日	発行済株式総数（単位：千株）		資本金（単位：百万カナダドル）	
		増減数	残高数	増減額	残 高
普通株式	10月31日に 終了した年度				
	2015年	1,190 ⁽¹⁾	1,443,423	62	14,573
	2016年	41,971 ⁽²⁾	1,485,394	3,366	17,939
	2017年	(32,496) ⁽³⁾	1,452,898	(209)	17,730
	2018年	(13,869) ⁽⁴⁾	1,439,029	(95)	17,635
	2019年	(8,351) ⁽⁵⁾	1,430,678	10	17,645
	2020年	(6,817) ⁽⁶⁾	1,423,861	(17)	17,628
第一優先株式	10月31日に 終了した年度				
	2015年	41,000 ⁽⁷⁾	204,000	1,025	5,100
	2016年	59,102 ⁽⁸⁾	263,102	1,613	6,713
	2017年	(12,000) ⁽⁹⁾	251,102	(300)	6,413
	2018年	(82) ⁽¹⁰⁾	251,020	(107)	6,306
	2019年	(24,000) ⁽¹¹⁾	227,020	(600)	5,706
	2020年	(60,005) ⁽¹²⁾	167,015	(1,508)	4,198
その他資本性 金融商品 ⁽¹³⁾	10月31日に 終了した年度				
	2020年	-	1,750	-	1,750

(注記1) 2015年、普通株式1,190千株がストック・オプション制度に基づき発行された。

(注記2) 2016年、シティ・ナショナルの買収に関連して普通株式41,619千株が発行され、株式に基づく報酬制度に関連して普通株式4,981千株が発行され、さらには普通株式4,629千株を消却のために買入れた。

(注記3) 2017年、普通株式35,973千株が買入消却され、株式に基づく報酬制度に関連して普通株式3,477千株が発行された。

(注記4) 2018年、普通株式15,335千株が買入消却され、株式に基づく報酬制度に関連して普通株式1,466千株が発行された。

(注記5) 2019年、普通株式10,251千株が買入消却され、株式に基づく報酬制度に関連して普通株式1,900千株が発行された。

(注記6) 2020年、普通株式7,860千株が買入消却され、株式に基づく報酬制度に関連して普通株式1,043千株が発行された。

(注記7) 2014年11月24日、当行は非累積型5年配当率修正条項付第一優先株式シリーズAXの発行済株式13百万株すべてを、1株当たり25ドルで現金で償還した。2015年1月30日、当行は1株当たり25ドルの非累積型5年配当率修正条項付第一優先株式シリーズBDを24百万株発行した。2015年3月13日、当行は1株当たり25ドルの非累積型5年配当率修正条項付第一優先株式シリーズBFを12百万株発行した。2015年6月5日、当行は1株当たり25ドルの非累積型第一優先株式シリーズBHを6百万株発行した。2015年7月22日、当行は1株当たり25ドルの非累積型第一優先株式シリーズBIを6百万株発行した。2015年10月2日、当行は1株当たり25ドルの非累積型第一優先株式シリーズBJを6百万株発行した。

- (注記8) 2015年11月2日、当行はシティ・ナショナルの買収に関連してシリーズC-1を175千株、合計227百万ドルおよびシリーズC-2を100千株、合計153百万ドルで発行した。2016年2月24日、当行は1株につき、シリーズC-1の株式の40分の1の持分を表す預託株式3,717,969株およびシリーズC-2の株式の40分の1の持分を表す預託株式3,184,562株の現金による買付を行った。買付されたシリーズC-1およびシリーズC-2の預託株式および現物株はその後消却された。2015年12月16日、当行は非累積型5年利率見直し型第一優先株式シリーズBK（以下、「シリーズBK」という。）27百万株を発行し、さらに2015年12月31日にシリーズBKの2百万株を合計725百万ドルで追加発行した。2016年3月7日、当行は非累積型5年利率見直し型第一優先株式シリーズBMの30百万株を合計750百万ドルで発行した。
- (注記9) 2017年9月27日付で、当行は非累積型第一優先株式シリーズABの発行済株式12百万株すべてを、1株当たり25ドルの償還価格にて現金で償還した。
- (注記10) 2017年11月13日、当行は、発行済みのシリーズC-1株式82,050株すべてを、1株当たり1,000米ドルの償還価格（関連する預託株式1株当たり25米ドル相当）で現金と引き換えに償還した。
- (注記11) 2018年11月24日、当行は非累積型第一優先株式シリーズADの発行済株式10百万株すべてを、1株当たり25ドルの償還価格にて現金で償還した。2019年2月24日、当行は、非累積型第一優先株式シリーズAKの発行済株式2.4百万株すべて、非累積型5年利率見直し型第一優先株式シリーズAJの発行済株式13.6百万株すべておよび非累積型5年利率見直し型第一優先株式シリーズALの発行済株式12百万株すべてを、1株当たり25ドルで償還した。2018年11月2日、当行は、非累積型5年利率見直し型第一優先株式シリーズB0の14百万株の合計350百万ドルを発行した。
- (注記12) 2020年10月1日、当行は非累積型第一優先株式シリーズWの発行済株式12百万株すべて、非累積型第一優先株式シリーズAAの発行済株式12百万株すべて、非累積型第一優先株式シリーズACの発行済株式8百万株すべて、非累積型第一優先株式シリーズAEの発行済株式10百万株すべて、非累積型第一優先株式シリーズAFの発行済株式8百万株すべて、非累積型第一優先株式シリーズAGの発行済株式10百万株すべてを、1株当たり25ドルの償還価格にて現金で償還した。
- (注記13) LRCNについて、株式数は発行された社債の数を示し、1株当たりの配当金は、報告日現在に発行された社債に適用される年利率を表している。2020年7月28日、当行は、LRCNシリーズ1の発行に関連し、1,750百万ドルの第一優先株式シリーズBQ（シリーズBQ）を、シリーズBQ当たり1,000ドルで発行した。シリーズBQは、LRCN構造に関連する信託財産として保有される連結信託に対して発行された。

(4) 【所有者別状況】

① 普通株式所有者（名義株主）別状況

(2020年10月31日現在)			
内訳	株主数（人）	所有普通株式数（株）	発行済普通株式総数に対する所有普通株式数の割合（％）
預託機関	2	1,392,757,147	97.82
その他	45,954	31,104,127	2.18
合計	45,956	1,423,861,274	100.00

(1) 決済日（取引日に基づいて発行される株式を含む「発行済株式」の会計上の定義と対するものとして）に従って計算されている。

② 第一優先株式所有者（名義株主）別状況

(2020年10月31日現在)			
内訳	株主数（人）	所有第一優先株式数（株）	発行済第一優先株式総数に対する所有第一優先株式数の割合（％）
預託機関	2	167,015,385	100.00
その他	-	-	0.00
合計	2	167,015,385	100.00

(5) 【大株主の状況】

当行の発行済株式の10%を超えて実質的に所有している株主または株主グループは存在しない。「第1 1 (1)(v)銀行法に基づく銀行株式に関する規制」を参照のこと。下表は、2020年10月31日現在、当行の株式を1%を超えて所有している名義株主の状況である。

(2020年10月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合 (%)
CDSクリアリング・アンド・デポジタ リー・サービシーズ・インク	M5H 1S3 オンタリオ州トロント ウエストスト 300 アデレードストリート 100 カナダ	1,102,505,941	77.43
CEDE・アンド・カンパニー	10274 ニューヨーク州 ニューヨーク ボウリング グリーン駅 私書箱20号 米国	290,251,206	20.38
合計		1,392,757,147	97.81

2 【配当政策】

当行は、当行が、配当金の支払の結果として、資本充実・流動性に関する規制または銀行法に基づき公布された規制指令に反する場合または反することになる場合には、優先株式または普通株式について配当金を支払うことを銀行法により禁止されている。当行は、優先株式の株主に対するすべての配当金の支払が公表され、支払が行われるか、または支払のための分離が行われた場合を除き、いかなる時も普通株式について配当金を支払うことができない。

現在のところ、これらの制限は、当行の優先株式または普通株式についての配当金の支払を制限するものとはなっていない。

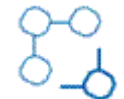
3 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】⁽¹⁾

当グループは、規制上の期待に沿ってベスト・プラクティスを展開し、また当グループの戦略およびリスク選好度に合致するガバナンスの高い水準を維持することに最大の努力を払っている。当グループは、グッド・ガバナンスとは、RBCおよびその活動を単に監督するのではなく、透明性および倫理性をもって監督することであると考えている。これには、独立した取締役会がすべての利害関係者と積極的に関わり、事業およびそのリスクを認識すること、経営陣に建設的に異議を唱えること、変化する業界および経済における機会および課題を理解すること、ならびに当グループの株主にとって価値を向上させる一方で、顧客の繁栄および地域社会の繁栄を支援するというRBCの目的を実現するために堅実な基準および原則を設定することが含まれる。

⁽¹⁾ 本「コーポレート・ガバナンスの概要」の項において、「RBC」および「当行」とはロイヤル・バンク・オブ・カナダを指し、「CEO」とは当行の総裁兼最高経営責任者を指す。ウェブサイトへの参照記述はすべて、参考にすぎない。それらに含まれる情報およびその他参照先のウェブサイトは、本書の一部を形成するものではない。

当グループのアプローチを推進する基本原則

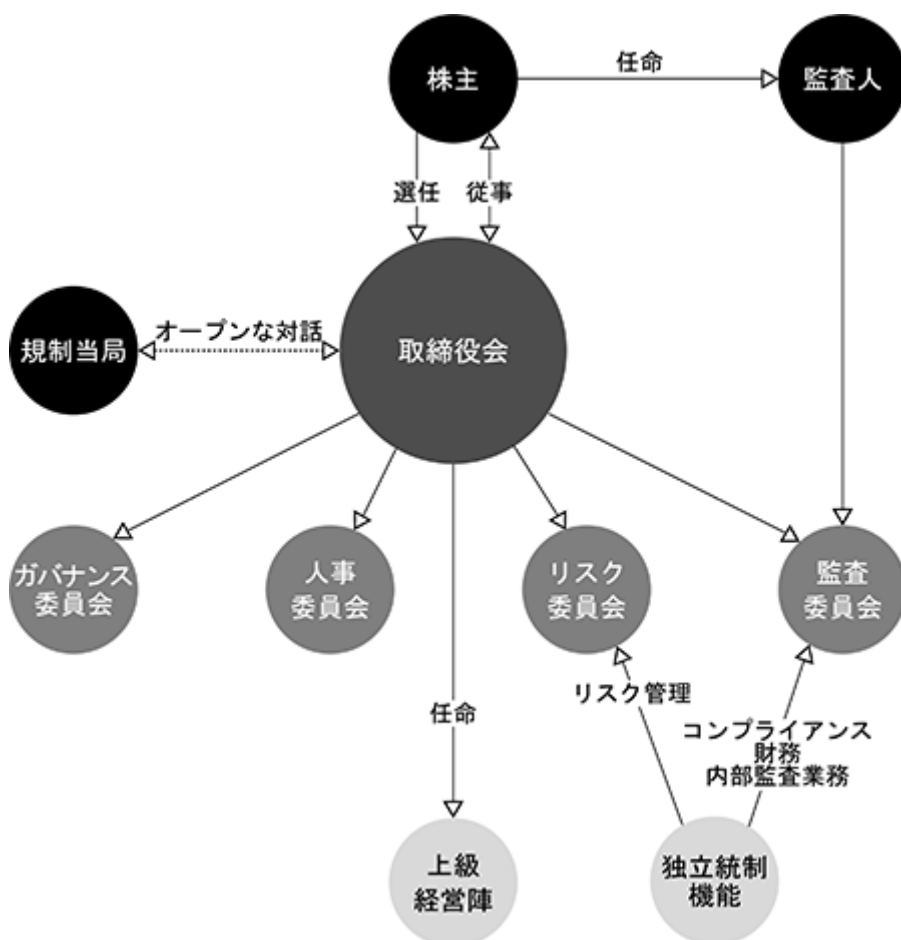
	文化および行動 トップの姿勢を打ち出すことにより、取締役会は、信頼、清廉さおよびグッド・ガバナンスという企業価値を支持する。
	受託者責任 取締役はRBCの受託者であり、経営の監督に際して独立した判断を行うとともに株主の利益を保護する。
	戦略的監督 取締役は経営陣の重要なアドバイザーであり、事業の機会およびRBCのリスク選好を考慮し、戦略的方向性、目標、および行動計画について助言を行う。
	リスクの監督 取締役会は、事業に対するリスクを認識および管理するための枠組み、方針およびシステムを監督するとともに、RBC全体に強固なリスク認識文化を定着させるよう努める。
	独立性 銀行および経営陣からの独立は取締役会の効率的な監督に必要不可欠であり、その独立性を保つためにメカニズムが採用されている。
	説明責任 透明性はグッド・ガバナンスの主要な特徴である。取締役会は、明確で包括的な財務報告および開示ならびに建設的な株主および利害関係者への関与に尽力する。
	継続的な改善 取締役会は、コーポレート・ガバナンス原則、ポリシーおよび慣行を継続的に改善させることに尽力する。

取締役会は、銀行法およびカナダ証券管理局、トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所、米国証券取引委員会を含むその他の関係法令に従いその権限を行使する。

当グループのガバナンスの構成

取締役会、取締役会委員会、経営陣、株主およびその他利害関係者との基本的な関係性は、当グループのガバナンスの構成によって定められている。

この構成を通じて、当グループは、当グループの戦略・企業目標とともに当グループの組織文化の方向性を設定する価値を定義づけ、かかる目標達成および実績の監視のための計画を判断する。



取締役会の役割

取締役は経営陣を監督し、長期的な株主価値の向上を目指す。

取締役は重大な政策を決定し、戦略計画に参加し、経営陣の実績および有効性を検討する。銀行法は、財務諸表の承認および配当宣言等、取締役会が処理しなくてはならない重要事項を特定している。取締役会は、特定の判断を行う権利を留保しており、その他を経営陣に委任している。経営陣は、一定の金額基準を超える事項に関しては、取締役の承認を要求する。

COVID-19危機下における取締役会の監督

2020年、取締役会およびその委員会は、機敏かつ積極的で、COVID-19のパンデミックがもたらす当面のリスクおよび新興リスクに対応するために優先順位を変え、バーチャル上でより頻繁に会議を開いた。同時に、パンデミック発生前に設定された優先事項を達成するための取組みを継続し、経営陣および銀行の業務を監督する責務を効果的に果たした。

取締役会および委員会は、危機の初期段階において、急速に進展する状況について頻繁に会合した。

取締役会議長および委員会委員長は、危機の間中、CEOおよび上級経営陣と継続的に連絡を取り合った。

CEOおよび上級経営陣からの定期的な文書による更新により、取締役会メンバーはリアルタイムで情報入手できた。

取締役および経営陣は、バーチャル上でミーティングを行い、ミーティングの周期を延長し、緊密に連携した。

ガバナンス委員会の役割

ガバナンス委員会は、取締役会の刷新を監督し、選挙または再選のために取締役を推薦する（取締役会のメンバーの選任に関する更なる詳細は、下記「取締役の指名、育成および評価」を参照のこと。）。ガバナンス委員会はまた、委員会の委員について勧告し、委員会委員長の後任に全力を傾け、取締役会議長の引継ぎ手続の監督をする。

ガバナンス委員会は、取締役会、委員会および議長の責任・監督範囲の概要を示す権能の見直しを行い、規制指針および業界におけるベスト・プラクティスを考慮して、要求されるとおり責任の配分を行う。こうした見直しにより、取締役会、その委員会ならびに取締役会議長および委員会委員長は、新たな要求に適応および反応し、また、精力的な監督の実施を継続する。

取締役は、1委員会につき最低3年の任期を一度に2つの委員会で果たし、多くの取締役が在職期間中に、すべての委員会の委員を務める。

ガバナンス委員会委員長および各委員会の委員長は、各委員会会議の後の取締役会において報告を行う。

取締役会議長の役割

キャスリーン・テイラーが当グループの独立した取締役会議長である。

独立性を有する非常勤役員の取締役会議長は、経営の説明責任および取締役会の独立した監督を強化する。取締役会の議長は、取締役会および株主総会を指揮し、取締役会の管理、発展および効果的に機能させることについて責任を負う。当該議長は、いずれの取締役会委員会の構成員でもないが、委員会の会議に出席および参加する。取締役会議長は、取締役会の投票において可否同数の結果となった場合、決定投票を行う権利を有しない。

とりわけ、取締役会議長は、下記も行う。

- ・重要な議題において、CEOに助言を行い、取締役会および上級経営陣の間の窓口を務める。
- ・新しい取締役のオリエンテーションおよび既存の取締役の継続的な成長に参画する。
- ・ガバナンス委員会とともに、取締役会の有効性評価ならびに取締役会の承継および採用の計画を行う。
- ・一年を通して取締役および上級幹部と意見交換を行う。
- ・取締役会を代表して規制当局、株主および利害関係者と会う。
- ・取締役会会議に定期的に出席し、当グループの主要な子会社の独立取締役と会う。

取締役会が取締役会の議長の権能を検討かつ承認する一方、ガバナンス委員会は、委員長の指示のもと、毎年取締役会議長の権能遂行の有効性を評価している。

取締役会、取締役会議長および取締役会委員会の権能は、rbc.com/governanceにおいて閲覧可能である。

取締役会による監督事項

責任	業務内容
行動および文化	・当グループの行動規範に規定されるとおり、RBCの価値観を支持 ・顧客、地域およびその他と交流する際、共に働く際、事業を行う際および受託資産を保護する際における、当グループの清廉な文化の監督 ・RBCの価値観と合致しないときに、同僚が意見を述べ、言動に異議を唱えることのできる互いに敬意をはらう環境の促進
戦略的計画	・当グループの戦略的な方向性、計画および優先事項の監督、ならびにこれらが当グループのリスク選好と合致することの保証 ・経営陣との企業戦略についての協議および批判ならびに戦略的イニシアチブの実施の監視 ・事業の機会およびリスクを考慮する戦略的計画の毎年の承認 ・重要な資本配分、委任された権限を超える支出や取引を含む、当グループの財務目標および運営計画の承認 ・RBCの組織構成の見直しおよび承認 ・業績の年次評価の結果の検討
リスク管理	・当グループのリスク選好枠組みの監督および承認 ・リスク管理体系および方針の承認による戦略的リスク管理の監督および行動的リスクの監視 ・強固なリスクカルチャーを促進し、行動が当グループの企業規模のリスク管理体系に沿っていることの確認 ・当グループのリスク選好および管理環境に関して議論するための当局との会議
財務報告および内部統制	・四半期および年次の財務報告の承認 ・適用ある監査、会計および財務報告義務の遵守状況の監督 ・経営陣による管理情報システムを含む効果的な内部統制システムの実施および維持の監督、ならびにその適合性および有効性についての評価
人材管理および継承計画	・CEOおよびCEOに報告する役員（グループ・エグゼクティブ）の選考、任命および展開を含む継承計画の監督 ・将来のインセンティブと一致する方法による、CEOおよび上級経営陣の報酬の評価および承認 ・CEOの権能について年に1回の検討および承認 ・能力評価および開発ならびに組織のすべての水準における多様性および受容の増長に係る戦略およびプログラムの検討
ガバナンス	・取締役会が効率的にかつ独立して機能するための適切な構造および手続の構築 ・コーポレート・ガバナンスの原則およびガイドラインの整備 ・ガバナンスにおけるベスト・プラクティスの監視
環境および社会	・環境・社会問題に対する企業の取り組みの監督および当行の業務が環境・社会的責任の高い水準を満たすことの確保 ・低炭素経済への移行において、当グループの顧客のサポートを目的とする、気候変動に対する企業としての取り組みの監督 ・ESG実績レポートおよび気候関連財務情報開示報告書タスクフォースを含め、当行の環境および社会に関する情報開示の毎年の検討

当グループの環境、社会およびガバナンス（ESG）問題におけるアプローチ

当グループの企業としての成功は、当グループがサービスを提供する人々、当グループが事業を展開する地域社会および当グループが未来の世に残していく地球の長期的な幸福によって定義される。企業のシチズンシップとしての戦略、プログラムおよび実績を含む、ESG問題を管理する当グループのアプローチは、ESG問題は当グループの事業に組み込まれるべきであるという信念を反映した分散型組織モデルを採用している。

当グループのESG実績レポート、パブリック・アカウンタビリティ・ステートメントおよび気候関連財務情報開示（TCFD）タスクフォース報告書では、顧客の繁栄および地域社会の繁栄を支援するというRBCの目的を示す様々な方法について説明および開示している。これにより、当グループの投資家およびその他主要な利害関係者は、より透明性の高い当グループの戦略、環境、社会およびガバナンスの関連トピックに関する、コミットメントおよび実績ならびに優れた実績を実現するための当グループの均衡のとれたスコアカード・アプローチを得ることができる。

取締役会は、気候関連の影響を管理するため、当グループの戦略的アプローチを積極的に監視し、経営陣の計画が戦略的機会と適切なリスク規律とのバランスを適切にとっているかを慎重に評価する。ガバナンス委員会は、企業のシチズンシップとしてのプログラム、方針および実績を監督する責任を負う。当該委員会は、当グループのESG実績レポート、パブリック・アカウンタビリティ・ステートメントおよびTCFD報告書ならびに当グループの人権に関する意見表明を検討する。リスク委員会は、環境リスクおよび社会リスクを含む当グループのリスク管理を監督する。人事委員会は、主要な報酬プログラム、人材管理および経営陣の継承、ならびに当グループの戦略目標の実行に必要な重要なスキルに関する問題を監督する。

当グループの地域社会および持続可能性への取組みの詳細またはそれらの報告書は、rbc.com/communityにおいて閲覧可能である。

当グループの子会社ガバナンスにおけるアプローチ

RBCは、子会社ガバナンスにおいて企業規模アプローチを採用している。

取締役会およびその委員会は、子会社ガバナンスを企業レベルで監督しており、ガバナンス委員会はかかる監督の調整を行っている。取締役会による効果的な監視は、子会社リスクおよびガバナンスの問題を上位レベルに報告する定義されたメカニズム、取締役会、上級経営陣および現地子会社間の公式および非公式のタッチポイントならびに主要なグループ全体の枠組みの定期的な子会社報告および承認によってサポートされている。

子会社ガバナンス・オフィスは、現地の専門知識と世界規模の監督とをまとめ上げる地域的コーポレート・ガバナンスのハブとして行為する世界中の事務所のネットワークを通じて、RBCの子会社のコーポレート・ガバナンスを監督する。この一元化されたアプローチは、一貫性および透明性を提供し、当グループが変化する事業上のニーズ、ベスト・プラクティスならびに規制上の要件および期待に対応できるようにする。

子会社の取締役会の構成および機能に係る当グループの方針により、強力なガバナンスが促進される。積極的かつ職務熱心な子会社の取締役会は、当グループの法人の監督において主要な役割を担っている。その多くは、取締役会がRBCおよびその子会社の戦略的優先事項を促進し、経営陣に対して建設的に異議を唱える手助けをする、特別な技能および経験に裏付けられた独立取締役を有する。当グループは、グループの多様性戦略および受容戦略に沿った子会社の取締役会におけるジェンダーおよびジェンダー以外の多様性を引き続き促進し、組織全体の成長に向けた才能を築くために子会社の取締役会の経験を有効活用する。

株主およびその他利害関係者との関わり

株主およびその他利害関係者との継続的かつオープンな対話は、当グループにとっての重要な優先事項である。取締役会は、すべての利害関係者に対して、適時かつ有意義なフィードバックを発信するように働きかけ、建設的なかかわりを促進し、ベスト・プラクティスと整合させるために株主および利害関係者との新たなかかわり方を定期的に見直すことを推奨する。

以下のとおり、当グループに関与し、重要な情報を入手する方法は多数存在する。

取締役会	株主は、 rbc.com/governance に記載される方法で、取締役または取締役会議長と連絡を取ることができる。
経営陣	CEO、グループ・エグゼクティブのその他のメンバー、上級経営陣、インベスター・リレーションズならびに事務局は、金融アナリスト、投資家およびその他利害関係者と定期的に会合を開く。
インベスター・リレーションズ	インベスター・リレーションズは、RBCを代表して、投資を行う一般市民とのコミュニケーションを担当している。
生中継	当グループは、アナリストとの四半期ごとの収益に関する電話を生中継し、各電話の後3ヶ月間にわたり、当グループのインベスター・リレーションズのウェブサイトアーカイブする。また、株主は当グループの年次総会にもウェブサイトの生配信を通じて参加可能であり、これは、次の年次総会までの期間、当グループのインベスター・リレーションズにアーカイブされる。

文化および行動

取締役会は、顧客、投資家、同僚および業界の信頼を構築し維持するためにRBCにおける最高水準の行動を設定し、期待している。取締役会は、経営陣とともに、RBCにおける開放的でありかつ透明性ある文化を上層部から方向性を設定し、促進する。当グループは、文化および行動の監督に係る取締役会の責任は広範に及ぶことを認識しており、当グループの活動に対する継続的な改善の姿勢を取り入れることを求めている。

このため、当グループのガバナンス委員会は、文化および行動管理を監督する。同委員会は、顧客の苦情処理および成果、従業員の行動およびリスク文化ならびに金融市場の清廉さ、健全さおよび回復性への影響および当グループの評価への影響を含む、文化および行動に関する事項に関する取締役会報告および委員会報告を引き続き強化することに努め、これらの重大事項の監督に対する総体的なアプローチの改善に役立たせるために、最新動向および成功事例を監視している。また、ガバナンス委員会は、企業の文化および行動を強化するプログラムの重要事項および進捗状況を見直すために、最高人事責任者、最高リスク責任者、最高コンプライアンス責任者および法務顧問と定期的に会合する。

また、当グループは、当グループの価値観と合致しないときに、意見を述べ、言動に異議を唱えることで、当グループの文化形成に寄与するよう従業員を奨励している。

RBCの行動規範

RBCの行動規範は、取締役、経営上層部ならびにすべての従業員に適用される望ましい行動の基準（誠実であること、他者を敬うこと、法令、規則および当グループの方針の遵守ならびに公正かつ誤解を招くことのない販売活動への従事に関する責任を含む。）を構築する。

取締役会は、行動規範を毎年承認し、上層部から方向性を設定するために経営陣と緊密に連携し、RBCのすべてのレベルおよび当グループの世界的業務すべてにわたり影響を及ぼす強力なガバナンスの文化を促進する。

当グループの行動規範は、取締役会が審議をする上での指針として必須の原則を規定している。繊細かつ複雑な事項に適切に対応する基準を構築し、行動の基準が守られなかった場合に不正について全従業員に報告することを要求および当グループの責任を概説する。

RBCは、従業員がいかなる報復も気にせずに様々な手段で率直に発言し懸念を表明することのできる開放的でありかつ透明性ある環境を育成している。RBCグローバル管理ホットラインは、全従業員が懸念の提起および不正を報告するための、機密性があり公的に入手可能な手段である。ホットラインはRBCから独立した第三者が運営し、従業員はかかるホットラインを匿名で使うことができる。

当グループには、従業員が、当グループの行動規範に規定される価値観および原則を熟知し理解していることの証明を目的としたオンライン学習プログラムおよび従業員を対象とした年1回のテストや確認がある。取締役は、毎年、行動規範を読み、それを理解したことを確認し、これに従っていることを証明しなければならない。また、当グループには、贈収賄の防止、腐敗の防止およびインサイダー取引に係る方針等、公正な業務遂行に関するより具体的な局面に対処するための方針と手続がある。

行動規範適用からの逸脱は例外的な状況においてのみ考慮される。執行役員および取締役については、かかる逸脱はガバナンス委員会または取締役会に報告されなくてはならず、また、法令に従って公表されなくてはならない。

当グループの行動規範の写しは、rbc.com/governanceにおいて閲覧可能であり、また、sedar.comにおいて証券当局に提出されている。

2020年度、取締役会は、執行役員または取締役に対して、行動規範の責任免除を許可しなかった。

財務報告ホットライン

当グループの利害関係者は当グループの財務報告の透明性を信頼している。従業員、役員、取締役および第三者は、会計、監査または内部会計統制に関する不正行為疑惑を内密かつ匿名のうちにRBCグローバル管理ホットラインを通じて報告することが推奨されている。当グループの報告ホットラインに関する詳細は、rbc.com/governanceを参照のこと。事案については、内部的に、または、独立した外部機関による調査を行い、重大な事項については監査委員会の委員長に提出される。

利益相反

実際には、利益相反は専門的な契約上の合意、取締役の職務およびその他の個人または事業利益の結果として発生する。行動の見直しを監督する一環として、ガバナンス委員会は、利益相反を解決するための手続を確立し、監視する。取締役および幹部役員の私的および公的な利益が、RBCのそれと相反する可能性がある場合、取締役および幹部役員は、利益相反の性質およびその範囲について、書面によりまたは取締役会議事録への記載を要請することにより、可能な限り早期に開示しなければならない。利益相反のある場合、当該取締役または幹部役員は、かかる問題を審議する会議には出席せず、また取締役の場合にはその決定に投票または参加しないものとする。

ガバナンス委員会は、銀行法において関連当事者と定義される当行の取締役および上級役員との取引を監督する責任を負っている。当行は、関連当事者との取引が銀行法および内部手続を遵守していることを確保するため、関連当事者との許可された取引を管理する手続を定期的に承認し、定期的に報告を受けている。

当グループの多様性および受容への取組み

多様性および受容は、常にRBCの中心的価値観に据えられてきた。最も包括的かつ成功する企業になるための当グループの多様性および受容のビジョンをサポートするため、従業員、顧客および地域社会の繁栄を助けるために多様性を行動に移しているが、当グループは、受容およびリーダーシップの多様性におけるリーダーとして、また多様な顧客市場において選ばれる金融機関として認められることを目指し、RBC、当グループの顧客および地域社会の成長ならびに成功のために多様性および受容を活用することを目指す。当グループはまた、すべての人材の中から最も優秀な人材を引き付け、保持することを目指しているが、それには、様々な技術および背景を考慮し、差異を受け入れる必要がある。取締役会は、より広範な優秀な人材の獲得方法をRBCに提供し、創造性、革新および成長を推進するため、あらゆるレベルで多様性および受容に尽力する。

取締役会の多様性の原則

当グループの取締役候補者の42%（12名中5名）が女性であり、17%（12名中2名）がBIPOC（黒人、先住民および有色人種）である。均衡のとれた多様性のある取締役会は、取締役会の監督を成功させるために不可欠である。当グループは、取締役会は、当グループの顧客、従業員、株主および地域社会の多様性を反映すべきであると強く考えている。当グループは、カナダ企業の実務取締役会のジェンダーの多様性を促進することにおいて、リーダーシップの役割を果たしてきたこと、および現在40%を超える女性がいる多様性のある取締役会の実現に向けて、当グループが成し遂げてきた進歩を誇りに思う。しかしながら、当グループは、取締役会構成員のBIPOCおよびその他の多様なグループの起用を更に強化するために、より多くのことを行う必要があると認識している。

当グループの多様性目標の実現を支援するため、取締役会は、ガバナンス委員会が、卓越性、革新性および成功という当グループの目標を達成するために必要な各取締役候補者を評価する際の重要なレンズであると定める、取締役会の多様性の原則を承認した。

均衡のとれた多様な取締役会へのコミットメントに従い、ジェンダーおよびジェンダー以外の多様性、民族、人種、祖先の起源、年齢、地理、背景、性的指向およびその他の多様性の側面は、ガバナンス委員会が常に検討する重要な要素である。

特に、ガバナンス委員会は、選挙の候補者を特定および指名する際に、取締役会における女性、BIPOCおよびその他の多様なグループの起用レベルを考慮する。取締役会の多様性の原則はまた、男性および女性がそれぞれ、少なくとも取締役の35%から45%（30%から上昇）を構成することを要求している。

当グループは、取締役会の規模が小さいこと、および取締役を任命する際に広範な基準（カナダの金融機関の実務取締役に適用されるスキルおよび居住に関する規制要件を含む。）を慎重に検討する必要があることから、BIPOCまたはその他の多様なグループの実務取締役会レベルでの多様性目標を設定していない。

毎年、ガバナンス委員会は、自己評価を行い、とりわけ取締役会を多様性目標に向け導く上でのその有効性を評価している。また、取締役会の構成および予想される欠員についても、取締役会の多様性の原則および当グループの目的の観点から検討する。

経営陣の多様性

カナダにおける当グループの役員46%が女性であり、21%がBIPOC⁽¹⁾である。

多様性は、当グループの人材管理へのアプローチ全体に取り入れられている。当グループは、より強固な未来は、多様な指導者のパイプラインにかかっていると考える。当グループの人材管理の実践により、役員および経営上層部の役職において、女性およびBIPOCを含む多様なグループのリーダーを有することができる。

役員および経営上層部の役職における人材の起用割合は、より高い業績、より力強い成長および更なる革新をもたらす当グループの人材パイプラインの多様性を反映する。当グループは、ウーマン・イン・リーダーシップ、Ignite、当グループのBIPOCリーダーシップ発展プログラムおよび休職期間1年以上の上級職レベルを対象としたRローンチ・プログラムを含む、多くのプログラムを通じて、当グループの後継者の層を強化するための多様なリーダーの進出の加速に重点を置いている。

当グループは、役員配置リストへの組込み、子会社の取締役会における管理職、目標とする発展計画ならびに公式の発展プログラムおよびメンタープログラムへの参加といった、当グループの高い将来性のある従業員の能力開発の機会を認識する上でも、多様性を考慮する。当グループは、有意義な変化を起こすことになる場合、人材配置事項を考えており、起用割合目標に加えて、意欲的な多様性のある人材配置目標を設定した。2020年において、当グループは、体系的人種差別に反対する行動（その1つは、包括的なリーダーシップの再定義である。）を通じて、3つの重要な柱にまたがる体系的人種差別および偏見に取り組むことを約束した。その一環として、当グループの2021会計年度の新任役員任命の人材配置目標は、女性が50%およびBIPOCが30%（20%から上昇）であり、現在、女性および可視的マイノリティの役員への起用割合の比率においてカナダの同業他社に優位を誇っている⁽²⁾。

当グループは、かかるグループの規模が小さいこと、および広範な基準を慎重に検討する必要があることから、グループ・エグゼクティブのレベルでは、具体的な多様性のターゲットを設定していない。最も重要なことは、ビジネス・ニーズの適切なマッチングが、当グループの利害関係者にとって長期的な価値ならびに新たに任命された者の実証済みのスキルおよび能力を促進することである。株主総会議決権行使参考書類の日付現在、グループ・エグゼクティブを構成する執行役員の10%（10名中1名）が女性である。

CEOが議長を務め、当グループの事業部門の上級幹部から構成される、RBCの多様性リーダーシップ審議会は、多様性および受容を推進しており、RBC全体に関して測定可能な結果を有する戦略および行動計画を監視する。当グループは、受容について声を上げるためには、受容について話すことが必要であると考えており、多様性に関する当グループのポータルサイトであるrbc.com/diversityを通じて、当グループにおける同僚、また当グループの地域社会および顧客に対し、有意義な対話を可能にし、行わせるための取組みを講じている。

(1) 2020年10月31日現在

(2) 雇用平等法（カナダ）に準拠するカナダ企業における公的に入手可能な雇用平等データによる。

取締役会の独立性

当グループのCEOを除き、全取締役は独立している。

取締役会は、その有効性のために、独立していなければならない。このため、取締役会は、銀行法に基づく「関係者」の規定およびカナダ証券管理局ガイドラインにおける「独立性」の定義を盛り込んだ取締役の独立性に関する方針を採用している。また本方針は、当グループの監査委員会および人事委員会のそれぞれの委員に対して、追加の基準も定めている。取締役の独立性に関する方針は、sedar.comにおいて証券当局に提出され、rbc.com/governanceにおいて閲覧可能である。

取締役の独立性の査定

取締役は、RBCと関係性を有さず、かつ、取締役会が、独立した判断の妨げとなるRBCとの直接的または間接的な重要な関係が一切ないと判断した場合にのみ独立している。

取締役会は、取締役の独立性を判断するため、個人バンキングおよび個人金融サービスに関する情報を含む、RBCとの間の私的および公的な関係に関する情報を使用する。取締役会は、この情報を下記の情報源等を通じて収集する。

- ・毎年実施される詳細にわたるアンケートへの取締役の回答
- ・取締役の経歴情報
- ・取締役、取締役との関係を有する関係法人およびRBCとの間の関係性についての内部記録および報告書

取締役会は、取締役およびRBCとの間の関係性を、当グループの取締役の独立性に関する方針に規定される重要度の基準を使用して考査する。取締役会はまた、これらのいずれかの関係性が取締役の独立した判断を妨げることが合理的に予測しうるか否かの判断において関連するとみなされるその他の事実および状況を考慮する。取締役会は、かかる関係性および重要性の本質および範囲を、取締役およびRBCに対してのみならず取締役が関係している法人に対しても考慮する。

銀行法上、CEOは取締役会の構成員でなければならない。CEOは、唯一の独立していない取締役である。

他の専門的行為に対する対処方針

いずれの取締役も、RBCの他に3社以上の公開会社の取締役を務めていない。

取締役は、取締役職（公開または非公開であるかにかかわらず）、雇用または顧問もしくはコンサルタントとしてのすべての役職を含むすべての新たな専門的行為を行う前に、取締役会議長、ガバナンス委員会委員長および事務局に事前に通知しなければならない。取締役会議長およびガバナンス委員会委員長は、取締役が、そのRBCへの責任を果たすために確実に十分な時間と力を有することができるか評価し、取締役の独立した判断に影響を与えうる状況が生じる可能性を判断する。

取締役の兼任方針	同じ公開会社の取締役を務めることができるRBCの取締役は、2名以内と規定されている。現在、その他の公開会社の取締役会で、他のRBCの取締役と役員を務めているRBCの取締役はいない。
公開会社監査委員会における業務	RBCの監査委員会の委員は、3社以上の他の公開会社の監査委員会の委員を務めることができない。

独立性の維持

取締役会は、取締役会の独立性を維持するために、その他の重要な方法を定めた。

経営陣への接触	いずれの独立取締役も、RBCの経営陣および従業員に無制限に接触することができる。
社外顧問	独立したアドバイスの入手を確保するために、各取締役会の委員会および各取締役（取締役会議長の承認による。）は、RBCの費用で社外顧問を雇うことができる。
非公開会議	取締役間オープンかつ率直な協議を促進させるため、取締役会および委員会の議長は、経営陣が出席しない会議を開く。

2020会計年度中、7回の取締役会およびすべての定期委員会は、経営陣が出席しない非公開会議で開かれた。

取締役の指名、育成および評価

取締役に適した候補者の選定

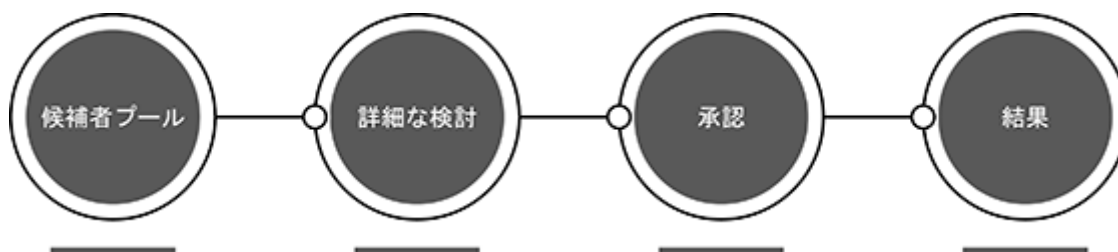
当行は、高い将来性のある候補者を認識するために、独立系の調査会社を定期的に雇っている。

取締役会は、その構成員の多様性、資質、能力および経験からその強みを引き出す。

ガバナンス委員会は取締役会の刷新を監督しており、取締役に選任される候補者を指名する。委員会の目的のために不可欠なものは、急速に変化し競争が激化しつつあるグローバル市場および進化する規制環境の中で、規律の強いリスクを伴ったRBCの将来の戦略的目標をサポートする才能と経験を有する取締役に構成される取締役会を構築することである。当委員会は、取締役会の多様性の原則のレンズを通して、取締役会の構成および予想される欠員を検討する。各年次総会においてRBCの株主により取締役が選出され、次の年次総会までの期間を務める。

毎年、ガバナンス委員会は、取締役に選任または再任される候補者の資質を取締役会議長と協働して検討し、取締役会が全体として有するべきであると判断するその能力および経験を評価する。この検討の一環として、委員会は、各取締役の主要な能力および主要な経験を示すマトリックスを作成している。

ガバナンス委員会は、当グループの戦略的目的をサポートするために求められる技能および能力の評価について、取締役会および役員の有効性の査定の結果を検討する。



以下により認識される：

- ・調査会社
- ・取締役
- ・経営陣
- ・株主

- ・個人およびその他の利害関係者

・レファレンス・スキル・マトリックス

- ・多様性の考慮
- ・資格の査定
- ・独立性の検討
- ・コンフリクト・チェック
- ・面接手続

・ガバナンス委員会による推薦

- ・取締役会による承認
- ・株主による選出

2016年以降、5名の新たな取締役に株主により選出されている。

指名の方法

株主	株主は、取締役会議長に候補者を提案することができる。
銀行法に基づく提案	銀行法に基づき、資格のある株主は、取締役として指名されるべき者を正式に提案することができる。
プロキシ・アクセス・ポリシーに基づく指名	RBCプロキシ・アクセス・ポリシーは、株主が取締役指名届を提出するための新たな方法を提供しており、 rbc.com/governance で確認することができる。
個人およびその他の利害関係者	個人およびその他の利害関係者もまた、取締役会議長に候補者を提案することができる。

連絡情報は当行の株主総会議決権行使参考書類の末尾に記載されている。

取締役会のための候補者の評価

ガバナンス委員会および取締役会議長はともに、すべての適格な個人を検討し、潜在的候補者の最新リストを常時維持する。

事業および職務における専門知識（金融サービス業界やリスク管理に関する専門知識を含む。）、大規模企業における上級職レベルでの関与、国際経験ならびに功績を有し、最高のレベルで業務を行い、また当グループの戦略的目的に関連する地理的地域への居住経験があり、精通した独立候補者が、取締役会により選任されている。

顧客の繁栄および地域社会の繁栄を支援するという銀行の目的を達成するために、すべての取締役候補者は、ESG案件の経験を有することが求められる。取締役候補者はまた、清廉で顧客を最優先し、多様性および受容、説明責任および協力を含むRBCの価値観に対するコミットメントを共有しなければならない。

新任取締役および現職取締役に当行が期待する技能、コミットメントおよび行動は、当グループの取締役の有効性に関する枠組みに定められている。取締役会の多様性方針および取締役の多様性をさらに向上させるという当グループのコミットメントに従い、ガバナンス委員会はまた、ジェンダーおよびジェンダー以外の多様性、民族、人種、祖先の起源、年齢、地理、背景、性的指向ならびにその他の多様性の側面といったその他の重要な要素を検討する。ガバナンス委員会は、指名するための候補者を検討する際、特に、女性、BIPOCおよびその他の多様なグループの起用レベルを考慮する。

取締役会規模の検討

今年は、12名の候補者が取締役として選定されている。

取締役会の最適な規模を検討する際には、取締役会は、2つの競合する優先事項の間の均衡を保つ。

- ・ RBCの短期的および長期的な戦略的目標に合致し、当行の多様な顧客および株主の基盤を反映する経験、視点およびバックグラウンドの多様性を必要とするビジネス・ニーズ、ならびに
 - ・ オープンかつ効果的な対話および綿密かつ迅速な意思決定が可能な程度に小規模であるニーズ
- 規制要件および継承計画も取締役会のその最適な規模の決定において重要な役割を果たす。

過半数投票原則

取締役会の過半数投票原則は、無競争選挙において指名を受けた取締役が、当該候補者に投票された票の少なくとも過半数（50%プラス1票）により選任されなかった場合に、直ちに辞任届を提出しなければならない旨を定めている。取締役会は、90日以内に辞任の承認を検討する。例外的な場合を除き、取締役会は辞任を受諾し、かかる辞任は即日効力を生じる。

辞任届を提出する取締役は、当該辞任が検討される取締役会または委員会の会合に参加しないものとする。RBCは、取締役会の決定に従い、直ちにニュース・リリースを発表する。取締役会が辞任を承認しないと決定した場合は、かかる決定の理由をニュース・リリースにすべて言明するものとする。

在職期間の原則

当グループは、在職期間の制限を組み入れた在職期間の原則を設けており、かかる目的は以下のとおりである。

- ・経験の利点と新しい観点の必要性とのバランスを取ること、および
- ・継続的な取締役会の更新を実現すること

取締役*	取締役の任期は15年または年齢70歳に達した場合のいずれか早い方。 新任取締役は、年齢に関係なく、少なくとも6年の任期を果たすことができる。
取締役会議長	取締役会議長の任期は8年である。
委員会委員長	委員会委員長の任期は3年であり、該当する委員会を牽引するために必要な専門知識を考慮の上、適切な場合、最長2年間延長することができる。

* 2011年5月27日より前に取締役会の一員となった取締役に關しては、任期は2012年3月1日から開始する。

取締役会は、ガバナンス委員会の勧告に基づき、取締役、取締役会議長および委員会委員長の任期の制限および／または年齢制限を免除することができる。2020年、現在進行中のCOVID-19パンデミックに鑑み、取締役会は、取締役会議長の任期を2023年の年次総会まで1年間延長することを承認した。

任期の制限は、当グループの年次の取締役査定の有効性に優先しない。取締役の再選定の候補者に関しては、戦略的な目的を前提とした取締役会およびRBCの需要を踏まえ、取締役査定の有効性および相互査定の結果を考慮に入れる。

以下の場合、取締役は、その辞任届を取締役会議長に提出することが求められている。

- ・適格性、独立性もしくはその他の資格に変更があった場合
- ・取締役が、取締役会の利益相反ガイドラインに基づく資格規定を充足しなくなった場合、または
- ・取締役が、銀行法もしくはその他の適用ある法令に基づき、適格性を失った場合

ガバナンス委員会は、辞任を承諾するべきかどうかについて、取締役会に勧告を行う。辞任届を提出する取締役は、協議または意思決定過程に参加しない。

取締役適切な能力を身に着けさせるために



取締役会は、新任取締役がその役割について徹底したイントロダクションを受け、またすべての取締役が継続中の進歩に注力できるように、必要な資源を入手できるよう、尽力している。ガバナンス委員会は、新任取締役の交代を可能な限り円滑にし、取締役会およびRBCに対し価値のある貢献を行うために適切な能力を取締役に身に着けさせる責任を担っている。

当グループのプリンシプルベースのアプローチは、迅速で適応性のある取締役会を推進するために、3つの重要な柱を反映し、各柱は、バーチャル環境に移行した2020年においてさらに重要性が高まった。

重要な柱	取締役の活動および資源
オリエンテーションおよびオンボーディング	・当グループのガバナンス原則およびガバナンス方針（当行の行動規範および取締役の独立性に関する方針を含む。）をカバーする詳細なオリエンテーションガイド ・各グループ・エグゼクティブおよび上級経営陣と行う戦略・事業の徹底検証 ・取締役の義務ならびにRBCの内部統制および実務について助言するためのガバナンス、法務および業務担当主要幹部とのオンボーディング・セッション ・委員会への出席（かかる取締役が委員でない場合でも） ・エグゼクティブ・スポンサーおよび事務局とともに行う委員会委員長向けオリエンテーション
統合	・新たな取締役と経験豊富なメンバーを組み合わせたメンターシップ・プログラム ・取締役会のカルチャーおよびダイナミクスに関する取締役の理解を高めることを目的とした取締役会議長および委員会委員長との1対1のミーティング ・当グループの戦略目標に関する認識を深め、オープンな対話や建設的な関係を促進するための各グループ・エグゼクティブおよび上級経営陣との継続的な交流
育成	・教育講座および教材 ・ビジネス・規制環境（当グループの事業および運営の特殊かつ複雑な側面を含む。）に関する上級幹部によるプレゼンテーション ・RBCスピーカー・シリーズ（外部のゲストスピーカーが、経済情勢および政治情勢に加え、新興業界、規制および市場動向を含む、多様なトピックに関する洞察を提供する。）。 ・委員会を横断した合同教育セッションで扱われる共通の関心または監督の分野 ・日々および週ごとのメディアの最新情報ならびに重要な問題に関するIRレポート、RBCのメディアにおけるプレゼンスおよび市場動向 ・RBCの外部で教育を受ける機会に関する定期的な最新情報 取締役は、自身が当該委員会の委員であるかないかに関係なく、すべての委員会の委員会会議および教育講座に参加することができる。取締役はまた、教育資料および当グループの事業に関連する事項についての更新を取締役会間において受領する。 ・個人に合わせたプログラム ・経歴、経験および個人の関心ある分野に基づき取締役それぞれのニーズに応えるプログラム ・大手金融機関の取締役に関連する機会（グローバル・リスク・インスティテュート、グループ・オブ・サーティ、バンク・ガバナンス・リーダーシップ・ネットワーク等） ・企業取締役機関（カナダ）および全米企業取締役協会（米国）への加入

当グループの業務および活動にさらに習熟できるよう、取締役会は定期的に当グループの事業ツアーにも参加し、従業員とのタレント・ディナーに出席している。2020年1月、取締役会は、ロサンゼルスにおいて会議を開催し、これにより、取締役は役員のリーダーシップ・チームと面談する機会ならびにリスクおよび機会を含むシティ・ナショナル・バンクの戦略およびUSウェルス・マネジメント事業についてより詳しく知る機会が得られた。取締役は、現地の従業員および顧客と関わり、人材パネル・ディスカッションに参加した。

2020年、取締役会および経営陣は、迅速であることが必要とされ、RBCならびに当グループの従業員、顧客、地域社会およびその他の利害関係者に影響を与える重要な問題に重点を置いた。教育およびその他のプレゼンテーションは、新たなCOVID-19の環境および変化し続ける不確実かつ混乱の期間を反映するよう調整された。

四半期	教育に係るプレゼンテーション	出席
2020年度 第1四半期	シティ・ナショナル・バンクの戦略的概要	取締役会
	サイバー・セキュリティに関する年次最新情報	取締役会
	ダボス2020－RBCへの報告	取締役会
	炉辺談話－進化するエンタテインメント業界	取締役会
	取締役報酬慣行の世界的動向	ガバナンス
	規制および政府関連の最新情報	ガバナンス
	シティ・ナショナル・バンクの人材概要	人事
	シティ・ナショナル・バンクの主要なリスクおよびリスク監視	リスク
	気候リスク管理に対するRBCのアプローチ	リスク
2020年度 第2四半期	RBCおよび市場に対するCOVID-19の影響	取締役会
	国際会計報告基準（IFRS）第9号の最新情報	取締役会
	COVID-19のマクロ的影響および「ニュー・ノーマル」	取締役会
	国際会計報告基準（IFRS）第9号の最新情報	取締役会
	COVID-19パンデミック発生時の信用供与	監査
	COVID-19を考慮した事業継続管理	リスク
	COVID-19を考慮した流動性および資金調達の最新情報	リスク
	COVID-19を考慮した市場信用リスクおよびカウンターパーティ信用リスク	リスク
	パンデミックによるストレス・テストのリスク	リスク
	COVID-19を考慮したリテールおよびホールセールの信用リスク	リスク
	2020企業規模のストレス・テスト・シナリオ	監査およびリスク
	銀行間取引金利（IBOR）のベンチマーク改革	監査およびリスク
	パンデミック下のオペレーショナル・リスク	監査およびリスク
	多様性および受容へのRBCの継続しているコミットメントならびに体系的な人種差別に反対する行動	ガバナンス
2020年度 第3四半期	規制および政府関連の最新情報	ガバナンス
	COVID-19を考慮したオペレーショナル・リスク	リスク（5月）
	パンデミックのストレス・テスト	リスク
	RBCの顧客に対する支払猶予プログラム	監査およびリスク
	COVID-19を考慮したオペレーショナル・リスク	監査およびリスク（7月）
2020年度 第4四半期	RBCの戦略的実績の要因	取締役会
	RBCにおける多様性および受容	取締役会
	IFRS第17号保険契約会計	監査
	多様性および受容のリーダーシップへの重視を含む、リーダーシップ戦略に関する最新情報	人事
	役員報酬のエクイティ・ミックスにおけるストック・オプションの業界レビュー	人事
	リスク管理慣行における機械学習および人工知能	リスク
	返済猶予期限の管理	リスク
	モデル・リスクの最新情報：人工知能	リスク
	パンデミックによるストレス・テスト	監査およびリスク

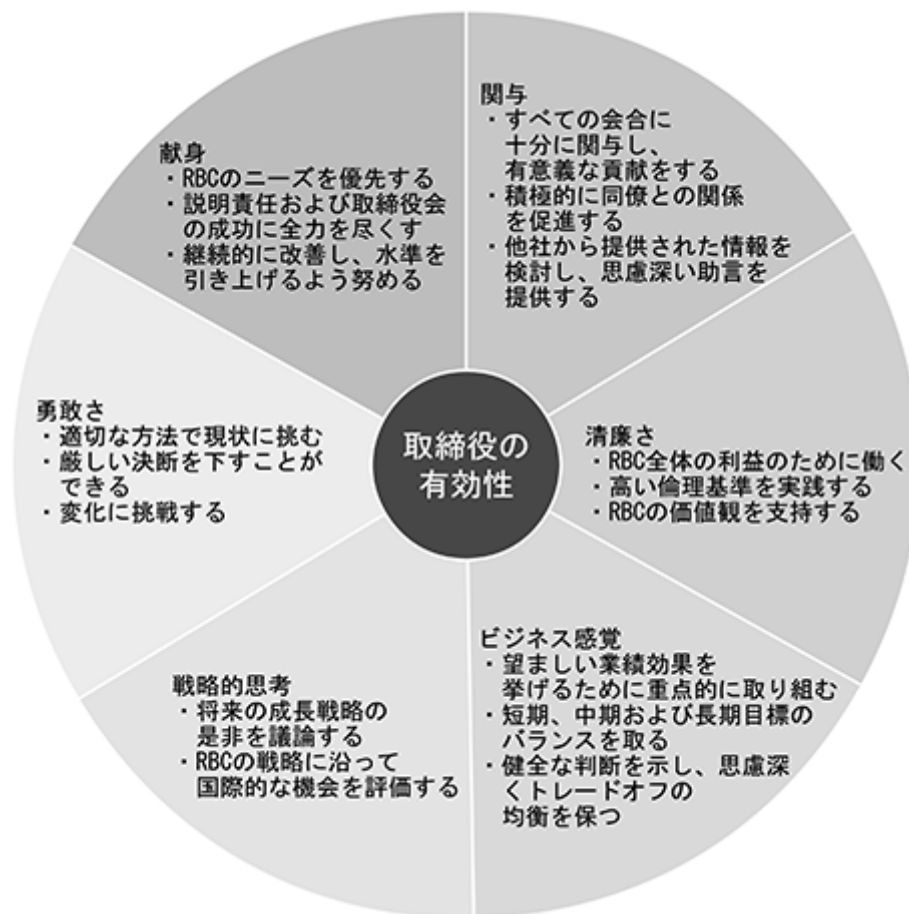
 RBCスピーカー・シリーズ・プレゼンテーション

取締役会、委員会、各議長および取締役の評価

取締役会およびその委員会は、監督、ガイダンスおよび経営の建設的課題において継続的に改善するコミットメントの一環として、それぞれの有効性の年次評価を行う。かかる評価は、ガバナンス委員会により管理されており、また、取締役会議長および各委員会委員長に対する個別評価、ならびに各役員の相互査定も含まれる。この結果は、取締役会が翌年の優先事項および行動計画を発展させるための情報を提供する。かかる評価はまた、取締役が選定または再選定の際に必要な、ガバナンス委員会による技能および能力の査定の一部をなす。

当グループの取締役に対する期待

当グループの取締役の有効性に関する枠組みは、取締役会が、各取締役が適切な能力を身に着けるために必須であるとともに重要な資質および行動を特定する。かかる枠組みは、当該評価における相互査定の構成要素の基礎となり、取締役の取締役会レベルおよび個別のレベルでの改善へのコミットメントを反映している。

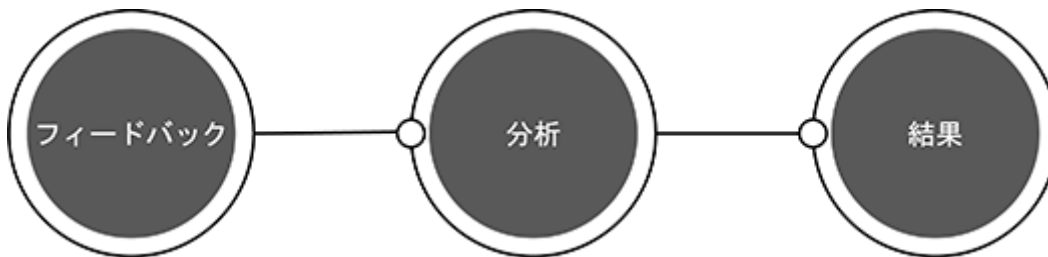


年次評価

取締役会および各委員会の年次評価は、取締役会および委員会の進行、資料、経営上層部との対話ならびに全体的な有効性等の面についての各グループ・エグゼクティブからの情報提供により補足される。当グループは、ベスト・プラクティスおよび規制指針に沿うように当グループの評価および有効性に関する枠組みを毎年見直す。

2020年、当グループは、COVID-19関連のトピックを評価に追加し、パンデミックにおける取締役会の有効性を把握した。

優先事項およびアクション・プランの更新は、1年を通して定期的に、取締役会議長および委員会委員長により取締役会および委員会に提供される。かかるアプローチにより、有効性の評価が取締役会およびその委員会が機能する上で継続的な原動力となる要素になる。



フィードバックはアンケート、取締役会議長と委員会委員長間の会議および取締役会議長と各取締役間の1対1の会議を通じて集められる。

取締役会はすべての取締役およびグループ・エグゼクティブにより評価される。

取締役会議長は、CEOを含むすべての取締役により評価される。

委員会および委員会委員長は委員会委員および関連ある上級経営陣により評価される。

各独立取締役は個別評価および相互査定を行う。

独立したコンサルタントがフィードバックを分析し、報告書を作成する。

取締役会とガバナンス委員会が取締役会および取締役会議長報告書を確認する。ガバナンス委員会委員長が、取締役会議長の有効性について、取締役会に報告する。

ガバナンス委員会および関連ある委員会が委員会および委員会委員長報告書を確認する。取締役会議長はまた、委員会委員長報告書も確認する。

取締役会議長が独立取締役報告書および相互フィードバックを確認する。

優先事項およびアクション・プランは取締役会および委員会ならびに委員会委員長および取締役会議長についても作成される。

必要に応じて、独立取締役に對してそれぞれの育成機会が指示される。

報告書および相互査定は、再選定プロセスにおいて検討される。

(2) 【役員の状況】

(注) 当該「役員の状況」の項において、「RBC」および「当行」はロイヤル・バンク・オブ・カナダを指す。

男性の取締役および執行役員の数： 16名

女性の取締役および執行役員の数： 8名

(取締役および執行役員のうち女性の比率： 33%)

(2020年10月31日現在)

① 取締役および役員

(i) 取締役

各取締役は、次の年次総会までを任期として選出されている。

銀行法は、当行の取締役の少なくとも過半数が、当該取締役が選任または任命された時点でカナダの居住者であることを義務づけており、勅許銀行の取締役として任命されるための資格に関するその他の制限を設けている。

以下は、本書提出日現在の取締役の氏名、最初に取締役として選出または任命された年、主要な職務、就任しているその他の主要な取締役ならびに、2020年10月31日現在、それぞれの取締役が直接もしくは間接を問わず、実質的に所有または支配もしくは管理している普通株式の数を示したものである。

アンドリュー・A・チザム、カナダ、オンタリオ州、トロント、61歳

チザム氏は、2016年7月7日から当行の取締役会の一員を務めている。チザム氏は、法人理事である。同氏は、2012年から2014年までゴールドマン・サックス（グローバルな投資銀行）でシニア・ストラテジー・オフィサーを務め、パートナーとして16年間務めた。同氏のゴールドマン・サックスにおける30年間に及ぶキャリアには、多岐にわたる上級管理職のポジションが含まれた。かかる役職には、2002年から2012年まで務めた国際金融機関部門の部長職ならびに2011年から2015年まで務めた全社コミットメント委員会の共同委員長を含む。同氏は、2016年4月に退任した。チザム氏は、RBC USグループ・ホールディングス・エルエルシーの取締役である。チザム氏は、エバーグリーンの取締役ならびにアークターン・ベンチャーズ、ノヴィスト、リスクシンキング・AIおよびレセプティビティ・インクの顧問でもある。同氏は、ウェスタン大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスの諮問委員会の委員長であり、その持続性の諮問委員会の一員でもある。同氏はまた、クイーンズ大学のスミス・スクール・オブ・ビジネスの持続可能な金融研究所の諮問委員会の一員であり、企業取締役機関の気候戦略の諮問委員会の一員でもある。同氏は、リチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスでMBAおよびクイーンズ大学で商学士号を取得している。

2020年10月31日現在、チザム氏は当行の普通株式を3,813株保有していた。

ジャセイント・コテ、カナダ、ケベック州、モントリオール、62歳

コテ女史は、2014年9月1日から取締役会の一員を務めている。同女史は、ハイドロ・ケベック電力公社（電気サービス供給会社）の取締役会長である。コテ女史は、2009年から2014年までリオ・ティント・アルカン（金属鉱業会社）の社長兼最高経営責任者を務め、また同女史が退任する2014年まで顧問の地位を務めた。それ以前には、リオ・ティント・アルカンのプライマリー・メタル事業グループの社長兼最高経営責任者を務めた。コテ女史は、1988年にアルカン・インクに加わり、26年間に及ぶキャリアの中で次第に様々な上級管理職を務めた。コテ女史は、セント・ジャスティン・ユー・エイチ・シー財団およびアロプロフの理事長である。同女史は、ラバル大学で理学士号を取得している。

2020年10月31日現在、コテ女史は当行の普通株式を2,000株保有していた。

トゥース・N・ダルヴァラ、米国、ニューヨーク州、ニューヨーク、65歳

ダルヴァラ氏は、2015年1月1日付で取締役に指名された。ダルヴァラ氏は、MI0パートナーズ・インク（マッキンゼー・アンド・カンパニーの社内資産管理・運用部門）の共同最高経営責任者である。同氏は、2015年の退任後、2016年にはマッキンゼー・アンド・カンパニーの上級顧問兼名誉取締役を務めた。同氏は、33年間のマッキンゼーでの在任中に戦略的事項から業務的事項に至るまで幅広いアドバイスを金融機関に対して行い、アメリカにおけるマッキンゼーのリスク管理および銀行・証券実務を牽引した。同氏は、ミシガン大学ロス・スクール・オブ・ビジネスの諮問委員会およびニューヨーク・フィルハーモニックの理事会の一員である。同氏は、コロンビア大学ビジネス・スクールの非常勤教授およびエグゼクティブズ・イン・レジデンスの一員である。ダルヴァラ氏は、ミシガン大学でMBAを取得し、またインド工科大学で電気工学士号を取得している。

2020年10月31日現在、ダルヴァラ氏は当行の普通株式を1,479株保有していた。

デビッド・F・デニソン、O.C.、FCPA、FCA、カナダ、オンタリオ州、トロント、68歳

デニソン氏は、2012年8月29日から当行の取締役会の一員を務めている。デニソン氏は、エレメント・フリート・マネジメント・コーポレーション（グローバルなフリート管理解決会社）の取締役会議長である。同氏は、2005年から2012年までカナダ年金制度投資委員会の委員長兼最高経営責任者を務めた。これらの役職に就任する以前は、同氏は、フィデリティ・インベストメンツ・カナダ・リミテッドの社長であった。同氏は、ベル・カナダの取締役およびザ・カナディアン・ビジネス・ホール・オブ・フェイムの代表を務めている。さらに同氏は、シンガポール政府投資公社の名誉顧問であり、トロント大学の投資委員会の共同委員長でもある。デニソン氏は、トロント大学で数学および教育学の学士号を取得している。同氏は、公認職業会計士およびオンタリオ州公認職業会計士協会の会員である。同氏は、カナダ勲章のオフィサー級受章者である。

2020年10月31日現在、デニソン氏は、当行の普通株式を1,207株保有していた。

シンシア・デヴィーン、カナダ、オンタリオ州、トロント、56歳

デヴィーン女史はメープル・リーフ・スポーツ・アンド・エンタテインメント（プロスポーツおよびエンタテインメント会社）の最高財務責任者である。それ以前は、2015年から2017年までリオカン不動産投資信託のエグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント、最高財務責任者兼コーポレート・セクレタリーを務め、2003年から2014年までティム・ホートンズ・インクの最高財務責任者を務めた。デヴィーン女史は、ソービーズ・インクの取締役であり、ウェスタン大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスの諮問委員会の一員およびノース・ヨーク総合病院の理事会の一員である。デヴィーン女史は、ウェスタン大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスでビジネス管理の名誉学位を取得しオンタリオ州公認職業会計士協会の会員でもある。

2020年10月31日現在、デヴィーン女史は当行の普通株式を11,845株保有していた。

アリス・D・ラベルジュ、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー、64歳⁽¹⁾

ラベルジュ女史は、2005年10月18日から当行の取締役会の一員を務めている。ラベルジュ女史は企業取締役である。同女史は、フィンセントリック・コーポレーションの社長兼最高経営責任者兼取締役を2005年まで務め、これまでマクミラン・ブローデル・リミテッドの最高財務責任者兼財務担当上級副社長であった。ラベルジュ女史は、BCキャンサー基金の取締役およびカナダ公共会計責任委員会の理事である。ラベルジュ女史は、ブリティッシュ・コロンビア大学でMBAおよびアルバータ大学で理学士号を取得している。

2020年10月31日現在、ラベルジュ女史は当行の普通株式を5,000株保有していた。

⁽¹⁾ アリス・D・ラベルジュは、2021年1月2日付で当行の取締役を退任した。

マイケル・H・マッケイン、カナダ、オンタリオ州、トロント、62歳⁽¹⁾

マッケイン氏は、2005年10月18日から当行の取締役会の一員を務めている。マッケイン氏は、メープル・リーフ・フーズ・インク（食品加工会社）の社長兼最高経営責任者であり、マッケイン・キャピタル・インクならびに依存症および精神衛生基金研究所の理事を務めている。同氏はまた、カナダビジネス評議会の一員であり、メープル・リーフ・センター・フォー・アクション・オン・フード・セキュリティの名誉会長を務めており、ウェスタン大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスの諮問委員会の一員でもある。マッケイン氏はウェスタン大学で名誉経営学士号を取得している。

2020年10月31日現在、マッケイン氏は当行の普通株式を15,063株保有していた。

⁽¹⁾ マイケル・H・マッケインは、2021年4月8日付で当行の取締役を退任した。

デビッド・I・マッケイ、カナダ、オンタリオ州、トロント、57歳

マッケイ氏は、2014年8月1日から当行の取締役会の一員を務めている。マッケイ氏は、ロイヤル・バンク・オブ・カナダの総裁兼最高経営責任者である。2014年の任命前は、2012年から2014年までパーソナル&コマーシャル・バンキングのグループ最高責任者を務め、2008年から2012年までカナディアン・バンキングのグループ最高責任者であった。マッケイ氏は、RBCでのキャリアを1988年にスタートし、革新的な上級役職を務めるようになった。同氏は、カタリスト・カナダ・アドバイザリー・ボード、カナダビジネス評議会およびビジネス評議会（米国）の一員でもある。同氏はまた、ビジネス+高等教育ラウンドテーブルの取締役会議長でもある。マッケイ氏は、ウェスタン大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスでMBAを取得しており、またウォータールー大学で数学の学士号を取得している。

2020年10月31日現在、マッケイ氏は当行の普通株式を39,521株保有していた。

ヘザー・ムンローブラム博士、O.C.、O.Q.、博士号、FRSC、カナダ、ケベック州、モントリオール、70歳
(1)

ムンローブラム博士は、2011年6月17日から当行の取締役会の一員を務めている。ムンローブラム博士は、カナダ年金制度投資委員会の理事長である。同女史は、マギル大学の名誉プリンシパルおよび副総長であり、2003年から2013年までプリンシパルおよび副総長を務めた。同女史は、それ以前は、トロント大学の副学長（研究および国際関係）を務めた。同女史は、カナダ・ガードナー基金の理事長であり、マギル大学のタネンバウム開放科学研究所の指導者評議会の共同議長であり、スタンフォード大学行動科学高等研究センターの理事長である。同女史は、トライラテラル・コミッションの一員である。またムンローブラム博士は、チャペル・ヒルのノースカロライナ大学で疫学において博士号を取得した。同女史は、ウィルフリッド・ローリエ大学で社会活動学修士号ならびにマクマスター大学で文学士号および社会活動学士号を取得した。同女史は、カナダ勲章のオフィサー級受章者、ケベック勲章のオフィサー級受章者およびカナダ王位協会の特別会員である。

2020年10月31日現在、ムンローブラム博士は当行の普通株式を1,660株保有していた。

- (1) ヘザー・ムンローブラム博士は、2021年4月8日付で当行の取締役を退任した。

キャスリーン・P・テイラー、カナダ、オンタリオ州、トロント、63歳

テイラー女史は、2001年11月20日から当行の取締役会の一員を務めている。テイラー女史はロイヤル・バンク・オブ・カナダの取締役会議長である。同女史は、フォー・シーズンズ・ホテルズ・アンド・リゾーツの前社長兼最高経営責任者であり、1989年から2013年まで様々な上級管理職を務めた。同女史はまた、アトラス・パートナーズ・エルエルピーの理事長であり、カナダ年金制度投資委員会の理事である。同女史は、シックキッズ基金の理事、ホスピタル・フォー・シック・チルドレンの理事会メンバーならびにマギル大学の学長の国際諮問委員会およびヨーク大学のシュールリック・スクール・オブ・ビジネスの学部長諮問評議会の一員である。同女史は、トレント大学のスクール・オブ・ビジネスにおいてCEOイン・レジデンスでもある。テイラー女史は、シュールリック・スクール・オブ・ビジネスでMBA、オズグッド・ホール・ロースクールで法律の学位ならびにトロント大学で名誉文学士号を取得している。カナダ勲章のメンバー級受章者である。

2020年10月31日現在、テイラー女史は当行の普通株式を31,640株保有していた。

マリアン・ターケ、米国、ニューヨーク州、ニューヨーク、55歳

ターケ女史は、2020年1月1日から当行の取締役会の一員を務めている。ターケ女史は、ブルックフィールド・インフラストラクチャー・パートナーズL.P.の上級顧問である。同女史は、ナショナル・フットボール・リーグ（NFL）の上級顧問でもあり、2018年から2020までは最高執行責任者を務め、それ以前に同女史は、NFLネットワークの会長であった。2017年にNFLへ入社する以前、ターケ女史は、ベル・カナダで様々な上級指導者の職を12年間務めた後に、ベル・メディアの社長であった。同女史は、クイーンズ大学のスミス・スクール・オブ・ビジネスの諮問委員会の委員長を務めている。ターケ女史は、クイーンズ大学でMBAおよび土木工学士号ならびにトロント大学で工学修士号を取得している。

2020年10月31日現在、ターケ女史は当行の普通株式を1,000株保有していた。

ブリジット・A・ヴァンクラリンゲン、米国、ニューヨーク州、ニューヨーク、57歳

ヴァンクラリンゲン女史は、2011年6月17日から当行の取締役会の一員を務めている。ヴァンクラリンゲン女史は、IBMコーポレーション（情報技術会社）のグローバル・マーケティングの上級副社長であり、同女史は、IBMの世界中の収益、利益、事業開発および顧客満足度に責任を負う。同女史は、2004年にIBMに入社後、グローバル・インダストリーズ、プラットフォームおよびブロックチェーンの上級副社長、IBMグローバル・ビジネス・サービスの上級副社長、IBM北米支店のゼネラル・マネジャーを含む様々な役職を務めている。同女史は、IBMに入社する前、米国デロイト・コンサルティングの金融サービス部門のマネージング・パートナーであった。同女史は、ニューヨーク歴史協会の理事会メンバーおよびニューヨーク市のパートナーシップの理事会メンバーである。ヴァンクラリンゲン女史は、南アフリカ大学で産業および組織心理学における商学修士号、南アフリカのウィットウォーターズランド大学で商学士号ならびにヨハネスブルグ大学で名誉商学士号を取得している。

2020年10月31日現在、ヴァンクラリンゲン女史は当行の普通株式を1,582株保有していた。

ティエリー・バンドル、米国、ニューヨーク州、ママロネック、60歳

バンドル氏は、2015年7月8日から当行の取締役会の一員を務めている。バンドル氏は、アクシウム・インフラストラクチャー・US・インク（投資管理会社）の社長である。同氏は、2005年から2015年に退任するまで、ハイドロ・ケベック電力公社の総裁兼最高経営責任者を務めた。同氏は、HECモントリオール校の国際諮問委員会に従事した。同氏は、マギル大学の名誉理事および学長の国際諮問委員会の委員を務めている。同氏はまた、カナダ工学アカデミーの一員でもある。バンドル氏は、HECモントリオール校で財政におけるMBAおよびモントリオール理工科大学で工学の学位号を取得している。

2020年10月31日現在、バンドル氏は当行の普通株式を1,178株保有していた。

フランク・ヴェテッシ、カナダ、オンタリオ州、トロント、57歳

ヴェテッシ氏は、2019年7月10日付で取締役役に指名された。ヴェテッシ氏は、2012年からデロイト・カナダのマネージング・パートナー兼最高経営責任者を務め、2007年から2019年6月に退任するまで、デロイトのグローバル・エグゼクティブの一員であった。デロイトでのキャリアを通して、ヴェテッシ氏は、アメリカ執行委員会の委員長および財務顧問のグローバル・マネージング・パートナーを含む上級職の一員を務めた。同氏は、2016年から2019年まで、デロイト・カナダの最高包括責任者も務めた。同氏は、ホスピタル・フォー・シック・チルドレンの理事の一員であり、デビッド・コーンフィールド・メラノーマ基金の取締役およびリドー・ホール基金の取締役、カナダのカタリストにあるデロス・リビング・エルエルシーの諮問委員ならびにヨーク大学のスクラッチ・スクール・オブ・ビジネスの学部長の諮問委員を務めている。ヴェテッシ氏は、ヨーク大学のスクラッチ・スクール・オブ・ビジネスでMBAおよび経営学士号を取得している。

2020年10月31日現在、ヴェテッシ氏は、当行の普通株式9,570株を保有していた。

ジェフリー・ヤブキ、米国、ウィスコンシン州、ブルックフィールド、60歳

ヤブキ氏は、2017年10月19日から当行の取締役会の一員を務めている。ヤブキ氏は、企業取締役である。同氏は、スポーツトレーダー・エージ（スポーツ・エンタテインメント商品およびサービスのグローバルなプロバイダー）の会長である。同氏は、2005年から2019年まで、ファイサーブ・インクの社長兼最高経営責任者であり、2020年7月まで会長兼最高経営責任者を務め、2020年12月の退任まで会長を務めた。ファイサーブに入社する以前に、同氏は、1999年に入社したH&Rブロック・インクの執行副社長兼最高執行責任者を務めた。それ以前に同氏は、アメリカン・エクスプレスの上級役員として12年間勤めた。同氏は、金融サービスの持株会社である、イクソニア・バンチャーズ・インクの取締役会の一員を務めている。同氏は、ミルウォーキー美術館の理事会の一員も務めている。カリフォルニア州州立大学で理学士号（経営学および会計）を取得しており、以前は公認会計士の資格を有していた。

2020年10月31日現在、ヤブキ氏は当行の普通株式を6,900株保有していた。

(ii) 執行役員

以下は、本書提出日現在の執行役員の氏名、略歴および2020年10月31日現在、それぞれの執行役員が直接もしくは間接を問わず、実質的に所有または支配もしくは管理しているロイヤル・バンク・オブ・カナダの普通株式の数を示したものである。

デビッド・I・マッケイ、総裁兼最高経営責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、57歳

デビッド・マッケイ氏は、カナダ最大の銀行であり、時価総額に基づき世界最大手の1行であるRBCの総裁兼CEOである。革新の確固たる擁護者であり、大きなアイデアおよび創造性を有するマッケイ氏は、顧客のために洞察力およびデータの権限を引き出すことに役立つ人工知能と機械学習へのRBCの投資を支える指導的な存在である。同氏の地元市場では、RBC Future Launch（若い人たちが変化する世界において成功するために必要なスキルを高めることを支援する10年間で500百万ドル規模の取組み）の支援および開発を通して、カナダの将来の繁栄および将来の仕事のために若者を育てることを熱心に支援している。

マッケイ氏は、1983年にコンピュータープログラミングの協力学生としてRBCに入行した後、RBCのリテール銀行部門に異動した。同氏は、2008年にカナディアン・バンキングのグループ最高責任者となった。当該部門を率いた任期中、マッケイ氏は、銀行のリテール業務の改革ならびにRBCが急速に変化する消費者の要求に応じ、かかる要求に合わせて進化できるようにした新技術の導入に役立った。

2014年に総裁兼CEOに任命された直後に、同氏は、シティ・ナショナル・コーポレーションの買収を指揮し、米国の機関顧客、法人顧客および富裕層顧客とともに拡大するためのプラットフォームを構築した。

マッケイ氏は、ウォータールー大学で数学の学士号および名誉数学博士号を取得している。同氏はまた、ウェスタン・オンタリオ大学のリチャード・アイヴィー・スクール・オブ・ビジネスでMBAおよび名誉法学博士号ならびにライアソン大学で名誉学位を取得している。同氏は、カナダビジネス評議会の一員および取締役であり、米国ビジネス評議会の一員である。マッケイ氏はまた、カタリスト・カナダ・アドバイザーズボードに従事し、職場と教室をより良く結びつける方法を見つけるために、カナダのトップ・ビジネス、大学およびカレッジを一緒にする、ビジネス・高等教育ラウンドテーブルの委員長である。

2020年10月31日現在、マッケイ氏は当行の普通株式を39,520株保有していた。

ロッド・ボルジャー、最高財務責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、54歳

最高財務責任者として、ロッド・ボルジャー氏はファイナンス、税務、業績管理、インベスター・リレーション、コーポレート・トレジャリーおよび法務グループに従事している。同氏は、その他のグループ・エグゼクティブのメンバーとともに、RBCの全般的な戦略の方向性を定める責任を負っている。さらに、ボルジャー氏はRBCの資産負債委員会の議長を務める。

現在の役職に就く前、ボルジャー氏は、RBCのファイナンス&管理部門のエグゼクティブ・ヴァイス・プレジデントを務めた。2011年、ボルジャー氏は、バンク・オブ・アメリカおよびシティグループにおける上級職を通じた金融サービスに関する豊富なリーダーシップ経験を経て、RBCに入行した。それ以前は、米国および英国のプライスウォーターハウスクーパースに10年以上勤めた。

ボルジャー氏は、トロントにある複数のコミュニティに対して多岐にわたる支援プログラムおよびサービスを提供するマルチ・サービスの非営利機関であるディクソン・ホール・ネイバーフッド・サービスズの会長を務めている。同氏は、トロントにある女子校のブランクサム・ホールの理事会でもある。

同氏は、ワシントンD.C.のジョージタウン大学で会計の学士号を取得している。また同氏は、ニューヨーク市のコロンビア大学でMBAを取得した。同氏は、1991年にニュージャージー州においてCPA（インアクティブ）を取得した。

2020年10月31日現在、ボルジャー氏は当行の普通株式を6,578株保有していた。

マイケル・ドビンズ、最高ストラテジー&コーポレート・ディベロップメント責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、52歳

ドビンズ氏は、RBCのグループ・エグゼクティブの一員として、RBCの全般的な戦略の方向性を定め、全般的な戦略を発展させている。ドビンズ氏は、合併および買収に対してリーダーシップを提供し、データ、セキュリティおよび顧客経験における発展に注力するRBCのイノベーション研究所と協力する責任を負う、RBCのイノベーション審議会の議長を務めている。また、ドビンズ氏は、RBC・バンク・U.S.の会長を務め、シティ・ナショナル・バンクの取締役でもある。

ドビンズ氏は、顧客の生活の中でRBCが果たす役割の再考に焦点を当てている、RBCベンチャーズの創設者である。RBCベンチャーズは、2018年以降、15以上の新規事業を開発および立ち上げ、4つの事業を買収し、積極的に投資を行い、パートナーシップを構築し、差別化された価値を顧客に提供している。

現在の役職に就く前、RBC最大のバンキング部門であるパーソナル・フィナンシング・プロダクツおよびパーソナル&コマーシャル・バンキングにおける米国銀行戦略のエグゼクティブ・ヴァイス・プレジデントを務めた。

ドビンズ氏は、2010年、消費者バンキング部門のエグゼクティブ・ヴァイス・プレジデントを務めていた米国のキャピタル・ワンを経てRBCに入行した。また、ドビンズ氏は、チャーター・ワン・バンクおよびシティバンクにおける25年のキャリアのなかで、管理職を歴任した。ドビンズ氏は、デラウェア大学で学位を取得している。

ドビンズ氏とその家族は、ライト・トゥ・プレイおよびその他地元の慈善団体を積極的に支援している。ドビンズ氏はフューチャープレナース・カナダの理事会の一員でもある。ドビンズ氏、妻のニッキーと2人の息子はトロントに住んでいる。

2020年10月31日現在、ドビンズ氏は当行の普通株式を5,029株保有していた。

ヘレナ・ゴシュリング、最高人事責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、59歳

RBCの最高人事責任者であるヘレナ・ゴシュリング女史は、人事に関するグローバルな職責を担っている。ゴシュリング女史は、RBCの全般的な戦略の方向性を定める責任を負う、RBCの10名のグループ・エグゼクティブの一員である。

ゴシュリング女史は1985年にRBCに入行し、リテール・バンキング、人事および国内官庁において上級職（バンクーバー、カルガリーおよびトロントでの配属を含む。）を歴任した。2006年に人事部門に復帰し、複数の管理職を務めた後、2017年にCHROに任命された。

現在の役職に就く前は、幹部や潜在能力が高い人材の管理（リーダーシップの養成および承継計画を含む。）について責任を負う人事部門のシニア・ヴァイス・プレジデントであった。RBCのグループ学習機能および変革管理や組織設計をサポートする専門知識を集積する組織効率性センターも担当した。また、テクノロジー&オペレーションズおよびグローバル・ファンクションズをサポートする人事部門のビジネス・チームを指揮した。

ゴシュリング女史は、RBCでの34年間に信頼できるアドバイザー、変化の支持者、従業員の熱心な擁護者—RBCの従業員の潜在能力の開発および世界中で選ばれるトップエンプロイヤーとしてのブランドの強化に貢献するリーダーシップの資質—として注目された。

ゴシュリング女史は、RBCの記録的な2016年全国従業員寄付キャンペーンの共同代表を務め、カナダの地域社会の繁栄に貢献するために職務範囲を超えて個人寄付を行うことを従業員に奨励した。青少年糖尿病調査財団（JDRCF）のライド・フォー・リサーチ（研究支援活動）を長年支援しており、現在カナダのJDRCFの理事を務めている。同女史はまた、C.D.ハウ・インスティテュートのプラン・インターナショナルおよび人的資本政策審議会の理事会メンバーである。ゴシュリング女史は、ザ・モザイク・インスティテュートの元理事会メンバーでもある。

ゴシュリング女史は、ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバーにあるサイモン・フレーザー大学で経営学学士号を取得している。

ゴシュリング女史は結婚して1人の息子がおり、カナダ、オンタリオ州、オークビルに住んでいる。

2020年10月31日現在、ゴシュリング女史は当行の普通株式を15,113株保有していた。

ダグラス・A・グスマン、RBCウェルス・マネジメント部門、RBCインシュアランス部門およびRBCインベスター&トレジャリー・サービス部門のグループ最高責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、56歳

RBCウェルス・マネジメント部門、RBCインシュアランス部門およびRBCインベスター&トレジャリー・サービス部門のグループ最高責任者として、グスマン氏は、富裕層の顧客の資産管理ニーズをグローバルに満たすRBCの業務ならびに資産管理および信託商品を提供するチームを指揮している。同氏はまた、個人、法人および団体の顧客に対して広範な保険、資産および再保険のソリューションを提供するRBCインシュアランス部門を監督している。さらに、他のグループ・エグゼクティブとともに、グスマン氏は、RBCの全般的な戦略の方向性を定める責任を負っている。

この任命の前、グスマン氏は、マネージング・ディレクターならびに当行のグローバルなインベストメント・バンキング・チームおよび米国の都市財政に責任を負っているグローバル・インベストメント・バンキング、RBCキャピタル・マーケットの責任者であった。同氏は、RBCキャピタル・マーケットの多くの最重要顧客に対する上位顧客の補償の責任を負っており、当行の経営委員会およびローン・コミットメント委員会の一員であった。

2005年にRBCに入行する前、同氏は、ニューヨークおよびトロントのゴールドマン・サックスにおいてマネージング・ディレクターであったが、同社で同氏は、グローバル金属・鉱業事業およびカナディアン・インベストメント・バンキング事業のそれぞれに責任を負って、共同指揮していた。

同氏は、セント・ミカエル病院の理事会およびウェスタン大学のアイヴィー・ビジネス・スクールの諮問委員会の一員である。

グスマン氏は、アイヴィーでHBA、ハーバード・ビジネス・スクールでMBA（ベーカー・スカラー）を取得している。同氏は、結婚して2人の子供がおり、カナダのトロントに住んでいる。

2020年10月31日現在、グスマン氏は当行の普通株式を4,909株保有していた。

グレアム・ヘップワース、最高リスク責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、48歳

当行の最高リスク責任者として、グレアム・ヘップワース氏は、企業全体ベースでリスクの戦略的管理を監視している。同氏は、RBCの全体的な戦略指示の指揮を執るグループ・エグゼクティブの一員である。同氏は、2018年に最高リスク責任者に就任した。

ヘップワース氏は、1997年にグループ・リスク管理のアナリストとしてRBCに入行し、外国為替商品に注力している。2001年、同氏はローン・ポートフォリオのリスク分析、経済資本および経済方針に注力した、GRMのポートフォリオ管理チームの副主任の役職に就いた。ヘップワース氏は、米国におけるキャピタル・マーケットの取引業務に対する市場リスク部門の責任者として、2004年にニューヨークに転勤した。2011年、ヘップワース氏は、ヨーロッパ&アジア事業の最高リスク責任者としてロンドンに転勤した。

直近でヘップワース氏は、エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント、リテール&コマーシャル信用リスク部門に在籍し、RBCのインシュアランス、ウェルス・マネジメントおよびパーソナル&コマーシャル・バンキング（P&CB）に対して初期のリスク管理サポートを提供する数々のチームを率いた。

ヘップワース氏は、公認財務アナリストの資格を有し、ウォータールー大学で数学修士号を取得している。

2020年10月31日現在、ヘップワース氏は、当行の普通株式を842株保有していた。

クリストフ・ノース、最高管理および戦略責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、52歳

クリストフ・ノース氏は、最高管理および戦略責任者として、企業戦略、ブランド、マーケティング、コミュニケーション、シチズンシップ、グローバル調達、企業不動産ならびにデータ戦略およびチーフ・データ・オフィスを世界的に担当している。また、RBCの将来に向けた生産性および効率性等の重要な企業機能を近代化し拡張するため、RBCにおける戦略および変革イニシアチブにおいてリーダーシップと見識を提供している。RBCのその他のグループ・エグゼクティブとともに、ノース氏はRBCの全般的な戦略の方向性を定める責任を負っている。

ノース氏は、デジタルおよびデータの戦略および変革、ビジネス・モデルおよびオペレーティング・モデルの変更、技術運用の近代化および企業全体のコストと生産性の改善に関し、20年を超えて大手金融機関と提携し助言を行ってきた経験を有する熟練の執行役員である。RBCへの入行以前、ノース氏は、マッキンゼーのパートナーとしてコア・テック変革チームおよびアジャイル変革チームを牽引し、オリバー・ワイマンのパートナーとしてデジタル、技術および分析の実務を世界規模で指揮した。精力的な指導者であるノース氏は、RBCを含む多数の金融機関において、デジタル、ソフトウェア開発、技術変革およびオペレーションの暫定的な執行役員としての職務にも従事している。

ノース氏は、革新管理およびバリューチェーン・パートナーシップにおける功績が評価されており、サービスが十分に行き届いていない地域に住む家族のために幼児期の識字能力を育成する非営利団体ペアレント・チャイルド+の支援者でもある。

これまでのキャリアにおいて、ノース氏は、ヨーロッパ、アメリカ、中東およびオーストラリアの各組織に従事している。同氏は、ドイツのダルムシュタット大学でMBA/MSと同等の学位を取得している。ノース氏は、結婚して1人の子供がいる。

2020年10月31日現在、ノース氏は当行の普通株式を保有していなかった。

ネイル・マクローリン、パーソナル&コマーシャル・バンキングのグループ最高責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、51歳

ネイル・マクローリン氏は、パーソナル&コマーシャル・バンキングのグループ最高責任者として、RBCの売上および支店配分、オペレーションおよびアドバイス・センターに加えて、パーソナル&コマーシャル・フィナンシャル・サービス、クレジットカードおよび支払、デジタル・ソリューションを含むカナダおよびカリブ海地域におけるRBCのバンキング事業に対して責務を負っている。他のグループ・エグゼクティブとともに、RBCの全般的な戦略の方向性を定める責任を負っている。

現在の役職に就く直前には、RBCのカナディアン・バンキング部門のビジネス・フィナンシャル・サービス担当エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデントとして、戦略の方向性を定めるとともに、広範な事業金融ネットワークを通じて中小企業および商業顧客にサービスを提供するすべての事業ラインを指揮する責任を負っていた。

マクローリン氏は1998年にRBCに入行し、カナディアン・バンキングにおいて多岐にわたる上級管理職（クレジットカードおよび個人向けローンの各事業ラインならびに販売および運営上の役割を含む。）を歴任した。また、ブランド、マーケティング、広告およびスポンサーシップを指揮する役割を担うマーケティング&チャンネル・ストラテジーのシニア・ヴァイス・プレジデントを務め、デジタル・チャンネル、物理的な販売ネットワーク、顧客に関する知識・判断および顧客情報管理チームについて直接的な責任を負っていた。マクローリン氏は、与信判断、詐欺、取立、オペレーショナル・リスクおよびコマーシャル・アドバイザリー・グループについて責任を負うカナディアン・バンキング業務におけるリスク・オペレーションのシニア・ヴァイス・プレジデントも務めた。

2020年、マクローリン氏はカナダ銀行協会の執行理事会議長に任命され、現在はチルドレンズ・ウィッシュ財団オンタリオ支部の理事である。マクローリン氏は、商学士号およびMBAを取得している。妻と2人の子供とともにトロントに住んでいる。

2020年10月31日現在、マクローリン氏は当行の普通株式を6,991株保有していた。

デリク・ネルドナー、RBCキャピタル・マーケットの最高執行責任者兼グループ最高責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、47歳

RBCキャピタル・マーケットの最高経営責任者兼グループ最高責任者およびRBCのグループ・エグゼクティブの一員として、デリク・ネルドナー氏は、同社を世界的に監督し、キャピタル・マーケット経営委員会とともに、世界中の従業員が行うRBCのコルポレート&インベストメント・バンキング業務およびグローバル・マーケット業務の包括的戦略を策定する。

現在の役職に就く前、ネルドナー氏は、インベストメント・バンキングのグローバル・ヘッドを務めた。同氏は、1995年からRBCに勤め、RBCのエネルギー・インベストメント・バンキング業務を数年にわたり主導するなど、インベストメント・バンキングのあらゆる側面に従事している。

同氏は、ホスピタル・フォー・シック・チルドレン（シックキッズ）基金の理事会メンバーであり、トロントおよびヨーク地域ユナイテッド・ウェイのメジャー個人寄付キャンペーン諮問委員会の委員である。

ネルドナー氏は、アルバータ大学で金融学の商学士号を取得し、公認財務アナリストの資格を有している。

2020年10月31日現在、ネルドナー氏は当行の普通株式を12,907株保有していた。

ブルース・ロス、テクノロジー&オペレーションズのグループ最高責任者、カナダ、オンタリオ州、トロント、58歳

ブルース・ロス氏は、RBCのテクノロジー&オペレーションズのグループ最高責任者として、RBCの5つの事業（アプリケーション開発、インフラおよび企業経営を含む。）のグローバル・テクノロジーおよびグローバル・オペレーションズの戦略および全般的な経営管理に従事している。グループ・エグゼクティブの一員として、ロス氏は、カナダ最大の銀行の全般的な戦略の方向性を定める責任を負っている10名の執行役員のうちの1人である。同氏はまた、グループ経営委員会の一員でもあり、当行全体の経営を統括する責任を負っている。

2014年に入社して以降、ロス氏は、変革的な技術戦略の指揮を執り、デジタル対応リレーションシップ・バンクの第1位を目指すというRBCの目標を実現に向けて重要な役割を果たしている。同氏は、RBCの主要な課題を推進するため、一流の技術人材への投資に熱心である。これらには、顧客価値を高めるためのデータおよび洞察の活用、大規模かつ革新的な技術計画の実施、世界水準のサイバー・セキュリティ戦略によるRBCおよび顧客の安全性の維持ならびに新興技術への投資が含まれる。

ロス氏は、テクノロジーおよび経営分野において30年を超える経験を有する熟練の指導者である。RBCへの入行以前、同氏は、IBM北米支店グローバル・テクノロジー・サービスズ部門のゼネラル・マネジャーであった。同氏は、戦略および遂行チームの一員として、組織の長期的な経営および事業の方向性を促進した。在職期間中、ロス氏は、IBMの様々な国際的主要市場で上級職を歴任し、金融機関に対し堅固なリーダーシップおよび戦略的顧問をグローバルに提供している。主要な役職は、ヨーロッパ支店のグローバル・テクノロジー・サービスズ部門のゼネラル・マネジャー、IBMカナダ支店のゼネラル・マネジャーおよび支店長を含む。

ロス氏は、専門技術者であり、ウェスタン・オンタリオ大学を卒業している。同氏は、ユナイテッド・ウェイなどのカナダの様々なビジネスおよびコミュニティ組織の一員として活動しており、インターナショナル諮問委員会およびウェスタン・オンタリオ大学の理事会メンバーを務めている。

2020年10月31日現在、ロス氏は当行の普通株式を4,460株保有していた。

② 役員の報酬等

当グループの報酬方針

経験豊富、専心的かつ有能な取締役は、戦略目標の達成ならびに経営陣に対する効果的な指導および監督を提供するために必要不可欠である。

ガバナンス委員会は、取締役報酬に対して責任を有し、以下を考慮して年に1回非常勤取締役報酬の金額およびその形式を検討する。

- ・RBCの規模、複雑性、地理的範囲
- ・取締役に期待される時間的責務
- ・求められる全般的な専門知識および経験
- ・正当かつRBCに特に優秀な取締役を引き付けるのに十分な報酬の必要性
- ・取締役と株主の間の利益の一致

決定プロセス

ガバナンス委員会は、業界のベスト・プラクティスに照らして、また、RBCと類似した規模、複雑性および地理的範囲の企業（金融機関を含む。）からなるカナダの主要な比較対象グループを参考にして、取締役報酬の形態および競争力を評価する。同委員会は、規模、複雑さ、事業構成、母国以外での事業規模、財務状況が類似している、米国および国際金融機関のより広範な参照対象グループについても検討を行う。

カナダの比較対象グループ	
金融機関	金融機関以外
バンク・オブ・モントリオール	BCE
バンク・オブ・ノバ・スコシア	カナディアン・ナショナル鉄道
カナディアン・インペリアル・バンク・オブ・コマー	エンブリッジ
マニユライフ・ファイナンシャル	ニュートリエ
サンライフ・ファイナンシャル	サンコー・エナジー
トロント・ドミニオン・バンク	TCエナジー

米国および国際参照対象グループ	
米国金融機関	国際金融機関
バンク・オブ・アメリカ	ANZバンキング・グループ
シティグループ	コモンウェルス・バンク・オブ・オーストラリア
JPモルガン・チェース・アンド・コー	ナショナル・オーストラリア・バンク
PNCファイナンシャル	ウェストパック・バンキング・コーポレーション
USバンコープ	
ウェルズ・ファーゴ	

報酬構造

当グループは、効果的かつ透明性のある報酬構造を信頼している。各非常勤取締役は、当該年度中の責務、参加および作業（2つの取締役会委員会への所属を含む。）に対する一定の年間報酬が支払われる。取締役会議長および委員会委員長は、それぞれ追加報酬を受領する。

取締役はまた、RBCの要請により、取締役会、委員会およびその他の会議または業務に出席するために要した旅費およびその他の費用の払い戻しを受ける。

2020会計年度は、RBCの取締役に対して以下のとおり報酬が支給された。

年間報酬	(ドル)
取締役	300,000
取締役会議長	275,000
委員会委員長	50,000

RBCの社長兼最高経営責任者（CEO）としてのデビッド・マッケイ氏は、取締役報酬を受領しない。

非常勤取締役は、ストック・オプションを受領せず、RBCの年金制度に参加しない。

報酬の変更なし

2021年度において、推奨または承認された変更はない。

取締役および株主の利益の合致

取締役会は、下記の3つの措置により当グループの取締役と株主の利益を効果的に合致させることができると考えている。

1. 株式所有要件

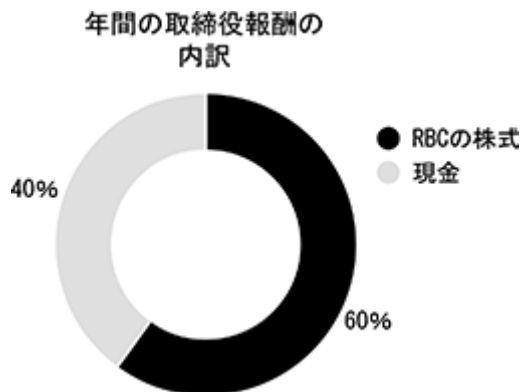
2020会計年度中、取締役は、取締役会の一員となってから5年以内に、総額で少なくとも1,200,000ドルまたは取締役員報酬の合計の4倍に相当するRBCの株式資本を保有しなければならない。当該投資の一部として、取締役は少なくともRBCの普通株式1,000株を所有しなければならない。

2. 取締役員報酬の投資

取締役のRBCの株式資本への投資は、取締役向け株式購入制度（RBCの普通株式向け）および取締役向け劣後株式ユニット制度（取締役向け劣後株式ユニットまたはDDSU向け）を通じて促進される。DDSUはRBCの普通株式と同等の価値を有する想定単位である。DDSUは、取締役により充当または償還された場合、その価値は、TSXのRBCの普通株式の直前の5取引日の平均終値を用いて計算される。

取締役は、年間取締役員報酬の株式部分のうち少なくとも60%（2020会計年度は180,000ドル）をRBCの普通株式またはDDSUに投資しなければならない。取締役が少なくともRBCの普通株式1,000株を所有するまで、取締役員報酬の株式部分は株式にて支払われる。株式は市場価格で購入される。取締役は、年間取締役員報酬の現金部分のうち最大100%をDDSUまたは株式に投資することができる。取締役は取締役会を退任しない限り、年間取締役員報酬の株式部分で購入した株式の売却またはDDSUの償還をすることはできない。

2020年11月1日以降、取締役会議長は、年間取締役会議長報酬のうち少なくとも40%（2021会計年度は110,000ドル）をRBCの普通株式またはDDSUに投資しなければならない。取締役会議長は、取締役会を退任しない限り、年間取締役役員報酬もしくは年間取締役会議長報酬の株式部分で購入した株式の売却またはDDSUの償還をすることはできない。



3. RBCの証券の取引およびヘッジに関する制限

取締役は、以下の行為をすることができない。

- ・直接または間接を問わず、所有していないRBCの証券またはその対価の全額を支払っていないRBCの証券の売却（空売り）
- ・直接または間接を問わず、RBCの証券についてのコールもしくはプットの購入または売却
- ・RBCの証券についてコールもしくはプットの購入または売却と同等の影響を生じさせる株式の現金化取引の実行、またはRBCの証券の市場価値の減少をヘッジまたは相殺するよう設計されたその他の金融商品取引の実行

子会社の取締役会の構成員に対する報酬

非常勤取締役は、RBCの子会社の取締役を務めることを求められる場合があり、サービスの対価が支払われ、旅費およびその他の経費を払い戻される。チザム氏は、当グループの米国の中間持株会社である、RBC USグループ・ホールディングス・エルエルシーにおいて、取締役を務めている。2020会計年度中、チザム氏に対して、取締役役員報酬135,000米ドルの按分額が支払われ、報酬をDDSUにて受領した。

取締役報酬表

下表は、2020会計年度における非常勤取締役に対して支払われた報酬総額を表示したものである。あらゆる立場で会計年度の一部の職務を行う取締役は、按分に基づく報酬を受けた。

2020年度を通して、取締役はその報酬の87%を株式にて受領した。

取締役	受取報酬 (ドル)	その他の報酬すべて (ドル)	合計 (ドル)	RBCの報酬の割当て (ドル)	
				株式/DDSU	現金
A・チザム ⁽¹⁾	300,000	179,793	479,793	479,793	-
J・コテ ⁽²⁾	350,000	-	350,000	350,000	-
T・ダルヴァラ ⁽³⁾	350,000	-	350,000	350,000	-
D・デニソン ⁽⁴⁾	308,334	-	308,334	308,334	-
C・デヴィーン ⁽⁵⁾	75,000	-	75,000	75,000	-
A・ラベルジュ ⁽⁶⁾	300,000	-	300,000	240,000	60,000
M・マッケイン ⁽⁷⁾	300,000	-	300,000	300,000	-
H・ムンローブラム ⁽⁸⁾	300,000	-	300,000	180,000	120,000
K・テイラー ⁽⁹⁾	575,000	-	575,000	180,000	395,000
M・ターケ ⁽¹⁰⁾	250,000	-	250,000	250,000	-
T・バンダル ⁽¹¹⁾	350,000	-	350,000	350,000	-
B・ヴァンクラリンゲン	300,000	-	300,000	300,000	-
F・ヴェテッシ ⁽¹²⁾	341,667	-	341,667	341,667	-
J・ヤブキ	300,000	-	300,000	300,000	-
合計	4,400,001	179,793	4,579,794	4,004,794	575,000

- (1) 「その他の報酬すべて」の項目の報酬は、RBC USグループ・ホールディングス・エルエルシーにおける取締役会の役務に関する取締役報酬を反映している。米ドル建ての報酬は、2020会計年度の最終取引日（2020年10月30日）のカナダ銀行の外国為替相場の終値である1米ドル=1.3318カナダドルによりカナダドルに換算されている。
- (2) 報酬にはガバナンス委員会委員長報酬を含む。
- (3) 報酬にはリスク委員会委員長報酬を含む。
- (4) デニソン氏は、2020年1月1日付で監査委員会の委員長を退任し、監査委員会委員長報酬の按分額を受領した。
- (5) デヴィーン女史は、2020年8月1日付で取締役に任命され、年次取締役役員報酬の按分額を受領した。
- (6) ラベルジュ女史は、2021年1月2日に退任した。2020会計年度中、同女史は、取締役会会議9回、ガバナンス委員会会議8回およびリスク委員会会議12回に出席した。
- (7) マッケイン氏は、2021年4月8日付で退任した。2020会計年度中、同氏は、取締役会議9回、監査委員会会議10回および人事委員会会議5回に出席した。
- (8) ムンローブラム女史は、2021年4月8日付で退任した。2020会計年度中、同女史は、取締役会議9回、人事委員会会議5回およびリスク委員会会議12回に出席した。
- (9) 報酬には取締役会議長報酬を含む。
- (10) ターケ女史は、2020年1月1日付で取締役に任命され、年次取締役役員報酬の按分額を受領した。
- (11) 報酬には人事委員会委員長報酬を含む。
- (12) ヴェテッシ氏は、2020年1月1日付で監査委員会委員長に任命され、監査委員会委員長報酬の按分額を受領した。

特別手当

当行の知る限り、取締役または執行役員と、当行またはその子会社との間に既存のまたは潜在的な重大な利益相反はない。

(3) 【監査の状況】

① 監査委員会

(i) 監査委員会の構成

監査委員会は、フランク・ヴェテッシ（委員長）、アンドリュー・A・チザム、ジャセイント・コテ、シンシア・デヴィーン、マイケル・H・マッケイン、マリアン・ターケおよびジェフリー・W・ヤブキにより構成される。取締役会は、監査委員会の各委員が、適用あるカナダおよび米国の法令に基づく独立性基準を組み入れた、当グループの取締役独立性方針に従い独立しており、いずれの委員も、取締役会およびその委員会の一員もしくは当グループの1つ以上の子会社の取締役会の一員としての勤務に対する通常の過程での報酬以外に、当グループから直接または間接に、いかなる報酬も受領していないと判断した。監査委員会の委員全員が、ナショナル・インスツルメンツ第52-110—監査委員会およびNYSEのコポーレート・ガバナンス基準の意味において、財務知識を有する者である。金融リテラシーの判断基準を検討するにあたり、取締役会は、金融機関の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書を読解する能力に着目する。取締役会は、フランク・ヴェテッシ、ジャセイント・コテ、シンシア・デヴィーンおよびジェフリー・W・ヤブキのそれぞれが、SECにより定義される「会計監査委員会の財務専門家」として適格であると判断した。

(ii) 監査委員の関連する学歴および経験

各委員の一般的な職歴に加え、監査委員としての責務遂行に関連する各監査委員の学歴および経験は、以下のとおりである。

フランク・ヴェテッシ（経営学士号、FCA）は、スクラッチ・スクール・オブ・ビジネスで経営学士号を取得し、公認会計士であり、カナダ公認会計士協会の会員である。ヴェテッシ氏は、2012年から2019年6月までデロイト・カナダのマネージング・パートナー兼最高経営責任者を務めた。ヴェテッシ氏は、2019年7月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

アンドリュー・A・チザム（商学士号、MBA）は、クイーンズ大学で商学士号を、ウェスタン・オンタリオ大学で経営学修士号を取得した。チザム氏は、ゴールドマン・サックスで31年間にわたり様々なリーダーシップを発揮してきた。同氏はまた、2014年から2016年4月に退任するまで、同社の諮問取締役を務め、2016年7月から、当グループの監査委員会の一員を務めている。

ジャセイント・コテ（理学士号）は、ラバル大学で理学士号を取得した。コテ女史は、2009年から2014年においてリオ・ティント・アルキャンの社長兼最高経営責任者を務め、2007年10月にリオ・ティント・アルキャンがアルキャン・インクを買収した後、同社のプライマリー・メタル事業グループの社長兼最高経営責任者を務めた。コテ女史は、2014年10月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

シンシア・デヴィーン (FCPA、FCA、HBA) は、ウェスタン大学でビジネス管理の名誉学位を取得した。デヴィーン女史は、2011年にオンタリオ州勅許会計士協会フェローとなった。デヴィーン女史は、メープル・リーフ・スポーツ・アンド・エンタテインメントの最高財務責任者であり、2003年から2014年までティム・ホートンズ・インクの最高財務責任者および2015年から2017年までリオカン不動産投資信託のエグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント兼最高財務責任者を務めた。デヴィーン女史は、エンパイア・カンパニー・リミテッド／ソービーズ・インクの取締役兼監査委員会委員長を務めている。デヴィーン女史は、2020年7月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

マイケル・H・マッケイン (経営学士号) は、ウェスタン・オンタリオ大学で名誉経営学士号を取得した。マッケイン氏は、メープル・リーフ・フーズ・インクの社長兼最高経営責任者およびマッケイン・キャピタル・インクの社長兼取締役である。マッケイン氏は、メープル・リーフ・フーズ・インクで取締役を務めている。マッケイン氏は、2017年4月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

マリアン・ターケ (BS、MS、MBA) は、クイーンズ大学で土木工学士号を取得し、トロント大学で工学学士号を取得し、クイーンズ大学で経営学修士号を取得した。ターケ女史は、2018年から2020までナショナル・フットボール・リーグの最高執行責任者、2017年から2018年までNFLネットワーク、デジタル・メディア、ITおよびフィルムズの責任者、ならびに2014年から2017年までベル・メディアの社長であった。ターケ女史は、ブルックフィールド・インフラストラクチャー・パートナーズの上級顧問を務めている。ターケ女史は、2020年1月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

ジェフリー・W・ヤブキ (理学士号) は、ロサンゼルスのカリフォルニア州立大学で理学士号 (経営学および会計学) を取得し、以前は公認会計士の資格を有していた。ヤブキ氏は、2005年から2020年までファイサーブ・インクの社長兼最高経営責任者、および1999年から2005年までH&Rブロック・インクの執行副社長兼最高執行責任者を含む様々な上級職を務めていた。ヤブキ氏は、ファイサーブ・インクの執行取締役である。ヤブキ氏は、2017年10月から当グループの監査委員会の一員を務めている。

(iii) 監査委員会の目的および職務

目的

監査委員会は、当行の取締役会 (以下、「取締役会」という。) による、(i) 当行の財務諸表の完全性、(ii) 外部監査人の資格、実績および独立性、(iii) 当行の内部監査機能の遂行状況、(iv) 内部統制ならびに(v) 法令上の要件の遵守の監督を支援する責任を負っている。

外部監査人

銀行法により付与された株主の権限に従うことを条件として、委員会は、監査報告書の準備もしくは発行またはその他の監査、審査もしくは証明の業務に従事する登録公認会計事務所（外部監査人を含む。）の任命（またはその取消し）を勧告する。委員会は、報酬を決定し、財務報告に関する経営陣との意見の相違の解決を含め、これらの会計事務所の業務を監督する。当該会計事務所は、委員会に直接報告する。

さらに、外部監査人の監督の一部として、委員会は、

- a) 外部監査人と会合し、年次監査計画、監査結果、年次報告書に関する監査報告書ならびに適用法により要求されるその他すべての報告書、財務報告書および取引を検討ならびに協議する
- b) すべての監査報酬および条件ならびに外部監査人により当行に提供される許可された非監査業務の条件を承認する。かかる承認は、具体的にまたは適用法に従い委員会が採用した承認前の方針および手続に従って行われる
- c) 外部監査人が提起する懸念（監査を実施する際に直面する可能性のある問題およびかかる懸念に対する経営陣の対応を含む。）を検討する
- d) 監査結果に関する外部監査人と経営陣との間の重要なやり取りを検討する
- e) 経営陣および当行の内部監査人の意見を考慮に入れて、関連する経験、地理的範囲、職業的懐疑心、勤務および意思疎通の質ならびに独立性および客観性を含む、外部監査人の資格と実績を毎年評価する
- f) 外部監査人ならびに当行の間で独立性および客観性に影響を及ぼす可能性のあるすべての関係を記述した正式な書面を検討する
- g) 毎年、外部監査人が監査から撤退するリスクを評価する
- h) 年次監査済財務諸表および四半期末監査財務諸表ならびに関連する経営者の議論および分析について、外部監査人および経営陣と協議する
- i) パートナー、従業員および元パートナーならびに現在および元外部監査人の従業員に関する採用方針を検討する
- j) 外部監査人のリードパートナーの資格、実績および独立性を検討ならびに評価し、リード監査パートナー、補助監査パートナーおよびその他の稼働している監査チームパートナーのローテーションを実施するための時期ならびにプロセスについて議論する
- k) 少なくとも年1回、(i)外部監査人の内部品質管理手順および(ii)直近の内部品質管理の検討もしくは外部監査人の同等の検討により、または過去5年以内に政府当局もしくは専門家当局により行われた照会もしくは調査により、外部監査人により行われた1または複数の独立した監査を尊重して提起された重要な問題ならびに当該問題に対処するために講じられた措置を記載した外部監査人による報告書入手し、検討する

内部統制

委員会は、以下の活動に従事することにより内部統制の監督を支援する。

- a) 財務報告に係る内部統制、不正および過失の防止ならびに発見に係る内部統制を含む、内部統制の適切なシステムを実施および維持することを経営陣に要求すること
- b) 内部統制システムを評価および承認し、最高監査責任者（CAE）および経営陣と定期的に会合を行い、これらのシステムの妥当性および有効性を評価すること
- c) 組織が統制下にあるという合理的な保証を経営陣から定期的に受けること
- d) 財務報告に係る内部統制の整備もしくは運用における重大な不備または重大な弱点および財務報告に係る当行の内部統制において重要な役割を果たしている経営陣もしくはその他の従業員が関与した不正の発見に関するCEOおよびCFOからの報告を検討すること
- e) 当行の開示方針の検討および承認ならびに当行の開示統制および開示手続の有効性に関する報告書を検討すること
- f) 当行の開示統制、開示手続、財務報告に係る内部統制の設計および有効性ならびに当行の四半期財務諸表および年次財務諸表の完全性に関する証明に関連するCEOおよびCFOによる手続を検討すること

内部監査人

委員会はCAEと定期的に会合し、年次内部監査計画の検討および承認ならびに内部監査活動の検討を行う。委員会は、内部監査部門から経営陣に報告された問題点ならびに経営陣の対応および／または是正措置を検討し、CAEと協議する。また、委員会は、特定された統制の弱点の状況ならびに当行の内部統制システムの適切性および遵守の程度を評価する。委員会がCAEとともに検討する可能性のあるその他の問題には、監査範囲、情報へのアクセス、資金限界または内部監査機能が直面するその他の問題が含まれる。

② 会計監査

(i) 外国監査公認会計士等

当行の財務諸表は、プライスウォーターハウスクーパース エルエルピー（PwC）により監査される。入札手続を経て、取締役会は、2016年1月29日付でPwCを当グループの監査人に指名した。かかる指名は、2016年4月6日付年次総会および特別総会において、当行の株主によって承認された。

(ii) 外国監査公認会計士等に対する報酬の内容

入札手続を経て、取締役会は、2016年1月29日付でPwCを当グループの監査人に指名した。かかる指名は、2016年4月6日付年次総会および特別総会において、当行の株主によって承認された。2020年10月31日および2019年10月31日に終了した年度に係るPwCおよびその関係会社に対する報酬は、各カテゴリーの内容を含み、下記に記載のとおりである。

(単位：百万ドル)	2020年10月31日に終了した年度			2019年10月31日に終了した年度		
	銀行および 子会社	ミューチュアル・ ファンド ⁽¹⁾	合計	銀行および 子会社	ミューチュアル・ ファンド ⁽¹⁾	合計
監査報酬	38.6	2.4	41.0	38.5	2.5	41.0
監査関連報酬	8.4	—	8.4	8.0	—	8.0
税務報酬	0.1	0.3	0.4	0.1	0.3	0.4
その他全報酬	0.5	0.5	1.0	0.4	0.5	0.9
報酬合計	47.6	3.2	50.8	47.0	3.3	50.3

(1) ミューチュアル・ファンドの欄には、当行の子会社によって管理される特定のミューチュアル・ファンドについてPwCが提供した専門業務に対して支払われた報酬を含む。当行の子会社は、その他の運営費用以外に、定額の管理報酬によって支払われるミューチュアル・ファンドのための毎年の監査、法令による監査機関への届出およびその他の業務に関連して提供された専門業務についての監査報酬についても責任を負う。

監査報酬

監査報酬は、当行の財務報告の内部管理の有効性の監査および当行子会社の財務諸表監査を含む当行の年次連結財務諸表に対するすべての統合監査に関連して監査人より提供された専門業務に対して支払われた。さらに監査報酬は、目論見書およびその他募集文書の、一般的に当グループの独立監査人のみが合理的に提供できる業務を含む、法令による監査機関への届出業務に関連する業務に対して支払われた。

監査関連報酬

監査関連報酬は、保証業務および当行の年次連結財務諸表の監査または精査業務に合理的に関連する関連業務であり、監査報酬のカテゴリーに計上されなかった費用である。これらの業務には、下記が含まれる。

- ・伝統的に当グループの独立監査人によって行われた特別認証業務
- ・契約または取引上必要となる内部管理の有効性の報告
- ・当行の様々な年金計画の財務諸表の監査
- ・各種トラストおよびリミテッド・パートナーシップの監査

税務報酬

税務報酬は、税務申告書およびその補正書類の精査、ならびに定期税務明細票および計算の補助を含む税務関連の遵守業務に支払われた。

その他全報酬

当該業務は、当行および一部子会社の財務情報を含む財務諸表、関連継続開示およびその他公開書類ならびに決算およびその他研究出版物のフランス語への翻訳作業からなる。

(iii) その他重要な報酬の内容

該当事項なし。

(iv) 外国監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

上記「(ii) 外国監査公認会計士等に対する報酬の内容」を参照のこと。

(v) 監査報酬の決定方針

監査委員会は、監査業務および非監査業務の許容範囲内のその他の業務について、監査委員会の事前の承認を必要とする方針を採用した。

(4) 【役員の報酬等】

上記「(2)② 役員の報酬等」の項を参照のこと。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項なし。

第6 【経理の状況】

(1) 財務書類として本書に記載された当行およびその子会社（以下総称して「RBC」という。）の原文（英文）の連結財務諸表は、国際会計基準審議会（以下「IASB」という。）が公表した国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）に準拠して作成されている。

IASBが公表したIFRSと日本において一般に公正妥当と認められる会計原則との主要な相違で当行にとって重要かつ関連のあるものは、「4 カナダと日本における会計原則及び会計慣行の相違」に記載されている。

(2) 本書記載のRBCの連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）第131条第1項の規定に準拠して作成されている。

(3) 本書記載の原文（英文）の連結財務諸表は、2020年および2019年10月31日現在の連結貸借対照表、同日に終了した事業年度の関連する連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結持分変動計算書および連結キャッシュ・フロー計算書、ならびに関連する注記からなる。本書記載の原文（英文）の連結財務諸表および2020年10月31日現在の財務報告に係る内部統制の有効性は、RBCのカナダにおける独立登録会計事務所であるプライスウォーターハウスクーパース エルエルピーの監査（米国公開企業会計監視委員会（PCAOB）の基準に基づく。）を受けている。添付の原文（英文）の連結財務諸表はまた、RBCのカナダにおける独立監査人であるプライスウォーターハウスクーパース エルエルピーの、カナダにおいて一般に公正妥当と認められる監査基準（CAS）に準拠した監査も受けている。プライスウォーターハウスクーパース エルエルピーは外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）であり、その監査は「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる。原文（英文）の独立登録会計事務所の監査報告書および独立監査人の監査報告書は本書に添付されている。

(4) RBCの原文（英文）の連結財務諸表、独立登録会計事務所の監査報告書および独立監査人の監査報告書は、RBCがカナダにおいて証券監督局に提出したものと同一であり、日本文はこれを翻訳したものである。

(5) RBCの原文（英文）の連結財務諸表はカナダドルで作成表示されている。「円」で表示されている金額は「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル＝81.96円（2021年2月3日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場仲値）の換算レートを用いて計算している。金額は百万円単位(四捨五入)で表示されている。なお、円表示額は単に読者の便宜のためのものであり、カナダドル額が上記のレートで円に換算されることを意味するものではない。日本円に換算された金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

(6) 円換算額および「2 主な資産・負債及び収支の内容」から「4 カナダと日本における会計原則及び会計慣行の相違」までの記載事項は、RBCの原文（英語）の連結財務諸表には含まれておらず、当該事項における連結財務諸表への参照事項を除き、上記(3)の監査の対象にもなっていない。

1 【財務書類】

(1) 連結貸借対照表

	以下の日現在			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
資産				
現金および預け金	\$ 118,888	\ 9,725,038	\$ 26,310	\ 2,152,158
利付銀行預け金	39,013	3,191,263	38,345	3,136,621
有価証券(注記4)				
トレーディング	136,071	11,130,608	146,534	11,986,481
投資(関連する引当金を除く)	139,743	11,430,977	102,470	8,382,046
	275,814	22,561,585	249,004	20,368,527
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	313,015	25,604,627	306,961	25,109,410
貸出金(注記5)				
リテール	457,976	37,462,437	426,086	34,853,835
ホールセール	208,655	17,067,979	195,870	16,022,166
	666,631	54,530,416	621,956	50,876,001
信用損失引当金(注記5)	(5,639)	(461,270)	(3,100)	(253,580)
	660,992	54,069,146	618,856	50,622,421
個別分離運用型基金資産純額(注記16)	1,922	157,220	1,663	136,033
その他				
手形引受見返	18,507	1,513,873	18,062	1,477,472
デリバティブ(注記8)	113,488	9,283,318	101,560	8,307,608
有形固定資産(注記9)	7,934	649,001	3,191	261,024
のれん(注記10)	11,302	924,504	11,236	919,105
その他の無形資産(注記10)	4,752	388,714	4,674	382,333
その他の資産(注記13)	58,921	4,819,738	49,073	4,014,171
	214,904	17,579,147	187,796	15,361,713
資産合計	\$ 1,624,548	\132,888,026	\$ 1,428,935	\116,886,883

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル＝81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(1) 連結貸借対照表 (続き)

	以下の日現在			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
負債および資本				
預金(注記14)				
個人	\$ 343,052	\ 28,061,654	\$ 294,732	\ 24,109,078
企業および政府	624,311	51,068,640	565,482	46,256,428
銀行	44,522	3,641,900	25,791	2,109,704
	1,011,885	82,772,193	886,005	72,475,209
個別分離運用型基金負債純額(注記16)	1,922	157,220	1,663	136,033
その他				
手形引受	18,618	1,522,952	18,091	1,479,844
空売りした有価証券に関連する債務	29,285	2,395,513	35,069	2,868,644
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	274,231	22,432,096	226,586	18,534,735
デリバティブ(注記8)	109,927	8,992,029	98,543	8,060,817
未払保険金および保険給付負債(注記15)	12,215	999,187	11,401	932,602
その他の負債(注記18)	69,831	5,712,176	58,137	4,755,607
	514,107	42,053,953	447,827	36,632,249
劣後無担保社債(注記19)	9,867	807,121	9,815	802,867
負債合計	1,537,781	125,790,486	1,345,310	110,046,358
株主に帰属する持分				
優先株式およびその他の資本性金融商品(注記20)	5,945	486,301	5,707	466,833
普通株式(注記20)	17,499	1,431,418	17,587	1,438,617
利益剰余金	59,806	4,892,131	55,981	4,579,246
その他の資本項目	3,414	279,265	4,248	347,486
	86,664	7,089,115	83,523	6,832,181
非支配持分	103	8,425	102	8,344
資本合計	86,767	7,097,541	83,625	6,840,525
負債および資本合計	\$ 1,624,548	\132,888,026	\$ 1,428,935	\116,886,883

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

デビッド・I・マッケイ
総裁兼最高経営責任者

フランク・ヴェテッシ
取締役

(2)連結損益計算書

	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
受取利息および受取配当金(注記3)				
貸出金	\$ 23,420	\ 1,915,756	\$ 24,863	\ 2,033,793
有価証券	6,488	530,718	6,827	558,449
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	4,668	381,842	8,960	732,928
預け金およびその他	307	25,113	683	55,869
	34,883	2,853,429	41,333	3,381,039
支払利息(注記3)				
預金およびその他	8,783	718,449	12,988	1,062,418
その他の負債	4,985	407,773	8,231	673,296
劣後無担保社債	280	22,904	365	29,857
	14,048	1,149,126	21,584	1,765,571
受取利息純額	20,835	1,704,303	19,749	1,615,468
利息以外の収益				
保険料、投資および手数料収入(注記15)	5,361	438,530	5,710	467,078
トレーディング収益	1,239	101,350	995	81,391
投資運用および保管手数料	6,101	499,062	5,748	470,186
投資信託報酬	3,712	303,642	3,628	296,770
有価証券委託手数料	1,439	117,710	1,305	106,749
サービス手数料	1,842	150,676	1,907	155,993
引受業務およびその他のアドバイザー手数料	2,319	189,694	1,815	148,467
トレーディング以外の外国為替差損益	1,012	82,782	986	80,655
カード・サービス収益	969	79,264	1,072	87,690
与信手数料	1,321	108,058	1,269	103,804
投資有価証券に係る利得純額	90	7,362	125	10,225
共同支配企業および関連会社からの持分法利益(注記12)	77	6,299	76	6,217
その他	864	70,675	1,617	132,271
	26,346	2,155,103	26,253	2,147,495
収益合計	47,181	3,859,406	46,002	3,762,964

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(2) 連結損益計算書 (続き)

	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
信用損失引当金繰入額(注記4および注記5)	4,351	355,912	1,864	152,475
保険契約者に対する給付、保険金および新契約費 (注記15)	3,683	301,269	4,085	334,153
利息以外の費用				
人件費(注記17および注記21)	15,252	1,247,614	14,600	1,194,280
設備費	1,907	155,993	1,777	145,359
施設費	1,660	135,788	1,635	133,743
通信費	989	80,900	1,090	89,162
専門家報酬	1,330	108,794	1,305	106,749
その他の無形資産の償却費(注記10)	1,273	104,131	1,197	97,915
その他	2,347	191,985	2,535	207,363
	24,758	2,025,204	24,139	1,974,570
税引前利益	14,389	1,177,020	15,914	1,301,765
法人所得税(注記22)	2,952	241,474	3,043	248,917
当期純利益	\$ 11,437 \	935,547	\$ 12,871 \	1,052,848
以下に帰属する純利益：				
株主	\$ 11,432 \	935,138	\$ 12,860 \	1,051,948
非支配持分	5	409	11	900
	\$ 11,437 \	935,547	\$ 12,871 \	1,052,848
基本的1株当たり利益(単位：カナダドル/円) (注記23)	\$ 7.84 \	641	\$ 8.78 \	718
希薄化後1株当たり利益(単位：カナダドル/円) (注記23)	7.82	640	8.75	716
普通株式1株当たり配当(単位：カナダドル/円)	4.29	351	4.07	333

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(3) 連結包括利益計算書

	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
当期純利益	\$ 11,437 \	935,547	\$ 12,871 \	1,052,848
その他の包括利益(損失)、税引後(注記22)				
その後に純損益に振り替えられる項目：				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する債務証券および貸出金に係る未実現利得(損失)純増減				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する債務証券および貸出金に係る未実現利得(損失)純額	(24)	(1,963)	192	15,706
純損益に認識された信用損失引当金繰入額	13	1,063	(14)	(1,145)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する債務証券および貸出金に係る損失(利得)純額の純損益への振替	(161)	(13,170)	(133)	(10,879)
	(172)	(14,070)	45	3,681
為替換算調整額				
未実現為替換算差益(差損)	810	66,258	65	5,317
ヘッジ活動からの為替換算差益(差損)純額	(397)	(32,475)	5	409
為替換算差損(差益)の純損益への振替	(21)	(1,718)	2	164
純投資ヘッジ活動に係る損失(利得)の純損益への振替	21	1,718	1	82
	413	33,783	73	5,971
キャッシュ・フロー・ヘッジの純増減				
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定されたデリバティブに係る利得(損失)純額	(1,145)	(93,661)	(559)	(45,726)
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定されたデリバティブに係る損失(利得)の純損益への振替	72	5,890	(135)	(11,043)
	(1,073)	(87,771)	(694)	(56,769)
その後に純損益に振り替えられることのない項目：				
従業員給付制度の再測定	(68)	(5,562)	(942)	(77,056)
純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債に係る信用リスクに起因する公正価値の変動純額	(263)	(21,513)	51	4,172
その他の包括利益を通じて公正価値で測定するものとして指定された持分証券に係る利得(損失)純額	28	2,290	25	2,045
	(303)	(24,785)	(866)	(70,839)
その他の包括利益(損失)合計、税引後	(1,135)	(92,843)	(1,442)	(117,956)
包括利益(損失)合計	\$ 10,302 \	842,704	\$ 11,429 \	934,892
以下に帰属する包括利益合計：				
株主	\$ 10,295 \	842,131	\$ 11,419 \	934,074
非支配持分	7	573	10	818
	\$ 10,302 \	842,704	\$ 11,429 \	934,892

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

[次へ](#)

(4)連結持分変動計算書

2020年10月31日終了年度													
	優先株式 およびそ 他の資本 性金融 商品	普通株式	自己株式 —優先株式 およびそ 他の資本 性金融商品	自己株式 —普通株 式	利益剰余 金	その他の資本項目							資本合計
						FVOCIで測定 する有価証 券および貸 出金	為替換算	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	その他の 資本項目 合計	株主に帰属 する持分	非支配 持分		
						百万 カナダ ドル	百万 カナダドル	百万 カナダドル	百万 カナダドル	百万 カナダドル	百万 カナダドル	百万 カナダドル	
期首残高	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (58)	\$ 55,981	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,523	\$ 102	\$ 83,625	
移行調整額(注記 2)	-	-	-	-	(107)	-	-	-	-	(107)	-	(107)	
調整後期首残高	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (58)	\$ 55,874	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,416	\$ 102	\$ 83,518	
資本の変動													
株式資本およびそ 他の資本性金 融商品の発行	1,750	80	-	-	(5)	-	-	-	-	1,825	-	1,825	
消却を目的とした 普通株式の購入	-	(97)	-	-	(717)	-	-	-	-	(814)	-	(814)	
優先株式およびそ 他の資本性金 融商品の償還	(1,508)	-	-	-	-	-	-	-	-	(1,508)	-	(1,508)	
自己株式およびそ 他の資本性金 融商品の売却	-	-	110	4,668	-	-	-	-	-	4,778	-	4,778	
自己株式およびそ 他の資本性金 融商品の購入	-	-	(114)	(4,739)	-	-	-	-	-	(4,853)	-	(4,853)	
株式に基づく報酬	-	-	-	-	(3)	-	-	-	-	(3)	-	(3)	
普通株式に係る配 当	-	-	-	-	(6,111)	-	-	-	-	(6,111)	-	(6,111)	
優先株式に係る配 当およびそ 他の資本性金融 商品に係る分配	-	-	-	-	(268)	-	-	-	-	(268)	(6)	(274)	
その他	-	-	-	-	(93)	-	-	-	-	(93)	-	(93)	
当期純利益	-	-	-	-	11,432	-	-	-	-	11,432	5	11,437	
その他の包括利益 (損失)合計、 税引後	-	-	-	-	(303)	(172)	411	(1,073)	(834)	(1,137)	2	(1,135)	
期末残高	\$ 5,948	\$ 17,628	\$ (3)	\$ (129)	\$ 59,806	\$ (139)	\$ 4,632	\$ (1,079)	\$ 3,414	\$ 86,664	\$ 103	\$ 86,767	

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(4)連結持分変動計算書 (続き)

2019年10月31日終了年度												
	その他の資本項目											
	優先株式 およびそ 他の資 本性金融 商品	普通株式	自己株式 —優先株式 およびそ 他の資 本性金融 商品	自己株式 —普通株 式	利益剰余 金	FVOCIで測 定する有価 証券および 貸出金	為替換算	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	その他の 資本項目 合計	株主に帰 属する持分	非支配 持分	資本合計
	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル	百万 カナダ ドル
期首残高(注記2)	\$ 6,306	\$ 17,635	\$ 3	\$ (18)	\$ 51,018	\$ (12)	\$ 4,147	\$ 688	\$ 4,823	\$ 79,767	\$ 94	\$ 79,861
資本の変動												
株式資本およびそ 他の資本性金 融商品の発行	350	136	-	-	-	-	-	-	-	486	-	486
消却を目的とした 普通株式の購入	-	(126)	-	-	(904)	-	-	-	-	(1,030)	-	(1,030)
優先株式およびそ 他の資本性金 融商品の償還	(950)	-	-	-	-	-	-	-	-	(950)	-	(950)
自己株式およびそ 他の資本性金 融商品の売却	-	-	182	5,340	-	-	-	-	-	5,522	-	5,522
自己株式およびそ 他の資本性金 融商品の購入	-	-	(184)	(5,380)	-	-	-	-	-	(5,564)	-	(5,564)
株式に基づく報酬	-	-	-	-	(23)	-	-	-	-	(23)	-	(23)
普通株式に係る配 当	-	-	-	-	(5,840)	-	-	-	-	(5,840)	-	(5,840)
優先株式に係る配 当およびそ 他の資本性金融 商品に係る分配	-	-	-	-	(269)	-	-	-	-	(269)	(2)	(271)
その他	-	-	-	-	5	-	-	-	-	5	-	5
当期純利益	-	-	-	-	12,860	-	-	-	-	12,860	11	12,871
その他の包括利益 (損失)合計、 税引後	-	-	-	-	(866)	45	74	(694)	(575)	(1,441)	(1)	(1,442)
期末残高	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (58)	\$ 55,981	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,523	\$ 102	\$ 83,625

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(4)連結持分変動計算書 (続き)

2020年10月31日終了年度												
	その他の資本項目											
	優先株式およびその他の資本性金融商品	普通株式	自己株式—優先株式およびその他の資本性金融商品	自己株式—普通株式	利益剰余金	FVOCIで測定する有価証券および貸出金	為替換算	キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の資本項目合計	株主に帰属する持分	非支配持分	資本合計
	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*
期首残高	466,751	1,443,361	82	(4,744)	4,579,246	2,699	345,278	(491)	347,486	6,832,181	8,344	6,840,525
移行調整額(注記2)	-	-	-	-	(8,753)	-	-	-	-	(8,753)	-	(8,753)
調整後期首残高	466,751	1,443,361	82	(4,744)	4,570,493	2,699	345,278	(491)	347,486	6,823,429	8,344	6,831,772
資本の変動												
株式資本およびその他の資本性金融商品の発行	143,150	6,544	-	-	(409)	-	-	-	-	149,285	-	149,285
消却を目的とした普通株式の購入	-	(7,935)	-	-	(58,651)	-	-	-	-	(66,585)	-	(66,585)
優先株式およびその他の資本性金融商品の償還	(123,354)	-	-	-	-	-	-	-	-	(123,354)	-	(123,354)
自己株式およびその他の資本性金融商品の売却	-	-	8,998	381,842	-	-	-	-	-	390,840	-	390,840
自己株式およびその他の資本性金融商品の購入	-	-	(9,325)	(387,650)	-	-	-	-	-	(396,975)	-	(396,975)
株式に基づく報酬	-	-	-	-	(245)	-	-	-	-	(245)	-	(245)
普通株式に係る配当	-	-	-	-	(499,880)	-	-	-	-	(499,880)	-	(499,880)
優先株式に係る配当およびその他の資本性金融商品に係る分配	-	-	-	-	(21,922)	-	-	-	-	(21,922)	(491)	(22,413)
その他	-	-	-	-	(7,607)	-	-	-	-	(7,607)	-	(7,607)
当期純利益	-	-	-	-	935,138	-	-	-	-	935,138	409	935,547
その他の包括利益(損失)合計、税引後	-	-	-	-	(24,785)	(14,070)	33,620	(87,771)	(68,221)	(93,007)	164	(92,843)
期末残高	486,546	1,441,970	(245)	(10,552)	4,892,131	(11,370)	378,898	(88,262)	279,265	7,089,115	8,425	7,097,541

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(4)連結持分変動計算書 (続き)

2019年10月31日終了年度												
	優先株式 およびそ の他の資 本性金融 商品	普通株式	自己株式 —優先株 式および その他の 資本性金 融商品	自己株式 —普通株式	利益剰余金	その他の資本項目						
						FVOCIで測 定する有 価証券お よび貸出 金	為替換算	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	その他の 資本項目 合計	株主に帰属 する持分	非支配 持分	資本合計
	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*	百万円*
期首残高(注記2)	515,831	1,442,543	245	(1,472)	4,173,272	(982)	339,225	56,278	394,521	6,524,941	7,689	6,532,630
資本の変動												
株式資本および その他の資 本性金融商品 の発行	28,630	11,125	-	-	-	-	-	-	-	39,755	-	39,755
消却を目的とし た普通株式の 購入	-	(10,307)	-	-	(73,947)	-	-	-	-	(84,254)	-	(84,254)
優先株式および その他の資 本性金融商品 の償還	(77,710)	-	-	-	-	-	-	-	-	(77,710)	-	(77,710)
自己株式および その他の資 本性金融商品 の売却	-	-	14,888	436,812	-	-	-	-	-	451,700	-	451,700
自己株式および その他の資 本性金融商品 の購入	-	-	(15,051)	(440,084)	-	-	-	-	-	(455,135)	-	(455,135)
株式に基づく報 酬	-	-	-	-	(1,881)	-	-	-	-	(1,881)	-	(1,881)
普通株式に係る 配当	-	-	-	-	(477,712)	-	-	-	-	(477,712)	-	(477,712)
優先株式に係る 配当およびそ の他の資 本性金融商品 に係る分配	-	-	-	-	(22,004)	-	-	-	-	(22,004)	(164)	(22,168)
その他	-	-	-	-	409	-	-	-	-	409	-	409
当期純利益	-	-	-	-	1,051,948	-	-	-	-	1,051,948	900	1,052,848
その他の包括利 益(損失)合 計、 税引後	-	-	-	-	(70,839)	3,681	6,053	(56,769)	(47,035)	(117,874)	(82)	(117,956)
期末残高	466,751	1,443,361	82	(4,744)	4,579,246	2,699	345,278	(491)	347,486	6,832,181	8,344	6,840,525

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

[次へ](#)

(5)連結キャッシュ・フロー計算書

	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
営業活動によるキャッシュ・フロー				
当期純利益	\$ 11,437	\ 935,547	\$ 12,871	\ 1,052,848
非資金項目およびその他の調整				
信用損失引当金繰入額	4,351	355,912	1,864	152,475
減価償却費	1,333	109,039	627	51,289
繰延法人所得税	(586)	(47,935)	(519)	(42,454)
その他の無形資産の償却費および減損損失	1,315	107,567	1,307	106,913
共同支配企業および関連会社に対する投資の純増減	(73)	(5,971)	(74)	(6,053)
投資有価証券に係る損失(利得)	(218)	(17,832)	(213)	(17,423)
事業処分損(益)	8	654	(158)	(12,924)
営業資産および負債の純増減に対する調整				
未払保険金および保険給付負債	814	66,585	1,401	114,602
未収および未払利息の純増減	(142)	(11,616)	199	16,278
当期法人所得税	18	1,472	(26)	(2,127)
デリバティブ資産	(11,928)	(975,710)	(7,521)	(615,218)
デリバティブ負債	11,384	931,211	8,305	679,349
トレーディング有価証券	10,377	848,839	(18,276)	(1,494,977)
貸出金(証券化を除く)	(45,639)	(3,733,270)	(42,672)	(3,490,570)
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	(6,054)	(495,217)	(12,359)	(1,010,966)
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	47,645	3,897,361	19,772	1,617,350
空売りした有価証券に関連する債務	(5,784)	(473,131)	2,822	230,840
預金(証券化を除く)	126,826	10,374,367	49,808	4,074,294
ブローカーおよびディーラーに係る未収入金および未払金	2,301	188,222	(480)	(39,264)
その他	(8,566)	(700,699)	(2,413)	(197,383)
営業活動による(に使用された)正味キャッシュ	138,819	11,355,394	14,265	1,166,877
投資活動によるキャッシュ・フロー				
利付銀行預け金の増減	(676)	(55,297)	(1,874)	(153,293)
投資有価証券の売却および満期による収入	113,286	9,266,795	65,377	5,347,839
投資有価証券の購入	(149,516)	(12,230,409)	(72,435)	(5,925,183)
有形固定資産およびその他の無形資産の取得純額	(2,629)	(215,052)	(2,261)	(184,950)
処分による収入	-	-	173	14,151
取得に使用されたキャッシュ	(22)	(1,800)	(106)	(8,671)
投資活動による(に使用された)正味キャッシュ	(39,557)	(3,235,763)	(11,126)	(910,107)

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル=81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

(5)連結キャッシュ・フロー計算書 (続き)

	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	百万 カナダドル	百万円*	百万 カナダドル	百万円*
財務活動によるキャッシュ・フロー				
劣後無担保社債の発行	2,750	224,950	1,500	122,700
劣後無担保社債の返済	(3,000)	(245,400)	(1,100)	(89,980)
普通株式の発行(発行費用控除後)	70	5,726	105	8,589
消却を目的とした普通株式の購入	(814)	(66,585)	(1,030)	(84,254)
優先株式およびその他の資本性金融商品の発行(発行費用控除後)	1,745	142,741	350	28,630
優先株式およびその他の資本性金融商品の償還	(1,508)	(123,354)	(950)	(77,710)
自己株式の売却	4,778	390,840	5,522	451,700
自己株式の購入	(4,853)	(396,975)	(5,564)	(455,135)
株式に係る配当金支払額およびその他の資本性金融商品に係る分配金支払額	(6,333)	(518,039)	(6,025)	(492,845)
非支配持分に対する配当/分配金支払額	(6)	(491)	(2)	(164)
子会社の短期借入金の増減	13	1,063	(263)	(21,513)
リース負債の返済	(588)	(48,098)		
財務活動による(に使用された)正味キャッシュ	(7,746)	(633,623)	(7,457)	(609,983)
現金および預け金に係る為替レートの変動の影響	1,062	86,872	419	34,274
現金および預け金の純増減	92,578	7,572,880	(3,899)	(318,938)
現金および預け金の期首残高(1)	26,310	2,152,158	30,209	2,471,096
現金および預け金の期末残高(1)	\$ 118,888 \	9,725,038	\$ 26,310 \	2,152,158
営業活動によるキャッシュ・フローは以下を含む：				
利息支払額	\$ 13,058 \	1,068,144	\$ 19,984 \	1,634,691
利息受取額	33,244	2,719,359	39,500	3,231,100
配当金受取額	2,753	225,195	2,209	180,696
法人所得税支払額	2,880	235,584	2,977	243,519

(1) 当行は、中央銀行およびその他の規制当局において預け金残高を維持することが求められる。2020年10月31日現在の当該預け金残高合計は、25億カナダドル(2019年10月31日－26億カナダドル、2018年10月31日－24億カナダドル)であった。

(*) 訳者注：円金額は、無監査の参考情報であり、「第6 経理の状況」(5)の記載にある通り、「財務諸表等規則」第134条の規定に基づき、1カナダドル＝81.80円の換算レートを用いて計算している。

本書記載の注記は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

[前へ](#)

[次へ](#)

(6)連結財務諸表に対する注記

(訳者注：表中の\$はカナダドルを表す。文中の「ドル」も、別途記載される場合を除き、カナダドルを表す。)

注記1 全般的情報

ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびその子会社(以下「当行」という。)は、個人向け銀行業務および商業銀行業務、ウェルス・マネジメント、保険、投資家およびトレジャリー・サービス、ならびに資本市場商品および資本市場サービスを含む、多様化した金融サービスを世界的に提供している。当行の事業セグメントについての詳細は、注記27を参照のこと。

親銀行であるロイヤル・バンク・オブ・カナダは、カナダで設立しカナダを本拠地とする、カナダの銀行法に基づくスケジュールIの銀行である。当行の本社は、カナダ オンタリオ州 トロント ベイ・ストリート200 ロイヤル・バンク・プラザに所在している。本店の所在地は、カナダ ケベック州 モントリオール プレイス・ヴィル・マリー1である。当行の普通株式は、トロント証券取引所およびニューヨーク証券取引所に上場しており、ティッカー・シンボルは「RY」である。

当連結財務諸表は、国際会計基準審議会(以下「IASB」という。)が公表した国際財務報告基準(以下「IFRS」という。)に準拠して作成されている。別途記載される場合を除き、金額はカナダドルで表示されている。表中の情報は、別途記載される場合を除き、百万ドルで記載されている。当連結財務諸表は、カナダの銀行法のサブセクション308にも準拠している。銀行法は、カナダの金融機関監督庁(「以下「OSFI」という。)が指定する場合を除き、当行の連結財務諸表はIFRSに従って作成すべきことを規定している。別途記載される場合を除き、注記2で概説した会計方針は、すべての表示期間に継続して適用されている。

取締役会は2020年12月1日に連結財務諸表の公表を承認した。

注記2 重要な会計方針、見積りおよび判断の要約

当連結財務諸表の作成に使用された重要な会計方針(0SFIが要求する会計処理を含む。)の要約は、以下の通りである。これらの会計方針は、すべての重要な点において、IFRSに準拠している。別途記載される場合を除き、すべての表示期間に同一の会計方針が適用されている。

全般

見積りおよび仮定の使用

当行の連結財務諸表の作成において、経営陣は、資産、負債、当期純利益および関連する開示の報告金額に影響を与える主観的な見積りおよび仮定を行う必要がある。経営陣による見積りは、過去の実績および合理的であると考えられるその他の仮定に基づいて行われる。見積りにおける不確実性の主な発生要因には、金融商品の公正価値、信用損失引当金、未払保険金および保険給付負債、年金およびその他の退職後給付、法人所得税、のれんおよびその他の無形資産の帳簿価額および訴訟引当金の算定等がある。このため、実際の結果はこれらおよびその他の見積りと異なる場合があり、当行の将来の連結財務諸表に影響を与える可能性がある。当行の見積りおよび仮定の使用に関する詳細は、当注記の関連する会計方針を参照のこと。

重要な判断

当連結財務諸表を作成するにあたり、経営陣は、特定の資産および負債の帳簿価額ならびに期中に計上された収益および費用の報告金額に影響を与える重要な判断を行うことが要求される。

COVID-19のパンデミックは引き続き広まっており、当行が事業を展開する経済環境においても不安定な状況は長引く可能性がある。また、COVID-19のパンデミックの期間およびCOVID-19のパンデミックに対する政府および中央銀行が実施している措置の有効性は依然として不透明であり、当行の経営成績に引き続き不利な影響が及ぶ可能性がある。現在の環境下においては、特定の領域で特に複雑な判断および見積りが必要である。当行は、日々変化する状況および影響を慎重にモニタリングしている。

重要な判断は、以下の分野で行われており、連結財務諸表の注記に記載されている。

組成された企業の連結	注記2 注記7	実効金利法の適用	注記2
金融商品の公正価値	注記2 注記3	金融資産の認識の中止	注記2 注記6
信用損失引当金	注記2 注記4 注記5	法人所得税	注記2 注記22
従業員給付	注記2 注記17	引当金	注記2 注記24 注記25
のれんおよびその他の無形資産	注記2 注記10		

連結の基礎

当行の連結財務諸表は、親会社であるロイヤル・バンク・オブ・カナダ、および特定の組成された企業を含むその子会社の、連結会社間の取引、残高、収益および費用を消去した後の、資産および負債ならびに経営成績を含んでいる。

連結

子会社(組成された企業を含む。)は、当行が支配を有する企業である。当行は、企業への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャーまたは権利を有し、かつ、当該投資先に対するパワーにより当該リターンに影響を及ぼす能力を有している場合には、当該企業を支配している。当行は、企業のリターンに最も重要な影響を及ぼす活動(関連性のある活動)を指図する現在の能力を与える既存の権利を有している場合には、当該企業に対するパワーを有している。パワーは議決権を基に判定するか、組成された企業の場合には他の契約上の取決めを基に判定する場合もある。

当行が代理人の立場で企業に対するパワーを行使している場合には、企業を支配していることにはならない。当行は、当行が代理人として行動しているかどうかの判定に際しては、次の要因について、当行と投資先および契約上の取決めの他の当事者との全体的な関係を考慮している。その要因とは、(i)当行の意思決定権限の範囲、(ii)他の当事者が保有する権利、(iii)当行が権利を有する報酬、および(iv)リターンの変動性に対する当行のエクスポージャーである。

支配の判定は、現在の事実と状況に基づき、継続的に行っている。別の要素や状況を単独でまたは全体的に評価するかによって、当該要素や状況が、別の当事者が企業を支配していることを示す場合もある。当行が企業に対する支配を有しているかの判定にあたり関連する要素および状況を全体的に評価する際に、重要な判断が行われる。具体的には、当行が関連性のある活動に関して実質的な意思決定権を有しているか、また当行がパワーを本人または代理人のいずれの立場で行使するかを評価する際に、判断が行われる。

当行は、当行が支配を獲得した日からすべての子会社を連結し、当行による支配が終了した時点で連結を中止している。連結に関する当行の結論は、当行の連結財務諸表における資産、負債、収益および費用の区分および報告金額に影響を与える。

当行の連結子会社に対する非支配持分は、当行の連結貸借対照表上、当行の株主に帰属する持分とは別に独立項目として表示されている。非支配持分に帰属する当期純利益は、当行の連結損益計算書において別個に開示されている。

共同支配企業および関連会社に対する投資

当行が重要な影響力を有している関連会社およびリミテッド・パートナーシップに対する当行の投資は、持分法により会計処理されている。持分法は、当行が共同支配を有する共同支配企業に対する持分にも適用されている。持分法では、投資は当初取得原価で計上され、取得日後の投資先の純損益に対する当行の持分(投資先のその他の包括利益(以下「OCI」という。))に対する当行の比例的持分を含む。)を認識することでその帳簿価額が増減する。

売却目的で保有する非流動資産および非継続事業

非流動資産(および処分グループ)は、その帳簿価額が、継続的使用ではなく主に売却取引により回収される場合には、売却目的保有に分類される。この条件に該当するのは、当該資産を現状のままで直ちに売却可能で、経営陣が売却を確約しており、かつその売却が1年以内に実行される可能性が非常に高い場合である。売却目的保有に分類された非流動資産(および処分グループ)は、これまでの帳簿価額と、売却コスト控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定され、重要性がある場合には、当行の連結貸借対照表上、その他の資産とは別個に表示される。

処分グループは、次のいずれかの条件を満たす場合に非継続事業として分類される。すなわち、(i)営業上および財務上、他の当行の営業活動と区別できる構成単位であり、(ii)独立の主要な事業分野を表すか、または主要な事業分野または営業地域を処分する統一された単一の計画の一部である場合である。非継続事業に分類された処分グループは、当行の連結損益計算書において当行の継続事業とは別個に表示される。

会計方針の変更

リース

2020年度第1四半期において、当行は従前のリースに適用してきた会計基準IAS第17号「リース」(以下「IAS第17号」という。)を置き換える、IFRS第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用し、リースに関する当行の会計方針を以下の通り変更している。また、当行はIFRS第16号の経過措置にて認められる通り、比較期間の数値を修正再表示しない選択適用を行っている。ゆえに、以下の通り、比較期間情報はすべて当行が従前まで適用していた会計方針に従って表示されている。当期は、該当がある場合、新規の開示または修正された開示が提供されているが、比較期間については前年度と同じものが開示されている。

金利指標改革

2020年度第1四半期において、当行はIFRS第9号「金融商品」、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」、IFRS第7号「金融商品：開示」の修正(以下「IFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正」という。)を2019年11月1日より早期適用した。この修正は、代替的な金利へ移行する前の期間に生じる金利指標改革(以下「改革」という。)に伴う不確実性の影響について、救済措置を設けるためにヘッジ会計の特定の規定を修正するものである。また、このIFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正の適用により、追加的な開示規定も導入されることになった。この改革により影響を受けるヘッジ手段の想定元本については注記8を参照のこと。

当行は、銀行間取引金利(以下「IBOR」という。)に基づくキャッシュ・フローから新たなリスクフリーの金利に基づくキャッシュ・フローへの移行が行われた時点、または救済措置の適用されたヘッジ関係が中止された時点で、以下の通りこれらIFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正の適用を終了する。

IFRS解釈指針委員会の解釈指針第23号「法人所得税の税務処理に関する不確実性」(以下「IFRIC第23号」という。)

2020年度第1四半期において、当行はIFRIC第23号を適用した。IFRIC第23号は、以下の通り、法人所得税の税務処理に不確実性がある場合に、IAS第12号「法人所得税」に基づき税金資産および負債を認識および測定する際のガイダンスを提供し、当行が不確実なポジションについて適用してきたIAS第37号「引当金、偶発負債及び偶発資産」を置き換えるものである。IFRIC第23号の適用による当行連結財務諸表への影響はなかった。

金融商品

金融資産の分類

金融資産は当初認識時に公正価値で測定され、当行の金融商品の管理に関する事業モデルおよび商品の契約上のキャッシュ・フローの特性に基づいて、純損益を通じて公正価値(以下「FVTPL」という。)で測定するもの、その他の包括利益を通じて公正価値(以下「FVOCI」という。)で測定するもの、または償却原価で測定するもののいずれかに分類され、事後測定される。

負債性金融商品は、以下の両方の要件を満たし、かつ、当該資産がFVTPLで測定するものとして指定されていない場合、償却原価で測定される。(a)当該資産が、下記の通り、キャッシュ・フローの回収のために保有(以下「HTC」という。)する事業モデルにおいて保有されている。(b)金融商品の契約条件により、元本および元本残高に対する利息の支払のみ(以下「SPPI」という。)であるキャッシュ・フローが生じる。

負債性金融商品は、下の両方の要件を満たし、かつ当該資産がFVTPLで測定するものとして指定されていない場合、FVOCIで測定される。(a)当該資産が、下記の通り、キャッシュ・フローの回収と売却のために保有(以下「HTC&S」という。)する事業モデルにおいて保有されている。(b)金融商品の契約条件により、特定の日にSPPIであるキャッシュ・フローが生じる。

その他の負債性金融商品はすべてFVTPLで測定される。

資本性金融商品は、資産が売買目的で保有されておらずFVOCIで測定するものとして指定するという取消不能の選択を当行が行う場合を除き、FVTPLで測定される。この選択は、金融商品ごとに実施される。

事業モデルの評価

当行は、事業目的達成のための金融資産ポートフォリオの管理方法を最もよく反映するレベルで、事業モデルを決定する。当行の事業モデルの決定は判断を伴うが、以下を含め関連性のある客観的証拠に裏付けられている。

- ・当行の事業の経済活動により、どのように利益がもたらされるか(例えば、トレーディング収益、利回りの引き上げ、あるいは資金調達またはその他のコストのヘッジ活動)、またこのような経済活動がどのように評価され主要な経営陣へ報告されているか
- ・「第一部 第3 2 事業等のリスク」の「最重要リスクおよび新興リスク」の項および「第一部 第3 3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「リスク管理」の各項に記載されている通り、当行の業績に影響を及ぼすような重要なリスク(例えば、市場リスク、信用リスクまたはその他のリスク等)、またこれらのリスクを管理するための活動

- ・事業モデルの一環として管理する貸出金または有価証券ポートフォリオの売却に関する過去の実績および将来の予想
 - ・報酬がどの程度事業モデルの経済的業績に直結しているかという当行の事業管理職の報酬構造
- 当行の事業モデルは、以下の3つの区分に分類され、収益獲得のための主要な戦略を示している。
- ・HTC:この事業モデルの目的は、契約上の元本および利息のキャッシュ・フローを回収するために貸付金および有価証券を保有することにある。売却はこの目的に付随的なものであり、重要性がないか頻度が低いことが予想される。
 - ・HTC&S:契約上のキャッシュ・フローの回収および売却のいずれも当事業モデルの目的達成に必要不可欠なものである。
 - ・その他の公正価値事業モデル:これらの事業モデルは、HTCおよびHTC&Sのいずれでもなく、主に資産が売買目的または公正価値ベースで管理されている事業モデルを示す。

SPPI評価

HTCまたはHTC&Sの事業モデルにて保有される金融商品は、その契約上のキャッシュ・フローが元本および利息の支払のみから構成されているかを判断するために評価される。SPPIの支払いは、基本的な融資の取決めにおいて通常期待されるものである。元本の金額には、融資の取決めによる額面の返済金額が含まれており、利息は主に、信用リスクおよび特定の期間における元本残高に関する貨幣の時間価値への対価を含む、基本的な融資のリターンに関するものである。利息には、金融資産を特定の期間保有することに伴うその他の基本的な融資のリスクおよびコスト(流動性リスク、サービシング・コストまたは管理コスト等)、ならびに利益マージンも含まれる。

契約上の条件により、基本的な融資の取決めと不整合なリスクまたはキャッシュ・フローの変動性が生じる場合は、関連する金融資産はFVTPLで測定するものとして分類され、測定される。

有価証券

トレーディング有価証券には、その性質によりFVTPLで測定するものとして分類される有価証券およびFVTPLで測定するものとして指定された有価証券すべてが含まれる。売却済み未購入のトレーディング有価証券の引渡義務は、負債として公正価値で計上されている。これらの有価証券に係る実現および未実現の利得および損失は、通常「トレーディング収益」または「利息以外の収益—その他」に計上されている。トレーディング有価証券に係る受取配当金および受取利息は、「受取利息」に計上されている。空売りされた利付証券および持分証券に関して発生した利息および配当金は、「支払利息」に計上されている。

投資有価証券には、FVOCIおよび償却原価で測定するものとして分類されるすべての有価証券が含まれる。すべての投資有価証券は、公正価値で当初計上され、その後は各分類に従って測定される。

償却原価で計上される投資有価証券は、実効金利法を用いて測定され、下記の通り、当行の信用損失引当金に関する方針に従って算定された信用損失引当金を控除した金額で表示されている。償却原価で測定される有価証券のプレミアムまたはディスカウントの償却を含む受取利息は、「受取利息」に計上される。償却原価で測定される有価証券について認識された減損利得または損失は、「信用損失引当金繰入額(以下「PCL」という。)」に計上される。償却原価で測定される負債性金融商品が売却された場合、売却時に、売却による収入額と有価証券の償却原価との差額が「利息以外の収益」の「投資有価証券に係る利得純額」に計上される。

FVOCIで計上される債務証券は公正価値で測定され、公正価値の変動により生じた未実現利得および損失は「その他の資本項目」に計上される。減損利得および損失はPCLに計上され、同時に「その他の資本項目」に含まれる公正価値の累積変動額が減額される。FVOCIで測定される負債性金融商品が売却された場合、利得または損失累計額は、「その他の資本項目」から「利息以外の収益」の「投資有価証券に係る利得純額」に振り替えられる。

FVOCIで計上される持分証券は公正価値で測定される。公正価値の変動により生じた未実現利得および損失は「その他の資本項目」に計上され、その後実現時に純損益に振り替えられることはない。FVOCI持分証券からの配当金は、「受取利息」に計上される。

当行は、すべての有価証券につき決済日基準により認識を行っている。FVTPLで測定される有価証券に係る取引日と決済日間の公正価値の変動は、収益として計上される。FVOCIで測定される有価証券に係る取引日と決済日間の公正価値の変動は、債務証券に係る為替相場の変動(これは「利息以外の収益－その他」に計上される。)を除き、OCIに計上される。

公正価値オプション

信頼性をもって測定可能な公正価値を有する金融商品は、その取得または発生が売却または買戻しを主な目的としたものでなかった場合でも、当初認識時にFVTPLで測定するものとして指定することができる(公正価値オプション)。金融資産に係る公正価値オプションは、指定を行わない場合に資産または負債の測定またはそれらに係る利得および損失の認識を異なる基準で行うことから生じるであろう測定または認識の不整合(以下「会計上のミスマッチ」という。)を、その指定を行うことにより除去または大幅に低減する場合に、使用することができる。金融負債に係る公正価値オプションは、(i)選択が会計上のミスマッチを除去すること、(ii)金融負債が、文書化されたリスク管理戦略または投資戦略に従い公正価値ベースで管理されるポートフォリオの一部であること、または(iii)金融商品または非金融商品である主契約に組込デリバティブが含まれており、当該デリバティブが主契約と密接に関連していない場合に、選択することができる。これらの金融商品は、保有または発行されている間、FVTPLの区分からの分類変更はできない。

FVTPLで測定するものとして指定された金融資産は公正価値で計上され、公正価値の変動により発生する未実現利得または損失はすべて、当行が金融資産を保有する事業目的により「トレーディング収益」または「利息以外の収益－その他」に含まれる。

FVTPLで測定するものとして指定された金融負債は公正価値で計上され、当行の自己の信用リスクの変動による公正価値の変動はOCIに計上される。OCIに認識された当行の自己の信用リスクの金額は、その後に純損益に振り替えられることはない。当行の自己の信用リスクの変動によらないその他の公正価値の変動は、当行が当該金融負債を保有する事業目的により「トレーディング収益」または「利息以外の収益－その他」に計上される。当初認識時に、自己の信用リスクの変動による影響をOCIに表示することが純損益における会計上のミスマッチを創出または拡大することになると当行が判断した場合には、FVTPLで測定するものとして指定された当行の債務の公正価値の変動の全額を純損益に認識している。この判断を行うにあたり、当行は、当該負債の信用リスクの変動の影響が、FVTPLで測定されるもう一つの金融商品の公正価値の変動により純損益において相殺されることが見込まれるかどうかを評価する。このような見込みは、当該負債の特性と他の金融商品の特性との経済的関係を基礎とする。この判断は当初認識時に行い、見直しは行わない。FVTPLで測定するものとして指定された当行の負債性金融商品に係る公正価値調整の決定にあたり、当行は、契約期間にわたる契約上のキャッシュ・フローに基づく当該金融商品の現在価値を、期首および期末時点の当行の実効調達金利を用いて算定している。

公正価値の算定

金融商品の公正価値は、測定日時点で、市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格である。当行は、市場参加者が価格設定にあたり考慮するであろうすべての要素(一般に認められている評価方法を含む。)を織り込んだ上で、公正価値を算定している。

取締役会は、主に監査委員会およびリスク委員会を通じて、金融商品の評価に対するモニタリングを行っている。監査委員会は、公正価値で測定される金融商品の表示および開示についてレビューを行い、リスク委員会は、当該商品の評価に関するガバナンス体制および統制プロセスの十分性を評価している。

当行は、評価方法および技法に関する方針、手続および統制を設定し、公正価値の合理的な見積りを確保している。主な評価プロセスおよび統制としては、損益の分解、独立した価格検証(以下「IPV」という。))およびモデルの検証基準があるが、これらに限定されない。これらの統制プロセスは、ファイナンス部門またはグループ・リスク管理部門のいずれかが運用しており、関連する事業部門およびそのトレーディング部門からは独立している。損益の分解は、一定のポジションの公正価値の変動について説明を行うプロセスであり、トレーディング・ポートフォリオについては日次で実施している。公正価値で測定される商品はすべて、IPV(トレーディング部門の評価額を外部の市場価格および他の関連市場データに照らして検証するプロセス)の対象である。市場データの情報源には、取引価格、ブローカーおよび価格算定業者が含まれる。当行は、第三者による価格算定サービスおよび価格のうち、最も継続的に正確性を有するものを優先している。正確性の程度については、第三者の価格をトレーダー価格やシステム上の値、その他の価格算定サービスの価格、また入手可能な場合には実際の取引データと比較することにより時間をかけて判断している。価格が古くなる等の問題がない限り、価格算定サービスまたはブローカーからの同一商品の相場価格は通常調整されない。同一商品について複数の相場価格を受領した場合、公正価値は、価格範囲外の異常値を取り除いた後の、受領価格の平均または最も信頼性の高い業者からの見積もりに基づいている。取引価格または相場価格が入手できない場合には、他の評価技法が使用される。一部の評価プロセスでは、公正価値の算定にモデルを使用している。当行は、体系的かつ一貫した方法でモデルの使用を管理している。評価モデルの使用は、当行のモデルリスク管理の枠内で認めている。この枠組みは、特にモデルの開発基準、検証過程および手続、ならびに承認権限について規定している。モデルの検証により、モデルを意図した使用に確実に合致したものとし、モデルに用いるパラメータを設定している。モデルはすべて、モデルの設計および開発から独立した一定の能力を有する担当者が定期的に再検証している。当行のモデルのリスク・プロファイルは、取締役会に年に1回報告されている。

IFRS第13号「公正価値測定」は、特定の要件が満たされた場合に、会計方針の選択により、金融商品のポートフォリオの公正価値を正味のオープン・リスク・ポジションに基づいて測定するという例外措置を認めている。当行は、この方針を選択適用し、デリバティブを主とする金融商品の特定のポートフォリオの公正価値を、市場リスクまたは信用リスクに対する正味エクスポージャーに基づいて算定している。

当行は評価調整を計上し、当行のデリバティブ・ポートフォリオの契約相手先の信用度、契約相手先の担保の実際のディスカウント・カーブと担保付デリバティブの標準的なオーバーナイト・インデックス・スワップ(以下「OIS」という。)ディスカунティングとの差異、無担保および担保不足の店頭(以下「OTC」という。)デリバティブに係る調達評価調整(以下「FVA」という。)、取引開始時の未実現利得または損失、呼び値スプレッド、観察可能でないパラメータならびにモデルの限界を適切に反映している。デフォルト率(以下「PD」という。)および回収率の推定等のインプットの選択には重要な判断が必要となるため、これらの調整は主観的となる可能性がある。これらの調整を行うことで、公正価値が、市場参加者が金融商品の値付けに使用するであろう仮定を基に算定した金額となることも意図している。取引の実勢価格は、経営陣の判断により過去に見積った計上金額とは異なる可能性がある。したがって、評価調整は、「利息以外の収益」の「トレーディング収益」または「その他」に認識される未実現利得および損失に影響を与える場合がある。

当行のデリバティブ・ポートフォリオの信用リスクに対して評価調整を計上し、公正価値となるようにしている。信用評価調整(以下「CVA」という。)には、当行の契約相手先の信用度、現在および潜在的な将来の取引の時価評価、ならびにマスター・ネットリング契約および担保契約等による信用リスクの軽減の影響が考慮されている。CVAの金額は、契約相手先ごとのデフォルト時エクスポージャー(以下「EAD」という。)、PD、回収率、ならびに市場要因と信用要因の相関に関する見積りから算定される。EADは、デフォルト発生時に予想されるデリバティブ関連資産および負債の評価額であり、基礎となるリスク要因を使用するモデルにより見積られる。PDは、通常、信用プロテクションの市場価格および契約相手先の信用格付けから推定される。市場データが入手できない場合は、市場参加者がこれらのインプットを用いて公正価値を算定する際に使用する仮定や調整を織り込んで見積られる。相関は、信用要因と市場要因が相互に関連してどのように動くのかに関する統計的な測定値である。相関は、過去のデータを使用して見積られる。CVAは日次で計算され、その変動は「利息以外の収益－トレーディング収益」に計上される。

また、FVAを計算し、無担保および担保不足のOTCデリバティブの評価に、調達に係るコストと便益を織り込んでいる。当該デリバティブの予想将来キャッシュ・フローは割引き、インプットとしてファンディング・カーブ、インプライド・ボラティリティおよび相関を用いることで、デリバティブの調達に係るコストと便益を反映させている。

金融商品の公正価値が相場価格から得られない、または他の観察可能な市場取引で裏付けることができない場合に、観察可能な市場データを組み込んだ評価技法に基づき、金融商品の契約開始時の未実現利得または損失を反映するよう、必要に応じて評価調整を行っている。

呼び値に係る評価調整は、資産または負債ポジションをそれぞれ買い呼び値または売り呼び値で評価せずに、金融商品を仲値で評価する場合に必要となる。この評価調整では、仲値と買い呼び値または売り呼び値のいずれかとのスプレッドを考慮している。

一部の評価モデルでは、市場で観察可能なオプション価格等の要素に対してパラメータの調整が必要となる。パラメータの調整は、商品や最適化の方法の選択等の要素の影響を受けることがある。評価調整は、パラメータの調整の不確実性やモデルの限界を軽減するためにも見積られる。

公正価値の算定には、評価技法へのインプットに優先順位を設定しているヒエラルキーを用いている。この公正価値ヒエラルキーが最も高い優先順位を与えているのは、同一の資産または負債に関する活発な市場における無調整の相場価格(レベル1)であり、最も優先順位が低いのは、観察可能でないインプット(レベル3)である。このヒエラルキーに基づく公正価値の算定には、入手可能な場合はいつでも、観察可能な市場データを使用することが要求されている。レベル1のインプットは、測定日における当行がアクセスできる同一の資産または負債に関する活発な市場における無調整の相場価格である。レベル2のインプットは、活発な市場における類似の資産または負債に関する相場価格、活発ではない市場における同一または類似の資産または負債に関する相場価格、および観察可能であるか資産または負債のほぼ全期間にわたり観察可能な市場データの裏付けがあるモデルのインプット等である。レベル3のインプットは、資産または負債の公正価値にとって重大な観察可能でない1つまたは複数のインプットである。観察可能でないインプットを公正価値の測定に使用するのには、測定日に観察可能なインプットが入手可能でない場合に限られる。評価に用いるインプットの入手可能性は、評価技法の選択に影響を及ぼす場合がある。金融商品のヒエラルキーの開示上の区分は、公正価値測定にとって重大なインプットのうち最も低いレベルに基づいている。

観察可能な価格またはインプットが入手可能でない場合、他の関連する情報源(過去のデータ、類似取引からの代替情報等)の評価や、補外法または補間法等、公正価値の算定には経営陣の判断が必要となる。より複雑または流動性の低い商品については、モデルのインプットの選択が主観的となりインプットが観察可能でないことがあるため、使用するモデルの決定、モデルのインプットの選択、また場合によっては活発に取引されていない金融商品のモデル評価額または相場価格に対する評価調整の適用にあたり、重要な判断が必要となる。観察可能でないインプットは本質的に不確実となるが、これは通常の事業環境で取引が生じるであろう価格水準の判断に利用可能な市場データがほとんどないか全くないためである。このような場合にはすべて、当該インプットに応じたパラメータの不確実性および市場リスクに係る評価調整ならびにその他のモデルリスクに係る評価調整について、評価を行っている。

貸出金

貸出金は、公正価値で当初認識され、その後上記の金融資産の分類方針に従って測定される負債性金融商品である。当行の貸出金の大部分は実効金利法を用いて償却原価で計上され、帳簿価額総額から信用損失引当金を控除した金額で示されている。

貸出金に係る利息は、実効金利法を用いて「受取利息」に認識される。この計算に使用する見積将来キャッシュ・フローには、資産の契約条件から決定される将来キャッシュ・フローおよび実効金利の一部とみなされたすべての手数料が含まれる。またこの金額には、取引コストおよび他のすべてのプレミアムまたはディスカウントが含まれる。貸出金の組成、条件変更、または再交渉等の業務に関連する手数料は、繰り延べられ、当該貸出金の予想期間にわたり実効金利法により「受取利息」に認識される。貸出の組成が合理的に予想される場合には、コミットメントおよびスタンドバイ手数料も、その結果として生じる当該貸出金の予想期間にわたり実効金利法により「受取利息」として認識される。それ以外の場合には、当該手数料は「その他の負債」に計上され、コミットメントまたはスタンドバイ期間にわたり償却され、「利息以外の収益」に計上される。モーゲージ貸出金に係る将来の繰上返済手数料は、組成時点の実効金利の一部には含まれない。繰上返済手数料が期日前のモーゲージ貸出金の更新時に受領された場合は当該手数料は実効金利の一部に含まれ、更新されなかった場合は当該手数料は繰上返済日に「受取利息」に認識される。

償却原価またはFVOCIで測定するものとして計上された貸付金の減損損失は、下記の通り、3つのステージから成る減損モデルに基づいて、各貸借対照表日に認識される。

信用損失引当金

信用損失引当金(以下「ACL」という。)は、FVTPLで測定するものとして分類または指定された金融資産およびFVOCIで測定するものとして指定された持分証券(これらは、減損評価の対象外とされる。)を除き、すべての金融資産に適用される。減損評価の対象となる資産には、貸出金、債務証券、利付銀行預け金、手形引受、受取債権および未収利息ならびにファイナンス・リース債権およびオペレーティング・リース債権が含まれる。償却原価で測定される貸出金に係るACLは、「信用損失引当金」として表示される。FVOCIで測定される債務証券に係るACLは、「その他の資本項目」に表示される。償却原価で計上されるその他の金融資産は、当行の連結貸借対照表上、ACL控除後の純額で表示される。

減損評価の対象となるオフバランス・シート項目には、金融保証および未使用のローン・コミットメントが含まれる。オフバランス・シート項目に係るACLは、個別に算定され「その他の負債－引当金」に含まれる。

当行は、各貸借対照表日のACLを、3つのステージから成る予想信用損失減損モデルに従って測定している。

・正常な金融資産

- ・ステージ1－金融資産の当初認識時から、資産の当初認識時以降の信用リスクが相対的に著しく増大した日までの間は、報告日からの12ヶ月間にデフォルトから生じると予想される信用損失相当の信用損失引当金が認識される。
- ・ステージ2－金融資産の当初認識時以降に信用リスクが相対的に著しく増大した場合は、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の信用損失引当金が認識される。

・減損した金融資産

- ・ステージ3－金融資産の信用が減損していると判断される場合には、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の信用損失引当金が認識される。受取利息は、当該資産の帳簿価額総額ではなく、信用損失引当金控除後の帳簿価額を基に計算される。

ACLは、関連する期間にわたりデフォルトから生じると予想される確率加重かつ割引後の回収不能額の見積りである。ローン・コミットメントの信用損失の見積りでは、関連期間にわたり使用が予想されるコミットメント部分が検討される。金融保証の信用損失の見積りは、保証契約に基づき求められる予想支払額を基礎とする。ファイナンス・リース債権に係る信用損失の見積りは、リース債権の測定に使用されたキャッシュ・フローと整合するキャッシュ・フローを基礎とする。

購入および新規の組成、認識の中止または満期、ならびに損失予想の変化またはステージの移動によるリスク、パラメータおよびエクスポージャーの変化に起因して求められるACLの増減は、PCLに計上される。償却および過年度に償却した金額の回収は、ACLを増減するように計上される。

ACLは、貸借対照表日における当行の金融資産に係る予想信用損失の偏りのない見積りを表している。ACLの計算にあたり行う仮定および見積りには、判断が必要とされ、これには3ステージ間の移動や、将来予測的な情報の適用が含まれる。基礎となる仮定および見積りにより各期間の引当金変動し、ひいては当行の業績に重要な影響を与える可能性がある。

予想信用損失の測定

予想信用損失は、一定範囲の生じ得る結果に基づいており、内外の格付、過去の信用損失の実績ならびに将来キャッシュ・フローに関する予想等、すべての利用可能な合理的で裏付け可能な情報が検討される。予想信用損失の測定は、主に金融商品のPD、デフォルト時損失率(以下「LGD」という。)およびEADの積を、報告日まで割り引いた金額に基づいている。正常な金融資産に係る予想信用損失のステージ1とステージ2の主な違いは、それぞれの算定期間である。ステージ1では、最長12ヶ月間の予測PD、LGDおよびEADを見積るが、ステージ2では、金融商品の残存期間にわたる予測PD、LGDおよびEADを見積る。

予想信用損失の見積りは、各個別エクスポージャーに対して実施される。関連するパラメータは、将来予測的な情報を適宜織り込むことが認められたセグメント化されたポートフォリオを用いて集合的にモデル化される。モデル化において考慮されないその他の特性を反映するため、最終的な予想信用損失の決定においては、専門家の信用に関する判断が行われる。

割合は少ないものの、当行のポートフォリオのうち詳細な過去情報および/または損失実績が欠如する部分については、当行は上記とは異なる簡素化された測定アプローチを適用している。これらのアプローチは、各ポートフォリオについて信頼性があり裏付け可能な、利用可能情報を最大化するよう設定されており、集合的な性質をもっていると言える。

予想信用損失は、実効金利を用いて報告期間日まで割り引かれる。

予想期間

ステージ2およびステージ3の金融商品に係る信用損失引当金は、金融商品の予想残存期間にわたる予想信用損失を反映している。ほとんどの金融商品の予想期間は、契約上の残存期間に限定されている。

ただし、次の特性をもつ一部の金融商品については例外規定が定められている。(a)金融商品が貸出金部分と未使用コミットメント部分の両方を含んでいる、(b)当行が、返済を要求し未使用コミットメントを解約する契約上の能力を有している、(c)信用損失に対する当行のエクスポージャーは、契約上の通知期間に限定されない。この例外規定が適用される商品の予想期間は、契約上の残存期間を超える可能性があり、かつ、当行の通常の信用リスク管理行動によって当行の信用損失に対するエクスポージャーが軽減されない期間である。当該期間は、商品およびリスク区分ごとに異なり、同様のエクスポージャーに関する当行の過去の実績および当行の定期的なクレジット・レビューの一環として実施された信用リスク管理行動に基づいて見積られる。この例外規定の適用となる商品には、クレジットカード、当座貸越枠および特定のリボルビング与信枠が含まれる。この例外規定の適用となる金融商品の決定、ならびに当行の過去の実績および信用リスクの軽減措置に基づく適切な残存期間の見積りには、重要な判断が必要とされる。

信用リスクの著しい増大に関する評価

信用リスクの著しい増大を評価するためには、重要な判断が必要とされる。ステージ1とステージ2の間の移動は、報告日現在の金融商品の信用リスクが、当初認識日から相対的に著しく増大したかどうかに基づく。本評価において、信用リスクは、発生が予想される損失ではなく、金融商品の全期間PDに基づく。評価は、通常は金融商品ごとに実施される。

当行では、信用リスクの著しい増大に関する評価を、少なくとも四半期ごとに3つの要素に基づいて実施している。以下のいずれかの要素により、信用リスクが著しく増大していることを示す場合、金融商品はステージ1からステージ2に移動する。

- (1)当行は、信用リスクの著しい増大の基準を、当初認識時と比較した場合の全期間PDの変化率および絶対値の変動の両方に基づいて設定した。当行のホールセール・ポートフォリオについては、信用リスクの著しい増大の決定において、借手のリスク格付けの格下げの事実が必要である。
- (2)信用リスクが著しく増大した状態をより適切に反映させるため、追加的に定性的レビューを行い、ステージに関する結果を評価し、必要に応じて調整を行う。
- (3)期日経過30日以上金融商品は通常、当行のその他の指標が信用リスクの著しい増大を示していない場合でも、信用リスクが著しく増大しているとみなされる。

ステージ1からステージ2への移動基準は、その逆も同様の基準である。金融資産のステージ2への移動後に、信用リスクが当初認識時から相対的に著しく増大したともはやみなされなくなった場合、金融資産はステージ1に再移動する。

報告日において信用リスクの低い一部の金融商品については、信用リスクは当初認識時から相対的に著しく増大してはいないと推定される。金融商品のデフォルト・リスクが低く、借手が、経済状況または事業環境に不利な変化が生じる期間を含め、近い将来および長期のいずれにおいても契約上の義務を履行する能力を有する場合、信用リスクは低いとみなされる。一部の利付銀行預け金、売戻し条件付購入資産、保険契約者への貸出金および当行のマルチセラー型導管体に対する流動性ファシリティについては、信用リスクが低いと識別されている。

当行は、COVID-19のパンデミックにおいて当行顧客に対する支援を行うため、様々な救済プログラムを開始している。支払猶予プログラムを利用した場合でも、他のすべての条件が同じであれば、自動的に信用リスクが著しく増大したとみなされることはない。

将来予測的な情報の使用

各ステージの予想信用損失の測定および信用リスクの著しい増大の評価においては、過去の事象および現在の状況に関する情報、ならびに将来事象および経済状況に関する合理的で裏付け可能な予測が検討される。見積りおよび将来予測的な情報の適用においては、重要な判断が必要とされる。

ステージ1およびステージ2の信用損失引当金の見積りに使用されるPD、LGDおよびEADのインプットは、対象となるポートフォリオの信用損失に最も密接に関連するマクロ経済変数(またはマクロ経済変数の変動)に基づきモデル化されている。当行の予想信用損失の算定に使用される各マクロ経済シナリオには、当行のモデルにおいて5年間(その後の期間は長期平均に変更される。)に関連するとして使用されたマクロ経済変数の予測すべてが含まれている。当行の予想信用損失モデルに使用されるマクロ経済変数には、失業率、国内総生産の成長率、株主資本配当率の指標、コモディティ価格およびカナダの住宅価格等が含まれるが、これに限定されるものではない。モデルでの使用方法により、マクロ経済変数は、国、地方/州、またはより細分化されたレベル別に予測される。

当行のステージ1およびステージ2における予想信用損失の見積りは、最低でも3つの将来マクロ経済シナリオを織り込み割り引いた確率加重の見積りである。当行の基本シナリオは、当行の内部経済アナリストグループが発行したマクロ経済予測に基づいている。上振れシナリオおよび下振れシナリオは、合理的に起こりうる代替的なマクロ経済状況に基づく当行の基本シナリオに対して相対的に変化する。一定のセクターについては広域な潜在的信用損失をとらえるために、追加的なより厳しい下振れシナリオが設定されている。追加的な下振れシナリオの識別を含めたシナリオの設定は、少なくとも年に一度、また状況によってはより頻繁に実施される。

シナリオは、起こりうる結果を広範囲でとらえるように設定され、また各シナリオが示す結果の範囲にある相対的発生可能性についての当行の最善の見積りに従って加重されている。シナリオの加重では、過去の頻度、現在の傾向および将来予測的な状況が考慮され、四半期ごとに更新される。検討されるすべてのシナリオは、同一確率の予想信用損失を有するすべてのポートフォリオに適用される。

信用リスクの著しい増大に関する当行の評価は、予想信用損失の算定と同一のマクロ経済シナリオを用いて、確率加重された報告日現在の将来予測的な全期間PDの変動に基づいて行われる。

デフォルトの定義

予想信用損失の測定に使用されるデフォルトの定義は、当行の内部信用リスク管理に使用されるデフォルトの定義と同一である。当行のデフォルトの定義は、商品により異なり、また財務特約条項や延滞日数等の定量的要素および定性的要素の両方が検討される。リテールおよびホールセールの借手については、下記の場合を除き、当行に対する重要な債務について借手の返済が90日超遅延した時点、および/または保有担保があれば正式な所有権を取得する等当行が遡及措置を行わない限り借手が全額返済を行う可能性が低いと当行がみなした場合に、デフォルトとなる。一部のクレジットカード残高については、支払いが180日遅延した時点でデフォルトとなる。当該残高については、期日経過90日を超える期間の利用は合理的であり、過去のクレジットカード・ポートフォリオにおける償却および回収率の実績に関する観測可能なデータに裏付けられている。使用したデフォルトの定義は、その他のデフォルトの定義の方がより適切である等状況が変化した場合を除き、すべての金融商品に対して複数期間にわたり継続適用されている。

信用減損している金融資産(ステージ3)

金融資産に係る信用減損の評価は、各貸借対照表日ごとに、また状況によりさらに評価が必要となる場合はより頻繁に実施される。信用減損の証拠としては、借手の著しい財政的困難、破産またはその他の財務的再編の可能性、および借手の支払状況の悪化またはデフォルトと相関する経済状況から証拠付けられる測定可能な見積将来キャッシュ・フローの減少等が挙げられる。ステージ3にある資産は、報告日において信用減損しているとはもはやみなされなくなった場合に、ステージ2に戻される。報告日現在の信用リスクが当初認識時から相対的に著しく増大したとはもはやみなされない場合、資産はステージ1に戻されるが、これはステージ3からステージ2への移動と同一の報告期間にも生じる場合もある。

金融資産が信用減損していると識別された場合、予想信用損失は、資産の総帳簿価額と、見積将来キャッシュ・フローを金融商品の当初の実効金利で割り引いた現在価値との差額として測定される。使用済および未使用の構成要素を有する減損した金融資産の予想信用損失は、金融商品の残存期間にわたり使用されると予想されるローン・コミットメント部分に関する信用損失も反映する。

金融資産が信用減損している場合、資産の総帳簿価額に基づいて収益を未収計上する、通常の発生主義ベースでの利息の認識は中止される。その代わり、受取利息は総帳簿価額から関連ACLを控除した資産の償却原価に対して当初の実効金利を適用することにより算定される。減損処理後、減損の当初認識から割引の振戻しとして、受取利息が認識される。

ステージ3にある信用減損している貸出金のACLは借手ごとに設定され、減損している貸出金に係る損失は、個別に重要な貸出金について識別するか、または特定の貸出金を参照せずに、ポートフォリオ別のレートを使用して集合的に評価および決定される。

貸出金の個別評価(ステージ3)

個別に重要な貸出金が減損していると識別された場合、当行は、識別された信用損失をカバーするため個別に評価されたACLを計上することにより、貸出金の帳簿価額を見積実現可能価額まで減額する。個別に評価されたACLは、当初の融資契約条項に基づき算定された元本および利息のうち回収されないと予想される価額、ならびに元本および/または利息の回収遅延の影響(貨幣の時間価値)を反映している。個別に重要な各貸出金の見積実現可能価額は、見積将来キャッシュ・フローを各貸出金の当初の実効金利で割り引いた現在価値である。将来キャッシュ・フローの金額および時期について、合理的に信頼性のある見積りを行うことができない場合、見積実現可能価額は、比較可能な貸出金の観察可能な市場価額、貸出金に付された担保の公正価値、および経営陣の判断に基づくその他の合理的かつ裏付け可能な方法を用いて決定される。

個別に評価された貸出金に対する引当金は、一定範囲の生じ得る結果を検討の上算定される。一定範囲の生じ得る結果には、被評価者である特定の借手の状況に関連する範囲において、マクロ経済およびマクロ経済以外のシナリオが含まれる可能性がある。予想将来キャッシュ・フローの見積りに使用される仮定は、現在および予想される将来経済状況を反映しており、通常は、ステージ1およびステージ2の測定に使用されるものと同一である。

予想信用損失の決定には、信用減損の証拠の評価ならびに将来キャッシュ・フローの金額および時期の見積りの評価において重要な判断が必要とされる。回収見込額の増減は、PCLに直接的な影響を及ぼし、ACLの増減を生じさせることがある。

貸出金の集成的評価(ステージ3)

集成的に評価された貸出金は、貸出金の種類、業種、地理的所在地、担保の種類、延滞状況およびその他の関連する要因を考慮の上、類似のリスク特性に基づきグルーピングされる。

集成的に評価されたACLは、(i)当初の融資契約条項に基づき算定された元本および利息のうち回収されないと予想される価額、ならびに(ii)元本および/または利息の回収遅延の影響(貨幣の時間価値)を反映している。

元本および利息の予想回収額は、類似の信用リスク特性を有する比較可能なポートフォリオの過去の損失実績を参照して、現在の環境および予想される将来の状況を調整の上、ポートフォリオごとに見積られる。集成的に評価されたACLの決定においては、減損している貸出金残高に対してポートフォリオ固有のカバレッジ率が適用される。貨幣の時間価値要素は、共通の特性を有する貸出金グループに適用された割引要素を用いて算定される。割引要素は、比較可能な貸出金グループの予想回収パターンを表しており、またそれらグループの過去の実績を現在および予想される将来の経済状況および/または事業の要素を調整の上で反映している。予想信用損失の決定には、減損の証拠の評価、ならびに将来キャッシュ・フローの金額および時期の見積りの評価において重要な判断が必要とされる。回収見込額の増減は、PCLに直接的な影響を及ぼし、ACLの増減を生じさせることがある。

貸出金の償却

現実的に回収の見込みがない場合、貸出金および関連するACLの一部または全額が償却される。担保付貸出金の場合、通常、担保の実現による入金額を受領後に償却される。担保の正味実現可能価額が確定しており、かつ今後の合理的な回収見込みがない場合には、より早期に償却されることがある。クレジットカード債権については、通常、支払いが180日遅滞した時点で残高および関連するACLが償却される。個人向け貸出金は、通常、支払いが150日遅延した時点で償却される。

条件変更

金融資産に係る当初の条件が再交渉または条件変更され、それにより契約上のキャッシュ・フローに影響を及ぼすような金融資産の契約条件の変更が生じることがある。このような条件変更の取り扱いは主に、再交渉を実施するために行われたプロセス、ならびに予想される変更の内容および範囲に基づいている。通常の事業の過程において、信用を理由として実施される条件変更は、主に不良債権のリストラクチャリングに関するものであり、通常は当初の金融資産の条件変更として取り扱われる。信用以外を理由として実施される条件変更は、通常は当初のキャッシュ・フローの終了とみなされるため、当初の金融資産の認識の中止および新しい金融資産の認識として取り扱われる。

COVID-19のパンデミックの影響により、当行は、支払猶予、金利引下げ、制限条項免除、および借換えまたは与信のリストラクチャリングを通じて、銀行の個人顧客および企業顧客がCOVID-19のパンデミックという課題に対処できるよう支援する救済プログラムを設けている。場合によっては、関連する金融資産の当初の条件が再交渉または条件変更され、その結果、契約上のキャッシュ・フローに影響を与える金融資産契約の契約条件が変更されることもある。これらのプログラムにおいて当初の金融資産の契約条件から大幅な変更がある場合、当行は金融資産の認識を中止し、新たな金融資産を認識している。

条件変更により、金融資産の認識の中止が生じない場合は、金融資産の帳簿価額は、再交渉または条件変更された契約上のキャッシュ・フローを当初の実効金利で割り引いた現在価値として再計算され、利得および損失が認識される。当該金融資産については上記の通り、信用リスクの当初認識時からの相対的な著しい増大および信用減損の評価が引き続き同じように行われる。条件変更された金融資産は、信用減損していると識別された状況がもはや存在せず、客観的に当初の信用減損が認識された後に生じた事象に関するものである場合、ステージ3から移動する。条件変更された金融資産は、全期間PD、期日経過およびその他の定性的検討事項の変化に基づいて信用リスクの著しい増大を識別するための相対基準をもはや満たさない場合、ステージ2から移動する。金融資産は、信用リスクの著しい増大および信用減損について継続的に監視される。

条件変更により、当初の金融資産の認識が中止され、新しい金融資産が認識された場合、新しい金融資産は、再交渉の時点で信用減損が生じていると判断されない限り、通常はステージ1として計上される。信用リスクの著しい増大の評価においては、新しい金融資産の当初認識日は条件変更日である。

デリバティブ

デリバティブが他の金融商品または主契約に組み込まれている場合、当該混合契約は混合金融商品である。混合金融商品のキャッシュ・フローの一部は単独のデリバティブと同様に変動する。主契約がIFRS第9号の適用範囲にある金融資産である場合、当注記2の「金融資産の分類」の項に記載される分類および測定の基準が混合金融商品全体に適用される。主契約が金融負債またはIFRS第9号の適用範囲にはない金融資産であり、その組込デリバティブの経済的特性およびリスクが主契約と明確かつ密接に関連していない場合、上記の公正価値オプションを選択した場合を除き、組込デリバティブは区分処理される。主契約は、関連する会計基準に従って会計処理される。

デリバティブは、主にトレーディング活動において利用される。デリバティブは、金利、通貨、信用およびその他の市場リスクに対する当行のエクスポージャーを管理するためにも利用されている。最も頻繁に利用されるデリバティブ商品は、金利および外国為替スワップ、オプション、先物、先渡取引、エクイティ・スワップならびに信用デリバティブである。すべてのデリバティブ商品は、当行の連結貸借対照表上、公正価値で計上されている。

デリバティブが、トレーディング活動において使用される場合、これらデリバティブに係る実現および未実現の利得および損失は、「利息以外の収益」の「トレーディング収益」に認識される。公正価値がプラスのデリバティブは「デリバティブ資産」として報告され、また、公正価値がマイナスのデリバティブは「デリバティブ負債」として報告される。金融資産と金融負債の相殺に関する当行の方針に従い、特定のデリバティブ資産およびデリバティブ負債の正味の公正価値は、適宜資産または負債として報告される。評価調整は、「デリバティブ資産」および「デリバティブ負債」の公正価値に含まれている。支払プレミアムおよび受取プレミアムは、それぞれ「デリバティブ資産」および「デリバティブ負債」に計上されている。

当行は、デリバティブを当行のエクスポージャー管理に利用する場合、以下のヘッジ会計の項に記載の通り、各デリバティブにつきヘッジ会計の適用の可否を判断している。

金融資産の認識の中止

当行の連結貸借対照表上、金融資産の認識の中止を行うのは、金融資産のキャッシュ・フローに対する当行の契約上の権利が消滅した場合、当行が当該資産のキャッシュ・フローを受け取る権利を保持しているが特定のパススルー規定において第三者に当該キャッシュ・フローを支払う義務を引き受けている場合、または当行がキャッシュ・フローを受け取る当行の契約上の権利を移転し当該資産のリスクと経済価値のほとんどすべてを移転している場合、である。当行が譲渡資産のリスクと経済価値のほとんどすべてを保持している場合には、当該譲渡資産は当行の連結貸借対照表上認識の中止を行わず、担保付の資金調達取引として会計処理される。当行が当該資産の所有に伴うリスクと経済価値のほとんどすべてを保持も移転もしていない場合に、当該資産に対する支配を放棄していれば、当該資産の認識を中止している。当行が譲渡資産に対する支配を保持している場合には、当行の継続的関与の範囲で当該譲渡資産の認識を継続している。

経営陣の判断は、譲渡資産のキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅したかどうか、または当行が譲渡資産に係るキャッシュ・フローを受け取る権利は保持しているが当該キャッシュ・フローを引き渡す義務を有しているかどうかの判断に用いる。金融資産の所有に伴うリスクと経済的価値のほとんどすべてを移転した場合に、当行は譲渡資産の認識を中止している。経営陣は、当行が譲渡資産のリスクと経済的価値のほとんどすべてを移転したかどうかの評価にあたり、譲渡の前後における譲渡資産の正味キャッシュ・フローの金額および時期の変動性に対する当行のエクスポージャーについて考慮している。当行がサービシング権を保持する譲渡において、市場予測に照らしたサービシングの便益の評価にあたり経営陣の判断を用いている。サービシングの便益が公正価値を上回る場合、サービシング資産が当行の連結貸借対照表の「その他の資産」に認識される。サービシングの便益が公正価値を下回る場合には、サービシング負債が当行の連結貸借対照表の「その他の負債」に認識される。

金融負債の認識の中止

契約で特定された当行の債務が失効、免責または取り消しとなった場合に、当行は連結貸借対照表上、金融負債の認識を中止している。当行は、譲渡された金融負債の帳簿価額と支払対価との差額を当行の連結損益計算書に認識している。

利息

利付金融商品に係る利息はすべて、連結損益計算書の「受取利息」および「支払利息」に認識される。実効金利とは、金融資産または負債の予想期間にわたる見積将来キャッシュ・フローを当初認識時の正味帳簿価額まで割引く利率である。将来キャッシュ・フローの時期および金額は不確実であるため、実効金利の算定には重要な判断が用いられる。

受取配当金

受取配当金は、支払いを受ける権利が確定した時点で認識される。これは、上場持分証券については配当落日であり、非上場の持分証券については通常、株主の配当承認日である。

取引コスト

FVTPLで測定するものとして分類または指定された金融商品に係る取引コストは、発生時に費用計上される。その他の金融商品に係る取引コストは、当初認識時に資産計上される。償却原価で測定される金融資産および金融負債に関して資産計上された取引コストは、金融商品の見積期間にわたり実効金利法により償却され、純損益に計上される。固定または決定可能な支払金額も固定の満期も有しない、FVOCIで測定される金融資産に関して資産計上された取引コストは、当該資産の認識の中止時または減損の発生時に純損益に認識される。

金融資産と金融負債の相殺

金融資産および金融負債に認識されている金額を相殺する法的に強制可能な権利が存在し、かつ純額で決済するかまたは資産の実現と負債の決済を同時に実行する意図が存在する場合に、その金融資産および金融負債は貸借対照表上相殺される。

売戻し条件付購入資産および買戻し条件付売却資産

当行は、売戻し契約(以下「売戻し条件付契約」という。)に基づき有価証券を購入および保有している。当行は、当該購入有価証券の市場価値をモニタリングし、必要な場合には追加担保を受領している。当行は、契約相手先が債務不履行となった場合には、保有担保を現金化する権利を有している。売戻し条件付契約は、担保付の貸付取引として扱われる。また当行は、買戻し契約(以下「買戻し条件付契約」という。)に基づき有価証券を売却している。買戻し条件付契約は、担保付の借入取引として扱われる。当行の連結貸借対照表上、売戻し条件付契約に基づき受領した有価証券は認識せず、買戻し条件付契約に基づき引き渡した有価証券については認識の中止を行っていない(ただし、所有に伴うリスクと経済価値を取得または放棄した場合を除く。)。

売戻し条件付契約および買戻し条件付契約は当行の連結貸借対照表上、FVTPLで測定されるものとして分類または指定され公正価値で計上される場合を除き、有価証券を当初取得または売却した金額でそれぞれ計上している。当行の連結損益計算書上、売戻し条件付契約に係る受取利息は「受取利息」に、買戻し条件付契約に係る支払利息は「支払利息」に含まれている。FVTPLで測定するものとして指定された売戻し条件付契約および買戻し条件付契約に係る公正価値の変動は、「利息以外の収益」の「トレーディング収益」または「その他」に含まれている。

ヘッジ会計

当行は、IFRS第9号ではなく、IAS第39号に従ってヘッジ会計を継続適用することを選択した。

当行は、金利リスク、為替リスク、信用リスクおよびその他の市場リスクに対する当行のエクスポージャーを管理するために、ヘッジ戦略上、デリバティブおよび非デリバティブ商品を利用している。ヘッジ会計が適用可能な場合、開始時にヘッジ関係の指定および文書化を行い、ヘッジ取引開始にあたっての特定のリスク管理目的および戦略について詳細に記載している。文書化の際には、ヘッジ対象となる具体的な資産、負債または予想キャッシュ・フロー、ヘッジ対象リスク、利用するヘッジ手段の種類、および有効性評価の方法を特定している。当行は、ヘッジの開始時およびその後の期間において、ヘッジ手段がヘッジ対象の公正価値またはキャッシュ・フローの変動を相殺する上で「非常に有効である」かについて評価を行っている。ヘッジは、次の要件をいずれも満たす場合にのみ、非常に有効であると判断される。すなわち、(i)ヘッジの開始時およびヘッジ期間を通じて、ヘッジがヘッジ対象リスクに起因する公正価値またはキャッシュ・フローの変動を相殺する上で非常に有効であると見込まれることと、(ii)ヘッジの実際の結果が予め定めた範囲内であることである。当行は、ヘッジ関係が有効であったか、またヘッジの残存期間にわたり有効であると考えられるかを明らかにするため、有効性の評価を行っている。予定取引のヘッジの場合、予定取引の実行可能性が非常に高く、かつ、キャッシュ・フローの変動可能性に対するエクスポージャーが最終的に報告純損益に影響し得るものである必要がある。ヘッジ会計の中止は、ヘッジ手段がもはやヘッジとして有効ではないと判断された場合、ヘッジ手段またはヘッジ対象が終了または売却された場合、もしくは予定取引の実行可能性が非常に高いとはいえなくなった場合に行われる。ヘッジ関係ごとに区分したデリバティブおよび非デリバティブ商品、ならびにヘッジ関係の指定がないデリバティブの公正価値については、注記8を参照のこと。

IFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正の適用対象であるヘッジ関係について改革による不確実性はあるものの、2019年11月1日以降の当行の将来に向かっての有効性の評価は、すでにヘッジされているキャッシュ・フローおよびヘッジ対象リスクに基づいて行われている。遡及的な評価で特定された非有効部分は、ヘッジ会計の他の適用要件を満たす限りヘッジの中止とはせずに、当期純利益に認識している。

公正価値ヘッジ

公正価値ヘッジでは、ヘッジ対象の帳簿価額はヘッジ対象リスクに起因した公正価値の変動について調整され、当該公正価値の変動は「利息以外の収益」に認識される。ヘッジ対象の公正価値の変動は、ヘッジ関係が有効な範囲でヘッジ手段のデリバティブの公正価値の変動と相殺され、当該公正価値の変動も「利息以外の収益」に認識される。ヘッジ会計が中止された場合には、ヘッジ対象の帳簿価額は調整されなくなり、ヘッジ対象の帳簿価額に対する公正価値調整額の累計額は、ヘッジ対象の予想残存期間にわたり償却され、当期純利益に計上される。

当行は、金利変動に起因した固定利付商品の公正価値の変動に対する当行のエクスポージャーのヘッジに、主に金利スワップを利用している。IFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正を適用した結果、改革による不確実性はあるものの、当行は2019年11月1日以降、ヘッジ関係の開始時にIBORが独立して識別可能でかつ信頼性をもって測定可能であれば、契約上定められていない場合でも当該IBORにヘッジ会計を適用している。

キャッシュ・フロー・ヘッジ

キャッシュ・フロー・ヘッジ関係においては、ヘッジ手段であるデリバティブの税引後の公正価値変動の有効部分はOCIに認識され、関連する予定取引が発生する時点で純損益に振り替えられる。一方、非有効部分は「利息以外の収益」に認識される。ヘッジ会計が中止された場合には、これまで「その他の資本項目」に認識されていた累計額は、ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動が「受取利息純額」に影響を与える期間に、「受取利息純額」に振り替えられる。デリバティブに係る未実現利得および損失は、ヘッジ対象が売却または期限前解約された時点、または予定取引の発生が見込まれなくなった時点で、直ちに当期純利益に振り替えられる。

改革による不確実性はあるものの、2019年11月1日以降、当行はIFRS第9号、IAS39号およびIFRS第7号の開示の修正により提供された救済措置を適用しており、当該措置によれば発生可能性の非常に高いヘッジ対象であるキャッシュ・フローが基礎とするIBORの指標は、改革により変更されることはない。さらに、IBORから新たなリスクフリーの金利への移行により生じる変動のみを理由として、関連するキャッシュ・フロー・ヘッジ剰余金が当期純利益にリサイクルされることもない。

当行は、変動利付資産または負債に関連するキャッシュ・フローの変動性のヘッジに、主に金利スワップを利用している。

純投資ヘッジ

在外営業活動体に対する純投資に係る当行の外貨エクスポージャーのヘッジにおいては、ヘッジ手段に係る税引後の為替差損益の有効部分はOCIに認識され、非有効部分は「利息以外の収益」に認識される。これまで「その他の資本項目」に認識されていた金額またはその一部は、在外営業活動体の処分または一部の処分が行われた時点で、当期純利益に認識される。

当行は、為替契約および外貨建負債を利用して、カナダドル以外の機能通貨を有する在外営業活動体に対する純投資に係る当行の外貨エクスポージャーを管理している。

保証

金融保証契約は、特定の債務者が負債性金融商品の当初または変更後の契約に従った期日の到来時に支払いを行わないことにより契約保有者に発生する損失を、その保有者に対し補償するために特定の支払い(現金、その他の資産、自己株式またはサービスの提供による。)を行うことが、偶発的に当行に要求される契約である。保証の開始時点において、保証の発行により引き受けた債務の公正価値が当行の連結貸借対照表に負債として認識される。金融保証契約は、当初認識後、(i)予想信用損失の金額と(ii)当初認識額から認識した収益の累計額(該当がある場合)を控除した金額のいずれか高い金額で再測定される。

金融保証契約がデリバティブの定義を満たす場合、当該契約は貸借対照表日ごとに公正価値で測定され、当行の連結貸借対照表の「デリバティブ」に含めて報告される。

保険および個別分離運用型基金

生命保険を主とする長期契約の保険料は、「利息以外の収益－保険料、投資および手数料収入」に、期日到来時点で認識される。損害保険を主とする短期契約の保険料、および事務管理サービスに対する手数料は、関連する契約期間にわたり、「保険料、投資および手数料収入」に認識される。保険料の未経過部分である短期契約の未経過保険料は、「その他の負債」に計上されている。当行の保険事業が行う投資は、FVOCIおよび償却原価で測定される金融商品に分類される。ただし、生命保険契約および医療保険契約ならびに一部の損害保険契約に係る保険給付負債の裏付けとなる投資については、FVTPLで測定するものとして指定され、公正価値の変動は「保険料、投資および手数料収入」に計上される。

未払保険金および保険給付負債は、現在の保険金請求額および将来の保険給付の見積額である。生命保険契約に係る負債は、カナダの資産負債法(以下「CALM」という。)により算定される。この方法は、死亡率、罹病率、保険契約の失効および解約、投資利回り、契約者配当金、運営および契約維持費、ならびに不利な変動に対する安全割増に関する仮定が織り込まれている。これらの仮定は、少なくとも年1回見直され、また実績や市況に応じて更新される。損害保険に係る負債は、既報告および未報告の請求額に対する引当の見積額である。生命保険および損害保険に係る負債は、「未払保険金および保険給付負債」に計上されている。未払保険金および保険給付負債の増減は、見積りが変更された期間に、当行の連結損益計算書の「保険契約者に対する給付、保険金および新契約費」に計上されている。

保険契約者に対する給付および保険金発生額に関する出再保険料および再保険金は、適宜、収益および費用として報告される。未収再保険金(支払済みの給付および未払保険金に関連)は、「その他の資産」に計上されている。

新規の保険契約に係る新契約費は、募集手数料、保険料税、一定の引受業務費用、およびその他の費用から構成され、これらの費用は新規契約の獲得ごとに異なる。生命保険商品に係る繰延新契約費は、CALMにより「未払保険金および保険給付負債」に非明示的に認識される。損害保険については、当該費用は「その他の資産」に分類され、保険期間にわたり償却される。

個別分離運用型基金は、原基金が保有する投資の市場価値に給付額が直接連動する、当行発行の保険契約商品である。この保険契約の取決めは、基礎となる個別分離運用型基金資産は当行名義であるが、当該基金の投資成績に係るリスクと経済価値は個別分離運用型基金の保険契約者が負担する内容となっている。この契約に係る負債は、契約上の債務に基づき数理計算上の仮定を用いて算定され、少なくとも、関連する原基金または原指数の値を参照して計算された解約額または移管額相当となる。個別分離運用型基金の資産および負債は、当行の連結貸借対照表上別個に表示されている。個別分離運用型基金の投資成績に係るリスクと経済価値は当該基金の保険契約者が負担するため、個別分離運用型基金が稼得した投資収益と当該基金に発生した費用は相殺されており、当行の連結損益計算書上別個に表示されていない。当行が分離運用型基金から得る受取手数料には、運用報酬、危険保険料、保険契約管理料および解約控除金が含まれており、これらの手数料は、「利息以外の収益－保険料、投資および手数料収入」に計上されている。当行は、個別分離運用型基金に関して、最小限の死亡給付金および償還価額保証を提供している。これらの最低保証に関連する負債は、「未払保険金および保険給付負債」に計上されている。

保険契約負債の十分性を確保するため、貸借対照表日ごとにすべての保険契約ポートフォリオについて負債の十分性テストが実施される。当該テストでは、契約上の将来キャッシュ・フロー、保険金請求処理費用および管理費、ならびに負債に対応する資産の投資収益に関する現在の最善の見積額が考慮される。当該テストの結果、負債の計上額が不足していることが判明した場合には、「その他の資産」に含まれる繰延新契約費の減額および/または「未払保険金および保険給付負債」の増額により、不足額を当行の連結損益計算書の費用に即時認識している。

従業員給付－年金およびその他の退職後給付

当行の確定給付年金費用は、「利息以外の費用－人件費」に計上されており、その内訳は当期の勤務に対する従業員年金給付費用、確定給付負債(資産)の純額に係る利息純額、過去勤務費用および清算損益である。確定給付制度債務の純額の再測定は、数理計算上の差異および制度資産に係る収益(確定給付負債の純額に係る利息純額に含まれている金額を除く。)から構成されており、発生した期間にOCIに即時認識している。数理計算上の差異は、実績による修正(事前の数理計算上の仮定と実際の結果との差異の影響)、および数理計算上の仮定の変更の影響から構成されている。OCIに認識された金額は、その後に純損益に振り替えられることはない。過去勤務費用は、制度改訂または縮小により生じた確定給付制度債務の現在価値の変動であり、純損益に即時認識している。

確定給付年金制度ごとに、当行は、確定給付制度債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除した金額を、当行の連結貸借対照表の「その他の負債－従業員給付負債」に確定給付負債として認識している。純額で確定給付資産となる制度については、当該純額を当行の連結貸借対照表の「その他の資産－従業員給付資産」に資産として報告している。

確定給付費用および債務の計算には、重要な判断が必要となる。これは認識額が、割引率および多様な数理計算上の仮定(医療費趨勢率、予想昇給率、退職年齢、ならびに死亡率および退職率等)の影響を受けるためである。これらの制度の長期的な性質により、当該見積みおよび仮定は、固有のリスクや不確実性の影響を受ける。当行の年金およびその他の退職後給付制度の割引率は、優良社債の市場利回りを参照して決定される。割引率は、現在入手可能な利回りがベースであり、市場の流動性に関する経営陣の評価を伴うため、将来の利回りの代わりに用いているにすぎない。数理計算上の仮定は、当行の制度について各国の現在の実務を踏まえて設定しているが、国ごとの統計値は将来の従業員行動に関する見積りにすぎないため、実績と異なる可能性がある。当該仮定は、最低年1回経営陣が決定し、年金数理人によるレビューが行われている。上記の仮定の変更は、当行が認識する給付債務、費用および再測定のコストに影響を与えることがある。

確定拠出年金制度への当行の掛金は、当該掛金と交換に従業員が勤務を提供した時点で費用処理される。確定拠出年金費用は、「利息以外の費用－人件費」に計上されている。

株式に基づく報酬

当行は、一定の幹部従業員および当行の非従業員取締役に対して、株式に基づく報酬制度を提供している。

従業員に付与したストック・オプションの会計処理では、報酬費用が該当する権利確定期間にわたり認識されるとともに、資本が同額増加する。公正価値は、オプション評価モデルを使用して算定される。当該モデルでは、オプションの行使価格、現在の株価、リスク・フリー・レート、オプションの行使可能期間にわたる株価の予想ボラティリティ、およびその他の関連要素が考慮される。オプションが行使された時点で、行使価格である入金額に資本に当初計上していた金額を加えた額が、普通株式の貸方に計上される。当行のその他の株式に基づく報酬制度には、幹部従業員に対する業績後配株式制度および後配株式ユニット制度(以下「当制度等」という。)がある。当制度等に係る債務は、各制度の権利確定期間にわたり計上される。当制度等は現金により決済される。

現金決済型の報奨に係る当行の未払債務は、貸借対照表日ごとに公正価値に修正される。株式決済型の報奨に係る当行の資本に認識される予想債務は、付与日における当行の普通株式の公正価値に基づいている。当行の債務の変動(関連するヘッジ控除後)は、当行の連結損益計算書の「利息以外の費用－人件費」に計上されるとともに、現金決済型の報奨については「その他の負債」が、株式決済型の報奨については「利益剰余金」が同額増加する。報酬費用は、関連する制度の権利確定スケジュール(見積失効分控除後)に基づいて、制度参加者が報奨を稼得した年度に認識される。

退職資格を有するか、権利確定期間中に退職資格を有することになる従業員に付与されたオプションおよび報奨による報酬費用は、従業員が付与日に退職資格を有している場合は直ちに、または付与日から従業員が退職する資格を有することになる日までの期間にわたり認識される。

従業員貯蓄および持株制度への当行の拠出は、発生時に費用計上される。

法人所得税

法人所得税は、当期税金および繰延税金から構成され、当行の連結損益計算書に認識される。ただし、資本に直接認識される項目に関連するものについては、資本に認識される。

利益に対する当期の未払法人所得税は、利益が生じた期の各管轄区域の適用税法に基づき、貸借対照表日までに制定または実質的に制定されている税率を用いて計算され、費用として認識される。繰延税金は、税務上の金額と会計上の資産および負債の帳簿価額の一時差異に関して認識される。繰延税金資産または負債は各一時差異につき算定されるが、当行の子会社、支店および関連会社および共同支配企業に対する持分に係る利益に対して、予測可能な期間内に一時差異が解消される見込みがなく、当行が解消する時期をコントロールできる場合は除く。繰延税金資産および負債は、貸借対照表日に制定または実質的に制定されている税率および税法に基づき、資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率で算定される。当期税金資産と負債は、同一の税務当局が、同一の納税主体または別々の納税主体であるが同一の納税グループ(純額での納税を意図するもの)内の納税主体のいずれかに対して課したものであり、かつ相殺する法的権利がある場合に相殺される。繰延税金資産と負債も、同様の条件が満たされる場合に相殺される。当行の連結損益計算書には、非課税または税務上損金不算入となる項目が含まれているため、法人所得税の額は法定税率に基づく金額と異なる結果となる。

一時差異および税務上の繰越欠損金の累計額である繰延税金は、「その他の資産」および「その他の負債」に計上されている。当行は、四半期ごとに繰延税金資産の計上額について再検討を行い、当行の繰延税金資産に関連する便益の実現可能性が高いかどうかを判断している。この再検討には、肯定的および否定的根拠の両方を用いた評価が含まれる。

当行は、営業活動を行っている様々な管轄区域の法人所得税法に従っており、複雑な税法の解釈については当行と関係税務当局との間で異なる可能性がある。関連税法の解釈、および税金費用の算定における銀行の税務ポジションの容認の可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている不確実な税務ポジションに関する当行の最善の見積りを含む。)には、重要な判断が必要である。当行は、四半期ベースで再評価を行い、入手可能な情報に基づき当行の最善の評価を織り込んでいるが、関係税務当局の当行の税務ポジションの容認の状況に基づき追加的な負債および税金費用が発生する可能性がある。

当行の繰延税金資産または負債の算定にも、経営陣の重要な判断が必要である。これは、認識額が、将来の課税所得および資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率に関する当行の予測に左右されるためである。当行の予測の変化により、当行の連結貸借対照表上の繰延税金資産または負債、および連結損益計算書上の繰延税金費用に変化が生じる。

企業結合、のれんおよびその他の無形資産

すべての企業結合は、取得法を用いて会計処理されている。別途記載のある場合を除き、非支配持分(該当ある場合)は、識別可能資産および負債の公正価値に対する非支配持分の比例的な取り分で認識されている。識別可能な無形資産は、のれんとは別に認識され、「その他の無形資産」に計上されている。のれんは、取得日において、事業の取得のために支払われた取引価格が、取得した識別可能な純資産の公正価値を超過する額である。

のれん

のれんは、減損テストにあたり資金生成単位または資金生成単位のグループに配分される。当該テストは、内部管理目的でのれんを監視する最小の単位で実施される。減損テストは毎年8月1日現在、または減損の客観的な兆候がある場合にはより頻繁に、資金生成単位(以下「CGU」という。)の回収可能価額をその帳簿価額と比較することにより実施される。CGUの回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか高い金額である。使用価値とは、CGUから生じると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値である。処分コスト控除後の公正価値とは、市場参加者間の秩序ある取引において、CGUの売却から得られる金額から処分コストを控除した額である。CGUの公正価値は、割引キャッシュ・フロー法等の評価技法を用いて見積られ、第三者に売却する場合の対価に近似するよう調整が加えられる。入手可能な範囲で、外部証拠(同一業種内の類似の事業に係る拘束力のある売却契約または最近の取引等)が検討される。

当行のCGUの回収可能価額の算定に使用するモデルのインプット、特に、将来キャッシュ・フロー、割引率および永久成長率の見積りには重要な判断が伴うが、これはキャッシュ・フローの時期および金額の不確実性および当該インプットの将来予測的な性質によるものである。将来キャッシュ・フローは、業績予測、事業戦略、資本投資計画および株主へのリターンを基に見積られた、経営陣が合意した財務計画に基づいている。割引率は、CGU固有のリスク、および期待インフレ率の相違を反映した為替エクスポージャー調整後の銀行全体の資本コストをベースとしている。銀行全体の資本コストは、資本資産評価モデルに基づいている。CGU固有のリスクには、カントリ・リスク、事業/オペレーショナル・リスク、地理的リスク(政治リスク、通貨切下げリスクおよび政府による規制を含む。)、為替リスクおよび価格リスク(商品の価格設定リスクおよびインフレを含む。)がある。永久成長率は、CGUが営業活動を行っている国の国内総生産の予想長期成長率およびインフレを反映している。これらの仮定の変更は、「利息以外の費用」に認識される減損損失の金額に影響を与える可能性がある。

CGUの帳簿価額には、CGUに配分された資産、負債およびのれんの帳簿価額が含まれる。回収可能価額が帳簿価額を下回る場合、減損損失は最初にCGUに配分されたのれんの帳簿価額を減額するよう配分され、次に各資産の帳簿価額に基づいた比例按分によって、CGUのその他の非金融資産に配分される。減損損失は、減損が識別された期の純損益に費用として計上される。のれんは取得原価から減損損失累計額を控除して表示される。のれんの減損損失のその後の戻入は禁止されている。

CGUの一部を処分する際、CGUの売却部分に関連するのれんの帳簿価額は、処分に係る利得または損失の算定に含まれる。当該帳簿価額は、CGU全体に対する処分した部分の公正価値の割合に基づいて算定される。

その他の無形資産

無形資産は、識別可能な非貨幣性資産であり、個別にまたは企業結合を通じて取得するか、自己創設したものである。企業結合を通じて取得した無形資産は、分離可能である場合または契約もしくはその他の法的権利から生じている場合で、その公正価値を信頼性をもって測定することができる場合に、のれんとは別個に認識される。個別に取得した無形資産の取得原価には、購入価格および当該資産の意図した利用のための準備に直接起因する原価が含まれる。自己創設した無形資産の取得原価には、当該資産の生成、製造および当該資産を経営陣の意図した方法で稼働可能にする準備に必要な、直接起因する原価のすべてが含まれる。資産計上の要件を満たさない研究開発費は、費用処理される。無形資産は、当初認識後、取得原価から償却累計額および減損損失累計額(該当がある場合)を控除した金額で計上される。耐用年数を確定できる無形資産は、見積耐用年数(コンピューター・ソフトウェアは3年～10年、顧客関係は10年～20年)にわたり定額法で償却される。当行は、耐用年数が確定できない無形資産は保有していない。

無形資産は、報告期間ごとに減損の兆候の有無について検討される。無形資産に減損の兆候がある場合には、当該無形資産の帳簿価額とその回収可能価額との比較により、減損テストが実施される。個々の資産の回収可能価額を見積ることができない場合、当行は、当該資産が属するCGUの回収可能価額を見積る。当該資産(またはCGU)の回収可能価額がその帳簿価額を下回る場合、当該無形資産の帳簿価額は回収可能価額まで切り下げられ、減損損失が計上される。

直近の減損損失認識後、当該資産(またはCGU)の回収可能価額の算定に使用された見積りに変更が生じた場合には、過去に認識された減損損失は戻し入れる。減損損失をその後に戻し入れる場合、当該資産(またはCGU)の帳簿価額は、資産の回収可能価額と、減損が生じていなかったら算定されていたであろう帳簿価額(償却費控除後)のいずれか低い金額に修正される。

これらの見積りの主観的な性質により、当行の無形資産の耐用年数および回収可能価額の算定、および特定の事象または状況が減損の客観的証拠に該当するかの評価には、重要な判断が必要となる。当行の無形資産の回収可能価額の見積りは、将来キャッシュ・フローおよび割引率等の特定の主要なインプットの影響を受ける。将来キャッシュ・フローは、業績予測と事業戦略を基に見積った販売予測および配分費用に基づいている。割引率は、資産固有のリスク調整後の銀行全体の資本コストをベースとしている。これらの仮定の変更は、「利息以外の費用」に認識される減損損失の金額に影響を与える可能性がある。

その他

為替換算

外貨建の貨幣性資産および負債は、貸借対照表日現在の実勢レートでカナダドルに換算されている。これらの項目の換算および決済から生じた為替差損益は、連結損益計算書の「利息以外の収益」に認識されている。

取得原価で測定される非貨幣性資産および負債は、取引日レートでカナダドルに換算されている。

カナダドル以外の機能通貨を用いている当行の在外営業活動体の資産および負債は、貸借対照表日現在の実勢レートでカナダドルに換算され、当該在外営業活動体の収益および費用は、報告期間の平均為替レートで換算されている。

当行の在外営業活動体の換算から生じる未実現利得または損失は、関連するヘッジの有効部分と併せて税効果考慮後の金額で「その他の資本項目」に計上されている。在外営業活動体の処分または一部の処分が行われた時点で、当該為替換算差損益累計額(純額)の対応する部分が、「利息以外の収益」に計上される。

有形固定資産

有形固定資産は、土地、建物、リース物件改良費、コンピューター機器、備品、設備およびその他の付帯設備等であり、取得原価から減価償却累計額(ただし、減価償却を行わない土地を除く。)および減損損失累計額を控除した価額で表示されている。取得原価は、購入価格、当該資産を意図した用途での使用に必要な場所および状態に置くことに直接起因する費用、および処分コストの当初見積額から構成される。減価償却費は、資産の見積耐用年数(建物は25年～50年、コンピューター機器は3年～10年、ならびに備品、設備およびその他の付帯設備は5年～10年)にわたり、主に定額法により計上されている。リース物件改良費の償却期間は、リース物件の改良部分の耐用年数、またはリース期間に最初の更新期間(更新されることが合理的に確実な場合)を加えた期間のいずれか短い期間であり、10年を超えることはない。減価償却方法、耐用年数および残存価額は、報告期間ごとに再検討され、必要に応じて変更される。処分に係る利得および損失は、「利息以外の収益」に計上されている。

有形固定資産は、報告期間ごとに減損の兆候の有無について検討される。資産の減損の兆候がある場合、当該資産の帳簿価額とその回収可能価額との比較により、減損テストが実施される。

減損認識後、減価償却費は、当該資産の見直し後の帳簿価額を反映するように、将来の期間において調整される。その後減損の戻入れが行われた場合、資産の帳簿価額は、資産の回収可能価額と、減損損失が発生していなければ算定されていたであろう帳簿価額(減価償却控除後)のいずれか低い金額に修正される。将来の期間に関する減価償却費は、当該見直し後の帳簿価額を反映するように調整される。

IFRS第16号を適用したことにより、2019年11月1日以降、有形固定資産には使用権資産が含まれている。

リースー2019年11月1日以降に適用された会計方針(IFRS第16号)

当行は、契約開始時に契約がリースであるか、またはリースを含んでいるかを判定している。契約が特定された資産の使用からの経済的便益のほとんどすべてを得る権利および特定された資産の使用を指図する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合は、当該契約はリースであるか、またはリースを含んでいる。

当行がリース契約の借手である場合、当行は、短期リースおよび少額資産リースを除き、使用权資産および対応するリース負債を計上している。短期リースは、リース期間が12ヶ月以内のリースである。少額資産リースは、特殊でない、一般的で、技術的に単純な、広く利用可能かつ広く利用されている、インフラ以外の資産である。短期リースおよび少額資産リースのリース料は、リース期間にわたり定額法を用いて営業費用として計上している。

当行がリースを延長または解約するオプションを行使することが合理的に確実である場合、それらはリース期間の算定に含まれる。

リース負債は、リース開始日現在で支払われていないリース料の現在価値で当初測定され、割引率は当行の追加借入利率が用いられる。リース負債は当初認識後に実効金利法を用いて償却原価で測定され、支払利息が計上される。

使用权資産の当初測定はリース負債の当初測定額に基づき行われ、開始日以前に支払ったリース料、発生した当初直接コスト、および資産の解体、除去、または原状回復により生じるコストの見積りから、受け取ったリースインセンティブを控除する調整が行われる。

使用权資産は、リース期間と耐用年数のうちいずれか短い期間で減価償却されるが、当行に所有権が移転する場合または当行が購入オプションを行使することが合理的に確実である場合は、使用权資産の耐用年数が用いられる。当行は、上記の有形固定資産に関する会計方針に記載されている通り、IAS第36号「資産の減損」を適用して使用权資産の減損の有無を判定し、減損が識別された場合には減損損失を計上している。

IFRS第16号の適用の影響－従前オペレーティング・リースとして分類されていたリース

IFRS第16号を適用した結果、主に、従来オペレーティング・リースに分類していた有形固定資産により、当行の資産合計は5,084百万ドル、負債合計は5,191百万ドル増加した。また、利益剰余金は107百万ドル(税引後)減少した。IFRS第16号の適用により当行のCET 1比率は14ベシス・ポイント低下した。

移行時において、リース負債は残りのリース料の現在価値で測定され、割引率は2019年11月1日現在の当行の追加借入利率が用いられた。当行は、追加借入利率の加重平均である2.3%を適用した。使用権資産は通常リース負債と同額で測定され、前払リース料または未払リース料の調整が行われる。一部の不動産については、使用権資産はリース開始日からIFRS第16号が適用されていたかのように測定され、2019年11月1日現在の当行の追加借入利率を用いて割り引かれている。従前IAS第17号の下でオペレーティング・リースとして分類されていたリースにIFRS第16号を適用するにあたり、以下の実務上の便法が適用された。

- ・当行の不動産リースについては、リース構成部分と非リース構成部分の区別を行わないことを選択した。
- ・短期リースおよび少額資産リースに関する認識の免除規定を適用した。

以下の表は、2019年10月31日現在のオペレーティング・リース・コミットメントから、IFRS第16号の適用開始時である2019年11月1日現在に認識されたリース負債への調整を示している。

(百万カナダドル)	
開示されたリース・コミットメント (2019年10月31日現在)	\$ 6,175
控除：コミットメントのうち回収不能な税金負担額	(360)
控除：契約がまだ開始していないコミットメント	(240)
控除：短期リースおよび少額資産リースについて適用された認識の免除規定	(83)
加算：更新オプションを行使することが合理的に確実であるコミットメント	977
その他	(26)
オペレーティング・リース・コミットメント (調整後) (2019年10月31日現在)	6,443
割引後の金額 (2019年11月1日現在)	5,557
認識されたファイナンス・リース負債 (2019年10月31日現在)	49
認識されたリース負債 (2019年11月1日現在)	\$ 5,606

IFRS第16号の適用の影響－従前ファイナンス・リースとして分類されていたリース

従前IAS第17号「リース」に基づきファイナンス・リースとして分類されていたリースの2019年11月1日現在の使用権資産およびリース負債の帳簿価額は、移行日直前のIAS第17号に基づくリース資産およびリース負債の帳簿価額と同額であると判断された。

リースー2019年11月1日より前に適用されていた会計方針(IAS第7号)

リースとは、貸手が一括払または複数回の支払いを得て、契約期間中、資産の使用権を借手に移転する契約である。ファイナンス・リースとは、リース資産の所有に伴うリスクおよび経済価値のほとんどすべてを借手に移転するリースであり、所有権は最終的に移転する場合もしない場合もある。オペレーティング・リースは、ファイナンス・リース以外のリースである。

オペレーティング・リース

当行がオペレーティング・リースの借手の場合、支払リース料を定額法でリース期間にわたり「利息以外の費用」に計上している。

ファイナンス・リース

当行がファイナンス・リースの借手の場合、リース資産および関連リース債務の双方を、当行の連結貸借対照表の「有形固定資産」、「その他の無形資産」および「その他の負債」に当初計上している。その金額は、リース開始日にそれぞれ算定した、リース資産の公正価値または最低支払リース料総額の現在価値のいずれか低い金額となる。リースに直接起因する初期直接コストは、ファイナンス・リース資産に認識される。

引当金

引当金は、時期または金額が不確実な負債である。当行が過去の事象の結果として現在の法的債務または推定的債務を有しており、当該債務の決済のために資源の流出が必要となる可能性が高く、かつ当該債務の金額を信頼性をもって見積ることができる場合に、引当金が認識される。引当金は、報告日における現在の債務を決済するために必要となる対価の最善の見積額として測定される。現在の債務が存在するかの判断、および流出の確率、時期および金額の見積りには、重要な判断が必要となる。当行は、訴訟、資産除去債務およびその他の項目に関連して、引当金を計上している。

当行は、係属中の訴訟手続の結果および資本的資産の処分により発生が見込まれる費用について見積りを行う必要がある。これらの見積りは将来予測的な性質のため、当行の将来キャッシュ・フローの時期および金額の予測には、重要な判断が必要となる。当行は、報告期間末時点で入手可能なすべての情報に基づき引当金を計上し、最新の予想を反映させるよう四半期ごとに修正を行っている。これら事項の解決やその最終的な解決時期については予測できない場合がある。実際の結果が当行の予想と異なる場合、認識済みの引当金を上回る費用が発生する可能性がある。必要に応じて、当行は紛争案件における当行の立場を毀損することがないように、引当金に関する開示を限定する際に判断を用いている。

引当金の決済に必要な経済的便益の一部または全部を第三者(保険者等)から回収することが予想される場合、補填を受けることがほぼ確実であれば、別個の資産が認識される。

手数料および報酬

手数料および報酬は、主に投資運用および保管手数料、投資信託報酬、有価証券委託手数料、サービス手数料、引受業務およびその他のアドバイザー手数料、カード・サービス収益および与信手数料等に関するものであり、顧客との該当するサービス契約に基づき認識される。

投資運用および保管手数料ならびに投資信託報酬は、通常、顧客との契約条件に基づき日次または期間末の純資産価額(以下「NAV」という。)に対する一定割合として計算され、契約条件に応じて月次、四半期ごと、半年ごとまたは一年ごとに支払われる。投資運用および保管手数料は、当行の顧客が投資運用会社の投資能力を求める場合に、通常、運用資産(以下「AUM」という。)を基に算定されるか、または、投資戦略が顧客または指定の第三者の運用会社から指示される場合に、管理資産(以下「AUA」という。)を基に算定される。投資信託報酬は、投資信託の日次のNAVを基に算定される。投資運用および保管手数料ならびに投資信託報酬は、認識した収益の重要な取消が生じない可能性が非常に高い場合に、顧客へのサービス提供期間にわたり認識される。

有価証券委託手数料およびサービス手数料のうち、特定の取引形態でのサービス提供に関連するものは、サービスの履行時に認識される。サービスが一定の期間にわたり提供される場合は、サービスが提供されるにつれて収益を認識する。

引受業務およびその他のアドバイザー手数料は、主に債務証券または持分証券の新規発行に関する引受業務および様々なアドバイザー・サービスに関連するものである。引受業務手数料は、通常、発行により調達した資金に対する割合で表され、サービスが完了した時点で認識される。アドバイザー手数料は、エンゲージメントの関与範囲やその種類により、固定額の場合もあれば、将来の事象を条件とする場合もあり様々である。アドバイザー手数料はサービスが提供される期間にわたり認識され、収益の金額の重要な取消が生じない可能性が非常に高い範囲でのみ認識される。

カード・サービス収益は、主に売上交換収益およびカードの年会費が含まれる。売上交換収益は取引額に対する固定割合として計算され、カード取引が決済された時点で認識される。年会費は、固定報酬で、12ヶ月間にわたり認識される。

与信手数料は、主にシンジケート・ローンのアレンジや未実行与信枠による信用供与により稼得される。与信手数料の認識時期は、提供するサービスの性質により異なる。

稼得した手数料および報酬に関連してサービス手数料やその他のコストが発生した場合、当行に顧客との契約を履行する一義的な義務があるか、また稼得した手数料および報酬の価格を当行が決定する裁量権を有しているかどうかにより、当該コストを総額ベースで「利息以外の費用－その他」または「利息以外の費用－人件費」に計上する。これには判断を伴う可能性がある。

1 株当たり利益

1 株当たり利益は、普通株主に帰属する当期純利益を、期中発行済普通株式の加重平均株式数で除して計算される。普通株主に帰属する当期純利益は、優先株主の優先配当額、その他の資本性金融商品の分配額、優先株式およびその他の資本性金融商品の償還に係る利得(損失)(関連する法人所得税控除後)および非支配持分に帰属する当期純利益を控除した後の金額で算定される。

希薄化後1株当たり利益には、潜在的な希薄化が反映されている。潜在的希薄化が生じ得るのは、有価証券または契約がその保有者に将来普通株式を取得する権利を付与しており、その権利が一定の事象の発生を条件としていない場合に、その有価証券または契約に基づき、普通株式が追加で発行されることが想定される場合である。当行の選択により現金または普通株式で決済される契約に関する希薄化後1株当たり利益の計算は、当該契約は株式で決済されるという仮定に基づき行われている。このような種類の契約に関連する収益および費用は、普通株主に帰属する当期純利益から除外され、発行されるであろう追加の株式数は、希薄化後1株当たり利益の計算に含めている。これには一部の転換可能株式が含まれており、当該転換可能株式は期首、または発行日の方が遅い場合は発行日に、転換されたものと仮定される。行使価格が当行の普通株式の平均株価を下回っているストック・オプションについては、自己株式方式を用いて行使されたものと見なし、その入金額は普通株式の期中平均株価での買戻しに使用されたと仮定される。当該ストック・オプションにより発行され、入金額で買い戻される普通株式の増加数は、希薄化後1株当たり利益の計算に含めている。

株式資本およびその他の資本性金融商品

当行は、当行が発行する金融商品を、契約上の取決めの実質に従って金融資産、金融負債または資本性金融商品として分類している。

当行が保有している当行の普通株式は、資本に自己株式として分類され、加重平均原価で会計処理されている。自己株式の売却時に、売却による収入額と当該自己株式の取得原価との差額は、「利益剰余金」に認識される。当行が発行した金融商品は、現金またはその他の金融資産を引き渡す契約上の義務がない場合には、資本性金融商品として分類されている。資本性金融商品の発行に直接起因する増分コストは、税効果考慮後の金額が当該収入額からの控除として資本に計上されている。保有者の転換時に当行の可変数の普通株式で決済される金融商品、および関連する未払分配金は、当行の連結貸借対照表上負債に分類されている。これらの商品に係る配当金および分配金は、当行の連結損益計算書上「支払利息」に分類されている。負債部分と資本部分の両方を含む複合金融商品は、初めに負債部分を公正価値により測定し、残余持分を資本部分に配分している。

会計方針および開示の今後の変更

以下の基準は、公表済であるが、当行には未だ適用となっていない。

財務報告に関する概念フレームワーク(以下「概念フレームワーク」という。)

2018年3月に、IASBは、概念フレームワークの改訂版を公表した。当該改訂版は、2010年に公表された概念フレームワーク(前のバージョン)を置き換えるものである。概念フレームワークの改訂版は、2020年11月1日に発効する予定である。概念フレームワークは基準ではないため、他のいかなる基準の概念または規定よりも優先されることはない。適用可能な基準が存在しない場合に、一貫性のある会計方針を策定するために用いることができる。この改訂版にはいくつかの新しい概念が含まれており、資産および負債の定義および認識基準について更新、また一部の重要な概念について明確化が行われている。これらの改訂による当行連結財務諸表に対する影響は重要でないと予想される。

IFRS第17号「保険契約」(以下「IFRS第17号」という。)

2017年5月、IASBは、保険契約の認識、測定、表示および開示に関する指針を提供する包括的な国際的保険会計基準を定めるためにIFRS第17号を公表した。IFRS第17号は、3つのアプローチのいずれかを用いて、現在履行価値で保険契約負債を測定することを企業に要求している。2020年6月に、IASBは、発効日を2年延期することを含めた、IFRS第17号の修正を公表した。この新基準は、当行に対しては2023年11月1日に発効し、実務上不可能でない限り比較数値の修正再表示による遡及適用が行われる。当行は現在、この基準および修正の適用による当行連結財務諸表に対する影響を評価している。

金利指標改革

2020年8月に、IASBは、金利指標改革―フェーズ2、IFRS第9号、IAS第39号、IFRS第7号、IFRS第4号「保険契約」およびIFRS第16号の修正(以下「フェーズ2の修正」という。)を公表した。フェーズ2の修正は、既存の金利指標を代替的な金利に置き換える際に生じる問題に対処するもので、追加的な開示規定が導入されている。フェーズ2の修正では、2つの主要な救済措置が提供されている。

- ・改革では、改革の結果生じる条件変更について取引の基礎が経済的に同等である場合、指標金利の変更を直ちに利得または損失として反映するのではなく、金融商品の実効金利に含めて将来に向かって反映させることを認めている。

- ・適格要件が満たされる場合は、改革の直接的な影響を受けるヘッジ関係について、代替的な金利への移行時にヘッジ会計を継続することができる。

フェーズ2の修正は、当行に対しては2021年11月1日に発効となり、早期適用も認められる。

当行は代替的な金利への移行を管理するため、顧客契約の変更、資本および流動性計画、リスク管理、財務報告および評価、システム、プロセス、顧客教育ならびにコミュニケーション等影響が生じる主要な領域に焦点を当てた包括的な全社的なプログラムおよび統治構造を導入している。

当行は現在、フェーズ2の修正の適用による当行の連結財務諸表に対する影響について評価を行っている。

[前へ](#) [次へ](#)

注記3 金融商品の公正価値

金融商品の帳簿価額および公正価値

以下の表は、金融商品の分類毎の帳簿価額と公正価値の比較である。組込デリバティブは、主契約と一体で表示されている。測定上は、当該組込デリバティブが区分処理の要件を満たす場合には公正価値で測定されている。

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在							
	帳簿価額および公正価値				帳簿価額	公正価値	帳簿価額 合計	公正価値 合計
	FVTPLで測定 するものと して分類 された 金融商品	FVTPLで測定 するものと して指定 された 金融商品	FVOCIで測定 するものと して分類 された 金融商品	FVOCIで測定 するものと して指定 された 金融商品	償却原価で 測定された 金融商品	償却原価で 測定された 金融商品		
金融資産								
利付銀行預け金	\$ -	\$ 21,603	\$ -	\$ -	\$ 17,410	\$ 17,410	\$ 39,013	\$ 39,013
有価証券								
トレーディング	126,027	10,044	-	-	-	-	136,071	136,071
投資(関連する引当金を除く)	-	-	81,395	525	57,823	58,627	139,743	140,547
	126,027	10,044	81,395	525	57,823	58,627	275,814	276,618
売戻し条件付購入資産および 借入有価証券担保金	264,394	-	-	-	48,621	48,621	313,015	313,015
貸出金(関連する引当金を除く)								
リテール	-	253	260	-	454,429	462,884	454,942	463,397
ホールセール	6,197	2,363	744	-	196,746	198,753	206,050	208,057
	6,197	2,616	1,004	-	651,175	661,637	660,992	671,454
その他								
デリバティブ	113,488	-	-	-	-	-	113,488	113,488
その他の資産(1)	3,414	-	-	-	57,065	57,065	60,479	60,479
金融負債								
預金								
個人	\$ 104	\$ 17,096			\$ 325,852	\$ 324,804	\$ 343,052	\$ 342,004
企業および政府(2)	389	107,466			516,456	518,501	624,311	626,356
銀行(3)	-	18,015			26,507	26,518	44,522	44,533
	493	142,577			868,815	869,823	1,011,885	1,012,893
その他								
空売りした有価証券に関連 する債務	29,285	-			-	-	29,285	29,285
買戻し条件付売却資産およ び貸付有価証券に関連す る債務	-	255,922			18,309	18,309	274,231	274,231
デリバティブ	109,927	-			-	-	109,927	109,927
その他の負債(4)	80	86			65,712	65,719	65,878	65,885
劣後無担保社債	-	-			9,867	10,071	9,867	10,071

2019年10月31日現在								
(百万カナダドル)	帳簿価額および公正価値				帳簿価額	公正価値	帳簿価額 合計	公正価値 合計
	FVTPLで測定 するものと して分類 された 金融商品	FVTPLで測定 するものと して指定 された 金融商品	FVOCIで測定 するものと して分類 された 金融商品	FVOCIで測定 するものと して指定 された 金融商品	償却原価で 測定された 金融商品	償却原価で 測定された 金融商品		
金融資産								
利付銀行預け金	\$ -	\$ 22,283	\$ -	\$ -	\$ 16,062	\$ 16,062	\$ 38,345	\$ 38,345
有価証券								
トレーディング	137,600	8,934	-	-	-	-	146,534	146,534
投資(関連する引当金を除く)	-	-	57,223	463	44,784	45,104	102,470	102,790
	137,600	8,934	57,223	463	44,784	45,104	249,004	249,324
売戻し条件付購入資産および 借入有価証券担保金	246,068	-	-	-	60,893	60,894	306,961	306,962
貸出金(関連する引当金を除く)								
リテール	275	242	95	-	423,469	424,416	424,081	425,028
ホールセール	7,055	1,856	451	-	185,413	184,645	194,775	194,007
	7,330	2,098	546	-	608,882	609,061	618,856	619,035
その他								
デリバティブ	101,560	-	-	-	-	-	101,560	101,560
その他の資産(1)	3,156	-	-	-	50,375	50,375	53,531	53,531
金融負債								
預金								
個人	\$ 140	\$ 17,394			\$ 277,198	\$ 277,353	\$ 294,732	\$ 294,887
企業および政府(2)	151	111,389			453,942	452,536	565,482	564,076
銀行(3)	-	3,032			22,759	22,773	25,791	25,805
	291	131,815			753,899	752,662	886,005	884,768
その他								
空売りした有価証券に関連する債務	35,069	-			-	-	35,069	35,069
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	-	218,612			7,974	7,974	226,586	226,586
デリバティブ	98,543	-			-	-	98,543	98,543
その他の負債(4)	(1,209)	91			61,039	61,024	59,921	59,906
劣後無担保社債	-	-			9,815	9,930	9,815	9,930

- (1) 「手形引受見返」および「その他の資産」に認識される金融商品が含まれている。
(2) 企業および政府の預金には、規制を受ける預金受入機関(銀行以外)からの預金が含まれている。
(3) 銀行の預金とは規制を受ける銀行および中央銀行からの預金をいう。
(4) 「手形引受」および「その他の負債」に認識される金融商品が含まれている。

純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融資産

当行は、FVTPLで測定するものとして指定された当行の金融資産について、信用リスクの変動に起因する公正価値の変動を、当該商品の公正価値の期中の変動合計額と適切なリスク・フリー・イールドカーブを使用して計算した公正価値の変動額との差額として測定している。2020年10月31日終了年度において依然として保有するポジションに関する信用リスクの変動に起因する期中の公正価値の変動および公正価値の変動の累計額はそれぞれ379百万ドルの損失でおよび442百万ドルの損失であった。FVTPLで測定するものとして指定された貸出金および債権の信用リスクの変動に起因する公正価値の変動額は、2019年10月31日終了年度において重要性はなかった。2020年10月31日現在、信用デリバティブまたは類似商品が信用リスクに対する最大エクスポージャーを軽減する効果は520百万ドル(2019年10月31日－514百万ドル)であった。

純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債

当行は、FVTPLで測定するものとして指定された当行の金融負債について、自己の信用スプレッドの変動および弁済までの予想期間を考慮して、信用リスクの変動に起因する公正価値の変動を測定している。

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在および同日終了年度(1)				
	契約上の満期金額	帳簿価額	帳簿価額と契約上の満期金額との差額	依然として保有するポジションに関してOCIに計上された信用リスクの変動に起因する公正価値の変動	
				期中	累計(2)
定期預金					
個人	\$ 17,279	\$ 17,096	\$ (183)	\$ 67	\$ 89
企業および政府(3)	106,153	107,466	1,313	281	491
銀行(4)	18,016	18,015	(1)	-	-
	141,448	142,577	1,129	348	580
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	255,908	255,922	14	8	8
その他の負債	86	86	-	-	-
	\$ 397,442	\$ 398,585	\$ 1,143	\$ 356	\$ 588

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在および同日終了年度(1)				
	契約上の満期金額	帳簿価額	帳簿価額と契約上の満期金額との差額	依然として保有するポジションに関してOCIに計上された信用リスクの変動に起因する公正価値の変動	
				期中	累計(2)
定期預金					
個人	\$ 17,307	\$ 17,394	\$ 87	\$ 3	\$ 22
企業および政府(3)	110,763	111,389	626	(76)	210
銀行(4)	3,031	3,032	1	-	-
	131,101	131,815	714	(73)	232
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	218,604	218,612	8	-	-
その他の負債	91	91	-	-	-
	\$ 349,796	\$ 350,518	\$ 722	\$ (73)	\$ 232

- (1) 依然として保有するポジションに関して純損益に計上された信用リスクの変動に起因する公正価値の重要な変動はない。
- (2) 変動累計額は、FVTPLで測定する負債として当初指定された時点から測定されている。2020年10月31日終了年度の、過去にOCIに計上されていた2百万ドルの公正価値利得(2019年10月31日－4百万ドルの公正価値損失)は、当期に認識が中止された金融負債に関連するものである。
- (3) 企業および政府の定期預金には、規制を受ける預金受入機関(規制を受ける銀行以外)からの金額が含まれている。
- (4) 銀行の定期預金とは規制を受ける銀行および中央銀行からの金額をいう。

純損益を通じて公正価値で測定するものとして分類および指定された金融商品に係る利得(損失)純額

主にトレーディング有価証券、デリバティブ、トレーディング負債を含むFVTPLで測定するものとして分類された金融商品、ならびにFVTPLで測定するものとして指定された金融資産および負債は、公正価値で測定され、実現および未実現の利得および損失は「利息以外の収益」として認識される。

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
利得(損失)純額(1)		
純損益を通じて公正価値で測定するものとして分類(2)	\$ (69)	\$ 3,564
純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定(3)	1,533	(1,821)
	\$ 1,464	\$ 1,743
商品ライン別(1)		
金利および信用(4)	\$ 1,490	\$ 1,534
株式	(501)	(144)
為替およびコモディティ	475	353
	\$ 1,464	\$ 1,743

- (1) 当行の保険業務に関連する以下の金額は除外されており、当該金額は連結損益計算書の「保険料、投資および手数料収入」に含まれている。FVTPLで測定するものとして指定された金融商品に係る利得純額329百万ドル(2019年10月31日－1,303百万ドルの利得)。
- (2) ヘッジ関係に指定されているデリバティブは除外している。これらのデリバティブに係る利得(損失)純額については注記8を参照のこと。
- (3) 2020年10月31日終了年度のFVTPLで測定するものとして指定された金融負債に係る公正価値利得純額(当行の自己の信用リスクの変動に帰属する額を除く。)1,532百万ドル(2019年10月31日－1,810百万ドルの損失)は、「利息以外の収益」に計上されている。
- (4) クロス・カレンシー・金利スワップについて認識された利得(損失)を含む。

金融商品に係る受取利息純額

金融資産および金融負債から生じる受取利息および受取配当金ならびに関連する資金調達コストは「受取利息純額」に計上されている。

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
受取利息および受取配当金(1),(2)		
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品	\$ 8,480	\$ 12,103
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融商品	957	1,132
償却原価で測定する金融商品	25,446	28,098
	34,883	41,333
支払利息(1)		
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品	\$ 6,065	\$ 10,507
償却原価で測定する金融商品(3)	7,983	11,077
	14,048	21,584
受取利息純額	\$ 20,835	\$ 19,749

- (1) 当行の保険業務に関連する以下の金額は除外されており、当該金額は連結損益計算書の「保険料、投資および手数料収入」に含まれている。受取利息521百万ドル(2019年10月31日－486百万ドル)、支払利息7百万ドル(2019年10月31日－4百万ドル)。
- (2) 2020年10月31日終了年度において受取配当金2,670百万ドル(2019年10月31日－2,057百万ドル)が含まれており、連結損益計算書の「受取利息および受取配当金」に表示されている。
- (3) IFRS第16号の適用に伴い、2020年10月31日終了年度において123百万ドルのリース負債に係る支払利息が含まれている。

金融商品から生じる手数料収入

2020年10月31日終了年度において、当行は銀行サービスにより5,134百万ドル(2019年10月31日－5,270百万ドル)の手数料を稼得した。2020年10月31日終了年度において、当行はまた、リテール顧客および法人顧客に対する、投資運用、信託、保管、引受業務、ブローカー業務およびその他の同様の信託サービスにより13,166百万ドル(2019年10月31日－12,117百万ドル)の手数料を稼得した。これらの手数料は、「利息以外の収益」に含まれている。

経常的に公正価値で測定され公正価値ヒエラルキーを使用して区分された資産および負債の公正価値

(百万カナダドル)	以下の日現在									
	2020年10月31日					2019年10月31日				
	以下を使用した 公正価値測定			相殺に係る 調整	公正価値	以下を使用した 公正価値測定			相殺に係る 調整	公正価値
	レベル1	レベル2	レベル3			レベル1	レベル2	レベル3		
金融資産										
利付銀行預け金	\$ -	\$ 21,603	\$ -	\$	\$ 21,603	\$ -	\$ 22,283	\$ -	\$	\$ 22,283
有価証券										
トレーディング										
以下による発行済または保証 付の債務：										
カナダ政府(1)										
連邦	12,773	3,012	-		15,785	14,655	5,474	-		20,129
州および地方	-	11,562	-		11,562	-	11,282	-		11,282
米国の州、地方および政府 機関(1)	1,508	35,029	44		36,581	2,050	39,584	58		41,692
その他のOECD加盟国政府 (2)	3,085	3,380	-		6,465	2,786	3,710	-		6,496
モーゲージ担保証券(1)	-	39	-		39	-	482	-		482
資産担保証券										
CDO以外の証券(3)	-	526	2		528	-	1,333	2		1,335
社債およびその他の債券	-	21,464	30		21,494	1	23,643	21		23,665
株式	39,795	2,561	1,261		43,617	38,309	1,925	1,219		41,453
	57,161	77,573	1,337		136,071	57,801	87,433	1,300		146,534
投資										
以下による発行済または保証 付の債務：										
カナダ政府(1)										
連邦	647	1,894	-		2,541	-	657	-		657
州および地方	-	3,233	-		3,233	-	2,898	-		2,898
米国の州、地方および政府 機関(1)	160	38,364	-		38,524	210	20,666	-		20,876
その他のOECD加盟国政府	-	7,345	-		7,345	-	4,251	-		4,251
モーゲージ担保証券(1)	-	2,343	27		2,370	-	2,675	27		2,702
資産担保証券										
CDO	-	7,414	-		7,414	-	7,300	-		7,300
CDO以外の証券	-	854	-		854	-	849	-		849
社債およびその他の債券	-	18,954	160		19,114	-	17,537	153		17,690
株式	38	152	335		525	42	127	294		463
	845	80,553	522		81,920	252	56,960	474		57,686
売戻し条件付購入資産および借入 有価証券担保金	-	264,394	-		264,394	-	246,068	-		246,068
貸出金	-	8,747	1,070		9,817	-	9,294	680		9,974
その他										
デリバティブ										
金利契約	1	53,720	501		54,222	1	46,095	349		46,445
為替契約	-	39,246	57		39,303	-	40,768	48		40,816
信用デリバティブ	-	463	-		463	-	169	-		169
その他の契約	4,458	16,767	36		21,261	2,852	12,674	11		15,537
評価調整	-	(1,112)	8		(1,104)	-	(712)	15		(697)
デリバティブ総額合計	4,459	109,084	602		114,145	2,853	98,994	423		102,270
相殺に係る調整				(657)	(657)				(710)	(710)
デリバティブ合計					113,488					101,560
その他の資産	1,154	2,207	53		3,414	1,119	1,960	77		3,156
	\$ 63,619	\$ 564,161	\$ 3,584	\$ (657)	\$ 630,707	\$ 62,025	\$ 522,992	\$ 2,954	\$ (710)	\$ 587,261

(百万カナダドル)	以下の日現在								
	2020年10月31日					2019年10月31日			
	以下を使用した 公正価値測定			相殺に係る 調整	公正価値	以下を使用した 公正価値測定			相殺に係る 調整
	レベル1	レベル2	レベル3			レベル1	レベル2	レベル3	
金融負債									
預金									
個人	\$ -	\$ 17,061	\$ 139	\$ -	\$ 17,200	\$ -	\$ 17,378	\$ 156	\$ 17,534
企業および政府	-	107,855	-	-	107,855	-	111,540	-	111,540
銀行	-	18,015	-	-	18,015	-	3,032	-	3,032
その他									
空売りした有価証券に関連する債務	12,484	16,801	-	-	29,285	20,512	14,557	-	35,069
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	-	255,922	-	-	255,922	-	218,612	-	218,612
デリバティブ									
金利契約	-	46,723	1,089	-	47,812	-	39,165	934	40,099
為替契約	-	38,210	35	-	38,245	-	40,183	27	40,210
信用デリバティブ	-	531	-	-	531	-	282	-	282
その他の契約	5,734	18,041	337	-	24,112	2,675	15,776	206	18,657
評価調整	-	(84)	(32)	-	(116)	-	12	(7)	5
デリバティブ総額合計	5,734	103,421	1,429	-	110,584	2,675	95,418	1,160	99,253
相殺に係る調整				(657)	(657)				(710)
デリバティブ合計					109,927				98,543
その他の負債	118	10	38	-	166	102	(1,280)	60	(1,118)
	\$ 18,336	\$ 519,085	\$ 1,606	\$ (657)	\$ 538,370	\$ 23,289	\$ 459,257	\$ 1,376	\$ (710) \$ 483,212

- (1) 2020年10月31日現在、住宅用および商業用モーゲージ担保証券(以下「MBS」という。)が、トレーディング有価証券のすべての公正価値レベルにそれぞれ20,520百万ドルおよびゼロドル(2019年10月31日-22,365百万ドルおよびゼロドル)、投資有価証券のすべての公正価値レベルにそれぞれ9,487百万ドルおよび2,137百万ドル(2019年10月31日-6,474百万ドルおよび2,046百万ドル)含まれている。
- (2) OECDは経済協力開発機構を表す。
- (3) CDOは債務担保証券を表す。

経常的に公正価値で測定される当行の重要な資産および負債の公正価値は、以下の評価技法およびインプットを用いて算定され、公正価値ヒエラルキーの表に区分されている。

利付銀行預け金

当行の利付銀行預け金の大半はFVTPLで測定するものとして指定されている。これらのFVTPL預け金は、短期の銀行預け金から構成され、公正価値ヒエラルキーの表では利付銀行預け金に含まれている。これらの商品の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて算定される。評価モデルのインプットには、適宜、金利スワップカーブおよび信用スプレッドが含まれる。これらは、インプットが観察可能なため、ヒエラルキーのレベル2に区分される。

政府債(カナダ、米国およびその他のOECD加盟国政府)

政府債は、公正価値ヒエラルキーの表において、カナダ政府債、米国の州、地方および政府機関債、その他のOECD加盟国政府債ならびに空売りした有価証券に関連する債務に含まれている。活発な市場における政府発行または政府保証付の債務証券の公正価値は、最新の取引価格、ブローカーの相場価格または第三者の業者価格を参照して算定され、ヒエラルキーのレベル1に区分される。活発な市場で取引されない有価証券の公正価値は、有価証券の価格、または活発に取引される類似の政府証券の価格から算定したインプライド・イールドおよびリスク・スプレッドを用いた評価技法のいずれかに基づいている。取引価格、ディーラーの相場価格または業者価格に照らして観察可能な価格または金利インプットを有する有価証券は、ヒエラルキーのレベル2に区分される。インプットが観察可能でない有価証券は、ヒエラルキーのレベル3に区分される。

社債および米国地方債

社債および米国地方債の公正価値は、公正価値ヒエラルキーの表において、社債およびその他の債券、米国の州、地方および政府機関債ならびに空売りした有価証券に関連する債務に含まれており、最近実行された取引価格、ブローカーの相場価格、価格情報サービス、また場合によっては指標の利回り(カナディアン・ディーラー・オファード・レート、LIBORおよび他の類似する参照金利)および同等の有価証券のリスク・スプレッド等の金利インプットを使用した割引キャッシュ・フロー法のいずれかを用いて算定される。観察可能な価格または金利インプットを有する有価証券は、ヒエラルキーのレベル2に区分される。インプットが観察可能でない有価証券は、ヒエラルキーのレベル3に区分される。

資産担保証券およびモーゲージ担保証券

資産担保証券(以下「ABS」という。)およびMBSは、公正価値ヒエラルキーの表において、資産担保証券、モーゲージ担保証券、カナダ政府債、米国の州、地方および政府機関債、ならびに空売りした有価証券に関連する債務に含まれている。ABSおよびMBSの評価のためのインプットは、入手可能な場合には、同一有価証券の取引価格、ディーラーまたはリード・マネージャーの相場価格、ブローカーの相場価格および業者価格となる。同一有価証券の価格が容易に入手可能でない場合、当行は、業界の標準モデルに、比較可能な商品の取引価格、ディーラー相場価格または業者価格から推定される割引マージン、利回り、デフォルト率、期限前償還率および予想損失率等をインプットとして使用している。有価証券の価格およびインプットが観察可能な場合には、ABSおよびMBSはヒエラルキーのレベル2に区分される。それ以外の場合には、ヒエラルキーのレベル3に区分される。

株式

株式は、上場および非上場の普通株式、プライベート・エクイティ、ミューチュアル・ファンドおよび特定の償還制限のあるヘッジファンドから構成されており、株式および空売りした有価証券に関連する債務に含まれている。普通株式の公正価値は、入手可能な場合には活発な市場における相場価格に基づき、ヒエラルキーのレベル1に区分される。活発な市場における相場価格が容易に入手可能でない場合、公正価値は、類似の有価証券の市場相場価格に基づくか、または評価技法(収益倍率、および予測キャッシュ・フローおよび割引率をインプットとする割引キャッシュ・フロー法等)によって算定される。プライベート・エクイティは、インプットが観察可能でないため、ヒエラルキーのレベル3に区分される。ヘッジファンドは、純資産価額(以下「NAV」という。)により評価される。当行が翌四半期末前にNAVでヘッジファンドを償還できる場合には、当該ファンドはヒエラルキーのレベル2に区分される。それ以外の場合には、ヒエラルキーのレベル3に区分される。

貸出金

貸出金には、ベースメタル・ファイナンス、法人向け貸出金、銀行引受手形、および資産担保ファイナンス・ローンが含まれる。公正価値は、次のインプットを用いて入手可能な場合には市場価格または割引キャッシュ・フロー法により算定される。すなわち、類似の格付けおよび類似の残存期間を有する資産の市場金利、ベースメタルのコモディティ価格および市場のスプレッド、LGD、入手可能な場合には信用デリバティブの価格から推定される期待デフォルト率、ならびに関連する価格算定情報(約定金利、開始日および期日、償還価格、利払いの頻度および日数計算の慣行等)である。市場価格または観察可能なインプットを有する貸出金はヒエラルキーのレベル2に区分され、公正価値に重要な影響を及ぼす観察可能でないインプットを有する貸出金はヒエラルキーのレベル3に区分される。

デリバティブ

取引所取引デリバティブ(金利オプション、エクイティオプションおよび先物等)の公正価値は、市場相場価格に基づき、通常はヒエラルキーのレベル1に区分される。OTCデリバティブは、主に金利契約、為替契約および信用デリバティブから構成される。取引所取引またはOTCの金利デリバティブ、為替デリバティブおよびエクイティ・デリバティブは、公正価値ヒエラルキーの表において、それぞれ金利契約、為替契約およびその他の契約に含まれる。OTCデリバティブの公正価値は、市場相場価格または第三者の合意価格の情報が入手可能でない場合には、評価モデルを使用して算定される。割引キャッシュ・フロー法やブラック・ショールズ・オプション・モデル等の評価モデルには、金利および為替レート、エクイティおよびコモディティの価格(指数を含む。)、信用スプレッド、対応する市場のボラティリティ水準、ならびにその他の市場に基づく価格決定要因に関する観察可能なインプットまたは観察可能でないインプットが利用される。公正価値に対するその他の調整には、呼び値、CVA、FVA、OIS、パラメータおよびモデルの不確実性、ならびに取引開始時の未実現利得または損失がある。デリバティブ商品は、観察可能な市場インプットが入手可能であるか、または観察可能でないインプットが公正価値に対して重要でない場合、ヒエラルキーのレベル2に区分される。それ以外の場合には、ヒエラルキーのレベル3に区分される。

借入れたまたは売戻契約に基づき購入した有価証券および貸付けたまたは買戻契約に基づき売却した有価証券

これらの商品は、公正価値ヒエラルキーの表において、売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金ならびに買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務に含まれている。これらの契約の公正価値は、金利カーブをインプットとして用いる割引キャッシュ・フロー法等の評価技法を使用して算定される。これらは、インプットが観察可能なため、ヒエラルキーのレベル2に区分される。

預金

当行の預金の大半は償却原価で測定されるが、一部の預金はFVTPLで測定するものとして指定されている。これらのFVTPL預金には、顧客預金、譲渡性預金および約束手形の発行、ならびに金利連動型債券および株式連動型債券が含まれている。これらの商品の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法およびデリバティブ・オプション評価モデルを用いて算定される。評価モデルのインプットには、適宜、指標イールドカーブ、信用スプレッド、金利、エクイティおよび金利のボラティリティ、配当ならびに相関関係が含まれる。これらは、観察可能でない信用スプレッド、ボラティリティ、配当ならびに相関率の重要性に応じて、ヒエラルキーのレベル2または3に区分される。

重要な観察可能でないインプットを用いた公正価値測定に関する定量的情報(レベル3商品)

以下の表は、重要なレベル3の金融商品の公正価値、公正価値の算定に使用した評価技法、観察可能でないインプットの範囲および加重平均を示している。

2020年10月31日現在(価格、パーセンテージおよび比率を除き百万カナダドル)								
商品	公正価値ヒエラルキーの表における表示科目	公正価値		重要な観察可能でないインプット(3)	インプットの値の範囲(1),(2)			加重平均/インプットの分布
		資産	負債		低	高		
社債および関連するデリバティブ				価格ベース	価格	\$ 1.33	\$136.34	\$94.23
	社債およびその他の債券	33		割引キャッシュ・フロー	信用スプレッド	1.75%	14.10%	7.93%
	貸出金	1,070			信用補完	11.82%	15.75%	13.13%
	デリバティブ関連負債		25					
政府債および地方債				価格ベース	価格	\$ 64.62	\$ 64.62	\$ 64.62
	モーゲージ担保証券	-		割引キャッシュ・フロー	利回り	4.21%	7.89%	5.88%
	社債およびその他の債券	157						
未公開株式、ヘッジファンド投資および関連するエクイティ・デリバティブ				類似企業の市場価格	EV/EBITDA倍率	7.00X	15.38X	13.31X
	株式	1,596		価格ベース	P/E倍率	9.40X	33.47X	19.10X
	デリバティブ関連負債		10	割引キャッシュ・フロー	EV/Rev倍率	1.61X	9.10X	2.04X
					流動性割引(4)	10.00%	40.00%	16.40%
					割引率	10.52%	10.52%	10.52%
					NAV/価格(5)	n.a.	n.a.	n.a.
金利デリバティブおよび金利連動型仕組債(6)(7)				割引キャッシュ・フロー	金利	1.20%	1.60%	均等
	デリバティブ関連資産	540		オプション価格算定モデル	CPIスワップ・レート	1.46%	1.83%	均等
	デリバティブ関連負債		1,103		金利－金利相関	19.00%	67.00%	均等
					為替－金利相関	29.00%	56.00%	均等
					為替－為替相関	68.00%	68.00%	均等
エクイティ・デリバティブおよび株式連動型仕組債(6)(7)				割引キャッシュ・フロー	配当利回り	0.00%	11.38%	下方
	デリバティブ関連資産	36		オプション価格算定モデル	エクイティ(EQ)－EQ相関	21.90%	97.00%	中位
	預金		139		EQ－為替相関	(71.40)%	45.10%	中位
	デリバティブ関連負債		238		EQボラティリティ	9.00%	176.00%	上方
その他(8)								
	資産担保証券	2						
	デリバティブ関連資産	26						
	その他の資産	53						
	モーゲージ担保証券	27						
	米国の州、地方および政府機関債	44						
	デリバティブ関連負債		53					
	その他の負債		38					
合計		\$ 3,584	\$ 1,606					

2019年10月31日現在(価格、パーセンテージおよび比率を除き百万カナダドル)

商品	公正価値ヒエラルキー の表における表示 科目	公正価値		重要な観察可能 でないインプ ット(3)	インプットの値の範囲(1),(2)			
		資産	負債		評価技法	低	高	加重平均/ インプット の分布
社債および関連するデ リバティブ				価格ベース	価格	\$ 20.00	\$131.78	\$110.30
	社債およびその他の 債券	24		割引キャッシュ・ フロー	信用スプレッド	1.02%	11.34%	6.18%
	貸出金	680			信用補完	11.82%	15.75%	13.13%
	デリバティブ関連負債							
政府債および地方債				価格ベース	価格	\$ 65.50	\$100.00	\$ 65.67
	モーゲージ担保証券	27		割引キャッシュ・ フロー	利回り	4.70%	6.63%	5.80%
	社債およびその他の 債券	150						
未公開株式、ヘッジ ファンド投資および 関連するエクイ ティ・デリバティブ				類似企業の市場価 格	EV/EBITDA倍率	4.00X	24.90X	10.23X
	株式	1,513		価格ベース	P/E倍率	9.70X	29.90X	16.11X
	デリバティブ関連負債		10	割引キャッシュ・ フロー	EV/Rev倍率	0.90X	5.93X	3.55X
					流動性割引(4)	10.00%	40.00%	17.64%
					割引率	10.00%	12.00%	10.45%
					NAV/価格(5)	n.a.	n.a.	n.a.
金利デリバティブおよ び金利連動型仕組債 (6)(7)				割引キャッシュ・ フロー	金利	1.27%	2.16%	均等
	デリバティブ関連資産	380		オプション価格算 定モデル	CPIスワップ・ レート	1.40%	2.00%	均等
	デリバティブ関連負債		943		金利－金利相関	19.00%	67.00%	均等
					為替－金利相関	29.00%	56.00%	均等
					為替－為替相関	68.00%	68.00%	均等
エクイティ・デリバ ティブおよび株式連 動型仕組債(6)(7)				割引キャッシュ・ フロー	配当利回り	0.10%	8.77%	下方
	デリバティブ関連資産	11		オプション価格算 定モデル	エクイティ(EQ) -EQ相関	34.00%	95.40%	中位
	預金		156		EQ－為替相関	(71.40)%	30.50%	中位
	デリバティブ関連負債		180		EQボラティリ ティ	4.00%	110.00%	上方
その他(8)								
	資産担保証券	2						
	デリバティブ関連資産	32						
	その他の資産	77						
	モーゲージ担保証券	-						
	米国の州、地方および 政府機関債	58						
	デリバティブ関連負債		27					
	その他の負債		60					
合計		\$ 2,954	\$ 1,376					

- (1) インプットの値の低および高は、特定の商品区分の金融商品グループの評価に使用された、実際のインプットの最高値および最低値である。当該インプットの範囲は、インプットの不確実性の程度は反映していないが、当該商品区分に含まれる他の原商品の影響を受ける。したがって、インプットの範囲は、各貸借対照表日現在で保有する原商品の特性に基づいて每期変動する。記載のある場合、インプットの値の加重平均は、当該商品区分内の商品の相対的な公正価値に基づいて計算されている。デリバティブの加重平均は、比較可能な測定基準とはならないため、この表には表示されていない。代わりに、各商品区分の範囲に含まれる重要な観察可能でないインプットの分布がこの表に示されている。
 - (2) 価格ベースのインプットは、特定の債務証券にとって重要であり、外部の指標、類似の代替的な商品または四半期末前の取引データに基づいている。これらの商品の価格インプットは額面当たり100ドルごとのドル建てで表示されている。例えば、インプットの価格が105ドルの場合、当該商品は、額面価額を上回るプレミアム価額で評価されている。
 - (3) 頭字語は以下を表す。(i)企業価値(EV)、(ii)利息、税金、減価償却費および償却費計上前利益(EBITDA)、(iii)株価/収益(P/E)、(iv)収益(Rev)、(v)消費者物価指数(CPI)、(vi)金利(IR)、(vii)為替(FX)、および(viii)エクイティ(EQ)である。
 - (4) 流動性割引のインプットを用いた有価証券の公正価値は合計286百万ドル(2019年10月31日—255百万ドル)であった。
 - (5) ヘッジファンドのNAVは、負債控除後の資産の公正価値の合計をファンドの口数で除した金額である。未公開株式はNAVまたは評価技法に基づき評価されている。1口当たりNAVまたは1株当たり価格の範囲は、投資の多様な性質により価格が分散しているため、ヘッジファンドまたは未公開株式に関しては開示されていない。
 - (6) 各デリバティブ商品区分内の集中と分散の程度により、インプットの特定の範囲が広がったり、インプットが当該範囲にわたり不均等に分布したりする場合がある。この表において、当行は、インプットの多くが範囲の上方、中位、下方のいずれに集中しているか、または当該範囲にわたり均等に分布しているかを示している。
 - (7) 仕組債には、エクイティ・デリバティブまたは金利デリバティブのインプットに類似した観察可能でないインプットを用いたエクイティまたは金利の組込デリバティブが含まれている。
 - (8) その他には、主に、オークション・レート証券、コモディティ・デリバティブ、為替デリバティブ、条件付対価、銀行が保有する生命保険および取得請求権付または取得条項付株式が含まれている。
- n.a.該当なし

観察可能でないインプットへの感応度および観察可能でないインプット間の相関

利回り、信用スプレッド/割引マージン

金融商品の利回りは、評価モデルにおいて将来キャッシュ・フローを割引くために使用される金利である。利回りの単独での上昇は、公正価値測定額を減少させ、低下はその逆である。信用スプレッド/割引マージンは、負債性金融商品の利回りとベンチマーク商品の利回りとの差異である。ベンチマーク商品は、高い信用格付けおよび類似の満期を有したものであり、多くの場合は政府債が該当する。このため、信用スプレッド/割引マージンは、見積キャッシュ・フローの不確実性に対して求められる市場リターンを反映した、資産の将来キャッシュ・フローの現在価値の算定に使用される割引率となる。商品の信用スプレッド/割引マージンは、割引キャッシュ・フロー法に使用される利回りの一部となる。

調達スプレッド

調達スプレッドは、調達金利または預金金利に固有の信用スプレッドである。調達スプレッドの単独での縮小は、当行の負債の公正価値の増加を生じさせ、拡大はその逆である。

デフォルト率

デフォルト率は借手が貸出金を予定通りに返済できない割合である。通常、デフォルト率の低下は貸出金の公正価値を増加させ、上昇はその逆である。この影響は、政府保証付貸出金よりも、政府保証付以外の貸出金に関してより顕著になる。

期限前償還率

期限前償還率は、貸出金が予想回収スケジュールよりも早期に回収される割合である。期限前償還は貸出金の将来キャッシュ・フローを変動させる。貸出金利が現在の再投資金利を下回る場合、期限前償還率の単独での上昇は公正価値の増加を生じさせ、期限前償還率の単独での低下は公正価値の減少を生じさせる。期限前償還率は通常、金利と負の相関にある。

回収率および予想損失率

回収率は、貸出金のデフォルト時の回収可能額に関する見積りである。回収率は、回収額を回収期限到来済みの貸出金残高で除したもので、パーセンテージで表示されている。回収額の逆の概念は予想損失である。予想損失率は、貸出金のデフォルト時に回収されない貸出額に関する見積りである。予想損失率は、損失金額を回収期限到来済みの貸出金残高で除したもので、パーセンテージで表示されている。通常、回収率の上昇または予想損失率の低下は貸出金の公正価値を増加させ、それらの低下または上昇はその逆である。

ボラティリティ率

ボラティリティは、将来の価格変動の可能性を測定するもので、多くの場合、価格変動の標準偏差として測定される。ボラティリティは、デリバティブおよび発行仕組債の評価に使用されるオプション価格算定モデルへのインプットとなる。ボラティリティは、エクイティ、金利、コモディティおよび為替のオプションの評価に使用される。ボラティリティ率の上昇は、基礎となる価格またはレートの変動可能性の増加を意味する。ボラティリティ率の上昇は、オプションの条件に応じて、オプションの公正価値を増加または減少させることがある。ボラティリティ率の決定は、基礎となる市場価格、権利行使価格および満期等の様々な要素(ただしこれらに限定されない。)に左右される。

配当利回り

配当利回りは、株価に対する基礎となる株式の予想配当額を年率で表したものである。配当利回りは株価先渡およびオプションのモデルのインプットとして使用される。配当利回りの上昇は先渡価格を減少させ、低下はその逆である。配当利回りの上昇は、オプションの条件に応じて、オプションの価値を増加または減少させる。

相関率

相関は、2つの異なる変数が変動した場合の当該変数間の線形関係である。商品の支払額が相関する変数によって決定される場合、相関は、デリバティブ契約および発行仕組債の評価へのインプットとなる。変数が正の相関にある場合、一方の変数の増加は他方の変数を増加させる。変数が負の相関にある場合、一方の変数の増加は他方の変数を減少させる。変数は、単一の資産種類もしくは市場(エクイティ、金利、コモディティ、信用および外国為替)内、または別々の資産種類の変数間(エクイティと外国為替、または金利と外国為替)で参照される場合がある。相関の変動は、金融商品の条件に応じて、当該金融商品の公正価値を増加または減少させる。

金利

金利は、元本または想定元本に課される金額の割合である。金利の上昇は、金融商品の割引キャッシュ・フロー価値を減少させ、低下はその逆である。

消費者物価指数スワップ・レート

CPIスワップ・レートは、輸送、食品および医療等の消費財およびサービスを総合した平均価格の上昇割合である。CPIスワップ・レートの上昇はインフレ・スワップの支払額を増加させ、低下はその逆である。

EV/EBITDA倍率、P/E倍率、EV/Rev倍率および流動性割引

未公開株式の評価インプットには、EV/EBITDA倍率、P/E倍率ならびにEV/Rev倍率がある。これらは、純利益または収益見積額の倍率を基に、会社の企業価値または株式の価値の計算に使用される。これらの倍率の上昇は、すべての種類の倍率に係る公正価値を増加させ、低下はその逆である。評価額を裏付ける取引がほとんど、またはまったく存在しない場合には、流動性割引が適用されることがある。

信用補完

信用補完は証券化された取引の評価インプットであり、シニア・トランシェの貸出金に対するロス・プロテクションの金額である。信用補完は取引規模に対するパーセンテージで表示される。信用補完の上昇は信用スプレッドの縮小とトランシェの公正価値の増加となり、低下はその逆である。

観察可能でないインプット間の相関

観察可能でないインプット(上記の割引マージン、デフォルト率、期限前償還率、ならびに回収率および予想損失率を含む。)は、互いに独立していないことがある。例えば、割引マージンは、デフォルト率、期限前償還率または回収率および予想損失率の変動の影響を受ける場合がある。デフォルト率が低下する場合、または回収率が上昇する場合、割引マージンは通常縮小する。

経常的に公正価値で測定されレベル3に区分された商品の公正価値測定額の変動

	2020年10月31日終了年度									依然として保有するポジションに 関して純損益に計 上された利得 (損失)
(百万カナダドル)	公正価値 期首残高	純損益に 計上 された 利得 (損失)	OCIに 計上 された 利得 (損失) (1)	購入 (発行)	決済 (売却) および その他(2)	レベル3 への振替	レベル3 からの 振替	公正価値 期末残高		
資産										
有価証券										
トレーディング										
以下による発行済または保証 付の債務：										
米国の州、地方および政府 機関	\$ 58	\$ -	\$ 1	\$ -	\$ (15)	\$ -	\$ -	\$ 44	\$ -	
資産担保証券										
CDO以外の証券	2	-	-	-	-	-	-	2	-	
社債およびその他の債券	21	(1)	-	1	(3)	12	-	30	-	
株式	1,219	(126)	10	231	(74)	3	(2)	1,261	(47)	
	1,300	(127)	11	232	(92)	15	(2)	1,337	(47)	
投資										
資産担保証券	27	-	-	-	-	-	-	27	n.a.	
社債およびその他の債券	153	-	4	-	3	-	-	160	n.a.	
株式	294	-	37	8	(4)	-	-	335	n.a.	
	474	-	41	8	(1)	-	-	522	n.a.	
貸出金	680	92	8	551	(706)	624	(179)	1,070	(15)	
その他										
正味デリバティブ残高(3)										
金利契約	(585)	(116)	(2)	(31)	4	35	107	(588)	(57)	
為替契約	21	(7)	(3)	23	-	(6)	(6)	22	(13)	
その他の契約	(195)	(76)	(1)	(174)	44	(88)	189	(301)	(8)	
評価調整	22	-	-	-	18	-	-	40	-	
その他の資産	77	(7)	2	-	(19)	-	-	53	(7)	
	\$ 1,794	\$ (241)	\$ 56	\$ 609	\$ (752)	\$ 580	\$ 109	\$ 2,155	\$ (147)	
負債										
預金										
個人	\$ (156)	\$ 52	\$ (3)	\$ (296)	\$ 30	\$ (113)	\$ 347	\$ (139)	\$ 29	
企業および政府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他										
その他の負債	(60)	5	(1)	4	14	-	-	(38)	5	
	\$ (216)	\$ 57	\$ (4)	\$ (292)	\$ 44	\$ (113)	\$ 347	\$ (177)	\$ 34	

2019年10月31日終了年度										
(百万カナダドル)	公正価値 期首残高	純損益に 計上 された 利得 (損失)	OCIに 計上 された 利得 (損失)(1)	購入 (発行)	決済 (売却) および その他(2)	レベル3 への振替	レベル3 からの 振替	公正価値 期末残高	依然として保 有するポジ ションに関 して純損益に計 上された利得 (損失)	
資産										
有価証券										
トレーディング										
以下による発行済または保証 付の債務:										
米国の州、地方および政府 機関	\$ 66	\$ -	\$ 1	\$ -	\$ (9)	\$ -	\$ -	\$ 58	\$ -	
資産担保証券										
CDO以外の証券	110	15	-	-	(123)	-	-	2	3	
社債およびその他の債券	21	1	1	-	(2)	-	-	21	1	
株式	1,148	(76)	2	333	(226)	39	(1)	1,219	(20)	
	1,345	(60)	4	333	(360)	39	(1)	1,300	(16)	
投資										
資産担保証券	-	-	-	27	-	-	-	27	n.a.	
社債およびその他の債券	192	(3)	24	-	(60)	-	-	153	n.a.	
株式	237	-	16	5	36	-	-	294	n.a.	
	429	(3)	40	32	(24)	-	-	474	n.a.	
貸出金	551	40	2	830	(481)	55	(317)	680	19	
その他										
正味デリバティブ残高(3)										
金利契約	(504)	(79)	-	(197)	217	(7)	(15)	(585)	(42)	
為替契約	21	12	-	-	(6)	4	(10)	21	32	
その他の契約	(84)	131	2	(131)	18	(38)	(93)	(195)	115	
評価調整	1	-	-	-	21	-	-	22	-	
その他の資産	65	28	-	-	(16)	-	-	77	27	
	\$ 1,824	\$ 69	\$ 48	\$ 867	\$ (631)	\$ 53	\$ (436)	\$ 1,794	\$ 135	
負債										
預金										
個人	\$ (390)	\$ (38)	\$ -	\$ (102)	\$ 29	\$ (214)	\$ 559	\$ (156)	\$ -	
企業および政府	5	-	-	-	-	-	(5)	-	-	
その他										
その他の負債	(68)	(16)	(1)	1	24	-	-	(60)	(12)	
	\$ (453)	\$ (54)	\$ (1)	\$ (101)	\$ 53	\$ (214)	\$ 554	\$ (216)	\$ (12)	

(1) 当該金額には、レベル3の商品に関連した、在外子会社の連結により生じた為替換算差損益が含まれている(該当ある場合)。当該連結により生じた為替換算差損益を除き、OCIに認識された投資有価証券に係る未実現利得は2020年10月31日終了年度に32百万ドル(2019年10月31日-43百万ドルの利得)であった。

(2) その他には、純損益に認識されたプレミアムまたはディスカウントの償却が含まれている。

(3) 2020年10月31日現在の正味デリバティブには、デリバティブ資産602百万ドル(2019年10月31日-423百万ドル)、およびデリバティブ負債1,429百万ドル(2019年10月31日-1,160百万ドル)が含まれている。

n.a. 該当なし

経常的に公正価値で計上する商品の公正価値ヒエラルキーのレベル間での振替

レベル1とレベル2との間の振替、ならびにレベル3への振替およびレベル3からの振替は、当期間末に行われたと仮定されている。当期間中にレベル3に振り替えられた資産または負債の当期間の公正価値の変動はすべて、上記の調整表の依然として保有するポジションに関して純損益に計上された利得(損失)の欄から除外されているが、当期間中にレベル3から振り替えられた資産または負債の当期間の公正価値の変動はすべて、上記の調整表の同欄に含まれている。

レベル1と2との間の振替は、公正価値が、活発な市場の市場相場価格を基に入手したものであるか(レベル1)否かによって決まる。

2020年10月31日終了年度のレベル1からレベル2への振替額には、投資に報告されている米国の州、地方および政府機関債1,200百万ドル、トレーディングに報告されている米国の州、地方および政府機関債1,125百万ドル、ならびに空売りした有価証券に関連する債務804百万ドルが含まれている。2019年10月31日終了年度のレベル1からレベル2への振替額には、その他の契約(デリバティブ関連資産1,996百万ドルおよびデリバティブ関連負債621百万ドルから構成)、トレーディングに報告されている米国の州、地方および政府機関債1,250百万ドル、ならびに空売りした有価証券に関連する債務202百万ドルが含まれている。

2020年10月31日終了年度のレベル2からレベル1への振替額には、投資に報告されている米国の州、地方および政府機関債937百万ドルが含まれている。2019年10月31日終了年度において、レベル2からレベル1への重要な振替はなかった。

レベル2とレベル3との間の振替は主に、あるインプットの市場における観察可能性の変化、または観察可能でないインプットが金融商品の公正価値に与える影響の重要性の変化のいずれかに起因している。

2020年10月31日終了年度のレベル2からレベル3への重要な振替額には、以下が含まれている。

- ・貸出金624百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)
- ・その他の契約に含まれるOTCエクイティオプション69百万ドル(デリバティブ関連資産51百万ドルおよびデリバティブ関連負債120百万ドルから構成、インプットの市場における観察可能性の変化に起因)
- ・個人預金113百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)

2019年10月31日終了年度のレベル2からレベル3への重要な振替額には、個人預金214百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)が含まれている。

2020年10月31日終了年度のレベル3からレベル2への重要な振替額には、以下が含まれている。

- ・貸出金179百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)
- ・金利契約107百万ドル(デリバティブ関連資産211百万ドルおよびデリバティブ関連負債318百万ドルから構成、インプットの市場における観察可能性の変化に起因)
- ・その他の契約に含まれるOTCエクイティオプション109百万ドル(デリバティブ関連資産76百万ドルおよびデリバティブ関連負債185百万ドルから構成、インプットの市場における観察可能性の変化に起因)
- ・個人預金347百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)

2019年10月31日終了年度のレベル3からレベル2への重要な振替額には、以下が含まれている。

- ・貸出金317百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)
- ・その他の契約に含まれるOTCエクイティオプション86百万ドル(デリバティブ関連資産459百万ドルおよびデリバティブ関連負債373百万ドルから構成、インプットの市場における観察可能性の変化に起因)
- ・個人預金559百万ドル(観察可能でないインプットの重要性の変化に起因)

合理的に考え得る代替的な仮定の使用によるレベル3の金融商品の公正価値のプラスおよびマイナスの変動

金融商品の観察可能でないインプットのうちの1つまたは複数が公正価値の測定に重要な影響を及ぼす可能性がある場合、当該金融商品は公正価値ヒエラルキーのレベル3に区分される。財務諸表の作成において、これらの観察可能でないインプット・パラメータに関して、市場の実勢または経営陣による判断と整合するような適正な水準が選択される。価格またはレートが観察可能でない性質であるため、これらのレベル3の金融商品の評価について不確実性が存在する可能性がある。

以下の表は、合理的に考え得る代替的な仮定の使用によるレベル3の金融商品の公正価値への影響を要約している。この感応度の開示は、レベル3の金融商品の公正価値における相対的な不確実性の潜在的影響を示すことを意図している。以下の感応度の報告に際し、当行は、(i)評価要素の変動が公正価値のプラスとマイナスの変動を相殺しており、(ii)相殺している商品がいずれもレベル3に区分されており、かつ(iii)エクスポージャーが純額で管理および報告されている場合には、残高を相殺している。感応度全般に関して、実際には、合理的に考え得る代替的な仮定のすべてが同時に実現する可能性は低い。

(百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	レベル3の 公正価値	合理的に考 え得る代替 的な仮定の 使用による 公正価値の プラスの 変動	合理的に考 え得る代替 的な仮定の 使用による 公正価値の マイナスの 変動	レベル3の 公正価値	合理的に考 え得る代替 的な仮定の 使用による 公正価値の プラスの 変動	合理的に考 え得る代替 的な仮定の 使用による 公正価値の マイナスの 変動
有価証券						
トレーディング						
以下による発行済または保証付 の債務：						
米国の州、地方および政府機 関	\$ 44	\$ 1	\$ (1)	\$ 58	\$ 1	\$ (1)
資産担保証券	2	-	-	2	-	-
社債およびその他の債券	30	1	(1)	21	-	-
株式	1,261	15	(15)	1,219	13	(14)
投資						
モーゲージ担保証券	27	3	(3)	27	1	(1)
社債およびその他の債券	160	18	(16)	153	15	(13)
株式	335	28	(28)	294	26	(27)
貸出金	1,070	49	(49)	680	9	(12)
デリバティブ	602	2	(2)	423	6	(3)
その他の資産	53	-	-	77	-	-
	\$ 3,584	\$ 117	\$ (115)	\$ 2,954	\$ 71	\$ (71)
預金	\$ (139)	\$ 4	\$ (4)	\$ (156)	\$ 4	\$ (4)
デリバティブ	(1,429)	13	(55)	(1,160)	20	(17)
その他						
その他の負債	(38)	-	-	(60)	-	-
	\$ (1,606)	\$ 17	\$ (59)	\$ (1,376)	\$ 24	\$ (21)

感応度についての結果

2020年10月31日現在、他の合理的に考え得る代替的な仮定をレベル3の資産ポジションに適用した場合、公正価値は117百万ドルの増加および115百万ドルの減少(このうち、それぞれ49百万ドルおよび47百万ドルが「その他の資本項目」に計上)となる。これらの仮定をレベル3の負債ポジションに適用した場合は、公正価値は17百万ドルの減少および59百万ドルの増加となる。

レベル3の評価インプットおよび合理的に考え得る代替的な仮定の策定方法

以下は、レベル3商品の評価に使用した観察可能でないインプットおよび感応度の算定に使用した合理的に考え得る代替的な仮定の策定方法の要約である。

金融資産または金融負債	感応度の手法
資産担保証券、社債、政府債、地方債および貸出金	感応度は、十分な数の価格が入手されている場合、呼び値スプレッドもしくはインプットの価格の±1標準偏差をとることによるか、信用スプレッド等のインプット・パラメータを調整するか、または業者価格の高値と安値を合理的に考え得る代替的な仮定として利用して算定される。
未公開株式、ヘッジファンド投資および関連するエクイティ・デリバティブ	未公開株式への直接投資の感応度は、(i)公正価値の算定に割引キャッシュ・フロー法を使用している場合には割引率を2%変化させること、(ii)株価倍率に基づくモデルを使用している場合には比較可能な企業の株価倍率の範囲を基に株価倍率を変化させること、または(iii)代替的な評価アプローチを使用することにより算定される。未公開株式ファンド、ヘッジファンドおよび関連するエクイティ・デリバティブのNAVはファンド・マネージャーにより提供されているため、これらの投資について他の合理的に考え得る代替的な仮定はない。
金利デリバティブ	金利スワップおよびクロス・カレンシー・スワップの感応度は、これらのインプットの±1標準偏差、および適切な場合にはモデルとパラメータの不確実性に相当する金額を使用して算定される。
エクイティ・デリバティブ	レベル3のポジションの感応度は、価格決定サービスの市場データ(ボラティリティ、配当または相関を適宜含む。)の±1標準偏差により観察可能でないモデルのインプットをシフトすることによって算定される。
銀行資金および預金	預金の感応度は、一定の±ベシス・ポイントでファンディング・カーブをシフトさせることにより算定される。
仕組債	金利連動型および株式連動型の仕組債の感応度は、インプットを±1標準偏差変化させることにより算定される。その他の預金に対する感応度は、一定の±ベシス・ポイントでのファンディング・カーブの合理的な変動を見積ることにより算定される。

償却原価で計上されている金融商品の公正価値ヒエラルキー別に区分した公正価値

	2020年10月31日現在					
	公正価値が 常に帳簿価 額に近似 (1)	公正価値が帳簿価額に近似していない可能性				公正価値 合計
		以下による公正価値測定			合計	
(百万カナダドル)		レベル1	レベル2	レベル3		
利付銀行預け金	\$ 17,410	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 17,410
償却原価で測定される有価証券(2)	-	502	58,125	-	58,627	58,627
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	37,064	-	11,557	-	11,557	48,621
貸出金						
リテール	66,151	-	392,093	4,640	396,733	462,884
ホールセール	11,278	-	182,094	5,381	187,475	198,753
	77,429	-	574,187	10,021	584,208	661,637
その他の資産	56,484	-	450	131	581	57,065
	188,387	502	644,319	10,152	654,973	843,360
預金						
個人	245,777	-	78,500	527	79,027	324,804
企業および政府	364,451	-	153,395	655	154,050	518,501
銀行	19,070	-	7,439	9	7,448	26,518
	629,298	-	239,334	1,191	240,525	869,823
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	18,309	-	-	-	-	18,309
その他の負債	56,200	-	1,004	8,515	9,519	65,719
劣後無担保社債	-	-	10,012	59	10,071	10,071
	\$ 703,807	\$ -	\$ 250,350	\$ 9,765	\$ 260,115	\$ 963,922

	2019年10月31日現在					
	公正価値が 常に帳簿価 額に近似 (1)	公正価値が帳簿価額に近似していない可能性			合計	公正価値 合計
(百万カナダドル)		以下による公正価値測定				
		レベル1	レベル2	レベル3		
利付銀行預け金	\$ 16,062	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 16,062
償却原価で測定される有価証券(2)	-	523	44,581	-	45,104	45,104
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	48,784	-	12,110	-	12,110	60,894
貸出金						
リテール	66,647	-	352,717	5,052	357,769	424,416
ホールセール	6,596	-	173,274	4,775	178,049	184,645
	73,243	-	525,991	9,827	535,818	609,061
その他の資産	49,761	-	469	145	614	50,375
	187,850	523	583,151	9,972	593,646	781,496
預金						
個人	195,583	-	81,179	591	81,770	277,353
企業および政府	296,166	-	155,646	724	156,370	452,536
銀行	15,093	-	7,671	9	7,680	22,773
	506,842	-	244,496	1,324	245,820	752,662
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	7,974	-	-	-	-	7,974
その他の負債	50,601	-	445	9,978	10,423	61,024
劣後無担保社債	8	-	9,864	58	9,922	9,930
	\$ 565,425	\$ -	\$ 254,805	\$ 11,360	\$ 266,165	\$ 831,590

- (1) 一定の金融商品は、短期的な性質(要求払商品、または当初満期が3ヶ月以内の商品)かつ信用リスクに重要性がないため、帳簿価額が常に公正価値に近似していることから、レベルに割り当てられていない。
- (2) 当行の連結貸借対照表の「有価証券—投資(関連する引当金を除く)」に含まれている。

償却原価で計上し、上記の表に開示している金融資産および負債の公正価値は、以下の評価技法およびインプットを使用して算定している。

償却原価で測定される有価証券

政府債、社債およびABSの公正価値は、相場価格に基づいている。一定のOECD加盟国以外の政府債の公正価値は、業者価格、または他国の政府債のイールドカーブをインプットに用いた割引キャッシュ・フロー法に基づいている。ABSについて市場価格を入手できない場合、その公正価値は割引キャッシュ・フロー法を用いて算定される。評価モデルに含まれるインプットには、一般的に、市場金利、比較可能な有価証券から算出したスプレッドおよびイールド、期限前償還率、ならびにLGDが含まれる。

売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金ならびに買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務

長期商品に使用する評価方法は、当注記の「経常的に公正価値で測定され公正価値ヒエラルキーを使用して区分された資産および負債の公正価値」の項に記載している。短期商品の帳簿価額は、通常、公正価値に近似している。

貸出金－リテール

リテール貸出金には、住宅モーゲージ、個人および小規模企業向け貸出金ならびにクレジットカードが含まれる。住宅モーゲージならびに個人および小規模企業向け貸出金に関して、当行では、適宜、商品の種類、約定金利、期日までの期間および信用評価等の特定の属性に基づいてポートフォリオを分けている。これらの貸出金の公正価値は、実勢金利、顧客との約定または公示金利、顧客への割引、信用スプレッド、期限前償還率およびローン・トゥ・バリュー比率等の適用されるインプットを用いた割引キャッシュ・フロー法により算定される。また、クレジットカード債権の公正価値は、ポートフォリオの利回り、償却率および月次返済率をインプットとして、割引キャッシュ・フロー法に基づいて計算している。短期貸出金および変動利付貸出金の帳簿価額は、通常、公正価値に近似している。

貸出金－ホールセール

市場価格が入手可能な場合、ホールセールの貸出金は市場価格に基づいて評価される。それ以外の場合、公正価値は、次のインプットを用いて割引キャッシュ・フロー法により算定される。すなわち、類似の格付けおよび類似の残存期間を有する資産の市場金利および市場のスプレッド、LGD、入手可能な場合にはクレジット・デフォルト・スワップの価格から推定される期待デフォルト率、および関連する価格算定情報(約定金利、開始日および期日、償還価格、利払いの頻度および日数計算の慣行等)である。

預金

預金は、要求払預金、通知預金および定期預金(当行の長期資金調達のために当行が発行した優先預金債を含む。)から構成される。定期預金の公正価値は、以下の複数の評価技法のうちのいずれかで算定される。(i)定期預金および類似商品に関して、当行は満期までの期間を基にポートフォリオを分けている。これらの商品の公正価値は、当該期間に新たに販売した場合の顧客金利等をインプットとして、割引キャッシュ・フロー法により算定している。(ii)優先預金債に関して、当行は実際の取引価格、業者価格、または市場金利のイールドカーブおよび当行の資金調達スプレッドをインプットとして用いた割引キャッシュ・フロー法を使用している。要求払預金、通知預金および短期の定期預金の帳簿価額は、通常、公正価値に近似している。

その他の資産およびその他の負債

その他の資産およびその他の負債には、一定のコモディティに関連する債権および債務が含まれている。コモディティに関連する債権および債務の公正価値は、市場金利、契約相手先の信用スプレッド、当行の資金調達スプレッド、コモディティ先渡価格および直物価格等の適用可能なインプットを用いて、割引キャッシュ・フロー法により計算されている。

劣後無担保社債

劣後無担保社債の公正価値は、入手可能な場合、市場価格、ディーラーの相場価格または業者価格に基づいている。価格が観察可能でない場合は、市場金利や信用スプレッド等の適用可能なインプットを用いて、割引キャッシュ・フロー法により公正価値が算定される。

[前へ](#) [次へ](#)

注記4 有価証券

有価証券の帳簿価額

2020年10月31日現在							
(百万カナダドル)	満期までの期間(1)					満期日の 定めなし	合計
	3ヶ月 以内	3ヶ月 から1年	1年 から5年	5年 から10年	10年超		
トレーディング(2)							
以下による発行済または保証付の 債務:							
カナダ政府	\$ 2,301	\$ 7,004	\$ 6,054	\$ 3,569	\$ 8,419	\$ -	\$ 27,347
米国の州、地方および政府機関	559	4,532	12,546	4,134	14,810	-	36,581
その他のOECD加盟国政府	56	695	3,010	584	2,120	-	6,465
モーゲージ担保証券	-	-	-	-	39	-	39
資産担保証券	3	164	82	181	98	-	528
社債およびその他の債券							
銀行引受手形	65	227	-	-	-	-	292
譲渡性預金	2	63	35	7	4	-	111
その他(3)	1,048	3,472	5,521	3,007	8,043	-	21,091
株式	-	-	-	-	-	43,617	43,617
	4,034	16,157	27,248	11,482	33,533	43,617	136,071
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定(2)							
以下による発行済または保証付の 債務:							
カナダ政府							
連邦							
償却原価	-	204	1,689	272	397	-	2,562
公正価値	-	204	1,690	269	378	-	2,541
利回り(4)	-	1.4%	1.4%	1.2%	1.4%	-	1.4%
州および地方							
償却原価	5	908	629	7	1,688	-	3,237
公正価値	5	911	630	8	1,679	-	3,233
利回り(4)	4.5%	1.3%	2.7%	4.3%	2.6%	-	2.2%
米国の州、地方および政府機関							
償却原価	1,772	9,736	8,777	2,227	16,011	-	38,523
公正価値	1,775	9,739	8,779	2,237	15,994	-	38,524
利回り(4)	0.1%	1.7%	1.1%	2.6%	2.2%	-	1.7%
その他のOECD加盟国政府							
償却原価	274	2,288	4,773	1	-	-	7,336
公正価値	274	2,289	4,781	1	-	-	7,345
利回り(4)	1.7%	2.4%	1.8%	3.6%	-	-	2.0%
モーゲージ担保証券							
償却原価	-	-	-	192	2,226	-	2,418
公正価値	-	-	-	189	2,181	-	2,370
利回り(4)	-	-	-	1.2%	1.2%	-	1.2%
資産担保証券							
償却原価	-	-	10	4,294	4,059	-	8,363
公正価値	-	-	10	4,247	4,011	-	8,268
利回り(4)	-	-	1.4%	1.4%	1.4%	-	1.4%
社債およびその他の債券							
償却原価	2,670	5,796	10,425	92	58	-	19,041
公正価値	2,670	5,801	10,466	106	71	-	19,114
利回り(4)	0.9%	1.6%	1.5%	2.1%	2.4%	-	1.5%
株式							
取得原価	-	-	-	-	-	276	276
公正価値(5)	-	-	-	-	-	525	525
償却原価	4,721	18,932	26,303	7,085	24,439	276	81,756
公正価値	4,724	18,944	26,356	7,057	24,314	525	81,920

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在						満期日の 定めなし	合計
	満期までの期間(1)							
	3ヶ月 以内	3ヶ月 から1年	1年 から5年	5年 から10年	10年超			
償却原価で測定(2)								
以下による発行済または保証付の 債務：								
カナダ政府	438	1,862	16,044	1,819	-	-	-	20,163
米国の州、地方および政府機関	8	787	1,615	1,622	18,281	-	-	22,313
その他のOECD加盟国政府	2,178	2,045	2,643	-	-	-	-	6,866
資産担保証券	-	1	159	-	-	-	-	160
社債およびその他の債券	625	2,644	4,805	219	28	-	-	8,321
償却原価(引当金を除く)	3,249	7,339	25,266	3,660	18,309	-	-	57,823
公正価値	3,252	7,392	25,663	3,798	18,522	-	-	58,627
有価証券の帳簿価額合計	\$ 12,007	\$ 42,440	\$ 78,870	\$ 22,199	\$ 76,156	\$ 44,142		\$275,814

2019年10月31日現在							
(百万カナダドル)	満期までの期間(1)					満期日の 定めなし	合計
	3ヶ月 以内	3ヶ月 から1年	1年 から5年	5年 から10年	10年超		
トレーディング(2)							
以下による発行済または保証付の 債務:							
カナダ政府	\$ 1,974	\$ 11,265	\$ 7,783	\$ 1,778	\$ 8,611	\$ -	\$ 31,411
米国の州、地方および政府機関	771	7,122	8,601	9,537	15,661	-	41,692
その他のOECD加盟国政府	538	1,418	2,211	1,466	863	-	6,496
モーゲージ担保証券	-	-	-	-	482	-	482
資産担保証券	359	63	308	267	338	-	1,335
社債およびその他の債券							
銀行引受手形	433	-	-	-	-	-	433
譲渡性預金	586	383	75	20	6	-	1,070
その他(3)	1,369	2,773	8,268	2,827	6,925	-	22,162
株式	-	-	-	-	-	41,453	41,453
	6,030	23,024	27,246	15,895	32,886	41,453	146,534
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定(2)							
以下による発行済または保証付の 債務:							
カナダ政府							
連邦							
償却原価	-	5	596	-	54	-	655
公正価値	-	5	595	-	57	-	657
利回り(4)	-	1.1%	1.4%	-	4.2%	-	1.7%
州および地方							
償却原価	-	4	954	13	1,907	-	2,878
公正価値	-	4	953	14	1,927	-	2,898
利回り(4)	-	4.8%	2.7%	4.5%	2.8%	-	2.8%
米国の州、地方および政府機関							
償却原価	1,597	1,085	3,290	829	13,986	-	20,787
公正価値	1,598	1,087	3,294	844	14,053	-	20,876
利回り(4)	2.1%	1.8%	2.0%	2.9%	2.7%	-	2.5%
その他のOECD加盟国政府							
償却原価	236	178	3,839	1	-	-	4,254
公正価値	236	178	3,836	1	-	-	4,251
利回り(4)	1.2%	2.1%	2.4%	3.8%	-	-	2.3%
モーゲージ担保証券							
償却原価	-	-	-	206	2,503	-	2,709
公正価値	-	-	-	205	2,497	-	2,702
利回り(4)	-	-	-	3.0%	2.7%	-	2.7%
資産担保証券							
償却原価	1	-	8	3,982	4,190	-	8,181
公正価値	-	-	8	3,972	4,169	-	8,149
利回り(4)	-	-	3.2%	3.2%	3.1%	-	3.2%
社債およびその他の債券							
償却原価	1,564	3,222	12,668	79	122	-	17,655
公正価値	1,565	3,225	12,673	89	138	-	17,690
利回り(4)	1.4%	1.9%	2.0%	2.0%	3.1%	-	1.9%
株式							
取得原価	-	-	-	-	-	248	248
公正価値(5)	-	-	-	-	-	463	463
償却原価	3,398	4,494	21,355	5,110	22,762	248	57,367
公正価値	3,399	4,499	21,359	5,125	22,841	463	57,686

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在						合計
	満期までの期間(1)					満期日の 定めなし	
	3ヶ月 以内	3ヶ月 から1年	1年 から5年	5年 から10年	10年超		
償却原価で測定(2)							
以下による発行済または保証付の 債務:							
カナダ政府	682	1,978	9,831	1,515	-	-	14,006
米国の州、地方および政府機関	297	478	1,680	2,018	12,190	-	16,663
その他のOECD加盟国政府	2,252	1,431	1,634	-	-	-	5,317
資産担保証券	-	9	616	-	-	-	625
社債およびその他の債券	400	1,853	5,717	145	58	-	8,173
償却原価(引当金を除く)	3,631	5,749	19,478	3,678	12,248	-	44,784
公正価値	3,631	5,822	19,628	3,746	12,277	-	45,104
有価証券の帳簿価額合計	\$ 13,060	\$ 33,272	\$ 68,083	\$ 24,698	\$ 67,975	\$ 41,916	\$249,004

- (1) 実際の満期日は、違約金の有無にかかわらず債務の期限延長または期限前償還が借手に認められている場合があるため、上記の契約上の満期日とは異なる可能性がある。
- (2) トレーディング有価証券およびFVOCI有価証券は、公正価値で計上されている。投資有価証券に含まれる、償却原価で測定する有価証券は、償却原価で計上されており、信用損失引当金控除後の額で表示されている。
- (3) 主な内訳は、社債、国際機関債およびコマーシャル・ペーパーである。
- (4) 加重平均利回りは、それぞれの有価証券の約定金利および期末の帳簿価額を用いて算定されている。
- (5) トレーディング目的で保有していない一部の持分証券は、FVOCIで測定するものとして指定されている。2020年10月31日終了年度において、当行はFVOCIで測定する持分証券2百万ドル(2019年10月31日-129百万ドル)を処分した。処分日現在の利得累計額はゼロドル(2019年10月31日-1百万ドル)であった。

FVOCIで測定する有価証券に係る未実現利得および損失(1),(2)

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	取得原価/ 償却原価	未実現 利得総額	未実現 損失総額	公正価値	取得原価/ 償却原価	未実現 利得総額	未実現 損失総額	公正価値
以下による発行済または保証付の債務:								
カナダ政府								
連邦(3)	\$ 2,562	\$ 1	\$ (22)	\$ 2,541	\$ 655	\$ 3	\$ (1)	\$ 657
州および地方	3,237	27	(31)	3,233	2,878	43	(23)	2,898
米国の州、地方および政府機関(3)	38,523	323	(322)	38,524	20,787	215	(126)	20,876
その他のOECD加盟国政府	7,336	11	(2)	7,345	4,254	2	(5)	4,251
モーゲージ担保証券(3)	2,418	5	(53)	2,370	2,709	1	(8)	2,702
資産担保証券								
CD0	7,504	-	(90)	7,414	7,334	1	(35)	7,300
CD0以外の証券	859	2	(7)	854	847	4	(2)	849
社債およびその他の債券	19,041	76	(3)	19,114	17,655	45	(10)	17,690
株式	276	253	(4)	525	248	218	(3)	463
	\$ 81,756	\$ 698	\$ (534)	\$ 81,920	\$ 57,367	\$ 532	\$ (213)	\$ 57,686

- (1) 2020年10月31日現在、償却原価で計上されているキャッシュ・フローの回収のために保有する有価証券(信用損失引当金控除後)57,823百万ドル(2019年10月31日ー44,784百万ドル)を除く。
- (2) 2020年10月31日現在のFVOCIで測定する債務証券に係る未実現利得および損失総額には、信用損失引当金8百万ドル(2019年10月31日ー(3)百万ドル)が含まれ、それらは純損益および「その他の資本項目」に認識される。
- (3) MBSの大半は住宅用である。商業用MBSに関連する取得原価/償却原価、未実現利得総額、未実現損失総額および公正価値は、2020年10月31日現在、それぞれ2,185百万ドル、ゼロドル、48百万ドルおよび2,137百万ドル(2019年10月31日ーそれぞれ2,051百万ドル、1百万ドル、6百万ドルおよび2,046百万ドル)である。

投資有価証券に係る信用損失引当金

以下の表は、FVOCIおよび償却原価で計上されている債務証券に係る引当金の期首残高から期末残高への調整をステージごとに示している。調整項目には以下が含まれる。

- ・対応する引当金の再測定前に発生すると推定された、ステージ間の移動。
- ・期中に新たに認識された資産(条件変更に伴い認識の中止が行われた資産を含む。)に関連する引当金を反映する、購入。
- ・期中に信用損失が発生することなく認識の中止が行われた資産(条件変更に伴い認識の中止が行われた資産を含む。)に関連する引当金を反映する、売却および満期。
- ・将来予測的なマクロ経済状況の変化および一部返済、ステージ間の移動に伴う測定額の変更、ならびに時間の経過による時間価値の割引の振戻し等の、モデルへのインプットまたは仮定が変更されたことによる影響を含む、リスク、パラメータおよびエクスポージャーの変化。

信用損失引当金－FVOCIで測定する有価証券(1)

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度									
	2020年10月31日					2019年10月31日				
	正常		減損		合計	正常		減損		合計
	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3 (2)			ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3 (2)		
期首残高	\$ 4	\$ -	\$ (7)		\$ (3)	\$ 4	\$ 7	\$ -		\$ 11
信用損失引当金繰入額										
ステージ1への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
ステージ2への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
ステージ3への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
購入	18	-	-		18	5	-	-		5
売却および満期	(13)	-	-		(13)	(3)	(7)	-		(10)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	3	-	4		7	(2)	1	(8)		(9)
償却	-	-	-		-	-	-	-		-
為替レートおよびその他	-	-	(1)		(1)	-	(1)	1		-
期末残高	\$ 12	\$ -	\$ (4)		\$ 8	\$ 4	\$ -	\$ (7)		\$ (3)

- (1) FVOCIで測定する債務証券に係る予想信用損失は、関連する有価証券が公正価値で計上されるため、貸借対照表において別個に認識されていない。純損益に認識された信用損失累積額は「その他の資本項目」として表示される。
- (2) 購入した信用減損している有価証券に係る引当金の増減を反映している。

信用損失引当金－償却原価で測定する有価証券

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度									
	2020年10月31日					2019年10月31日				
	正常		減損		合計	正常		減損		合計
	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3			ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3		
期首残高	\$ 5	\$ 19	\$ -		\$ 24	\$ 6	\$ 32	\$ -		\$ 38
信用損失引当金繰入額										-
ステージ1への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
ステージ2への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
ステージ3への移動	-	-	-		-	-	-	-		-
購入	9	-	-		9	7	-	-		7
売却および満期	(2)	-	-		(2)	(1)	-	-		(1)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	(2)	1	-		(1)	(6)	(15)	-		(21)
償却	-	-	-		-	-	-	-		-
為替レートおよびその他	-	(1)	-		(1)	(1)	2	-		1
期末残高	\$ 10	\$ 19	\$ -		\$ 29	\$ 5	\$ 19	\$ -		\$ 24

内部リスク格付別の信用リスク・エクスポージャー

以下の表は、FVOCIで測定する債務証券の公正価値および償却原価で測定する有価証券の帳簿価額総額を示している。リスク格付は、「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の項に記載される内部格付マッピングにおいて示される、予想信用損失の測定に使用された報告日現在の内部格付に基づいている。

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	正常		減損		正常		減損	
	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3 (1)	合計	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3 (1)	合計
投資有価証券								
FVOCIで測定する有価証券								
投資適格	\$ 80,719	\$ 87	\$ -	\$ 80,806	\$ 56,671	\$ 1	\$ -	\$ 56,672
投資不適格	431	1	-	432	400	1	-	401
減損	-	-	157	157	-	-	150	150
	\$ 81,150	\$ 88	\$ 157	\$ 81,395	\$ 57,071	\$ 2	\$ 150	\$ 57,223
減損対象外(2)				525				463
				\$ 81,920				\$ 57,686
償却原価で測定する有価証券								
投資適格	\$ 56,885	\$ -	\$ -	\$ 56,885	\$ 43,681	\$ 46	\$ -	\$ 43,727
投資不適格	647	320	-	967	695	386	-	1,081
減損	-	-	-	-	-	-	-	-
	\$ 57,532	\$ 320	\$ -	\$ 57,852	\$ 44,376	\$ 432	\$ -	\$ 44,808
信用損失引当金	10	19	-	29	5	19	-	24
償却原価	\$ 57,522	\$ 301	\$ -	\$ 57,823	\$ 44,371	\$ 413	\$ -	\$ 44,784

(1) 購入した信用減損している有価証券157百万ドルを含む(2019年10月31日－150百万ドル)。

(2) 減損対象外のFVOCIで測定する投資有価証券は、FVOCIで測定するものとして指定された持分証券を表す。

注記5 貸出金および信用損失引当金

地域別およびポートフォリオ別の貸出金(引当金控除後)

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在					信用損失 引当金(1)	引当金控除 後合計
	カナダ	米国	その他の 海外	合計			
リテール(2)							
住宅モーゲージ	\$ 319,287	\$ 20,331	\$ 2,979	\$ 342,597	\$ (515)	\$ 342,082	
個人	79,778	9,050	3,183	92,011	(1,185)	90,826	
クレジットカード(3)	17,060	340	226	17,626	(1,211)	16,415	
小規模企業(4)	5,742	-	-	5,742	(123)	5,619	
ホールセール(2),(5)	126,348	64,375	17,932	208,655	(2,605)	206,050	
貸出金合計	\$ 548,215	\$ 94,096	\$ 24,320	\$ 666,631	\$ (5,639)	\$ 660,992	
未使用の貸出金コミットメント ーリテール	226,439	4,314	1,628	232,381	(176)		
未使用の貸出金コミットメント ーホールセール	111,860	184,308	64,859	361,027	(187)		

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在					信用損失 引当金(1)	引当金控除 後合計
	カナダ	米国	その他の 海外	合計			
リテール(2)							
住宅モーゲージ	\$ 287,767	\$ 17,012	\$ 3,312	\$ 308,091	\$ (402)	\$ 307,689	
個人	81,547	7,399	3,304	92,250	(762)	91,488	
クレジットカード(3)	19,617	439	255	20,311	(791)	19,520	
小規模企業(4)	5,434	-	-	5,434	(50)	5,384	
ホールセール(2),(5)	124,312	53,782	17,776	195,870	(1,095)	194,775	
貸出金合計	\$ 518,677	\$ 78,632	\$ 24,647	\$ 621,956	\$ (3,100)	\$ 618,856	
未使用の貸出金コミットメント ーリテール	208,336	5,063	801	214,200	(225)		
未使用の貸出金コミットメント ーホールセール	101,017	176,022	54,982	332,021	(70)		

(1) FVOCIで測定される貸出金に係る引当金 6 百万ドル(2019年10月31日ーゼロドル)を除く。

(2) 地域別情報は、借手の居住地に基づいている。

(3) クレジットカード事業は単一のポートフォリオとして管理され、個人および法人カードの両方を含む。

(4) 一括管理されている小規模企業のエクスポージャーが含まれている。

(5) 顧客別に管理されている小規模企業のエクスポージャーが含まれている。

貸出金の期日および金利感応度

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在							
	期日(1)			合計	金利感応度			合計
	1年未満 (2)	1年から 5年	5年超		変動	固定	金利 不感応	
リテール	\$ 213,946	\$ 218,342	\$ 25,688	\$ 457,976	\$ 129,870	\$ 322,122	\$ 5,984	\$ 457,976
ホールセール	160,031	37,346	11,278	208,655	34,686	171,171	2,798	208,655
貸出金合計	\$ 373,977	\$ 255,688	\$ 36,966	\$ 666,631	\$ 164,556	\$ 493,293	\$ 8,782	\$ 666,631
信用損失引当金				(5,639)				(5,639)
貸出金合計(信用損失 引当金控除後)				\$ 660,992				\$ 660,992

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在							
	期日(1)			合計	金利感応度			合計
	1年未満 (2)	1年から 5年	5年超		変動	固定	金利 不感応	
リテール	\$ 216,610	\$ 187,721	\$ 21,755	\$ 426,086	\$ 114,736	\$ 304,448	\$ 6,902	\$ 426,086
ホールセール	154,445	30,512	10,913	195,870	27,329	165,502	3,039	195,870
貸出金合計	\$ 371,055	\$ 218,233	\$ 32,668	\$ 621,956	\$ 142,065	\$ 469,950	\$ 9,941	\$ 621,956
信用損失引当金				(3,100)				(3,100)
貸出金合計(信用損失 引当金控除後)				\$ 618,856				\$ 618,856

- (1) 一般に、契約上の金利改定日または期日のいずれか早い方を基礎とする。
(2) 違約金なしに顧客の裁量で金利改定が可能な、変動利付貸出金が含まれている。

信用損失引当金

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度									
	2020年10月31日					2019年10月31日				
	期首残高	信用損失 引当金 繰入額	償却 純額(1)	為替レ ートおよ び その他	期末残高	期首残高	信用損失 引当金 繰入額	償却 純額(1)	為替レ ートおよ び その他	期末残高
リテール										
住宅モーゲージ	\$ 402	\$ 190	\$ (34)	\$ (40)	\$ 518	\$ 382	\$ 68	\$ (37)	\$ (11)	\$ 402
個人	935	801	(411)	(16)	1,309	895	526	(474)	(12)	935
クレジットカード	832	900	(484)	(2)	1,246	760	590	(518)	-	832
小規模企業	61	117	(31)	(7)	140	51	41	(28)	(3)	61
ホールセール	1,165	2,140	(380)	(130)	2,795	979	661	(397)	(78)	1,165
手形引受見返	24	83	-	-	107	21	5	-	(2)	24
	\$ 3,419	\$ 4,231	\$ (1,340)	\$ (195)	\$ 6,115	\$ 3,088	\$ 1,891	\$ (1,454)	\$ (106)	\$ 3,419

以下として表示：

信用損失引当金	\$ 3,100			\$ 5,639	\$ 2,912		\$ 3,100
その他の負債－ 引当金	295			363	154		295
手形引受見返	24			107	21		24
その他の資本項目	-			6	1		-

(1) 償却された貸出金は、通常、償却後の一定期間、回収に向けた継続的努力が行われることになる。2020年10月31日終了年度に償却された貸出金の契約上の未返済残高のうち、回収活動の実施対象ではなくなった部分は193百万ドル(2019年10月31日－179百万ドル)であった。

以下の表は、各主要商品区分について、モデルによるシナリオの確率加重された引当金に基づき専門家の信用判断を適宜用いて算定された、貸出金およびコミットメントに係る引当金の期首残高から期末残高への調整を示している。調整項目には以下が含まれる。

- ・モデル変更(通常、予想信用損失の見積りに使用される定性的モデルに対する重要な変更の影響やそれにより発生する可能性のあるステージ分類の影響から成る。)
- ・対応する引当金の再測定前に発生すると推定された、ステージ間の移動。
- ・期中に新たに認識された資産(条件変更に伴い認識の中止が行われた資産を含む。))に関連する引当金を反映する、組成。
- ・期中に信用損失が発生することなく認識の中止が行われた資産(条件変更に伴い認識の中止が行われた資産を含む。))に関連する引当金を反映する、満期。
- ・将来予測的なマクロ経済状況の変化、既存のファシリティの一部返済および追加引出、ステージ間の移動に伴う測定額の変更、ならびにステージ1およびステージ2における時間の経過による時間価値の割引の振戻し等の、モデルへのインプットまたは仮定が変更されたことによる影響を含む、リスク、パラメータおよびエクスポージャーの変化。

信用損失引当金－リテールおよびホールセール

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	正常		減損		正常		減損	
	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3	合計	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3	合計
住宅モーゲージ								
期首残高	\$ 146	\$ 77	\$ 179	\$ 402	\$ 142	\$ 64	\$ 176	\$ 382
信用損失引当金繰入額								
ステージ1への移動	221	(186)	(35)	-	87	(66)	(21)	-
ステージ2への移動	(35)	42	(7)	-	(13)	16	(3)	-
ステージ3への移動	(3)	(33)	36	-	(3)	(31)	34	-
組成	76	-	-	76	51	-	-	51
満期	(16)	(15)	-	(31)	(14)	(10)	-	(24)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	(180)	291	34	145	(104)	104	41	41
償却	-	-	(44)	(44)	-	-	(45)	(45)
償却済債権回収	-	-	10	10	-	-	8	8
為替レートおよびその他	(3)	(16)	(21)	(40)	-	-	(11)	(11)
期末残高	\$ 206	\$ 160	\$ 152	\$ 518	\$ 146	\$ 77	\$ 179	\$ 402
個人								
期首残高	\$ 272	\$ 520	\$ 143	\$ 935	\$ 242	\$ 512	\$ 141	\$ 895
信用損失引当金繰入額								
モデル変更	-	-	-	-	23	(48)	-	(25)
ステージ1への移動	494	(487)	(7)	-	544	(537)	(7)	-
ステージ2への移動	(107)	109	(2)	-	(87)	88	(1)	-
ステージ3への移動	(3)	(64)	67	-	(2)	(142)	144	-
組成	118	-	-	118	101	1	-	102
満期	(49)	(97)	-	(146)	(31)	(112)	-	(143)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	(245)	756	318	829	(517)	758	351	592
償却	-	-	(545)	(545)	-	-	(600)	(600)
償却済債権回収	-	-	134	134	-	-	126	126
為替レートおよびその他	-	(4)	(12)	(16)	(1)	-	(11)	(12)
期末残高	\$ 480	\$ 733	\$ 96	\$ 1,309	\$ 272	\$ 520	\$ 143	\$ 935
クレジットカード								
期首残高	\$ 173	\$ 659	\$ -	\$ 832	\$ 161	\$ 599	\$ -	\$ 760
信用損失引当金繰入額								
ステージ1への移動	470	(470)	-	-	452	(452)	-	-
ステージ2への移動	(98)	98	-	-	(81)	81	-	-
ステージ3への移動	(2)	(372)	374	-	(2)	(341)	343	-
組成	7	-	-	7	5	-	-	5
満期	(8)	(29)	-	(37)	(5)	(27)	-	(32)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	(177)	997	110	930	(358)	800	175	617
償却	-	-	(617)	(617)	-	-	(655)	(655)
償却済債権回収	-	-	133	133	-	-	137	137
為替レートおよびその他	(1)	(1)	-	(2)	1	(1)	-	-
期末残高	\$ 364	\$ 882	\$ -	\$ 1,246	\$ 173	\$ 659	\$ -	\$ 832

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	正常		減損	合計	正常		減損	合計
	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3		ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3	
小規模企業								
期首残高	\$ 29	\$ 10	\$ 22	\$ 61	\$ 17	\$ 16	\$ 18	\$ 51
信用損失引当金繰入額								
モデル変更	-	-	-	-	11	(7)	-	4
ステージ1への移動	12	(12)	-	-	18	(18)	-	-
ステージ2への移動	(11)	11	-	-	(3)	3	-	-
ステージ3への移動	-	(2)	2	-	-	(9)	9	-
組成	20	-	-	20	13	-	-	13
満期	(7)	(6)	-	(13)	(5)	(8)	-	(13)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	35	28	47	110	(22)	32	27	37
償却	-	-	(38)	(38)	-	-	(36)	(36)
償却済債権回収	-	-	7	7	-	-	8	8
為替レートおよびその他	-	-	(7)	(7)	-	1	(4)	(3)
期末残高	\$ 78	\$ 29	\$ 33	\$ 140	\$ 29	\$ 10	\$ 22	\$ 61
ホールセール								
期首残高	\$ 281	\$ 396	\$ 488	\$ 1,165	\$ 274	\$ 340	\$ 365	\$ 979
信用損失引当金繰入額								
ステージ1への移動	154	(149)	(5)	-	145	(133)	(12)	-
ステージ2への移動	(200)	221	(21)	-	(33)	36	(3)	-
ステージ3への移動	(14)	(116)	130	-	(5)	(57)	62	-
組成	860	-	-	860	239	44	-	283
満期	(479)	(301)	-	(780)	(162)	(165)	-	(327)
リスク、パラメータおよび エクスポージャーの変化	410	1,091	559	2,060	(178)	331	552	705
償却	-	-	(437)	(437)	-	-	(440)	(440)
償却済債権回収	-	-	57	57	-	-	43	43
為替レートおよびその他	(17)	(10)	(103)	(130)	1	-	(79)	(78)
期末残高	\$ 995	\$ 1,132	\$ 668	\$ 2,795	\$ 281	\$ 396	\$ 488	\$ 1,165

主なインプットおよび仮定

予想信用損失の測定は、相互関連する多数のインプットおよび仮定を含むため計算が複雑であり、単一の要因のみに対する引当金の感応度は低い。予想信用損失の変動の主な要因には、以下のものが含まれる。

- ・主として内部リスク格付の変更に反映される、借手または金融商品の信用の質の変化。
- ・将来予測的なマクロ経済状況、特に当行のモデルが補正されるマクロ経済変数で、対象となるポートフォリオの信用損失に最も密接に関連する変数の変化。
- ・シナリオの設定および各シナリオに割り当てられたウェイト付けの変更。
- ・上記インプットのいずれかの変動により生じる、ステージ間の移動。

COVID-19パンデミックは、当行の信用損失引当金の算定に大きな影響を及ぼし、より高度な判断の適用が必要となった。COVID-19パンデミックの封じ込め措置によって多くの国々の経済活動が急激に縮小し、その結果、GDPは前例のないほど下落し、2020年春から失業率が大幅に増加している。大規模な財政および金融の刺激策と、銀行主導の支払猶予プログラムが2020年度におけるデフォルトを減少させる支えとなった。しかし、一部の地域では、ウイルスが再流行し程度の差はあれ再び封じ込め措置がとられており、またいくつかの財政支援策の要素は次第に減少しているため、回復の時期と程度に関する不確実性がさらに高まっている。封じ込め措置および支援措置がどのように進展するかは不確実であるため、当行の引当金は通常よりも高い不確実性を有し、使用されるインプットは本質的に変動する。このためステージ1およびステージ2の信用損失引当金の見積額が将来の期間において大幅に変更される可能性がある。

現在および将来の環境に内在する不確実性に対処し、モデルの結果に捉えられない関連するすべてのリスク要因を反映するために、組成以降の信用リスクの著しい増大および確率加重された信用損失引当金の算定に、当行は専門家の信用判断を適用した。重大な不確実性があることを踏まえて、当行引当金に関する専門家の信用判断による影響は、前年度と比べて増大した。COVID-19パンデミックから生じる前例のないマクロ経済シナリオの影響、将来の損失を完全には軽減しない可能性がある銀行および政府主導の支払支援プログラムの一時的な影響、ならびにCOVID-19パンデミックによる影響により特に不安定なセクターへの影響について、当行は定量的および定性的な調整を行った。

内部リスク格付

内部リスク格付は、「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の「ホールセール信用リスク」および「リテール信用リスク」の各項に記載されている通り、リスク管理の枠内で付与される。内部リスク格付の変更は、主にPDのパラメータに反映され、当該パラメータは、関連するリスクセグメント別、またはリスク格付別に過去の損失実績に将来予測的な情報を調整した上で見積られる。

将来予測的なマクロ経済変数

ステージ1およびステージ2の信用損失引当金の見積りに使用されるPD、LGDおよびEADのインプットは、対象となるポートフォリオの信用損失に最も密接に関連するマクロ経済変数(またはマクロ経済変数の変動)に基づきモデル化されている。当行の予想信用損失の算定に使用される各マクロ経済シナリオには、当行のモデルにおいて5年間(その後の期間は通常2年から5年の期間内の長期平均に変更される。)に関連するとして使用されたマクロ経済変数の予測すべてが含まれている。モデルでの使用方法により、マクロ経済変数は、国、州、またはより細分化されたレベル別に予測される。これらのマクロ経済変数には、下記の通り、ポートフォリオごとまたは地域ごとに異なる、1つ以上の変数が含まれる。

当行の信用損失引当金は、2020年10月31日現在の当行の経済見通しを反映している。この予測および関連する見積りのその後の変更は、将来の期間における信用損失引当金に反映されることになる。

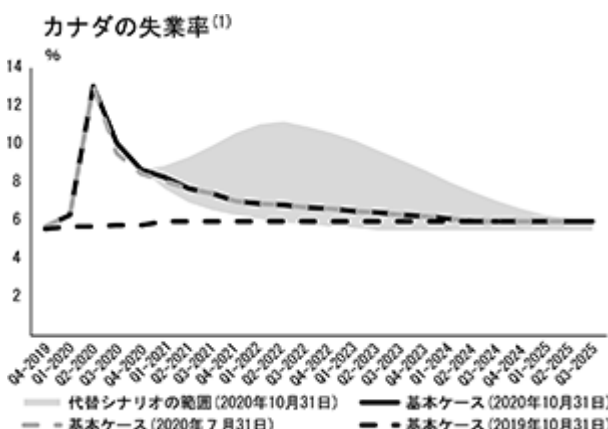
当行の基本シナリオは、暦年の第2四半期における経済活動の急落後に回復傾向が継続する場合を反映している。回復は段階的なものであり、カナダと米国のGDPおよび失業率は予測期間の後半に向けてショック前のレベルに戻るものと予想されている。

下振れシナリオは、エネルギーおよび不動産セクター向けに設定された追加的な2つのより深刻な下振れシナリオを含み、状況が2020年第4四半期より最長2年間悪化した後、残りの期間で回復するとするW型不況の可能性を反映している。これらのシナリオは、金融政策上の対応により予測期間内に経済が長期的に持続可能な成長率に戻ると仮定している。

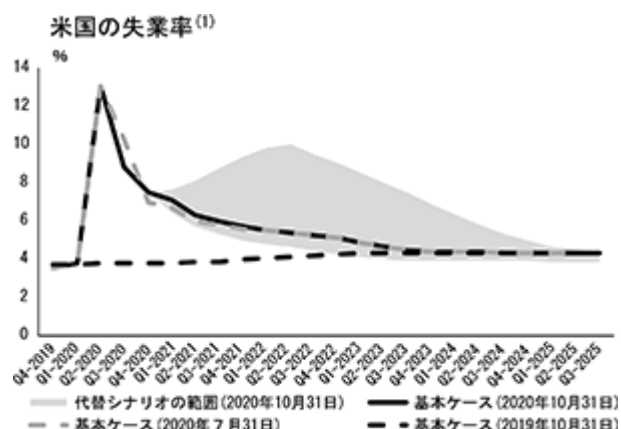
上振れシナリオは、金融政策上の追加対応が行われない中で、最初の2年間に基本シナリオよりも安定した経済成長を遂げ、その後予測期間内に長期的に持続可能な成長率に戻る場合を反映している。

以下は、正常な貸出金、コミットメントおよび手形引受けに係るACLを見積もるためにモデルで使用された特定の主なマクロ経済変数に関する当行の予測についての詳細を示している。

- ・失業率—カナダおよび米国の四半期平均失業率は、どちらも暦年の2020年第2四半期に13.0%でピークに達した。暦年の2020年第4四半期において、失業率はカナダでは8.7%に米国では7.5%に低下する見込みである。当行は、失業率について2021年においては高い水準に留まるものの、下図の予測期間において次第に改善されるものと予想している。

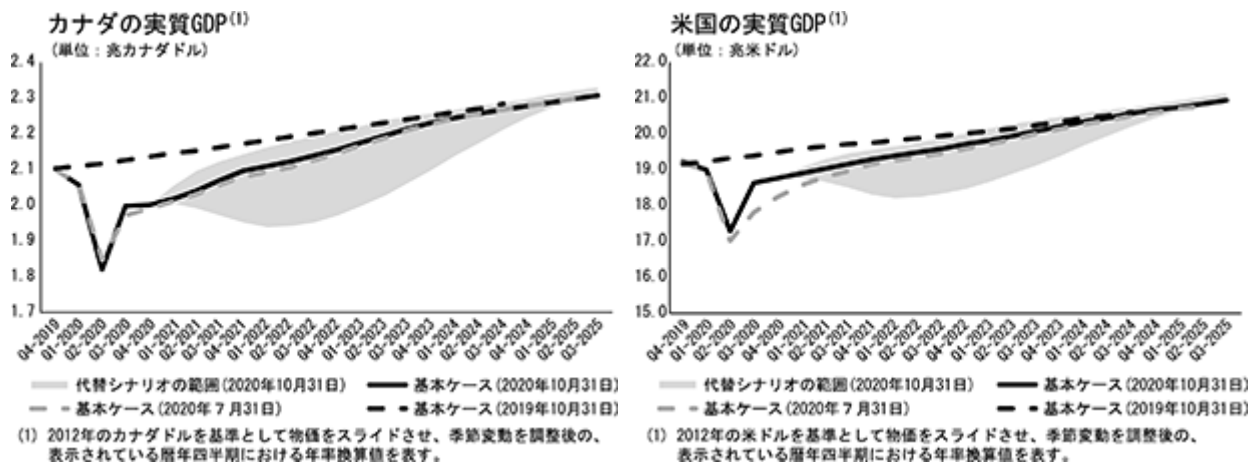


(1) 表示されている暦年四半期における四半期平均失業率を表す。



(1) 表示されている暦年四半期における四半期平均失業率を表す。

- ・国内総生産(以下「GDP」という。)—カナダおよび米国のGDPは、暦年の2020年第2四半期に歴史的な景気の谷を経験した。当行では、暦年の2020年第4四半期のGDPは、2019年第4四半期の水準と比較して、カナダでは4.7%、米国では2.4%下回り、下図の予測期間にわたり継続的に改善するもののショック前の予測水準に戻るのには暦年の2024年になると予想している。



- ・原油価格(米ドル建てウエスト・テキサス・インターメディエイト)—当行の基本予測では、原油価格は2020年4月の底値から、今後12ヶ月間において1バレル当たり43ドル、その後2年から5年において1バレル当たり48ドルという平均価格に回復すると予想している。当行の代替的な下振れシナリオおよび上振れシナリオの平均価格の範囲は、今後12ヶ月間において1バレル当たり23ドルから49ドル、その後の2年から5年において1バレル当たり35ドルから50ドルである。2019年10月31日現在の当行の基本予測には、今後12ヶ月間について1バレル当たり59ドル、その後2年から5年について1バレル当たり68ドルという平均価格が含まれていた。
- ・カナダの住宅価格指数—当行の基本予測では、住宅価格は今後12ヶ月間において0.6%上昇し、その後2年から5年において複利計算による年間上昇率は4.5%と予想している。当行の代替的な下振れおよび上振れシナリオにおける住宅価格の年間上昇(下落)率の範囲は、今後12ヶ月間において(29.6)%から6.1%、その後2年から5年において2.9%から11.1%である。2019年10月31日現在の当行の基本予測には、今後12ヶ月間について4.5%、その後の2年から5年について4.7%の住宅価格の上昇率が含まれていた。

当行のリテール・ポートフォリオの信用損失を決定する主要な変数は、カナダの失業率、カナダのGDPおよびカナダの住宅価格指数である。また、カナダの翌日物金利もリテール・ポートフォリオに影響を及ぼす。当行のホールセール・ポートフォリオは、上記のすべての変数から影響を受けるが、具体的な変数はセクターごとに異なる。他の変数(カナダおよび米国の10年物BBB格社債および10年物国債の利回り、TSX指数およびS&P 500指数、天然ガス価格(ヘンリーハブ)、ならびに商業不動産価格指数が含まれるが、これらに限定されない。)も当行のホールセール・ポートフォリオに影響を及ぼす。

次のマクロ経済変数の上昇は、通常、予想信用損失の増加と相関する。該当する変数は、カナダおよび米国の失業率、カナダの翌日物金利、カナダおよび米国の10年物BBB格社債および国債の利回りである。

次のマクロ経済変数の上昇は、通常、予想信用損失の減少と相関する。該当する変数は、カナダの住宅価格指数、カナダおよび米国のGDP、TSX指数、S&P 500指数、原油価格、天然ガス価格および商業用不動産価格指数である。

シナリオの設定およびウェイト付け

当行のステージ1およびステージ2に係る予想信用損失の見積りでは、5つの異なる将来のマクロ経済シナリオを検討している。シナリオは、起こりうる結果を広範囲でとらえるように設定され、また報告日時点で各シナリオが示す結果の範囲にある相対的発生可能性についての当行の予想に従って加重されている。その後、各シナリオは、過去の頻度、現在の傾向および時の経過とともに変化する将来予測的な状況を考慮するよう加重される。基本シナリオは、上記で識別した各マクロ経済変数の予想金利、価値、または利回りについての予測に基づいている。上振れシナリオおよび下振れシナリオの設定は、基礎とする予測値を調整して、基本シナリオよりも、合理的に発生可能なシナリオおよびより楽観的またはより悲観的なウェイト付けをそれぞれ策定することにより行われる。上述の通り、追加的な2つの下振れシナリオにより、当行のポートフォリオにわたる潜在的な予想損失の非線形性を捉えている。

当行の5つのシナリオそれぞれが当行ポートフォリオに与える影響は様々である。これは、ポートフォリオごとに各マクロ経済変数の変動に対する感応度が異なるためである。上述の通り、すべてのシナリオは、現在の市況を反映し2020年10月31日現在のCOVID-19パンデミックの影響を含むように設定されている。IFRS第9号に基づく信用損失引当金の算定にあたり、当行はシナリオのウェイト付けを再評価し、2019年10月31日現在と比較して基本ケースのシナリオの加重をより大きくした。2020年春にCOVID-19パンデミックが世界的に拡大し始めてからは、追加の加重を悲観的なシナリオにシフトすることにより、継続的な不確実性と長期的な回復の下振れリスクを反映している。一部の地域において政府により様々な程度の封じ込め措置がとられている等、回復期間がより長期となる可能性が、シナリオの設定と加重に反映されている。

これら複数のシナリオをウェイト付けした影響により、2020年10月31日現在、当行の正常貸出金のACLは、当行の基本シナリオと比較して606百万ドル(2019年10月31日－376百万ドル)増加した。

ステージ間移動

ステージ1およびステージ2の間の移動は、注記2に記載の通り、当初認識時からの信用リスクの著しい増大の相対的な評価に基づいている。12ヶ月にわたる予想信用損失から全期間の予想信用損失への移行、またはその逆による影響は、商品ごとに異なり、また移動日時点の予想残存期間によっても異なり、経済活動の急落とその後の段階的な景気回復を反映している。ステージの移動により、予想信用損失の重大な変動がもたらされる可能性がある。

以下の表は、当行の引当金について、すべての正常貸出金がステージ1にあると仮定した場合と、当該資産について実際に計上されたACLを比較することにより、当行ACLに対するステージ分類の影響を示したものである。

	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	ACL—すべての 正常貸出金が ステージ1	ステージ分類 による 影響	ステージ1 および ステージ2の ACL	ACL—すべての 正常貸出金が ステージ1	ステージ分類 による 影響	ステージ1 および ステージ2の ACL
(百万カナダドル)						
正常貸出金(1)	\$ 4,028	\$ 1,031	\$ 5,059	\$ 1,737	\$ 826	\$ 2,563

(1) ステージ1およびステージ2にある貸出金およびコミットメントを表す。

内部リスク格付別の信用リスク・エクスポージャー

以下の表は、償却原価で測定する貸出金の総帳簿価額およびIFRS第9号の減損規定の対象となる未使用の貸出金コミットメントの総契約額を示している。リスク格付は、「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の項に記載されるホールセールおよびリテール・ファシリティの内部格付マッピングにおいて示される、報告日現在の予想信用損失の測定に使用される内部格付に基づいている。

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	ステージ1	ステージ2	ステージ3 (1)	合計	ステージ1	ステージ2	ステージ3 (1)	合計
リテール								
貸出金残高－住宅モーゲージ								
低リスク	\$ 270,396	\$ 2,848	\$ -	\$ 273,244	\$ 238,377	\$ 6,764	\$ -	\$ 245,141
中リスク	15,230	3,307	-	18,537	14,033	1,347	-	15,380
高リスク	4,346	1,467	-	5,813	2,843	2,722	-	5,565
格付なし(2)	43,176	936	-	44,112	40,030	726	-	40,756
減損	-	-	638	638	-	-	732	732
	333,148	8,558	638	342,344	295,283	11,559	732	307,574
減損対象外(3)				253				517
合計				342,597				308,091
貸出金残高－個人								
低リスク	\$ 71,245	\$ 1,084	\$ -	\$ 72,329	\$ 71,619	\$ 1,944	\$ -	\$ 73,563
中リスク	3,974	5,415	-	9,389	5,254	3,011	-	8,265
高リスク	817	1,416	-	2,233	843	1,874	-	2,717
格付なし(2)	7,704	144	-	7,848	7,293	105	-	7,398
減損	-	-	212	212	-	-	307	307
合計	83,740	8,059	212	92,011	85,009	6,934	307	92,250
貸出金残高－クレジットカード								
低リスク	\$ 11,824	\$ 63	\$ -	\$ 11,887	\$ 13,840	\$ 103	\$ -	\$ 13,943
中リスク	1,596	2,360	-	3,956	2,250	1,827	-	4,077
高リスク	132	1,105	-	1,237	137	1,432	-	1,569
格付なし(2)	490	56	-	546	677	45	-	722
合計	14,042	3,584	-	17,626	16,904	3,407	-	20,311
貸出金残高－小規模企業								
低リスク	\$ 2,034	\$ 172	\$ -	\$ 2,206	\$ 2,200	\$ 107	\$ -	\$ 2,307
中リスク	1,976	1,143	-	3,119	2,163	563	-	2,726
高リスク	126	192	-	318	138	196	-	334
格付なし(2)	9	-	-	9	10	-	-	10
減損	-	-	90	90	-	-	57	57
合計	4,145	1,507	90	5,742	4,511	866	57	5,434

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	ステージ1	ステージ2	ステージ3 (1)	合計	ステージ1	ステージ2	ステージ3 (1)	合計
未使用の貸出金コミットメント ーリテール								
低リスク	\$ 214,176	\$ 887	\$ -	\$ 215,063	\$ 196,743	\$ 1,894	\$ -	\$ 198,637
中リスク	10,402	291	-	10,693	8,251	246	-	8,497
高リスク	1,141	129	-	1,270	851	208	-	1,059
格付なし(2)	5,238	117	-	5,355	5,861	146	-	6,007
合計	230,957	1,424	-	232,381	211,706	2,494	-	214,200
ホールセラー貸出金残高								
投資適格	\$ 50,998	\$ 328	\$ -	\$ 51,326	\$ 47,133	\$ 97	\$ -	\$ 47,230
投資不適格	112,434	26,575	-	139,009	119,778	11,940	-	131,718
格付なし(2)	7,093	432	-	7,525	5,862	320	-	6,182
減損	-	-	2,235	2,235	-	-	1,829	1,829
	170,525	27,335	2,235	200,095	172,773	12,357	1,829	186,959
減損対象外(3)				8,560				8,911
合計				208,655				195,870
未使用の貸出金コミットメント ーホールセラー								
投資適格	\$ 242,244	\$ 1,022	\$ -	\$ 243,266	\$ 222,819	\$ 18	\$ -	\$ 222,837
投資不適格	92,262	21,581	-	113,843	96,191	9,007	-	105,198
格付なし(2)	3,918	-	-	3,918	3,986	-	-	3,986
合計	338,424	22,603	-	361,027	322,996	9,025	-	332,021

- (1) 2020年10月31日現在、信用減損している貸出金の90%(2019年10月31日ー86%)は全額または一部担保が付されていた。信用減損している資産に対して保有する担保の種類および担保に関する当行の方針の詳細については、「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスクの軽減」の項を参照のこと。
- (2) 内部リスク格付が付与されていない場合、当行は承認済みのその他の信用リスク評価または格付手法、方針およびツールを使用して当行の信用リスクを管理している。
- (3) 減損対象外の項目は、FVTPLで測定されるものとして保有する貸出金である。

延滞しているが減損していない貸出金(1)

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	1日から 29日	30日から 89日	90日以上	合計	1日から 29日	30日から 89日	90日以上	合計
リテール	\$ 3,346	\$ 1,013	\$ 129	\$ 4,488	\$ 3,173	\$ 1,369	\$ 186	\$ 4,728
ホールセール	2,129	574	13	2,716	1,543	460	3	2,006
	\$ 5,475	\$ 1,587	\$ 142	\$ 7,204	\$ 4,716	\$ 1,829	\$ 189	\$ 6,734

- (1) 顧客がCOVID-19パンデミックという課題に対処できるよう支援することを目的として設けられた当行の支払猶予プログラムの貸出金は、延滞区分を「延滞なし」に変更されており、猶予期間においてはそれ以上延滞扱いされることはない。支払猶予期間終了後、貸出金の延滞区分は「延滞なし」から再度期日経過の管理が行われる。表示金額には、売却または借り換え等の理由により決済が行われるまで返済が滞るモーゲージ貸出金等の事務プロセスの結果として延滞している貸出金が含まれている可能性がある。事務プロセスにより生じた延滞している貸出金は、債務者の支払債務履行能力を表すものではない。

貸出金の条件変更

当行は、支払猶予、金利引き下げ、制限条項免除、借換えまたは与信のリストラクチャリングを通じて、顧客がCOVID-19パンデミックという課題に対処できるように支援する救済プログラムを設けている。場合によっては、関連する貸出金の当初の条件が再交渉または条件変更され、その結果、契約上のキャッシュ・フローに影響を与える貸出金の契約条件変更がされることもある。2020年10月31日終了年度において、条件変更前に終了した四半期にステージ2またはステージ3に分類されており、契約条件が変更された貸出金の償却原価は8,437百万ドルであり、条件変更による重要な損失は生じなかった。2020年10月31日終了年度において、ステージ2またはステージ3に分類されていた時点で契約条件が変更されステージ1に移動された貸出金の帳簿価額総額は重要ではなかった。

注記6 金融資産の認識の中止

当行は、貸出金または有価証券等の金融資産を組成された企業またはその他の第三者に譲渡する取引を行っている。買戻し条件付き契約、有価証券貸付契約に基づく譲渡資産、および当行のカナダ住宅モーゲージ貸出金の証券化取引における譲渡資産の大半は、期限前償還リスク、信用リスク、価格リスク、金利リスクおよび為替リスクといった譲渡資産のリスクと経済価値のほとんどすべてに当行が引き続きさらされているため、認識の中止の要件を満たさない。

認識が中止された譲渡金融資産

政府の救済プログラム

当行は、COVID-19パンデミックによるこの前例のない時期に当行の顧客支援を行うため、カナダおよび米国政府の救済プログラムに参加している。

カナダの緊急ビジネス口座(Canadian Emergency Business Account)プログラムの下で、当行は既存の適格小規模企業顧客に対し、カナダ輸出開発公社(以下「EDC」という。)によって資金提供される無利子貸出の提供を行った。当行は金融資産のリスクと経済価値のほとんどすべてを保持せず、すべてのキャッシュ・フローはEDCにパス・スルーされるため、これら貸出金は当行の連結貸借対照表上認識されていない。

認識が中止されない譲渡金融資産

カナダ住宅モーゲージ貸出金の証券化

当行は、国民住宅法MBS(以下「NHA MBS」という。)プログラムに基づき、MBSプールを組成し、保険付カナダ住宅モーゲージ貸出金を定期的に証券化している。NHA MBSプログラムに基づき証券化したすべての貸出金は、カナダ・モーゲージ・アンド・ハウジング・コーポレーション(以下「CMHC」という。)または第三者である保険会社による保証が要求される。当行は、不動産の当初の評価額に対する貸出額の割合(ローン・トゥ・バリュー(以下「LTV」という。)比率)が80%以上の場合は、借手にモーゲージ保険料の支払いを要求している。当該プログラムに基づき証券化された住宅モーゲージ貸出金のLTV比率が80%未満の場合には、当行は当行の負担で当該モーゲージを保証する必要がある。NHA MBSプログラムでは、当行が発行したMBSに係るすべての支払いに関して、当行が所要資金を抵当権設定者から回収するか保険会社から回収するかにかかわらず、当行が責任を負う。借手のモーゲージが不履行に陥り、当該回収または担保権執行プロセスにより回収した金額が元本残高、未収利息および当該貸出金残高に係る回収費用の合計を下回る場合には、当行は保険会社に保険金を請求している。当該保険請求手続きは、保険会社の方針に従い保険会社が管理しており、通常最大12ヶ月分の利息、販売費およびその他の対象費用を加えた未払いの貸出金残高の全額をカバーしている。保険金の請求が否認された場合には、当行の連結損益計算書上の「信用損失引当金繰入額」に損失が認識される。2020年度および2019年度に損失として計上された金額は当行の連結財務諸表上重要性はなく、また、モーゲージの不履行を理由に提起された訴訟に起因した重要な損失は発生しなかった。

当行は、NHA MBSプールを、カナダ・モーゲージ債券(以下「CMB」という。)プログラムに基づき、主に政府がスポンサーの組成された企業に売却している。当該組成された企業は、定期的に政府保証付CMBを発行し、第三者投資家へ売却している。CMBの発行による収入は、当該組成された企業が、特定のCMBシリーズの発行に参加している適格なNHA MBS発行者からNHA MBSプールを購入する際に使用される。当行の継続的関与としては、当行が証券化した基礎となる住宅モーゲージ貸出金のサービシング(当行自身または第三者のサービサー経由による)が挙げられる。また、当行は、金利スワップの契約相手先となっており、CMBの投資家に支払うべき利息を当該組成された企業に対して支払い、原資産であるMBSおよび再投資資産に係る利息を受領している。当該スワップの一環として、当行は、CMBの満期時の返済義務を履行するために、原モーゲージ貸出金に関して受領した元本支払額の元本再投資専用口座を維持することも要求されている。当行は、回収した元本支払額を、スワップ契約に規定されている許容される投資に再投資している。

当行は、当行が所有に伴うリスクと経済価値のほとんどすべてを移転していないため、当該組成された企業に譲渡したNHA MBSプログラムの貸出金の一部は認識中止の要件を満たしていないと判断した。その結果、これらの譲渡したMBSは、引き続き住宅モーゲージ貸出金に分類され、当行の連結貸借対照表に認識されている。譲渡したMBSに関して受領した現金は、担保付借入金として扱われ、対応する負債は当行の連結貸借対照表の「預金－企業および政府」に計上されている。

買戻し条件付売却有価証券および貸付有価証券

当行は、買戻し条件付契約および有価証券貸付契約等の取引も行っている。この取引において、当行は、将来買い戻す契約に基づき資産を譲渡し、当該資産に関連するリスクと経済価値のほとんどすべてを保持している。これらの譲渡資産は当行の連結貸借対照表に引き続き計上され、担保付借入取引として会計処理されている。

以下の表は、認識中止の要件を満たさない譲渡資産の帳簿価額および公正価値、ならびに関連する負債に関する情報を提供している。

	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	カナダ 住宅 モーゲージ 貸出金(1)、 (2)	買戻し 条件付 売却 有価証券(3)	貸付 有価証券(3)	合計	カナダ 住宅 モーゲージ 貸出金(1)、 (2)	買戻し 条件付 売却 有価証券(3)	貸付 有価証券(3)	合計
(百万カナダドル)								
認識中止の要件を満たさない 譲渡資産の帳簿価額	\$ 35,001	\$ 267,361	\$ 6,870	\$ 309,232	\$ 32,794	\$ 220,250	\$ 6,336	\$ 259,380
関連する負債の帳簿価額	34,805	267,361	6,870	309,036	32,615	220,250	6,336	259,201
譲渡資産の公正価値	\$ 35,293	\$ 267,361	\$ 6,870	\$ 309,524	\$ 32,757	\$ 220,250	\$ 6,336	\$ 259,343
関連する負債の公正価値	35,957	267,361	6,870	310,188	33,143	220,250	6,336	259,729
正味ポジションの公正価値	\$ (664)	\$ -	\$ -	\$ (664)	\$ (386)	\$ -	\$ -	\$ (386)

- (1) 最初の証券化の際に主としてカナダ・ハウジング・トラストに譲渡したカナダ住宅モーゲージ貸出金、および最初の証券化後に資金調達に利用したその他の許容された投資を含む。
- (2) CMBの投資家は、譲渡資産に対してのみ法的遡及権を有しており、当行の資産全般に対する遡及権は有しない。
- (3) 担保資産の超過担保額は含まない。

注記7 組成された企業

当行は通常の事業の過程において、当行の資金調達ニーズや投資ニーズ、また当行の顧客のニーズに応えるために、組成された企業と多様な金融取引を行っている。組成された企業とは、支配の決定に際して、議決権または類似する権利が決定的な要因とならない企業である。組成された企業は通常、狭義かつ明確に定義された目的を達成するために設立され、その継続的活動には制限が設けられている。当行は、注記2に記載した当行の会計方針に準拠して、組成された企業を支配している場合には、当該企業を連結している。これ以外にも、当行が組成された企業のスポンサーであるか持分を有している場合もあるが、当該企業については連結していない可能性がある。

連結している組成された企業

当行は、以下に記載した組成された企業を連結しており、当該企業の資産および負債は当行の連結貸借対照表に計上されている。これらの組成された企業の第三者投資家は、通常、当該企業の資産に対してのみ遡及権を有しており、当行の資産全般に対する遡及権は有していない(ただし、これらの企業に対して当行が契約上の義務を怠った場合はこの限りではない)。通常の事業の過程において、連結している各組成された企業の資産は、通常、当該企業の債務の決済に限り使用される。

RBCが管理するマルチセラー型導管体

当行は通常、当行が管理するマルチセラー型導管体に対して所有権を保持しておらず、また通常、その資産に対する権利も支配も有していない。しかし、当行は、導管体の重要な営業活動を指示する実質的な権限を有しファースト・ロスを負担する投資家が存在しないマルチセラー型導管体を通じて、資産担保コマーシャル・ペーパー(以下「ABCP」という。)を発行している。当行は、取引特定型およびプログラム全体に対する流動性、信用および融資ファシリティをこの導管体に対して提供することを通じて、マルチセラー型契約におけるパフォーマンスからのリターンの変動性に対するエクスポージャーを有しており、また関連性のある活動について意思決定を行うパワーを有しているため、この導管体を連結している。2020年10月31日現在の当行の連結貸借対照表上、この導管体に保有されている金融資産10億ドルが「貸出金」に含まれており(2019年10月31日－12億ドル)、この導管体によって発行されたABCPの6億ドルが「預金」に含まれている(2019年10月31日－7億ドル)。

クレジットカード証券化ビークル

当行はクレジットカード債権の一部について、組成された企業を通じてリボルビング方式で証券化している。当該組成された企業は、クレジットカード債権のプールに対する共有持分を購入し、このクレジットカード債権の原プールに対する共有持分を担保とした期限付の優先債および劣後債を発行している。当該期限付債券を購入した投資家は、クレジットカード債権の原プールに対する共有持分に対してのみ遡及権を有している。

当行は、クレジットカード債権のサービシング業務、および当該組成された企業の管理会社としての役割を引き続き提供している。当行はまた、譲渡した資産に対する留保持分、現金準備残高の随時提供、および一定の劣後債の保持を通じて、クレジットカード債権の原プールにおけるリスクも保持している。さらに、当行は、投資としてまたは値付け業務のために一部の優先債を保有することがある。また当行は、当該組成された企業に先行的費用の支払いのための劣後貸出を行っており、当該企業の金利および為替リスク・エクスポージャーをヘッジする金利およびクロス・カレンシー・スワップ契約の相手先にもなっている。

当行は当該組成された企業を連結しているが、これは将来の発行の時期や規模および当行が開始時に予め定めたその他の関連性のある活動に関して、当行は意思決定を行うパワーを有しているためである。また当行は、重要な資金調達に係る便益を得るとともに、留保持分を通じて基礎となるクレジットカード債権のパフォーマンスによる変動性にさらされている。2020年10月31日現在、当行のクレジットカード証券化ビークルが発行した58億ドルの債券が、当行の連結貸借対照表の「預金」に含まれている(2019年10月31日－71億ドル)。

担保付コマーシャル・ペーパー・ビークル

当行は、当行に貸出を行い、第三者投資家にコマーシャル・ペーパーを発行してその貸出資金を調達するファンディング・ビークルを設立した。当該組成された企業のコマーシャル・ペーパーはRBCと同等の信用格付を有しているが、これは満期となるコマーシャル・ペーパーの決済に際し他の資金源からの資金が不足する場合には、当行が当該企業に対して資金を供給する義務があるためである。当行は、当該貸出金の保証として担保を差し入れており、差し入れた有価証券の市場リスクおよび信用リスクにさらされている。

当行は当該組成された企業を連結しているが、これは当行が、関連性のある活動に関して意思決定を行うパワーを有し、当該ストラクチャーの唯一の借手であり、さらに供与している信用補完を通じて残余の所有リスクの過半にさらされているためである。2020年10月31日現在、当該ビークルが発行したコマーシャル・ペーパー122億ドルが当行の連結貸借対照表の「預金」に含まれている(2019年10月31日－162億ドル)。

カバード・ボンド

当行は、RBCカバード・ボンド・ギャランター・リミテッド・パートナーシップ(以下「ギャランター・エルピー」という。)に、モーゲージを定期的に譲渡し、資金調達活動の補完や当行のカバード・ボンド・プログラムに基づく資産担保要件の裏付けを行っている。ギャランター・エルピーは、カバード・ボンド・プログラムに基づく利息および元本支払を保証する目的で設立された。ギャランター・エルピーが保証しているカバード・ボンドは、RBCの直接の無担保かつ無条件の債務である。したがって投資家は、当行がカバード・ボンドの支払いを行わず、かつギャランター・エルピーのモーゲージ資産がカバード・ボンドの支払債務に対して不足している場合に、当行に対する遡及権を有する。当行は、ギャランター・エルピーのジェネラル・パートナー、リミテッド・パートナー、スワップの契約相手先、貸手および流動性の供給者としての役割を果たすとともに、原商品であるモーゲージのサービサーおよび当該カバード・ボンドの登録発行体となっている。第2四半期において、OSFIは、カバード・ボンド・プログラムの限度額を一時的に引き上げ、カナダ中央銀行は、COVID-19のパンデミックに伴い流動性を追加供給するために、銀行自身のカバード・ボンドを含めることができるようにターム・レポ・ファシリティに対する適格担保の範囲を一時的に拡大した。

当行はギャランター・エルピーを連結しているが、これはジェネラル・パートナーとしての当行の役割を通じて、当行が関連性のある活動に関して意思決定を行うパワーを有し、かつ原商品であるモーゲージのパフォーマンスの変動性にさらされているためである。2020年10月31日現在、譲渡した発行済モーゲージの総額は1,058億ドル(2019年10月31日－539億ドル)で、カバード・ボンド・プログラムの流動性を追加提供しており、カバード・ボンド400億ドルが当行の連結貸借対照表の「預金」に計上されている(2019年10月31日－398億ドル)。

地方債のTOBストラクチャー

当行は、課税および非課税の地方債を、テンダー・オプション・ボンド(以下「TOB」という。)ストラクチャーに販売している。このストラクチャーは、当行が信用補完しTOB信託が購入する債券から構成されている。TOB信託は、当行から債券を購入する資金を短期投資家に対する変動利付証券の発行により調達しており、残余証券は当行が購入する。当行は、当該変動利付証券の販売取次業者であるとともに、短期投資家に流動性ファシリティを提供しており、売り出したが販売できなかった変動利付証券の買取が当行に義務付けられている。当行は信用状を交付してTOB信託により購入される債券を信用補完しており、これに基づき原債券に損失が生じた場合の資金提供も義務付けられている。当行は、残余証券に係る利息を得ており、また販売取次業者としての業務ならびに流動性ファシリティの提供および信用状の交付に関して、市場取引をベースとした手数料を受領している。

当行が残余証券の保有者となっている場合、当行はTOB信託を連結しているが、これは当行が、基礎となる地方債の選定および当該ストラクチャーの終了を含む関連性のある活動に関して意思決定を行うパワーを有しており、かつ基礎となる地方債のパフォーマンスの変動性にさらされているためである。2020年10月31日現在、当行の連結貸借対照表上、連結対象のTOBストラクチャーに関連して地方債78億ドルが「投資有価証券」に含まれており(2019年10月31日－83億ドル)、対応する変動利付証券82億ドルが「預金」に含まれている(2019年10月31日－87億ドル)。

RBCが運用する投資信託

当行は、ミューチュアル・ファンドおよび合同運用ファンドのスポンサーかつ運用会社であり、当該ファンドでは当行が当該ファンドの投資決定を指図する能力を有している。当行は、当行の関与(運用報酬または成功報酬の他、当初投入資本である直接的投資を含む。)が本人として行動していることを示す場合には、これらのミューチュアル・ファンドおよび合同運用ファンドを連結している。2020年10月31日現在、連結対象ファンドが保有している「トレーディング有価証券」516百万ドル(2019年10月31日－465百万ドル)、および第三者が保有しているファンド・ユニットに相当する「その他の負債」293百万ドル(2019年10月31日－95百万ドル)が、当行の連結貸借対照表に計上されている。

非連結の組成された企業

当行は、連結対象ではない一定の組成された企業への関与を有しているが、当該企業との取引および関与に関連するものについて、当行の連結貸借対照表上、資産および負債を計上している。

以下の表は、当行の連結貸借対照表に計上されている資産および負債、ならびに非連結の組成された企業への関与に関連した損失に対する当行の最大エクスポージャーを表示している。また以下の表は、非連結の組成された企業の種類別の規模(当行が持分を保有している当該非連結の組成された企業の総資産で測定)についても表示している。

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在						合計
	マルチセ ラー型導管 体(1)	ストラク チャード・ ファイナ ンス	RBC以外が運 用する投資 信託	第三者証券 化ビークル	その他		
オンバランス・シート資産							
有価証券	\$ 138	\$ -	\$ 2,297	\$ -	\$ 422	\$	2,857
貸出金	-	2,670	-	5,628	931		9,229
デリバティブ	60	-	-	-	84		144
その他の資産	-	46	-	-	261		307
	\$ 198	\$ 2,716	\$ 2,297	\$ 5,628	\$ 1,698	\$	12,537
オンバランス・シート負債							
デリバティブ	\$ 38	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$	38
その他の負債	-	-	-	-	-		-
	\$ 38	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$	38
損失に対する最大エクスポージャー(2)	\$ 42,863	\$ 6,522	\$ 2,557	\$ 10,389	\$ 2,108	\$	64,439
非連結の組成された企業の総資産	\$ 41,964	\$ 18,200	\$ 462,947	\$ 87,631	\$ 286,200	\$	896,942

	2019年10月31日現在						
	マルチセ ラー型導管 体(1)	ストラク チャード・ ファイナ ンス	RBC以外が運 用する投資 信託	第三者証券 化ビークル	その他	合計	
(百万カナダドル)							
オンバランス・シート資産							
有価証券	\$ 75	\$ -	\$ 1,865	\$ -	\$ 503	\$ 2,443	
貸出金	-	2,718	-	6,392	1,517	10,627	
デリバティブ	97	-	-	-	83	180	
その他の資産	-	60	-	-	244	304	
	\$ 172	\$ 2,778	\$ 1,865	\$ 6,392	\$ 2,347	\$ 13,554	
オンバランス・シート負債							
デリバティブ	\$ 20	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 20	
その他の負債	30	-	-	-	-	30	
	\$ 50	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 50	
損失に対する最大エクスポージャー(2)	\$ 38,032	\$ 6,446	\$ 2,123	\$ 10,756	\$ 2,667	\$ 60,024	
非連結の組成された企業の総資産	\$ 37,192	\$ 17,571	\$ 412,046	\$ 84,282	\$ 293,423	\$ 844,514	

(1) 非連結の組成された企業の総資産は、既存の購入コミットメントに基づき当該導管体が購入しなければならない可能性がある資産の最大額である。この購入コミットメントのうち、当該導管体が購入済みの金融資産の合計額は、2020年10月31日現在234億ドル(2019年10月31日-236億ドル)である。

(2) これらの非連結の組成された企業への当行の関与に起因した損失に対する最大エクスポージャーは、主に投資、貸出金、デリバティブの公正価値、流動性および信用補完ファシリティから構成されている。マルチセラー型導管体の損失に対する最大エクスポージャーは、主に流動性のバックストップファシリティおよび信用補完ファシリティの想定元本であるため、オンバランス・シート資産の額より多額である。注記24を参照のこと。

以下は、非連結の組成された企業の重要な種類別に当行の関与について記載したものである。

マルチセラー型導管体

当行は、マルチセラー型ABCP導管体プログラムを管理している。マルチセラー型導管体は、主に顧客から金融資産を購入し、ABCPの発行によりその購入資金を調達している。

一定のマルチセラー型導管体契約では、当行は当行が管理しているマルチセラー型導管体に対して所有権を保持しておらず、その資産に対する権利も支配も有していない。当行は事務受託者として、資金調達活動のコーディネーション、取引の構築、ドキュメンテーションならびに実行およびモニタリング等のサービス提供に対して残余手数料を受領している。各マルチセラー型導管体が発行しているABCPは、導管体自体の名義になっており、導管体が所有する金融資産への遡及権があり、流動性ファシリティおよび/または信用補完ファシリティへ当行が参加している場合を除き当行への遡及権は有しない。

当行は、取引特定型およびプログラム全体に対する流動性ファシリティを、マルチセラー型導管体に提供している。加えて、当行は、マルチセラー型導管体が流動性ファシリティ等の他の資金源から満期となるABCPの決済資金を調達できない場合には、当行が資産を購入または資金を提供することを義務付けるプログラム全体に対する信用補完を、マルチセラー型導管体に提供している。場合によっては、当行または別の第三者が、多様な形態をとりうる取引特定型の信用補完を提供することもある。これらの流動性および信用ファシリティの提供に対して、当行は、市場に基づく手数料を受領している。

一部の取引について、当行は様々なヘッジ契約の契約相手先となり、導管体を通じた顧客の固定利付資産および/または外貨建資産の証券化を、円滑に行えるようにしている。これらは先渡契約、金利スワップまたはクロス・カレンシー・スワップの形をとる可能性がある。これらのデリバティブにより、当行は為替リスクおよび金利リスクにさらされているが、これらのリスクはそれぞれ当行の為替トレーディング・デスクおよびスワップ・デスクが一元管理している。原資産の信用リスクについては、以下に記載の信用補完により軽減している。

各取引には、第三者である売り手が提供する取引特定型のファースト・ロス・プロテクションを組み入れている。この補完は、超過担保、余剰スプレッド、金融資産の劣後クラス、保証または信用状を含むが、これらに限らず多様な形態をとり得る。この信用補完の金額は変動するが、通常、損失実績額の倍数をカバーするよう設定されている。

関連のない第三者(以下「損失が見込まれる投資家」という。)は、契約金額を上限として、マルチセラー型導管体の債権者および当行に先立ち、マルチセラー型導管体の資産に将来生ずる可能性のある損失を負担することになる。このマルチセラー型導管体のファースト・ロス・ポジションを引き受ける見返りとして、各マルチセラー型導管体は、損失が見込まれる投資家に、リスク・ポジションに相応するリターンを支払う。損失が見込まれる投資家は、当該導管体の経済的業績に重要な影響を及ぼす活動(資産購入コミットメントおよび流動性ファシリティの最初の選択および承認、当該取引およびファシリティの更新および修正の承認、資産の売却または譲渡、資産の運用成績の継続的なモニタリング、損失の低減、ならびにABCPの負債の管理等)の過半を指図する実質的なパワーを有している。

上記のとおり当行は導管体を支配していないため、これらのマルチセラー導管体を連結していない。

ストラクチャード・ファイナンス

当行は、学生ローンへの長期投資のための資金を短期優先債および劣後債の発行により調達する特定の信託(以下「米国ARS信託」という。)から、米国ARSを購入した。当行は、米国ARS信託の業績に最も重要な影響をもたらす活動である、当該信託の投資および資金調達活動に関して意思決定を行うパワーを有していないため、当行は当該信託を連結していない。

さらに当行は、一定の地方債のTOBストラクチャーに参加しているが、連結はしていない。当該ストラクチャーは、前述の連結対象である地方債のTOBストラクチャーと類似しているが、残余証券は第三者が保有している。当行は、この変動利付証券保有者のために、売り出したが販売できなかった場合に利用が認められる流動性ファシリティを提供している。当該信託の一部に関しても、当行は信託に保有される債券について信用状を提供している。当行は、当該ストラクチャーの関連性のある活動に関して意思決定を行うパワーを有していないため、当該ストラクチャーを連結していない。

当行は、組成された企業に対して、シニア・ウェアハウス・ファイナンスを行っている。この組成された企業は、期限付ローン担保証券(以下「CLO」という。)の発行取引を目的としたローン獲得のために第三者が設立したものである。ウェアハウスの期間中は、第三者である複数の出資者から劣後ファイナンスも行われている。当行は、当該期限付CLO取引のアレンジャーおよび募集代理人としての役割を果たしている。当該期限付CLOの販売による収入は、当行からのシニア・ウェアハウス・ファイナンスの返済に充当され、この時点で当行の当該取引への関与はなくなる。当行はこれらのCLOストラクチャーを連結していないが、これは当該企業の関連性のある活動(原負債ポートフォリオの最初の選択およびその後の管理を含む。)に関する意思決定を行うパワーを有していないためである。

当行は、非関連の組成された企業に対して、シニア・ファイナンスを行っている。この組成された企業は、ローン獲得のために第三者が設立したものである。これらのファシリティは、CLOウェアハウス・ファシリティよりも長期間にわたる傾向があり、通常、損失実績額の倍数をカバーするよう設定されている信用補完の恩恵を受ける。当行はこれらのストラクチャーを連結していないが、これは当該企業の関連性のある活動(原負債ポートフォリオの最初の選択およびその後の管理を含む。)に関する意思決定を行うパワーを有していないためである。

RBC以外が運用する投資信託

当行は、ミューチュアル・ファンド、ユニット型投資信託およびその他の投資信託等の第三者との間で、手数料を対価にエクイティ・デリバティブ取引を行っている。これらの取引では、投資家に参照する投資信託に対する希望のエクスポージャーを提供するとともに、当行はこの参照投資信託に投資を行うことにより、当該デリバティブに対する当行のエクスポージャーを経済的にヘッジしている。また当行は、複数の信託の保管機関または管理会社にもなっている。当行は、第三者が管理している当該参照投資信託の投資活動を指図するパワーを有していないため、当該投資信託については連結していない。

当行は、一定の第三者投資信託に流動性ファシリティを提供している。当該信託は、無担保の変動利付優先株式を発行し、非課税の地方債のポートフォリオに投資している。当行は、未使用の流動性コミットメントにより優先株式の流動性リスクにさらされており、使用済のコミットメントにより基礎となる地方債の信用リスクにさらされている。当行は、当該投資信託の投資活動を指図するパワーを有していないため、これらの第三者管理の信託を連結していない。

第三者証券化ビークル

当行は、一定の第三者に資金提供を行うことを目的として設立された証券化ビークルに対する持分を保有している。これらの事業体の活動は、スポンサーとの特定の金融資産の売買に限られている。当行は、他の金融機関と同様に、コミットメントの上限まで資金を提供する義務を負うとともに、当該原資産に係る信用損失(各種信用補完考慮後)にさらされている。補完は、超過担保、余剰スプレッド、金融資産の劣後クラス、保証または信用状を含むが、これらに限らず多様な形態をとり得る。この信用補完の金額は変動するが、通常、損失実績額の倍数をカバーするよう設定されている。当行は当該ビークルの関連性のある活動(事業体の投資および資金調達活動を含む。)に関して意思決定を行うパワーを有していないため、当該事業体を連結していない。

その他

その他の非連結の組成された企業には、運用投資信託、信用投資商品およびタックス・クレジット・ファンドがある。

当行は、当行が投資決定の指図を行い得る、ミューチュアル・ファンドおよび合同運用ファンドのスポンサーかつ運用会社となっている。当行は、当行が他のユニット保有者に代わって代理人として意思決定を行うパワーを行使する場合には、当該ミューチュアル・ファンドおよび合同運用ファンドを連結しない。

当行は、通常、信用デリバティブを現物商品に作り変えるため、信用リスクを分散するため、また投資家の個別のニーズを満たすカスタマイズされた信用商品を創出するために、組成された企業を利用している。当行は、デリバティブ契約(信用デリバティブを含む。)を締結して、これらの組成された企業からプロテクション(信用プロテクション)を購入し、投資家のニーズを満たすために利回り、通貨または原資産の信用リスク等の各種リスク要因を変化させている。当行は、一定の組成された企業の単独のアレンジャーおよびスワップの引受先となっており、当該企業のためにその他の管理機能を担っている場合もある。当行は、関連性のある活動(担保および参照ポートフォリオの選択を含む。)に関して意思決定を行うパワーを有しておらず、また当該企業の便益またはリスクの過半にさらされていないため、これらの信用投資商品にかかる組成された企業を連結していない。

当行は、基礎となる低所得者向住宅供給、歴史的建造物復興プロジェクトにつき受領したタックス・クレジット、新たな市場のタックス・クレジットまたは再生可能エネルギーのタックス・クレジットを、第三者に移転するための特定の信託を設定した(以下「タックス・クレジット・ファンド」という。)。当行は、当行がそのファンドを管理し、資金調達をアレンジし、これらのタックス・クレジット・ファンドの事務管理業務を行う責任を負うことから、タックス・クレジット・ファンドのスポンサーである。当行は当該タックス・クレジット・ファンドを連結していないが、これは当該ファンドの第三者投資家が原投資を選択する意思決定を行うパワーを有しており、当該ファンドの残りの所有権および税務上のリスクの過半を負担しているためである。

当行は、また、第三者により組成され、支配されている、再生可能エネルギー税額控除対象企業に対する受動的持分を購入している。当行は、関連性のある活動に関して意思決定を行うパワーを有しておらず、当行の投資は、トレーディング目的で保有しているより規模の大きなポートフォリオの一部として管理されているため、これらの第三者ファンドを連結していない。

非連結の組成された企業に対するその他の持分

通常の事業の過程において、当行は、一定の第三者により組成された企業(ミューチュアル・ファンド、上場投資信託、および政府がスポンサーとなっているABSビークルを含む。)に対する受動的持分の売買を行っている。これらの企業に対する当行の投資は、トレーディング目的、流動性目的またはヘッジ目的で保有しているより規模の大きなポートフォリオの一部として管理されている。当行は、これらの企業を組成しておらず、スポンサーでもなく、また当該企業の継続的な活動に関する意思決定を行うパワーも有していない。当行の損失に対する最大エクスポージャーは、貸借対照表上の当該企業に対する投資額が上限となる(上表には含まれていない。)。2020年および2019年10月31日現在、これらの企業に対する当行の投資は、当行の連結貸借対照表上の「トレーディング有価証券」および「投資有価証券」に含まれている。「トレーディング有価証券」および「投資有価証券」の詳細については、注記3および注記4を参照のこと。

当行がスポンサーとなっている企業

当行は、持分は有しているが連結していない、一定の組成された企業につきスポンサーとなっている。当行が組成された企業のスポンサーであるかの判断に際して、当行は、当該企業の目的および事業内容、当行の当初および継続的関与、ならびに当該企業の劣後持分の保有の有無等、定性的および定量的要因の両面について検討を行っている。当行は、一定の信用投資商品、税額控除対象企業、RBCが運用するミューチュアル・ファンド、および商業用モーゲージ証券化ビークルのスポンサーであると判断している。当行は、2020年10月31日終了年度において、帳簿価額469百万ドル(2019年10月31日-696百万ドル)の商業用モーゲージを、当行がスポンサーとなっている証券化ビークルに譲渡したが、当行は当報告期間末現在、当該証券化ビークルの持分を保有していない。

組成された企業に提供した財政的支援

2020年および2019年10月31日終了年度において、当行は、連結している組成された企業または非連結の組成された企業に対して契約上の義務がない場合には、財政的支援も財政的以外の支援も行っていない。また当行は、かかる支援を将来的に提供する意図も有していない。

[前へ](#) [次へ](#)

注記8 デリバティブ金融商品およびヘッジ活動

デリバティブ商品は、金融デリバティブまたは非金融デリバティブのいずれかに分類される。金融デリバティブは、その価値が基礎となる金利、為替レート、信用リスク、および株式または株価指数によって決まる金融契約である。非金融デリバティブは、その価値が貴金属、コモディティ商品または指数によって決まる契約である。デリバティブの想定元本は、支払額を計算するための基準額として使用される契約価額である。想定元本は、通常、契約当事者間で交換されることはなく、当行のEADを反映するものでもない。

金融デリバティブ

先渡および先物

先渡契約は、OTC市場において契約相手先と取引される標準化されていない契約であり、他方、先物は、金額および決済日について標準化された契約で、正式な先物取引所で売買される。先渡および先物の例は、以下に記載の通りである。

金利先渡(以下「金利先渡取引」という。)および金利先物は、予め決められた将来の日に、特定の価格で、金利に感応する金融商品を売買する契約上の義務である。

為替予約および為替先物は、特定の決済価格で、予め決められた将来の日に、ある通貨を別の通貨と交換する契約上の義務である。

株式先渡および株式先物は、予め決められた将来の日に、固定価額(以下「特定の価格」という。)で株価指数、株式バスケットまたは単一の株式を売買する契約上の義務である。

スワップ

スワップは、想定元本に適用される合意されたレートを基礎とする一連のキャッシュ・フローを、契約当事者2者が交換するOTC契約である。スワップ契約の例は、以下に記載の通りである。

金利スワップは、ある単一通貨の想定元本に適用される異なる金利を基礎とする一連の支払いを、契約当事者2者が交換する取り決めである。一部の金利スワップは中央清算機関としての役割を担う決済機関を通じて取引および決済される。クロス・カレンシー・スワップでは、ある通貨の固定支払額と別の通貨の固定受取額との交換が行われる。クロス・カレンシー金利スワップでは、2つの異なる通貨で利息と想定元本双方の交換が行われる。

エクイティ・スワップは、株価指数、株式バスケットまたは単一の株式の価値の変動を基礎とするキャッシュ・フローを、一方の契約当事者が他方の契約当事者に支払うか、他方の契約当事者から受け取ること合意する契約である。

オプション

オプションは売り手(ライター)が買い手に、義務ではなく、権利を付与する契約上の取り決めである。その権利とは、有価証券、為替レート、金利、または他の金融商品もしくはコモディティを、特定の価格で、予め決められた将来の日またはその日までに購入する権利(コール・オプション)または売却する権利(プット・オプション)である。オプションの売り手(ライター)は、買い手の権利の現金決済額を支払うことで、契約を手仕舞うこともできる。売り手(ライター)は、この権利の対価として、買い手からプレミアムを受け取る。当行が締結している各種のオプション契約には、金利オプション、通貨オプション、エクイティ・オプションおよび指数オプションが含まれるが、これに限定されない。

信用デリバティブ

信用デリバティブは、基礎となる金融商品(以下「参照資産」という。)に関連する信用リスクを、一方の契約当事者から別の契約当事者に移転するOTC契約である。信用デリバティブには、クレジット・デフォルト・スワップ、クレジット・デフォルト・バスケットおよびトータル・リターン・スワップが含まれる。

クレジット・デフォルト・スワップは、債務不履行や倒産等の特定の信用事象により生じる参照資産の価値の下落に対するプロテクションを提供する。その仕組みはオプションに類似しており、参照資産に影響を及ぼす信用事象の発生を条件とする支払いの対価として、買い手がクレジット・デフォルト・スワップの売り手にプレミアムを支払う。

クレジット・デフォルト・バスケットはクレジット・デフォルト・スワップに類似するが、基礎となる参照金融商品は単一の資産ではなく、資産グループである。

トータル・リターン・スワップは、参照資産または資産グループの価値の変動に基づく金額の現金(これらの資産に係る受取利息等のリターンを含む。)を、実勢市場調達金利に基づく金額と交換に、一方の契約当事者が他方の契約当事者に支払うか、他方の契約当事者から受け取ること合意する契約である。

その他のデリバティブ商品

その他の契約は、安定価値およびエクイティ・デリバティブ契約である。

非金融デリバティブ商品

その他の契約には、OTCと取引所の両市場における貴金属およびコモディティのデリバティブ契約等の非金融デリバティブ商品も含まれる。

トレーディング目的で発行されたデリバティブ

当行のデリバティブ取引の大半は、顧客取引から生じる販売およびトレーディング業務、ならびに関連する市場リスクのヘッジに関係している。販売業務には、顧客がリスクを修正または削減できるようにするデリバティブ商品の組成およびマーケティングが含まれる。トレーディング業務には、値付け、ポジション調整および裁定業務が含まれる。値付けには、スプレッドと取引量を基に収益獲得を目的とした、他の市場参加者に対する買い呼び値および売り呼び値の値付けが含まれる。ポジション調整は、価格、レートまたは指数の有利な動きから利益を得ることを目的とした、デリバティブ取引の積極的な管理に関係している。裁定業務は、市場間および商品種類間の価格差を特定し、そこから利益を得ることに関係している。トレーディング目的で使用されるデリバティブの実現および未実現利得または損失は、直ちに「利息以外の収益」の「トレーディング収益」に認識される。

トレーディング目的以外で発行されたデリバティブ

当行は、トレーディング目的以外にも、主にヘッジ目的でデリバティブを利用しており、当行の融資、貸出、投資業務および資産/負債管理に係る金利リスク、信用リスク、エクイティ・リスクおよび為替リスクの管理に関係している。

金利スワップは、融資や投資業務等、既存および/または予定資産および負債について、その金利更改の特性または満期特性を変えることによって、金利リスクに対する当行のエクスポージャーを管理することに利用されている。買建オプションは、償還可能預金および消費者向け商品に組み込まれたその他のオプションをヘッジするために利用されている。当行は、クロス・カレンシー・スワップおよび為替予約により、外貨リスクに対する当行のエクスポージャーを管理している。当行は、信用エクスポージャーの管理に、主に信用デリバティブを利用している。当行は、信用リスクを第三者に移転する信用デリバティブを購入することによって、当行の信用ポートフォリオに関連する業種の集中およびシングルネーム・エクスポージャーを軽減している。

一部のデリバティブおよび現物商品は、明確にヘッジに指定され、ヘッジ会計の要件を満たしている。また当行は、ヘッジ会計を適用できない特定のエクスポージャーを経済的にヘッジするために、またはヘッジ会計を実施することが経済的に実行可能ではないと考えられる場合に、適宜デリバティブ取引を行っている。この場合の公正価値の変動は、「利息以外の収益」の「その他」に反映される。

満期日までの期間ごとのデリバティブの想定元本(絶対値)(1)

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在					
	満期までの期間				トレーディング	トレーディング以外
	1年以内	1年から5年	5年超	合計		
店頭取引契約						
金利契約						
金利先渡し取引	\$ 2,782,447	\$ 427,464	\$ 340	\$ 3,210,251	\$ 3,172,950	\$ 37,301
スワップ	3,409,078	5,990,160	3,755,593	13,154,831	12,685,595	469,236
買建オプション	282,837	407,782	185,667	876,286	876,153	133
売建オプション	303,347	410,237	198,222	911,806	911,806	-
為替契約						
為替予約	1,691,079	32,474	1,788	1,725,341	1,707,082	18,259
クロス・カレンシー・スワップ	80,186	56,563	64,540	201,289	194,773	6,516
クロス・カレンシー・金利スワップ	412,053	1,117,048	633,023	2,162,124	2,112,625	49,499
買建オプション	46,719	13,963	3,349	64,031	64,031	-
売建オプション	50,099	13,407	3,410	66,916	66,916	-
信用デリバティブ(2)	1,309	39,877	7,577	48,763	48,244	519
その他の契約(3)	177,220	94,378	20,126	291,724	282,321	9,403
取引所取引契約						
金利契約						
先物－買建	164,925	112,363	113	277,401	277,401	-
先物－売建	205,927	167,350	233	373,510	373,510	-
買建オプション	74,494	14,188	-	88,682	88,682	-
売建オプション	58,116	10,391	-	68,507	68,507	-
為替契約						
先物－買建	75	-	-	75	75	-
先物－売建	-	-	-	-	-	-
その他の契約	179,681	30,768	240	210,689	210,689	-
	\$ 9,919,592	\$ 8,938,413	\$ 4,874,221	\$23,732,226	\$23,141,360	\$ 590,866

	2019年10月31日現在					
	満期までの期間				トレーディ ング	トレーディ ング以外
(百万カナダドル)	1 年以内	1 年から 5 年	5 年超	合計		
店頭取引契約						
金利契約						
金利先渡し取引	\$ 2,014,752	\$ 179,624	\$ 387	\$ 2,194,763	\$ 2,186,862	\$ 7,901
スワップ	3,294,746	5,026,410	3,331,025	11,652,181	11,180,497	471,684
買建オプション	83,247	462,599	174,042	719,888	719,888	-
売建オプション	77,601	464,906	182,690	725,197	725,197	-
為替契約						
為替予約	1,715,266	30,523	985	1,746,774	1,724,606	22,168
クロス・カレンシー・ スワップ	79,264	50,416	55,166	184,846	177,622	7,224
クロス・カレンシー・ 金利スワップ	469,910	894,250	425,301	1,789,461	1,743,465	45,996
買建オプション	54,756	14,409	3,061	72,226	72,226	-
売建オプション	54,985	14,969	3,383	73,337	73,337	-
信用デリバティブ(2)	2,693	14,724	3,437	20,854	20,341	513
その他の契約(3)	201,489	90,436	18,463	310,388	303,893	6,495
取引所取引契約						
金利契約						
先物－買建	107,054	118,805	187	226,046	226,046	-
先物－売建	363,947	120,247	46	484,240	484,240	-
買建オプション	56,657	36,985	-	93,642	93,642	-
売建オプション	59,840	16,395	-	76,235	76,235	-
為替契約						
先物－買建	28	-	-	28	28	-
先物－売建	-	-	-	-	-	-
その他の契約	214,725	44,245	-	258,970	258,970	-
	\$ 8,850,960	\$ 7,579,943	\$ 4,198,173	\$20,629,076	\$20,067,095	\$ 561,981

- (1) デリバティブの想定元本は、自己資本比率規制(以下「CAR」という。)に準拠した、カウンターパーティ信用リスクの測定方法についての標準的手法(以下「SA-CCR」という。)を用いて算定されている。
- (2) 想定元本5億ドル(2019年10月31日－5億ドル)の信用デリバティブは、経済的ヘッジである。トレーディングの信用デリバティブは、プロテクション買建263億ドル(2019年10月31日－126億ドル)およびプロテクション売建219億ドル(2019年10月31日－77億ドル)から構成されている。
- (3) 19億ドル(2019年10月31日－77億ドル)の貸出金関連のコミットメントのデリバティブはCARガイドラインにおけるデリバティブには分類されておらず、その他の契約から除外されている。

デリバティブ商品の公正価値(1)

(百万カナダドル)	以下の日現在			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス
トレーディング目的の保有または発行				
金利契約				
金利先渡取引	\$ 33	\$ 33	\$ 30	\$ 31
スワップ	44,732	37,453	39,669	32,570
買建オプション	7,498	-	5,898	-
売建オプション	-	8,916	-	6,756
	52,263	46,402	45,597	39,357
為替契約				
為替予約	10,765	10,190	11,263	11,755
クロス・カレンシー・スワップ(2)	5,117	5,080	5,022	4,412
クロス・カレンシー・金利スワップ(2)	19,880	21,826	22,076	21,999
買建オプション	1,292	-	1,242	-
売建オプション	-	910	-	898
	37,054	38,006	39,603	39,064
信用デリバティブ	463	526	169	279
その他の契約	21,156	23,985	15,356	18,517
	110,936	108,919	100,725	97,217
トレーディング目的以外の保有または発行				
金利契約				
スワップ	1,959	1,410	848	742
	1,959	1,410	848	742
為替契約				
為替予約	76	85	116	118
クロス・カレンシー・スワップ	89	22	193	527
クロス・カレンシー・金利スワップ	2,084	132	904	501
	2,249	239	1,213	1,146
信用デリバティブ	-	5	-	3
その他の契約	105	126	181	140
	4,313	1,780	2,242	2,031
以下考慮前の公正価値総額合計：	115,249	110,699	102,967	99,248
一括管理された評価調整	(1,104)	(115)	(697)	5
貸借対照表上の相殺要件を満たす ネットティング契約の影響	(657)	(657)	(710)	(710)
	\$113,488	\$109,927	\$101,560	\$ 98,543

(1) 特定の中央清算機関において日次変動証拠金を関連するデリバティブの公正価値の決済に用いたとみなす選択が認められており、公正価値にはこの影響が反映されている。

(2) 金額は修正再表示されている。

満期日までの期間ごとのデリバティブ商品の公正価値(1)

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	1年未満	1年から5年	5年超	合計	1年未満	1年から5年	5年超	合計
デリバティブ資産	\$ 27,072	33,755	52,661	\$ 113,488	\$ 25,342	28,568	47,650	\$ 101,560
デリバティブ負債	26,507	32,885	50,535	109,927	25,495	26,503	46,545	98,543

(1) 特定の中央清算機関において日次変動証拠金を関連するデリバティブの公正価値の決済に用いたとみなす選択が認められており、公正価値にはこの影響が反映されている。

金利指標改革(1)

当行は、当行の既存および/または予定資産および負債の金利リスクに対する当行のエクスポージャーを管理するために、公正価値ヘッジおよびキャッシュ・フロー・ヘッジの金利契約を利用している。当行はまた、当行の在外営業活動体への投資から生じる為替リスクを管理するために、外貨建預金負債を純投資ヘッジに利用している。これらのリスク管理のために指定されたヘッジ手段は、様々な管轄区域のIBORを参照しており、市場が2021年末までにまたはそれ以降に代替的なリスクフリーレートまたはリスクフリーに近いレートを採用していくため、当該改革の影響を受ける。

以下の表は、2021年以降に期日を迎え、また当該改革の影響を受ける、IBORを参照金利とする当行のヘッジ手段の想定元本額または元本額を示している。当行は、どのIBORが当該改革の影響を受けるかを評価するために、進捗を継続的に監視している。当行のヘッジ手段の想定元本額または元本額はまた、当行がヘッジ関係により管理するリスク・エクスポージャーの範囲にも近似している。

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年11月1日
	想定元本額/元本額	想定元本額/元本額
金利契約		
USD LIBOR	\$ 40,676	\$ 26,709
GBP LIBOR	591	618
非デリバティブ金融商品		
USD LIBOR	2,362	888
GBP LIBOR	691	682
	\$ 44,320	\$ 28,897

(1) カナダ銀行間取引金利(以下「CDOR」という。)、EURO銀行間取引金利およびオーストラリア銀行間取引金利(以下「BBSW」という。)を含む、複数の金利管轄区域の金利を参照する金利契約および非デリバティブ金融商品を除く。

デリバティブ関連の信用リスク

デリバティブ取引による信用リスクは、取引の1つ以上が当行にとってプラスの市場価値を持つ場合に、契約相手先が契約義務の不履行を起こす可能性から生じる。そのため、デリバティブ関連の信用リスクを示すのは金融商品のプラスの公正価値であり、通常、契約の想定元本のごく一部である。

当行は、デリバティブ取引にも、信用エクスポージャーを生じさせる他の取引の管理に使用しているのと同じの与信承認、限度額およびモニタリングの基準を適用している。これには、契約相手先の信用度の評価、ならびにポートフォリオの規模、分散の程度および満期構成の管理が含まれる。すべての商品の与信状況は、継続的に所定の限度額と比較され、定型化された例外報告プロセスの対象となっている。「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の項の内部格付マッピングに概述されている通り、当行は、すべての信用リスク・エクスポージャーに単一の内部格付けシステムを用いている。

相殺はデリバティブによる信用エクスポージャーの削減を可能にする手法であり、通常、マスター・ネットティング契約を利用して行われ、注記2の当行の会計方針に従って特定の要件が満たされた場合に行われる。マスター・ネットティング契約は、債務不履行が生じた場合に、その契約がカバーする金融商品のすべてを一括して純額決済することを定めるものである。ただし、信用リスクの削減は、当行の同一契約相手先に対する金融債務を、当該契約相手先の当行に対する金融債務と相殺可能な範囲が限度となる。当行は、マスター・ネットティング契約を最大限活用して、デリバティブ関連の信用エクスポージャーを削減している。マスター・ネットティング契約により削減された当行の全体としての信用リスク・エクスポージャーは、報告日後に大幅に変動する可能性があるが、それは、そのエクスポージャーが契約の対象となる各取引および基礎となる市場相場の変動の影響を受けるためである。デリバティブ取引から生じる当行の信用エクスポージャーの測定額は、当該ネットティングが強制可能であることが適切な法的分析(当行の信用リスクの取引方針に文書化されている。)により裏付けられる場合には、ネットティングの効果を受けて減少する。

担保の利用も、デリバティブ関連の契約相手先の信用リスクの管理する上で、重要な信用リスク軽減の方法である。一部の契約相手先との間の契約に含められている値洗い条項(典型的にはクレジット・サポート・アネックスの形式による)は、デリバティブ・ポジションの現在の市場価値が所定の基準値を超えた場合に、契約相手先に当該ポジションの当該市場価値の支払いまたは担保提供を要求する権利を当行に付与するものである。

再構築コストおよび信用相当額は、CARガイドラインに基づくOSFIのモデル方式ではない規制上のSA-CCRに準拠して算定されている。再構築コストは、マスター・ネットティング契約および該当する証拠金を考慮後の、利益が生じているポジションのすべての未決済契約の公正価値の総額に、規制上の係数を調整した額を表している。信用相当額は、再構築コストに潜在的な将来の信用エクスポージャーに係る追加金額を加え、さらに規制上の係数を調整した額として定義されている。リスク調整後残高は、信用相当額に適切なリスク・ウェイトを適用して算定され、リスク・ウェイトには内部格付手法に基づくモデル承認を反映したものが含まれている。

デリバティブ関連の信用リスク (1)

(百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	再構築 コスト	信用 相当額	リスク調整 後残高(2)	再構築 コスト	信用 相当額	リスク調整 後残高(2)
店頭取引契約						
金利契約						
金利先渡取引	\$ 30	\$ 191	\$ 79	\$ 18	\$ 73	\$ 19
スワップ	7,112	17,324	7,359	6,487	15,911	6,229
買建オプション	142	392	285	149	547	326
売建オプション	4	307	136	-	256	113
為替契約						
為替予約	2,796	17,641	4,537	2,333	15,822	3,899
スワップ	2,392	15,349	3,997	3,047	15,678	4,001
買建オプション	465	923	292	404	908	285
売建オプション	1	155	59	4	213	67
信用デリバティブ	429	1,839	81	156	613	40
その他の契約	3,577	16,455	7,719	1,972	10,766	4,853
取引所取引契約	3,137	8,842	177	5,439	19,630	393
	\$ 20,085	\$ 79,418	\$ 24,721	\$ 20,009	\$ 80,417	\$ 20,225

(1) CARガイドラインに準拠して、マスター・ネットリング契約控除後の金額を表示している。

(2) リスク調整後残高はCARガイドラインに準拠して算定されており、CVA180億ドル(2019年10月31日－130億ドル)を除外している。

信用格付け別および契約相手先種類別のデリバティブ商品の再構築コスト

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在								
	信用格付け(1)					契約相手先種類(2)			
	AAA,AA	A	BBB	BB以下	合計	銀行	OECD 加盟国 政府	その他	合計
プラスの再構築コスト総額	\$ 30,097	\$ 44,736	\$ 18,392	\$ 22,024	\$115,249	\$ 49,146	\$ 22,109	\$ 43,994	\$115,249
マスター・ネットティング契約 および該当する証拠金の影響	27,110	40,359	14,238	13,457	95,164	48,291	21,534	25,339	95,164
再構築コスト (ネットティング契約控除後)	\$ 2,987	\$ 4,377	\$ 4,154	\$ 8,567	\$ 20,085	\$ 855	\$ 575	\$ 18,655	\$ 20,085

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在								
	信用格付け(1)					契約相手先種類(2)			
	AAA,AA	A	BBB	BB以下	合計	銀行	OECD 加盟国 政府	その他	合計
プラスの再構築コスト総額	\$ 27,126	\$ 38,812	\$ 20,620	\$ 16,409	\$102,967	\$ 48,509	\$ 18,126	\$ 36,332	\$102,967
マスター・ネットティング契約 および該当する証拠金の影響	23,146	35,088	16,719	8,005	82,958	47,376	17,705	17,877	82,958
再構築コスト (ネットティング契約控除後)	\$ 3,980	\$ 3,724	\$ 3,901	\$ 8,404	\$ 20,009	\$ 1,133	\$ 421	\$ 18,455	\$ 20,009

- (1) 「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の項の内部格付マッピングに概述されている通り、当行の内部リスク格付けAAA、AA、AおよびBBBは投資適格であり、格付けBB以下は投資不適格である。
- (2) 契約相手先種類は、CARガイドラインに準拠して定義されている。

ヘッジ関係におけるデリバティブ

当行は、金利または為替レートの変動により生じる損益および資本のボラティリティを最小化するために、ヘッジ会計を適用している。金利および通貨の変動により、資産および負債の市場価値の増減または予想キャッシュ・フローの変動のいずれかが生じる。ヘッジ関係が有効である場合には、ヘッジ手段の利得、損失、収益および費用は、ヘッジ対象の利得、損失、収益および費用を相殺する。

ヘッジ関係に使用されるデリバティブは、貸借対照表の「その他の資産－デリバティブ」または「その他の負債－デリバティブ」に計上される。純投資ヘッジ関係に使用される外貨建負債は、貸借対照表の「預金－企業および政府」ならびに「劣後無担保社債」に計上される。ヘッジの非有効性に関連する損益は「利息以外の収益」に計上され、OCIのヘッジ剰余金から純損益に振り替えられた金額は、キャッシュ・フロー・ヘッジについては「受取利息純額」に、純投資ヘッジについては「利息以外の収益」に計上される。

当行は、ヘッジ関係の有効性を、デリバティブ(ヘッジ手段)の公正価値またはキャッシュ・フローの変動とヘッジ対象リスクに起因するヘッジ対象の公正価値またはキャッシュ・フローの変動との関連性を基に評価および測定を行っている。現物商品が為替リスクのヘッジとして指定された場合、ヘッジの有効性の評価および測定に含まれるのは為替リスクによる価値の変動のみである。

非有効性の潜在的要因は、ヘッジ手段とヘッジ対象との差異に起因する可能性がある。

- ・ 例えば、金利再設定の頻度およびタイミングならびに支払頻度等のヘッジ対象とヘッジ手段の観点からのミスマッチ。
- ・ ヘッジ対象とヘッジ手段の再設定の頻度の差異を考慮したヘッジ対象とヘッジ手段の割引係数の差異。
- ・ ヘッジ関係の開始時においてヘッジ手段であるデリバティブの公正価値がゼロではないことによるヘッジ対象の観点からのミスマッチ。

以下は、当行がヘッジを決定する各リスク・エクスポージャーに対するリスク管理戦略について記載したものである。

金利リスク

当行は、融資や投資業務等、既存および/または予定資産および負債について、その価格改定の特性を変えることによって、金利リスクに対する当行のエクスポージャーを管理するために金利契約を利用している。当該スワップは、公正価値ヘッジまたはキャッシュ・フロー・ヘッジのいずれかに指定され、大部分は、様々な管轄区域のIBORを参照している。一部のスワップは、市場が2021年末までにまたはそれ以降に代替的なリスクフリーレートまたはリスクフリーに近いレートを採用していくため、当該改革の影響を受ける。

公正価値ヘッジについて、当行は、ベンチマーク金利の変動による固定利付商品の公正価値の変動を管理するために金利契約を利用している。当該金利スワップはベンチマーク金利リスクを管理するために一対一の個別ベースで締結され、その重要な条件は特定の固定利付商品に一致するものである。

さらに当行は、住宅モーゲージ資産および資金調達負債からの金利リスクを管理するために、金利スワップを公正価値ヘッジに利用している。当該ポートフォリオからの当行のエクスポージャーは、新規貸出金の組成、既存の貸出金の返済、および証券化されたモーゲージの売却とともに変動する。したがって、当行は当該ポートフォリオにダイナミック・ヘッジを適用しており、ヘッジ関係が隔週または月次ベース等、より頻繁にリバランスされる。

キャッシュ・フロー・ヘッジについて、当行は、ベンチマーク金利の変動による変動利付商品のキャッシュ・フローの変動性に対するエクスポージャーを管理するために金利スワップを利用している。特定のIBORを参照する変動利付商品および予定取引は、当該改革の影響を受けることになる。特定のエクスポージャーを管理するために一部の金利デリバティブは一対一の個別ベースで締結されるが、他の金利デリバティブは資産および負債のポートフォリオの金利リスクを管理するために締結される。

為替リスク

当行は、為替リスクに対するエクスポージャーを、キャッシュ・フロー・ヘッジについてはクロス・カレンシー・スワップで、純投資ヘッジについては為替予約で管理している。また、特定の現物商品は、適宜純投資ヘッジに指定される。

キャッシュ・フロー・ヘッジについて、当行は、当行の発行済外貨建固定利付負債および発生可能性が非常に高い予定取引に係る為替レートの変動により生じるキャッシュ・フローの変動性を管理するために、クロス・カレンシー・スワップおよび為替予約を利用している。これらのスワップの満期構成や返済条件は、為替レートの変動によるキャッシュ・フローのボラティリティを制限するために、当行の外貨建エクスポージャーの満期構成や返済条件とマッチしている。

純投資ヘッジについて、当行は、在外営業活動体に対する投資から生じる為替リスクを管理するために、為替予約と外貨建預金負債等の現物商品(その一部は当該改革の影響を受けるIBORを参照している)の組み合わせを利用している。当行の最も重要なエクスポージャーには、米ドル、英ポンドおよびユーロが含まれる。為替予約を利用して在外営業活動体に対する純投資をヘッジする場合、当該為替予約の割引前のスポット部分のみがヘッジ手段に指定される。したがって、先渡レートの変動や割引の効果によるヘッジ手段の公正価値の変動は、ヘッジの有効性評価に含まれない。在外営業活動体は、負債またはデリバティブの想定元本の範囲のみがヘッジされる。したがって、当行は通常、在外営業活動体に対する純投資のヘッジに著しい非有効性が発生するとは予想していない。

株価リスク

当行は、一部の主要な従業員向けの現金決済型の株式に基づく報酬制度に関連して予想される支払キャッシュ・フローの変動性を緩和するために、インデックス付きRBC株価の変動に対する金利支払と配当利益を交換することにより、トータル・リターン・スワップをキャッシュ・フロー・ヘッジに利用している。

信用リスク

当行は、主に信用デリバティブを利用して、当行の信用エクスポージャーを経済的にヘッジしている。当行は、信用リスクを第三者に移転する信用デリバティブを購入することにより、当行の信用ポートフォリオに関連する業種の集中およびシングルネーム・エクスポージャーを軽減している。

ヘッジ関係に指定されたデリバティブ商品

以下の表は、ヘッジ関係ごとのデリバティブ商品の公正価値およびデリバティブ以外の負債の元本金額ならびにヘッジ関係の指定がないデリバティブを示している。

デリバティブおよびデリバティブ以外の商品(1)

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	ヘッジ関係において ヘッジ手段として 指定されたもの				ヘッジ関係において ヘッジ手段として 指定されたもの			
	公正価値 ヘッジ	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	純投資 ヘッジ	ヘッジ関 係の指定 なし	公正価値 ヘッジ	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	純投資 ヘッジ	ヘッジ関 係の指定 なし
資産								
デリバティブ商品	\$ 102	\$ 1	\$ 19	\$113,366	\$ 146	\$ 77	\$ 52	\$101,285
負債								
デリバティブ商品	298	30	58	109,541	187	526	70	97,760
デリバティブ以外の商品	-	-	28,702	n.a.	-	-	27,688	n.a.

(1) 特定の中央清算機関において日々変動証拠金を関連するデリバティブの公正価値の決済に用いたとみなす選択が認められており、公正価値にはこの影響が反映されている。

n.a.該当なし

以下の表は、ヘッジ関係の種類ごとのヘッジ手段の想定元本および加重平均レートの満期分析ならびにそれらの帳簿価額を提供している。

公正価値ヘッジ

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2020年10月31日現在					
	想定元本				帳簿価額(1)	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
金利リスク						
金利契約						
固定利付資産に係るヘッジ	\$ 14,410	\$ 28,182	\$ 6,709	\$ 49,301	\$ 1	\$ 298
固定利付負債に係るヘッジ	21,207	38,704	6,415	66,326	101	-
加重平均固定金利						
固定利付資産に係るヘッジ	1.5%	1.0%	2.0%	1.3%		
固定利付負債に係るヘッジ	1.7%	1.4%	1.8%	1.6%		

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2019年10月31日現在					
	想定元本				帳簿価額(1)	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
金利リスク						
金利契約						
固定利付資産に係るヘッジ	\$ 4,625	\$ 20,439	\$ 3,909	\$ 28,973	\$ 2	\$ 187
固定利付負債に係るヘッジ	16,003	48,361	9,065	73,429	144	-
加重平均固定金利						
固定利付資産に係るヘッジ	1.9%	2.2%	2.7%	2.2%		
固定利付負債に係るヘッジ	1.7%	1.8%	1.8%	1.7%		

(1) 特定の中央清算機関において日次変動証拠金を関連するデリバティブの公正価値の決済に用いたとみなす選択が認められており、帳簿価額にはその影響が反映されている。

キャッシュ・フロー・ヘッジ

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2020年10月31日現在					
	想定元本				帳簿価額(1)	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
金利リスク						
金利契約						
変動利付資産に係るヘッジ	\$ 15,309	\$ 10,663	\$ 1,762	\$ 27,734	\$ -	\$ -
変動利付負債に係るヘッジ	5,616	61,697	5,384	72,697	-	-
加重平均固定金利						
変動利付資産に係るヘッジ	0.6%	1.4%	1.8%	1.0%		
変動利付負債に係るヘッジ	1.9%	1.5%	1.4%	1.5%		
為替リスク						
クロス・カレンシー・スワップ	\$ 700	\$ 160	\$ -	\$ 860	\$ 1	\$ 2
カナダドルー日本円の加重平均 為替レート	0.01	-	-	0.01		
カナダドルーユーロの加重平均 為替レート	-	1.52	-	1.52		
米ドルーユーロの加重平均為替 レート	-	-	-	-		

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2019年10月31日現在					
	想定元本				帳簿価額(1)	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
金利リスク						
金利契約						
変動利付資産に係るヘッジ	\$ 17,327	\$ 11,729	\$ 1,696	\$ 30,752	\$ -	\$ -
変動利付負債に係るヘッジ	200	54,610	4,803	59,613	-	-
加重平均固定金利						
変動利付資産に係るヘッジ	2.1%	2.0%	2.6%	2.1%		
変動利付負債に係るヘッジ	2.6%	1.9%	2.4%	2.0%		
為替リスク						
クロス・カレンシー・スワップ	\$ 2,937	\$ 63	\$ 88	\$ 3,088	\$ 2	\$ 526
カナダドルー日本円の加重平均 為替レート	-	-	-	-		
カナダドルーユーロの加重平均 為替レート	-	1.48	1.55	1.52		
米ドルーユーロの加重平均為替 レート	1.33	-	-	1.33		

(1) 特定の中央清算機関において日次変動証拠金を関連するデリバティブの公正価値の決済に用いたとみなす選択が認められており、帳簿価額にはその影響が反映されている。

純投資ヘッジ

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2020年10月31日現在					
	想定元本/元本				帳簿価額	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
為替リスク						
外貨建負債	\$ 7,722	\$ 18,706	\$ 2,274	\$ 28,702	n.a.	\$ 29,175
カナダドル-米ドルの加重平均 為替レート	1.29	1.31	1.31	1.30		
カナダドル-ユーロの加重平均 為替レート	-	1.51	1.50	1.51		
カナダドル-英ポンドの加重 平均為替レート	1.73	1.65	-	1.69		
為替予約	\$ 7,869	\$ -	\$ -	\$ 7,869	\$ 19	\$ 58
カナダドル-米ドルの加重平均 為替レート	1.33	-	-	1.33		
カナダドル-ユーロの加重平均 為替レート	1.56	-	-	1.56		
カナダドル-英ポンドの加重 平均為替レート	1.71	-	-	1.71		

(平均レートを除き、 百万カナダドル)	2019年10月31日現在					
	想定元本/元本				帳簿価額	
	1年以内	1年から 5年	5年超	合計	資産	負債
為替リスク						
外貨建負債	\$ 8,701	\$ 14,843	\$ 4,144	\$ 27,688	n.a.	\$ 27,859
カナダドル-米ドルの加重平均 為替レート	1.31	1.29	1.31	1.30		
カナダドル-ユーロの加重平均 為替レート	-	-	1.51	1.51		
カナダドル-英ポンドの加重 平均為替レート	-	1.69	-	1.69		
為替予約	\$ 5,355	\$ -	\$ -	\$ 5,355	\$ 52	\$ 70
カナダドル-米ドルの加重平均 為替レート	1.33	-	-	1.33		
カナダドル-ユーロの加重平均 為替レート	1.47	-	-	1.47		
カナダドル-英ポンドの加重 平均為替レート	1.67	-	-	1.67		

n.a.該当なし。

以下の表は、ヘッジ関係ごとのヘッジ対象の詳細を示している。

公正価値ヘッジ - ヘッジ対象に指定された資産および負債

	2020年10月31日現在および同日に終了した年度					
	帳簿価額		帳簿価額に含まれる ヘッジ対象に対する 公正価値調整累計額		貸借対照表項目	ヘッジ非有効部分の 算出に使用される公 正価値の変動
	資産	負債	資産	負債		
(百万カナダドル)						
金利リスク						
固定利付資産(1)	\$ 49,272	\$ -	\$ 1,058	\$ -	有価証券－投資(関連する引当金を除く); 貸出金－リテール; 貸出金－ホールセール	\$ 879
固定利付負債(1)	-	68,130	-	1,817	預金－企業および政府; 劣後無担保社債	(1,142)

	2019年10月31日現在および同日に終了した年度					
	帳簿価額		帳簿価額に含まれる ヘッジ対象に対する 公正価値調整累計額		貸借対照表項目	ヘッジ非有効部分 の算出に使用され る公正価値の変動
	資産	負債	資産	負債		
(百万カナダドル)						
金利リスク						
固定利付資産(1)	\$ 29,985	\$ -	\$ 569	\$ -	有価証券－投資(関連する引当金を除く); 貸出金－リテール	\$ 1,028
固定利付負債(1)	-	74,099	-	693	預金－企業および政府; 劣後無担保社債	(2,045)

(1) 2020年10月31日現在、ヘッジ損益の調整を中止したヘッジ対象に関して貸借対照表に引き続き計上されている公正価値ヘッジ調整累計額は、固定利付資産については32百万ドルの利得、固定利付負債については94百万ドルの損失(2019年10月31日－それぞれ53百万ドルおよび170百万ドルの損失)である。

キャッシュ・フロー・ヘッジおよび純投資ヘッジーヘッジ対象に指定された資産および負債

		2020年10月31日現在および同日に終了した年度		
(百万カナダドル)	貸借対照表項目	ヘッジ非有効部分 の算出に使用され る公正価値の変動	キャッシュ・フロー・ ヘッジ/為替換算剰余金	
継続ヘッジ 非継続ヘッジ				
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
金利リスク				
変動利付資産	有価証券－投資(関連する引当金を 除く);	\$ (484)	\$ 294	\$ 285
変動利付負債	貸出金－リテール 預金－企業および政府; 預金－個人	1,839	(1,540)	(523)
為替リスク				
固定利付資産	有価証券－投資(関連する引当金を 除く);	2	6	-
固定利付負債	貸出金－リテール 預金－企業および政府	(164)	-	-
純投資ヘッジ				
為替リスク				
在外子会社	n.a.	535	(6,363)	(421)

		2019年10月31日現在および同日に終了した年度		
(百万カナダドル)	貸借対照表項目	ヘッジ非有効部分 の算出に使用され る公正価値の変動	キャッシュ・フロー・ ヘッジ/為替換算剰余金	
			継続ヘッジ	非継続ヘッジ
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
金利リスク				
変動利付資産	有価証券—投資(関連する引当金を 除く);	\$ (608)	\$ 163	\$ 84
変動利付負債	貸出金—リテール 預金—企業および政府; 預金—個人	1,274	(372)	70
為替リスク				
固定利付資産	有価証券—投資(関連する引当金を 除く);	(5)	(1)	-
固定利付負債	貸出金—リテール 預金—企業および政府	125	9	-
純投資ヘッジ				
為替リスク				
在外子会社	n.a.	(7)	(5,407)	(871)

n.a.該当なし。

指定したヘッジ関係の有効性

2020年10月31日終了年度				
(百万カナダドル)	ヘッジ手段の 公正価値の 変動	純損益に認識さ れるヘッジの 非有効部分(1)	OCIに認識され るヘッジ手段の 価値の変動	ヘッジ剰余金 から純損益に組 替えられた金額
公正価値ヘッジ				
金利リスク				
金利契約－固定利付資産	\$ (931)	\$ (52)	\$ -	\$ -
金利契約－固定利付負債	1,157	15	-	-
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
金利リスク				
金利契約－変動利付資産	501	16	532	200
金利契約－変動利付負債	(1,803)	1	(2,127)	(367)
為替リスク				
クロス・カレンシー・スワップ－固定利付資産	(2)	-	3	(5)
クロス・カレンシー・スワップ－固定利付負債	164	-	113	122
純投資ヘッジ				
為替リスク				
外貨建負債	(405)	5	(410)	-
為替予約	(124)	1	(125)	(28)

2019年10月31日終了年度				
(百万カナダドル)	ヘッジ手段の 公正価値の 変動	純損益に認識さ れるヘッジの 非有効部分(1)	OCIに認識され るヘッジ手段の 価値の変動	ヘッジ剰余金 から純損益に組 替えられた金額
公正価値ヘッジ				
金利リスク				
金利契約－固定利付資産	\$ (1,060)	\$ (32)	\$ -	\$ -
金利契約－固定利付負債	2,032	(13)	-	-
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
金利リスク				
金利契約－変動利付資産	605	8	582	(25)
金利契約－変動利付負債	(1,261)	(5)	(1,265)	220
為替リスク				
クロス・カレンシー・スワップ－固定利付資産	5	-	8	5
クロス・カレンシー・スワップ－固定利付負債	(125)	-	(193)	(106)
純投資ヘッジ				
為替リスク				
外貨建負債	(50)	-	(50)	-
為替予約	57	-	57	(2)

(1) 純損益に認識されるヘッジの非有効部分には、ヘッジの有効性評価から除外されている損失94百万ドル(2019年10月31日－70百万ドル)が含まれており、経済的ヘッジによって相殺されている。

資本項目の調整

以下の表は、資本の各項目のリスクカテゴリーごとの調整およびヘッジ会計に関連するその他の包括利益の分析を提供している。

(百万カナダドル)	2020年10月31日終了年度		2019年10月31日終了年度	
	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ剰余金	為替換算剰余金	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ剰余金	為替換算剰余金
期首残高	\$ (6)	\$ 4,221	\$ 688	\$ 4,147
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
公正価値変動の有効部分：				
金利リスク	(1,595)		(683)	
為替リスク	115		(185)	
株価リスク	(77)		108	
純損益に振り替えられる純額：				
継続中のヘッジ：				
金利リスク	277		24	
為替リスク	(119)		104	
株価リスク	53		(93)	
指定解除されたヘッジ：				
金利リスク	(110)		(219)	
為替リスク	-		-	
在外営業活動体に対する純投資のヘッジに係る利得純額				
外貨建債務		(410)		(50)
為替予約		(125)		57
在外営業活動体に係る為替換算差額		813		66
為替換算差損(差益)の純損益への振替		(21)		2
純投資ヘッジ活動に係る損失(利得)の純損益への振替		28		2
当期の剰余金の変動に係る税金	383	126	250	(3)
期末残高	\$ (1,079)	\$ 4,632	\$ (6)	\$ 4,221

注記9 有形固定資産

	2020年10月31日終了年度								
	当行所有(1)、(2)					リースの使用権資産			
	土地	建物	コンピューター機器	備品、設備およびその他の付帯設備	リース物件改良費	建設仮勘定	建物	設備	合計
(百万カナダドル)									
取得原価									
期首残高	\$ 153	\$ 1,395	\$ 2,062	\$ 1,557	\$ 3,001	\$ 432	\$ 4,956	\$ 363	\$13,919
増加	-	26	82	42	14	623	281	115	1,183
建設仮勘定からの振替	-	9	279	93	449	(830)	-	-	-
処分	(1)	(4)	(157)	(42)	(124)	(2)	(58)	(57)	(445)
為替換算	1	4	7	4	10	(2)	38	1	63
その他	(1)	(14)	(51)	30	33	(18)	(46)	(1)	(68)
期末残高	\$ 152	\$ 1,416	\$ 2,222	\$ 1,684	\$ 3,383	\$ 203	\$ 5,171	\$ 421	\$14,652
減価償却累計額									
期首残高	\$ -	\$ 703	\$ 1,553	\$ 1,137	\$ 2,074	\$ -	\$ -	\$ 205	\$ 5,672
減価償却費	-	47	267	109	224	-	600	86	1,333
処分	-	(3)	(155)	(39)	(112)	-	(12)	(16)	(337)
為替換算	-	1	4	3	3	-	(2)	-	9
その他	-	6	(17)	55	(1)	-	(2)	-	41
期末残高	\$ -	\$ 754	\$ 1,652	\$ 1,265	\$ 2,188	\$ -	\$ 584	\$ 275	\$ 6,718
期末正味帳簿価額	\$ 152	\$ 662	\$ 570	\$ 419	\$ 1,195	\$ 203	\$ 4,587	\$ 146	\$ 7,934

	2019年10月31日終了年度							
	土地	建物	コンピューター機器	備品、設備およびその他の付帯設備	リース物件改良費	建設仮勘定	合計	
(百万カナダドル)								
取得原価								
期首残高	\$ 153	\$ 1,399	\$ 2,123	\$ 1,373	\$ 2,726	\$ 264	\$ 8,038	
増加(1)	-	-	195	129	81	591	996	
建設仮勘定からの振替	-	4	84	82	262	(432)	-	
処分	-	(10)	(68)	(29)	(65)	-	(172)	
為替換算	-	-	3	(1)	2	-	4	
その他	-	2	(12)	3	(5)	9	(3)	
期末残高	\$ 153	\$ 1,395	\$ 2,325	\$ 1,557	\$ 3,001	\$ 432	\$ 8,863	
減価償却累計額								
期首残高	\$ -	\$ 669	\$ 1,556	\$ 1,051	\$ 1,930	\$ -	\$ 5,206	
減価償却費	-	45	273	113	196	-	627	
処分	-	(8)	(61)	(26)	(56)	-	(151)	
為替換算	-	-	1	-	1	-	2	
その他	-	(3)	(11)	(1)	3	-	(12)	
期末残高	\$ -	\$ 703	\$ 1,758	\$ 1,137	\$ 2,074	\$ -	\$ 5,672	
期末正味帳簿価額	\$ 153	\$ 692	\$ 567	\$ 420	\$ 927	\$ 432	\$ 3,191	

(1) 2020年10月31日現在、当行は有形固定資産を取得する契約上のコミットメントを合計94百万ドル(2019年10月31日－338百万ドル)保有していた。

(2) これらの金額は、IFRS第16号の適用時に行われた特定の移行調整を反映している。詳細については注記2を参照のこと。

リース料(IFRS第16号)

2020年10月31日終了年度のリース料合計は1,338百万ドルで、そのうち654百万ドル(49%)は変動リース料、684百万ドル(51%)は固定リース料に関連している。

2020年10月31日終了年度において、リース負債の測定に含まれていない変動リース料合計は635百万ドルであった。

リース・コミットメント(IAS第17号)

オペレーティング・リース・コミットメント

IAS第17号における解約不能オペレーティング・リースによる将来の最低リース料総額は、以下の通りであった。

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在	
	土地および建物	機器
将来の最低リース料総額		
1年以内	\$ 721	\$ 88
1年超5年以内	2,251	101
5年超	3,039	-
	6,011	189
差引：将来の最低サブリース料受取額	(25)	-
将来の最低リース料の純額	\$ 5,986	\$ 189

注記10 のれんおよびその他の無形資産

のれん

	2020年10月31日終了年度									
	カナディ アン・バ ンキング	カリビ アン・バ ンキング	カナディ アン・ウ ェルス・ マネジメ ント	グロー バル・ア セット・マ ネジメン ト	USウェ ルス・マ ネジメン ト(シ ティ・ナ ショナル を含む。)	インター ナショナル ・ウェ ルス・マ ネジメン ト	インシュ アランス	インベ スター&ト レジャー ・サービ ス	キャピ タル・マ ーケツ	合計
(百万カナダドル)										
期首残高	\$ 2,555	\$ 1,727	\$ 579	\$ 1,985	\$ 2,943	\$ 120	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$11,236
取得	2	-	6	-	1	-	-	-	-	9
処分	-	(16)	-	-	-	-	-	-	-	(16)
為替換算	-	8	2	16	34	1	-	1	11	73
期末残高	\$ 2,557	\$ 1,719	\$ 587	\$ 2,001	\$ 2,978	\$ 121	\$ 112	\$ 149	\$ 1,078	\$11,302

	2019年10月31日終了年度									
	カナディ アン・バ ンキング	カリビ アン・バ ンキング	カナディ アン・ウ ェルス・ マネジメ ント	グロー バル・ア セット・マ ネジメン ト	USウェ ルス・マ ネジメン ト(シ ティ・ナ ショナル を含む。)	インター ナショナル ・ウェ ルス・マ ネジメン ト	インシュ アランス	インベ スター&ト レジャー ・サービ ス	キャピ タル・マ ーケツ	合計
(百万カナダドル)										
期首残高	\$ 2,528	\$ 1,729	\$ 579	\$ 1,986	\$ 2,870	\$ 118	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$11,137
取得	27	-	-	-	71	-	-	-	-	98
処分	-	-	-	(20)	-	-	-	-	-	(20)
為替換算	-	(2)	-	19	2	2	-	-	-	21
期末残高	\$ 2,555	\$ 1,727	\$ 579	\$ 1,985	\$ 2,943	\$ 120	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$11,236

当行は、各CGUの帳簿価額と回収可能価額を比較して、年次の減損テストを実施している。CGUの回収可能価額は、CGUの帳簿価額が使用価値を超過する場合を除き、使用価値で表される。CGUの帳簿価額が使用価値を超過する場合、CGUの処分コスト控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い方がその回収可能価額となる。当行の年次の減損テストは、8月1日時点で実施している。

環境は急速に変化しており、その結果、当行の経済見通しは通常よりも不確実性が高く、将来の期間において、当行のCGUの予想将来キャッシュ・フローを大幅に変動させ、減損費用が発生する可能性がある。実績は、景気後退の期間および深刻度、ならびに将来における最終的な回復時期および回復度合いに関するものも含めて、現在の予想とは大幅に異なる可能性がある。

2020年度および2019年度の当行の年次の減損テストにおいて、当行のカリビアン・バンキングおよびインターナショナル・ウェルス・マネジメントCGUの回収可能価額は、その処分コスト控除後の公正価値に基づいていた。テストを実施したその他のすべてのCGUの回収可能価額は、その使用価値に基づいていた。

使用価値

当行は、期間5年の割引キャッシュ・フロー法を用いて使用価値を算定している。将来キャッシュ・フローは、経営陣承認済みの財務計画をベースに、業績予測、事業戦略、将来キャッシュ・フローの実現に必要な資金および株主還元を基に見積っている。将来キャッシュ・フローの重要な要素には、純預貸利ざやおよび平均利付資産がある。予測期間にわたりこれらの要素に配分する額は、過去の実績、内外の経済予測、および経済状況が当行の経営成績に及ぼす影響についての経営陣の予想に基づいている。最初のキャッシュ・フロー予測を超える期間のキャッシュ・フローは、長期の名目成長率(以下「永久成長率」という。)を使用して一定の割合で増加すると仮定している。ただし、USウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUについては、当事業に対する当行の成長予想に合わせた中期成長率を適用し、10年目以降に永久成長率に戻している。永久成長率は、CGUが業務を行っている国の国内総生産およびインフレに関する現在の市場の評価に基づいている。各CGUの予想将来キャッシュ・フローの現在価値の算定に使用した割引率は、各CGUがさらされているリスク調整後の当行全体の資本コストに基づいている。CGU固有のリスクとしては、カントリー・リスク、事業/オペレーショナル・リスク、地理的リスク(政治リスク、通貨切り下げリスクおよび政府による規制を含む。)、為替リスクおよび価格リスク(商品の価格設定リスクおよびインフレを含む。)がある。

COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、金利変動を含む経済的不確実性の影響を比較的受けやすいキャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)等の特定のCGUの回収可能価額が減少したが、COVID-19のパンデミックの影響にもかかわらず、引き続き帳簿価額を上回っている。

使用価値の見積りは、割引キャッシュ・フロー・モデルのインプットの決定において重要な判断を伴うとともに、将来キャッシュ・フロー、割引率および予測期間を超える期間のキャッシュ・フローに適用される永久成長率の変動に最も影響を受ける。主要なインプットおよび仮定に対する使用価値の感応度のテストは、合理的に考え得るこれらのパラメータの変動を用いて回収可能価額を再計算することによって実施している。税引後の割引率は1%上昇させ、永久成長率は1%低下させ、将来キャッシュ・フローは10%減少させた。2020年8月1日現在、上記の通り個々の主要なインプットまたは仮定について合理的に考え得る変更を行っても、CGUの帳簿価額が使用価値に基づく回収可能価額を超過することはなかった。

当行の割引キャッシュ・フロー・モデルに用いた永久成長率および税引前の割引率は、以下に要約されている。

	以下の日現在			
	2020年8月1日		2019年8月1日	
	割引率(1)	永久成長率	割引率(1)	永久成長率
資金生成単位グループ				
カナディアン・バンキング	9.5%	3.0%	10.2%	3.0%
カリビアン・バンキング	11.4	3.7	11.9	4.2
カナディアン・ウェルス・マネジメント	10.4	3.0	11.2	3.0
グローバル・アセット・マネジメント	10.5	3.0	11.1	3.0
USウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)	10.7	3.0	11.2	3.0
インターナショナル・ウェルス・マネジメント(2)	n.m.	n.m.	n.m.	n.m.
インシュアランス	10.2	3.0	11.0	3.0
インベスター&トレジャリー・サービス	10.2	3.0	10.9	3.0
キャピタル・マーケット	12.0	3.0	11.8	3.0

(1) 税引前の割引率は、税引後の割引率に基づいて黙示的に決定される。

(2) 当行のインターナショナル・ウェルス・マネジメントCGUの回収可能価額は、マルチプル法に基づく手法を用いて算定される。

n.m. 有意な数値ではない。

処分コスト控除後の公正価値ーカリビアン・バンキング

当行のカリビアン・バンキングCGUに関して、当行は、5年間の将来キャッシュ・フローを予測する割引キャッシュ・フロー法を用いて、処分コスト控除後の公正価値を算定した。当行はまた、重要性のない黒字から重要性のない赤字までを評価範囲に含む合理的に考え得る代替シナリオ(比較可能な市場取引を含む。)を検討した。キャッシュ・フローは、経営陣の事業計画を基に、第三者に売却した場合の対価と整合させるための調整を加えている。最初の5年間を超えた期間のキャッシュ・フローは、名目長期成長率を使用して一定の割合で増加すると仮定している。将来キャッシュ・フロー、永久成長率および割引率は、上記と同一の係数に基づいている。この公正価値測定は、重要なインプットの一部が観察可能でないため、公正価値ヒエラルキーのレベル3に区分される。当行は、将来キャッシュ・フロー、割引率および予測期間を超える期間のキャッシュ・フローに適用される永久成長率の変動に最も影響を受ける割引キャッシュ・フロー・モデルのインプットを決定するために重要な判断を用いる。これらの主要なインプットおよび仮定に対する処分コスト控除後の公正価値の感応度のテストは、合理的に考え得るこれらのパラメータの変動を用いて回収可能価額を再計算することによって実施している。

COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、当行のカリビアン・バンキングCGUの回収可能価額は減少した。2020年8月1日現在、当行のカリビアン・バンキングCGUの処分コスト控除後の公正価値に基づく回収可能価額はその帳簿価額に近似している(2019年8月1日―処分コスト後の公正価値は帳簿価額の126%であった)。回収可能価額の算定に当たり、予測将来キャッシュ・フローは金利環境の悪化を反映した税引前レート11.4%(2019年8月1日―11.9%)で割り引かれ、使用した永久成長率はパンデミックに起因する不確実性を反映して3.7%(2019年8月1日―4.2%)であった。割引率が50ベシス・ポイント変動すると、回収可能価額が335百万ドル増加および288百万ドル減少することになる。永久成長率が50ベシス・ポイント変動すると、回収可能額が266百万ドル増加および228百万ドル減少することになる。予測キャッシュ・フローが年率10%減少すると、回収可能価額が392百万ドル減少することになる。これらの仮定の変動は、他の個別の要因を一定として適用されている。ただし、回収可能価額への影響は相互依存性が高いため、ある要因の変動が関連する他の仮定の変動によって拡大されたり相殺されたりする可能性があり、仮定の変動がCGUの回収可能価額に直線的な影響を及ぼさない可能性がある。全体として、合理的に考え得る結果の範囲は、CGUの回収可能価額に重要な影響を与えるものではない。

処分コスト控除後の公正価値―インターナショナル・ウェルス・マネジメント

当行のインターナショナル・ウェルス・マネジメントCGUに関して、当行は、マルチプル法に基づく手法を用いて、処分コスト控除後の公正価値の算定を行った。CGU内の各事業は、第三者に売却した場合の対価を反映するよう、価格管理資産(以下「P/AUA」という。)倍数または価格収益(以下「P/Rev」という。)倍数のいずれかを適宜用いて、評価を行った。2020年度において、当行は、8月1日現在の管理資産に2.25%のP/AUA倍数(2019年8月1日は2.25%)を適用し、当該テスト実施日前12ヶ月間の収益に2.5倍のP/Rev倍数(2019年8月1日は2.5倍)を適用した。これらの倍数は、比較可能な事業の過去の取引を基に合理的に考え得る範囲のインプットから推定した当行の最善の見積りを表している。この公正価値測定は、重要なインプットの一部が観察可能でないため、公正価値ヒエラルキーのレベル3に区分される。

処分コスト控除後の公正価値の見積りは、適切な評価アプローチおよびインプットの決定にあたり重要な判断を伴うとともに、P/AUA倍数およびP/Rev倍数の変化に最も影響を受ける。主要なインプットに対する処分コスト控除後の感応度のテストは、それぞれの倍数を、合理的に考え得るインプットの範囲の最低値まで減少させることによって実施された。2020年8月1日現在、上記の通り個々の主要なインプットまたは仮定について合理的に考え得る変更を行っても、CGUの帳簿価額が処分コスト控除後の公正価値に基づく回収可能価額を超過することはなかった。

その他の無形資産

(百万カナダドル)	2020年10月31日終了年度					
	自己創設ソフトウェア	その他のソフトウェア	コア預金無形資産	顧客リストおよび顧客関係	開発中のソフトウェア	合計
帳簿価額総額						
期首残高	\$ 6,941	\$ 1,684	\$ 1,567	\$ 1,773	\$ 1,240	\$ 13,205
増加	54	47	-	143	1,157	1,401
企業結合による取得	-	6	-	10	-	16
振替	936	193	-	-	(1,129)	-
処分	(149)	(13)	-	-	(4)	(166)
減損損失	(116)	(4)	-	-	(10)	(130)
為替換算	20	7	19	13	8	67
その他の変動	(10)	(19)	-	(23)	(21)	(73)
期末残高	\$ 7,676	\$ 1,901	\$ 1,586	\$ 1,916	\$ 1,241	\$ 14,320
償却累計額						
期首残高	\$ (5,256)	\$ (1,357)	\$ (627)	\$ (1,291)	\$ -	\$ (8,531)
当年度の償却費	(855)	(144)	(160)	(114)	-	(1,273)
処分	147	12	-	-	-	159
減損損失	88	-	-	-	-	88
為替換算	(14)	(6)	(6)	(9)	-	(35)
その他の変動	6	(5)	-	23	-	24
期末残高	\$ (5,884)	\$ (1,500)	\$ (793)	\$ (1,391)	\$ -	\$ (9,568)
期末正味残高	\$ 1,792	\$ 401	\$ 793	\$ 525	\$ 1,241	\$ 4,752

(百万カナダドル)	2019年10月31日終了年度					
	自己創設ソフトウェア	その他のソフトウェア	コア預金無形資産	顧客リストおよび顧客関係	開発中のソフトウェア	合計
帳簿価額総額						
期首残高	\$ 5,984	\$ 1,582	\$ 1,750	\$ 1,768	\$ 1,146	\$ 12,230
増加	42	49	-	-	1,184	1,275
企業結合による取得	-	16	-	6	-	22
振替	1,009	42	-	-	(1,051)	-
処分	-	(1)	-	-	-	(1)
減損損失	(94)	(6)	-	-	(42)	(142)
為替換算	-	1	1	7	(2)	7
その他の変動	-	1	(184)	(8)	5	(186)
期末残高	\$ 6,941	\$ 1,684	\$ 1,567	\$ 1,773	\$ 1,240	\$ 13,205
償却累計額						
期首残高	\$ (4,501)	\$ (1,226)	\$ (654)	\$ (1,162)	\$ -	\$ (7,543)
当年度の償却費	(793)	(121)	(159)	(124)	-	(1,197)
処分	-	-	-	-	-	-
減損損失	30	2	-	-	-	32
為替換算	(1)	(1)	1	(6)	-	(7)
その他の変動	9	(11)	185	1	-	184
期末残高	\$ (5,256)	\$ (1,357)	\$ (627)	\$ (1,291)	\$ -	\$ (8,531)
期末正味残高	\$ 1,685	\$ 327	\$ 940	\$ 482	\$ 1,240	\$ 4,674

注記11 重要な処分

ウェルス・マネジメント

2019年10月30日、当行は、英国において当行のプライベート・デット投資を展開していたグローバル・アセット・マネジメント事業について、ダイヤル・キャピタル・パートナーズへの売却を完了した。この取引の結果、当行は、売却益142百万ドル(税引前、税引後134百万ドル)を「利息以外の収益－その他」に計上した。処分グループに含まれていた資産、負債および資本に重要性はない。

注記12 共同支配企業および関連会社

以下の表は、持分法により会計処理している共同支配企業および関連会社に対する当行の持分の帳簿価額、ならびに当該企業からの持分法利益の要約である。

(百万カナダドル)	共同支配企業		関連会社	
	以下の日現在および同日に終了した年度			
	2020年 10月31日	2019年 10月31日	2020年 10月31日	2019年 10月31日
帳簿価額	\$ 193	\$ 178	\$ 459	\$ 474
以下に対する当行の持分：				
純利益	\$ 87	\$ 107	\$ (10)	\$ (31)

当行は、当行の経営成績に対して個別に重要性のある共同支配企業および関連会社を保有していない。

2020年10月31日終了年度において、当行は共同支配企業および関連会社に対する持分について減損損失4百万ドル(2019年10月31日ー減損損失2百万ドル)を認識した。

当行の子会社、共同支配企業および関連会社の一部は、それらが事業を行っている管轄区域における規制当局の規制対象となっている。これらの子会社、共同支配企業および関連会社が当該規制対象となっている場合には、それらの資産に対する当行の持分を、現金配当、貸出金または前払金の形で当行に移転することを制限される可能性がある。2020年10月31日現在、これらの子会社、共同支配企業および関連会社の拘束純資産は、377億ドル(2019年10月31日ー349億ドル)であった。

注記13 その他の資産

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
受取債権および前払金	\$ 4,600	\$ 4,569
未収利息	2,362	2,866
現金担保	18,119	15,629
コモディティに関連する債権	4,104	4,232
繰延税金資産	2,579	1,989
従業員給付資産	143	147
保険関連資産		
証券担保貸付	801	926
契約者貸付	97	95
再保険資産	949	748
その他	93	78
共同支配企業および関連会社に対する投資	652	652
差入証拠金	9,816	5,688
貴金属	2,371	416
ブローカー、ディーラーおよび顧客からの未収入金	2,077	2,511
未収還付税金	5,487	5,553
その他	4,671	2,974
	\$ 58,921	\$ 49,073

注記14 預金

(百万カナダドル)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	要求払い (1)	通知(2)	定期(3)	合計	要求払い (1)	通知(2)	定期(3)	合計
個人	\$ 182,745	\$ 61,761	\$ 98,546	\$ 343,052	\$ 143,958	\$ 49,806	\$ 100,968	\$ 294,732
企業および政府	315,472	16,585	292,254	624,311	253,113	13,867	298,502	565,482
銀行	12,502	956	31,064	44,522	8,363	920	16,508	25,791
	\$ 510,719	\$ 79,302	\$ 421,864	\$1,011,885	\$ 405,434	\$ 64,593	\$ 415,978	\$ 886,005
無利息(4)								
カナダ	\$ 123,402	\$ 7,390	\$ 368	\$ 131,160	\$ 93,163	\$ 5,692	\$ 137	\$ 98,992
米国	43,831	-	-	43,831	34,632	-	-	34,632
ヨーロッパ(5)	654	-	-	654	760	-	-	760
その他の国外	7,372	-	-	7,372	5,225	5	-	5,230
有利息(4)								
カナダ	287,046	19,036	310,492	616,574	228,386	15,306	333,118	576,810
米国	7,190	52,046	57,037	116,273	4,704	39,626	41,776	86,106
ヨーロッパ(5)	33,810	830	37,250	71,890	33,073	825	30,090	63,988
その他の国外	7,414	-	16,717	24,131	5,491	3,139	10,857	19,487
	\$ 510,719	\$ 79,302	\$ 421,864	\$1,011,885	\$ 405,434	\$ 64,593	\$ 415,978	\$ 886,005

- (1) 要求払い預金は、引出通知を求める権利が当行にない預金であり、貯蓄預金と当座預金の両方が含まれている。
- (2) 通知預金は、当行が法的に引出通知を要求できる預金である。これらの預金は、主に貯蓄預金である。
- (3) 定期預金は、確定期日に支払われる預金であり、定期預金、保証付投資証書および類似商品が含まれている。
- (4) 預金の地域別の区分は、預け入れ場所および収益の認識場所に基づいている。2020年10月31日現在の米ドル建て、英ポンド建て、ユーロ建ておよびその他の外貨建預金は、それぞれ3,470億ドル、320億ドル、470億ドルおよび330億ドル(2019年10月31日ーそれぞれ3,210億ドル、230億ドル、450億ドルおよび310億ドル)である。
- (5) ヨーロッパには、英国、ルクセンブルグ、チャンネル諸島、フランスおよびイタリアが含まれている。

定期預金の契約上の満期

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
1年以内：		
3ヶ月未満	\$ 121,144	\$ 94,585
3ヶ月から6ヶ月	62,892	62,814
6ヶ月から12ヶ月	78,676	92,507
1年から2年	32,950	50,055
2年から3年	42,201	31,852
3年から4年	26,749	31,373
4年から5年	24,651	21,130
5年超	32,601	31,662
	\$ 421,864	\$ 415,978
1口当たり100,000ドル以上の定期預金の総額	\$ 388,000	\$ 379,000

平均預金残高および平均金利

(パーセンテージを除き、 百万カナダドル)	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	平均残高	平均金利	平均残高	平均金利
カナダ	\$ 725,021	1.02%	\$ 650,555	1.60%
米国	144,011	0.46	129,903	1.17
ヨーロッパ	73,317	0.76	63,333	1.15
その他の国外	28,283	0.68	26,290	1.20
	\$ 970,632	0.90%	\$ 870,081	1.49%

[前へ](#)[次へ](#)

注記15 保険**リスク管理**

保険リスクは、引受時の当行の見込みに対して、保険事故の発生時期、頻度または程度が変動するリスクである。地理的多様性および事業構成のため、当行の集中リスクの度合いは高くはない。生命保険および医療保険事業の場合、地域固有の特性に重要性はないため、集中リスクは主要な懸念事項にはならない。また、当行のリスク特性を改善し保険金請求一件当たりの負債額を限定するために、当行の保険事業の大半で再保険を利用している。当行は、引受に係るガイドラインを用いて、引受リスクおよび価格決定リスクを管理している。当該ガイドラインでは、引受可能な事業分野、内容および種類、商品ラインごとの価格決定方針、ならびに契約文言の一括管理に関する詳細を定めている。保険金請求の不適切な処理または支払いに係るリスクについては、一連の情報技術(IT)システム統制および経験豊富な従業員によるマニュアル・プロセスにより軽減している。これらと詳細な各種方針および手続と併せて、すべての保険金請求が適時、適切かつ正確な方法で処理されることを確保している。

再保険

通常の事業の過程において、当行の保険事業では、当行のリスク特性の改善、重大なリスクに対する損失エクスポージャーの制限および将来の成長に向けた余力拡大のために、リスクを他の保険会社および再保険会社に再保険している。これらの出再保険契約は、当行の保険子会社の保険契約者に対する当行の直接の債務を免除するものではない。当行は、再保険業者の財政状態について評価し、当行の信用リスクの集中をモニターして、再保険業者の支払不能による損失エクスポージャーを最小化している。以下の表では、「利息以外の収益」に含まれる再保険の金額(出再保険料)について記載している。

保険料および保険金純額

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
保険料総額	\$ 4,515	\$ 4,209
再保険者への出再保険料	(249)	(225)
保険料純額	\$ 4,266	\$ 3,984
保険金および給付金総額(1)	\$ 3,700	\$ 3,990
保険金および給付金に対する再保険業者の分担額	(316)	(241)
保険金純額	\$ 3,384	\$ 3,749

(1) 当行の保険契約負債を担保する投資の公正価値の変動が含まれ、大部分は収益において相殺される。

未払保険金および保険給付負債

すべての数理計算上の仮定は、カナダ・アクチュアリー会の実務基準およびOSFIの規定を併用して設定されている。保険負債の測定に最も大きな影響を与える仮定、それらの決定に用いられるプロセス、および2020年10月31日現在で使用された仮定は、以下の通りである。

死亡率および罹病率—死亡率の見積りは、標準簡易生命保険被保険者死亡表に基づき、当行の実績を反映して適宜修正される。罹病率の仮定は、医療保険契約の請求発生率および解約率に関して設定され、業界の実績と当行の実績の組合せに基づいている。

将来の投資利回り—仮定は、事業ラインごとの現在の利回り、再投資の仮定、および将来の信用損失に対する引当を基に、金利シナリオ・テスト(保険数理基準が定める最小負債額の算定のための所定のシナリオを含む。)により策定されている。

保険契約者の行動—特定の保険契約の保険契約者は、給付金および保険料を変更し、さらに終身保険に変更する契約上の権利を有している。すべての保険契約者は、失効による解約権を有している。失効とは保険料の不払いによる契約解除である。失効に関する仮定は、主に当行の最近の実績を基に、最近の業界の実績が適宜加味されている。

重要な保険における仮定

	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
生命保険		
カナディアン・インシュアランス		
死亡率(1)	0.11%	0.12%
罹病率(2)	1.81	1.82
将来の再投資利回り(3)	3.82	3.69
失効率(4)	0.50	0.50
インターナショナル・インシュアランス		
死亡率(1)	0.66	0.57
将来の再投資利回り(3)	3.05	3.06

- (1) 保険契約の最大ポートフォリオの平均年間死亡率
(2) 個人および団体疾病保険のポートフォリオの平均純解約率
(3) 保険事業の最終再投資利回り
(4) 相対的に高い解約率により収益性を維持する終身生命保険(解約返戻金抑制型契約)の最大ポートフォリオの最終契約解除率(失効率)

未払保険金および保険給付負債

以下の表は、期末現在の保険負債に係る当行の負債総額および再保険業者の負担額を要約している。

(百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	総額	出再	純額	総額	出再	純額
生命保険契約負債						
生命保険、医療保険および年金	\$12,089	\$ 752	\$11,337	\$11,339	\$ 601	\$10,738
投資契約(1)	34	-	34	38	-	38
	\$12,123	\$ 752	\$11,371	\$11,377	\$ 601	\$10,776
生命保険以外の保険契約負債						
未経過保険料準備金(1)	\$ 7	\$ -	\$ 7	\$ 29	\$ -	\$ 29
保険金支払準備金	126	31	95	62	2	60
	\$ 133	\$ 31	\$ 102	\$ 91	\$ 2	\$ 89
	\$12,256	\$ 783	\$11,473	\$11,468	\$ 603	\$10,865

(1) 投資契約および未経過保険料準備金の保険負債は、連結貸借対照表の「その他の負債」に計上されている。

生命保険契約負債の調整表

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	総額	出再	純額	総額	出再	純額
期首残高	\$11,377	\$ 601	\$10,776	\$10,024	\$ 493	\$ 9,531
新規契約および有効な契約(1)	735	141	594	1,479	103	1,376
仮定および方法の変更	15	10	5	(122)	5	(127)
投資契約の純増減	(4)	-	(4)	(4)	-	(4)
期末残高	\$12,123	\$ 752	\$11,371	\$11,377	\$ 601	\$10,776

(1) 当行の保険契約負債を担保する投資の公正価値の変動を含んでいる。

未払生命保険金および保険給付負債の前期比での純増は、事業の成長、ならびに生命保険負債および医療保険負債を担保する資産市場の変動によるものであり、資産と負債のマッチング活動によって一部相殺された。当年度において、当行は保険給付負債の算定に使用する主要な保険数理計算の方法および仮定をすべて見直した結果、保険負債は5百万ドル純増した。この内訳は、(i)金利リスクに係る保険数理計算上の引当金の修正による74百万ドルの減少、(ii)再保険契約の再交渉による75百万ドルの減少、(iii)主として死亡率、罹病率および費用に関する仮定に起因する保険リスク関連の仮定の見直しによる137百万ドルの増加ならびに、(iv)評価システムおよびデータの変更による17百万ドルの増加、である。

感応度分析

以下の表は、本注記に開示している保険契約負債の計算に使用した、保険数理計算上の仮定の合理的に考え得る変動に対する当該負債の感応度を表している。各変数の変動率を現在用いている保険数理計算モデルの一連の仮定に適用することで、純損益に与え得る影響額を算定している。本分析は、ある仮定を変更するがその他の仮定は一定として実施しており、このような状況が実際に起こる可能性は低い。

(パーセンテージを除き、百万カナダドル)	変数の変動	以下の日に終了した年度の 当期純利益への影響	
		2020年10月31日	2019年10月31日
市場金利の上昇(1)	1%	\$ 5	\$ (7)
市場金利の低下(1)	1	(11)	4
株式の市場価値の増加(2)	10	8	1
株式の市場価値の減少(2)	10	(22)	(3)
維持費の増加(3)	5	(37)	(33)
生命保険(3)			
年金受給者の死亡率のマイナスの変動	2	(278)	(205)
保険契約者の死亡率のマイナスの変動	2	(70)	(60)
罹病率のマイナスの変動	5	(219)	(205)
失効率のマイナスの変動	10	(252)	(247)

- (1) 市場金利に対する感応度は、最終再投資利回りの仮定は一定として現在の再投資利回りを引き上げることによるイールドカーブの100ベース・ポイントのシフトが当期予想利益に及ぼす影響を含む。当該感応度は、保険数理上の債務の想定される再投資利回りに対する影響と、イールドカーブのシフトによる資産および負債の公正価値の変動との両方から構成されている。
- (2) 株式の市場価値の変動に対する感応度は、保有株式資産の公正価値の変動の差異が当期予想利益に及ぼす影響、および保険数理上の債務に対する部分的な相殺の影響から構成されている。
- (3) 維持費および生命保険の保険数理上の仮定の変更に対する感応度は、すべての有効な契約の存続期間における所定の仮定の不利な変更により増加した負債を認識することで、当期予想利益に及ぼされる影響を含んでいる。

注記16 個別分離運用型基金

当行は、保険契約者による個別分離運用型基金への投資を可能とする、一定の個別変額保険契約を提供している。これらの基金の投資収益は、保険契約者に直接引き渡される。投資額は、満期保証および死亡給付保証を提供するオプションを保険契約者が選択した場合を除き、保険契約者のリスク負担となる。保証に係る負債は、「未払保険金および保険給付負債」に計上される。

個別分離運用型基金の純資産は公正価値で計上される。当行のすべての個別分離運用型基金の純資産は公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される。個別分離運用型基金負債の公正価値は、個別分離運用型基金の純資産の公正価値に等しい。個別分離運用型基金の純資産および個別分離運用型基金負債は、連結貸借対照表上、別建てで表示される。以下の表は、当年度の純資産の内訳および純資産の変動を表している。

個別分離運用型基金の純資産

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
現金	\$ 35	\$ 31
ミューチュアル・ファンドへの投資	1,886	1,631
その他の資産(負債)、純額	1	1
	\$ 1,922	\$ 1,663

純資産の変動

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
純資産、期首残高	\$ 1,663	\$ 1,368
増加(減少)：		
保険契約者からの預り金	724	557
実現および未実現利得(損失)純額	12	124
利息および配当	49	39
保険契約者への支払	(479)	(386)
運用管理費	(47)	(39)
純資産、期末残高	\$ 1,922	\$ 1,663

注記17 従業員給付－年金およびその他の退職後給付

制度の特徴

当行は、受給資格のある従業員に年金および退職後給付を支給する多数の制度を運営している。当該年金制度の受給者の大半はカナダに居住しており、その他の受給者は主に英国およびカリブ海地域に居住している。投資判断、制度の給付および拠出の決定等の当該年金に係る取決めは、当行から法的に分離された現地の年金委員会もしくは受託者、または経営陣が行っている。重要な制度変更には、取締役会の承認を必要としている。

当行の確定給付年金制度は、勤続年数、拠出額および退職時の平均所得を基に給付を行っている。当行の主たる確定給付年金制度では新規加入を見合わせており、新規従業員は、通常、確定拠出年金制度への加入資格を有している。確定拠出制度の個々の特徴は、制度の所在地によって異なる。また、当行は、特定の役員および上級経営陣向けの、登録(適格)年金制度以外の補完的な年金制度(通常、非積立方式または一部積立方式による。)も提供している。

当行の確定拠出年金制度は、従業員および事業主の拠出累計額に基づき年金給付を行う制度である。事業主の拠出額は従業員の年間所得の一定割合を基準とし、事業主の拠出負担額は従業員の拠出額および勤続年数によって決まる場合がある。

当行の主たるその他の退職後給付制度では、医療保険、歯科保険、障害保険および生命保険による保障を行っており、主にカナダに居住する現職および退職従業員の多くが対象となっている。これらの制度は、法令で定める場合を除いて非積立方式である。

当行は、毎年10月31日現在で給付債務および年金資産の測定を行っている。すべての制度を予測単位積増方式により評価している。当行は、現行の年金規制に基づき従業員給付債務の支払所要額を数理計算により算定し、これに従い登録確定給付年金制度への積立を行っている。当行の主たる年金制度に係る直近の積立金の数理計算上の評価は2020年1月1日に完了しており、次の評価は2021年1月1日に完了する予定である。

2020年10月31日終了年度の当行の年金制度(確定給付制度および確定拠出制度)ならびにその他の退職後給付制度に対する拠出総額は、それぞれ1,024百万ドルおよび63百万ドル(2019年10月31日－551百万ドルおよび72百万ドル)であった。2021年度の当行の年金制度およびその他の退職後給付制度に対する拠出総額は、それぞれ455百万ドルおよび82百万ドルとなる見込みである。

リスク

確定給付年金制度およびその他の退職後給付制度は、その制度設計上、投資成果、給付債務の評価に用いる割引率の低下、制度加入者の寿命の伸び、今後の昇給に影響を及ぼす将来のインフレ水準、および将来の医療費の増大等の様々なリスクを当行に与えている。主たる確定給付年金制度への新規加入を見合わせ、確定拠出年金制度への移行を進めることで、これらのリスクは徐々に低下する見込みである。

以下の表は、役員退職に係る取決めを含む、世界規模での当行の重要な年金制度およびその他の退職後給付制度のすべてに関する財政状態を示している。

(百万カナダドル)	以下の日現在			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	確定給付 年金制度	その他の 退職後 給付制度	確定給付 年金制度	その他の 退職後 給付制度
カナダ				
制度資産の公正価値	\$ 15,044	\$ -	\$ 13,679	\$ 1
確定給付債務の現在価値	15,408	1,863	14,428	1,722
積立(不足)純額	\$ (364)	\$ (1,863)	\$ (749)	\$ (1,721)
国外				
制度資産の公正価値	\$ 980	\$ -	\$ 1,106	\$ -
確定給付債務の現在価値	943	90	1,089	98
積立(不足)純額	\$ 37	\$ (90)	\$ 17	\$ (98)
合計				
制度資産の公正価値	\$ 16,024	\$ -	\$ 14,785	\$ 1
確定給付債務の現在価値	16,351	1,953	15,517	1,820
積立(不足)純額合計	\$ (327)	\$ (1,953)	\$ (732)	\$ (1,819)
アセット・シーリングの影響	(1)	-	(1)	-
積立(不足)純額合計、アセット・シーリングの影響控除後	\$ (328)	\$ (1,953)	\$ (733)	\$ (1,819)
当行の連結貸借対照表における認識額				
従業員給付資産	\$ 143	\$ -	\$ 147	\$ -
従業員給付負債	(471)	(1,953)	(880)	(1,819)
積立(不足)純額合計、アセット・シーリングの影響控除後	\$ (328)	\$ (1,953)	\$ (733)	\$ (1,819)

以下の表は、役員退職に係る取決めを含む、世界規模での当行の重要な年金制度およびその他の退職後給付制度のすべてに関する財政状態の変動を分析したものである。

(百万カナダドル)	以下の日現在または同日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	確定給付 年金制度 (1)	その他の 退職後 給付制度	確定給付 年金制度 (1)	その他の 退職後 給付制度
制度資産の期首公正価値	\$ 14,785	\$ 1	\$ 13,564	\$ 1
利息収益	447	-	532	-
再測定				
制度資産に係る収益(利息収益を除く)	793	-	910	-
為替レートの変動	17	-	9	-
拠出－事業主	798	63	339	72
拠出－制度加入者	48	19	48	18
支払	(623)	(83)	(601)	(90)
支払－清算に関する支払	(223)	-	-	-
その他	(18)	-	(16)	-
制度資産の期末公正価値	\$ 16,024	\$ -	\$ 14,785	\$ 1
給付債務期首残高	\$ 15,517	\$ 1,820	\$ 13,218	\$ 1,622
当期勤務費用	367	46	297	39
過去勤務費用	-	(12)	1	-
清算損益	(5)	-	-	-
利息費用	462	59	510	65
再測定				
人口統計上の仮定による数理計算上の差損(益)	-	(5)	(4)	(7)
財務上の仮定による数理計算上の差損(益)	791	68	1,977	196
実績修正による数理計算上の差損(益)	2	38	59	(23)
為替レートの変動	15	3	12	-
拠出－制度加入者	48	19	48	18
支払	(623)	(83)	(601)	(90)
支払－清算に関する支払	(223)	-	-	-
給付債務期末残高	\$ 16,351	\$ 1,953	\$ 15,517	\$ 1,820
非積立方式の制度債務	\$ 30	\$ 1,792	\$ 29	\$ 1,671
全額または一部積立方式の制度債務	16,321	161	15,488	149
給付債務合計	\$ 16,351	\$ 1,953	\$ 15,517	\$ 1,820

(1) 積立不足の年金制度に係る給付債務および制度資産の公正価値は、2020年10月31日現在それぞれ15,054百万ドルおよび14,583百万ドル(2019年10月31日－それぞれ14,329百万ドルおよび13,449百万ドル)であった。

年金費用およびその他の退職後給付費用

以下の表は、世界規模での当行の重要な年金制度およびその他の退職後給付制度に関する、当行の年金費用およびその他の退職後給付費用の内訳である。

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度			
	年金制度		その他の退職後給付制度	
	2020年 10月31日	2019年 10月31日	2020年 10月31日	2019年 10月31日
当期勤務費用	\$ 367	\$ 297	\$ 46	\$ 39
過去勤務費用	-	1	(12)	-
清算損益	(5)	-	-	-
利息費用(収益)純額	15	(22)	59	65
その他の長期給付に関する再測定	-	-	13	13
管理費用	18	16	-	-
確定給付年金費用	\$ 395	\$ 292	\$ 106	\$ 117
確定拠出年金費用	226	212	-	-
	\$ 621	\$ 504	\$ 106	\$ 117

2020年10月31日終了年度の勤務費用は、カナダの年金制度で363百万ドル(2019年10月31日－293百万ドル)、および国外の年金制度で4百万ドル(2019年10月31日－5百万ドル)であった。2020年10月31日終了年度の利息費用(収益)純額は、カナダの年金制度で14百万ドル(2019年10月31日－(21)百万ドル)、および国外の年金制度で1百万ドル(2019年10月31日－(1)百万ドル)であった。

年金およびその他の退職後給付の再測定

以下の表は、世界規模での当行の重要な年金制度およびその他の退職後給付制度に関する、OCIに計上された再測定額の内訳である。

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度			
	確定給付年金制度		その他の退職後給付制度	
	2020年 10月31日	2019年 10月31日	2020年 10月31日	2019年 10月31日
数理計算上の差(益)損：				
人口統計上の仮定の変更	\$ -	\$ (4)	\$ (14)	\$ (11)
財務上の仮定の変更	791	1,977	62	186
実績修正	2	59	40	(22)
制度資産に係る収益 (割引率による利息を除く)	(793)	(910)	-	-
	\$ -	\$ 1,122	\$ 88	\$ 153

2020年10月31日終了年度にOCIに計上された再測定額は、カナダの年金制度で7百万ドルの利益(2019年10月31日－1,102百万ドルの損失)、および国外の年金制度で7百万ドルの損失(2019年10月31日－20百万ドルの損失)であった。

投資方針および戦略

確定給付年金制度資産は、当行の長期にわたる年金債務の支払いに備えて、慎重に投資が行われている。年金制度の投資戦略は、資産種類や地理的場所を多様化させた投資構成を維持することである。これは、積立状況に対する個々の投資リスクの削減を図りつつ、年金債務の支払いに充当する期待収益の最大化を目的としている。投資は、年金債務の価値に影響を及ぼす主要なリスク要因である金利および信用スプレッドに対する年金債務の感応度について慎重に検討した上で実施しているので、制度資産の投資は資産/負債の枠組みに準拠している。資産構成を構築する際に検討する要素としては以下があるが、これらに限定されない。

- ・ 基礎となる給付債務の内容(当該債務の期間および期間構成等)
- ・ 加入者の構成(通常の退職者、解雇者および死亡者の予想を含む。)
- ・ 年金制度の財政状態
- ・ 複数の資産種類を含めることで得られる分散効果
- ・ 期待運用収益(資産および負債の相関関係を含む。)および当該年金制度の流動性要件

資産配分方針の実行に際し、当行は、債務証券、持分証券およびオルタナティブ投資に投資することができる。一定の投資(普通株式、BBBを下回る格付けの債券、ならびに住宅および商業モーゲージ等)については、確定給付年金制度資産の市場価値の一定割合を超えて保有することはできない。当行はデリバティブ商品を利用できるが、原証券のパフォーマンスをより効果的に反映するシンセティック投資か、制度内の財務リスクのヘッジ手段としてのいずれかである。当行の信用リスク・エクスポージャーの管理上、中央清算されないデリバティブ商品の契約相手先については、最低限の信用格付けを満たすことと、担保契約の締結を要求している。

当行の確定給付年金制度資産は、主に債務証券、持分証券およびオルタナティブ投資から構成されている。当該持分証券は、通常、活発な市場における無調整の市場相場価格を有しており(レベル1)、また当該債務証券は、通常、活発な市場における類似の資産に関する市場相場価格を有している(レベル2)。オルタナティブ投資およびその他には、現金、ヘッジファンド、およびプライベート・ファンド投資(インフラ、不動産リース、プライベート・エクイティおよび債務等)が含まれている。プライベート・ファンド投資の市場相場価格は、通常入手できず(レベル2またはレベル3)、これらのファンドの資産は、独立の評価機関の評価、または観察可能な市場のインプットを用いて算定した価格のいずれかにより評価されている。

2020年10月31日終了年度における確定給付年金投資の運用は、期待投資収益の改善を目指しながら、リスクを軽減する投資と戦略への配分を高めることに注力し、分散投資を維持した。資産と負債の期間のミスマッチを軽減し、それにより金利変動による年金制度の積立状況の変動を減らせるよう、債務証券への配分を徐々に増やしており、また債務証券オーバーレイ・プログラムを利用している。長期債務証券は、金利変動に対する価格感応度が高いことを前提に、制度負債に係るリスクに対して有効な経済的ヘッジになると考えられるが、これは、制度負債は主に長期債券の金利(インプット)を用いて割り引くためである。

確定給付年金制度資産の配分(1)

(パーセンテージを除き、 百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	公正価値	制度資産合計 に占める割合	活発な市場で の取引の有無 (2)	公正価値	制度資産合計 に占める割合	活発な市場で の取引の有無 (2)
持分証券						
カナダ	\$ 1,493	9%	100%	\$ 1,544	10%	100%
国外	3,859	24	100	3,215	22	98
債務証券						
カナダ国債	3,259	20	-	3,014	21	-
外国国債	81	1	-	396	3	-
社債およびその他の債券	3,701	23	-	3,458	23	-
オルタナティブ投資 およびその他	3,631	23	13	3,158	21	13
	\$ 16,024	100%	36%	\$ 14,785	100%	35%

(1) 制度資産の配分は、直接的にまたはファンドを介して間接的に保有している原投資を基にしているが、これは当行の投資の方針および戦略手法のためである。

(2) 活発な市場での資産の相場の有無に関する当行の判断が直接投資を基に行われた場合、制度資産合計の38%(2019年10月31日-36%)が、活発な市場での相場があるものに分類される。

持分証券への配分割合は、カナダの年金制度で34%(2019年10月31日-33%)、国外の制度で20%(2019年10月31日-16%)であった。債務証券への配分割合は、カナダの年金制度で44%(2019年10月31日-47%)、国外の制度で42%(2019年10月31日-44%)であった。オルタナティブ投資およびその他への配分割合は、カナダの年金制度で22%(2019年10月31日-20%)、国外の制度で38%(2019年10月31日-40%)であった。

2020年10月31日現在の当該制度資産には、当行の普通株式が1百万株(2019年10月31日-1百万株)(公正価値96百万ドル(2019年10月31日-104百万ドル))、および当行の債務証券が32百万ドル(2019年10月31日-57百万ドル)含まれている。2020年10月31日終了年度において、制度資産として保有されている当行の普通株式に係る受取配当額は、4百万ドル(2019年10月31日-4百万ドル)であった。

満期構成

以下の表は、当行の確定給付年金制度債務に関する満期構成である。

(制度加入者数および加入年数を除き、百万カナダドル)	2020年10月31日現在		
	カナダ	国外	合計
制度加入者数	68,128名	5,456名	73,584名
2020年度給付支払額(実績)	\$ 571	\$ 275	\$ 846
2021年度給付支払額(見込)	640	33	673
2022年度給付支払額(見込)	659	35	694
2023年度給付支払額(見込)	679	35	714
2024年度給付支払額(見込)	699	36	735
2025年度給付支払額(見込)	717	37	754
2026年度から2030年度給付支払額(見込)	3,821	186	4,007
確定給付の加重平均支払期間	16.1年	21.4年	16.4年

重要な仮定

確定給付年金費用およびその他の退職後給付費用の算定に用いた重要な仮定の決定方法は、以下の通りである。

割引率

カナダの年金制度およびその他の退職後給付制度に係る測定日ごとの将来の給付支払見込額はすべて、算出したカナダのAA格付け社債のイールドカーブによるスポット・レートで割り引いている。算出したイールドカーブは、AA格付け社債の短期・中期の実際のレートおよび長期の推定レートに基づいている。AA格付け社債の推定レートは、A格付け社債、AA格付け社債およびAA格付け州債の観察された利回りから算定される。国外の年金制度およびその他の退職後給付制度に係る測定日ごとの将来の給付支払見込額はすべて、各国のAA格付け社債のイールドカーブによるスポット・レートで割り引いている。30年を超えるスポット・レートは、30年物スポット・レートと同率で設定している。割引率は、割引率のカーブ全体を用いて算定した場合の割引後の金額と同額を算出する、同等の単一のレートである。この評価手法は、再投資収益に関する仮定の影響は受けない。

将来の昇給率

将来の昇給に関する仮定は、適宜、制度ごとに個別に策定している。各仮定は、市場ごとの価格インフレに関する仮定や給与方針に加えて、関連する現地の法令や制度固有の規定に基づき設定している。

医療費の趨勢率

医療費の計算は、制度の最近の実績と市場予測を用いて策定した、短期と長期双方の趨勢に関する仮定に基づき行っている。

給付債務の算定における加重平均による仮定

	以下の日現在			
	確定給付年金制度		その他の退職後給付制度	
	2020年 10月31日	2019年 10月31日	2020年 10月31日	2019年 10月31日
割引率	2.7%	3.0%	3.0%	3.3%
将来の昇給率	3.3%	3.3%	n.a.	n.a.
医療費の趨勢率(1)				
－医療	n.a.	n.a.	3.5%	3.5%
－歯科	n.a.	n.a.	3.1%	3.1%

(1) 当行のその他の退職後給付制度について、確定給付債務に係る給付費用見込額の測定に用いた趨勢率の仮定は最終趨勢率でもある。

n.a.該当なし。

死亡率の仮定

死亡率の仮定は、確定給付年金制度に基づく当行の債務の測定上、重要である。当該仮定は、各国固有の統計値を基に設定している。将来の寿命の伸びを考慮の上、必要に応じて織り込んでいる。以下の表は、主な制度に使用している死亡率の仮定を要約したものである。

(年)	以下の日現在							
	2020年10月31日				2019年10月31日			
	現在以下の年齢の加入者が 65歳時点の平均余命				現在以下の年齢の加入者が 65歳時点の平均余命			
	65歳		45歳		65歳		45歳	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
国								
カナダ	23.8	24.1	24.7	25.1	23.7	24.1	24.7	25.0
英国	23.5	25.3	25.2	27.1	23.5	25.2	25.1	27.0

感応度分析

適用する仮定は、確定給付年金制度およびその他の退職後給付制度の債務の価値に重要な影響を及ぼす可能性があり、過去の実績および市場のインプットに基づいている。以下の表に示す主要な仮定に関する債務の増(減)は、他の仮定はすべて一定であることを前提として算定している。実際には、仮定の一部の変更は相関し得るため、このようなことが生じる可能性は低い。以下の表は、2020年度における主要な仮定に関する感応度分析を示している。

(百万カナダドル)	債務の増(減)	
	確定給付年金制度	その他の退職後給付制度
割引率		
割引率が100ベース・ポイント上昇した場合の影響	\$ (2,364)	\$ (260)
割引率が100ベース・ポイント低下した場合の影響	3,052	332
将来の昇給率		
将来の昇給率が50ベース・ポイント上昇した場合の影響	63	-
将来の昇給率が50ベース・ポイント低下した場合の影響	(67)	-
死亡率		
寿命が1年伸びた場合の影響	466	39
医療費の趨勢率		
医療費の趨勢率が100ベース・ポイント上昇した場合の影響	n.a.	75
医療費の趨勢率が100ベース・ポイント低下した場合の影響	n.a.	(63)

n.a.該当なし。

注記18 その他の負債

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
支払債務および未払費用	\$ 1,500	\$ 1,598
未払利息	2,855	3,496
現金担保	19,433	16,195
コモディティに関連する負債	8,354	8,487
繰延収益	2,945	2,563
繰延税金	52	82
未払配当金	1,611	1,567
従業員給付負債	2,424	2,699
保険関連負債	341	387
リース負債	5,357	49
譲渡可能証券	1,676	1,671
ブローカー、ディーラーおよび顧客に対する未払金	5,108	3,241
給与および関連する報酬	7,476	7,416
貴金属預り証	623	431
引当金	618	581
未払税金	2,209	2,202
その他	7,249	5,472
	\$ 69,831	\$ 58,137

注記19 劣後無担保社債

当該社債は無担保の債務であり、預金者およびその他の一定の債権者の請求に対する支払いに劣後する。以下に表示された金額は、これら無担保社債の当行の自己保有分控除後の金額であり、金利リスクの管理に用いられる公正価値ヘッジの影響を含んでいる。

(パーセンテージおよび外貨を除き、百万カナダドル)				以下の日現在	
満期	最短の額面償還日	利率	外貨建 (単位：百万)	2020年 10月31日	2019年 10月31日
2022年7月15日		5.38%	US\$150	\$ 205	\$ 206
2023年6月8日		9.30%		110	110
2024年12月6日(1)	2019年12月6日	2.99%		-	1,999
2025年6月4日(2)、 (3)	2020年6月4日	2.48%		-	997
2026年1月20日(2)	2021年1月20日	3.31%(4)		1,501	1,483
2026年1月27日(2)		4.65%	US\$1,500	2,148	2,023
2026年9月29日(2)	2021年9月29日	3.45%(5)		1,017	1,009
2027年11月1日	2022年11月1日	4.75%	TT\$300	59	59
2029年7月25日(2)	2024年7月25日	2.74%(6)		1,559	1,486
2029年12月23日(2)	2024年12月23日	2.88%(7)		1,578	-
2030年6月30日(2)	2025年6月30日	2.09%(8)		1,247	-
2083年10月1日	すべての利払日	(9)		224	224
2085年6月29日	すべての利払日	(10)	US\$174	231	229
				\$ 9,879	\$ 9,825
繰延金融費用				(12)	(10)
				\$ 9,867	\$ 9,815

無担保社債の条件は以下の通りである。

- (1) 2019年12月6日、当行は、2024年12月6日に満期を迎える2.99%劣後無担保社債の残高2,000百万ドルの全額を、元本金額の100%に償還日まで(同日を含まない。)の未払利息を加算した金額で償還した。
- (2) 当該社債には、実質破綻コンティンジェント・キャピタル(以下「NVCC」という。)条項が含まれている。これは、当該社債がバーゼルIIIの規制上のTier 2 資本の条件を満たすために不可欠な条項である。NVCC条項は、当行が実質破綻状態にあるとOSFIが判断した場合、または当行が資本注入を受け入れたか受入に同意した旨をカナダの連邦政府もしくは州政府が公式に発表した場合には、当該社債を当行の不定数の普通株式に転換することを求めるものである。このような場合、各社債は、係数1.5を用いた自動転換の算定式に従って普通株式に転換され、その転換価格は(i)最低価格5.00ドルと、(ii)トロント証券取引所に上場する当行普通株式の出来高加重平均取引価格に基づいた当行普通株式の現在の市場価格のいずれか高い額に基づく。発行株式数は、当該社債の額面価格(当該債券の未払経過利息を含む。)を転換価格で除した額に、係数を乗じて算定される。
- (3) 2020年6月4日、当行は、2025年6月4日に満期を迎えるNVCC 2.48%劣後無担保社債の残高1,000百万ドルの全額を、元本金額の100%に償還日まで(同日を含まない。)の未払利息を加算した金額で償還した。
- (4) 金利は、最短の額面償還日までは所定の利率、その後は、3ヶ月物CDORにプラス2.35%である。
- (5) 金利は、最短の額面償還日までは所定の利率、その後は、3ヶ月物CDORにプラス1.12%である。
- (6) 金利は、最短の額面償還日までは所定の利率、その後は、3ヶ月物CDORにプラス0.98%である。
- (7) 金利は、最短の額面償還日までは所定の利率、その後は、3ヶ月物CDORにプラス0.89%である。
- (8) 金利は、最短の額面償還日までは所定の利率、その後は、3ヶ月物CDORにプラス1.31%である。
- (9) 金利は、30日の銀行引受手形レートにプラス40ベース・ポイントである。
- (10) 金利は、米ドル3ヶ月物ロンドン銀行間仲値金利(LIMEAN)にプラス25ベース・ポイントである。普通株式につき当行が宣言した年間配当額を減額する場合、当該社債に係る利息支払額は当該減配額に応じて減額され、利息の減額は新たに発行する普通株式の収入から支払われる。

劣後無担保社債のすべての償還、解約および交換は、2022年7月15日に満期を迎える社債以外は、OSFIの同意および承認が必要である。

満期予定

発行条件による満期日に基づく劣後無担保社債の満期予定の要約は、以下の通りである。

(百万カナダドル)	以下の日現在
	2020年10月31日
1年以内	\$ -
1年から5年	315
5年から10年	9,109
それ以降	455
	\$ 9,879

注記20 資本

株式資本

授權株式資本

優先－第1優先株式および第2優先株式(無額面、シリーズ発行可)の株式数には制限がない。発行可能なすべての第1優先株式およびすべての第2優先株式の払込価額の合計は、それぞれ200億ドルおよび50億ドルを超えることはできない。

普通－発行可能な株式(無額面)の数には制限がない。

社外流通株式資本

以下の表は、当行の社外流通普通株式および優先株式ならびにその他の資本性金融商品の詳細である。

(株式数および別段の記載がある場合を除き、 百万カナダドル)	以下の日現在および同日に終了した年度					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	株式数 (単位： 千株)	金額	1株当たり 配当 宣言額	株式数 (単位： 千株)	金額	1株当たり 配当 宣言額
発行済普通株式						
期首残高	1,430,678	\$ 17,645		1,439,029	\$ 17,635	
株式に基づく報酬制度に関連する発行(1)	1,043	80		1,900	136	
消却を目的とした購入(2)	(7,860)	(97)		(10,251)	(126)	
期末残高	1,422,861	\$ 17,628	\$ 4.29	1,430,678	\$ 17,645	\$ 4.07
自己株式－普通株式						
期首残高	(582)	\$ (58)		(235)	\$ (18)	
購入	(58,775)	(4,739)		(54,263)	(5,380)	
売却	57,969	4,668		53,916	5,340	
期末残高	(1,388)	\$ (129)		(582)	\$ (58)	
社外流通普通株式	1,422,473	\$ 17,499		1,430,096	\$ 17,587	
発行済優先株式およびその他の資本性金融商品						
第1優先(3)						
非累積型、固定利付シリーズ						
シリーズW(4)	-	\$ -	\$ 1.05	12,000	\$ 300	\$ 1.23
シリーズAA(4)	-	-	0.95	12,000	300	1.11
シリーズAC(4)	-	-	0.98	8,000	200	1.15
シリーズAE(4)	-	-	0.96	10,000	250	1.13
シリーズAF(4)	-	-	0.95	8,000	200	1.11
シリーズAG(4)	-	-	0.96	10,000	250	1.13
シリーズBH	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
シリーズBI	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
シリーズBJ	6,000	150	1.31	6,000	150	1.31
非累積型、5年配当率リセットシリーズ						
シリーズAZ	20,000	500	0.93	20,000	500	0.96
シリーズBB	20,000	500	0.91	20,000	500	0.96
シリーズBD	24,000	600	0.85	24,000	600	0.90
シリーズBF	12,000	300	0.90	12,000	300	0.90
シリーズBK	29,000	725	1.38	29,000	725	1.38
シリーズBM	30,000	750	1.38	30,000	750	1.38
シリーズBO	14,000	350	1.20	14,000	350	1.27
非累積型、固定利付/変動利付シリーズ						
シリーズC-2(5)	15	23	US\$ 67.50	20	31	US\$ 67.50
その他の資本性金融商品						
リミテッド・リコース・キャピタル・ノート (LRCN)(6)						
シリーズ1(7)	1,750	1,750	4.50%	-	-	-
	168,765	\$ 5,948		227,020	\$ 5,706	
自己株式－優先株式およびその他の資本性金融商品						
期首残高(8)	34	\$ 1		114	\$ 3	
購入	(5,319)	(114)		(8,021)	(184)	
売却	5,283	110		7,941	182	
期末残高(8)	(2)	\$ (3)		34	\$ 1	
社外流通優先株式およびその他の資本性金融商品	168,763	\$ 5,945		227,054	\$ 5,707	

- (1) ストック・オプションに関する9百万ドル(2019年10月31日-29百万ドル)の公正価値の調整を含む。
- (2) 2020年10月31日終了年度において、当行は消却を目的として1株当たり帳簿価額12.34ドルの普通株式を平均コスト1株当たり103.62ドルで購入した。2019年10月31日終了年度において、当行は消却を目的として1株当たり帳簿価額12.29ドルの普通株式を平均コスト1株当たり100.41ドルで購入した。
- (3) 第1優先株式シリーズは、1株当たり25ドルで発行された。ただし、非累積型固定利付/変動利付第1優先株式シリーズC-2(以下「シリーズC-2」という。)は、1株当たり1,000米ドル(1預託株式当たり25米ドルに相当)で発行された。
- (4) 2020年10月1日、当行は、発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズⅡの全株式12百万株、発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズAAの全株式12百万株、発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズACの全株式8百万株、発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズAEの全株式10百万株、発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズAFの全株式8百万株、および発行済かつ流通している非累積型第1優先株式シリーズAGの全株式10百万株を、1株当たり25ドルの償還価格で現金償還した。
- (5) 2019年12月17日、当行は、1株がシリーズC-2の1株の40分の1の持分を表す預託株式200,000株を、未払配当金を含めた総額6百万米ドルの現金で購入した。購入した預託証券および基礎となるシリーズC-2はその後、消却された。
- (6) LRCNの各シリーズ(以下「LRCNシリーズ」という。)は、キャピタル・ノート1口当たり1,000ドルで発行された。株式数は発行済キャピタル・ノートの口数を表し、1株当たり配当宣言額は報告日現在で発行済キャピタル・ノートに適用される金利の年率(パーセンテージ)を表す。
- (7) 2020年7月28日、当行はLRCNシリーズ1を1,750百万ドル発行した。当該キャピタル・ノートには、第三者の受託者が連結対象信託に保管している資産に限定した求償権が付されている。LRCNシリーズ1に関する信託資産は、当行の非累積型5年配当率リセット第1優先株式シリーズBQ(以下「シリーズBQ」という。)1,750百万ドルで構成されており、当行のシリーズBQは1株当たり1,000ドルでLRCNシリーズ1と同時に発行された。
- (8) プラスの金額は、自己株式の売建を表している。

優先株式およびその他の資本性金融商品の重要な条件

2020年10月31日現在	当期 年間利回り	プレミアム	1株当たり当期 配当金(1)	最短償還日 (2)	発行日	償還価格 (2),(3)
優先株式						
第1優先						
非累積型、固定利付シリーズ						
シリーズBH(4)	4.90%		\$.306250	2020年 11月24日	2015年 6月5日	\$ 26.00
シリーズBI(4)	4.90%		.306250	2020年 11月24日	2015年 7月22日	26.00
シリーズBJ(4)	5.25%		.328125	2021年 2月24日	2015年 10月2日	26.00
非累積型、5年配当率リセットシリーズ(5)						
シリーズAZ(4)	3.70%	2.21%	.231250	2019年 5月24日	2014年 1月30日	25.00
シリーズBB(4)	3.65%	2.26%	.228125	2019年 8月24日	2014年 6月3日	25.00
シリーズBD(4)	3.20%	2.74%	.200000	2020年 5月24日	2015年 1月30日	25.00
シリーズBF(4)	3.60%	2.62%	.225000	2020年 11月24日	2015年 3月13日	25.00
シリーズBK(4)	5.50%	4.53%	.343750	2021年 5月24日	2015年 12月16日	25.00
シリーズBM(4)	5.50%	4.80%	.343750	2021年 8月24日	2016年 3月7日	25.00
シリーズB0(4)	4.80%	2.38%	.300000	2024年 2月24日	2018年 11月2日	25.00
非累積型、固定利付/変動利付シリーズ						
シリーズC-2(6)	6.75%	4.052%	US\$ 16.875000	2023年 11月7日	2015年 11月2日	US\$1,000.00
その他の資本性金融商品						
リミテッド・リコース・キャピタル・ノート						
(7)						
シリーズ1(8)	4.50%	4.137%	n.a.	2025年 10月24日	2020年 7月28日	\$1,000.00

- (1) 各シリーズの非累積型優先配当は、取締役会の宣言があった場合に、四半期ごとに支払われる。配当支払時期は、2月、5月、8月および11月の24日(シリーズC-2については7日)またはその前後である。
- (2) OSFIの同意およびカナダの銀行法の規定に従い、当行は、上記の日付以後に第1優先株式を償還することができる。シリーズAZ、BB、BD、BF、BK、BMおよびB0については、最短償還日およびその後5年ごとの応答日の償還の場合には1株当たり25ドルで現金償還できる。シリーズBH、BIおよびBJについては、最短償還日から12ヶ月以内の償還の場合には1株当たり26ドルで、その後は12ヶ月ごとに0.25ドル減少し、最短償還日から4年以降の償還の場合には1株当たり25ドルで償還できる。シリーズC-2は、最短償還日およびそれ以降の配当日に1,000米ドルで償還できる。
- (3) OSFIの同意およびカナダの銀行法の規定に従い、当行は消却を目的として、各シリーズの第1優先株式を取締役会が取得可能と考える当該株式の最低価格で買戻しできる。
- (4) 当該優先株式には、NVCC条項が含まれている。これは、当該株式がバーゼルIIIの規制上のTier1資本の条件を満たすために不可欠な条項である。NVCC条項は、当行が実質破綻状態にあるとOSFIが判断した場合、または当行が資本注入を受け入れたか受入に同意した旨をカナダの連邦政府もしくは州政府が公式に発表した場合には、当該商品を当行の不定数の普通株式に転換することを求めるものである。このような場合、各優先株式は、係数1を用いた自動転換の算定式に従って普通株式に転換され、その転換価格は(i)最低価格5ドルと、(ii)トロント証券取引所に上場する当行普通株式の出来高加重平均取引価格に基づいた当行普通株式の現在の市場価格のいずれか高い額に基づく。発行済株式数は、当該優先株式の価額(25ドルに宣言済未払配当金を加算)を転換価格で除して算定される。
- (5) 配当率は、最短償還日およびその後5年ごとに、5年物カナダ国債利回りに上記プレミアムを上乗せしたレートにリセットされる。当該優先株式の保有者は、一定の条件の下で、最短償還日およびその後5年ごとに、3ヶ月物カナダ短期国債利回りに上記プレミアムを上乗せしたレートで、非累積型変動利付第1優先株式に転換するオプションを有している。
- (6) 配当率は、最短償還日において3ヶ月LIBORに上記プレミアムを上乗せしたレートに変更される。シリーズC-2は、規制上のTier1資本ではない。

- (7) 各LRCNシリーズの当期年間利回りは、報告日現在で発行済キャピタル・ノートに適用される金利の年率を表している。LRCNシリーズに係る利息および元本の現金での支払は当行の任意で行われ、利息および元本を現金で支払わなくても債務不履行事象にはならない。(i)利息の支払日における利息の不払、(ii)LRCNシリーズが償還される場合の償還価格の不払、(iii)LRCNシリーズの満期時における元本の不払、または(iv)LRCNシリーズの債務不履行の場合、当該LRCNシリーズの保有者は、当該LRCNシリーズに関して第三者の受託者が連結対象信託に保管している資産(以下「信託資産」という。)のみに対する求償権を有することになり、当該キャピタル・ノート保有者はそれぞれ、信託財産に対する持分割合に応じた持分を受領する権利を有することになる。このような場合、各LRCNシリーズの信託資産の引渡しによって、関連するLRCNシリーズにおける当行の債務が完全に消滅する。LRCNには、NVCC条項が含まれている。これは、当該キャピタル・ノートがバーゼルIIIの規制上のTier 1 資本の条件を満たすために不可欠な条項である。NVCC条項は、当行が実質破綻状態にあるとOSFIが判断した場合、または当行が資本注入を受け入れたか受入に同意した旨をカナダの連邦政府もしくは州政府が公式に発表した場合には、当該商品を当行の不定数の普通株式に転換することを求めるものである。このような場合、各キャピタル・ノートは自動的に償還され、償還価格は信託資産の引渡しによって充当されることになるが、当該信託資産は関連するLRCNシリーズと同時に発行された優先株式のシリーズの自動転換に従って発行される普通株式で構成される。優先株式の各シリーズには、(i)最低価格5ドルと、(ii)トロント証券取引所に上場する当行普通株式の出来高加重平均取引価格に基づいた当行普通株式の現在の市場価格のいずれか高い額に基づき転換価格を算出する自動転換の算定式が含まれる。優先株式の各シリーズに関する発行済普通株式数は、当該優先株式の価額(1,000ドルに宣言済未払配当金を加算)を転換価格で除して算定される。各キャピタル・ノート保有者に交付される普通株式数は、信託財産に対する当該キャピタル・ノート保有者の持分割合を基にする。OSFIの同意を条件として、キャピタル・ノートの購入を制限する適用法があればそれに従い、当行は、当行の完全な裁量において決定する価格および条件で、消却目的でLRCNを買戻すことができる。
- (8) LRCNシリーズ1は、2025年11月24日までは年率4.5%の固定金利で、それ以降2080年11月24日の満期までは5年物カナダ国債利回りに4.137%を上乗せしたレートと等しい年率(5年ごとにリセットされる。)で、利息が付されている。利息は半年ごとに支払われ、支払時期は11月と5月の24日またはその前後である。LRCNシリーズ1は、2025年およびそれ以降当社がその条件に従い、またOSFIの承認およびカナダ銀行法の規定に従ってシリーズBQを償還するまで5年ごとの10月24日から11月24日(同日を含む。)までの期間に償還可能である。

n.a.該当なし

配当支払制限

配当宣言を行った結果、自己資本規制、流動性規制またはカナダの銀行法に基づき発令された規制指令に抵触するか、抵触すると判断される場合、カナダの銀行法により、優先株式または普通株式につき配当宣言を行うことが禁じられている。優先株主が受領する権利のあるすべての配当が、宣言され、支払われ、または配当原資が別個に確保されない限り、当行は、いかなる場合にも普通株式に係る配当金を支払うことはできない。

現在、この制約による、当行の優先株式または普通株式に係る配当金の支払いに対する制限はない。

配当再投資制度

当行の配当再投資制度(以下「DRIP」という。)では、普通株主および優先株主が、現金配当ではなく、普通株式を追加で受け取る方法が提供されている。この制度は、カナダまたは米国に居住する株主のみを対象としている。当行のDRIPに必要な株式は、公開市場での株式購入または自己株式による株式発行のいずれかにより調達している。2020年度および2019年度において、DRIPに必要な株式は、公開市場での株式購入により調達した。

将来発行可能な株式

2020年10月31日現在、当行のDRIPならびに未行使のストック・オプションおよび株式報酬の潜在的な行使に関連して、42.9百万株の普通株式が将来発行可能である。さらに当行は、2009年2月26日に株主承認を得たRBCアンブレラ貯蓄および株式購入制度に基づき、自己株式から38.9百万株まで普通株式を発行することができる。

注記21 株式に基づく報酬

ストック・オプション制度

当行は、一定の幹部従業員向けのストック・オプション制度を運営している。当該制度では、普通株式を購入できるオプションを定期的に付与している。付与したオプションの大部分の行使価格は、(i)付与日の前日と(ii)付与日の直前の連続する5営業日間で、トロント証券取引所における当行普通株式の取引単位(100株)当たり出来高加重平均取引価格が高い方のいずれかの金額として決定される。付与した残りのオプションの行使価格は、付与日におけるニューヨーク証券取引所の当行普通株式の終値である。オプションはすべて権利確定期間が4年であり、権利行使可能期間は付与日後10年以内となる。

2020年10月31日終了年度に計上した当該ストック・オプション制度の報酬費用は、7百万ドル(2019年10月31日－6百万ドル)であった。権利未確定のオプションに係る報酬費用は、2020年10月31日現在で2百万ドル(2019年10月31日－3百万ドル)であり、加重平均期間1.9年(2019年10月31日－1.8年)にわたり認識される。

オプションの数および加重平均行使価格の変動の内訳は、以下の通りである。

ストック・オプションの変動および関連情報の要約

(株式数を除き、 1株当たりカナダドル)	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	オプション数 (単位：千)	加重平均 行使価格(1)	オプション数 (単位：千)	加重平均 行使価格(1)
期首未行使残高	6,950	\$ 79.88	7,770	\$ 71.40
付与	1,089	103.64	1,090	96.55
行使(2),(3)	(1,044)	65.39	(1,900)	55.05
期中の失効	(22)	50.28	(10)	54.99
期末未行使残高	6,973	\$ 86.02	6,950	\$ 79.88
期末現在の行使可能残高	3,314	\$ 71.77	2,980	\$ 64.24

- (1) 加重平均行使価格は、2020年10月31日および2019年10月31日現在の為替レートに基づく外貨建オプションの転換を反映している。期中に行使された外貨建オプションには、加重平均行使価格の換算に、決済日における為替レートが使用される。
- (2) 期中に行使されたオプションについて受領した現金は68百万ドル(2019年10月31日－105百万ドル)であり、行使日現在の加重平均株価は100.20ドル(2019年10月31日－103.15ドル)であった。
- (3) 2020年度および2019年度に行使されたすべてのストック・オプションに対して、新たに普通株式を発行した。

2020年10月31日現在の未行使オプション(行使価格の範囲別)

(株式数および年数を除き、 1株当たりカナダドル)	未行使オプション残高			行使可能オプション	
	未行使数 (単位：千)	加重平均 行使価格(1)	加重平均 残存契約 年数 (単位：年)	行使可能数 (単位：千)	加重平均 行使価格(1)
36.89ドル- 69.17ドル	1,112	\$ 55.07	2.16	1,112	\$ 55.07
73.14ドル- 74.39ドル	880	74.30	4.98	880	74.30
76.51ドル- 78.59ドル	653	77.85	4.19	653	77.85
90.23ドル- 96.55ドル	2,477	93.01	6.68	669	90.23
102.33ドル- 104.70ドル	1,851	103.71	8.17	-	-
	6,973	\$ 86.02	5.90	3,314	\$ 71.77

(1) 加重平均行使価格は、2020年10月31日現在の為替レートによる外貨建オプションの転換を反映している。

2020年10月31日終了年度に付与したオプションの加重平均公正価値の見積りは、6.08ドル(2019年10月31日－5.61ドル)であった。これは、付与日にブラック・ショールズ・モデルを適用し、付与したオプションの個々の条件(権利確定期間や、オプションの予想存続期間と同等の実績期間における平均株価の実績ボラティリティを考慮して見積られる株価の予想ボラティリティ等)を考慮の上、算定している。付与したオプションの公正価値の算定に使用した仮定は、以下の通りである。

仮定の加重平均

(パーセンテージおよび年数を除き、 1株当たりカナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
付与日現在の株価	\$ 104.80	\$ 94.09
リスクフリー金利	1.64%	2.01%
予想配当利回り	3.90%	3.77%
株価の予想ボラティリティ	13%	12%
オプションの予想存続期間	6年	6年

従業員貯蓄および持株制度

当行は、貯蓄および持株制度を通じて、当行普通株式を所有する機会を多くの従業員に提供している。これらの制度では、従業員は通常、年間給与または給付基礎額(歩合制の従業員の場合)の1%から10%の拠出が可能である。拠出が1%から6%の場合、当行は、普通株式への従業員拠出の50%をマッチング拠出している。RBCドミニオン・セキュリティーズ貯蓄制度については、従業員1人当たりの当行の年間拠出額の上限は4,500ドルとなっている。RBC英国株式インセンティブ制度については、従業員1人当たりの当行の年間拠出上限額は1,500ポンドである。2020年10月31日終了年度に、当行は、これらの制度条件に従い、当行の普通株式の購入に対して、116百万ドル(2019年10月31日－112百万ドル)を拠出した。2020年10月31日現在、これらの制度に基づき保有されている普通株式は、合計36百万株(2019年10月31日－35百万株)であった。

後配株式およびその他の制度

当行は、当行の役員、一定の幹部従業員および非従業員取締役向けに、後配株式ユニット制度を提供している。当該制度では、参加者は、年間の短期変動インセンティブ賞与、コミッション、または取締役報酬のすべてまたは一定割合を、後配株式ユニット(以下「DSU」という。)で受け取ることを選択できる。参加者は、年度の開始前に、制度への参加を選択しなければならない。DSUには、普通株式の配当と同率で、追加のDSUが配当として付与される。参加者は、退職または雇用/取締役の地位の終了まで、DSUの転換は認められない。DSUの貨幣的価値は、転換が行われる時点の普通株式の市場価値相当額となる。

当行は、キャピタル・マーケットの一定の幹部従業員を対象とした、ユニット報酬も提供している。賞与はRBCの株式ユニットに投資され、毎年指定された応答日に一定割合の権利が確定する。権利が確定した金額はそれぞれ現金で支払われ、その支払額は、当初の株式ユニット付与数に累積配当株式数を加え、これに権利確定日前直近5営業日のRBC普通株式の平均終値を用いて算定された金額に基づいている。

当行は、一定の幹部従業員に対して複数の業績後配株式報酬制度を提供しており、そのすべてが3年で権利確定する。権利確定時点で当該報酬は現金で支払われ、その支払額は、当初のRBC株式ユニット付与数に累積配当株式数を加え、これに権利確定日前直近5営業日のRBC普通株式の平均終値を用いて算定された金額に基づいている。一部の制度の報酬額は、世界的な金融機関である特定の同業他社と比較した当行の株主総利回りに応じて、25%を上限に増減する場合がある。

当行は、米国の一定の幹部従業員に対して、非適格繰延報酬制度を継続している。この制度では、有資格の従業員が年間所得の一部および様々な臨時ボーナスやリクルートメント・ボーナスを繰り延べることができ、繰り延べた所得を、当行普通株式の値動きに連動するRBCシェア・アカウント・ファンド等の一定の選択可能なファンドに配分することができる。

以下の表は、後配株式およびその他の制度に基づき当年度に付与されたユニットを示している。

後配株式およびその他の制度に基づき付与されたユニット

(ユニット数および1ユニット当たり金額)	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	付与された ユニット (単位：千)	1ユニット 当たり 加重平均 公正価値	付与された ユニット (単位：千)	1ユニット 当たり 加重平均 公正価値
後配株式ユニット制度	503	\$ 98.91	495	\$ 99.69
キャピタル・マーケット報酬制度 ユニット報酬	4,796	92.06	3,423	105.12
業績後配株式報酬制度	2,409	104.14	2,471	96.39
繰延報酬制度	92	103.49	116	94.06
その他の株式に基づく制度	759	100.55	1,210	96.28
	8,559	\$ 96.74	7,715	\$ 100.42

後配株式およびその他の制度に基づき付与した報酬に係る当行の債務は、当行普通株式および適宜一定の選択可能なファンドの市場相場価格に基づき算定した公正価値で測定している。毎年、当行の債務は、制度参加者が追加ユニットを獲得することによって増加し、失効、取消、権利確定されたユニットの決済によって減少する。加えて、当行の債務は、当行普通株式および特定のファンド・ユニットの市場価格の変動によって影響を受ける。業績後配株式報酬制度については、業績条件の達成に関する見積りも当行の債務に影響を与える。

以下の表は、制度参加者が獲得したユニット、後配株式およびその他の制度に基づくこれらのユニットに関連する当行の債務、ならびに当年度に認識した関連する報酬費用(戻入額)を示している。

後配株式およびその他の制度に基づく債務

(ユニット数を除き、百万カナダドル)	以下の日現在			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
	ユニット (単位：千)	帳簿価額	ユニット (単位：千)	帳簿価額
後配株式ユニット制度	5,221	\$ 486	5,288	\$ 562
キャピタル・マーケット報酬制度 ユニット報酬	9,560	874	8,820	937
業績後配株式報酬制度	5,860	550	5,621	597
繰延報酬制度(1)	2,685	250	3,072	326
その他の株式に基づく制度	1,828	167	1,787	185
	25,154	\$ 2,327	24,588	\$ 2,607

(1) 当行普通株式の市場相場価格に基づき算定されない債務を除く。

後配株式およびその他の制度に基づき認識した報酬費用

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
後配株式ユニット制度	\$ (48)	\$ 77
キャピタル・マーケット報酬制度 ユニット報酬	115	274
業績後配株式報酬制度	190	294
繰延報酬制度	137	250
その他の株式に基づく制度	60	106
	\$ 454	\$ 1,001

注記22 法人所得税

税金費用の内訳

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
連結損益計算書上の法人所得税(還付)		
当期税金		
当年度税金費用	\$ 3,673	\$ 3,256
過年度調整	(106)	(26)
過年度未認識の税務上の繰越欠損金、税額控除または過去の期間の一時差異から生じた戻入	(25)	(31)
	3,542	3,199
繰延税金		
一時差異の発生および解消	(655)	(114)
税率変更の影響	6	29
過年度調整	98	(57)
過年度未認識の税務上の繰越欠損金、税額控除または過去の期間の一時差異から生じた戻入純額	(39)	(14)
	(590)	(156)
	2,952	3,043
連結包括利益計算書および連結持分変動計算書上の法人所得税(還付)		
その他の包括利益		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する債務証券および貸出金に係る未実現利得(損失)純額	43	51
純損益に認識された信用損失引当金	3	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する債務証券および貸出金に係る損失(利得)純額の純損益への振替	(56)	(60)
未実現為替換算差益(損)	5	2
ヘッジ活動からの為替換算差益(損)純額	(138)	2
純投資ヘッジ活動に係る損失(利得)の純損益への振替	7	1
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定されたデリバティブに係る利得(損失)純額	(410)	(200)
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定されたデリバティブに係る損失(利得)の純損益への振替	27	(50)
従業員給付制度の再測定	(20)	(333)
純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債に係る信用リスクに起因する公正価値の変動純額	(93)	18
その他の包括利益を通じて公正価値で測定するものとして指定された持分証券に係る利得(損失)純額	6	5
株式に基づく報酬	7	(9)
その他の資産性金融商品に係る分配および発行コスト	(12)	-
	(631)	(573)
法人所得税合計	\$ 2,321	\$ 2,470

実効税率は20.5%であり140ベース・ポイント上昇しているが、これは主に、当年度における低税率の管轄区域からの収益の減少、および前年度における純額ベースで有利な税務調整に起因しており、非課税所得の増加によって一部相殺された。

以下の表は、連結損益計算書に計上した法人所得税と、カナダの法定税率で計算した金額との差額に関する分析である。

法定税率への調整

(パーセンテージを除き、百万カナダドル)	以下の日に終了した年度			
	2020年10月31日		2019年10月31日	
カナダの法定税率による法人所得税	\$ 3,799	26.4%	\$ 4,217	26.5%
以下による法人所得税の増加(減少)				
子会社に適用される低い平均税率	(513)	(3.6)	(815)	(5.1)
有価証券からの非課税所得	(364)	(2.5)	(310)	(1.9)
税率変更	6	-	29	0.1
その他	24	0.2	(78)	(0.5)
連結損益計算書に報告された法人所得税/ 実効税率	\$ 2,952	20.5%	\$ 3,043	19.1%

繰延税金資産および繰延税金負債は、税務上の繰越欠損金および繰越税額控除、ならびに税務上の資産および負債と当行の連結貸借対照表上の資産および負債の帳簿価額との一時差異に係るものである。

繰延税金資産および繰延税金負債の主な内訳

(百万カナダドル)	2020年10月31日現在および同日に終了した年度					
	期首純資産 (1)	資本を 通じた変動	純損益を 通じた変動	為替差額	その他	期末純資産
繰延税金資産/(負債)純額						
信用損失引当金	\$ 716	\$ -	\$ 646	\$ -	\$ -	\$ 1,362
繰延報酬	1,246	(7)	19	11	-	1,269
事業調整費用	10	-	(1)	-	-	9
税務上の繰越欠損金および 繰越税額控除	202	-	2	-	-	204
繰延収益	(60)	-	(76)	(2)	-	(138)
その他の包括利益を通じて公正 価値で測定する金融商品	(43)	(23)	(2)	-	-	(68)
有形固定資産および無形資産	(831)	-	60	(10)	(3)	(784)
繰延費用	45	5	(17)	1	-	34
年金および退職後給付関連	631	20	(59)	-	-	592
その他	29	4	18	(4)	-	47
	\$ 1,945	\$ (1)	\$ 590	\$ (4)	\$ (3)	\$ 2,527
内訳						
繰延税金資産	\$ 2,027					\$ 2,579
繰延税金負債	(82)					(52)
	\$ 1,945					\$ 2,527

(百万カナダドル)	2019年10月31日現在および同日に終了した年度					
	期首純資産	資本を 通じた変動	純損益を 通じた変動	為替差額	その他	期末純資産
繰延税金資産/(負債)純額						
信用損失引当金	\$ 695	\$ -	\$ 23	\$ (2)	\$ -	\$ 716
繰延報酬	1,033	9	197	7	-	1,246
事業調整費用	3	-	7	-	-	10
税務上の繰越欠損金および 繰越税額控除	203	-	(10)	-	9	202
繰延収益	(48)	-	(11)	(1)	-	(60)
その他の包括利益を通じて公正 価値で測定する金融商品	(8)	(33)	(1)	(1)	-	(43)
有形固定資産および無形資産	(858)	-	(4)	(4)	(3)	(869)
繰延費用	55	36	(47)	1	-	45
年金および退職後給付関連	295	339	(6)	3	-	631
その他	21	3	8	(3)	-	29
	\$ 1,391	\$ 354	\$ 156	\$ -	\$ 6	\$ 1,907
内訳						
繰延税金資産	\$ 1,475					\$ 1,989
繰延税金負債	(84)					(82)
	\$ 1,391					\$ 1,907

(1) これらの金額は、IFRS第16号の適用時に行われた特定の移行調整を反映している。詳細については注記2を参照のこと。

繰延税金資産のうち税務上の繰越欠損金および繰越税額控除の金額は、主として当行のカナダ、米国およびカリブ海地域での事業の損失および税額控除に関連している。2020年10月31日現在、当年度または過年度に発生した税務上の繰越欠損金および税額控除に関して、繰延税金資産204百万ドル(2019年10月31日－202百万ドル)が認識されている。当該認識額は将来の課税所得に関する予測に左右される。経営陣の予測は、将来の業績により繰延税金資産を利用するのに十分な課税所得が生じる可能性が高いとする仮定を裏付けている。この予測は、当行の事業活動に対する継続的な流動性支援や資本支援(支援に関連して実行されるタックス・プランニング戦略を含む。)に依拠している。

2020年10月31日現在、潜在的な税額修正または将来の課税所得との相殺に利用可能な未使用の税務上の繰越欠損金389百万ドルおよび税額控除305百万ドル(2019年10月31日－413百万ドルおよび365百万ドル)は、繰延税金資産として認識されていない。未使用の税務上の繰越欠損金には、1年以内に失効する分がゼロドル(2019年10月31日－1百万ドル)、2年から4年で失効する分が10百万ドル(2019年10月31日－7百万ドル)、および4年超で失効する分が379百万ドル(2019年10月31日－405百万ドル)含まれている。税額控除には、1年以内に失効する分がなし(2019年10月31日－ゼロドル)、2年から4年で失効する分が143百万ドル(2019年10月31日－60百万ドル)、および4年超で失効する分が162百万ドル(2019年10月31日－305百万ドル)含まれている。

子会社、支店および関連会社に対する投資ならびに共同支配企業に対する持分に関する一時差異のうち、親銀行で繰延税金負債を認識していない金額は、2020年10月31日現在、217億ドル(2019年10月31日－179億ドル)である。

税務調査および査定

当年度において、当行はカナダの税務当局(以下「CRA」という。)から、課税年度2015年に関する提言書(以下「提言」という。)を受領したが、これは、税務当局が一定の配当金に関する税額控除を否認したため、法人所得税約337百万ドルを追加で納税するようロイヤル・バンク・オブ・カナダに提言するものであった。この提言は、同一の事項について、課税年度2012年から2014年に関して受領した法人所得税約756百万ドルの追加納税の指摘ならびに課税年度2009年から2011年に関して受領した法人所得税約434百万ドルの追加納税および利息の指摘と整合している。当該金額は、これらの年度に支払う義務のある最大追加納税額を表している。

2015年のカナダ連邦予算で導入された法改正により、課税対象のカナダ法人との取引(年金基金や非居住事業体といったカナダ国内で納税義務のない投資者とヘッジされた取引を含む。)から生じた配当金の税額控除は否認されることになった。この改正は2017年5月1日から将来に向かって適用された。この提言および指摘に関連する配当金には、2015年の法改正の対象となるものと類似した取引における配当金と、法改正とは関係のない配当金の両方が含まれている。

CRAは同様の理由により、その後の年度についても法人所得税の重大な追加納税を当行に指摘する可能性がある。当行は、すべての場合において当行の税務申告が適切であったと確信しており、当行の立場を積極的に堅持する予定である。

注記23 1株当たり利益

(株式数および1株当たり金額を除き、 百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
基本的1株当たり利益		
当期純利益	\$ 11,437	\$ 12,871
優先株式配当およびその他の資本性金融商品に係る分配	(268)	(269)
非支配持分に帰属する純利益	(5)	(11)
普通株主に帰属する純利益	11,164	12,591
加重平均普通株式数(単位：千株)	1,423,915	1,434,779
基本的1株当たり利益(単位：ドル)	\$ 7.84	\$ 8.78
希薄化後1株当たり利益		
普通株主に帰属する純利益	\$ 11,164	\$ 12,591
交換可能株式の希薄化の影響	13	15
交換可能株式の希薄化の影響を含む普通株主に帰属する純利益	11,177	12,606
加重平均普通株式数(単位：千株)	1,423,915	1,434,779
ストック・オプション(1)	1,054	2,011
その他の株式に基づく報酬制度による発行可能数	755	742
交換可能株式(2)	3,046	3,150
希薄化後平均普通株式数(単位：千株)	1,428,770	1,440,682
希薄化後1株当たり利益(単位：ドル)	\$ 7.82	\$ 8.75

- (1) スtock・オプションの希薄化効果は、自己株式方式により計算している。未行使オプションの行使価格が当行普通株式の平均株価を上回る場合、当該オプションは希薄化後1株当たり利益の計算から除外される。2020年10月31日終了年度において、平均未行使オプション2,809,041個(平均行使価格100.88ドル)が希薄化後1株当たり利益の計算から除外されている。2019年10月31日終了年度において、平均未行使オプション767,225個(平均行使価格102.33ドル)が希薄化後1株当たり利益の計算から除外されている。
- (2) 交換可能優先株式が含まれている。

注記24 保証、コミットメント、担保提供資産および偶発事象

保証およびコミットメント

当行は、保証およびその他のオフバランス・シート信用商品を利用して、顧客の資金調達ニーズに応じている。

以下の表は、当行が第三者に付与した保証およびコミットメントに関連した信用損失に対する当行の最大エクスポージャーを要約している。保証に係る信用リスクに対する最大エクスポージャーは、保証先がすべて債務不履行になった場合の最大損失リスクであり、遡及条項、保険契約、または保有もしくは受入担保による回収可能性は考慮していない。与信関連コミットメントに係る信用リスクに対する最大エクスポージャーは、コミットメントの全額となる。いずれの場合にも、最大リスク・エクスポージャーは、当行の連結貸借対照表に負債として認識している金額を大幅に上回っている。

(百万カナダドル)	信用損失に対する最大エクスポージャー	
	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
金融保証		
金融スタンドバイ信用状	\$ 17,141	\$ 16,608
与信コミットメント		
流動性補完ファシリティ	40,212	36,305
信用補完	2,664	1,692
荷為替および商業信用状	286	268
その他の与信コミットメント	239,077	225,911
その他の与信関連コミットメント		
有価証券貸付補償	77,953	91,625
履行保証	7,040	7,061
スポンサード・メンバー保証	1,302	-
その他	1,030	787

保証およびコミットメントに関する当行の信用調査のプロセス、担保の要求方針および保有担保の種類は、通常、貸出金と同様である。当行の顧客は、1年以内に当行の保証およびコミットメントの決済を要求または利用する権利を通常有している。ただし、一部の保証については、所定の条件を満たした場合にのみ実行可能となる。この条件については、担保要件と併せて後述している。当行では、保証およびコミットメントのすべてまたはほとんどすべてが1年以内に実行または決済される可能性は極めて低く、契約は実行または決済されずに失効する可能性があると考えている。

金融保証

金融スタンバイ信用状

金融スタンバイ信用状は、顧客が第三者に対する支払債務を履行できない場合に、当行が支払いを行うという取消不能の保証である。一部の保証については、保証先は、顧客が債務不履行でない場合にも当行に支払いを要求できる。これらの保証期間は、通常は5年から7年である。

当該商品に関する当行の担保の要求方針および保有担保の種類は、通常、貸出金と同様である。担保を要求する場合は、借手のリスクおよび取引の詳細に応じて顧客ごとに判断される。担保には、現金、有価証券およびその他の資産が含まれる。

与信コミットメント

流動性補完ファシリティ

流動性補完ファシリティは、当行および第三者が管理するABCP導管体プログラムに対して、当該プログラムがコマーシャル・ペーパー市場にアクセスできない場合、または限られた状況ではあるが、当該プログラム所有の金融資産につき予め定めた業績指標を達成できない場合に、代替的な資金調達源として提供されている。当該流動性ファシリティの平均残存契約期間は、約4年である。

当該流動性補完ファシリティの条件として、当行は、当該プログラムが倒産または破産した場合に融資は求められず、また通常、不良資産または不履行資産の買い取りも要求されない。

信用補完

当行は、当行が管理するマルチセラー型ABCPプログラムに対して、部分信用補完を提供している。これは、満期となるコマーシャル・ペーパーの支払いに対して、原資産の回収および取引ごとの信用補完または流動性ファシリティを合わせても不足があることが判明した場合に、コマーシャル・ペーパーの投資家を保護することを目的として行われている。各資産プールは、当行または各取引に関係する他の第三者の信用補完により、高い投資適格となるべく組成されている。これらの信用ファシリティの平均残存契約期間は、約3年である。

荷為替および商業信用状

荷為替信用状および商業信用状は、当行が顧客のために、特定の条件の下で所定の金額を上限として、第三者が振り出す荷為替手形の引受を確約した書状である。顧客との対象契約に基づいて担保が差し入れられている場合もあれば、第三者の預金またはその他の資産(関係する対象船積商品を含む。)を担保としている場合もある。

その他の与信コミットメント

与信コミットメントは、当行が借手に対する信用供与を一方的に取り消すことができない貸出金、売戻し条件付購入契約、銀行引受手形または信用状の与信枠の未使用部分である。

その他の与信関連コミットメント

有価証券貸付補償

有価証券貸付取引において、当行は、所定の契約条件に基づき、有価証券の有償での貸出しに合意している有価証券所有者の代理人として行動する。借手は常時、借入有価証券の全額につき担保を供する必要がある。この証券保管業務の一環として、有価証券の貸付けを行う顧客に対して補償を提供することがある。この補償は、借手が借入有価証券の返却を行わず、かつ保有担保が当該有価証券の公正価値に満たない場合に、貸付有価証券の公正価値が確実に貸手に返還されることを目的としている。通常、このような補償は利用されずに終了する。貸付有価証券は要求時点で回収可能となるため、補償期間はさまざまである。当行が有価証券貸付取引に関して保有している担保は、通常、現金、カナダ政府、米国政府もしくはその他のOECD加盟国政府が発行もしくは保証している有価証券、または優良な負債性もしくは資本性金融商品である。

履行保証

履行保証は、顧客が特定の非金融契約の義務を履行できない場合に、当行が第三者である受益者に対して支払いを行う取消不能の保証である。このような義務としては、通常、業務契約、サービス契約、契約履行保証、および国際取引に関連する保証がある。これらの保証期間は3年から7年である。

当該商品に関する当行の担保の要求方針および保有担保の種類は、通常、貸出金と同様である。担保を要求する場合は、借手のリスクおよび取引の詳細に応じて顧客ごとに判断される。担保には、現金、有価証券およびその他の資産が含まれる。

スポンサード・メンバー保証

特定の翌日物の買戻し条件付き売却取引および売戻し条件付購入取引において、当行は、証券取引清算機関(以下「FICC」という。)を通じて取引を清算する適格クライアントに対して、スポンサー・メンバーとしての役割を果たしている。当行はまた、FICCに対して、スポンサード・メンバーである当行顧客のFICC規則に基づく各債務の迅速かつ全額の支払いおよび履行を保証している。当該保証は、現金および米国政府が発行または保証する有価証券によって全額担保されている。

補償

通常の事業の過程において、当行は、取引(売買契約、受託、代理、ライセンス供与、保管およびサービス契約、清算システム契約、取引所会員としての参加、取締役/役員契約ならびにリース等)の契約相手先に対して、標準的な契約条件として補償を提供している。これらの補償契約により、法規制(税制を含む。)の変更や取引の結果として契約相手先が被る可能性のある訴訟の賠償もしくは法的処罰により生じる費用を、当行が契約相手先に対して補償する必要が生じる可能性がある。これらの補償条件は、契約内容によって異なる。このような補償契約の特徴により、当行は、契約相手先への支払いの必要が生じる可能性のある潜在的な最大金額を合理的に見積ることはできない。当行はこれまでに、かかる補償に基づく多額の支払いを行った実績はない。

未確約の金額

未確約の金額は、当行が借手に対する信用供与をいつでも一方的に取り消すことができる未使用の信用ファシリティである。これには、個人向けコミットメントと商業コミットメントの両方がある。2020年10月31日現在、未確約の金額の合計残高は、3,170億ドル(2019年10月31日－2,870億ドル)であった。

その他のコミットメント

当行は、直接、または小規模企業投資会社、不動産ファンドおよび低所得者用住宅税額控除ファンドを含む第三者の投資ファンドを通して、非公開企業に投資している。これらのファンドは、通常、クローズド・エンド型のリミテッド・パートナーシップとして組成されており、当行はそのリミテッド・パートナー持分を保有している。2020年10月31日終了年度において、当行には、関連する契約の条件に基づき、これらのパートナーシップの資本金として当行が拠出する義務を負う現金総額である未実行のコミットメント882百万ドル(2019年10月31日－684百万ドル)がある。

担保提供資産および担保

通常の事業の過程で、当行は、連結貸借対照表に計上している通常の貸出、借入およびトレーディング業務において一般的かつ慣習的な条件で、資産を担保に供し、担保契約を締結している。以下は、担保提供資産および担保に係る一般的な条件例である。

- ・担保提供資産のリスクと経済価値は、担保権設定者に属する。
- ・必要な条件を満たした場合、担保提供資産は担保権設定者に返還される。
- ・担保権者が担保提供資産の売却または再担保差入を行う権利は、個々の担保提供契約により決定する。
- ・債務不履行がなかった場合、担保権者は、債務の履行時に担保権設定者に同等資産を返還しなければならない。

当行はまた、大口ネット決済システム(Large Value Transfer System、以下「LVTS」という。)を利用する場合、カナダ銀行に日中担保の差入を求められている。LVTSとは、リアルタイムの電子電信送金システムであり、ここでは、終日カナダドル建ての大口または緊急の支払いに係る全取引の処理が常時行われている。LVTSでの取引に差し入れた担保資産は、通常、日々の決済終了時に返還される。そのため、当該担保提供資産の金額は下記の表に含まれていない。2020年10月31日終了年度において、当行はカナダ銀行に対して、日次平均34億ドル(2019年10月31日－49億ドル)の資産を日中担保として差入れていた。まれに決済上必要な場合に、カナダ銀行から、翌日払いの借入を行う場合がある。この場合、同額の担保資産を当該借入の保証として差し入れている。2020年10月31日および2019年10月31日に行われた翌日払いの借入はなかった。

負債に対する担保提供資産および保有担保資産または再担保提供資産

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年10月31日	2019年10月31日
担保提供資産および担保の調達源		
当行の資産		
貸出金	\$ 99,302	\$ 80,542
有価証券	59,479	55,544
その他の資産	27,934	21,316
	186,715	157,402
顧客の資産(1)		
売却または再担保差入可能な受入担保	438,686	448,338
差引：売却も再担保差入もしていない受入担保	(37,879)	(49,325)
	400,807	399,013
	\$ 587,522	\$ 556,415
担保提供資産および担保の使途		
借入および貸付有価証券	\$ 127,852	\$ 146,590
空売りした有価証券に関連する債務	36,647	34,686
有価証券貸付または買戻し条件付売却有価証券に関連する債務	252,425	229,905
証券化	45,440	47,254
カバード・ボンド	62,131	42,103
デリバティブ取引	35,044	26,448
外国政府および中央銀行	6,456	5,963
清算システム、決済システムおよび預託機関	6,380	4,804
その他	15,147	18,662
	\$ 587,522	\$ 556,415

(1) 主に有価証券貸付または買戻し条件付売却有価証券に関連する債務、有価証券貸付およびデリバティブ取引に関するもの。

[前へ](#)
[次へ](#)

注記25 訴訟

当行は世界的な大手金融機関であり、絶えず変化する多種多様かつ複雑な法規制上の要件が適用される。当行は、様々な管轄区域において、多様な法的手続(民事請求および民事訴訟、規制当局による検査、調査、監査ならびに様々な政府規制機関および捜査当局による情報提供の要請を含む。)の対象となっている。これらの案件の中には、新しい法理論や法解釈を要する場合があります、刑法および民法の下では先進的になり得る可能性がある。その結果、一部の法的手続については、民事上、規制執行上または刑事上の罰則が課される可能性がある。当行は、すべての訴訟手続の状況を継続的に見直し、当行の最善の利益になると当行が考える方法で解決するよう判断を行っている。ここには重要な判断および不確実性が存在し、現在の未払額を考慮した場合に、これらの法的手続に対する当行の財務またはその他のエクスポージャーの度合いが、特定期間の当行の経営成績に対して重要となる可能性がある。以下は、当行の重要な法的手続に関する説明である。

ロンドン銀行間取引金利(以下「LIBOR」という。)に関する規制当局による調査および訴訟

ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよび他の米ドルのパネル銀行は、米ドルLIBORの設定に関して米国で申し立てられた民事訴訟において被告となっており、これには米国ニューヨーク州南部地区連邦地方裁判所において併合された多数の集団訴訟が含まれている。当該民事訴訟の訴状では、米国反トラスト法、米国商品取引法および州法等の様々な米国法に基づき、当行および他のパネル銀行に対して請求の申立が行われている。

当該LIBOR訴訟の他にも、2019年1月、ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびRBCキャピタル・マーケット・エルエルシーを含む多数の金融機関は、ニューヨークにおいて推定集団訴訟を提起された。この訴訟においては、2014年にインターコンチネンタル取引所が英国銀行協会からベンチマーク金利の管理を引き継いだ後に、LIBORの設定において得た不当利益が米国独占禁止法および不文律の原則に違反していたとされる。

2020年3月26日、ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびRBCキャピタル・マーケット・エルエルシーは、ニューヨークにおける推定集団訴訟から除外された。この訴訟においては、2014年にインターコンチネンタル取引所が英国銀行協会からベンチマーク金利の管理を引き継いだ後に、LIBORの設定において得た不当利益が米国独占禁止法および不文律の原則に違反していたとされる。2020年4月24日、原告らは上訴申立書を提出した。現在明らかになっている事実を基に、当行が現時点でこれらの訴訟の最終的な帰結および判決の時期を予測することはできない。

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ・トラスト・カンパニー(バハマ)リミテッド訴訟

2015年4月13日、フランスの調査裁判官は、ロイヤル・バンク・オブ・カナダ・トラスト・カンパニー(バハマ)リミテッド(以下「RBCバハマ」という。)に対して、移送決定(ordonnance de renvoi)の通知を行った。この移送決定は、RBCバハマが受託会社を務めている信託に関して行った行為に関連して遺産税詐欺の共犯の容疑があるとして、RBCバハマとその他の非関連当事者を、フランスの刑事裁判所(tribunal correctionnel)に送検することを命じたものである。RBCバハマは、フランスの法律に違反する行為は行っていないと考えており、フランスの法廷で容疑について争った。2017年1月12日、フランスの裁判所は、RBCバハマを含めたすべての当事者に対して無罪判決を言い渡し、2018年6月29日、フランスの控訴裁判所は無罪を支持した。当該無罪判決は上訴され、2020年11月25日、審理が行われた。裁判所の判決は2021年1月に下される見込みである。

2016年10月28日、ロイヤル・バンク・オブ・カナダは、RBCバハマがフランスにおける訴訟で有罪判決を受ける可能性があるにも関わらず、米国労働省より免除認定を受けた。当該免除認定により、ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよび現在または将来の関連会社は、従業員退職所得保障法(Employee Retirement Income Security Act)に基づいて適格投資顧問業者(以下「QPAM」という。)に関する免除を、有罪判決の日から暫定的に1年間引き続き適用することが認められる。2020年11月3日、米国労働省の労働法務官は、米国以外の法に基づく有罪判決はQPAM免除における欠格事由ではないとする意見を公表した。その意見に基づけば、フランスの裁判所におけるいかなる有罪判決によっても、ロイヤル・バンク・オブ・カナダならびに現在および将来の関連会社は、QPAM免除において欠格にはならないと考えられる。

RBCバハマは、適用される税法その他の法律に基づく債務および潜在的債務を含む、受託者および信託の法的債務の見直しを引き続き行う。現在明らかになっている事実を基に、現時点でこれらの事項の最終的な帰結を予測することはできない。ただし、当行は、当該訴訟が最終的に決着した期間の当行の経営成績に重要な影響を及ぼす可能性はあるものの、連結財政状態に対する重要な影響はないと考えている。

売上交換手数料訴訟

2011年以降、カナダで7件の推定集団訴訟の提訴が開始されている。その7件とは、「バンク・オブ・カナダ・コーポレーション他」、「9085-4886 ケベック・インク対ビザ・カナダ・コーポレーション他」、「コバーン・アンド・ワトソンズ・メトロポリタン・ホーム対バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション他」(以下「ワトソン」という。)、「マカロニーズ・ヘア・クラブおよびレーザー・センター・インク対BofA カナダ・バンク他」、「1023926 アルバータ・リミテッド対バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション他」、「ザ・クラウン&ハンド・パブ・リミテッド対バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション他」および「ハロー・ベイビー・エクイップメント・インク対BofA カナダ・バンク他」である。各訴訟の被告は、ビザ・カナダ・コーポレーション(以下「ビザ」という。)、マスターカード・インターナショナル・インコーポレーテッド(以下「マスターカード」という。)、ロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびその他の金融機関である。集団訴訟の原告メンバーは、ビザおよび/またはマスターカード・ブランドのクレジットカード払いを受け付けているカナダの加盟店である。当該訴訟の主な主張は、2001年3月から現在までビザおよびマスターカードが、カード発行銀行および加盟店獲得会社と共謀して既定の売上交換手数料および加盟店割引料を設定していること、ならびに特定のルール(Honour All Cardsルール(訳者注:同じクレジット会社のカードであればクレジットもデビットも利用できるルール)およびNo Surchargeルール(訳者注:カード加盟店はカード利用者から既定の手数料以外は徴収できないルール))に、加盟店割引料を増やす効果があることである。当該訴訟には、民事共謀、競争法違反、経済関係への介入、および不当利得に関する申立が含まれている。この申立は、金額を特定せず一般的損害賠償および懲罰的損害賠償を求めている。ワトソンの訴訟では、2014年3月27日に当該訴訟を集団訴訟として一部認定する決定が下されたが、上訴された。2015年8月19日にブリティッシュ・コロンビア州控訴裁判所は、中でも、原告集団代表の競争法第45条に基づく訴因については排斥し、同原告集団代表の不正手段による民事共謀の訴因については復活させる判決を下した。2016年10月、ワトソンの第一審裁判所は、競争法第45条に関して排斥された主張を復活させるための原告の申立を却下し、新たな訴因追加申立も却下した。カナダの最高裁判所は、競争法第45条に基づく訴因を排斥する判決の上訴を求めるブリティッシュ・コロンビア州の集団訴訟の原告の申立を棄却した。2020年10月に当事者らはワトソンの訴訟の審理を中断することで合意した。

「9085-4886 ケベック・インク対ビザ・カナダ・コーポレーション他」の訴訟において、ケベックの裁判所は、ケベックの加盟店による競争法に基づく2010年以降の損害賠償請求を棄却し、残りの請求については集団訴訟として認定した。これらの加盟店は上訴し、2019年7月25日にケベック州控訴裁判所は当該上訴を認め、2010年3月12日より後の請求および競争法第49条に基づく請求についても、競争法第45条に基づき加盟店が手続きを進めることを認めた。

外国為替問題

様々な規制当局は、為替取引に関して、ロイヤル・バンク・オブ・カナダを含む多数の銀行の独占禁止法違反の可能性に関する調査を行っている。

2015年以降、米国およびカナダのロイヤル・バンク・オブ・カナダおよび/またはRBCキャピタル・マーケット・エルエルシーに対して、推定集団訴訟が提起されている。当該訴訟は、それぞれ複数の為替ディーラーに対して提起され、特に世界的な為替取引での共謀行動について主張している。2018年8月、米国連邦地方裁判所は、RBCキャピタル・マーケットと集団訴訟の原告との和解案を最終的に承認した。2018年11月、従前に当該和解に参加しないとしていた一部の機関投資家の原告は、米国連邦地方裁判所において独自に訴訟を提起した。2020年5月、米国連邦地方裁判所は、従前に2018年8月の集団訴訟の原告との和解に参加しないとしていた一部の機関投資家の原告が提起した2018年11月の訴訟から、ロイヤル・バンク・オブ・カナダを除外した。カナダにおける複数の集団訴訟および様々な原告集団を代表すると推定されるもう1件の米国の集団訴訟が依然として係属中である。

ロイヤル・バンク・オブ・カナダはその裁量で、いつでも請求、訴訟、または同様の案件を解決することを選択することができる。現在明らかになっている事実を基に、現時点で当該外国為替問題の最終的な帰結および最終的な解決時期を予測することはできない。

その他の案件

当行は、当行の一定の慣行または行為が不適切であったとする多数のその他の訴訟において被告となっている。訴訟は多岐にわたる複雑な問題を含んでおり、その解決時期は様々であり不確実である。経営陣は、当行が評価可能な限りにおいて、これらの訴訟が当行に重要な財務上の影響を及ぼすことなく、最終的に有利に解決すると考えている。ただし、これは重要な判断が必要な領域であり、これらの訴訟による潜在的な負債が特定期間の当行の経営成績に重大な影響を及ぼす可能性がある。

その他、当行の一定の慣行または行為に対して異議申立を行っている、様々なその他の訴訟手続が係属中である。これは重要な判断が必要な領域であり、また一部の案件は現時点では見積不能であるが、当行は、当行が評価可能な限りにおいて、これらのその他の訴訟手続から生じる負債総額が当行の連結財政状態および経営成績にとって重要とはならないと考えている。

注記26 関連当事者取引

関連当事者

関連当事者には、関連のある会社、当行の従業員給付のための退職後給付制度、経営幹部、取締役会(取締役)、経営幹部および取締役の近親者、ならびに経営幹部、取締役またはその近親者が直接または間接的に支配、共同支配、または重要な影響力を有している企業が含まれる。

経営幹部および取締役

経営幹部は、当行の企業活動を直接または間接的に計画し、指示を行い、そして支配する権限および責任を有する者として定義されている。これにはグループ・エグゼクティブ(以下「GE」という。)と称される当行組織の上級メンバーが含まれる。GEは、代表取締役および最高経営責任者、ならびに最高経営責任者に直接報告を行う者(最高総務責任者、最高財務責任者、最高人事責任者、最高リスク管理責任者、ならびにRBCベンチャーズ&コーポレート・デベロップメント、ウェルス・マネジメント、インシュアランス、インベスター&トレジャリー・サービス、キャピタル・マーケット、テクノロジー&オペレーション、パーソナル&コマーシャル・バンキングの各グループ責任者を含む。)で構成されている。取締役は、企業活動の計画、指示、管理は行わず、事業運営について監督し、受託責任を果たしている。

経営幹部および取締役の報酬

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日(1)	2019年10月31日
給与およびその他の短期従業員給付(2)	\$ 21	\$ 26
退職後給付(3)	2	2
株式に基づく報酬	32	44
	\$ 55	\$ 72

- (1) 2020年10月31日終了年度において、2019年10月31日現在で当行のグループ・エグゼクティブのメンバーであった特定の役員が当行から退任したため、経営幹部の一員ではなくなった。2020年10月31日終了年度の報酬のうち、元役員に帰属するものは、給付や過年度に付与された報奨に関連する株式に基づく報酬を含め、27百万ドルであった。
- (2) 年間変動短期インセンティブ賞与のうち、一部の役員がDSUの形での受取りを選択した部分が含まれている。詳細は注記21を参照のこと。取締役は報酬を受領するが、給与やその他の短期従業員給付は受領しない。
- (3) 取締役は退職後給付を受領しない。

経営幹部、取締役およびその近親者が保有するストック・オプション、株式に基づく報酬および株式

(ユニット数を除き、百万カナダドル)	以下の日現在			
	2020年10月31日(1)		2019年10月31日	
	保有ユニット数	価値	保有ユニット数	価値
ストック・オプション(2)	1,912,482	\$ 15	2,372,714	\$ 51
その他のオプション以外の株式に基づく報酬(2)	869,756	81	1,481,096	157
RBCの普通株式および優先株式	206,652	19	463,362	49
	2,988,890	\$ 115	4,317,172	\$ 257

(1) 2020年10月31日終了年度において、2019年10月31日現在で当行のグループ・エグゼクティブのメンバーであった特定の役員が当行から退任したため、経営幹部の一員ではなくなった。彼らが退任時に保有していた株式およびオプションの合計は1,600,184ユニットで、その価値は91百万ドルであった。

(2) 取締役は、ストック・オプションや、その他のオプション以外の株式に基づく報酬を受領しない。

経営幹部、取締役およびその近親者が関与した取引、取決めおよび契約

通常の事業の過程で、当行は、経営幹部、取締役およびその近親者に一定の銀行サービスを提供している。これらの取引は、類似の状況にある者との同等の取引と実質的に同一条件(金利および担保を含む。)で行われ、返済について通常を上回るリスクはなく、他に不利な点もなかった。

2020年10月31日現在、経営幹部、取締役およびその近親者に対する貸出金の合計は、6百万ドル(2019年10月31日－8百万ドル)であった。当行は2020年10月31日現在および同日終了年度ならびに2019年10月31日現在および同日終了年度において、これらの貸出金にかかるステージ3の信用損失引当金は計上していない。経営幹部、取締役またはその近親者に対する保証、担保およびコミットメントは提供されていない。

共同支配企業および関連会社

通常の事業の過程で、当行は、共同支配企業および関連会社に、貸出金、有利子・無利子の預金等の一定の銀行および金融サービスを提供している。これらの取引は、関連当事者との取引の定義を満たしており、第三者との同等の取引と実質的に同一条件で行われた。

2020年10月31日現在、共同支配企業および関連会社に対する貸出金は215百万ドル(2019年10月31日－222百万ドル)であった。共同支配企業および関連会社からの預金は15百万ドル(2019年10月31日－180百万ドル)であった。当行は2020年10月31日現在および同日終了年度ならびに2019年10月31日現在および同日終了年度において、共同支配企業および関連会社への貸出金にかかるステージ3の信用損失引当金は計上していない。2020年10月31日終了年度において、共同支配企業および関連会社に対する保証の提供は1百万ドル(2019年10月31日－1百万ドル)であった。

共同支配企業および関連会社が関与するその他の取引、取決めまたは契約

(百万カナダドル)	以下の日現在または同日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
コミットメントおよびその他の偶発事象	\$ 589	\$ 430
提供したサービスに対して受け取ったその他の手数料	43	47
提供されたサービスに対して支払ったその他の手数料	117	128

注記27 事業セグメント別業績

事業セグメントの構成

当行は、管理上、提供する商品およびサービスに基づき、5つの事業セグメント(すなわち、パーソナル&コマーシャル・バンキング、ウェルス・マネジメント、インシュアランス、インベスター&トレジャリー・サービスおよびキャピタル・マーケット)に分けている。

パーソナル&コマーシャル・バンキングは、個人や法人の日々の銀行、投資および融資へのニーズに対して、2つの事業(すなわち、カナディアン・バンキングおよびカリブ海地域&米国バンキング)を通じて様々な金融商品およびサービスを提供している。カナダにおいて、当行は、大規模な支店ネットワーク、現金自動預払機、およびモバイル営業ネットワークを通じて、様々な金融商品およびサービスを提供している。カリブ海地域および米国では、対象とする市場において様々な金融商品およびサービスを提供している。パーソナル&コマーシャル・バンキングの「利息以外の収益」は主に、サービス手数料、投資信託報酬およびカード・サービス収益から構成される。

ウェルス・マネジメントは、富裕層や超富裕層の個人および法人顧客に対して、カナディアン・ウェルス・マネジメント、USウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)、グローバル・アセット・マネジメントおよびインターナショナル・ウェルス・マネジメントを含む、カナダ、米国、英国、ヨーロッパおよびアジアにおける当行の事業分野を通じて、財務上の目標達成を支援するための助言ベースのソリューションおよび戦略を総合的に提供している。ウェルス・マネジメントの「利息以外の収益」は主に、投資運用および保管手数料、投資信託報酬ならびに有価証券委託手数料から構成される。

インシュアランスは、カナダおよび世界において事業を展開しており、2つの事業分野(すなわち、カナディアン・インシュアランスおよびインターナショナル・インシュアランス)により運営して、生命保険、医療保険、住宅保険、自動車保険、旅行保険、貯蓄保険、年金保険および再保険に関する幅広い助言やソリューションならびに信用保険や企業保険サービスを個人、法人および団体顧客に提供している。カナダにおいて、当行は、自社の販売網(外交販売員、相談センターおよびオンラインから構成)や、独立した保険アドバイザーおよびアフィニティ関係を通じて、商品およびサービスを提供している。カナダ以外では、当行は再保険および再々保険市場で事業を行い、生命保険、傷害保険および長寿保険の再保険商品をグローバルに提供している。インシュアランスの「利息以外の収益」は主に、保険料、投資および手数料収入から構成される。

インベスター&トレジャリー・サービスは、世界中の機関投資家に資產業務、キャッシュ・マネジメント業務、トランザクション・バンキング業務およびトレジャリー業務を提供している。また当行は、世界中の金融機関にカナダドルのキャッシュ・マネジメント、コルレス銀行業務および貿易金融サービスを提供しており、当行の短期資金調達および流動性管理業務を行っている。インベスター&トレジャリー・サービスの「利息以外の収益」は主に、投資運用および保管手数料から構成される。

キャピタル・マーケットは、世界中の企業、機関投資家、資産運用会社、政府、および中央銀行に対して、当行の主要な2つの事業分野(コーポレート・アンド・インベストメント・バンキングおよびグローバル・マーケット)を通じてバンキング、ファイナンスおよびキャピタル・マーケットの専門知識を提供している。北米では、あらゆる種類の商品およびサービスを提供しており、これには、法人向け銀行業務および投資銀行業務、資本性および負債性金融商品の組成および販売、ならびに営業および売買が含まれる。北米以外では、英国およびヨーロッパ、オーストラリア、アジアならびにその他の市場の限定的な地域に進出している。英国およびヨーロッパでは、エネルギー、鉱業およびインフラ、工業、コンシューマー、ヘルスケア、テクノロジーならびに金融サービス等の当行が専門知識を有する主要分野において多様な業務を提供している。キャピタル・マーケットの「利息以外の収益」は主に、「トレーディング収益」、「引受業務およびその他のアドバイザリー手数料」ならびに「与信手数料」から構成される。

これらの5つの事業セグメントに配分されない全社レベルのその他業務(全社の資金調達、証券化、未配分資本に係る費用純額および連結調整(課税対象ベース(以下「Teb」という。))により総額表示された金額の消去を含む。)等)はすべて、コーポレート・サポートに含まれている。Teb調整により、税務上一定の優遇措置のある所得(カナダの課税対象の法人配当金およびキャピタル・マーケットで計上された米国の税額控除対象投資)に係る受取収益については、法人所得税引当金から控除される実効税額相当につき、総額表示を行っている。経営陣は、キャピタル・マーケットの管理方法を反映させ、当行の課税所得と優遇措置が適用される所得による収入の比較可能性を高めるために、当該Teb調整は必要と考えている。当行のTeb調整の適用は、他の金融機関の同種の調整額と同等ではない場合がある。2020年10月31日終了年度のTeb調整は、513百万ドル(2019年10月31日—450百万ドル)であった。

地域別セグメント

地域別セグメント報告について、当行のセグメントは、カナダ、米国およびその他国外に区分されている。取引は、主に、経済状況の不利な変動に起因するリスクや経済の有利な変化に起因する成長見込みを最も反映する所在地で記録される。この所在地は、事業を行っている法人および顧客の所在地と一致することが多い。取引は現地通貨で計上され、カナダドルの変動に関して為替レートの変動の影響を受ける。

マネジメント・レポーティングの枠組み

当行のマネジメント・レポーティングの枠組みは、各事業セグメントの業績をそれぞれが単独の事業であるかのように測定することを目的とし、当該事業セグメントの管理方法を反映している。このアプローチでは、当行の事業セグメントの業績が、これらの事業の遂行に関連するすべての収益および費用を含み、これらの結果を経営陣がどのように考えるかを描写するものとなることを目的としている。当行は、セグメントの業績を定期的にモニターし、資源配分や業績評価に関する意思決定を行っている。これらの事項は、当行の連結業績には影響しない。

各事業セグメントの費用には、直接発生した、または事業セグメントのために全社レベルで提供された費用またはサービスが含まれる。当行のいずれの事業セグメントにも直接帰属しないその他の費用については、マネジメント・レポーティングの枠組みを適用している。この枠組みは、諸経費および間接費の事業セグメントへの配賦にあたり仮定および手法を用い、さらに継続的に経済的コストの測定を行い、当該コストを特定の事業セグメントの便益とリスクに関連付けることで、事業セグメントへの資本配分や資金振替を行う際に有用となる。当行の事業セグメント間の活動および事業は、通常、市場相場で行われている。当行の5つの事業セグメントに配分されないその他の全社レベルの業務はすべて、コーポレート・サポートに報告されている。

マネジメント・レポーティングの枠組みに用いた当行の仮定および手法が継続して妥当であることを確かめるべく、当行が定期的に再検討を実施している。資本の配分手法は多くの仮定を伴う。この仮定について、定期的に見直しを行っている。

2020年10月31日終了年度											
(百万カナダドル)	パーソナル &コマー シャル・バ ンキング	ウェルズ・ マネジメン ト	インシュア ランス	インベス ター&トレ ジャーリー・ サービス	キャピタ ル・マー ケッツ(1)	コーポレー ト・サポー ト(1)	合計	カナダ	米国	その他 国外	
受取利息純額(2)	\$ 12,568	\$ 2,860	\$ -	\$ 329	\$ 5,135	\$ (57)	\$ 20,835	\$ 14,185	\$ 4,959	\$ 1,691	
利息以外の収益	5,163	9,360	5,361	1,982	4,749	(269)	26,346	13,510	6,775	6,061	
収益合計	17,731	12,220	5,361	2,311	9,884	(326)	47,181	27,695	11,734	7,752	
信用損失引当金繰 入額	2,891	214	-	6	1,239	1	4,351	2,881	949	521	
保険契約者に対す る給付、保険金 および新契約費	-	-	3,683	-	-	-	3,683	1,993	-	1,690	
利息以外の費用	7,946	9,212	592	1,589	5,362	57	24,758	12,513	8,380	3,865	
税引前純利益(損 失)	6,894	2,794	1,086	716	3,283	(384)	14,389	10,308	2,405	1,676	
法人所得税(還付)	1,807	639	255	180	507	(436)	2,952	2,516	209	227	
当期純利益	\$ 5,087	\$ 2,155	\$ 831	\$ 536	\$ 2,776	\$ 52	\$ 11,437	\$ 7,792	\$ 2,196	\$ 1,449	
利息以外の費用は 以下を含む：											
減価償却費およ び償却費	\$ 929	\$ 879	\$ 58	\$ 217	\$ 517	\$ 6	\$ 2,606	\$ 1,587	\$ 725	\$ 294	
その他の無形資 産の減損	-	1	-	7	6	28	42	40	1	1	
資産合計	\$ 509,679	\$ 129,706	\$ 21,253	\$ 230,695	\$ 688,054	\$ 45,161	\$ 1,624,548	\$ 911,932	\$ 431,473	\$ 281,143	
資産合計は以下を 含む：											
有形固定資産お よび無形資産 の増加	\$ 722	\$ 704	\$ 46	\$ 101	\$ 452	\$ 559	\$ 2,584	\$ 1,454	\$ 706	\$ 424	
負債合計	\$ 509,682	\$ 129,673	\$ 21,311	\$ 230,618	\$ 688,314	\$ (41,817)	\$ 1,537,781	\$ 825,034	\$ 431,570	\$ 281,177	

2019年10月31日終了年度											
(百万カナダドル)	パーソナル &コマー シャル・バ ンキング	ウェルス・ マネジメン ト	インシュア ランス	インベス ター&トレ ジャーリー・ サービス	キャピタ ル・マー ケッツ(1)	コーポレー ト・サポー ト(1)	合計	カナダ	米国	その他 国外	
受取利息純額(2)	\$ 12,653	\$ 2,993	\$ -	\$ (44)	\$ 4,043	\$ 104	\$ 19,749	\$ 14,375	\$ 4,058	\$ 1,316	
利息以外の収益	5,212	9,150	5,710	2,389	4,245	(453)	26,253	14,037	6,411	5,805	
収益合計	17,865	12,143	5,710	2,345	8,288	(349)	46,002	28,412	10,469	7,121	
信用損失引当金繰 入額	1,448	117	-	-	299	-	1,864	1,512	282	70	
保険契約者に対す る給付、保険金 および新契約費	-	-	4,085	-	-	-	4,085	2,800	-	1,285	
利息以外の費用	7,768	8,813	606	1,725	5,096	131	24,139	12,175	7,994	3,970	
税引前純利益(損 失)	8,649	3,213	1,019	620	2,893	(480)	15,914	11,925	2,193	1,796	
法人所得税(還付)	2,247	663	213	145	227	(452)	3,043	2,748	133	162	
当期純利益	\$ 6,402	\$ 2,550	\$ 806	\$ 475	\$ 2,666	\$ (28)	\$ 12,871	\$ 9,177	\$ 2,060	\$ 1,634	
利息以外の費用は 以下を含む：											
減価償却費およ び償却費	\$ 632	\$ 593	\$ 48	\$ 143	\$ 408	\$ -	\$ 1,824	\$ 1,176	\$ 486	\$ 162	
その他の無形資 産の減損	-	-	-	44	2	64	110	20	54	36	
資産合計	\$ 481,720	\$ 106,579	\$ 19,012	\$ 144,406	\$ 634,313	\$ 42,905	\$ 1,428,935	\$ 753,142	\$ 399,792	\$ 276,001	
資産合計は以下を 含む：											
有形固定資産お よび無形資産 の増加	\$ 408	\$ 565	\$ 44	\$ 142	\$ 491	\$ 621	\$ 2,271	\$ 1,326	\$ 669	\$ 276	
負債合計	\$ 481,745	\$ 106,770	\$ 19,038	\$ 144,378	\$ 634,126	\$ (40,747)	\$ 1,345,310	\$ 669,543	\$ 399,800	\$ 275,967	

(1) 課税対象ベース。

(2) 当行は業績指標として主に受取利息純額を用いているため、受取利息は支払利息控除後で報告されている。

注記28 金融商品に起因するリスクの性質および範囲

当行は、金融商品の保有によって、信用リスク、市場リスク、流動性リスクおよび資金調達リスクにさらされている。当行のリスク測定ならびにこれらのリスクを管理するための目的、方針および手法は、「第一部 第3 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「信用リスク」の項のアスタリスク(*)を個別に付した表および網掛け部分の本文で開示されている。これらの網掛け部分の本文および表は、当連結財務諸表の不可欠な一部である。

信用リスクの集中は、当行の多くの取引相手先が類似の事業を営んでいるか、同じ地域に所在するか、または経済特性が類似するために、契約義務を履行する能力が、経済、政治またはその他の状況の変化により同様の影響を受ける場合に存在する。

信用リスクの集中は、変化が特定の業種または地域に影響を与える場合、当該変化に対する当行の業績の感応度を示すものである。当行の一定のオンバランスおよびオフバランス・シートの金融商品に係る信用エクスポージャーの額は、以下の表に要約されている。

(%)の数値を除き、百万カナダドル)	2020年10月31日現在							
	カナダ	%	米国	%	ヨーロッパ	%	その他 国外	% 合計
デリバティブ以外のオンバランス・シート 資産(1)	\$ 688,945	69%	\$ 200,521	20%	\$ 68,058	7%	\$ 40,736	4% \$ 998,260
マスター・ネットティング契約前の デリバティブ(2),(3)	22,761	20%	28,074	24%	56,229	49%	8,185	7% 115,249
	\$ 711,706	64%	\$ 228,595	21%	\$ 124,287	11%	\$ 48,921	4% \$1,113,509
オフバランス・シート信用商品(4)								
確定金額および未確定金額(5)	\$ 394,732	66%	\$ 162,589	27%	\$ 34,892	6%	\$ 6,535	1% \$ 598,748
その他	62,329	60%	12,697	12%	27,232	26%	2,208	2% 104,466
	\$ 457,061	65%	\$ 175,286	25%	\$ 62,124	9%	\$ 8,743	1% \$ 703,214

(%)の数値を除き、百万カナダドル)	2019年10月31日現在							
	カナダ	%	米国	%	ヨーロッパ	%	その他 国外	% 合計
デリバティブ以外のオンバランス・シート 資産(1)	\$ 646,567	69%	\$ 189,240	20%	\$ 60,554	6%	\$ 50,642	5% \$ 947,003
マスター・ネットティング契約前の デリバティブ(2),(3)	19,544	19%	23,250	23%	53,752	52%	6,421	6% 102,967
	\$ 666,111	64%	\$ 212,490	20%	\$ 114,306	11%	\$ 57,063	5% \$1,049,970
オフバランス・シート信用商品(4)								
確定金額および未確定金額(5)	\$ 367,907	67%	\$ 148,326	27%	\$ 29,462	5%	\$ 5,774	1% \$ 551,469
その他	67,410	58%	15,246	13%	31,934	28%	1,491	1% 116,081
	\$ 435,317	65%	\$ 163,572	25%	\$ 61,396	9%	\$ 7,265	1% \$ 667,550

- (1) 売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金、貸出金ならびに手形引受見返が含まれている。カナダにおける最大の集中は、オンタリオ56%(2019年10月31日-56%)、プレイリーズ16%(2019年10月31日-16%)、ブリティッシュ・コロンビアおよび準州14%(2019年10月31日-14%)ならびにケベック10%(2019年10月31日-10%)であった。オンバランスの信用商品合計の25%(2019年10月31日-35%)超を占める業種はなかった。当行のセクターの分類は、業種別の信用リスクに関する当行の見解と整合している。
- (2) リスク格付けおよび取引相手先別の当行のデリバティブのエクスポージャーの詳細は注記8に記載されている。
- (3) 一括管理された評価調整は除外されている。
- (4) 残高は、当行の信用リスクに対する最大エクスポージャーを表す契約上の金額である。
- (5) 当行の信用リスクに対する最大エクスポージャーを表している。リテールおよびホールセールのコミットメントは、当行のコミットメント総額のうち、それぞれ46%および54%(2019年10月31日-43%および57%)を占めている。ホールセールのポートフォリオにおける最大の集中は、金融サービス15%(2019年10月31日-13%)、公益事業12%(2019年10月31日-11%)、不動産および不動産関連10%(2019年10月31日-9%)、その他のサービス8%(2019年10月31日-7%)、ならびに石油およびガス7%(2019年10月31日-7%)である。当行のセクターの分類は、業種別の信用リスクに関する当行の見解と整合している。

注記29 資本管理

規制自己資本および自己資本比率

OSFIは、カナダの預金受入機関に関して、リスクベースの資本およびレバレッジの目標を公式に設定している。当行は、自己資本比率をバーゼルⅢの枠組みを用いて計算することを要求されている。バーゼルⅢでは、規制自己資本には、普通株式等Tier 1 (以下「CET 1」という。)資本、Tier 1 資本およびTier 2 資本が含まれる。CET 1 資本は、主に普通株式、利益剰余金およびその他の資本項目から構成される。バーゼルⅢに基づく規制上の調整項目としては、のれんおよびその他の無形資産、一定の繰延税金資産、確定給付年金資産、銀行、金融会社および保険会社に対する出資、ならびに予想損失に対する引当不足の控除がある。Tier 1 資本は、主にCET 1 と、その他Tier 1 項目(一定の基準を満たす非累積型優先株式およびLRCNを含む。)から構成される。Tier 2 資本には、一定の基準を満たす劣後無担保社債、一定の貸出金に係る信用損失引当金および子会社のTier 2 商品に対する非支配持分が含まれる。総自己資本は、Tier 1 資本とTier 2 資本の合計である。

規制自己資本比率は、CET 1 資本、Tier 1 資本および総自己資本を、リスク調整後資産で除して算出される。レバレッジ比率は、Tier 1 資本をエクスポージャー額で除して算定する。エクスポージャー額は、総資産(Tier 1 資本の控除項目は除く。)と、信用エクスポージャー相当額に換算した一定のオフバランス項目から構成される。デリバティブおよび担保付資金調達取引についても、信用リスクおよびその他のリスクを反映させるための調整を行う。

2020年度および2019年度において、当行は、OSFIが課す、国内安定化バッファ(domestic stability buffer)を含むすべての資本要件およびレバレッジ要件を満たしている。

以下の日現在		
	2020年10月31日	2019年10月31日
(%の数値および別段の記載がある場合を除き、百万カナダドル)		
自己資本(1)		
CET 1 資本	\$ 68,082	\$ 62,184
Tier 1 資本	74,005	67,861
総自己資本	84,928	77,888
自己資本比率の計算に用いたリスク調整後資産(以下「RWA」という。)(1)		
信用リスク	\$ 448,821	\$ 417,835
市場リスク	27,374	28,917
オペレーショナル・リスク	70,047	66,104
RWA合計	\$ 546,242	\$ 512,856
自己資本比率およびレバレッジ比率(1)		
CET 1 資本比率	12.5%	12.1%
Tier 1 資本比率	13.5%	13.2%
総自己資本比率	15.5%	15.2%
レバレッジ比率	4.8%	4.3%
レバレッジ比率エクスポージャー(単位：十億カナダドル)	\$ 1,552.9	\$ 1,570.5

(1) 自己資本、RWAおよび自己資本比率は、OSFIの自己資本比率規制(以下「CAR」という。)ガイドラインを用いて計算し、レバレッジ比率は、OSFIのレバレッジ要件(以下「LR」という。)ガイドラインを用いて計算している。このガイドラインは、COVID-19のパンデミックに対応するために、OSFIが2020年度に公表した規制上のガイダンスに従ってアップデートされている。CARガイドラインとLRガイドラインはいずれもバーゼルIIIの枠組みに基づいている。

注記30 金融資産と金融負債の相殺

当行の連結貸借対照表上相殺を行っているのは、金融資産と金融負債が強制可能な相殺の権利を現在与えるマスター・ネットティング契約の対象となっており、かつ、当該資産と負債を純額で決済するか当該資産の実現と負債の決済を同時に実行する意図を有している場合である。デリバティブ契約ならびに買戻しおよび売戻し条件付契約については、これらの契約から生じるキャッシュ・フローの差金決済を常時行う市場の決済機能(例：中央清算機関または決済機関)が存在する場合に、通常、相殺している。受入証拠金および差入証拠金は、市場の決済機能を通じて同時決済されるため、通常、相殺している。

相殺の要件を満たさない額としては、マスター・ネットティング契約のうち、債務不履行またはその他の所定の事象の発生時に限り、同一相手先との取引残高の相殺が可能となるものがある。当該マスター・ネットティング契約には、デリバティブ契約に係る国際スワップ・デリバティブ協会マスター・ネットティング契約または一定のデリバティブ取引所あるいは清算機関との契約、ならびに買戻し条件付き契約、売戻し条件付契約、その他類似の担保付貸出および借入契約に係る国際買戻標準契約および国際証券貸借標準契約が含まれる。

受入または差入金融担保のうち、マスター・ネットティング契約または類似の契約の対象であるが相殺の要件を満たさないものとは、債務不履行時または所定の事象の発生時に担保が実行できる、契約相手先との間の正味エクスポージャーのカバーを目的として受領または差し入れた担保である。担保の一部については、債務不履行または他の所定の事象が発生しない限り、売却または再担保差入が制限されている。

以下の表は、連結貸借対照表上相殺している金融商品の金額、ならびに相殺の要件を満たしていないが強制可能なマスター・ネットting契約または類似の契約の対象となっている金額を示している。当該表示金額は、信用リスクに対する当行の実際のエクスポージャーを表すことを意図したものではない。

相殺、強制可能なマスター・ネットting契約または類似の契約の対象となっている金融資産

2020年10月31日現在									
相殺および強制可能なネットting契約の対象となっている金額									
(百万カナダドル)	貸借対照表 上の相殺前 の金融資産 の総額	貸借対照表 上相殺して いる金融負 債の金額	貸借対照表 上表示して いる金融資 産の純額	マスター・ ネットting 契約の 影響	受入金融 担保(2)	差引額	マスター・ネットting 契約または類似の契 約の対象ではあるが、 貸借対照表上の相殺要 件を満たさない金額(1)	強制可能な ネットting 契約の 対象でない 金額	貸借対照表 上認識して いる合計額
売戻し条件付購入資 産および借入有価 証券担保金	\$ 347,327	\$ 35,783	\$ 311,544	\$ 36	\$ 310,128	\$ 1,380		\$ 1,471	\$ 313,015
デリバティブ資産 (3)	99,535	657	98,878	69,300	18,627	10,951		14,610	113,488
その他の金融資産	445	192	253	2	50	201		-	253
	\$ 447,307	\$ 36,632	\$ 410,675	\$ 69,338	\$ 328,805	\$ 12,532		\$ 16,081	\$ 426,756

2019年10月31日現在									
相殺および強制可能なネットting契約の対象となっている金額									
(百万カナダドル)	貸借対照表 上の相殺前 の金融資産 の総額	貸借対照表 上相殺して いる金融負 債の金額	貸借対照表 上表示して いる金融資 産の純額	マスター・ ネットting 契約の 影響	受入金融 担保(2)	差引額	マスター・ネットting 契約または類似の契 約の対象ではあるが、 貸借対照表上の相殺要 件を満たさない金額(1)	強制可能な ネットting 契約の 対象でない 金額	貸借対照表 上認識して いる合計額
売戻し条件付購入資 産および借入有価 証券担保金	\$ 374,617	\$ 69,420	\$ 305,197	\$ 527	\$ 303,539	\$ 1,131		\$ 1,764	\$ 306,961
デリバティブ資産 (3)	88,996	710	88,286	62,524	15,458	10,304		13,274	101,560
その他の金融資産	994	281	713	1	89	623		-	713
	\$ 464,607	\$ 70,411	\$ 394,196	\$ 63,052	\$ 319,086	\$ 12,058		\$ 15,038	\$ 409,234

- (1) 金融担保は公正価値で表示している。金融商品および金融担保の開示金額は、貸借対照表上の正味エクスポージャーが上限であり、超過担保は上記の表から除外されている。
- (2) 現金担保152億ドル(2019年10月31日－116億ドル)および現金以外の担保3,136億ドル(2019年10月31日－3,075億ドル)が含まれている。
- (3) 貸借対照表上デリバティブ残高と相殺されている証拠金49億ドル(2019年10月31日－36億ドル)が含まれている。

相殺、強制可能なマスター・ネットティング契約または類似の契約の対象となっている金融負債

2020年10月31日現在									
相殺および強制可能なネットティング契約の対象となっている金額									
(百万カナダドル)	貸借対照表 上の相殺前 の金融負債 の総額	貸借対照表 上相殺して いる金融資 産の金額	貸借対照表 上表示して いる金融負 債の純額	マスター・ ネットティ ング契約の 影響	差入金融 担保(2)	差引額	マスター・ネット ティング契約または類似の契 約の対象ではあるが、 貸借対照表上の相殺要 件を満たさない金額(1)	強制可能な ネットティ ング契約の 対象でない 金額	貸借対照表 上認識して いる合計額
買戻し条件付売却資 産および貸付有価 証券に関連する債 務	\$ 309,130	\$ 35,783	\$ 273,347	\$ 36	\$ 272,871	\$ 440	\$ 884	\$ 274,231	
デリバティブ負債 (3)	96,138	657	95,481	69,300	16,232	9,949	14,446	109,927	
その他の金融負債	358	192	166	2	-	164	-	166	
	\$ 405,626	\$ 36,632	\$ 368,994	\$ 69,338	\$ 289,103	\$ 10,553	\$ 15,330	\$ 384,324	

2019年10月31日現在									
相殺および強制可能なネットティング契約の対象となっている金額									
(百万カナダドル)	貸借対照表 上の相殺前 の金融負債 の総額	貸借対照表 上相殺して いる金融資 産の金額	貸借対照表 上表示して いる金融負 債の純額	マスター・ ネットティ ング契約の 影響	差入金融 担保(2)	差引額	マスター・ネット ティング契約または類似の契 約の対象ではあるが、 貸借対照表上の相殺要 件を満たさない金額(1)	強制可能な ネットティ ング契約の 対象でない 金額	貸借対照表 上認識して いる合計額
買戻し条件付売却資 産および貸付有価 証券に関連する債 務	\$ 294,758	\$ 69,420	\$ 225,338	\$ 527	\$ 224,506	\$ 305	\$ 1,248	\$ 226,586	
デリバティブ負債 (3)	84,624	710	83,914	62,524	13,540	7,850	14,629	98,543	
その他の金融負債	492	281	211	1	-	210	-	211	
	\$ 379,874	\$ 70,411	\$ 309,463	\$ 63,052	\$ 238,046	\$ 8,365	\$ 15,877	\$ 325,340	

(1) 金融担保は公正価値で表示している。金融商品および金融担保の開示金額は、貸借対照表上の正味エクスポージャーが上限であり、超過担保は上記の表から除外されている。

(2) 現金担保135億ドル(2019年10月31日－115億ドル)および現金以外の担保2,756億ドル(2019年10月31日－2,265億ドル)が含まれている。

(3) 貸借対照表上デリバティブ残高と相殺されている証拠金20億ドル(2019年10月31日－13億ドル)が含まれている。

注記31 貸借対照表に計上されている資産および負債の回収および決済

以下の表は、当行の連結貸借対照表に計上されている資産および負債につき、契約上の満期またはその他の一定の假定(以下の脚注に概要を記載)を基に、貸借対照表日現在における1年以内および1年超の回収または決済予定額ごとに内訳を記載したものである。必要に応じて、当行は、様々な商品の流動性リスクを、過去の行動パターン(契約上の満期と一致しているとは限らない。)を基に管理している。以下の1年以内の回収または決済予定額は、特定の貸借対照表項目の流動性特性に関する当行の長期的な見解を反映していない可能性がある。

(百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	1年以内	1年超	合計	1年以内	1年超	合計
資産						
現金および預け金(1)	\$ 117,375	\$ 1,513	\$ 118,888	\$ 24,822	\$ 1,488	\$ 26,310
利付銀行預け金	39,013	-	39,013	38,345	-	38,345
有価証券						
トレーディング(2)	126,309	9,762	136,071	137,772	8,762	146,534
投資(関連する引当金を除く)	34,728	105,015	139,743	17,283	85,187	102,470
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	313,013	2	313,015	306,828	133	306,961
貸出金						
リテール	97,223	360,753	457,976	108,382	317,704	426,086
ホールセール	51,296	157,359	208,655	48,737	147,133	195,870
信用損失引当金			(5,639)			(3,100)
個別分離運用型基金資産純額	-	1,922	1,922	-	1,663	1,663
その他						
手形引受見返	18,507	-	18,507	18,062	-	18,062
デリバティブ(2)	110,217	3,271	113,488	99,792	1,768	101,560
有形固定資産	-	7,934	7,934	-	3,191	3,191
のれん	-	11,302	11,302	-	11,236	11,236
その他の無形資産	-	4,752	4,752	-	4,674	4,674
その他の資産	46,953	11,968	58,921	38,775	10,298	49,073
	\$ 954,634	\$ 675,553	\$1,624,548	\$ 838,798	\$ 593,237	\$1,428,935

(百万カナダドル)	以下の日現在					
	2020年10月31日			2019年10月31日		
	1年以内	1年超	合計	1年以内	1年超	合計
負債						
預金(3)	\$ 852,734	\$ 159,151	\$1,011,885	\$ 719,933	\$ 166,072	\$ 886,005
個別分離運用型基金負債純額	-	1,922	1,922	-	1,663	1,663
その他						
手形引受	18,618	-	18,618	18,091	-	18,091
空売りした有価証券に関連する債務	26,754	2,531	29,285	32,668	2,401	35,069
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務	269,260	4,971	274,231	226,582	4	226,586
デリバティブ(2)	108,407	1,520	109,927	97,415	1,128	98,543
未払保険金および保険給付負債	1,798	10,417	12,215	1,726	9,675	11,401
その他の負債	48,844	20,987	69,831	41,612	16,525	58,137
劣後無担保社債	-	9,867	9,867	1,999	7,816	9,815
	\$1,326,415	\$ 211,366	\$1,537,781	\$1,140,026	\$ 205,284	\$1,345,310

- (1) 現金および預け金は、当行が使用できない現金残高を除き、1年以内に回収されると仮定されている。
- (2) FVTPLで測定されるものに分類されるトレーディング有価証券、およびトレーディング目的のデリバティブは1年以内として表示されているが、これは、殆どの場合この表示が、当行のトレーディング活動の短期的な性質を最も良く表すためである。トレーディング目的以外のデリバティブは、ヘッジ取引の回収または決済に従って表示されている。
- (3) 要求払い預金5,110億ドル(2019年10月31日-4,050億ドル)は、契約に基づき、要求に応じて、または直前の通知により払戻しが可能であることから、1年以内として表示されている。実際には、これらの預金は、当行の事業および流動性ニーズの安定した基盤を形成している幅広い個人および顧客タイプに関連している。

注記32 親会社の情報

以下の表は、持分法で表示した子会社を含めた、法人であるロイヤル・バンク・オブ・カナダに関する情報を示している。

要約貸借対照表

(百万カナダドル)	以下の日現在	
	2020年 10月31日	2019年 10月31日
資産		
現金および預け金	\$ 109,397	\$ 14,264
利付銀行預け金	21,603	22,279
有価証券	146,524	118,716
銀行子会社および関連会社に対する投資(1)	41,029	37,234
その他の子会社および関連会社に対する投資	76,358	73,785
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金	134,037	123,755
貸出金(信用損失引当金控除後)	554,173	526,078
その他の資産	171,622	152,422
	\$1,254,743	\$1,068,533
負債および株主持分		
預金	\$ 782,637	\$ 681,509
銀行子会社に対する債務純額(1)	42,157	2,678
その他の子会社に対する債務純額	36,421	36,594
その他の負債	297,261	254,678
	1,158,476	975,459
劣後無担保社債	9,603	9,551
株主持分	86,664	83,523
	\$1,254,743	\$1,068,533

(1) 銀行とは、主として規制を受ける預金受入機関および証券会社をいう。

要約損益計算書および包括利益計算書

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
受取利息および受取配当金(1)	\$ 23,596	\$ 27,630
支払利息	9,548	14,966
受取利息純額	14,048	12,664
利息以外の収益(2)	4,792	5,569
収益合計	18,840	18,233
信用損失引当金繰入額	3,888	1,730
利息以外の費用	9,580	9,212
税引前利益	5,372	7,291
法人所得税	1,139	1,568
当期純利益(子会社の未分配利益に対する持分考慮前)	4,233	5,723
子会社の未分配利益に対する持分	7,199	7,137
当期純利益	\$ 11,432	\$ 12,860
その他の包括利益(損失)、税引後	(1,137)	(1,441)
その他の包括利益合計	\$ 10,295	\$ 11,419

(1) 子会社および関連会社に対する投資の受取配当金27百万ドル(2019年10月31日－27百万ドル)が含まれている。

(2) 関連会社の利益(損失)に対する名目持分(2019年10月31日－名目持分)が含まれている。

要約キャッシュ・フロー計算書

(百万カナダドル)	以下の日に終了した年度	
	2020年10月31日	2019年10月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
当期純利益	\$ 11,432	\$ 12,860
営業活動による正味キャッシュを算定するための調整:		
子会社の未分配利益の増減	(7,199)	(7,137)
預金の増減(証券化に係る預金を除く)	101,128	39,238
貸出金の増減(証券化された貸出金を除く)	(30,833)	(31,744)
トレーディング有価証券の増減	404	2,350
買戻し条件付売却資産および貸付有価証券に関連する債務の増減	26,716	12,449
売戻し条件付購入資産および借入有価証券担保金の増減	(10,282)	(15,814)
空売りした有価証券に関連する債務の増減	(3,032)	797
その他の営業活動、純額	685	(8,149)
営業活動による(に使用された)正味キャッシュ	89,019	4,850
投資活動によるキャッシュ・フロー		
利付銀行預け金の増減	676	(2,018)
投資有価証券の売却および満期償還による収入	74,849	37,963
投資有価証券の購入	(101,551)	(39,461)
有形固定資産およびその他の無形資産の取得純額	(1,243)	(1,266)
子会社に対する投資額の増減	1,484	332
子会社に対する資金提供純額の増減	39,306	4,616
投資活動による(に使用された)正味キャッシュ	13,521	166
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後無担保社債の発行	2,750	1,500
劣後無担保社債の返済	(3,000)	(1,100)
普通株式の発行(発行費用控除後)	70	105
消却を目的とした普通株式の購入	(814)	(1,030)
優先株式およびその他の資本性金融商品の発行(発行費用控除後)	1,745	350
優先株式およびその他の資本性金融商品の償還	(1,508)	(950)
株式に係る配当金支払額およびその他の資本性金融商品に係る分配金支払額	(6,333)	(6,025)
リース負債の返済	(317)	
財務活動による(使用された)正味キャッシュ	(7,407)	(7,150)
現金および預け金の純増減	95,133	(2,134)
現金および預け金の期首残高	14,264	16,398
現金および預け金の期末残高	\$ 109,397	\$ 14,264
キャッシュ・フロー情報の補足開示		
利息支払額	\$ 10,335	\$ 14,574
利息受取額	22,340	25,883
配当金受取額	1,977	1,694
法人所得税支払額	917	1,789

注記33 後発事象

2020年11月2日、当行は、キャピタル・ノート1口当たり1,000ドルで、LRCNシリーズ2を1,250百万ドル発行した。当該キャピタル・ノートには、第三者の受託者が連結対象信託に保管している資産に限定した求償権が付されている。LRCNシリーズ2に関する信託資産は、当行の非累積型5年配当率リセット第1優先株式シリーズBR(以下「シリーズBR」という。)1,250百万ドルで構成されており、当行のシリーズBRは1株当たり1,000ドルでLRCNシリーズ2と同時に発行された。LRCNシリーズ2は、2026年2月24日までは年率4%の固定金利で、それ以降2081年2月24日の満期までは5年物カナダ国債利回りに3.617%を上乗せしたレートと等しい年率(5年ごとにリセットされる)で、利息が付されている。

[前へ](#)

[次へ](#)

財務報告に係る内部統制の経営者報告書

ロイヤル・バンク・オブ・カナダの経営者は、財務報告に関する適切な内部統制を確立し、維持する責任を有している。財務報告に係る内部統制は、財務報告の信頼性、および国際会計基準審議会が公表した国際財務報告基準に準拠した外部報告目的の財務諸表の作成に関し、合理的な保証を提供するために、総裁兼最高経営責任者および最高財務責任者により整備、または監督が行われ、取締役会、経営者および他の者により実施される手続である。当社の財務報告に係る内部統制には、以下の方針および手続が含まれる。

- ・当社の資産に関連する取引および資産の処分を、合理的に詳細、正確かつ適正に反映する記録の維持に係するもの、
- ・一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠した財務諸表の作成に必要な取引が記録されていることについて、また当社の収入および支出が当社の経営者および取締役の承認に基づいてのみ発生していることについて、合理的な保証を提供するもの、ならびに
- ・財務諸表に重要な影響を与える可能性のある当社の資産の未承認の取得、使用または処分の防止または適時発見に関して合理的な保証を提供するもの。

財務報告に係る内部統制には固有の限界があることから、虚偽の表示が適時に防止または発見されない可能性がある。また、将来の期間における財務報告に係る内部統制の有効性の評価の予測には、状況の変化により統制が不十分になるリスク、または方針もしくは手続の遵守の程度が低下するリスクが存在する。

当社の経営者は、総裁兼最高経営責任者および最高財務責任者の監督および参加の下、トレッドウェイ委員会組織委員会が公表した「*内部統制の統合的枠組み(2013年版)*」に定められている規準に基づいて、2020年10月31日現在の当社の財務報告に係る内部統制の有効性を評価した。その評価に基づいて、経営者は、「*内部統制の統合的枠組み(2013年版)*」に定められた規準に基づく2020年10月31日現在の当社の財務報告に係る内部統制は有効であったと判断した。

2020年10月31日現在の当社の財務報告に係る内部統制の有効性は、本書に含まれる独立登録会計事務所の監査報告書に記載の通り、独立登録会計事務所であるプライスウォーターハウスクーパース エルエルピーの監査を受けている。

デビッド・I・マッケイ
総裁兼最高経営責任者

ロッド・ボルジャー
最高財務責任者

トロント市
2020年12月 1 日

[前へ](#) [次へ](#)

Consolidated Balance Sheets

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31 2020	October 31 2019
Assets		
Cash and due from banks	\$ 118,888	\$ 26,310
Interest-bearing deposits with banks	39,013	38,345
Securities (Note 4)		
Trading	136,071	146,534
Investment, net of applicable allowance	139,743	102,470
	275,814	249,004
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	313,015	306,961
Loans (Note 5)		
Retail	457,976	426,086
Wholesale	208,655	195,870
	666,631	621,956
Allowance for loan losses (Note 5)	(5,639)	(3,100)
	660,992	618,856
Segregated fund net assets (Note 16)	1,922	1,663
Other		
Customers' liability under acceptances	18,507	18,062
Derivatives (Note 8)	113,488	101,560
Premises and equipment (Note 9)	7,934	3,191
Goodwill (Note 10)	11,302	11,236
Other intangibles (Note 10)	4,752	4,674
Other assets (Note 13)	58,921	49,073
	214,904	187,796
Total assets	\$ 1,624,548	\$ 1,428,935
Liabilities and equity		
Deposits (Note 14)		
Personal	\$ 343,052	\$ 294,732
Business and government	624,311	565,482
Bank	44,522	25,791
	1,011,885	886,005
Segregated fund net liabilities (Note 16)	1,922	1,663
Other		
Acceptances	18,618	18,091
Obligations related to securities sold short	29,285	35,069
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	274,231	226,586
Derivatives (Note 8)	109,927	98,543
Insurance claims and policy benefit liabilities (Note 15)	12,215	11,401
Other liabilities (Note 18)	69,831	58,137
	514,107	447,827
Subordinated debentures (Note 19)	9,867	9,815
Total liabilities	1,537,781	1,345,310
Equity attributable to shareholders		
Preferred shares and other equity instruments (Note 20)	5,945	5,707
Common shares (Note 20)	17,499	17,587
Retained earnings	59,806	55,981
Other components of equity	3,414	4,248
	86,664	83,523
Non-controlling interests	103	102
Total equity	86,767	83,625
Total liabilities and equity	\$ 1,624,548	\$ 1,428,935

The accompanying notes are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

David I. McKay
President and Chief Executive Officer

Frank Vettese
Director

Consolidated Statements of Income

	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
(Millions of Canadian dollars, except per share amounts)		
Interest and dividend income (Note 3)		
Loans	\$ 23,420	\$ 24,863
Securities	6,488	6,827
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	4,668	8,960
Deposits and other	307	683
	34,883	41,333
Interest expense (Note 3)		
Deposits and other	8,783	12,988
Other liabilities	4,985	8,231
Subordinated debentures	280	365
	14,048	21,584
Net interest income	20,835	19,749
Non-interest income		
Insurance premiums, investment and fee income (Note 15)	5,361	5,710
Trading revenue	1,239	995
Investment management and custodial fees	6,101	5,748
Mutual fund revenue	3,712	3,628
Securities brokerage commissions	1,439	1,305
Service charges	1,842	1,907
Underwriting and other advisory fees	2,319	1,815
Foreign exchange revenue, other than trading	1,012	986
Card service revenue	969	1,072
Credit fees	1,321	1,269
Net gains on investment securities	90	125
Share of profit in joint ventures and associates (Note 12)	77	76
Other	864	1,617
	26,346	26,253
Total revenue	47,181	46,002
Provision for credit losses (Notes 4 and 5)	4,351	1,864
Insurance policyholder benefits, claims and acquisition expense (Note 15)	3,683	4,085
Non-interest expense		
Human resources (Note 17 and 25)	15,252	14,600
Equipment	1,907	1,777
Occupancy	1,660	1,635
Communications	989	1,090
Professional fees	1,330	1,305
Amortization of other intangibles (Note 10)	1,273	1,197
Other	2,347	2,535
	24,758	24,139
Income before income taxes	14,389	15,914
Income taxes (Note 22)	2,952	3,043
Net income	\$ 11,437	\$ 12,871
Net income attributable to:		
Shareholders	\$ 11,432	\$ 12,860
Non-controlling interests	5	11
	\$ 11,437	\$ 12,871
Basic earnings per share (in dollars) (Note 23)	\$ 7.84	\$ 8.78
Diluted earnings per share (in dollars) (Note 23)	7.82	8.75
Dividends per common share (in dollars)	4.29	4.07

The accompanying notes are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

Consolidated Statements of Comprehensive Income

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Net income	\$ 11,437	\$ 12,871
Other comprehensive income (loss), net of taxes (Note 22)		
Items that will be reclassified subsequently to income:		
Net change in unrealized gains (losses) on debt securities and loans at fair value through other comprehensive income		
Net unrealized gains (losses) on debt securities and loans at fair value through other comprehensive income	(24)	192
Provision for credit losses recognized in income	13	(14)
Reclassification of net losses (gains) on debt securities and loans at fair value through other comprehensive income to income	(161)	(133)
	(172)	45
Foreign currency translation adjustments		
Unrealized foreign currency translation gains (losses)	810	65
Net foreign currency translation gains (losses) from hedging activities	(397)	5
Reclassification of losses (gains) on foreign currency translation to income	(21)	2
Reclassification of losses (gains) on net investment hedging activities to income	21	1
	413	73
Net change in cash flow hedges		
Net gains (losses) on derivatives designated as cash flow hedges	(1,145)	(559)
Reclassification of losses (gains) on derivatives designated as cash flow hedges to income	72	(135)
	(1,073)	(694)
Items that will not be reclassified subsequently to income:		
Remeasurements of employee benefit plans	(68)	(942)
Net fair value change due to credit risk on financial liabilities designated at fair value through profit or loss	(263)	51
Net gains (losses) on equity securities designated at fair value through other comprehensive income	28	25
	(303)	(866)
Total other comprehensive income (loss), net of taxes	(1,135)	(1,442)
Total comprehensive income (loss)	\$ 10,302	\$ 11,429
Total comprehensive income attributable to:		
Shareholders	\$ 10,295	\$ 11,419
Non-controlling interests	7	10
	\$ 10,302	\$ 11,429

The accompanying notes are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

Consolidated Statements of Changes in Equity

	For the year ended October 31, 2020											
	Other components of equity											
	Preferred shares and other equity instruments	Common shares	Treasury – shares and instruments	Treasury shares – common	Retained earnings	FVOCI securities and loans	Foreign currency translation	Cash flow hedges	Total other components of equity	Equity attributable to shareholders	Non-controlling interests	Total equity
(Millions of Canadian dollars)												
Balance at beginning of period	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (58)	\$ 55,981	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,523	\$ 102	\$ 83,625
Transition adjustment (Note 2)	–	–	–	–	(107)	–	–	–	–	–	–	(107)
Adjusted balance at beginning of period	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (58)	\$ 55,874	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,416	\$ 102	\$ 83,518
Changes in equity												
Issues of share capital and other equity instruments	1,750	80	–	–	(5)	–	–	–	–	1,825	–	1,825
Common shares purchased for cancellation	–	(97)	–	–	(717)	–	–	–	–	(814)	–	(814)
Redemption of preferred shares and other equity instruments	(1,508)	–	–	–	–	–	–	–	–	(1,508)	–	(1,508)
Sales of treasury shares and other equity instruments	–	–	110	4,668	–	–	–	–	–	4,778	–	4,778
Purchases of treasury shares and other equity instruments	–	–	(114)	(4,739)	–	–	–	–	–	(4,853)	–	(4,853)
Share-based compensation awards	–	–	–	–	(3)	–	–	–	–	(3)	–	(3)
Dividends on common shares	–	–	–	–	(6,111)	–	–	–	–	(6,111)	–	(6,111)
Dividends on preferred shares and distributions on other equity instruments	–	–	–	–	(268)	–	–	–	–	(268)	(6)	(274)
Other	–	–	–	–	(93)	–	–	–	–	(93)	–	(93)
Net income	–	–	–	–	11,432	–	–	–	–	11,432	5	11,437
Total other comprehensive income (loss), net of taxes	–	–	–	–	(303)	(172)	411	(1,073)	(834)	(1,137)	2	(1,135)
Balance at end of period	\$ 5,948	\$ 17,628	\$ (3)	\$ (129)	\$ 59,806	\$ (139)	\$ 4,632	\$ (1,079)	\$ 3,414	\$ 86,664	\$ 103	\$ 86,767

For the year ended October 31, 2019

	Other components of equity											
	Preferred shares and other equity instruments	Common shares	Treasury – preferred shares and other equity instruments	Treasury shares – common	Retained earnings	FVOCI securities and loans	Foreign currency translation	Cash flow hedges	Total other components attributable to equity shareholders	Non-controlling interests	Total equity	
(Millions of Canadian dollars)												
Balance at beginning of period (Note 2)	\$ 6,306	\$ 17,635	\$ 3	\$ (18)	\$ 51,018	\$ (12)	\$ 4,147	\$ 658	\$ 4,823	\$ 79,767	\$ 94	\$ 79,861
Changes in equity												
Issues of share capital and other equity instruments	350	136	–	–	–	–	–	–	–	486	–	486
Common shares purchased for cancellation	–	(126)	–	–	(904)	–	–	–	–	(1,030)	–	(1,030)
Redemption of preferred shares and other equity instruments	(950)	–	–	–	–	–	–	–	–	(950)	–	(950)
Sales of treasury shares and other equity instruments	–	–	182	5,340	–	–	–	–	–	5,522	–	5,522
Purchases of treasury shares and other equity instruments	–	–	(184)	(5,380)	–	–	–	–	–	(5,564)	–	(5,564)
Share-based compensation awards	–	–	–	–	(23)	–	–	–	–	(23)	–	(23)
Dividends on common shares	–	–	–	–	(5,840)	–	–	–	–	(5,840)	–	(5,840)
Dividends on preferred shares and distributions on other equity instruments	–	–	–	–	(269)	–	–	–	–	(269)	(2)	(271)
Other	–	–	–	–	5	–	–	–	–	5	–	5
Net income	–	–	–	–	12,860	–	–	–	–	12,860	11	12,871
Total other comprehensive income (loss), net of taxes	–	–	–	–	(866)	45	74	(694)	(575)	(1,441)	(1)	(1,442)
Balance at end of period	\$ 5,706	\$ 17,645	\$ 1	\$ (56)	\$ 55,981	\$ 33	\$ 4,221	\$ (6)	\$ 4,248	\$ 83,523	\$ 102	\$ 83,625

The accompanying notes are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

Consolidated Statements of Cash Flows

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Cash flows from operating activities		
Net income	\$ 11,437	\$ 12,871
Adjustments for non-cash items and others		
Provision for credit losses	4,351	1,864
Depreciation	1,333	627
Deferred income taxes	(586)	(519)
Amortization and impairment of other intangibles	1,315	1,307
Net changes in investments in joint ventures and associates	(73)	(74)
Losses (Gains) on investment securities	(218)	(213)
Losses (Gains) on disposition of business	8	(158)
Adjustments for net changes in operating assets and liabilities		
Insurance claims and policy benefit liabilities	814	1,401
Net change in accrued interest receivable and payable	(142)	199
Current income taxes	18	(26)
Derivative assets	(11,928)	(7,521)
Derivative liabilities	11,384	8,305
Trading securities	10,377	(18,276)
Loans, net of securitizations	(45,639)	(42,672)
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	(6,054)	(12,359)
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	47,645	19,772
Obligations related to securities sold short	(5,784)	2,822
Deposits, net of securitizations	126,826	49,808
Brokers and dealers receivable and payable	2,301	(480)
Other	(8,566)	(2,413)
Net cash from (used in) operating activities	138,819	14,265
Cash flows from investing activities		
Change in interest-bearing deposits with banks	(676)	(1,874)
Proceeds from sales and maturities of investment securities	113,286	65,377
Purchases of investment securities	(149,516)	(72,435)
Net acquisitions of premises and equipment and other intangibles	(2,629)	(2,261)
Proceeds from dispositions	-	173
Cash used in acquisitions	(22)	(106)
Net cash from (used in) investing activities	(39,557)	(11,126)
Cash flows from financing activities		
Issuance of subordinated debentures	2,750	1,500
Repayment of subordinated debentures	(3,000)	(1,100)
Issue of common shares, net of issuance costs	70	105
Common shares purchased for cancellation	(814)	(1,030)
Issue of preferred shares and other equity instruments, net of issuance costs	1,745	350
Redemption of preferred shares and other equity instruments	(1,508)	(950)
Sales of treasury shares	4,778	5,522
Purchases of treasury shares	(4,853)	(5,564)
Dividends paid on shares and distributions paid on other equity instruments	(6,333)	(6,025)
Dividends/distributions paid to non-controlling interests	(6)	(2)
Change in short-term borrowings of subsidiaries	13	(263)
Repayment of lease liabilities	(588)	-
Net cash from (used in) financing activities	(7,746)	(7,457)
Effect of exchange rate changes on cash and due from banks	1,062	419
Net change in cash and due from banks	92,578	(3,899)
Cash and due from banks at beginning of period (i)	26,310	30,209
Cash and due from banks at end of period (ii)	\$ 118,888	\$ 26,310
Cash flows from operating activities include:		
Amount of interest paid	\$ 13,058	\$ 19,984
Amount of interest received	33,244	39,500
Amount of dividends received	2,753	2,209
Amount of income taxes paid	2,880	2,977

(i) We are required to maintain balances with central banks and other regulatory authorities. The total balances were \$2.5 billion as at October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$2.6 billion; October 31, 2008 – \$2.4 billion).

The accompanying notes are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

Note 1 General information

Royal Bank of Canada and its subsidiaries (the Bank) provide diversified financial services including Personal and Commercial Banking, Wealth Management, Insurance, Investor and Treasury Services and Capital Markets products and services on a global basis. Refer to Note 27 for further details on our business segments.

The parent bank, Royal Bank of Canada, is a Schedule I Bank under the Bank Act (Canada) incorporated and domiciled in Canada. Our corporate headquarters are located at Royal Bank Plaza, 200 Bay Street, Toronto, Ontario, Canada and our head office is located at 1 Place Ville-Marie, Montreal, Quebec, Canada. Our common shares are listed on the Toronto Stock Exchange and New York Stock Exchange with the ticker symbol RY.

These Consolidated Financial Statements are prepared in compliance with International Financial Reporting Standards (IFRS) as issued by the International Accounting Standards Board (IASB). Unless otherwise stated, monetary amounts are stated in Canadian dollars. Tabular information is stated in millions of dollars, except as noted. These Consolidated Financial Statements also comply with Subsection 308 of the Bank Act (Canada), which states that, except as otherwise specified by the Office of the Superintendent of Financial Institutions Canada (OSFI), our Consolidated Financial Statements are to be prepared in accordance with IFRS. Except where otherwise noted, the accounting policies outlined in Note 2 have been consistently applied to all periods presented.

On December 1, 2020, the Board of Directors authorized the Consolidated Financial Statements for issue.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments

The significant accounting policies used in the preparation of these Consolidated Financial Statements, including the accounting requirements prescribed by OSFI, are summarized below. These accounting policies conform, in all material respects, to IFRS. Except where otherwise noted, the same accounting policies have been applied to all periods presented.

General**Use of estimates and assumptions**

In preparing our Consolidated Financial Statements, management is required to make subjective estimates and assumptions that affect the reported amount of assets, liabilities, net income and related disclosures. Estimates made by management are based on historical experience and other assumptions that are believed to be reasonable. Key sources of estimation uncertainty include: determination of fair value of financial instruments, the allowance for credit losses, insurance claims and policy benefit liabilities, pensions and other post-employment benefits, income taxes, carrying value of goodwill and other intangible assets, and litigation provisions. Accordingly, actual results may differ from these and other estimates thereby impacting our future Consolidated Financial Statements. Refer to the relevant accounting policies in this Note for details on our use of estimates and assumptions.

Significant judgments

In preparation of these Consolidated Financial Statements, management is required to make significant judgments that affect the carrying amounts of certain assets and liabilities, and the reported amounts of revenues and expenses recorded during the period.

The COVID-19 pandemic continues to evolve and the economic environment in which we operate continues to be subject to sustained volatility, which could continue to negatively impact our financial results, as the duration of the COVID-19 pandemic and the effectiveness of steps undertaken by governments and central banks in response to the COVID-19 pandemic remain uncertain. The current environment requires particularly complex judgments and estimates in certain areas. We are closely monitoring the changing conditions and their impacts.

Significant judgments have been made in the following areas and discussed as noted in the Consolidated Financial Statements:

Consolidation of structured entities	Note 2 Note 7	Application of the effective interest method	Note 2
Fair value of financial instruments	Note 2 Note 3	Derecognition of financial assets	Note 2 Note 6
Allowance for credit losses	Note 2 Note 4 Note 5	Income taxes	Note 2 Note 22
Employee benefits	Note 2 Note 17	Provisions	Note 2 Note 24 Note 25
Goodwill and other intangibles	Note 2 Note 10		

Basis of consolidation

Our Consolidated Financial Statements include the assets and liabilities and results of operations of the parent company, Royal Bank of Canada, and its subsidiaries including certain structured entities, after elimination of intercompany transactions, balances, revenues and expenses.

Consolidation

Subsidiaries are those entities, including structured entities, over which we have control. We control an entity when we are exposed, or have rights, to variable returns from our involvement with the entity and have the ability to affect those returns through our power over the investee. We have power over an entity when we have existing rights that give us the current ability

to direct the activities that most significantly affect the entity's returns (relevant activities). Power may be determined on the basis of voting rights or, in the case of structured entities, other contractual arrangements.

We are not deemed to control an entity when we exercise power over an entity in an agency capacity. In determining whether we are acting as an agent, we consider the overall relationship between us, the investee and other parties to the arrangement with respect to the following factors: (i) the scope of our decision-making power; (ii) the rights held by other parties; (iii) the remuneration to which we are entitled; and (iv) our exposure to variability of returns.

The determination of control is based on the current facts and circumstances and is continuously assessed. In some circumstances, different factors and conditions may indicate that different parties control an entity depending on whether those factors and conditions are assessed in isolation or in totality. Significant judgment is applied in assessing the relevant factors and conditions in totality when determining whether we control an entity. Specifically, judgment is applied in assessing whether we have substantive decision-making rights over the relevant activities and whether we are exercising our power as a principal or an agent.

We consolidate all subsidiaries from the date we obtain control and cease consolidation when an entity is no longer controlled by us. Our consolidation conclusions affect the classification and amount of assets, liabilities, revenues and expenses reported in our Consolidated Financial Statements.

Non-controlling interests in subsidiaries that we consolidate are shown on our Consolidated Balance Sheets as a separate component of equity which is distinct from equity attributable to our shareholders. The net income attributable to non-controlling interests is separately disclosed in our Consolidated Statements of Income.

Investments in joint ventures and associates

Our investments in associated corporations and limited partnerships over which we have significant influence are accounted for using the equity method. The equity method is also applied to our interests in joint ventures over which we have joint control. Under the equity method of accounting, investments are initially recorded at cost, and the carrying amount is increased or decreased to recognize our share of the investee's net profit or loss, including our proportionate share of the investee's Other comprehensive income (OCI), subsequent to the date of acquisition.

Non-current assets held for sale and discontinued operations

Non-current assets (and disposal groups) are classified as held for sale if their carrying amounts will be recovered principally through a sale transaction rather than through continuing use. This condition is satisfied when the asset is available for immediate sale in its present condition, management is committed to the sale, and it is highly probable to occur within one year. Non-current assets (and disposal groups) classified as held for sale are measured at the lower of their previous carrying amount and fair value less costs to sell and if significant, are presented separately from other assets on our Consolidated Balance Sheets.

A disposal group is classified as a discontinued operation if it meets the following conditions: (i) it is a component that can be distinguished operationally and financially from the rest of our operations and (ii) it represents either a separate major line of business or is part of a single co-ordinated plan to dispose of a separate major line of business or geographical area of operations. Disposal groups classified as discontinued operations are presented separately from our continuing operations in our Consolidated Statements of Income.

Changes in accounting policies

Leases

During the first quarter of 2020, we adopted IFRS 16 *Leases* (IFRS 16) replacing the previous accounting standard for leases, IAS 17 *Leases* (IAS 17) and changed our accounting policies for leases as indicated below. As permitted by the transition provisions for IFRS 16, we elected not to restate comparative period results; accordingly, all comparative information is presented in accordance with our previous accounting policies, as indicated below. New or amended disclosures have been provided for the current period, where applicable, and comparative period disclosures are consistent with those made in the prior year.

Interest Rate Benchmark Reform

During the first quarter of 2020, we early adopted amendments to IFRS 9 *Financial Instruments*, IAS 39 *Financial Instruments: Recognition and Measurement* and IFRS 7 *Financial Instruments: Disclosures* (Amendments), applicable from November 1, 2019. These amendments modify certain hedge accounting requirements to provide relief from the effect of uncertainty caused by interest rate benchmark reform (the Reform) prior to the transition to alternative interest rates. The adoption of the Amendments also introduced additional disclosure requirements. Refer to Note 8 for the notional amount of the hedging instruments which are impacted by the Reform.

We will cease to apply these Amendments as interbank offered rate (IBOR) based cash flows transition to new risk free rates or when the hedging relationships to which the relief is applied are discontinued as indicated below.

IFRS Interpretations Committee Interpretation 23 Uncertainty over income tax treatments (IFRIC 23)

During the first quarter of 2020, we adopted IFRIC 23 which provides guidance on the recognition and measurement of tax assets and liabilities under IAS 12 *Income taxes* when there is uncertainty over income tax treatments, replacing our application of IAS 37 *Provisions, contingent liabilities and contingent assets* for uncertain tax positions as indicated below. The adoption of IFRIC 23 had no impact on our consolidated financial statements.

Financial Instruments

Classification of financial assets

Financial assets are measured at initial recognition at fair value, and are classified and subsequently measured at fair value through profit or loss (FVTPL), fair value through other comprehensive income (FVOCI) or amortized cost based on our business model for managing the financial instruments and the contractual cash flow characteristics of the instrument.

Debt instruments are measured at amortized cost if both of the following conditions are met and the asset is not designated as FVTPL: (a) the asset is held within a business model that is Held-to-Collect (HTC) as described below, and (b) the contractual terms of the instrument give rise to cash flows that are solely payments of principal and interest on the principal amount outstanding (SPPI).

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

Debt instruments are measured at FVOCI if both of the following conditions are met and the asset is not designated as FVTPL: (a) the asset is held within a business model that is Held-to-Collect-and-Sell (HTC&S) as described below, and (b) the contractual terms of the instrument give rise, on specified dates, to cash flows that are SPPI.

All other debt instruments are measured at FVTPL.

Equity instruments are measured at FVTPL, unless the asset is not held for trading purposes and we make an irrevocable election to designate the asset as FVOCI. This election is made on an instrument-by-instrument basis.

Business model assessment

We determine our business models at the level that best reflects how we manage portfolios of financial assets to achieve our business objectives. Judgment is used in determining our business models, which is supported by relevant, objective evidence including:

- How the economic activities of our businesses generate benefits, for example through trading revenue, enhancing yields or hedging funding or other costs and how such economic activities are evaluated and reported to key management personnel;
- The significant risks affecting the performance of our businesses, for example, market risk, credit risk, or other risks as described in the Risk Management section of Management's Discussion and Analysis, and the activities undertaken to manage those risks;
- Historical and future expectations of sales of the loans or securities portfolios managed as part of a business model; and
- The compensation structures for managers of our businesses, to the extent that these are directly linked to the economic performance of the business model.

Our business models fall into three categories, which are indicative of the key strategies used to generate returns:

- **HTC:** The objective of this business model is to hold loans and securities to collect contractual principal and interest cash flows. Sales are incidental to this objective and are expected to be insignificant or infrequent.
- **HTC&S:** Both collecting contractual cash flows and sales are integral to achieving the objective of the business model.
- **Other fair value business models:** These business models are neither HTC nor HTC&S, and primarily represent business models where assets are held-for-trading or managed on a fair value basis.

SPPI assessment

Instruments held within a HTC or HTC&S business model are assessed to evaluate if their contractual cash flows are comprised of solely payments of principal and interest. SPPI payments are those which would typically be expected from basic lending arrangements. Principal amounts include par repayments from lending and financing arrangements, and interest primarily relates to basic lending returns, including compensation for credit risk and the time value of money associated with the principal amount outstanding over a period of time. Interest can also include other basic lending risks and costs (for example, liquidity risk, servicing or administrative costs) associated with holding the financial asset for a period of time, and a profit margin.

Where the contractual terms introduce exposure to risk or variability of cash flows that are inconsistent with a basic lending arrangement, the related financial asset is classified and measured at FVTPL.

Securities

Trading securities include all securities that are classified as FVTPL by nature and securities designated as FVTPL. Obligations to deliver trading securities sold but not yet purchased are recorded as liabilities and carried at fair value. Realized and unrealized gains and losses on these securities are generally recorded as Trading revenue or Non-interest income – Other. Dividends and interest income accruing on Trading securities are recorded in Interest income. Interest and dividends accrued on interest-bearing and equity securities sold short are recorded in Interest expense.

Investment securities include all securities classified as FVOCI and amortized cost. All investment securities are initially recorded at fair value and subsequently measured according to the respective classification.

Investment securities carried at amortized cost are measured using the effective interest method, and are presented net of any allowance for credit losses, calculated in accordance with our policy for Allowance for credit losses, as described below. Interest income, including the amortization of premiums and discounts on securities measured at amortized cost are recorded in interest income. Impairment gains or losses recognized on amortized cost securities are recorded in Provision for credit losses (PCL). When a debt instrument measured at amortized cost is sold, the difference between the sale proceeds and the amortized cost of the security at the time of the sale is recorded as Net gains on Investment securities in Non-interest income.

Debt securities carried at FVOCI are measured at fair value with unrealized gains and losses arising from changes in fair value included in Other components of equity. Impairment gains and losses are included in PCL and correspondingly reduce the accumulated changes in fair value included in Other components of equity. When a debt instrument measured at FVOCI is sold, the cumulative gain or loss is reclassified from Other components of equity to Net gains on Investment securities in Non-interest income.

Equity securities carried at FVOCI are measured at fair value. Unrealized gains and losses arising from changes in fair value are recorded in Other components of equity and not subsequently reclassified to profit or loss when realized. Dividends from FVOCI equity securities are recognized in Interest income.

We account for all of our securities using settlement date accounting and changes in fair value between the trade date and settlement date are reflected in income for securities measured at FVTPL, and changes in the fair value of securities measured at FVOCI between the trade and settlement dates are recorded in OCI except for changes in foreign exchange rates on debt securities, which are recorded in Non-interest income-Other.

Fair value option

A financial instrument with a reliably measurable fair value can be designated as FVTPL (the fair value option) on its initial recognition even if the financial instrument was not acquired or incurred principally for the purpose of selling or repurchasing. The fair value option can be used for financial assets if it eliminates or significantly reduces a measurement or recognition inconsistency that would otherwise arise from measuring assets or liabilities, or recognizing related gains and losses on a

different basis (an accounting mismatch). The fair value option can be elected for financial liabilities if: (i) the election eliminates an accounting mismatch; (ii) the financial liability is part of a portfolio that is managed on a fair value basis, in accordance with a documented risk management or investment strategy; or (iii) there is an embedded derivative in the financial or non-financial host contract and the derivative is not closely related to the host contract. These instruments cannot be reclassified out of the FVTPL category while they are held or issued.

Financial assets designated as FVTPL are recorded at fair value and any unrealized gain or loss arising due to changes in fair value is included in Trading revenue or Non-interest income – Other, depending on our business purpose for holding the financial asset.

Financial liabilities designated as FVTPL are recorded at fair value and fair value changes attributable to changes in our own credit risk are recorded in OCI. Own credit risk amounts recognized in OCI will not be reclassified subsequently to net income. The remaining fair value changes not attributable to changes in our own credit risk are recorded in Trading revenue or Non-interest income – Other, depending on our business purpose for holding the financial liability. Upon initial recognition, if we determine that presenting the effects of own credit risk changes in OCI would create or enlarge an accounting mismatch in net income, the full fair value change in our debt designated as FVTPL is recognized in net income. To make that determination, we assess whether we expect that the effects of changes in the liability's credit risk will be offset in profit or loss by a change in the fair value of another financial instrument measured at FVTPL. Such an expectation is based on an economic relationship between the characteristics of the liability and the characteristics of the other financial instrument. The determination is made at initial recognition and is not reassessed. To determine the fair value adjustments on our debt instruments designated as FVTPL, we calculate the present value of the instruments based on the contractual cash flows over the term of the arrangement by using our effective funding rate at the beginning and end of the period.

Determination of fair value

The fair value of a financial instrument is the price that would be received to sell an asset or paid to transfer a liability in an orderly transaction between market participants at the measurement date. We determine fair value by incorporating all factors that market participants would consider in setting a price, including commonly accepted valuation approaches.

The Board of Directors provides oversight on valuation of financial instruments, primarily through the Audit Committee and Risk Committee. The Audit Committee reviews the presentation and disclosure of financial instruments that are measured at fair value, while the Risk Committee assesses the adequacy of governance structures and control processes for the valuation of these instruments.

We have established policies, procedures and controls for valuation methodologies and techniques to ensure that fair value is reasonably estimated. Major valuation processes and controls include, but are not limited to, profit and loss decomposition, independent price verification (IPV) and model validation standards. These control processes are managed by either Finance or Group Risk Management and are independent of the relevant businesses and their trading functions. Profit and loss decomposition is a process to explain the fair value changes of certain positions and is performed daily for trading portfolios. All fair value instruments are subject to IPV, a process whereby trading function valuations are verified against external market prices and other relevant market data. Market data sources include traded prices, brokers and price vendors. We give priority to those third-party pricing services and prices having the highest and most consistent accuracy. The level of accuracy is determined over time by comparing third-party price values to traders' or system values, to other pricing service values and, when available, to actual trade data. Quoted prices for identical instruments from pricing services or brokers are generally not adjusted unless there are issues such as stale prices. If multiple quotes for identical instruments are received, fair value is based on an average of the prices received or the quote from the most reliable vendor, after the outlier prices that fall outside of the pricing range are removed. Other valuation techniques are used when a price or quote is not available. Some valuation processes use models to determine fair value. We have a systematic and consistent approach to control the use of models. Valuation models are approved for use within our model risk management framework. The framework addresses, among other things, model development standards, validation processes and procedures and approval authorities. Model validation ensures that a model is suitable for its intended use and sets parameters for its use. All models are revalidated regularly by qualified personnel who are independent of the model design and development. Annually our model risk profile is reported to the Board of Directors.

IFRS 13 *Fair Value Measurement* permits an exception, through an accounting policy choice, to measure the fair value of a portfolio of financial instruments on a net open risk position basis when certain criteria are met. We have elected to use this policy choice to determine the fair value of certain portfolios of financial instruments, primarily derivatives, based on a net exposure to market or credit risk.

We record valuation adjustments to appropriately reflect counterparty credit quality of our derivative portfolio, differences between the actual counterparty collateral discount curve and standard overnight index swap (OIS) discounting for collateralized derivatives, funding valuation adjustments (FVA) for uncollateralized and under-collateralized over-the-counter (OTC) derivatives, unrealized gains or losses at inception of the transaction, bid-offer spreads, unobservable parameters and model limitations. These adjustments may be subjective as they require significant judgment in the input selection, such as implied probability of default (PD) and recovery rate, and are intended to arrive at a fair value that is determined based on assumptions that market participants would use in pricing the financial instrument. The realized price for a transaction may be different from its recorded value, previously estimated using management judgment. Valuation adjustments may therefore impact unrealized gains and losses recognized in Non-interest income – Trading revenue or Other.

Valuation adjustments are recorded for the credit risk of our derivative portfolios in order to arrive at their fair values. Credit valuation adjustments (CVA) take into account our counterparties' creditworthiness, the current and potential future mark-to-market of transactions and the effects of credit mitigants such as master netting and collateral agreements. CVA amounts are derived from estimates of exposure at default (EAD), PD, recovery rates on a counterparty basis and market and credit factor correlations. EAD is the value of expected derivative related assets and liabilities at the time of default, estimated through modelling using underlying risk factors. PD is implied from the market prices for credit protection and the credit ratings of the counterparty. When market data is unavailable, it is estimated by incorporating assumptions and adjustments that market participants would use for determining fair value using these inputs. Correlation is the statistical measure of how credit and market factors may move in relation to one another. Correlation is estimated using historical data. CVA is calculated daily and changes are recorded in Non-interest income – Trading revenue.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

FVA are also calculated to incorporate the cost and benefit of funding in the valuation of uncollateralized and under-collateralized OTC derivatives. Future expected cash flows of these derivatives are discounted to reflect the cost and benefit of funding the derivatives by using a funding curve, implied volatilities and correlations as inputs.

Where required, a valuation adjustment is made to reflect the unrealized gain or loss at inception of a financial instrument contract where the fair value of that financial instrument is not obtained from a quoted market price or cannot be evidenced by other observable market transactions based on a valuation technique incorporating observable market data.

A bid-offer valuation adjustment is required when a financial instrument is valued at the mid-market price, instead of the bid or offer price for asset or liability positions, respectively. The valuation adjustment takes into account the spread from the mid-market price to either the bid or offer price.

Some valuation models require parameter calibration from such factors as market observable option prices. The calibration of parameters may be sensitive to factors such as the choice of instruments or optimization methodology. A valuation adjustment is also estimated to mitigate the uncertainties of parameter calibration and model limitations.

In determining fair value, a hierarchy is used which prioritizes the inputs to valuation techniques. The fair value hierarchy gives the highest priority to unadjusted quoted prices in active markets for identical assets or liabilities (Level 1) and the lowest priority to unobservable inputs (Level 3). Determination of fair value based on this hierarchy requires the use of observable market data whenever available. Level 1 inputs are unadjusted quoted prices in active markets for identical assets or liabilities that we have the ability to access at the measurement date. Level 2 inputs include quoted prices for similar assets or liabilities in active markets, quoted prices for identical or similar assets or liabilities in markets that are not active, and model inputs that are either observable, or can be corroborated by observable market data for substantially the full term of the assets or liabilities. Level 3 inputs are one or more inputs that are unobservable and significant to the fair value of the asset or liability. Unobservable inputs are used to measure fair value to the extent that observable inputs are not available at the measurement date. The availability of inputs for valuation may affect the selection of valuation techniques. The classification of a financial instrument in the hierarchy for disclosure purposes is based upon the lowest level of input that is significant to the measurement of fair value.

Where observable prices or inputs are not available, management judgment is required to determine fair values by assessing other relevant sources of information such as historical data, proxy information from similar transactions, and through extrapolation and interpolation techniques. For more complex or illiquid instruments, significant judgment is required in the determination of the model used, the selection of model inputs, and in some cases the application of valuation adjustments to the model value or quoted price for actively traded financial instruments, as the selection of model inputs may be subjective and the inputs may be unobservable. Unobservable inputs are inherently uncertain as there is little or no market data available from which to determine the level at which the transaction would occur under normal business circumstances. Appropriate parameter uncertainty and market risk valuation adjustments for such inputs and other model risk valuation adjustments are assessed in all such instances.

Loans

Loans are debt instruments recognized initially at fair value and are subsequently measured in accordance with the Classification of financial assets policy provided above. The majority of our loans are carried at amortized cost using the effective interest method, which represents the gross carrying amount less allowance for credit losses.

Interest on loans is recognized in interest income using the effective interest method. The estimated future cash flows used in this calculation include those determined by the contractual term of the asset and all fees that are considered to be integral to the effective interest rate. Also included in this amount are transaction costs and all other premiums or discounts. Fees that relate to activities such as originating, restructuring or renegotiating loans are deferred and recognized as interest income over the expected term of such loans using the effective interest method. Where there is a reasonable expectation that a loan will be originated, commitment and standby fees are also recognized as interest income over the expected term of the resulting loans using the effective interest method. Otherwise, such fees are recorded as other liabilities and amortized into Non-interest income over the commitment or standby period. Future prepayment fees on mortgage loans are not included as part of the effective interest rate at origination. If prepayment fees are received on a renewal of a mortgage loan before maturity, the fee is included as part of the effective interest rate, and if not renewed, the prepayment fee is recognized in interest income at the prepayment date.

For loans carried at amortized cost or FVOCI, impairment losses are recognized at each balance sheet date in accordance with the three-stage impairment model outlined below.

Allowance for credit losses

An allowance for credit losses (ACL) is established for all financial assets, except for financial assets classified or designated as FVTPL and equity securities designated as FVOCI, which are not subject to impairment assessment. Assets subject to impairment assessment include loans, debt securities, interest-bearing deposits with banks, customers' liability under acceptances, accounts and accrued interest receivable, and finance and operating lease receivables. ACL on loans measured at amortized cost is presented in Allowance for loan losses. ACL on debt securities measured at FVOCI is presented in Other components of equity. Other financial assets carried at amortized cost are presented net of ACL on our Consolidated Balance Sheets.

Off-balance sheet items subject to impairment assessment include financial guarantees and undrawn loan commitments. ACL on off-balance sheet items is separately calculated and included in Other Liabilities – Provisions.

We measure the ACL on each balance sheet date according to a three-stage expected credit loss impairment model:

- Performing financial assets
 - Stage 1 – From initial recognition of a financial asset to the date on which the asset has experienced a significant increase in credit risk relative to its initial recognition, a loss allowance is recognized equal to the credit losses expected to result from defaults occurring over the 12 months following the reporting date.
 - Stage 2 – Following a significant increase in credit risk relative to the initial recognition of the financial asset, a loss allowance is recognized equal to the credit losses expected over the remaining lifetime of the asset.

- Impaired financial assets
 - Stage 3 – When a financial asset is considered to be credit-impaired, a loss allowance is recognized equal to credit losses expected over the remaining lifetime of the asset. Interest income is calculated based on the carrying amount of the asset, net of the loss allowance, rather than on its gross carrying amount.

The ACL is a discounted probability-weighted estimate of the cash shortfalls expected to result from defaults over the relevant time horizon. For loan commitments, credit loss estimates consider the portion of the commitment that is expected to be drawn over the relevant time period. For financial guarantees, credit loss estimates are based on the expected payments required under the guarantee contract. For finance lease receivables, credit loss estimates are based on cash flows consistent with the cash flows used in measuring the lease receivable.

Increases or decreases in the required ACL attributable to purchases and new originations, derecognitions or maturities, and changes in risk, parameters and exposures due to changes in loss expectations or stage transfers are recorded in PCL. Write-offs and recoveries of amounts previously written off are recorded against ACL.

The ACL represents an unbiased estimate of expected credit losses on our financial assets as at the balance sheet date. Judgment is required in making assumptions and estimations when calculating the ACL, including movements between the three stages and the application of forward looking information. The underlying assumptions and estimates may result in changes to the provisions from period to period that significantly affect our results of operations.

Measurement of expected credit losses

Expected credit losses are based on a range of possible outcomes and consider all available reasonable and supportable information including internal and external ratings, historical credit loss experience, and expectations about future cash flows. The measurement of expected credit losses is based primarily on the product of the instrument's PD, loss given default (LGD), and EAD discounted to the reporting date. The main difference between Stage 1 and Stage 2 expected credit losses for performing financial assets is the respective calculation horizon. Stage 1 estimates project PD, LGD and EAD over a maximum period of 12 months while Stage 2 estimates project PD, LGD and EAD over the remaining lifetime of the instrument.

An expected credit loss estimate is produced for each individual exposure. Relevant parameters are modeled on a collective basis using portfolio segmentation that allows for appropriate incorporation of forward looking information. To reflect other characteristics that are not already considered through modelling, expert credit judgment is exercised in determining the final expected credit losses.

For a small percentage of our portfolios which lack detailed historical information and/or loss experience, we apply simplified measurement approaches that may differ from what is described above. These approaches have been designed to maximize the available information that is reliable and supportable for each portfolio and may be collective in nature.

Expected credit losses are discounted to the reporting period date using the effective interest rate.

Expected life

For instruments in Stage 2 or Stage 3, loss allowances reflect expected credit losses over the expected remaining lifetime of the instrument. For most instruments, the expected life is limited to the remaining contractual life.

An exemption is provided for certain instruments with the following characteristics: (a) the instrument includes both a loan and undrawn commitment component; (b) we have the contractual ability to demand repayment and cancel the undrawn commitment; and (c) our exposure to credit losses is not limited to the contractual notice period. For products in scope of this exemption, the expected life may exceed the remaining contractual life and is the period over which our exposure to credit losses is not mitigated by our normal credit risk management actions. This period varies by product and risk category and is estimated based on our historical experience with similar exposures and consideration of credit risk management actions taken as part of our regular credit review cycle. Products in scope of this exemption include credit cards, overdraft balances and certain revolving lines of credit. Judgment is required in determining the instruments in scope for this exemption and estimating the appropriate remaining life based on our historical experience and credit risk mitigation practices.

Assessment of significant increase in credit risk

The assessment of significant increase in credit risk requires significant judgment. Movements between Stage 1 and Stage 2 are based on whether an instrument's credit risk as at the reporting date has increased significantly relative to the date it was initially recognized. For the purposes of this assessment, credit risk is based on an instrument's lifetime PD, not the losses we expect to incur. The assessment is generally performed at the instrument level.

Our assessment of significant increases in credit risk is performed at least quarterly based on three factors. If any of the following factors indicates that a significant increase in credit risk has occurred, the instrument is moved from Stage 1 to Stage 2:

- (1) We have established thresholds for significant increases in credit risk based on both a percentage and absolute change in lifetime PD relative to initial recognition. For our wholesale portfolio, a decrease in the borrower's risk rating is also required to determine that credit risk has increased significantly.
- (2) Additional qualitative reviews are performed to assess the staging results and make adjustments, as necessary, to better reflect the positions whose credit risk has increased significantly.
- (3) Instruments which are 30 days past due are generally considered to have experienced a significant increase in credit risk, even if our other metrics do not indicate that a significant increase in credit risk has occurred.

The thresholds for movement between Stage 1 and Stage 2 are symmetrical. After a financial asset has transferred to Stage 2, if its credit risk is no longer considered to have significantly increased relative to its initial recognition, the financial asset will move back to Stage 1.

For certain instruments with low credit risk as at the reporting date, it is presumed that credit risk has not increased significantly relative to initial recognition. Credit risk is considered to be low if the instrument has a low risk of default, and the borrower has the ability to fulfill their contractual obligations both in the near term and in the longer term, including periods of adverse changes in the economic or business environment. Certain interest-bearing deposits with banks, assets purchased under reverse repurchase agreements, insurance policy loans, and liquidity facilities extended to our multi-seller conduits have been identified as having low credit risk.

To support our clients through the COVID-19 pandemic, we have launched various relief programs. Utilization of a payment deferral program does not, all else being equal, automatically trigger a significant increase in credit risk.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)*Use of forward-looking information*

The measurement of expected credit losses for each stage and the assessment of significant increase in credit risk considers information about past events and current conditions as well as reasonable and supportable projections of future events and economic conditions. The estimation and application of forward-looking information requires significant judgment.

The PD, LGD and EAD inputs used to estimate Stage 1 and Stage 2 credit loss allowances are modelled based on the macroeconomic variables (or changes in macroeconomic variables) that are most closely correlated with credit losses in the relevant portfolio. Each macroeconomic scenario used in our expected credit loss calculation includes a projection of all relevant macroeconomic variables used in our models for a five year period, subsequently reverting to long-run averages. Macroeconomic variables used in our expected credit loss models include, but are not limited to, unemployment rates, gross domestic product growth rates, equity return indices, commodity prices, and Canadian housing prices. Depending on their usage in the models, macroeconomic variables may be projected at a country, province/state or more granular level.

Our estimation of expected credit losses in Stage 1 and Stage 2 is a discounted probability-weighted estimate that considers a minimum of three future macroeconomic scenarios. Our base case scenario is based on macroeconomic forecasts published by our internal economics group. Upside and downside scenarios vary relative to our base case scenario based on reasonably possible alternative macroeconomic conditions. Additional and more severe downside scenarios are designed to capture a broader range of potential credit losses in certain sectors. Scenario design, including the identification of additional downside scenarios, occurs at least on an annual basis and more frequently if conditions warrant.

Scenarios are designed to capture a wide range of possible outcomes and weighted according to our best estimate of the relative likelihood of the range of outcomes that each scenario represents. Scenario weights take into account historical frequency, current trends, and forward-looking conditions and are updated on a quarterly basis. All scenarios considered are applied to all portfolios subject to expected credit losses with the same probabilities.

Our assessment of significant increases in credit risk is based on changes in probability weighted forward-looking lifetime PDs as at the reporting date, using the same macroeconomic scenarios as the calculation of expected credit losses.

Definition of default

The definition of default used in the measurement of expected credit losses is consistent with the definition of default used for our internal credit risk management purposes. Our definition of default may differ across products and consider both quantitative and qualitative factors, such as the terms of financial covenants and days past due. For retail and wholesale borrowers, except as detailed below, default occurs when the borrower is more than 90 days past due on any material obligation to us, and/or we consider the borrower unlikely to make their payments in full without recourse action on our part, such as taking formal possession of any collateral held. For certain credit card balances, default occurs when payments are 180 days past due. For these balances, the use of a period in excess of 90 days past due is reasonable and supported by observable data on write-off and recovery rates experienced on historical credit card portfolios. The definition of default used is applied consistently from period to period and to all financial instruments unless it can be demonstrated that circumstances have changed such that another definition of default is more appropriate.

Credit-impaired financial assets (Stage 3)

Financial assets are assessed for credit-impairment at each balance sheet date and more frequently when circumstances warrant further assessment. Evidence of credit-impairment may include indications that the borrower is experiencing significant financial difficulty, probability of bankruptcy or other financial reorganization, as well as a measurable decrease in the estimated future cash flows evidenced by the adverse changes in the payments status of the borrower or economic conditions that correlate with defaults. An asset that is in Stage 3 will move back to Stage 2 when, as at the reporting date, it is no longer considered to be credit-impaired. The asset will transfer back to Stage 1 when its credit risk at the reporting date is no longer considered to have increased significantly from initial recognition, which could occur during the same reporting period as the transfer from Stage 3 to Stage 2.

When a financial asset has been identified as credit-impaired, expected credit losses are measured as the difference between the asset's gross carrying amount and the present value of estimated future cash flows discounted at the instrument's original effective interest rate. For impaired financial assets with drawn and undrawn components, expected credit losses also reflect any credit losses related to the portion of the loan commitment that is expected to be drawn down over the remaining life of the instrument.

When a financial asset is credit-impaired, interest ceases to be recognized on the regular accrual basis, which accrues income based on the gross carrying amount of the asset. Rather, interest income is calculated by applying the original effective interest rate to the amortized cost of the asset, which is the gross carrying amount less the related ACL. Following impairment, interest income is recognized on the unwinding of the discount from the initial recognition of impairment.

ACL for credit-impaired loans in Stage 3 are established at the borrower level, where losses related to impaired loans are identified on individually significant loans, or collectively assessed and determined through the use of portfolio-based rates, without reference to particular loans.

Individually assessed loans (Stage 3)

When individually significant loans are identified as impaired, we reduce the carrying value of the loans to their estimated realizable value by recording an individually assessed ACL to cover identified credit losses. The individually assessed ACL reflects the expected amount of principal and interest calculated under the terms of the original loan agreement that will not be recovered, and the impact of time delays in collecting principal and/or interest (time value of money). The estimated realizable value for each individually significant loan is the present value of expected future cash flows discounted using the original effective interest rate for each loan. When the amounts and timing of future cash flows cannot be estimated with reasonable reliability, the estimated realizable amount may be determined using observable market prices for comparable loans, the fair value of collateral underlying the loans, and other reasonable and supported methods based on management judgment.

Individually-assessed allowances are established in consideration of a range of possible outcomes, which may include macroeconomic or non-macroeconomic scenarios, to the extent relevant to the circumstances of the specific borrower being assessed. Assumptions used in estimating expected future cash flows reflect current and expected future economic conditions and are generally consistent with those used in Stage 1 and Stage 2 measurement.

Significant judgment is required in assessing evidence of credit-impairment and estimation of the amount and timing of future cash flows when determining expected credit losses. Changes in the amount expected to be recovered would have a direct impact on PCL and may result in a change in the ACL.

Collectively assessed loans (Stage 3)

Loans that are collectively assessed are grouped on the basis of similar risk characteristics, taking into account loan type, industry, geographic location, collateral type, past due status and other relevant factors.

The collectively-assessed ACL reflects: (i) the expected amount of principal and interest calculated under the terms of the original loan agreement that will not be recovered, and (ii) the impact of time delays in collecting principal and/or interest (time value of money).

The expected principal and interest collection is estimated on a portfolio basis and references historical loss experience of comparable portfolios with similar credit risk characteristics, adjusted for the current environment and expected future conditions. A portfolio specific coverage ratio is applied against the impaired loan balance in determining the collectively-assessed ACL. The time value of money component is calculated by using the discount factors applied to groups of loans sharing common characteristics. The discount factors represent the expected recovery pattern of the comparable group of loans, and reflect the historical experience of these groups adjusted for current and expected future economic conditions and/or industry factors. Significant judgment is required in assessing evidence of impairment and estimation of the amount and timing of future cash flows when determining expected credit losses. Changes in the amount expected to be recovered would have a direct impact on PCL and may result in a change in the ACL.

Write-off of loans

Loans and the related ACL are written off, either partially or in full, when there is no realistic prospect of recovery. Where loans are secured, they are generally written off after receipt of any proceeds from the realization of collateral. In circumstances where the net realizable value of any collateral has been determined and there is no reasonable expectation of further recovery, write off may be earlier. For credit cards, the balances and related ACL are generally written off when payment is 180 days past due. Personal loans are generally written off at 150 days past due.

Modifications

The original terms of a financial asset may be renegotiated or otherwise modified, resulting in changes to the contractual terms of the financial asset that affect the contractual cash flows. The treatment of such modifications is primarily based on the process undertaken to execute the renegotiation and the nature and extent of the expected changes. In the normal course of business, modifications which are performed for credit reasons, primarily related to troubled debt restructurings, are generally treated as modifications of the original financial asset. Modifications which are performed for other than credit reasons are generally considered to be an expiry of the original cash flows; accordingly, such renegotiations are treated as a derecognition of the original financial asset and recognition of a new financial asset.

Due to the impact of the COVID-19 pandemic, we have established relief programs to help personal and business banking clients manage the challenges of the COVID-19 pandemic through payment deferrals, interest rate reductions, covenant waivers, and refinancing or credit restructuring. In some cases, the original terms of the associated financial asset are renegotiated or otherwise modified, resulting in changes to the contractual terms of the financial asset that affect the contractual cash flows. For these programs, where there is a substantial change in terms from the original financial asset, we derecognize the financial asset and recognize a new financial asset.

If a modification of terms does not result in derecognition of the financial asset, the carrying amount of the financial asset is recalculated as the present value of the renegotiated or modified contractual cash flows, discounted at the original effective interest rate and a gain or loss is recognized. The financial asset continues to be subject to the same assessments for significant increase in credit risk relative to initial recognition and credit-impairment, as described above. A modified financial asset will transfer out of Stage 3 if the conditions that led to it being identified as credit-impaired are no longer present and relate objectively to an event occurring after the original credit-impairment was recognized. A modified financial asset will transfer out of Stage 2 when it no longer satisfies the relative thresholds set to identify significant increases in credit risk, which are based on changes in its lifetime PD, days past due and other qualitative considerations. The financial asset continues to be monitored for significant increases in credit risk and credit-impairment.

If a modification of terms results in derecognition of the original financial asset and recognition of the new financial asset, the new financial asset will generally be recorded in Stage 1, unless it is determined to be credit-impaired at the time of the renegotiation. For the purposes of assessing for significant increases in credit risk, the date of initial recognition for the new financial asset is the date of the modification.

Derivatives

When derivatives are embedded in other financial instruments or host contracts, such combinations are known as hybrid instruments. Some of the cash flows of a hybrid instrument vary in a way similar to a stand-alone derivative. If the host contract is a financial asset within the scope of IFRS 9, the classification and measurement criteria are applied to the entire hybrid instrument as described in the Classification of financial assets section of Note 2. If the host contract is a financial liability or an asset that is not within the scope of IFRS 9, embedded derivatives are separately recognized if the economic characteristics and risks of the embedded derivative are not clearly and closely related to the host contract, unless an election has been made to elect the fair value option, as described above. The host contract is accounted for in accordance with the relevant standards.

Derivatives are primarily used in trading activities. Derivatives are also used to manage our exposure to interest, currency, credit and other market risks. The most frequently used derivative products are interest rate and foreign exchange swaps, options, futures and forward rate agreements, equity swaps and credit derivatives. All derivative instruments are recorded on our Consolidated Balance Sheets at fair value.

When derivatives are used in trading activities, the realized and unrealized gains and losses on these derivatives are recognized in Trading revenue in Non-interest income. Derivatives with positive fair values are reported as Derivative assets and derivatives with negative fair values are reported as Derivative liabilities. In accordance with our policy for offsetting financial assets and financial liabilities, the net fair value of certain derivative assets and liabilities are reported as an asset or liability, as appropriate. Valuation adjustments are included in the fair value of Derivative assets and Derivative liabilities. Premiums paid and premiums received are shown in Derivative assets and Derivative liabilities, respectively.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

When derivatives are used to manage our own exposures, we determine for each derivative whether hedge accounting can be applied, as discussed in the Hedge accounting section below.

Derecognition of financial assets

Financial assets are derecognized from our Consolidated Balance Sheets when our contractual rights to the cash flows from the assets have expired, when we retain the rights to receive the cash flows of the assets but assume an obligation to pay those cash flows to a third party subject to certain pass-through requirements or when we transfer our contractual rights to receive the cash flows and substantially all of the risk and rewards of the assets have been transferred. When we retain substantially all of the risks and rewards of the transferred assets, the transferred assets are not derecognized from our Consolidated Balance Sheets and are accounted for as secured financing transactions. When we neither retain nor transfer substantially all risks and rewards of ownership of the assets, we derecognize the assets if control over the assets is relinquished. If we retain control over the transferred assets, we continue to recognize the transferred assets to the extent of our continuing involvement.

Management's judgment is applied in determining whether the contractual rights to the cash flows from the transferred assets have expired or whether we retain the rights to receive cash flows on the assets but assume an obligation to pay for those cash flows. We derecognize transferred financial assets if we transfer substantially all the risks and rewards of the ownership in the assets. When assessing whether we have transferred substantially all of the risk and rewards of the transferred assets, management considers the Bank's exposure before and after the transfer with the variability in the amount and timing of the net cash flows of the transferred assets. In transfers in which we retain the servicing rights, management has applied judgment in assessing the benefits of servicing against market expectations. When the benefits of servicing are greater than fair value, a servicing asset is recognized in Other assets in our Consolidated Balance Sheets. When the benefits of servicing are less than fair value, a servicing liability is recognized in Other liabilities in our Consolidated Balance Sheets.

Derecognition of financial liabilities

We derecognize a financial liability from our Consolidated Balance Sheets when our obligation specified in the contract expires, or is discharged or cancelled. We recognize the difference between the carrying amount of a financial liability transferred and the consideration paid in our Consolidated Statements of Income.

Interest

Interest is recognized in Interest income and Interest expense in the Consolidated Statements of Income for all interest-bearing financial instruments. The effective interest rate is the rate that discounts estimated future cash flows over the expected life of the financial asset or liability to the net carrying amount upon initial recognition. Significant judgment is applied in determining the effective interest rate due to uncertainty in the timing and amounts of future cash flows.

Dividend income

Dividend income is recognized when the right to receive payment is established. This is the ex-dividend date for listed equity securities, and usually the date when shareholders have approved the dividend for unlisted equity securities.

Transaction costs

Transaction costs are expensed as incurred for financial instruments classified or designated as FVTPL. For other financial instruments, transaction costs are capitalized on initial recognition. For financial assets and financial liabilities measured at amortized cost, capitalized transaction costs are amortized through net income over the estimated life of the instrument using the effective interest method. For financial assets measured at FVOCI that do not have fixed or determinable payments and no fixed maturity, capitalized transaction costs are recognized in net income when the asset is derecognized or becomes impaired.

Offsetting financial assets and financial liabilities

Financial assets and financial liabilities are offset on the balance sheet when there exists both a legally enforceable right to offset the recognized amounts and an intention to settle on a net basis, or realize the asset and settle the liability simultaneously.

Assets purchased under reverse repurchase agreements and sold under repurchase agreements

We purchase securities under agreements to resell (reverse repurchase agreements) and take possession of these securities. We monitor the market value of the securities purchased and additional collateral is obtained when appropriate. We have the right to liquidate the collateral held in the event of counterparty default. Reverse repurchase agreements are treated as collateralized lending transactions. We also sell securities under agreements to repurchase (repurchase agreements), which are treated as collateralized borrowing transactions. The securities received under reverse repurchase agreements and securities delivered under repurchase agreements are not recognized on, or derecognized from, our Consolidated Balance Sheets, respectively, unless the risks and rewards of ownership are obtained or relinquished.

Reverse repurchase agreements and repurchase agreements are carried on our Consolidated Balance Sheets at the amounts at which the securities were initially acquired or sold, except when they are classified or designated as FVTPL and are recorded at fair value. Interest earned on reverse repurchase agreements is included in Interest income, and interest incurred on repurchase agreements is included in Interest expense in our Consolidated Statements of Income. Changes in fair value for reverse repurchase agreements and repurchase agreements designated as FVTPL are included in Trading revenue or Other in Non-interest income.

Hedge accounting

We have elected to continue to apply the hedge accounting principles under IAS 39 instead of those under IFRS 9.

We use derivatives and non-derivatives in our hedging strategies to manage our exposure to interest rate, currency, credit and other market risks. Where hedge accounting can be applied, a hedge relationship is designated and documented at inception to detail the particular risk management objective and strategy for undertaking the hedge transaction. The documentation identifies the specific asset, liability or anticipated cash flows being hedged, the risk that is being hedged, the type of hedging

instrument used and how effectiveness will be assessed. We assess, both at the inception of the hedge and on an ongoing basis, whether the hedging instruments are 'highly effective' in offsetting changes in the fair value or cash flows of the hedged items. A hedge is regarded as highly effective only if the following criteria are met: (i) at inception of the hedge and throughout its life, the hedge is expected to be highly effective in achieving offsetting changes in fair value or cash flows attributable to the hedged risk, and (ii) actual results of the hedge are within a pre-determined range. We perform effectiveness testing to demonstrate that the relationship has been and is expected to be effective over the remaining term of the hedge. In the case of hedging a forecast transaction, the transaction must have a high probability of occurring and must present an exposure to variations in cash flows that could ultimately affect the reported net profit or loss. Hedge accounting is discontinued when it is determined that the hedging instrument is no longer effective as a hedge, the hedging instrument or hedged item is terminated or sold, or the forecast transaction is no longer deemed highly probable. Refer to Note 8 for the fair value of derivatives and non-derivative instruments categorized by their hedging relationships, as well as derivatives that are not designated in hedging relationships.

While uncertainty due to the Reform exists on hedging relationships to which the Amendments are applied, beginning on November 1, 2019, our prospective effectiveness testing is based on existing hedged cash flows or hedged risks. Any ineffectiveness arising from retrospective testing is recognized in net income, rather than discontinuing the hedge as long as other hedge accounting requirements are met.

Fair value hedges

In a fair value hedging relationship, the carrying value of the hedged item is adjusted for changes in fair value attributable to the hedged risk and recognized in Non-interest income. Changes in fair value of the hedged item, to the extent that the hedging relationship is effective, are offset by changes in the fair value of the hedging derivative, which are also recognized in Non-interest income. When hedge accounting is discontinued, the carrying value of the hedged item is no longer adjusted and the cumulative fair value adjustments to the carrying value of the hedged items are amortized to Net income over the expected remaining life of the hedged items.

We predominantly use interest rate swaps to hedge our exposure to changes in a fixed interest rate instrument's fair value caused by changes in interest rates. As a result of adopting the Amendments, beginning on November 1, 2019, while the uncertainty due to the Reform exists, we apply hedge accounting to IBOR rates which may not be contractually specified when that rate is separately identifiable and reliably measurable at inception of the hedge relationship.

Cash flow hedges

In a cash flow hedging relationship, the effective portion of the change in the fair value of the hedging derivative, net of taxes, is recognized in OCI and reclassified to profit or loss as the associated hedged forecast transaction occurs, while the ineffective portion is recognized in Non-interest income. When hedge accounting is discontinued, the cumulative amounts previously recognized in Other components of equity are reclassified to Net interest income during the periods when the variability in the cash flows of the hedged item affects Net interest income. Unrealized gains and losses on derivatives are reclassified immediately to Net income when the hedged item is sold or terminated early, or when the forecast transaction is no longer expected to occur.

While uncertainty due to the Reform exists, beginning on November 1, 2019, we apply the relief provided by the Amendments that the IBOR benchmarks, on which the highly probable hedged cash flows are based, are not altered as a result of the Reform. In addition, associated cash flow hedge reserves are not recycled into net income solely due to changes related to the transition from IBOR to new risk free rates.

We predominantly use interest rate swaps to hedge the variability in cash flows related to a variable-rate asset or liability.

Net investment hedges

In hedging our foreign currency exposure to a net investment in a foreign operation, the effective portion of foreign exchange gains and losses on the hedging instruments, net of applicable taxes, is recognized in OCI and the ineffective portion is recognized in Non-interest income. The amounts, or a portion thereof, previously recognized in Other components of equity are recognized in Net income on the disposal, or partial disposal, of the foreign operation.

We use foreign exchange contracts and foreign currency-denominated liabilities to manage our foreign currency exposures to net investments in foreign operations having a functional currency other than the Canadian dollar.

Guarantees

Financial guarantee contracts are contracts that contingently require us to make specified payments (in cash, other assets, our own shares or provision of services) to reimburse the holder for a loss it incurs because a specified debtor fails to make payment when due in accordance with the original or modified terms of a debt instrument. Liabilities are recognized on our Consolidated Balance Sheets at the inception of a guarantee for the fair value of the obligation undertaken in issuing the guarantee. Financial guarantees are subsequently remeasured at the higher of (i) the amount of expected credit losses and (ii) the amount initially recognized less, when appropriate, the cumulative amount of income recognized.

If the financial guarantee contract meets the definition of a derivative, it is measured at fair value at each balance sheet date and reported under Derivatives on our Consolidated Balance Sheets.

Insurance and segregated funds

Premiums from long-duration contracts, primarily life insurance, are recognized when due in Non-interest income – Insurance premiums, investment and fee income. Premiums from short-duration contracts, primarily property and casualty, and fees for administrative services are recognized in Insurance premiums, investment and fee income over the related contract period. Unearned premiums of the short-duration contracts, representing the unexpired portion of premiums, are reported in Other liabilities. Investments made by our insurance operations are classified as FVOCI instruments and amortized cost instruments, except for investments supporting the policy benefit liabilities on life and health insurance contracts and a portion of property and casualty contracts. These are designated as FVTPL with changes in fair value reported in Insurance premiums, investment and fee income.

Insurance claims and policy benefit liabilities represent current claims and estimates for future insurance policy benefits. Liabilities for life insurance contracts are determined using the Canadian Asset Liability Method (CALM), which incorporates assumptions for mortality, morbidity, policy lapses and surrenders, investment yields, policy dividends, operating and policy

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

maintenance expenses and provisions for adverse deviation. These assumptions are reviewed at least annually and updated in response to actual experience and market conditions. Liabilities for property and casualty insurance represent estimated provisions for reported and unreported claims. Liabilities for life and property and casualty insurance are included in Insurance claims and policy benefit liabilities. Changes in Insurance claims and policy benefit liabilities are included in the Insurance policyholder benefits, claims and acquisition expense in our Consolidated Statements of Income in the period in which the estimates change.

Premiums ceded for reinsurance and reinsurance recoveries on policyholder benefits and claims incurred are reported in income and expense as appropriate. Reinsurance recoverables, which relate to paid benefits and unpaid claims, are included in Other assets.

Acquisition costs for new insurance contracts consist of commissions, premium taxes, certain underwriting costs and other costs that vary with the acquisition of new contracts. Deferred acquisition costs for life insurance products are implicitly recognized in Insurance claims and policy benefit liabilities by CALM. For property and casualty insurance, these costs are classified as Other assets and amortized over the policy term.

Segregated funds are lines of business in which we issue an insurance contract where the benefit amount is directly linked to the market value of the investments held in the underlying fund. The contractual arrangement is such that the underlying segregated fund assets are registered in our name but the segregated fund policyholders bear the risks and rewards of the funds' investment performance. Liabilities for these contracts are calculated based on contractual obligations using actuarial assumptions and are at least equivalent to the surrender or transfer value calculated by reference to the value of the relevant underlying funds or indices. Segregated funds' assets and liabilities are separately presented on our Consolidated Balance Sheets. As the segregated fund policyholders bear the risks and rewards of the funds' performance, investment income earned by the segregated funds and expenses incurred by the segregated funds are offset and are not separately presented in our Consolidated Statements of Income. Fee income we earn from segregated funds includes management fees, mortality, policy administration and surrender charges, and these fees are recorded in Non-interest income – Insurance premiums, investment and fee income. We provide minimum death benefit and maturity value guarantees on segregated funds. The liability associated with these minimum guarantees is recorded in Insurance claims and policy benefit liabilities.

Liability adequacy tests are performed for all insurance contract portfolios at each balance sheet date to ensure the adequacy of insurance contract liabilities. Current best estimates of future contractual cash flows, claims handling and administration costs, and investment returns from the assets backing the liabilities are taken into account in the tests. When the test results indicate that there is a deficiency in liabilities, the deficiency is charged immediately to our Consolidated Statements of Income by writing down the deferred acquisition costs in Other assets and/or increasing Insurance claims and policy benefit liabilities.

Employee benefits – Pensions and other post-employment benefits

Our defined benefit pension expense, which is included in Non-interest expense – Human resources, consists of the cost of employee pension benefits for the current year's service, net interest on the net defined benefit liability (asset), past service cost and gains or losses on settlement. Remeasurements of the net defined benefit obligation, which comprise actuarial gains and losses and return on plan assets (excluding amounts included in net interest on the net defined benefit liability), are recognized immediately in OCI in the period in which they occur. Actuarial gains and losses comprise experience adjustments (the effects of differences between the previous actuarial assumptions and what has actually occurred), as well as the effects of changes in actuarial assumptions. Amounts recognized in OCI will not be reclassified subsequently to net income. Past service cost is the change in the present value of the defined benefit obligation resulting from a plan amendment or curtailment and is charged immediately to income.

For each defined benefit pension plan, we recognize the present value of our defined benefit obligations less the fair value of the plan assets as a defined benefit liability reported in Other liabilities – Employee benefit liabilities on our Consolidated Balance Sheets. For plans where there is a net defined benefit asset, the amount is reported as an asset in Other assets – Employee benefit assets on our Consolidated Balance sheets.

The calculation of defined benefit expenses and obligations requires significant judgment as the recognition is dependent on discount rates and various actuarial assumptions such as healthcare cost trend rates, projected salary increases, retirement age and mortality and termination rates. Due to the long-term nature of these plans, such estimates and assumptions are subject to inherent risks and uncertainties. For our pension and other post-employment benefit plans, the discount rate is determined by reference to market yields on high quality corporate bonds. Since the discount rate is based on currently available yields, and involves management's assessment of market liquidity, it is only a proxy for future yields. Actuarial assumptions, set in accordance with current practices in the respective countries of our plans, may differ from actual experience as country specific statistics are only estimates of future employee behaviour. These assumptions are determined by management and are reviewed by actuaries at least annually. Changes to any of the above assumptions may affect the amounts of benefits obligations, expenses and remeasurements that we recognize.

Our contributions to defined contribution pension plans are expensed when employees have rendered services in exchange for such contributions. Defined contribution pension expense is included in Non-interest expense – Human resources.

Share-based compensation

We offer share-based compensation plans to certain key employees and to our non-employee directors.

To account for stock options granted to employees, compensation expense is recognized over the applicable vesting period with a corresponding increase in equity. Fair value is determined by using option valuation models, which take into account the exercise price of the option, the current share price, the risk free interest rate, the expected volatility of the share price over the life of the option and other relevant factors. When the options are exercised, the exercise price proceeds together with the amount initially recorded in equity are credited to common shares. Our other share-based compensation plans include performance deferred share plans and deferred share unit plans for key employees (the Plans). The obligations for the Plans are accrued over their vesting periods. The Plans are settled in cash.

For cash-settled awards, our accrued obligations are adjusted to their fair value at each balance sheet date. For share-settled awards, our expected obligations recognized in equity are based on the fair value of our common shares at the date of grant. Changes in our obligations, net of related hedges, are recorded as Non-interest expense – Human resources in our

Consolidated Statements of Income with a corresponding increase in Other liabilities for cash-settled awards and in Retained earnings for share-settled awards. Compensation expense is recognized in the year the awards are earned by plan participants based on the vesting schedule of the relevant plans, net of estimated forfeitures.

The compensation cost attributable to options and awards granted to employees who are eligible to retire or will become eligible to retire during the vesting period, is recognized immediately if the employee is eligible to retire on the grant date or over the period between the grant date and the date the employee becomes eligible to retire.

Our contributions to the employee savings and share ownership plans are expensed as incurred.

Income taxes

Income tax comprises current tax and deferred tax and is recognized in our Consolidated Statements of Income except to the extent that it relates to items recognized directly in equity, in which case it is recognized in equity.

Current income tax payable on profits is recognized as an expense based on the applicable tax laws in each jurisdiction in the period in which profits arise, calculated using tax rates enacted or substantively enacted by the balance sheet date. Deferred tax is recognized on temporary differences between the carrying amounts of assets and liabilities for accounting and tax purposes. A deferred income tax asset or liability is determined for each temporary difference, except for earnings related to our subsidiaries, branches, associates and interests in joint ventures where the temporary differences will not reverse in the foreseeable future and we have the ability to control the timing of reversal. Deferred tax assets and liabilities are determined based on the tax rates that are expected to be in effect in the period that the asset is realized or the liability is settled, based on tax rates and tax laws that have been enacted or substantively enacted at the balance sheet date. Current tax assets and liabilities are offset when they are levied by the same taxation authority on either the same taxable entity or different taxable entities within the same tax reporting group (which intends to settle on a net basis), and when there is a legal right to offset. Deferred tax assets and liabilities are offset when the same conditions are satisfied. Our Consolidated Statements of Income include items that are non-taxable or non-deductible for income tax purposes and, accordingly, this causes the income tax provision to be different from what it would be if based on statutory rates.

Deferred income taxes accumulated as a result of temporary differences and tax loss carryforwards are included in Other assets and Other liabilities. On a quarterly basis, we review our deferred income tax assets to determine whether it is probable that the benefits associated with these assets will be realized; this review involves evaluating both positive and negative evidence.

We are subject to income tax laws in various jurisdictions where we operate, and the complex tax laws are potentially subject to different interpretations by us and the relevant taxation authorities. Significant judgment is required in the interpretation of the relevant tax laws and in assessing the probability of acceptance of our tax positions to determine our tax provision, which includes our best estimate of uncertain tax positions that are under audit or appeal by the relevant tax authorities. We perform a review on a quarterly basis to incorporate our best assessment based on information available, but additional liability and income tax expense could result based on the acceptance of our tax positions by the relevant tax authorities.

The determination of our deferred tax asset or liability also requires significant management judgment as the recognition is dependent on our projection of future taxable profits and tax rates that are expected to be in effect in the period the asset is realized or the liability is settled. Any changes in our projection will result in changes in deferred tax assets or liabilities on our Consolidated Balance Sheets, and also deferred tax expense on our Consolidated Statements of Income.

Business combinations, goodwill and other intangibles

All business combinations are accounted for using the acquisition method. Non-controlling interests, if any, are recognized at their proportionate share of the fair value of identifiable assets and liabilities, unless otherwise indicated. Identifiable intangible assets are recognized separately from goodwill and included in Other intangibles. Goodwill represents the excess of the price paid for the business acquired over the fair value of the net identifiable assets acquired on the date of acquisition.

Goodwill

Goodwill is allocated to cash-generating units or groups of cash-generating units for the purpose of impairment testing, which is undertaken at the lowest level at which goodwill is monitored for internal management purposes. Impairment testing is performed annually as at August 1, or more frequently if there are objective indicators of impairment, by comparing the recoverable amount of a cash-generating unit (CGU) with its carrying amount. The recoverable amount of a CGU is the higher of its value in use and its fair value less costs of disposal. Value in use is the present value of the expected future cash flows from a CGU. Fair value less costs of disposal is the amount obtainable from the sale of a CGU in an orderly transaction between market participants, less disposal costs. The fair value of a CGU is estimated using valuation techniques such as a discounted cash flow method, adjusted to reflect the considerations of a prospective third-party buyer. External evidence such as binding sale agreements or recent transactions for similar businesses within the same industry is considered to the extent that it is available.

Significant judgment is involved in estimating the model inputs used to determine the recoverable amount of our CGUs, in particular future cash flows, discount rates and terminal growth rates, due to the uncertainty in the timing and amount of cash flows and the forward-looking nature of these inputs. Future cash flows are based on financial plans agreed by management which are estimated based on forecast results, business initiatives, planned capital investments and returns to shareholders. Discount rates are based on the bank-wide cost of capital, adjusted for CGU-specific risks and currency exposure as reflected by differences in expected inflation. Bank-wide cost of capital is based on the Capital Asset Pricing Model. CGU-specific risks include country risk, business/operational risk, geographic risk (including political risk, devaluation risk, and government regulation), currency risk, and price risk (including product pricing risk and inflation). Terminal growth rates reflect the expected long-term gross domestic product growth and inflation for the countries within which the CGU operates. Changes in these assumptions may impact the amount of impairment loss recognized in Non-interest expense.

The carrying amount of a CGU includes the carrying amount of assets, liabilities and goodwill allocated to the CGU. If the recoverable amount is less than the carrying value, the impairment loss is allocated first to reduce the carrying amount of any goodwill allocated to the CGU and then to the other non-financial assets of the CGU proportionately based on the carrying amount of each asset. Any impairment loss is charged to income in the period in which the impairment is identified. Goodwill is stated at cost less accumulated impairment losses. Subsequent reversals of goodwill impairment are prohibited.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

Upon disposal of a portion of a CGU, the carrying amount of goodwill related to the portion of the CGU sold is included in the determination of gains or losses on disposal. The carrying amount is determined based on the relative fair value of the disposed portion to the total CGU.

Other intangibles

Intangible assets represent identifiable non-monetary assets and are acquired either separately or through a business combination, or generated internally. Intangible assets acquired through a business combination are recognized separately from goodwill when they are separable or arise from contractual or other legal rights, and their fair value can be measured reliably. The cost of a separately acquired intangible asset includes its purchase price and directly attributable costs of preparing the asset for its intended use. In respect of internally generated intangible assets, cost includes all directly attributable costs necessary to create, produce, and prepare the asset to be capable of operating in the manner intended by management. Research and development costs that are not eligible for capitalization are expensed. After initial recognition, an intangible asset is carried at its cost less any accumulated amortization and accumulated impairment losses, if any. Intangible assets with a finite-life are amortized on a straight-line basis over their estimated useful lives as follows: computer software – 3 to 10 years; and customer relationships – 10 to 20 years. We do not have any intangible assets with indefinite lives.

Intangible assets are assessed for indicators of impairment at each reporting period. If there is an indication that an intangible asset may be impaired, an impairment test is performed by comparing the carrying amount of the intangible asset to its recoverable amount. Where it is not possible to estimate the recoverable amount of an individual asset, we estimate the recoverable amount of the CGU to which the asset belongs. If the recoverable amount of the asset (or CGU) is less than its carrying amount, the carrying amount of the intangible asset is written down to its recoverable amount as an impairment loss.

An impairment loss recognized previously is reversed if there is a change in the estimates used to determine the recoverable amount of the asset (or CGU) since the last impairment loss was recognized. If an impairment loss is subsequently reversed, the carrying amount of the asset (or CGU) is revised to the lower of its recoverable amount and the carrying amount that would have been determined (net of amortization) had there been no prior impairment.

Due to the subjective nature of these estimates, significant judgment is required in determining the useful lives and recoverable amounts of our intangible assets, and assessing whether certain events or circumstances constitute objective evidence of impairment. Estimates of the recoverable amounts of our intangible assets rely on certain key inputs, including future cash flows and discount rates. Future cash flows are based on sales projections and allocated costs which are estimated based on forecast results and business initiatives. Discount rates are based on the bank-wide cost of capital, adjusted for asset-specific risks. Changes in these assumptions may impact the amount of impairment loss recognized in Non-interest expense.

Other**Translation of foreign currencies**

Monetary assets and liabilities denominated in foreign currencies are translated into Canadian dollars at rates prevailing at the balance sheet date. Foreign exchange gains and losses resulting from the translation and settlement of these items are recognized in Non-interest income in the Consolidated Statements of Income.

Non-monetary assets and liabilities that are measured at historical cost are translated into Canadian dollars at historical rates.

Assets and liabilities of our foreign operations with functional currencies other than Canadian dollars are translated into Canadian dollars at rates prevailing at the balance sheet date, and income and expenses of these foreign operations are translated at average rates of exchange for the reporting period.

Unrealized gains or losses arising as a result of the translation of our foreign operations along with the effective portion of related hedges are reported in Other components of equity on an after-tax basis. Upon disposal or partial disposal of a foreign operation, an appropriate portion of the accumulated net translation gains or losses is included in Non-interest income.

Premises and equipment

Premises and equipment includes land, buildings, leasehold improvements, computer equipment, furniture, fixtures and other equipment, and are stated at cost less accumulated depreciation, except for land which is not depreciated, and accumulated impairment losses. Cost comprises the purchase price, any costs directly attributable to bringing the asset to the location and condition necessary for its intended use, and the initial estimate of any disposal costs. Depreciation is recorded principally on a straight-line basis over the estimated useful lives of the assets, which are 25 to 50 years for buildings, 3 to 10 years for computer equipment, and 5 to 10 years for furniture, fixtures and other equipment. The amortization period for leasehold improvements is the lesser of the useful life of the leasehold improvements or the lease term plus the first renewal period, if reasonably assured of renewal, up to a maximum of 10 years. Depreciation methods, useful lives, and residual values are reassessed at each reporting period and adjusted as appropriate. Gains and losses on disposal are recorded in Non-interest income.

Premises and equipment are assessed for indicators of impairment at each reporting period. If there is an indication that an asset may be impaired, an impairment test is performed by comparing the asset's carrying amount to its recoverable amount.

After the recognition of impairment, the depreciation charge is adjusted in future periods to reflect the asset's revised carrying amount. If an impairment is later reversed, the carrying amount of the asset is revised to the lower of the asset's recoverable amount and the carrying amount that would have been determined (net of depreciation) had there been no prior impairment loss. The depreciation charge in future periods is adjusted to reflect the revised carrying amount.

Beginning on November 1, 2019, Premises and equipment includes right-of-use assets due to the adoption of IFRS 16.

Leasing – Policies applicable beginning November 1, 2019 (IFRS 16)

At inception of a contract, we assess whether a contract is or contains a lease. A contract is, or contains, a lease if the contract conveys the right to obtain substantially all of the economic benefits from, and direct the use of, an identified asset for a period of time in return for consideration.

When we are the lessee in a lease arrangement, we initially record a right-of-use asset and corresponding lease liability, except for short-term leases and leases of low-value assets. Short-term leases are leases with a lease term of 12 months or less.

Low-value assets are unspecialized, common, technologically unsophisticated, widely available, and widely used non-infrastructure assets. For short-term leases and leases of low-value assets, we record the lease payments as an operating expense on a straight-line basis over the lease term.

Where we are reasonably certain to exercise extension and termination options, they are included in the lease term.

The lease liability is initially measured at the present value of the lease payments that are not paid at the commencement date, discounted at our incremental borrowing rate. The lease liability is subsequently measured at amortized cost using the effective interest method, recorded in Interest expense.

The right-of-use asset is initially measured based on the initial amount of the lease liability, adjusted for lease payments made on or before the commencement date, initial direct costs incurred, and an estimate of costs to dismantle, remove, or restore the asset, less any lease incentives received.

The right-of-use asset is depreciated to the earlier of the lease term and the useful life, unless ownership will transfer to RBC or we are reasonably certain to exercise a purchase option, in which case the useful life of the right-of-use asset is used. We apply IAS 36 Impairment of assets to determine whether a right-of-use asset is impaired and account for any identified impairment loss as described in the premises and equipment accounting policies above.

Impact of adoption of IFRS 16 – Leases previously classified as operating leases

As a result of the adoption of IFRS 16, we increased total assets by \$5,084 million and total liabilities by \$5,191 million, primarily representing leases of premises and equipment previously classified as operating leases, and reduced retained earnings by \$107 million, net of taxes. The adoption of IFRS 16 reduced our CET 1 capital ratio by 14 bps.

At transition, lease liabilities were measured at the present value of the remaining lease payments, discounted at our incremental borrowing rate as at November 1, 2019. We applied a weighted-average incremental borrowing rate of 2.3%. Right-of-use assets are generally measured at an amount equal to the lease liability, adjusted by any prepaid or accrued lease payments. For a select number of properties, the right-of-use assets were measured as if IFRS 16 had been applied since the commencement date of the lease, discounted using our incremental borrowing rate as at November 1, 2019. The following practical expedients were adopted when applying IFRS 16 to leases previously classified as operating leases under IAS 17:

- Election to not separate lease and non-lease components, applied to our real estate leases; and
- Exemption from recognition for short-term and low value leases.

The following table reconciles our operating lease commitments at October 31, 2019 to the lease obligations recognized on initial application of IFRS 16 at November 1, 2019.

<i>(Millions of Canadian dollars)</i>	
Lease commitments disclosed as at October 31, 2019	\$ 6,175
Less: commitments related to non-recoverable tax	(360)
Less: commitments for contracts not yet commenced	(240)
Less: recognition exemption adopted for short-term and low-value leases	(83)
Plus: commitments for renewal options reasonably certain to be exercised	977
Other	(26)
Adjusted operating lease commitments as at October 31, 2019	6,443
Discounted as at November 1, 2019	5,557
Finance lease liabilities recognized as at October 31, 2019	49
Lease liabilities recognized as at November 1, 2019	\$ 5,606

Impact of adoption of IFRS 16 – Leases previously classified as finance leases

The carrying amount of the right-of-use asset and lease liability at November 1, 2019 for leases previously classified as finance leases under IAS 17 Leases was determined to be equal to the carrying amount of the lease asset and liability under IAS 17 immediately before the transition date.

Leasing – Policies applicable prior to November 1, 2019 (IAS 17)

A lease is an agreement whereby the lessor conveys to the lessee the right to use an asset for an agreed upon period of time in return for a payment or series of payments. A finance lease is a lease that transfers substantially all the risks and rewards incidental to ownership of the leased asset to the lessee, where title may or may not eventually be transferred. An operating lease is a lease other than a finance lease.

Operating leases

When we are the lessee in an operating lease, we record rental payments on a straight-line basis over the lease term in Non-Interest expense.

Finance leases

When we are the lessee in a finance lease, we initially record both the leased asset and the related lease obligation in Premises and equipment, Other intangibles and Other liabilities on our Consolidated Balance Sheets at an amount equal to the fair value of the leased asset or, if lower, the present value of the minimum lease payments, each determined at the date of inception of the lease. Initial direct costs directly attributed to the lease are recognized as an asset under the finance lease.

Provisions

Provisions are liabilities of uncertain timing or amount and are recognized when we have a present legal or constructive obligation as a result of a past event, it is probable that an outflow of resources will be required to settle the obligation, and a reliable estimate can be made of the amount of the obligation. Provisions are measured as the best estimate of the consideration required to settle the present obligation at the reporting date. Significant judgment is required in determining whether a present obligation exists and in estimating the probability, timing and amount of any outflows. We record provisions related to litigation, asset retirement obligations and other items.

Note 2 Summary of significant accounting policies, estimates and judgments (continued)

We are required to estimate the results of ongoing legal proceedings, and expenses to be incurred to dispose of capital assets. The forward-looking nature of these estimates requires us to use a significant amount of judgment in projecting the timing and amount of future cash flows. We record our provisions on the basis of all available information at the end of the reporting period and make adjustments on a quarterly basis to reflect current expectations. It may not be possible to predict the resolution of these matters or the timing of their ultimate resolution. Should actual results differ from our expectations, we may incur expenses in excess of the provisions recognized. Where appropriate, we apply judgment in limiting the extent of our provisions-related disclosures as not to prejudice our positions in matters of dispute.

When some or all of the economic benefits required to settle a provision are expected to be recovered from a third party, such as an insurer, a separate asset is recognized if it is virtually certain that reimbursement will be received.

Commissions and fees

Commissions and fees primarily relate to investment management and custodial fees, Mutual fund revenue, Securities brokerage commissions, Services charges, Underwriting and other advisory fees, Card service revenue and Credit fees, and are recognized based on the applicable service contracts with customers.

Investment management and custodial fees and Mutual fund revenue are generally calculated as a percentage of daily or period-end net asset values (NAV) based on the terms of the contract with customers and are received monthly, quarterly, semiannually or annually, depending on the terms of the contract. Investment management and custodial fees are generally derived from assets under management (AUM) when our clients solicit the investment capabilities of an investment manager or from assets under administration (AUA) where the investment strategy is directed by the client or a designated third-party manager. Mutual fund revenue is derived from the daily NAV of the mutual funds. Investment management and custodial fees and Mutual fund revenue are recognized over time when the service is provided to the customer, provided that it is highly probable that a significant reversal in the amount of revenue recognized will not occur.

Commissions earned on Securities brokerage services and Service charges that are related to the provision of specific transaction-type services are recognized when the service is fulfilled. Where services are provided over time, revenue is recognized as the services are provided.

Underwriting and other advisory fees primarily relate to underwriting of new issuances of debt or equity and various advisory services. Underwriting fees are generally expressed as a percentage of the funds raised through issuance and are recognized when the service has been completed. Advisory fees vary depending on the scope and type of engagement and can be fixed in nature or contingent on a future event. Advisory fees are recognized over the period in which the service is provided and are recognized only to the extent that it is highly probable that a significant reversal in the amount of revenue will not occur.

Card service revenue primarily includes interchange revenue and annual card fees. Interchange revenue is calculated as a fixed percentage of the transaction amount and recognized when the card transaction is settled. Annual card fees are fixed fees and are recognized over a 12 month period.

Credit fees are primarily earned for arranging syndicated loans and making credit available on undrawn facilities. The timing of the recognition of credit fees varies based on the nature of the services provided.

When service fees and other costs are incurred in relation to commissions and fees earned, we record these costs on a gross basis in either Non-interest expense – Other or Non-interest expense – Human resources based on our assessment of whether we have primary responsibility to fulfill the contract with the customer and have discretion in establishing the price for the commissions and fees earned, which may require judgment.

Earnings per share

Earnings per share is computed by dividing Net income available to common shareholders by the weighted average number of common shares outstanding for the period. Net income available to common shareholders is determined after deducting dividend entitlements of preferred shareholders and distributions on other equity instruments, any gains (losses) on redemption of preferred shares and other equity instruments net of related income taxes and the net income attributable to non-controlling interests.

Diluted earnings per share reflects the potential dilution that could occur if additional common shares are assumed to be issued under securities or contracts that entitle their holders to obtain common shares in the future, to the extent such entitlement is not subject to unresolved contingencies. For contracts that may be settled in cash or in common shares at our option, diluted earnings per share is calculated based on the assumption that such contracts will be settled in shares. Income and expenses associated with these types of contracts are excluded from the Net income available to common shareholders, and the additional number of shares that would be issued is included in the diluted earnings per share calculation. This includes certain convertible shares with the conversion assumed to have taken place at the beginning of the period or on the date of issue, if later. For stock options whose exercise price is less than the average market price of our common shares, using the treasury stock method, they are assumed to be exercised and the proceeds are used to repurchase common shares at the average market price for the period. The incremental number of common shares issued under stock options and repurchased from proceeds is included in the calculation of diluted earnings per share.

Share capital and other equity instruments

We classify a financial instrument that we issue as a financial asset, financial liability or an equity instrument in accordance with the substance of the contractual arrangement.

Our common shares held by us are classified as treasury shares in equity and accounted for at weighted average cost. Upon the sale of treasury shares, the difference between the sale proceeds and the cost of the shares is recognized in Retained earnings. Financial instruments issued by us are classified as equity instruments when there is no contractual obligation to transfer cash or other financial assets. Incremental costs directly attributable to the issue of equity instruments are included in equity as a deduction from the proceeds, net of tax. Financial instruments that will be settled by a variable number of our common shares upon their conversion by the holders as well as the related accrued distributions are classified as liabilities on our Consolidated Balance Sheets. Dividends and yield distributions on these instruments are classified as Interest expense in our Consolidated Statement of Income. For compound instruments comprised of both liability and equity components, the liability component is initially measured at fair value with any residual amount assigned to the equity component.

Future changes in accounting policy and disclosure

The following standards have been issued, but are not yet effective for us.

Conceptual Framework for Financial Reporting (Conceptual Framework)

In March 2018, the IASB issued its revised *Conceptual Framework*. This replaces the previous version of the *Conceptual Framework* issued in 2010. The revised *Conceptual Framework* will be effective on November 1, 2020. The *Conceptual Framework* is not a standard, and does not override the concepts or requirements in any standard. It may be used to develop consistent accounting policies where there is no applicable standard in place. The revisions include a few new concepts, updated definitions and recognition criteria for assets and liabilities and clarifies some important concepts. These amendments are not expected to have a material impact on our Consolidated Financial Statements.

IFRS 17 Insurance Contracts (IFRS 17)

In May 2017, the IASB issued IFRS 17 to establish a comprehensive global insurance standard which provides guidance on the recognition, measurement, presentation and disclosures of insurance contracts. IFRS 17 requires entities to measure insurance contract liabilities at their current fulfillment values using one of three approaches. In June 2020, the IASB issued amendments to IFRS 17, including deferral of the effective date by two years. This new standard will be effective for us on November 1, 2023 and will be applied retrospectively with restatement of comparatives unless impracticable. We are currently assessing the impact of adopting this standard and the amendments on our Consolidated Financial Statements.

Interest Rate Benchmark Reform

In August 2020, the IASB issued Interest Rate Benchmark Reform – Phase 2, Amendments to IFRS 9, IAS 39, IFRS 7, IFRS 4 *Insurance contracts* and IFRS 16 (Phase 2 Amendments). The Phase 2 Amendments address issues that arise upon replacing the existing interest rate benchmark with the alternative interest rates and introduces additional disclosure requirements. The Phase 2 Amendments provide two key reliefs:

- For modifications resulting from the Reform which are transacted on an economically equivalent basis, the Reform allows the benchmark rate change to be reflected prospectively in the effective interest rate of the instrument rather than as an immediate gain or loss.
- If qualifying criteria are met, hedging relationships that are directly impacted by the Reform would be able to continue hedge accounting upon transition to alternative interest rates.

The Phase 2 Amendments will be effective for us on November 1, 2021, with earlier adoption permitted.

To manage our transition to alternative interest rates, we have implemented a comprehensive enterprise-wide program and governance structure that focuses on key areas of impact including contract changes with clients, capital and liquidity planning, risk management, financial reporting and valuation, systems, processes, client education and communication.

We are currently assessing the impact of the adoption of the Phase 2 Amendments on our Consolidated Financial Statements.

Note 3 Fair value of financial instruments

Carrying value and fair value of financial instruments

The following tables provide a comparison of the carrying and fair values for each classification of financial instruments.

Embedded derivatives are presented on a combined basis with the host contracts. For measurement purposes, they are carried at fair value when conditions requiring separation are met.

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020							
	Carrying value and fair value				Carrying value		Fair value	
	Financial instruments classified as FVTPL	Financial instruments designated as FVTPL	Financial instruments classified as FVOCI	Financial instruments designated as FVOCI	Financial instruments measured at amortized cost	Financial instruments measured at amortized cost	Total carrying amount	Total fair value
Financial assets								
Interest-bearing deposits with banks	\$ -	\$ 21,603	\$ -	\$ -	\$ 17,410	\$ 17,410	\$ 39,013	\$ 39,013
Securities								
Trading	126,027	10,044	-	-	57,823	58,627	136,071	136,071
Investment, net of applicable allowance	-	-	81,395	525	-	-	139,743	140,547
	126,027	10,044	81,395	525	57,823	58,627	275,814	276,618
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	264,394	-	-	-	48,621	48,621	313,015	313,015
Loans, net of applicable allowance								
Retail	-	253	260	-	454,429	462,884	454,942	463,397
Wholesale	6,197	2,363	744	-	196,746	198,753	206,050	208,057
	6,197	2,616	1,004	-	651,175	661,637	660,992	671,454
Other								
Derivatives	113,488	-	-	-	-	-	113,488	113,488
Other assets (1)	3,414	-	-	-	57,065	57,065	60,479	60,479
Financial liabilities								
Deposits								
Personal	\$ 104	\$ 17,096	-	-	\$ 325,852	\$ 324,804	\$ 343,052	\$ 342,004
Business and government (2)	389	107,466	-	-	516,456	518,501	624,311	626,356
Bank (3)	-	18,015	-	-	26,307	26,518	44,522	44,533
	493	142,577	-	-	868,615	869,823	1,011,885	1,012,893
Other								
Obligations related to securities sold short	29,285	-	-	-	-	-	29,285	29,285
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	-	255,922	-	-	18,309	18,309	274,231	274,231
Derivatives	109,927	-	-	-	-	-	109,927	109,927
Other liabilities (4)	80	86	-	-	65,712	65,719	65,878	65,885
Subordinated debentures	-	-	-	-	9,867	10,071	9,867	10,071

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019							
	Carrying value and fair value				Carrying value		Fair value	
	Financial instruments classified as FVTPL	Financial instruments designated as FVTPL	Financial instruments classified as FVOCI	Financial instruments designated as FVOCI	Financial instruments measured at amortized cost	Financial instruments measured at amortized cost	Total carrying amount	Total fair value
Financial assets								
Interest-bearing deposits with banks	\$ -	\$ 22,283	\$ -	\$ -	\$ 16,062	\$ 16,062	\$ 38,345	\$ 38,345
Securities								
Trading	137,600	8,934	-	-	-	-	146,534	146,534
Investment, net of applicable allowance	-	-	57,223	463	44,784	45,104	102,470	102,790
	137,600	8,934	57,223	463	44,784	45,104	249,004	249,324
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	246,068	-	-	-	60,893	60,894	306,961	306,962
Loans, net of applicable allowance								
Retail	275	242	95	-	423,489	424,416	424,081	425,028
Wholesale	7,055	1,850	451	-	185,413	184,645	194,775	194,007
	7,330	2,098	546	-	608,882	609,061	618,856	619,035
Other								
Derivatives	101,560	-	-	-	-	-	101,560	101,560
Other assets (1)	3,156	-	-	-	50,375	50,375	53,531	53,531
Financial liabilities								
Deposits								
Personal	\$ 140	\$ 17,394	-	-	\$ 277,198	\$ 277,353	\$ 294,732	\$ 294,887
Business and government (2)	151	111,380	-	-	453,942	452,536	565,482	564,076
Bank (3)	-	3,032	-	-	22,759	22,773	25,791	25,805
	291	131,815	-	-	753,899	752,662	886,005	884,768
Other								
Obligations related to securities sold short	35,069	-	-	-	-	-	35,069	35,069
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	-	218,612	-	-	7,974	7,974	226,586	226,586
Derivatives	98,543	-	-	-	-	-	98,543	98,543
Other liabilities (4)	(7,209)	91	-	-	61,039	61,024	59,921	59,906
Subordinated debentures	-	-	-	-	9,815	9,930	9,815	9,930

- (1) Includes Customers' liability under acceptances and financial instruments recognized in Other assets.
(2) Business and government deposits include deposits from regulated deposit-taking institutions other than banks.
(3) Bank deposits refer to deposits from regulated banks and central banks.
(4) Includes Acceptances and financial instruments recognized in Other liabilities.

Financial assets designated as fair value through profit or loss

For our financial assets designated as FVTPL, we measure the change in fair value attributable to changes in credit risk as the difference between the total change in the fair value of the instrument during the period and the change in fair value calculated using the appropriate risk-free yield curves. For the year ended October 31, 2020, the change in fair value during the period attributable to changes in credit risk for positions still held was a loss of \$379 million and the cumulative change in fair value attributable to changes in credit risk for positions still held was a loss of \$442 million. For the year ended October 31, 2019 there was no significant change in the fair value of the loans and receivables designated as FVTPL attributable to changes in credit risk. As at October 31, 2020, the extent to which credit derivatives or similar instruments mitigate the maximum exposure to credit risk was \$520 million (October 31, 2019 – \$514 million).

Financial liabilities designated as fair value through profit or loss

For our financial liabilities designated as FVTPL, we take into account changes in our own credit spread and the expected duration of the instrument to measure the change in fair value attributable to changes in credit risk.

(Millions of Canadian dollars)	As at or for the year ended October 31, 2020 (1)				
	Contractual maturity amount	Carrying value	Difference between carrying value and contractual maturity amount	Changes in fair value attributable to changes in credit risk included in OCI for positions still held	
				During the period	Cumulative (2)
Term deposits					
Personal	\$ 17,279	\$ 17,096	\$ (183)	\$ 67	\$ 89
Business and government (3)	106,153	107,466	1,313	281	491
Bank (4)	18,016	18,015	(1)	—	—
	141,448	142,577	1,129	348	580
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	255,908	255,922	14	8	8
Other liabilities	86	86	—	—	—
	\$ 397,442	\$ 398,585	\$ 1,143	\$ 356	\$ 588

(Millions of Canadian dollars)	As at or for the year ended October 31, 2019 (1)				
	Contractual maturity amount	Carrying value	Difference between carrying value and contractual maturity amount	Changes in fair value attributable to changes in credit risk included in OCI for positions still held	
				During the period	Cumulative (2)
Term deposits					
Personal	\$ 17,307	\$ 17,394	\$ 87	\$ 3	\$ 22
Business and government (3)	110,763	111,389	626	(76)	210
Bank (4)	3,031	3,032	1	—	—
	131,101	131,815	714	(73)	232
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	218,604	218,612	8	—	—
Other liabilities	91	91	—	—	—
	\$ 349,796	\$ 350,518	\$ 722	\$ (73)	\$ 232

(1) There are no significant changes in fair value attributable to changes in credit risk included in net income for positions still held.

(2) The cumulative change is measured from the initial designation of the liabilities as FVTPL. For the year ended October 31, 2020, \$2 million of fair value gains previously included in OCI relate to financial liabilities derecognized during the year (October 31, 2019 – \$4 million of fair value losses).

(3) Business and government term deposits include amounts from regulated deposit-taking institutions other than regulated banks.

(4) Bank term deposits refer to amounts from regulated banks and central banks.

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)**Net gains (losses) from financial instruments classified and designated as fair value through profit or loss**

Financial instruments classified as FVTPL, which includes mainly trading securities, derivatives, trading liabilities, and financial assets and liabilities designated as FVTPL are measured at fair value with realized and unrealized gains and losses recognized in Non-interest income.

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Net gains (losses) (1)		
Classified as fair value through profit or loss (2)	\$ (69)	\$ 3,564
Designated as fair value through profit or loss (3)	1,533	(1,821)
	\$ 1,464	\$ 1,743
By product line (1)		
Interest rate and credit (4)	\$ 1,490	\$ 1,534
Equities	(501)	(144)
Foreign exchange and commodities	475	353
	\$ 1,464	\$ 1,743

(1) Excludes the following amounts related to our insurance operations and included in Insurance premiums, investment and fee income in the Consolidated Statements of Income: Net gains from financial instruments designated as FVTPL of \$129 million (October 31, 2019 – gains of \$1,303 million).

(2) Excludes derivatives designated in a hedging relationship. Refer to Note 8 for net gains (losses) on these derivatives.

(3) For the year ended October 31, 2020, \$1,532 million of net fair value gains on financial liabilities designated as FVTPL, other than those attributable to changes in our own credit risk, were included in Non-interest income (October 31, 2019 – losses of \$1,810 million).

(4) Includes gains (losses) recognized on cross currency interest rate swaps.

Net interest income from financial instruments

Interest and dividend income arising from financial assets and financial liabilities and the associated costs of funding are reported in Net interest income.

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Interest and dividend income (1), (2)		
Financial instruments measured at fair value through profit or loss	\$ 8,480	\$ 12,103
Financial instruments measured at fair value through other comprehensive income	957	1,132
Financial instruments measured at amortized cost	25,446	28,098
	34,883	41,333
Interest expense (1)		
Financial instruments measured at fair value through profit or loss	\$ 6,065	\$ 10,507
Financial instruments measured at amortized cost (3)	7,983	11,077
	14,048	21,584
Net interest income	\$ 20,835	\$ 19,749

(1) Excludes the following amounts related to our insurance operations and included in Insurance premiums, investment and fee income in the Consolidated Statements of Income: Interest income of \$521 million (October 31, 2019 – \$486 million), and Interest expense of \$7 million (October 31, 2019 – \$4 million).

(2) Includes dividend income for the year ended October 31, 2020 of \$2,670 million (October 31, 2019 – \$2,057 million), which is presented in Interest and dividend income in the Consolidated Statements of Income.

(3) Includes interest expense on lease liabilities for the year ended October 31, 2020 of \$123 million due to the adoption of IFRS 16.

Fee income arising from financial instruments

For the year ended October 31, 2020, we earned \$5,134 million in fees from banking services (October 31, 2019 – \$5,270 million). For the year ended October 31, 2020, we also earned \$13,166 million in fees from investment management, trust, custodial, underwriting, brokerage and other similar fiduciary services to retail and institutional clients (October 31, 2019 – \$12,117 million). These fees are included in Non-interest income.

Fair value of assets and liabilities measured at fair value on a recurring basis and classified using the fair value hierarchy

(Millions of Canadian dollars)	As at									
	October 31, 2020					October 31, 2019				
	Fair value measurements using			Netting adjustments	Fair value	Fair value measurements using			Netting adjustments	Fair value
	Level 1	Level 2	Level 3			Level 1	Level 2	Level 3		
Financial assets										
Interest-bearing deposits with banks	\$ -	\$ 21,603	\$ -	\$ -	\$ 21,603	\$ -	\$ 22,283	\$ -	\$ -	\$ 22,283
Securities										
Trading										
Debt issued or guaranteed by:										
Canadian government (1)										
Federal	12,773	3,012	-		15,785	14,655	3,474	-		18,129
Provincial and municipal	-	11,562	-		11,562	-	11,282	-		11,282
U.S. state, municipal and agencies (1)	1,508	33,029	44		34,581	2,090	19,584	58		41,692
Other OECD government (2)	3,083	3,380	-		6,463	2,746	3,710	-		6,456
Mortgage-backed securities (1)	-	39	-		39	-	482	-		482
Asset-backed securities										
Non-CDO securities (3)	-	526	2		528	-	1,333	2		1,335
Corporate debt and other debt	-	21,464	30		21,494	-	23,643	21		23,665
Equities	39,795	2,561	1,261		43,617	36,389	1,925	1,219		41,453
	57,161	77,573	1,337		134,071	57,801	87,833	1,300		146,534
Investment										
Debt issued or guaranteed by:										
Canadian government (1)										
Federal	647	1,894	-		2,541	-	657	-		657
Provincial and municipal	-	3,233	-		3,233	-	2,898	-		2,898
U.S. state, municipal and agencies (1)	160	38,364	-		38,524	210	20,644	-		20,854
Other OECD government	-	7,345	-		7,345	-	4,233	-		4,233
Mortgage-backed securities (1)	-	2,343	27		2,370	-	2,675	27		2,702
Asset-backed securities										
CDO	-	7,414	-		7,414	-	7,300	-		7,300
Non-CDO securities	-	854	-		854	-	849	-		849
Corporate debt and other debt	-	18,954	160		19,114	-	17,537	153		17,690
Equities	38	152	335		525	42	127	294		463
	845	80,553	522		81,920	252	56,960	474		57,686
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	-	264,394	-		264,394	-	246,068	-		246,068
Loans	-	8,747	1,070		9,817	-	9,294	680		9,974
Other										
Derivatives										
Interest rate contracts	1	33,720	501		34,222	1	46,095	349		46,441
Foreign exchange contracts	-	39,246	57		39,303	-	40,768	48		40,816
Credit derivatives	-	463	-		463	-	168	-		168
Other contracts	4,458	16,767	36		21,261	2,852	12,674	11		15,537
Valuation adjustments	-	(1,112)	8		(1,104)	-	(712)	15		(697)
Total gross derivatives	4,459	109,084	602		114,145	2,853	98,954	423		102,230
Netting adjustments				(637)	(637)				(710)	(710)
Total derivatives	1,334	2,207	33		113,488	1,119	9,960	77		101,560
Other assets	1,334	2,207	33		3,414	1,319	3,960	77		5,156
	563,619	556,416	5,384	(637)	5,639,707	562,025	552,992	2,854	(710)	5,587,261
Financial liabilities										
Deposits										
Personal	\$ -	\$ 17,061	\$ 139	\$ -	\$ 17,200	\$ -	\$ 17,378	\$ 156	\$ -	\$ 17,534
Business and government	-	107,855	-		107,855	-	113,540	-		113,540
Bank	-	18,015	-		18,015	-	3,032	-		3,032
Other										
Obligations related to securities sold short	12,484	16,801	-		29,285	20,512	14,557	-		35,069
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	-	255,922	-		255,922	-	218,612	-		218,612
Derivatives										
Interest rate contracts	-	46,723	1,089		47,812	-	39,165	934		40,099
Foreign exchange contracts	-	38,210	35		38,245	-	40,183	27		40,210
Credit derivatives	-	531	-		531	-	282	-		282
Other contracts	5,714	18,041	337		24,112	2,675	15,776	206		18,657
Valuation adjustments	-	(84)	(32)		(116)	-	12	(7)		5
Total gross derivatives	5,714	103,421	1,429		110,584	2,675	95,418	1,160		99,253
Netting adjustments				(637)	(637)				(710)	(710)
Total derivatives					109,927					98,543
Other liabilities	118	10	38		166	102	(1,280)	60		(1,118)
	518,336	559,085	5,166	(637)	5,539,370	523,249	549,257	1,376	(710)	5,489,212

(1) As at October 31, 2020, residential and commercial mortgage-backed securities (MBS) included in all fair value levels of trading securities were \$20,520 million and \$11 (October 31, 2019 - \$22,365 million and \$11), respectively, and in all fair value levels of investment securities were \$9,487 million and \$2,337 million (October 31, 2019 - \$6,474 million and \$2,046 million), respectively.

(2) OECD stands for Organisation for Economic Co-operation and Development.

(3) CDO stands for collateralized debt obligations.

Fair values of our significant assets and liabilities measured on a recurring basis are determined and classified in the fair value hierarchy table using the following valuation techniques and inputs.

Interest-bearing deposits with banks

The majority of our Interest-bearing deposits with banks are designated as FVTPL. These FVTPL deposits are composed of short-dated deposits placed with banks, and are included in Interest-bearing deposits with banks in the fair value hierarchy table. The

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)

fair values of these instruments are determined using the discounted cash flow method. The inputs to the valuation models include interest rate swap curves and credit spreads, where applicable. They are classified as Level 2 instruments in the hierarchy as the inputs are observable.

Government bonds (Canadian, U.S. and other OECD governments)

Government bonds are included in Canadian government debt, U.S. state, municipal and agencies debt, Other OECD government debt and Obligations related to securities sold short in the fair value hierarchy table. The fair values of government issued or guaranteed debt securities in active markets are determined by reference to recent transaction prices, broker quotes, or third-party vendor prices and are classified as Level 1 in the hierarchy. The fair values of securities that are not traded in active markets are based on either security prices, or valuation techniques using implied yields and risk spreads derived from prices of actively traded and similar government securities. Securities with observable prices or rate inputs as compared to transaction prices, dealer quotes or vendor prices are classified as Level 2 in the hierarchy. Securities where inputs are unobservable are classified as Level 3 in the hierarchy.

Corporate and U.S. municipal bonds

The fair values of corporate and U.S. municipal bonds, which are included in Corporate debt and other debt, U.S. state, municipal and agencies debt and Obligations related to securities sold short in the fair value hierarchy table, are determined using either recently executed transaction prices, broker quotes, pricing services, or in certain instances, the discounted cash flow method using rate inputs such as benchmark yields (Canadian Dealer Offered Rate, LIBOR and other similar reference rates) and risk spreads of comparable securities. Securities with observable prices or rate inputs are classified as Level 2 in the hierarchy. Securities where inputs are unobservable are classified as Level 3 in the hierarchy.

Asset-backed securities and Mortgage-backed securities

Asset-backed securities (ABS) and MBS are included in Asset-backed securities, Mortgage-backed securities, Canadian government debt, U.S. state, municipal and agencies debt, and Obligations related to securities sold short in the fair value hierarchy table. Inputs for valuation of ABS and MBS are, when available, traded prices, dealer or lead manager quotes, broker quotes and vendor prices of the identical securities. When prices of the identical securities are not readily available, we use industry standard models with inputs such as discount margins, yields, default, prepayment and loss severity rates that are implied from transaction prices, dealer quotes or vendor prices of comparable instruments. Where security prices and inputs are observable, ABS and MBS are classified as Level 2 in the hierarchy. Otherwise, they are classified as Level 3 in the hierarchy.

Equities

Equities consist of listed and unlisted common shares, private equities, mutual funds and hedge funds with certain redemption restrictions and are included in equities and obligations for securities sold short. The fair values of common shares are based on quoted prices in active markets, where available, and are classified as Level 1 in the hierarchy. Where quoted prices in active markets are not readily available, fair value is determined based on quoted market prices for similar securities or through valuation techniques, such as multiples of earnings and the discounted cash flow method with forecasted cash flows and discount rate as inputs. Private equities are classified as Level 3 in the hierarchy as their inputs are not observable. Hedge funds are valued using Net Asset Values (NAV). If we can redeem a hedge fund at NAV prior to the next quarter end, the fund is classified as Level 2 in the hierarchy. Otherwise, it is classified as Level 3 in the hierarchy.

Loans

Loans include base metal loans, corporate loans, banker acceptances and asset-backed financing loans. Fair values are determined based on market prices, if available, or discounted cash flow method using the following inputs: market interest rates, base metal commodity prices, market based spreads of assets with similar credit ratings and terms to maturity, LGD, expected default frequency implied from credit derivative prices, if available, and relevant pricing information such as contractual rate, origination and maturity dates, redemption price, coupon payment frequency and day count convention. Loans with market prices or observable inputs are classified as Level 2 in the hierarchy and loans with unobservable inputs that have significant impacts on the fair values are classified as Level 3 in the hierarchy.

Derivatives

The fair values of exchange-traded derivatives, such as interest rate and equity options and futures, are based on quoted market prices and are typically classified as Level 1 in the hierarchy. OTC derivatives primarily consist of interest rate contracts, foreign exchange contracts and credit derivatives. The exchange-traded or OTC interest rate, foreign exchange and equity derivatives are included in Interest rate contracts, Foreign exchange contracts and Other contracts, respectively, in the fair value hierarchy table. The fair values of OTC derivatives are determined using valuation models when quoted market prices or third-party consensus pricing information are not available. The valuation models, such as discounted cash flow method or Black-Scholes option model, incorporate observable or unobservable inputs for interest and foreign exchange rates, equity and commodity prices (including indices), credit spreads, corresponding market volatility levels, and other market-based pricing factors. Other adjustments to fair value include bid-offer, CVA, FVA, OIS, parameter and model uncertainties, and unrealized gain or loss at inception of a transaction. A derivative instrument is classified as Level 2 in the hierarchy if observable market inputs are available or the unobservable inputs are not significant to the fair value. Otherwise, it is classified as Level 3 in the hierarchy.

Securities borrowed or purchased under resale agreements and securities loaned or sold under repurchase agreements
In the fair value hierarchy table, these instruments are included in Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed, and Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned. The fair values of these contracts are determined using valuation techniques such as the discounted cash flow method using interest rate curves as inputs. They are classified as Level 2 Instruments in the hierarchy as the inputs are observable.

Deposits

A majority of our deposits are measured at amortized cost but certain deposits are designated as FVTPL. These FVTPL deposits include deposits taken from clients, issuances of certificates of deposits and promissory notes, and interest rate and equity linked notes. The fair values of these instruments are determined using the discounted cash flow method and derivative option valuation models. The inputs to the valuation models include benchmark yield curves, credit spreads, interest rates, equity and interest rate volatility, dividends and correlation, where applicable. They are classified as Level 2 or 3 instruments in the hierarchy, depending on the significance of the unobservable credit spreads, volatility, dividend and correlation rates.

Quantitative information about fair value measurements using significant unobservable inputs (Level 3 Instruments)

The following table presents fair values of our significant Level 3 financial instruments, valuation techniques used to determine their fair values, ranges and weighted averages of unobservable inputs.

As at October 31, 2020 (Millions of Canadian dollars, except for prices, percentages and ratios)

		Fair value				Range of input values (1), (2)		
Products	Reporting line in the fair value hierarchy table	Assets	Liabilities	Valuation techniques	Significant unobservable inputs (3)	Low	High	Weighted average / Inputs distribution
Corporate debt and related derivatives		33		Price-based	Prices	\$ 1.33	\$ 136.34	\$ 94.23
	Corporate debt and other debt	1,070		Discounted cash flows	Credit spread	1.75%	14.10%	7.93%
	Derivative related liabilities		25		Credit enhancement	11.82%	15.75%	13.13%
Government debt and municipal bonds		—		Price-based	Prices	\$ 64.62	\$ 64.62	\$ 64.62
	Mortgage-backed securities	157		Discounted cash flows	Yields	4.21%	7.89%	5.88%
Private equities, hedge fund investments and related equity derivatives	Equities	1,596		Market comparable	EV/EBITDA multiples	7.00X	15.38X	13.31X
	Derivative related liabilities	10		Price-based Discounted cash flows	P/E multiples	9.40X	33.47X	19.10X
					EV/Rev multiples	1.61X	9.10X	2.04X
					Liquidity discounts (4)	10.00%	40.00%	16.40%
					Discount rate	10.52%	10.52%	10.52%
NAV / prices (5)	n.a.	n.a.	n.a.					
Interest rate derivatives and interest rate-linked structured notes (6), (7)	Derivative related assets	540		Discounted cash flows	Interest rates	1.20%	1.60%	Even
	Derivative related liabilities	1,183		Option pricing model	CPI swap rates	1.46%	1.83%	Even
					IR-IR correlations	19.00%	67.00%	Even
					FX-IR correlations	29.00%	56.00%	Even
					FX-FX correlations	68.00%	68.00%	Even
Equity derivatives and equity-linked structured notes (6), (7)	Derivative related assets	36		Discounted cash flows	Dividend yields	0.00%	11.38%	Lower
	Deposits		139	Option pricing model	Equity (EQ)-EQ correlations	21.80%	97.00%	Middle
	Derivative related liabilities	238		EQ-FX correlations	(71.40)%	45.10%	Middle	
				EQ volatilities	9.00%	176.00%	Upper	
Other (8)	Asset-backed securities	2						
	Derivative related assets	26						
	Other assets	53						
	Mortgage-backed securities	27						
	U.S. state, municipal and agencies debt	44						
	Derivative related liabilities		53					
	Other liabilities		36					
Total		\$ 3,584	\$ 1,606					

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)

As at October 31, 2019 (Millions of Canadian dollars, except for prices, percentages and ratios)

Products	Reporting line in the fair value hierarchy table	Fair value		Valuation techniques	Significant unobservable inputs (3)	Range of input values (1), (2)		Weighted average / inputs distribution
		Assets	Liabilities			Low	High	
Corporate debt and related derivatives	Corporate debt and other debt loans	24		Price based	Prices	\$ 29.00	\$ 131.78	\$ 118.30
	Derivative related liabilities	480		Discounted cash flows	Credit spread	1.02%	11.34%	5.18%
					Credit enhancement	11.82%	15.75%	13.33%
Government debt and municipal bonds	Mortgage-backed securities	27		Price based	Prices	\$ 65.50	\$ 100.00	\$ 65.67
	Corporate debt and other debt	150		Discounted cash flows	Yields	4.70%	5.63%	5.80%
Private equities, hedge fund investments and related equity derivatives	Equities	1,513		Market comparable	EV/EBITDA multiples	4.00X	24.90X	10.23X
	Derivative related liabilities		10	Price based	P/E multiples	5.70X	29.90X	16.11X
				Discounted cash flows	EV/Rev multiples	0.90X	5.93X	3.55X
Interest rate derivatives and interest rate linked structured notes (6), (7)	Derivative related assets	380		Discounted cash flows	Liquidity discounts (4)	10.00%	40.00%	17.64%
	Derivative related liabilities		943	Option pricing model	Discount rate	10.00%	12.00%	10.45%
					NAV / prices (5)	n.a.	n.a.	n.a.
					Interest rates	1.27%	2.16%	Even
					CPI swap rates	1.40%	2.00%	Even
Equity derivatives and equity linked structured notes (6), (7)	Derivative related assets	11		Discounted cash flows	IR-IR correlations	19.00%	67.00%	Even
	Deposits		356	Option pricing model	FX-IR correlations	29.00%	55.00%	Even
	Derivative related liabilities		180		FX-FX correlations	68.00%	68.00%	Even
					Dividend yields	0.10%	8.77%	Lower
Other (8)	Asset-backed securities	2			Equity (EQ) EQ correlations	34.00%	95.40%	Middle
	Derivative related assets	32			EQ-FX correlations	(71.40)%	30.50%	Middle
	Other assets	77			EQ volatilities	4.00%	110.00%	Upper
	Mortgage-backed securities							
	U.S. state, municipal and agencies debt		58					
	Derivative related liabilities		27					
	Other liabilities		68					
Total		\$ 2,954	\$ 1,376					

(1) The low and high input values represent the actual highest and lowest level inputs used to value a group of financial instruments in a particular product category. These input ranges do not reflect the level of input uncertainty, but are affected by the different underlying instruments within the product category. The input ranges will therefore vary from period to period based on the characteristics of the underlying instruments held at each balance sheet date. Where provided, the weighted average of the input values is calculated based on the relative fair values of the instruments within the product category. The weighted averages for derivatives are not presented in the table as they would not provide a comparable metric; instead, distribution of significant unobservable inputs within the range for each product category is indicated in the table.

(2) Price-based inputs are significant for certain debt securities and are based on external benchmarks, comparable proxy instruments or pre-quarter-end trade data. For these instruments, the price input is expressed in dollars for each \$100 par value. For example, with an input price of \$105, an instrument is valued at a premium over its par value.

(3) The acronyms stand for the following: (i) Enterprise Value (EV); (ii) Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization (EBITDA); (iii) Price / Earnings (P/E); (iv) Revenue (Rev); (v) Consumer Price Index (CPI); (vi) Interest Rate (IR); (vii) Foreign Exchange (FX); and (viii) Equity (EQ).

(4) Fair value of securities with liquidity discount inputs totalled \$286 million (October 31, 2019 – \$255 million).

(5) NAV of a hedge fund is total fair value of assets less liabilities divided by the number of fund units. Private equities are valued based on NAV or valuation techniques. The range for NAV per unit or price per share has not been disclosed for the hedge funds or private equities due to the dispersion of prices given the diverse nature of the investments.

(6) The level of aggregation and diversity within each derivative instrument category may result in certain ranges of inputs being wide and inputs being unevenly distributed across the range. In the table, we indicated whether the majority of the inputs are concentrated toward the upper, middle, or lower end of the range, or evenly distributed throughout the range.

(7) The structured notes contain embedded equity or interest rate derivatives with unobservable inputs that are similar to those of the equity or interest rate derivatives.

(8) Other primarily includes certain insignificant instruments such as auction rate securities, commodity derivatives, foreign exchange derivatives, contingent considerations, bank-owned life insurance and retractable shares.

n.a. not applicable

Sensitivity to unobservable inputs and interrelationships between unobservable inputs**Yield, credit spreads/discount margins**

A financial instrument's yield is the interest rate used to discount future cash flows in a valuation model. An increase in the yield, in isolation, would result in a decrease in a fair value measurement and vice versa. A credit spread/discount margin is the difference between a debt instrument's yield and a benchmark instrument's yield. Benchmark instruments have high credit quality ratings, similar maturities and are often government bonds. The credit spread/discount margin therefore represents the discount rate used to determine the present value of future cash flows of an asset to reflect the market return required for uncertainty in the estimated cash flows. The credit spread/discount margin for an instrument forms part of the yield used in a discounted cash flow method.

Funding spread

Funding spreads are credit spreads specific to funding or deposit rates. A decrease in funding spreads, on its own, will increase the fair value of our liabilities, and vice versa.

Default rates

A default rate is the rate at which borrowers fail to make scheduled loan payments. A decrease in the default rate will typically increase the fair value of the loan, and vice versa. This effect will be significantly more pronounced for a non-government guaranteed loan than a government guaranteed loan.

Prepayment rates

A prepayment rate is the rate at which a loan will be repaid in advance of its expected amortization schedule. Prepayments change the future cash flows of a loan. An increase in the prepayment rate in isolation will result in an increase in fair value when the loan interest rate is lower than the current reinvestment rate, and a decrease in the prepayment rate in isolation will result in a decrease in fair value when the loan interest rate is lower than the current reinvestment rate. Prepayment rates are generally negatively correlated with interest rates.

Recovery and loss severity rates

A recovery rate is an estimation of the amount that can be collected in a loan default scenario. The recovery rate is the recovered amount divided by the loan balance due, expressed as a percentage. The inverse concept of recovery is loss severity. Loss severity rate is an estimation of the loan amount not collected when a loan defaults. The loss severity rate is the loss amount divided by the loan balance due, expressed as a percentage. Generally, an increase in the recovery rate or a decrease in the loss severity rate will increase the loan fair value, and vice versa.

Volatility rates

Volatility measures the potential variability of future prices and is often measured as the standard deviation of price movements. Volatility is an input to option pricing models used to value derivatives and issued structured notes. Volatility is used in valuing equity, interest rate, commodity and foreign exchange options. A higher volatility rate means that the underlying price or rate movements are more likely to occur. Higher volatility rates may increase or decrease an option's fair value depending on the option's terms. The determination of volatility rates is dependent on various factors, including but not limited to, the underlying's market price, the strike price and maturity.

Dividend yields

A dividend yield is the underlying equity's expected dividends expressed as an annual percentage of its price. Dividend yield is used as an input for forward equity price and option models. Higher dividend yields will decrease the forward price, and vice versa. A higher dividend yield will increase or decrease an option's value, depending on the option's terms.

Correlation rates

Correlation is the linear relationship between the movements in two different variables. Correlation is an input to the valuation of derivative contracts and issued structured notes when an instrument's payout is determined by correlated variables. When variables are positively correlated, an increase in one variable will result in an increase in the other variable. When variables are negatively correlated, an increase in one variable will result in a decrease in the other variable. The referenced variables can be within a single asset class or market (equity, interest rate, commodities, credit and foreign exchange) or between variables in different asset classes (equity to foreign exchange, or interest rate to foreign exchange). Changes in correlation will either increase or decrease a financial instrument's fair value depending on the terms of the instrument.

Interest rates

An interest rate is the percentage amount charged on a principal or notional amount. Increasing interest rates will decrease the discounted cash flow value of a financial instrument, and vice versa.

Consumer Price Index swap rates

A CPI swap rate is expressed as a percentage of an increase in the average price of a basket of consumer goods and services, such as transportation, food and medical care. An increase in the CPI swap rate will cause inflation swap payments to be larger, and vice versa.

EV/EBITDA multiples, P/E multiples, EV/Rev multiples, and liquidity discounts

Private equity valuation inputs include EV/EBITDA multiples, P/E multiples and EV/Rev multiples. These are used to calculate either enterprise value or share value of a company based on a multiple of earnings or revenue estimates. Higher multiples equate to higher fair values for all multiple types, and vice versa. A liquidity discount may be applied when few or no transactions exist to support the valuations.

Credit Enhancement

Credit enhancement is an input to the valuation of securitized transactions and is the amount of loan loss protection for a senior tranche. Credit enhancement is expressed as a percentage of the transaction sizes. An increase in credit enhancement will cause the credit spread to decrease and the tranche fair value to increase, and vice versa.

Interrelationships between unobservable inputs

Unobservable inputs, including the above discount margin, default rate, prepayment rate, and recovery and loss severity rates, may not be independent of each other. For example, the discount margin can be affected by a change in default rate, prepayment rate, or recovery and loss severity rates. Discount margins will generally decrease when default rates decline or when recovery rates increase.

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)**Changes in fair value measurement for instruments measured on a recurring basis and categorized in Level 3**

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2020								
	Fair value at beginning of period	Gains (losses) included in earnings	Gains (losses) included in OCI (1)	Purchases (issuances)	Settlement (sales) and other (2)	Transfers into Level 3	Transfers out of Level 3	Fair value at end of period	Gains (losses) included in earnings for positions still held
Assets									
Securities									
Trading									
Debt issued or guaranteed by:									
U.S. state, municipal and agencies	\$ 58	\$ -	\$ 1	\$ -	\$ (15)	\$ -	\$ -	\$ 44	\$ -
Asset-backed securities	2	-	-	-	-	-	-	2	-
Non-CDO securities	21	(1)	-	1	(3)	12	-	30	-
Corporate debt and other debt	1,219	(126)	10	231	(74)	3	(2)	1,261	(47)
Equities	1,300	(127)	11	232	(92)	15	(2)	1,337	(47)
Investment									
Mortgage-backed securities	27	-	-	-	-	-	-	27	n.a.
Corporate debt and other debt	153	-	4	-	3	-	-	160	n.a.
Equities	294	-	37	8	(4)	-	-	335	n.a.
	474	-	41	8	(1)	-	-	522	n.a.
Loans	680	92	8	551	(706)	624	(179)	1,070	(15)
Other									
Net derivative balances (3)									
Interest rate contracts	(585)	(116)	(2)	(31)	4	35	107	(588)	(57)
Foreign exchange contracts	21	(7)	(3)	23	-	(6)	(6)	22	(13)
Other contracts	(195)	(76)	(1)	(174)	44	(88)	189	(301)	(8)
Valuation adjustments	22	-	-	-	18	-	-	40	-
Other assets	77	(7)	2	-	(19)	-	-	53	(7)
	\$ 1,794	\$ (241)	\$ 56	\$ 609	\$ (752)	\$ 580	\$ 109	\$ 2,155	\$ (147)
Liabilities									
Deposits									
Personal	\$ (156)	\$ 52	\$ (3)	\$ (296)	\$ 30	\$ (113)	\$ 347	\$ (139)	\$ 29
Business and government	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Other									
Other liabilities	(60)	5	(1)	4	14	-	-	(38)	5
	\$ (216)	\$ 57	\$ (4)	\$ (292)	\$ 44	\$ (113)	\$ 347	\$ (177)	\$ 34
(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2019								
	Fair value at beginning of period	Gains (losses) included in earnings	Gains (losses) included in OCI (1)	Purchases (issuances)	Settlement (sales) and other (2)	Transfers into Level 3	Transfers out of Level 3	Fair value at end of period	Gains (losses) included in earnings for positions still held
Assets									
Securities									
Trading									
Debt issued or guaranteed by:									
U.S. state, municipal and agencies	\$ 66	\$ -	\$ 1	\$ -	\$ (9)	\$ -	\$ -	\$ 58	\$ -
Asset-backed securities	110	15	-	-	(123)	-	-	2	3
Non-CDO securities	21	1	1	-	(2)	-	-	21	1
Corporate debt and other debt	1,148	(76)	2	333	(226)	39	(1)	1,219	(20)
Equities	1,345	(60)	4	333	(360)	39	(1)	1,300	(16)
Investment									
Mortgage-backed securities	-	-	-	27	-	-	-	27	n.a.
Corporate debt and other debt	192	(3)	24	-	(60)	-	-	153	n.a.
Equities	237	-	16	5	36	-	-	294	n.a.
	429	(3)	40	32	(24)	-	-	474	n.a.
Loans	551	40	2	810	(481)	55	(317)	680	19
Other									
Net derivative balances (3)									
Interest rate contracts	(504)	(79)	-	(197)	217	(7)	(15)	(585)	(42)
Foreign exchange contracts	21	12	-	-	(6)	4	(10)	21	32
Other contracts	(84)	131	2	(131)	18	(38)	(93)	(195)	115
Valuation adjustments	1	-	-	-	21	-	-	22	-
Other assets	65	28	-	-	(16)	-	-	77	27
	\$ 1,824	\$ 69	\$ 48	\$ 867	\$ (631)	\$ 53	\$ (436)	\$ 1,794	\$ 135
Liabilities									
Deposits									
Personal	\$ (390)	\$ (38)	\$ -	\$ (102)	\$ 29	\$ (214)	\$ 559	\$ (156)	\$ -
Business and government	5	-	-	-	-	-	(5)	-	-
Other									
Other liabilities	(68)	(16)	(1)	1	24	-	-	(60)	(12)
	\$ (453)	\$ (54)	\$ (1)	\$ (101)	\$ 53	\$ (214)	\$ 554	\$ (218)	\$ (12)

(1) These amounts include the foreign currency translation gains or losses arising on consolidation of foreign subsidiaries relating to the Level 3 instruments, where applicable. The unrealized gains on investment securities recognized in OCI were \$32 million for the year ended October 31, 2020 (October 31, 2019 - gains of \$43 million) excluding the translation gains or losses arising on consolidation.

(2) Other includes amortization of premiums or discounts recognized in net income.

(3) Net derivatives as at October 31, 2020 included derivative assets of \$502 million (October 31, 2019 - \$423 million) and derivative liabilities of \$1,429 million (October 31, 2019 - \$1,660 million).

n.a. not applicable

Transfers between fair value hierarchy levels for instruments carried at fair value on a recurring basis

Transfers between Level 1 and Level 2, and transfers into and out of Level 3 are assumed to occur at the end of the period. For an asset or a liability that transfers into Level 3 during the period, the entire change in fair value for the period is excluded from the Gains (losses) included in earnings for positions still held at the end of the period, whereas for transfers out of Level 3 during the period, the entire change in fair value for the period is included in the same column of the above reconciliation.

Transfers between Level 1 and 2 are dependent on whether fair value is obtained on the basis of quoted market prices in active markets (Level 1).

During the year ended October 31, 2020, transfers out of Level 1 to Level 2 included Investment U.S. state, municipal and agencies debt of \$1,200 million, Trading U.S. state, municipal and agencies debt of \$1,125 million and Obligations related to securities sold short of \$804 million. During the year ended October 31, 2019, transfers out of Level 1 to Level 2 included Other contracts, consisting of derivative related assets and derivative related liabilities of \$1,996 million and \$621 million, respectively and Trading U.S. state, municipal and agencies debt of \$1,250 million and Obligations related to securities sold short of \$202 million.

During the year ended October 31, 2020, transfers out of Level 2 to Level 1 included Investment U.S. state, municipal and agencies debt of \$937 million. During the year ended October 31, 2019, there were no significant transfers out of Level 2 to Level 1.

Transfers between Level 2 and Level 3 are primarily due to either a change in the market observability for an input, or a change in an unobservable input's significance to a financial instrument's fair value.

During the year ended October 31, 2020, significant transfers out of Level 2 to Level 3 included:

- \$624 million of Loans, due to changes in the significance of unobservable inputs.
- \$69 million of OTC equity options in Other contracts comprised of \$51 million of derivative related assets and \$120 million of derivative related liabilities, due to changes in the market observability of inputs.
- \$113 million of Personal deposits, due to changes in the significance of unobservable inputs.

During the year ended October 31, 2019, significant transfers out of Level 2 to Level 3 included \$214 million of Personal deposits, due to changes in the significance of unobservable inputs.

During the year ended October 31, 2020, significant transfers out of Level 3 to Level 2 included:

- \$179 million of Loans, due to changes in significance of unobservable inputs.
- \$107 million of Interest rate contracts comprised of \$211 million of derivative related assets and \$318 million of derivative related liabilities, due to changes in the market observability of inputs.
- \$109 million of OTC equity options in Other contracts comprised of \$76 million of derivative related assets and \$185 million of derivative related liabilities, due to changes in the market observability of inputs.
- \$347 million of Personal deposits, due to changes in the significance of unobservable inputs.

During the year ended October 31, 2019, significant transfers out of Level 3 to Level 2 included:

- \$317 million of Loans, due to changes in the significance of unobservable inputs.
- \$86 million of OTC equity options in Other contracts comprised of \$459 million of derivative related assets and \$373 million of derivative related liabilities, due to changes in the market observability of inputs.
- \$559 million of Personal deposits, due to changes in the significance of unobservable inputs.

Positive and negative fair value movements of Level 3 financial instruments from using reasonably possible alternative assumptions

A financial instrument is classified as Level 3 in the fair value hierarchy if one or more of its unobservable inputs may significantly affect the measurement of its fair value. In preparing the financial statements, appropriate levels for these unobservable input parameters are chosen so that they are consistent with prevailing market evidence or management judgment. Due to the unobservable nature of the prices or rates, there may be uncertainty about the valuation of these Level 3 financial instruments.

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)

The following table summarizes the impacts to fair values of Level 3 financial instruments using reasonably possible alternative assumptions. This sensitivity disclosure is intended to illustrate the potential impact of the relative uncertainty in the fair value of Level 3 financial instruments. In reporting the sensitivities below, we offset balances in instances where: (i) the move in valuation factors cause an offsetting positive and negative fair value movement, (ii) both offsetting instruments are in Level 3, and (iii) exposures are managed and reported on a net basis. With respect to overall sensitivity, it is unlikely in practice that all reasonably possible alternative assumptions would simultaneously be realized.

(Millions of Canadian dollars)	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	Level 3 fair value	Positive fair value movement from using reasonably possible alternatives	Negative fair value movement from using reasonably possible alternatives	Level 3 fair value	Positive fair value movement from using reasonably possible alternatives	Negative fair value movement from using reasonably possible alternatives
Securities						
Trading						
Debt issued or guaranteed by: U.S. state, municipal and agencies	\$ 44	\$ 1	\$(1)	\$ 58	\$ 1	\$(1)
Asset-backed securities	2	—	—	2	—	—
Corporate debt and other debt	30	1	\$(1)	21	—	—
Equities	1,261	15	\$(15)	1,219	13	\$(14)
Investment						
Mortgage-backed securities	27	3	\$(3)	27	1	\$(1)
Corporate debt and other debt	160	18	\$(16)	153	15	\$(13)
Equities	335	28	\$(28)	294	26	\$(27)
Loans	1,070	49	\$(49)	680	9	\$(12)
Derivatives	602	2	\$(2)	423	6	\$(3)
Other assets	53	—	—	77	—	—
	\$ 3,584	\$ 117	\$(115)	\$ 2,954	\$ 71	\$(71)
Deposits	\$ (139)	\$ 4	\$(4)	\$ (156)	\$ 4	\$(4)
Derivatives	(1,429)	13	\$(55)	(1,160)	20	\$(17)
Other	(38)	—	—	(60)	—	—
Other liabilities						
	\$ (1,606)	\$ 17	\$(59)	\$ (1,376)	\$ 24	\$(21)

Sensitivity results

As at October 31, 2020, the effects of applying other reasonably possible alternative assumptions to the Level 3 asset positions would be an increase of \$117 million and a decrease of \$115 million in fair value, of which \$49 million and \$47 million would be recorded in Other components of equity, respectively. The effects of applying these assumptions to the Level 3 liability positions would result in a decrease of \$17 million and an increase of \$59 million in fair value.

Level 3 valuation inputs and approaches to developing reasonably possible alternative assumptions

The following is a summary of the unobservable inputs used in the valuation of the Level 3 instruments and our approaches to developing reasonably possible alternative assumptions used to determine sensitivity.

Financial assets or liabilities	Sensitivity methodology
Asset-backed securities, corporate debt, government debt, municipal bonds and loans	Sensitivities are determined based on adjusting, plus or minus one standard deviation, the bid-offer spreads or input prices if a sufficient number of prices is received, adjusting input parameters such as credit spreads or using high and low vendor prices as reasonably possible alternative assumptions.
Private equities, hedge fund investments and related equity derivatives	Sensitivity of direct private equity investments is determined by (i) adjusting the discount rate by 2% when the discounted cash flow method is used to determine fair value, (ii) adjusting the price multiples based on the range of multiples of comparable companies when price-multiples-based models are used, or (iii) using an alternative valuation approach. The private equity fund, hedge fund and related equity derivative NAVs are provided by the fund managers, and as a result, there are no other reasonably possible alternative assumptions for these investments.
Interest rate derivatives	Sensitivities of interest rate and cross-currency swaps are derived using plus or minus one standard deviation of the inputs, and an amount representing model and parameter uncertainty, where applicable.
Equity derivatives	Sensitivity of the Level 3 position is determined by shifting the unobservable model inputs by plus or minus one standard deviation of the pricing service market data including volatility, dividends or correlations, as applicable.
Bank funding and deposits	Sensitivities of deposits are calculated by shifting the funding curve by plus or minus certain basis points.
Structured notes	Sensitivities for interest-rate-linked and equity-linked structured notes are derived by adjusting inputs by plus or minus one standard deviation, and for other deposits, by estimating a reasonable move in the funding curve by plus or minus certain basis points.

Fair value for financial instruments that are carried at amortized cost and classified using the fair value hierarchy

Fair value for financial instruments that are carried at amortized cost and classified using the fair value hierarchy							
	As at October 31, 2020						
	Fair value always approximates carrying value (1)	Fair value may not approximate carrying value				Total fair value	
(Millions of Canadian dollars)		Fair value measurements using			Total		
		Level 1	Level 2	Level 3			
Interest-bearing deposits with banks	\$ 17,410	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 17,410	
Amortized cost securities (2)	-	502	58,125	-	58,627	58,627	
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	37,064	-	11,557	-	11,557	48,621	
Loans							
Retail	66,151	-	392,093	4,640	396,733	462,884	
Wholesale	11,278	-	182,094	5,381	187,475	198,753	
	77,429	-	574,187	10,021	584,208	661,637	
Other assets	56,484	-	450	131	581	57,065	
	188,387	502	644,319	10,152	654,973	843,360	
Deposits							
Personal	245,777	-	78,500	527	79,027	324,804	
Business and government	364,451	-	153,395	655	154,050	518,501	
Bank	19,070	-	7,439	9	7,448	26,518	
	629,298	-	239,334	1,191	240,523	869,823	
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	18,309	-	-	-	-	18,309	
Other liabilities	56,200	-	1,004	8,515	9,519	65,719	
Subordinated debentures	-	-	10,012	59	10,071	10,071	
	\$ 703,807	\$ -	\$ 250,350	\$ 9,765	\$ 260,115	\$ 963,922	

As at October 31, 2019							
(Millions of Canadian dollars)	Fair value always approximates carrying value (1)	Fair value may not approximate carrying value				Total fair value	
		Fair value measurements using			Total		
		Level 1	Level 2	Level 3			
Interest-bearing deposits with banks	\$ 16,062	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 16,062	
Amortized cost securities (2)	-	523	44,581	-	45,104	45,104	
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	48,784	-	12,110	-	12,110	60,894	
Loans							
Retail	66,647	-	352,717	5,052	357,769	424,416	
Wholesale	6,596	-	173,274	4,775	178,049	184,645	
	73,243	-	525,991	9,827	535,818	609,061	
Other assets	49,761	-	469	145	614	50,375	
	187,850	523	583,151	9,972	593,646	781,496	
Deposits							
Personal	195,583	-	81,179	591	81,770	277,353	
Business and government	296,166	-	155,646	724	156,370	452,536	
Bank	15,093	-	7,671	9	7,680	22,773	
	506,842	-	244,496	1,324	245,820	752,662	
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	7,974	-	-	-	-	7,974	
Other liabilities	50,601	-	445	9,978	10,423	61,024	
Subordinated debentures	8	-	9,864	58	9,922	9,930	
	\$ 565,425	\$ -	\$ 254,805	\$ 11,360	\$ 266,165	\$ 831,590	

(1) Certain financial instruments have not been assigned to a level as the carrying amount always approximates their fair values due to their short-term nature (instruments that are receivable or payable on demand, or with original maturity of three months or less) and insignificant credit risk.

(2) Included in Securities - Investment, net of applicable allowance on the Consolidated Balance Sheets.

Fair values of financial assets and liabilities carried at amortized cost and disclosed in the table above are determined using the following valuation techniques and inputs.

Amortized cost securities

Fair values of government bonds, corporate bonds, and ABS are based on quoted prices. Fair values of certain Non-OECD government bonds are based on vendor prices or the discounted cash flow method with yield curves of other countries' government bonds as inputs. For ABS, where market prices are not available, the fair value is determined using the discounted cash flow method. The inputs to the valuation model generally include market interest rates, spreads and yields derived from comparable securities, prepayment, and LGD.

Note 3 Fair value of financial instruments (continued)

Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed, and Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned

Valuation methods used for the long-term instruments are described in the Fair value of assets and liabilities measured on a recurring basis and classified using the fair value hierarchy section of this note. The carrying values of short-term instruments generally approximate their fair values.

Loans – Retail

Retail loans include residential mortgages, personal and small business loans and credit cards. For residential mortgages, and personal and small business loans, we segregate the portfolio based on certain attributes such as product type, contractual interest rate, term to maturity and credit scores, if applicable. Fair values of these loans are determined by the discounted cash flow method using applicable inputs such as prevailing interest rates, contractual and posted client rates, client discounts, credit spreads, prepayment rates and loan-to-value ratios. Fair values of credit card receivables are also calculated based on a discounted cash flow method with portfolio yields, write-offs and monthly payment rates as inputs. The carrying values of short-term and variable rate loans generally approximate their fair values.

Loans – Wholesale

Where market prices are available, wholesale loans are valued based on market prices. Otherwise, fair value is determined by the discounted cash flow method using the following inputs: market interest rates and market based spreads of assets with similar credit ratings and terms to maturity, LGD, expected default frequency implied from credit default swap prices, if available, and relevant pricing information such as contractual rate, origination and maturity dates, redemption price, coupon payment frequency and date convention.

Deposits

Deposits are comprised of demand, notice, and term deposits which include senior deposit notes we have issued to provide us with long-term funding. Fair values of term deposits are determined by one of several valuation techniques: (i) for term deposits and similar instruments, we segregate the portfolio based on term to maturity. Fair values of these instruments are determined by the discounted cash flow method using inputs such as client rates for new sales of the corresponding terms; and (ii) for senior deposit notes, we use actual traded prices, vendor prices or the discounted cash flow method using a market interest rate curve and our funding spreads as inputs. The carrying values of demand, notice, and short-term term deposits generally approximate their fair values.

Other assets and Other liabilities

Other assets and Other liabilities include receivables and payables relating to certain commodities. Fair values of the commodity receivables and payables are calculated by the discounted cash flow method using applicable inputs such as market interest rates, counterparties' credit spreads, our funding spreads, commodity forward prices and spot prices.

Subordinated debentures

Fair values of Subordinated debentures are based on market prices, dealer quotes or vendor prices when available. Where prices cannot be observed, fair value is determined using the discounted cash flow method, with applicable inputs such as market interest rates and credit spreads.

Note 4 Securities

Carrying value of securities

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020						
	Term to maturity ⁽¹⁾					With no specific maturity	Total
	Within 3 months	3 months to 1 year	1 year to 5 years	5 years to 10 years	Over 10 years		
Trading ⁽²⁾							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government	\$ 2,301	\$ 7,004	\$ 6,054	\$ 3,569	\$ 8,419	\$ –	\$ 27,347
U.S. state, municipal and agencies	559	4,532	12,546	4,134	14,810	–	36,581
Other OECD government	56	695	3,010	584	2,120	–	6,465
Mortgage-backed securities	–	–	–	–	39	–	39
Asset-backed securities	3	164	82	181	98	–	528
Corporate debt and other debt							
Bankers' acceptances	65	227	–	–	–	–	292
Certificates of deposit	2	63	35	7	4	–	111
Other ⁽³⁾	1,048	3,472	5,521	3,007	8,043	–	21,091
Equities	–	–	–	–	–	43,617	43,617
	4,034	16,157	27,248	11,482	33,533	43,617	136,071
Fair value through other comprehensive income ⁽²⁾							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government							
Federal							
Amortized cost	–	204	1,689	272	397	–	2,562
Fair value	–	204	1,690	269	378	–	2,541
Yield ⁽⁴⁾	–	1.4%	1.4%	1.2%	1.4%	–	1.4%
Provincial and municipal							
Amortized cost	5	908	629	7	1,688	–	3,237
Fair value	5	911	630	8	1,679	–	3,233
Yield ⁽⁴⁾	4.5%	1.3%	2.7%	4.3%	2.6%	–	2.2%
U.S. state, municipal and agencies							
Amortized cost	1,772	9,736	8,777	2,227	16,011	–	38,523
Fair value	1,775	9,739	8,779	2,237	15,994	–	38,524
Yield ⁽⁴⁾	0.1%	1.7%	1.1%	2.6%	2.2%	–	1.7%
Other OECD government							
Amortized cost	274	2,288	4,773	1	–	–	7,336
Fair value	274	2,289	4,781	1	–	–	7,345
Yield ⁽⁴⁾	1.7%	2.4%	1.8%	3.6%	–	–	2.0%
Mortgage-backed securities							
Amortized cost	–	–	–	192	2,226	–	2,418
Fair value	–	–	–	189	2,181	–	2,370
Yield ⁽⁴⁾	–	–	–	1.2%	1.2%	–	1.2%
Asset-backed securities							
Amortized cost	–	–	10	4,294	4,059	–	8,363
Fair value	–	–	10	4,247	4,011	–	8,268
Yield ⁽⁴⁾	–	–	1.4%	1.4%	1.4%	–	1.4%
Corporate debt and other debt							
Amortized cost	2,670	5,796	10,425	92	58	–	19,041
Fair value	2,670	5,801	10,466	106	71	–	19,114
Yield ⁽⁴⁾	0.9%	1.6%	1.5%	2.1%	2.4%	–	1.5%
Equities							
Cost	–	–	–	–	–	276	276
Fair value ⁽⁵⁾	–	–	–	–	–	525	525
Amortized cost	4,721	18,932	26,303	7,085	24,439	276	81,756
Fair value	4,724	18,944	26,356	7,057	24,314	525	81,920
Amortized Cost ⁽²⁾							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government	438	1,862	16,044	1,819	–	–	20,163
U.S. state, municipal and agencies	8	787	1,615	1,622	18,281	–	22,313
Other OECD government	2,178	2,045	2,643	–	–	–	6,866
Asset-backed securities	–	1	159	–	–	–	160
Corporate debt and other debt	625	2,644	4,805	219	28	–	8,321
Amortized cost, net of allowance	3,249	7,339	25,266	3,660	18,309	–	57,823
Fair value	3,252	7,392	25,663	3,798	18,522	–	58,627
Total carrying value of securities	\$ 12,007	\$ 42,440	\$ 78,870	\$ 22,199	\$ 76,156	\$ 44,142	\$ 275,814

Note 4 Securities (continued)

As at October 31, 2019							
(Millions of Canadian dollars)	Term to maturity (1)					With no specific maturity	Total
	Within 3 months	3 months to 1 year	1 year to 5 years	5 years to 10 years	Over 10 years		
Trading (2)							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government	\$ 1,974	\$ 11,265	\$ 7,783	\$ 1,778	\$ 8,611	\$ -	\$ 31,411
U.S. state, municipal and agencies	771	7,122	8,601	9,537	15,661	-	41,692
Other OECD government	538	1,418	2,211	1,466	863	-	6,496
Mortgage-backed securities	-	-	-	-	482	-	482
Asset-backed securities	359	63	308	267	338	-	1,335
Corporate debt and other debt							
Bankers' acceptances	433	-	-	-	-	-	433
Certificates of deposit	586	383	75	20	6	-	1,070
Other (1)	1,369	2,773	8,268	2,827	6,925	-	22,162
Equities	-	-	-	-	-	41,453	41,453
	6,030	23,024	27,246	15,895	32,886	41,453	146,534
Fair value through other comprehensive income (2)							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government							
Federal							
Amortized cost	-	5	596	-	54	-	655
Fair value	-	5	595	-	57	-	657
Yield (4)	-	1.1%	1.4%	-	4.2%	-	1.7%
Provincial and municipal							
Amortized cost	-	4	954	13	1,907	-	2,878
Fair value	-	4	953	14	1,927	-	2,898
Yield (4)	-	4.8%	2.7%	4.5%	2.8%	-	2.8%
U.S. state, municipal and agencies							
Amortized cost	1,597	1,085	3,290	829	13,986	-	20,787
Fair value	1,598	1,087	3,294	844	14,053	-	20,876
Yield (4)	2.1%	1.8%	2.0%	2.9%	2.7%	-	2.5%
Other OECD government							
Amortized cost	236	178	3,839	1	-	-	4,254
Fair value	236	178	3,836	1	-	-	4,251
Yield (4)	1.2%	2.1%	2.4%	3.8%	-	-	2.3%
Mortgage-backed securities							
Amortized cost	-	-	-	206	2,503	-	2,709
Fair value	-	-	-	205	2,497	-	2,702
Yield (4)	-	-	-	3.0%	2.7%	-	2.7%
Asset-backed securities							
Amortized cost	1	-	8	3,982	4,190	-	8,181
Fair value	-	-	8	3,972	4,169	-	8,149
Yield (4)	-	-	3.2%	3.2%	3.1%	-	3.2%
Corporate debt and other debt							
Amortized cost	1,564	3,222	12,668	79	122	-	17,655
Fair value	1,565	3,225	12,673	89	138	-	17,690
Yield (4)	1.4%	1.9%	2.0%	2.0%	3.1%	-	1.9%
Equities							
Cost	-	-	-	-	-	248	248
Fair value (5)	-	-	-	-	-	463	463
Amortized cost	3,398	4,494	21,355	5,110	22,762	248	57,367
Fair value	3,399	4,499	21,359	5,125	22,841	463	57,686
Amortized Cost (2)							
Debt issued or guaranteed by:							
Canadian government	682	1,978	9,831	1,515	-	-	14,006
U.S. state, municipal and agencies	297	478	1,680	2,018	12,190	-	16,663
Other OECD government	2,252	1,431	1,634	-	-	-	5,317
Asset-backed securities	-	9	616	-	-	-	625
Corporate debt and other debt	400	1,853	5,717	145	58	-	8,173
Amortized cost, net of allowance	3,631	5,749	19,478	3,678	12,248	-	44,784
Fair value	3,631	5,822	19,628	3,746	12,277	-	45,104
Total carrying value of securities	\$ 13,060	\$ 33,272	\$ 68,083	\$ 24,698	\$ 67,975	\$ 41,916	\$ 249,004

(1) Actual maturities may differ from contractual maturities shown above as borrowers may have the right to extend or prepay obligations with or without penalties.

(2) Trading securities and FVOCI securities are recorded at fair value. Amortized cost securities, included in investment securities, are recorded at amortized cost and presented net of allowance for credit losses.

(3) Primarily composed of corporate debt, supra-national debt, and commercial paper.

(4) The weighted average yield is derived using the contractual interest rate and the carrying value at the end of the year for the respective securities.

(5) Certain equity securities that are not held for trading purposes are designated as FVOCI. During the year ended October 31, 2020, we disposed of \$2 million of equity securities measured at FVOCI (October 31, 2019 - \$129 million). The cumulative gain on the dates of disposals was \$nil (October 31, 2019 - \$1 million).

Unrealized gains and losses on securities at FVOCI (1), (2)

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Cost/ Amortized cost	Gross unrealized gains	Gross unrealized losses	Fair value	Cost/ Amortized cost	Gross unrealized gains	Gross unrealized losses	Fair value
Debt issued or guaranteed by:								
Canadian government:								
Federal (1)	\$ 2,562	\$ 1	\$ (22)	\$ 2,541	\$ 655	\$ 3	\$ (1)	\$ 657
Provincial and municipal	3,237	27	(31)	3,233	2,878	43	(23)	2,898
U.S. state, municipal and agencies (1)	38,523	323	(322)	38,524	20,787	215	(126)	20,876
Other OECD government	7,336	11	(2)	7,345	4,254	2	(5)	4,251
Mortgage-backed securities (1)	2,418	5	(53)	2,370	2,709	1	(8)	2,702
Asset-backed securities:								
CDO	7,504	-	(90)	7,414	7,334	1	(35)	7,300
Non-CDO securities	859	2	(7)	854	847	4	(2)	849
Corporate debt and other debt	19,041	76	(3)	19,114	17,655	45	(10)	17,690
Equities	276	253	(4)	525	248	218	(3)	463
	\$ 81,756	\$ 698	\$ (534)	\$ 81,920	\$ 57,367	\$ 532	\$ (213)	\$ 57,686

(1) Excludes \$57,823 million of held-to-collect securities as at October 31, 2020 that are carried at amortized cost, net of allowance for credit losses (October 31, 2019 - \$44,784 million).

(2) Gross unrealized gains and losses includes \$8 million of allowance for credit losses on debt securities at FVOCI as at October 31, 2020 (October 31, 2019 - \$(3) million) recognized in income and Other components of equity.

(3) The majority of the MBS are residential. Cost/Amortized cost, Gross unrealized gains, Gross unrealized losses and Fair value related to commercial MBS are \$2,385 million, \$n1, \$48 million and \$2,337 million, respectively as at October 31, 2020 (October 31, 2019 - \$2,051 million, \$1 million, \$6 million and \$2,046 million, respectively).

Allowance for credit losses on investment securities

The following tables reconcile the opening and closing allowance for debt securities at FVOCI and amortized cost by stage.

Reconciling items include the following:

- Transfers between stages, which are presumed to occur before any corresponding remeasurement of the allowance.
- Purchases, which reflect the allowance related to assets newly recognized during the period, including those assets that were derecognized following a modification of terms.
- Sales and maturities, which reflect the allowance related to assets derecognized during the period without a credit loss being incurred, including those assets that were derecognized following a modification of terms.
- Changes in risk, parameters and exposures, which comprise the impact of changes in model inputs or assumptions, including changes in forward-looking macroeconomic conditions; partial repayments; changes in the measurement following a transfer between stages; and unwinding of the time value discount due to the passage of time.

Allowance for credit losses - securities at FVOCI (1)

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Performing Stage 1	Stage 2	Stage 3 (2)	Total	Performing Stage 1	Stage 2	Stage 3 (2)	Total
Balance at beginning of period	\$ 4	\$ -	\$ (7)	\$ (3)	\$ 4	\$ 7	\$ -	\$ 11
Provision for credit losses								
Transfers to stage 1	-	-	-	-	-	-	-	-
Transfers to stage 2	-	-	-	-	-	-	-	-
Transfers to stage 3	-	-	-	-	-	-	-	-
Purchases	18	-	-	18	5	-	-	5
Sales and maturities	(13)	-	-	(13)	(3)	(7)	-	(10)
Changes in risk, parameters and exposures	3	-	4	7	(2)	1	(8)	(9)
Write-offs	-	-	-	-	-	-	-	-
Exchange rate and other	-	-	(1)	(1)	-	(1)	1	-
Balance at end of period	\$ 12	\$ -	\$ (4)	\$ 8	\$ 4	\$ -	\$ (7)	\$ (3)

(1) Expected credit losses on debt securities at FVOCI are not separately recognized on the balance sheet as the related securities are recorded at fair value. The cumulative amount of credit losses recognized in income is presented in Other components of equity.

(2) Reflects changes in the allowance for purchased credit impaired securities.

Note 4 Securities (continued)**Allowance for credit losses – securities at amortized cost**

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Performing	Impaired		Total	Performing	Impaired		Total
	Stage 1	Stage 2	Stage 3		Stage 1	Stage 2	Stage 3	
Balance at beginning of period	\$ 5	\$ 19	\$ –	\$ 24	\$ 6	\$ 32	\$ –	\$ 38
Provision for credit losses	–	–	–	–	–	–	–	–
Transfers to stage 1	–	–	–	–	–	–	–	–
Transfers to stage 2	–	–	–	–	–	–	–	–
Transfers to stage 3	–	–	–	–	–	–	–	–
Purchases	9	–	–	9	7	–	–	7
Sales and maturities	(2)	–	–	(2)	(1)	–	–	(1)
Changes in risk, parameters and exposures	(2)	1	–	(1)	(6)	(15)	–	(21)
Write-offs	–	–	–	–	–	–	–	–
Exchange rate and other	–	(1)	–	(1)	(1)	2	–	1
Balance at end of period	\$ 10	\$ 19	\$ –	\$ 29	\$ 5	\$ 19	\$ –	\$ 24

Credit risk exposure by internal risk rating

The following table presents the fair value of debt securities at FVOCI and gross carrying amount of securities at amortized cost. Risk ratings are based on internal ratings used in the measurement of expected credit losses, as at the reporting date, as outlined in the internal ratings maps in the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis.

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Performing	Impaired		Total	Performing	Impaired		Total
	Stage 1	Stage 2	Stage 3 (1)		Stage 1	Stage 2	Stage 3 (1)	
Investment securities								
Securities at FVOCI								
Investment grade	\$ 80,719	\$ 87	\$ –	\$ 80,806	\$ 56,671	\$ 1	\$ –	\$ 56,672
Non-investment grade	431	1	–	432	400	1	–	401
Impaired	–	–	157	157	–	–	150	150
	\$ 81,150	\$ 88	\$ 157	\$ 81,395	\$ 57,071	\$ 2	\$ 150	\$ 57,223
Items not subject to impairment (2)				525				463
				81,920				57,686
Securities at amortized cost								
Investment grade	\$ 56,885	\$ –	\$ –	\$ 56,885	\$ 43,681	\$ 46	\$ –	\$ 43,727
Non-investment grade	647	320	–	967	695	386	–	1,081
Impaired	–	–	–	–	–	–	–	–
	\$ 57,532	\$ 320	\$ –	\$ 57,852	\$ 44,376	\$ 432	\$ –	\$ 44,808
Allowance for credit losses	10	19	–	29	5	19	–	24
Amortized cost	\$ 57,522	\$ 301	\$ –	\$ 57,823	\$ 44,371	\$ 413	\$ –	\$ 44,784

(1) Includes \$157 million of purchased credit impaired securities (October 31, 2019 – \$150 million).

(2) Investment securities at FVOCI not subject to impairment represent equity securities designated as FVOCI.

Note 5 Loans and allowance for credit losses**Loans by geography and portfolio net of allowance**

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020					
	Canada	United States	Other International	Total	Allowance for loan losses (1)	Total net of allowance
Retail (2)						
Residential mortgages	\$ 319,287	\$ 20,331	\$ 2,979	\$ 342,597	\$ (515)	\$ 342,082
Personal	79,778	9,050	3,183	92,011	(1,185)	90,826
Credit cards (3)	17,060	340	226	17,626	(1,211)	16,415
Small business (4)	5,742	—	—	5,742	(123)	5,619
Wholesale (2), (5)	126,348	64,375	17,932	208,655	(2,605)	206,050
Total loans	\$ 548,215	\$ 94,096	\$ 24,320	\$ 666,631	\$ (5,639)	\$ 660,992
Undrawn loan commitments – Retail	226,439	4,314	1,628	232,381	(176)	
Undrawn loan commitments – Wholesale	111,860	184,308	64,859	361,027	(187)	

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019					
	Canada	United States	Other International	Total	Allowance for loan losses (1)	Total net of allowance
Retail (2)						
Residential mortgages	\$ 287,767	\$ 17,012	\$ 3,312	\$ 308,091	\$ (402)	\$ 307,689
Personal	81,547	7,399	3,304	92,250	(762)	91,488
Credit cards (3)	19,617	439	255	20,311	(791)	19,520
Small business (4)	5,434	—	—	5,434	(50)	5,384
Wholesale (2), (5)	124,312	53,782	17,776	195,870	(1,095)	194,775
Total loans	\$ 518,677	\$ 78,632	\$ 24,647	\$ 621,956	\$ (3,100)	\$ 618,856
Undrawn loan commitments – Retail	208,336	5,063	801	214,200	(225)	
Undrawn loan commitments – Wholesale	101,017	176,022	54,982	332,021	(70)	

(1) Excludes allowance for loans measured at FVOCI of \$6 million (October 31, 2019 – \$nil).

(2) Geographic information is based on residence of the borrower.

(3) The credit cards business is managed as a single portfolio and includes both consumer and business cards.

(4) Includes small business exposure managed on a pooled basis.

(5) Includes small business exposure managed on an individual client basis.

Loans maturity and rate sensitivity

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020							
	Maturity term (1)				Rate sensitivity			
	Under 1 year (2)	1 to 5 years	Over 5 years	Total	Floating	Fixed Rate	Non-rate-sensitive	Total
Retail	\$ 213,946	\$ 218,342	\$ 25,688	\$ 457,976	\$ 129,870	\$ 322,122	\$ 5,984	\$ 457,976
Wholesale	160,031	37,346	11,278	208,655	34,686	171,171	2,798	208,655
Total loans	\$ 373,977	\$ 255,688	\$ 36,966	\$ 666,631	\$ 164,556	\$ 493,293	\$ 8,782	\$ 666,631
Allowance for loan losses				(5,639)				(5,639)
Total loans net of allowance for loan losses				\$ 660,992				\$ 660,992

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019							
	Maturity term (1)				Rate sensitivity			
	Under 1 year (2)	1 to 5 years	Over 5 years	Total	Floating	Fixed Rate	Non-rate-sensitive	Total
Retail	\$ 216,610	\$ 187,721	\$ 21,755	\$ 426,086	\$ 114,736	\$ 304,448	\$ 6,902	\$ 426,086
Wholesale	154,445	30,512	10,913	195,870	27,329	165,502	3,039	195,870
Total loans	\$ 371,055	\$ 218,233	\$ 32,668	\$ 621,956	\$ 142,065	\$ 469,950	\$ 9,941	\$ 621,956
Allowance for loan losses				(3,100)				(3,100)
Total loans net of allowance for loan losses				\$ 618,856				\$ 618,856

(1) Generally, based on the earlier of contractual repricing or maturity date.

(2) Includes variable rate loans that can be repriced at the clients' discretion without penalty.

Note 5 Loans and allowance for credit losses (continued)**Allowance for credit losses**

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended									
	October 31, 2020					October 31, 2019				
	Balance at beginning of period	Provision for credit losses	Net write-offs (1)	Exchange rate and other	Balance at end of period	Balance at beginning of period	Provision for credit losses	Net write-offs (1)	Exchange rate and other	Balance at end of period
Retail										
Residential mortgages	\$ 402	\$ 190	\$ (34)	\$ (40)	\$ 518	\$ 382	\$ 68	\$ (37)	\$ (11)	\$ 402
Personal	935	801	(411)	(16)	1,309	895	526	(474)	(12)	935
Credit cards	832	900	(484)	(2)	1,246	760	590	(518)	-	832
Small business	61	117	(31)	(7)	140	51	41	(28)	(3)	61
Wholesale	1,165	2,140	(380)	(130)	2,795	979	661	(397)	(78)	1,165
Customers' liability under acceptances	24	83	-	-	107	21	5	-	(2)	24
	\$ 3,419	\$ 4,231	\$ (1,340)	\$ (195)	\$ 6,115	\$ 3,088	\$ 1,891	\$ (1,454)	\$ (106)	\$ 3,419
Presented as:										
Allowance for loan losses	\$ 3,100				\$ 5,639	\$ 2,912				\$ 3,100
Other liabilities – Provisions	295				363	154				295
Customers' liability under acceptances	24				107	21				24
Other components of equity	-				6	1				-

(1) Loans written-off are generally subject to continued collection efforts for a period of time following write-off. The contractual amount outstanding on loans written-off during the year ended October 31, 2020 that are no longer subject to enforcement activity was \$193 million (October 31, 2019 – \$179 million).

The following table reconciles the opening and closing allowance for each major product of loans and commitments as determined by our modelled, scenario-weighted allowance and the application of expert credit judgment as applicable. Reconciling items include the following:

- Model changes, which generally comprise the impact of significant changes to the quantitative models used to estimate expected credit losses and any staging impacts that may arise.
- Transfers between stages, which are presumed to occur before any corresponding remeasurements of the allowance.
- Originations, which reflect the allowance related to assets newly recognized during the period, including those assets that were derecognized following a modification of terms.
- Maturities, which reflect the allowance related to assets derecognized during the period without a credit loss being incurred, including those assets that were derecognized following a modification of terms.
- Changes in risk, parameters and exposures, which comprise the impact of changes in model inputs or assumptions, including changes in forward-looking macroeconomic conditions; partial repayments and additional draws on existing facilities; changes in the measurement following a transfer between stages; and unwinding of the time value discount due to the passage of time in stage 1 and stage 2.

Allowance for credit losses – Retail and wholesale loans

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Performing		Impaired		Performing		Impaired	
	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Total	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Total
Residential mortgages								
Balance at beginning of period	\$ 146	\$ 77	\$ 179	\$ 402	\$ 142	\$ 64	\$ 176	\$ 382
Provision for credit losses								
Transfers to stage 1	221	(186)	(35)	–	87	(66)	(21)	–
Transfers to stage 2	(35)	42	(7)	–	(13)	16	(3)	–
Transfers to stage 3	(3)	(33)	36	–	(3)	(31)	34	–
Originations	76	–	–	76	51	–	–	51
Maturities	(16)	(15)	–	(31)	(14)	(10)	–	(24)
Changes in risk, parameters and exposures	(180)	291	34	145	(104)	104	41	41
Write-offs	–	–	(44)	(44)	–	–	(45)	(45)
Recoveries	–	–	10	10	–	–	8	8
Exchange rate and other	(3)	(16)	(21)	(40)	–	–	(11)	(11)
Balance at end of period	\$ 206	\$ 160	\$ 152	\$ 518	\$ 146	\$ 77	\$ 179	\$ 402
Personal								
Balance at beginning of period	\$ 272	\$ 520	\$ 143	\$ 935	\$ 242	\$ 512	\$ 141	\$ 895
Provision for credit losses								
Model changes	–	–	–	–	23	(48)	–	(25)
Transfers to stage 1	494	(487)	(7)	–	544	(517)	(7)	–
Transfers to stage 2	(107)	109	(2)	–	(87)	88	(1)	–
Transfers to stage 3	(3)	(64)	67	–	(2)	(142)	144	–
Originations	118	–	–	118	101	1	–	102
Maturities	(49)	(97)	–	(146)	(31)	(112)	–	(143)
Changes in risk, parameters and exposures	(245)	756	318	829	(517)	758	351	592
Write-offs	–	–	(545)	(545)	–	–	(600)	(600)
Recoveries	–	–	134	134	–	–	126	126
Exchange rate and other	–	(4)	(12)	(16)	(1)	–	(11)	(12)
Balance at end of period	\$ 480	\$ 733	\$ 96	\$ 1,309	\$ 272	\$ 520	\$ 143	\$ 935
Credit cards								
Balance at beginning of period	\$ 173	\$ 659	\$ –	\$ 832	\$ 161	\$ 599	\$ –	\$ 760
Provision for credit losses								
Transfers to stage 1	470	(470)	–	–	452	(452)	–	–
Transfers to stage 2	(98)	98	–	–	(81)	81	–	–
Transfers to stage 3	(2)	(172)	374	–	(2)	(341)	341	–
Originations	7	–	–	7	5	–	–	5
Maturities	(8)	(29)	–	(37)	(5)	(27)	–	(32)
Changes in risk, parameters and exposures	(177)	997	110	930	(358)	890	175	617
Write-offs	–	–	(617)	(617)	–	–	(655)	(655)
Recoveries	–	–	133	133	–	–	137	137
Exchange rate and other	(1)	(1)	–	(2)	1	(1)	–	–
Balance at end of period	\$ 364	\$ 882	\$ –	\$ 1,246	\$ 173	\$ 659	\$ –	\$ 832
Small business								
Balance at beginning of period	\$ 29	\$ 10	\$ 22	\$ 61	\$ 17	\$ 16	\$ 18	\$ 51
Provision for credit losses								
Model changes	–	–	–	–	11	(7)	–	4
Transfers to stage 1	12	(12)	–	–	18	(18)	–	–
Transfers to stage 2	(11)	11	–	–	(3)	3	–	–
Transfers to stage 3	–	(2)	2	–	–	(9)	9	–
Originations	20	–	–	20	13	–	–	13
Maturities	(7)	(6)	–	(13)	(5)	(8)	–	(13)
Changes in risk, parameters and exposures	35	28	47	110	(22)	32	27	37
Write-offs	–	–	(38)	(38)	–	–	(36)	(36)
Recoveries	–	–	7	7	–	–	8	8
Exchange rate and other	–	–	(7)	(7)	–	1	(4)	(3)
Balance at end of period	\$ 78	\$ 29	\$ 33	\$ 140	\$ 29	\$ 10	\$ 22	\$ 61
Wholesale								
Balance at beginning of period	\$ 281	\$ 396	\$ 488	\$ 1,165	\$ 274	\$ 340	\$ 365	\$ 979
Provision for credit losses								
Transfers to stage 1	154	(149)	(5)	–	145	(133)	(12)	–
Transfers to stage 2	(200)	221	(21)	–	(13)	16	(3)	–
Transfers to stage 3	(14)	(116)	130	–	(5)	(37)	62	–
Originations	860	–	–	860	239	44	–	283
Maturities	(479)	(301)	–	(780)	(162)	(165)	–	(327)
Changes in risk, parameters and exposures	410	1,091	559	2,060	(178)	331	552	705
Write-offs	–	–	(437)	(437)	–	–	(440)	(440)
Recoveries	–	–	57	57	–	–	43	43
Exchange rate and other	(17)	(10)	(105)	(130)	5	–	(79)	(74)
Balance at end of period	\$ 995	\$ 1,132	\$ 668	\$ 2,795	\$ 281	\$ 396	\$ 488	\$ 1,165

Note 5 Loans and allowance for credit losses (continued)**Key inputs and assumptions**

The measurement of expected credit losses is a complex calculation that involves a large number of interrelated inputs and assumptions and the allowance is not sensitive to any one single factor alone. The key drivers of changes in expected credit losses include the following:

- Changes in the credit quality of the borrower or instrument, primarily reflected in changes in internal risk ratings;
- Changes in forward-looking macroeconomic conditions, specifically the macroeconomic variables to which our models are calibrated, which are those most closely correlated with credit losses in the relevant portfolio;
- Changes in scenario design and the weights assigned to each scenario; and
- Transfers between stages, which can be triggered by changes to any of the above inputs.

The COVID-19 pandemic significantly impacted our determination of allowance for credit losses and required the application of heightened judgment. Measures to contain the COVID-19 pandemic have sharply curtailed economic activity in many countries, resulting in unprecedented declines in GDP and a substantial increase in unemployment starting in the spring of 2020. Significant fiscal and monetary policy stimulus, as well as bank-led deferral programs have generally supported lower defaults during fiscal 2020. However, a resurgence of virus spread and re-imposition of containment measures to varying degrees in some regions, along with the tapering off of certain elements of fiscal support, has raised further uncertainty with regards to the timing and extent of recovery. As there is uncertainty as to how containment and support measures will evolve, our allowances have a higher than usual degree of uncertainty and the inputs used are inherently subject to change, which may materially change our estimate of Stage 1 and Stage 2 allowance for credit losses in future periods.

To address the uncertainties inherent in the current and future environment and to reflect all relevant risk factors not captured in our modelled results, we applied expert credit judgment in determining significant increases in credit risk since origination and our weighted allowance for credit losses. In light of the significant uncertainty, the impact of expert credit judgment on our allowances increased as compared to the previous year. We applied quantitative and qualitative adjustments for the impacts of the unprecedented macroeconomic scenarios arising from the COVID-19 pandemic, the temporary effects of the bank and government led payment support programs which may not completely mitigate future losses, and the impacts to particularly vulnerable sectors affected by the COVID-19 pandemic.

Internal risk ratings

Internal risk ratings are assigned according to the risk management framework outlined under the headings "Wholesale credit risk" and "Retail credit risk" of the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis. Changes in internal risk ratings are primarily reflected in the PD parameters, which are estimated based on our historical loss experience at the relevant risk segment or risk rating level, adjusted for forward-looking information.

Forward looking macroeconomic variables

The PD, LGD and EAD inputs used to estimate stage 1 and stage 2 credit loss allowances are modelled based on the macroeconomic variables (or changes in macroeconomic variables) that are most closely correlated with credit losses in the relevant portfolio. Each macroeconomic scenario used in our expected credit loss calculation includes a projection of all relevant macroeconomic variables used in our models for a five year horizon, reverting to long-run averages generally within the 2 to 5 year period. Depending on their usage in the models, macroeconomic variables are projected at a country, province/state or more granular level. These include one or more of the variables described below, which differ by portfolio and region.

Our allowance for credit losses reflects our economic outlook as at October 31, 2020. Subsequent changes to this forecast and related estimates will be reflected in our allowance for credit losses in future periods.

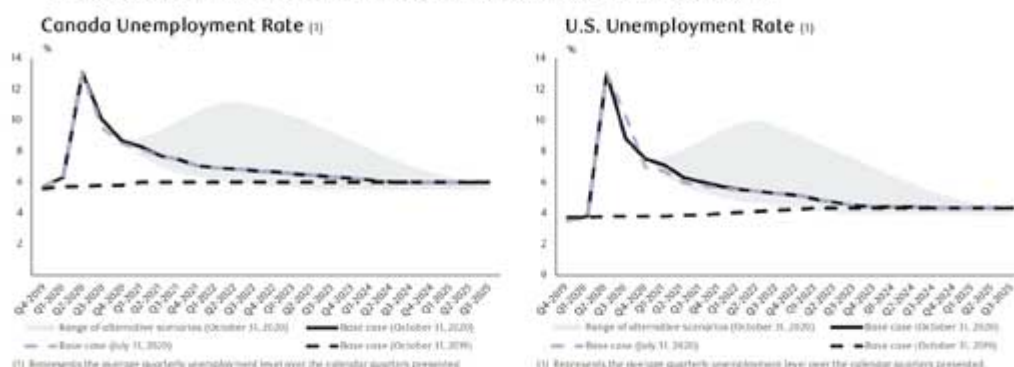
Our base scenario reflects a continuation of the recovery that has been underway since the sharp drop in economic activity in calendar Q2. The recovery is expected to be gradual with conditions returning to pre-shock levels for Canadian and U.S. GDP and unemployment towards the latter part of our forecast horizon.

Downside scenarios, including two additional and more severe downside scenarios designed for the energy and real estate sectors, reflect the possibility of a double-dip recession, with conditions deteriorating from Q4 2020 levels for up to two years, followed by a recovery for the remainder of the period. These scenarios assume a monetary policy response that returns the economy to a long-run, sustainable growth rate within the forecast period.

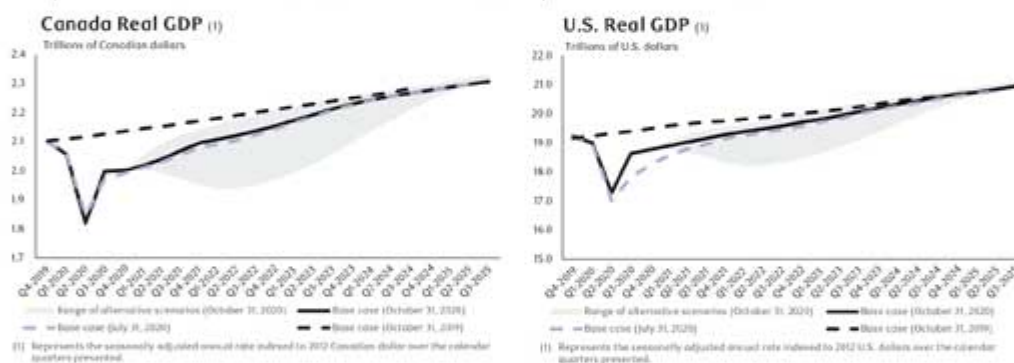
The upside scenario reflects stronger economic growth than the base scenario for the first two years, without further monetary policy responses, followed by a return to a long-run sustainable growth rate within the forecast period.

The following provides additional detail about our forecasts for certain key macroeconomic variables used in the models to estimate ACL on performing loans, commitments and acceptances:

- **Unemployment** – Quarterly average Canadian and U.S. unemployment rates both peaked at 13.0% in calendar Q2 2020. In calendar Q4 2020, unemployment rates are expected to decline to 8.7% in Canada and 7.5% in the U.S. We expect unemployment to remain elevated in 2021, but gradually improve over the forecast horizon.



- **Gross Domestic Product (GDP)** – Canadian and U.S. GDP experienced historical troughs in calendar Q2 2020. We expect GDP in calendar Q4 2020 to be 4.7% below Q4 2019 levels in Canada and 2.4% below such levels in the U.S., returning to pre-shock forecast levels in calendar 2024 with continuous improvement over the forecast horizon.



- **Oil price (West Texas Intermediate in US\$)** – In our base forecast, we expect oil prices to recover from trough prices in April 2020 to an average price of \$43 per barrel over the next 12 months and \$48 per barrel in the following 2 to 5 years. The range of average prices in our alternative downside and upside scenarios is \$23 to \$49 per barrel for the next 12 months and \$35 to \$50 per barrel for the following 2 to 5 years. As at October 31, 2019, our base forecast included an average price of \$59 per barrel for the next 12 months and \$68 per barrel for the following 2 to 5 years.
- **Canadian housing price index** – In our base forecast, we expect housing prices to grow by 0.6% over the next 12 months, with a compound annual growth rate of 4.5% for the following 2 to 5 years. The range of annual housing price growth (contraction) in our alternative downside and upside scenarios is (29.6)% to 6.1% over the next 12 months and 2.9% to 11.1% for the following 2 to 5 years. As at October 31, 2019, our base forecast included housing price growth of 4.5% for the next 12 months and 4.7% for the following 2 to 5 years.

The primary variables driving credit losses in our retail portfolios are Canadian unemployment rates, Canadian GDP and Canadian housing price index. The Canadian overnight interest rate also impacts our retail portfolios. Our wholesale portfolios are affected by all of the variables discussed above; however, the specific variables differ by sector. Other variables also impact our wholesale portfolios including, but not limited to, the Canadian and U.S. 10 year BBB corporate and 10 year government bond yields, the TSX and S&P 500 indices, natural gas prices (Henry Hub) and the commercial real estate price index.

Increases in the following macroeconomic variables will generally correlate with higher expected credit losses: Canadian and U.S. unemployment rates, Canadian overnight interest rates, Canadian and U.S. 10 year BBB corporate bond and government bond yields.

Increases in the following macroeconomic variables will generally correlate with lower expected credit losses: Canadian housing price index, Canadian and U.S. GDP, TSX index, S&P 500 index, oil prices, natural gas prices, and commercial real estate price index.

Note 5 Loans and allowance for credit losses (continued)**Scenario design and weightings**

Our estimation of expected credit losses in Stage 1 and Stage 2 considers five distinct future macroeconomic scenarios. Scenarios are designed to capture a wide range of possible outcomes and are weighted according to our expectation of the relative likelihood of the range of outcomes that each scenario represents at the reporting date. We then weight each scenario to take into account historical frequency, current trends, and forward-looking conditions which will change over time. The base case scenario is based on forecasts of the expected rate, value or yield for each of the macroeconomic variables identified above. The upside and downside scenarios are set by adjusting our base projections to construct reasonably possible scenarios and weightings that are more optimistic and pessimistic, respectively, than the base case. As described above, two additional downside scenarios capture the non-linear nature of potential credit losses across our portfolios.

The impact of each of our five scenarios varies across our portfolios given the portfolios have different sensitivities to movements in each macroeconomic variable. As described above, all scenarios are designed to include the impact of the COVID-19 pandemic as at October 31, 2020, reflective of current market conditions. In determining our IFRS 9 allowance for credit losses, we reassessed our scenario weights to more heavily weight the base case scenario relative to October 31, 2019. Since the onset of the global spread of the COVID-19 pandemic in the spring of 2020, we have reflected continued uncertainty and downside risk of a prolonged recovery by shifting additional weighting to our pessimistic scenarios. The possibility of a more prolonged recovery period, including the re-imposition of containment measures to varying degrees in some regions taken by the government have been reflected in our scenario design and weightings.

The impact of weighting these multiple scenarios increased our ACL on performing loans, relative to our base scenario, by \$606 million at October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$376 million).

Transfers between stages

Transfers between stage 1 and stage 2 are based on the assessment of significant increases in credit risk relative to initial recognition, as described in Note 2. The impact of moving from 12 months expected credit losses to lifetime expected credit losses, or vice versa, varies by product, is dependent on the expected remaining life at the date of the transfer and reflects the sharp drop in economic activity followed by a gradual recovery. Stage transfers may result in significant fluctuations in expected credit losses.

The following table illustrates the impact of staging on our ACL by comparing our allowance if all performing loans were in stage 1 to the actual ACL recorded on these assets.

	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	ACL – All performing loans in Stage 1	Impact of staging	Stage 1 and 2 ACL	ACL – All performing loans in Stage 1	Impact of staging	Stage 1 and 2 ACL
Performing loans (1)	\$ 4,028	\$ 1,031	\$ 5,059	\$ 1,737	\$ 826	\$ 2,563

(1) Represents loans and commitments in stage 1 and stage 2.

Credit risk exposure by internal risk rating

The following table presents the gross carrying amount of loans measured at amortized cost, and the full contractual amount of undrawn loan commitments subject to the impairment requirements of IFRS 9. Risk ratings are based on internal ratings used in the measurement of expected credit losses as at the reporting date, as outlined in the internal ratings maps for Wholesale and Retail facilities in the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis.

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Stage 1	Stage 2	Stage 3 (1)	Total	Stage 1	Stage 2	Stage 3 (1)	Total
Retail								
Loans outstanding – Residential mortgages								
Low risk	\$ 270,396	\$ 2,848	\$ –	\$ 273,244	\$ 238,377	\$ 6,764	\$ –	\$ 245,141
Medium risk	15,230	3,307	–	18,537	14,033	1,347	–	15,380
High risk	4,346	1,467	–	5,813	2,843	2,722	–	5,565
Not rated (2)	43,176	936	–	44,112	40,030	726	–	40,756
Impaired	–	–	638	638	–	–	732	732
	333,148	8,558	638	342,344	295,283	11,559	732	307,574
Items not subject to impairment (3)				253				517
Total				342,597				308,091
Loans outstanding – Personal								
Low risk	\$ 71,245	\$ 1,084	\$ –	\$ 72,329	\$ 71,619	\$ 1,944	\$ –	\$ 73,563
Medium risk	3,974	5,415	–	9,389	5,254	3,011	–	8,265
High risk	817	1,416	–	2,233	843	1,874	–	2,717
Not rated (2)	7,704	144	–	7,848	7,293	105	–	7,398
Impaired	–	–	212	212	–	–	307	307
Total	83,740	8,059	212	92,011	85,009	6,934	307	92,250
Loans outstanding – Credit cards								
Low risk	\$ 11,824	\$ 63	\$ –	\$ 11,887	\$ 13,840	\$ 103	\$ –	\$ 13,943
Medium risk	1,596	2,360	–	3,956	2,250	1,827	–	4,077
High risk	132	1,105	–	1,237	137	1,432	–	1,569
Not rated (2)	490	56	–	546	677	45	–	722
Total	14,042	3,584	–	17,626	16,904	3,407	–	20,311
Loans outstanding – Small business								
Low risk	\$ 2,034	\$ 172	\$ –	\$ 2,206	\$ 2,200	\$ 107	\$ –	\$ 2,307
Medium risk	1,976	1,143	–	3,119	2,163	563	–	2,726
High risk	126	192	–	318	138	196	–	334
Not rated (2)	9	–	–	9	10	–	–	10
Impaired	–	–	90	90	–	–	57	57
Total	4,145	1,507	90	5,742	4,511	866	57	5,434
Undrawn loan commitments – Retail								
Low risk	\$ 214,176	\$ 887	\$ –	\$ 215,063	\$ 196,743	\$ 1,894	\$ –	\$ 198,637
Medium risk	10,402	291	–	10,693	8,251	246	–	8,497
High risk	1,141	129	–	1,270	851	208	–	1,059
Not rated (2)	5,238	117	–	5,355	5,861	146	–	6,007
Total	230,957	1,424	–	232,381	211,706	2,494	–	214,200
Wholesale – Loans outstanding								
Investment grade	\$ 50,998	\$ 328	\$ –	\$ 51,326	\$ 47,133	\$ 97	\$ –	\$ 47,230
Non-investment grade	112,434	26,575	–	139,009	119,778	11,940	–	131,718
Not rated (2)	7,093	432	–	7,525	5,862	320	–	6,182
Impaired	–	–	2,235	2,235	–	–	1,829	1,829
	170,525	27,335	2,235	200,095	172,773	12,357	1,829	186,959
Items not subject to impairment (3)				8,560				8,911
Total				208,655				195,870
Undrawn loan commitments – Wholesale								
Investment grade	\$ 242,244	\$ 1,022	\$ –	\$ 243,266	\$ 222,819	\$ 18	\$ –	\$ 222,837
Non-investment grade	92,262	21,581	–	113,843	96,191	9,007	–	105,198
Not rated (2)	3,918	–	–	3,918	3,986	–	–	3,986
Total	338,424	22,603	–	361,027	322,996	9,025	–	332,021

(1) As at October 31, 2020, 90% of credit-impaired loans were either fully or partially collateralized (October 31, 2019 – 86%). For details on the types of collateral held against credit-impaired assets and our policies on collateral, refer to the Credit risk mitigation section of Management's Discussion and Analysis.

(2) In certain cases where an internal risk rating is not assigned, we use other approved credit risk assessments or rating methodologies, policies and tools to manage our credit risk.

(3) Items not subject to impairment are loans held at FVTPL.

Note 5 Loans and allowance for credit losses (continued)**Loans past due but not impaired (1)**

(Millions of Canadian dollars)	October 31, 2020				As at			
					October 31, 2019			
	1 to 29 days	30 to 89 days	90 days and greater	Total	1 to 29 days	30 to 89 days	90 days and greater	Total
Retail	\$ 3,346	\$ 1,013	\$ 129	\$ 4,488	\$ 3,173	\$ 1,369	\$ 186	\$ 4,728
Wholesale	2,129	574	13	2,716	1,543	460	3	2,006
	\$ 5,475	\$ 1,587	\$ 142	\$ 7,204	\$ 4,716	\$ 1,829	\$ 189	\$ 6,734

(1) Loans in our payment deferral programs established to help clients manage through the challenges of the COVID-19 pandemic have been re-aged to current and are not aged further during the deferral period. Subsequent to the payment deferral period, loans will commence re-aging from current. Amounts presented may include loans past due as a result of administrative processes, such as mortgage loans on which payments are restrained pending payout due to sale or refinancing. Past due loans arising from administrative processes are not representative of the borrowers' ability to meet their payment obligations.

Loan modifications

We have established relief programs to help clients manage through challenges of the COVID-19 pandemic through payment deferrals, interest rate reductions, covenant waivers, and refinancing or credit restructuring. In some cases, the original terms of the associated loans were renegotiated or otherwise modified, resulting in changes to the contractual terms of the loans that affect the contractual cash flows. For the year ended October 31, 2020, the amortized cost of the loans whose contractual terms were modified while in Stage 2 or Stage 3 at the quarter ended before the modification was \$8,437 million, resulting in no material modification losses. The gross carrying amount of loans transferred to Stage 1 whose contractual terms were previously modified while in Stage 2 or Stage 3 was not material for the year ended October 31, 2020.

Note 6 Derecognition of financial assets

We enter into transactions in which we transfer financial assets such as loans or securities to structured entities or other third parties. The majority of assets transferred under repurchase agreements, securities lending agreements, and in our Canadian residential mortgage securitization transactions do not qualify for derecognition as we continue to be exposed to substantially all of the risks and rewards of the transferred assets, such as prepayment, credit, price, interest rate and foreign exchange risks.

Transferred financial assets derecognized*Government relief programs*

To support our clients through unprecedented times due to the COVID-19 pandemic, we are participating in government relief programs in Canada and in the U.S.

Under the Canadian Emergency Business Account program, we have provided interest-free loans to existing eligible small business clients funded by the Export Development Bank of Canada (EDC). As we do not retain substantially all of the risks and rewards of the financial assets, and all cash flows are passed through to the EDC, these loans are not recognized on our Consolidated Balance Sheets.

Transferred financial assets not derecognized*Securitization of Canadian residential mortgage loans*

We periodically securitize insured Canadian residential mortgage loans through the creation of MBS pools under the National Housing Act MBS (NHA MBS) program. All loans securitized under the NHA MBS program are required to be insured by the Canadian Mortgage and Housing Corporation (CMHC) or a third-party insurer. We require the borrower to pay for mortgage insurance when the loan amount is greater than 80% of the original appraised value of the property (loan-to-value (LTV) ratio). For residential mortgage loans securitized under this program with LTV ratios less than 80%, we are required to insure the mortgages at our own expense. Under the NHA MBS program, we are responsible for making all payments due on our issued MBS, regardless of whether we collect the necessary funds from the mortgagor or the insurer. When a borrower defaults on a mortgage, we submit a claim to the insurer if the amount recovered from the collection or foreclosure process is lower than the sum of the principal balance, accrued interest and collection costs on the outstanding loan. The insurance claim process is managed by the insurance provider in accordance with the insurer's policies and covers the entire unpaid loan balance plus generally up to 12 months of interest, selling costs and other eligible expenses. If an insurance claim is denied, a loss is recognized in Provision for credit losses in our Consolidated Statements of Income. The amount recorded as a loss is not significant to our Consolidated Financial Statements and no significant losses were incurred due to legal action arising from mortgage defaults during 2020 and 2019.

We sell the NHA MBS pools primarily to a government-sponsored structured entity under the Canada Mortgage Bond (CMB) program. The entity periodically issues CMBs, which are guaranteed by the government, and sells them to third-party investors. Proceeds of the CMB issuances are used by the entity to purchase the NHA MBS pools from eligible NHA MBS issuers who participate in the issuance of a particular CMB series. Our continuing involvement includes servicing the underlying residential mortgage loans we have securitized, either ourselves or through a third-party servicer. We also act as counterparty in interest rate swap agreements where we pay the entity the interest due to CMB investors and receive the interest on the underlying MBS and reinvested assets. As part of the swaps, we are also required to maintain a principal reinvestment account for principal payments received on the underlying mortgage loans to meet the repayment obligation upon maturity of the CMB. We reinvest the collected principal payments in permitted investments as outlined in the swap agreements.

We have determined that certain of the NHA MBS program loans transferred to the entity do not qualify for derecognition as we have not transferred substantially all of the risks and rewards of ownership. As a result, these transferred MBS continue to be classified as residential mortgage loans and recognized on our Consolidated Balance Sheets. The cash received for these transferred MBS is treated as a secured borrowing and a corresponding liability is recorded in Deposits – Business and government on our Consolidated Balance Sheets.

Securities sold under repurchase agreements and securities loaned

We also enter into transactions such as repurchase agreements and securities lending agreements where we transfer assets under agreements to repurchase them at a future date and retain substantially all of the risks and rewards associated with the assets. These transferred assets remain on our Consolidated Balance Sheets and are accounted for as collateralized borrowing transactions.

The following table provides information on the carrying amount and fair value of the transferred assets that did not qualify for derecognition, and their associated liabilities.

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Canadian residential mortgage loans (1), (2)	Securities sold under repurchase agreements (3)	Securities loaned (3)	Total	Canadian residential mortgage loans (1), (2)	Securities sold under repurchase agreements (3)	Securities loaned (3)	Total
Carrying amount of transferred assets that do not qualify for derecognition	\$ 35,001	\$ 267,361	\$ 6,870	\$309,232	\$ 32,794	\$ 220,250	\$ 6,336	\$ 259,380
Carrying amount of associated liabilities	34,805	267,361	6,870	309,036	32,615	220,250	6,336	259,201
Fair value of transferred assets	\$ 35,293	\$ 267,361	\$ 6,870	\$309,524	\$ 32,757	\$ 220,250	\$ 6,336	\$ 259,343
Fair value of associated liabilities	35,957	267,361	6,870	310,188	33,143	220,250	6,336	259,729
Fair value of net position	\$ (664)	\$ -	\$ -	\$ (664)	\$ (386)	\$ -	\$ -	\$ (386)

(1) Includes Canadian residential mortgage loans transferred primarily to Canada Housing Trust at the initial securitization and other permitted investments used for funding requirements after the initial securitization.

(2) CMB investors have legal recourse only to the transferred assets, and do not have recourse to our general assets.

(3) Does not include over-collateralization of assets pledged.

Note 7 Structured entities

In the normal course of business, we engage in a variety of financial transactions with structured entities to support our financing and investing needs as well as those of our customers. A structured entity is an entity in which voting or similar rights are not the dominant factor in deciding control. Structured entities are generally created to achieve a narrow and well defined objective with restrictions around their ongoing activities. We consolidate a structured entity when we control the entity in accordance with our accounting policy as described in Note 2. In other cases, we may sponsor or have an interest in such an entity but may not consolidate it.

Consolidated structured entities

We consolidate the following structured entities, whose assets and liabilities are recorded on our Consolidated Balance Sheets. Third-party investors in these structured entities generally have recourse only to the assets of the related entity and do not have recourse to our general assets unless we breach our contractual obligations to those entities. In the ordinary course of business, the assets of each consolidated structured entity can generally only be used to settle the obligations of that entity.

RBC-administered multi-seller conduits

We generally do not maintain ownership in the multi-seller conduits that we administer and generally do not have rights to, or control of, their assets. However, we issue asset-backed commercial paper (ABCP) through a multi-seller conduit that does not have a first loss investor with substantive power to direct the significant operating activities of the conduit. This conduit is consolidated because we have exposure to variability of returns from performance in the multi-seller arrangements through providing transaction-specific and program-wide liquidity, credit and loan facilities to the conduit and have decision-making power over the relevant activities. As of October 31, 2020, \$1.0 billion of financial assets held by the conduit was included in Loans (October 31, 2019 – \$1.2 billion) and \$0.6 billion of ABCP issued by the conduit was included in Deposits (October 31, 2019 – \$0.7 billion) on our Consolidated Balance Sheets.

Credit card securitization vehicle

We securitize a portion of our credit card receivables through a structured entity on a revolving basis. The entity purchases co-ownership interests in a pool of credit card receivables and issues senior and subordinated term notes collateralized by that co-ownership interest in the underlying pool of credit card receivables. Investors who purchase the term notes have recourse only to that co-ownership interest in the underlying pool of credit card receivables.

We continue to service the credit card receivables and perform an administrative role for the entity. We also retain risk in the underlying pool of credit card receivables through our retained interest in the transferred assets, the cash reserve balance we fund from time to time, and also through certain subordinated notes which we retain. Additionally, we may own some senior notes as investments or for market-making activities, we provide subordinated loans to the entity to pay upfront expenses, and we act as counterparty to interest rate and cross currency swap agreements which hedge the entity's interest rate and currency risk exposure.

We consolidate the structured entity because we have decision-making power over the timing and size of future issuances and other relevant activities which were predetermined by us at inception. We also obtain significant funding benefits and are exposed to variability from the performance of the underlying credit card receivables through our retained interest. As at October 31, 2020, \$5.8 billion of notes issued by our credit card securitization vehicle were included in Deposits on our Consolidated Balance Sheets (October 31, 2019 – \$7.1 billion).

Note 7 Structured entities (continued)**Collateralized commercial paper vehicle**

We established a funding vehicle that provides loans to us and finances those loans by issuing commercial paper to third-party investors. The structured entity's commercial paper carries an equivalent credit rating to RBC because we are obligated to advance funds to the entity in the event there are insufficient funds from other sources to settle maturing commercial paper. We pledge collateral to secure the loans and are exposed to the market and credit risks of the pledged securities.

We consolidate the structured entity because we have decision-making power over the relevant activities, are the sole borrower from the structure, and are exposed to a majority of the residual ownership risks through the credit support provided. As at October 31, 2020, \$12.2 billion of commercial paper issued by the vehicle was included in Deposits on our Consolidated Balance Sheets (October 31, 2019 – \$16.2 billion).

Covered bonds

We periodically transfer mortgages to RBC Covered Bond Guarantor Limited Partnership (the Guarantor LP) to support funding activities and asset coverage requirements under our covered bonds program. The Guarantor LP was created to guarantee interest and principal payments under the covered bond program. The covered bonds guaranteed by the Guarantor LP are direct, unsecured and unconditional obligations of RBC; therefore, investors have a claim against the Bank which will continue if the covered bonds are not paid by the Bank and the mortgage assets in the Guarantor LP are insufficient to satisfy the obligations owing on the covered bonds. We act as general partner, limited partner, swap counterparty, lender and liquidity provider to the Guarantor LP, servicer for the underlying mortgages as well as the registered issuer of the covered bonds. During the second quarter, OSFI temporarily increased the limits on covered bond programs and the Bank of Canada temporarily expanded the eligible collateral for its term repo facility to include banks' own covered bonds to provide further liquidity due to the COVID-19 pandemic.

We consolidate the Guarantor LP as we have the decision-making power over the relevant activities through our role as general partner and are exposed to variability from the performance of the underlying mortgages. As at October 31, 2020, the total amount of mortgages transferred and outstanding was \$105.8 billion (October 31, 2019 – \$53.9 billion) providing further liquidity capacity for the covered bond program and \$40 billion of covered bonds were recorded as Deposits on our Consolidated Balance Sheets (October 31, 2019 – \$39.8 billion).

Municipal bond TOB structures

We sell taxable and tax-exempt municipal bonds into Tender Option Bond (TOB) structures, which consist of a bond that is credit enhanced by us and purchased by a TOB trust. The TOB trust finances the purchase from us by issuing floating-rate certificates to short-term investors and a residual certificate that is purchased by us. We are the remarketing agent for the floating-rate certificates and provide a liquidity facility to the short-term investors which requires us to purchase any certificates tendered but not successfully remarketed. We credit enhance the bond purchased by the TOB trust with a letter of credit under which we are required to extend funding if there are any losses on the underlying bonds. We earn interest on the residual certificate and receive market-based fees for acting as remarketing agent and providing the liquidity facility and letter of credit.

We consolidate the TOB trust when we are the holder of the residual certificate as we have decision-making power over the relevant activities, including the selection of the underlying municipal bonds and the ability to terminate the structure, and are exposed to variability from the performance of the underlying municipal bonds. As at October 31, 2020, \$7.8 billion of municipal bonds were included in Investment securities related to consolidated TOB structures (October 31, 2019 – \$8.3 billion) and a corresponding \$8.2 billion of floating-rate certificates were included in Deposits on our Consolidated Balance Sheets (October 31, 2019 – \$8.7 billion).

RBC managed investment funds

We are sponsors and investment managers of mutual and pooled funds, which give us the ability to direct the investment decisions of the funds. We consolidate those mutual and pooled funds in which our interests, which include direct investment in seed capital plus management or performance fees, indicate that we are acting as a principal. As at October 31, 2020, \$516 million of Trading securities held in the consolidated funds (October 31, 2019 – \$465 million) and \$293 million of Other liabilities representing the fund units held by third parties (October 31, 2019 – \$95 million) were recorded on our Consolidated Balance Sheets.

Unconsolidated structured entities

We have interests in certain structured entities that we do not consolidate but have recorded assets and liabilities on our Consolidated Balance Sheets related to our transactions and involvement with these entities.

The following table presents the assets and liabilities recorded on our Consolidated Balance Sheets and our maximum exposure to loss related to our interests in unconsolidated structured entities. It also presents the size of each class of unconsolidated structured entity, as measured by the total assets of the entities in which we have an interest.

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020					
	Multi-seller conduits (1)	Structured finance	Non-RBC managed investment funds	Third-party securitization vehicles	Other	Total
On-balance sheet assets						
Securities	\$ 138	\$ –	\$ 2,297	\$ –	\$ 422	\$ 2,857
Loans	–	2,670	–	5,628	931	9,229
Derivatives	60	–	–	–	84	144
Other assets	–	46	–	–	261	307
	\$ 198	\$ 2,716	\$ 2,297	\$ 5,628	\$ 1,698	\$ 12,537
On-balance sheet liabilities						
Derivatives	\$ 38	\$ –	\$ –	\$ –	\$ –	\$ 38
Other liabilities	–	–	–	–	–	–
	\$ 38	\$ –	\$ –	\$ –	\$ –	\$ 38
Maximum exposure to loss (2)	\$ 42,863	\$ 6,522	\$ 2,557	\$ 10,389	\$ 2,108	\$ 64,439
Total assets of unconsolidated structured entities	\$ 41,964	\$ 18,200	\$ 462,947	\$ 87,631	\$ 286,200	\$ 896,942

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019					
	Multi-seller conduits (1)	Structured finance	Non RBC managed investment funds	Third-party securitization vehicles	Other	Total
On-balance sheet assets						
Securities	\$ 75	\$ –	\$ 1,865	\$ –	\$ 503	\$ 2,443
Loans	–	2,718	–	6,392	1,517	10,627
Derivatives	97	–	–	–	83	180
Other assets	–	60	–	–	244	304
	\$ 172	\$ 2,778	\$ 1,865	\$ 6,392	\$ 2,347	\$ 13,554
On-balance sheet liabilities						
Derivatives	\$ 20	\$ –	\$ –	\$ –	\$ –	\$ 20
Other liabilities	30	–	–	–	–	30
	\$ 50	\$ –	\$ –	\$ –	\$ –	\$ 50
Maximum exposure to loss (2)	\$ 38,032	\$ 6,446	\$ 2,123	\$ 10,756	\$ 2,667	\$ 60,024
Total assets of unconsolidated structured entities	\$ 37,192	\$ 17,571	\$ 412,046	\$ 84,282	\$ 293,423	\$ 844,514

- (1) Total assets of unconsolidated structured entities represent the maximum assets that may have to be purchased by the conduits under purchase commitments outstanding. Of the purchase commitments outstanding, the conduits have purchased financial assets totalling \$23.4 billion as at October 31, 2019 (October 31, 2019 - \$23.6 billion).
- (2) The maximum exposure to loss resulting from our interests in these entities consists mostly of investments, loans, fair value of derivatives, liquidity and credit enhancement facilities. The maximum exposure to loss of the multi-seller conduits is higher than the on-balance sheet assets primarily because of the notional amounts of the backstop liquidity and credit enhancement facilities. Refer to Note 24.

Below is a description of our involvement with each significant class of unconsolidated structured entity.

Multi-seller conduits

We administer multi-seller ABCP conduit programs. Multi-seller conduits primarily purchase financial assets from clients and finance those purchases by issuing ABCP.

In certain multi-seller conduit arrangements, we do not maintain any ownership of the multi-seller conduits that we administer and have no rights to, or control of, its assets. As the administrative agent, we earn a residual fee for providing services such as coordinating funding activities, transaction structuring, documentation, execution and monitoring. The ABCP issued by each multi-seller conduit is in the conduit's own name with recourse to the financial assets owned by the multi-seller conduit, and is non-recourse to us except through our participation in liquidity and/or credit enhancement facilities.

We provide transaction-specific and program-wide liquidity facilities to the multi-seller conduits. In addition, we provide program-wide credit enhancement to the multi-seller conduits which obligate us to purchase assets or advance funds in the event the multi-seller conduit does not otherwise have funds from other sources, such as from the liquidity facilities, to settle maturing ABCP. In some cases, we or another third party may provide transaction-specific credit enhancement which can take various forms. We receive market-based fees for providing these liquidity and credit facilities.

For certain transactions, we act as counterparty to various hedging contracts to facilitate our clients' securitization of fixed rate and/or foreign currency denominated assets through the conduits. These may take the form of forward contracts, interest rate swaps or cross currency swaps. These derivatives expose us to foreign exchange and interest rate risks that are centrally managed by our foreign exchange trading and swap desks, respectively, and credit risk on the underlying assets that is mitigated by the credit enhancement described below.

Each transaction is structured with transaction-specific first loss protection provided by the third-party seller. This enhancement can take various forms, including but not limited to overcollateralization, excess spread, subordinated classes of financial assets, guarantees or letters of credit. The amount of this enhancement varies but is generally designed to cover a multiple of historical losses.

An unrelated third party (expected loss investor) absorbs losses, up to a maximum contractual amount, that may occur in the future on the assets in the multi-seller conduits before the multi-seller conduits' debt holders and us. In return for assuming this multi-seller conduit first-loss position, each multi-seller conduit pays the expected loss investor a return commensurate with its risk position. The expected loss investor has substantive power to direct the majority of the activities which significantly impact the conduit's economic performance, including initial selection and approval of the asset purchase commitments and liquidity facilities, approval of renewal and amendment of these transactions and facilities, sale or transfer of assets, ongoing monitoring of asset performance, mitigation of losses, and management of the ABCP liabilities.

We do not consolidate these multi-seller conduits as we do not control the conduit as noted above.

Structured finance

We purchased U.S. ARS from certain trusts (U.S. ARS Trusts) which fund their long-term investments in student loans by issuing short-term senior and subordinated notes. We do not consolidate these U.S. ARS Trusts as we do not have decision-making power over the investing and financing activities of the Trusts, which are the activities that most significantly affect the performance of the Trusts.

Additionally, we participate in certain municipal bond TOB structures that we do not consolidate. These structures are similar to those consolidated municipal bond TOB structures described above; however, the residual certificates are held by third parties. We provide liquidity facilities for the benefit of floating-rate certificate holders which may be drawn if certificates are tendered but not able to be remarketed. For a portion of these trusts, we also provide a letter of credit for the underlying bonds held in the trust. We do not have decision-making power over the relevant activities of the structures; therefore, we do not consolidate these structures.

We provide senior warehouse financing to structured entities that are established by third parties to acquire loans for the purposes of issuing a term collateralized loan obligation (CLO) transaction. Subordinated financing is provided during the warehouse phase by one or more third-party equity investors. We act as the arranger and placement agent for the term CLO transaction. Proceeds from the sale of the term CLO are used to repay our senior warehouse financing, at which point we have no further involvement with the transaction. We do not consolidate these CLO structures as we do not have decision-making power over the relevant activities of the entity, which include the initial selection and subsequent management of the underlying debt portfolio.

Note 7 Structured entities (continued)

We provide senior financing to unaffiliated structured entities that are established by third parties to acquire loans. These facilities tend to be longer in term than the CLO warehouse facilities and benefit from credit enhancement generally designed to cover a multiple of historical losses. We do not consolidate these structures as we do not have decision making power over the relevant activities of the entity, which include the initial selection and subsequent management of the underlying debt portfolio.

Non-RBC managed investment funds

We enter into fee-based equity derivative transactions with third parties including mutual funds, unit investment trusts and other investment funds. These transactions provide their investors with the desired exposure to a reference fund, and we economically hedge our exposure to these derivatives by investing in those reference funds. We also act as custodian or administrator for several funds. We do not consolidate those reference funds that are managed by third parties as we do not have power to direct their investing activities.

We provide liquidity facilities to certain third-party investment funds. The funds issue unsecured variable-rate preferred shares and invest in portfolios of tax-exempt municipal bonds. Undrawn liquidity commitments expose us to the liquidity risk of the preferred shares and drawn commitments expose us to the credit risk of the underlying municipal bonds. We do not consolidate these third-party managed funds as we do not have power to direct their investing activities.

Third-party securitization vehicles

We hold interests in securitization vehicles that provide funding to certain third parties on whose behalf the entities were created. The activities of these entities are limited to the purchase and sale of specified financial assets from the sponsor. We, as well as other financial institutions, are obligated to provide funding up to our maximum commitment level and are exposed to credit losses on the underlying assets after various credit enhancements. Enhancements can take various forms, including but not limited to overcollateralization, excess spread, subordinated classes of financial assets, guarantees or letters of credit. The amount of this enhancement varies but is generally designed to cover a multiple of historical losses. We do not consolidate these entities as we do not have decision-making power over the relevant activities, including the entities' investing and financing activities.

Other

Other unconsolidated structured entities include managed investment funds, credit investment products and tax credit funds.

We are sponsors and investment managers of mutual and pooled funds, which gives us the ability to direct the investment decisions of the funds. We do not consolidate those mutual and pooled funds if we exercise our decision-making power as an agent on behalf of other unit holders.

We use structured entities to generally transform credit derivatives into cash instruments, to distribute credit risk and to create customized credit products to meet investors' specific requirements. We enter into derivative contracts, including credit derivatives, to purchase protection from these entities (credit protection) and convert various risk factors such as yield, currency or credit risk of underlying assets to meet the needs of the investors. We act as sale arranger and swap provider for certain entities and, in some cases, fulfill other administrative functions for the entities. We do not consolidate these credit investment product entities as we do not have decision-making power over the relevant activities, which include selection of the collateral and reference portfolio, and are not exposed to a majority of the benefits or risks of the entities.

We created certain funds to pass through tax credits received from underlying low-income housing, historic rehabilitation real estate projects to third parties, new market tax credits or renewable energy tax credits to third parties (tax credit funds). We are sponsors of the tax credit funds as a result of our responsibility to manage the funds, arrange the financing, and perform the administrative duties of these tax credit funds. We do not consolidate the tax credit funds as the third-party investors in these funds have the decision-making power to select the underlying investments and are exposed to the majority of the residual ownership and tax risks of the funds.

We also purchase passive interests in renewable energy tax credit entities created and controlled by third parties. We do not consolidate these third-party funds as we do not have decision-making power over the relevant activities and our investments are managed as part of larger portfolios which are held for trading purposes.

Other interests in unconsolidated structured entities

In the normal course of business, we buy and sell passive interests in certain third-party structured entities, including mutual funds, exchange traded funds, and government-sponsored ABS vehicles. Our investments in these entities are managed as part of larger portfolios which are held for trading, liquidity or hedging purposes. We did not create or sponsor these entities and do not have any decision-making power over their ongoing activities. Our maximum exposure to loss is limited to our on-balance sheet investments in these entities, which are not included in the table above. As at October 31, 2020 and 2019, our investments in these entities were included in Trading and Investment securities on our Consolidated Balance Sheets. Refer to Note 3 and Note 4 for further details on our Trading and Investment securities.

Sponsored entities

We are a sponsor of certain structured entities in which we have interests but do not consolidate. In determining whether we are a sponsor of a structured entity, we consider both qualitative and quantitative factors, including the purpose and nature of the entity, our initial and continuing involvement and whether we hold subordinated interests in the entity. We are considered to be the sponsor of certain credit investment products, tax credit entities, RBC managed mutual funds and a commercial mortgage securitization vehicle. During the year ended October 31, 2020, we transferred commercial mortgages with a carrying amount of \$469 million (October 31, 2019 – \$696 million) to a sponsored securitization vehicle in which we did not have any interests as at the end of the reporting period.

Financial support provided to structured entities

During the years ended October 31, 2020 and 2019, we have not provided any financial or non-financial support to any consolidated or unconsolidated structured entities when we were not contractually obligated to do so. Furthermore, we have no intention to provide such support in the future.

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities

Derivative instruments are categorized as either financial or non-financial derivatives. Financial derivatives are financial contracts whose value is derived from an underlying interest rate, foreign exchange rate, credit risk, and equity or equity index. Non-financial derivatives are contracts whose value is derived from a precious metal, commodity instrument or index. The notional amount of derivatives represents the contract amount used as a reference point to calculate payments. Notional amounts are generally not exchanged by counterparties, and do not reflect our EAD.

Financial derivatives

Forwards and futures

Forward contracts are non-standardized agreements that are transacted between counterparties in the OTC market, whereas futures are standardized contracts with respect to amounts and settlement dates, and are traded on regular futures exchanges. Examples of forwards and futures are described below.

Interest rate forwards (forward rate agreements) and futures are contractual obligations to buy or sell an interest-rate sensitive financial instrument on a predetermined future date at a specified price.

Foreign exchange forwards and futures are contractual obligations to exchange one currency for another at a specified price for settlement at a predetermined future date.

Equity forwards and futures are contractual obligations to buy or sell at a fixed value (the specified price) of an equity index, a basket of stocks or a single stock at a predetermined future date.

Swaps

Swaps are OTC contracts in which two counterparties exchange a series of cash flows based on agreed upon rates applied to a notional amount. Examples of swap agreements are described below.

Interest rate swaps are agreements where two counterparties exchange a series of payments based on different interest rates applied to a notional amount in a single currency. Certain interest rate swaps are transacted and settled through clearing houses which act as central counterparties. Cross currency swaps involve the exchange of fixed payments in one currency for the receipt of fixed payments in another currency. Cross currency interest rate swaps involve the exchange of both interest and notional amounts in two different currencies.

Equity swaps are contracts in which one counterparty agrees to pay or receive from the other cash flows based on changes in the value of an equity index, a basket of stocks or a single stock.

Options

Options are contractual agreements under which the seller (writer) grants the purchaser the right, but not the obligation, either to buy (call option) or sell (put option) a security, exchange rate, interest rate, or other financial instrument or commodity at a specified price, at or by a predetermined future date. The seller (writer) of an option can also settle the contract by paying the cash settlement value of the purchaser's right. The seller (writer) receives a premium from the purchaser for this right. The various option agreements that we enter into include but are not limited to interest rate options, foreign currency options, equity options and index options.

Credit derivatives

Credit derivatives are OTC contracts that transfer credit risk related to an underlying financial instrument (referenced asset) from one counterparty to another. Credit derivatives include credit default swaps, credit default baskets and total return swaps.

Credit default swaps provide protection against the decline in the value of the referenced asset as a result of specified credit events such as default or bankruptcy. They are similar in structure to an option, whereby the purchaser pays a premium to the seller of the credit default swap in return for payment contingent on a credit event affecting the referenced asset.

Credit default baskets are similar to credit default swaps except that the underlying referenced financial instrument is a group of assets instead of a single asset.

Total return swaps are contracts where one counterparty agrees to pay or receive from the other cash amounts based on changes in the value of a referenced asset or group of assets, including any returns such as interest earned on these assets, in exchange for amounts that are based on prevailing market funding rates.

Other derivative products

Other contracts are stable value and equity derivative contracts.

Non-financial derivatives

Other contracts also include non-financial derivative products such as precious metal and commodity derivative contracts in both the OTC and exchange markets.

Derivatives issued for trading purposes

Most of our derivative transactions relate to client-driven sales and trading activities, and associated market risk hedging. Sales activities include the structuring and marketing of derivative products to clients, enabling them to modify or reduce risks. Trading involves market making, positioning and arbitrage activities. Market making involves quoting bid and offer prices to other market participants with the intention of generating revenue based on spread and volume. Positioning involves the active management of derivative transactions with the expectation of profiting from favourable movements in prices, rates, or indices. Arbitrage activities involve identifying and profiting from price differentials between markets and product types. Any realized and unrealized gains or losses on derivatives used for trading purposes are recognized immediately in Non-interest income – Trading revenue.

Derivatives issued for other-than-trading purposes

We also use derivatives for purposes other than trading, primarily for hedging, in conjunction with the management of interest rate, credit, equity and foreign exchange risk related to our funding, lending, investment activities and asset/liability management.

Interest rate swaps are used to manage our exposure to interest rate risk by modifying the repricing or maturity characteristics of existing and/or forecasted assets and liabilities, including funding and investment activities. Purchased options are used to hedge redeemable deposits and other options embedded in consumer products. We manage our exposure to foreign currency risk with cross currency swaps and foreign exchange forward contracts. We predominantly use credit derivatives to manage our credit exposures. We mitigate industry sector concentrations and single-name exposures related to our credit portfolio by purchasing credit derivatives to transfer credit risk to third parties.

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities (continued)

Certain derivatives and cash instruments are specifically designated and qualify for hedge accounting. From time to time, we also enter into derivative transactions to economically hedge certain exposures that do not otherwise qualify for hedge accounting, or where hedge accounting is not considered economically feasible to implement. In such circumstances, changes in fair value are reflected in Other income in Non-interest income.

Notional amount of derivatives by term to maturity (absolute amounts) (1)

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020					
	Term to maturity				Trading	Other than Trading
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total		
Over-the-counter contracts						
Interest rate contracts						
Forward rate agreements	\$ 2,782,447	\$ 427,464	\$ 340	\$ 3,210,251	\$ 3,172,950	\$ 37,301
Swaps	3,409,078	5,990,160	3,755,593	13,154,831	12,685,595	469,236
Options purchased	282,837	407,782	185,667	876,286	876,153	133
Options written	303,347	410,237	198,222	911,806	911,806	-
Foreign exchange contracts						
Forward contracts	1,691,079	32,474	1,788	1,725,341	1,707,082	18,259
Cross currency swaps	80,186	56,563	64,540	201,289	194,773	6,516
Cross currency interest rate swaps	412,053	1,117,048	633,023	2,162,124	2,112,625	49,499
Options purchased	46,719	13,963	3,349	64,031	64,031	-
Options written	50,099	13,407	3,410	66,916	66,916	-
Credit derivatives (2)	1,309	39,877	7,577	48,763	48,244	519
Other contracts (3)	177,220	94,378	20,126	291,724	282,321	9,403
Exchange-traded contracts						
Interest rate contracts						
Futures – long positions	164,925	112,363	113	277,401	277,401	-
Futures – short positions	205,927	167,350	233	373,510	373,510	-
Options purchased	74,494	14,188	-	88,682	88,682	-
Options written	58,116	10,391	-	68,507	68,507	-
Foreign exchange contracts						
Futures – long positions	75	-	-	75	75	-
Futures – short positions	-	-	-	-	-	-
Other contracts	179,681	30,768	240	210,689	210,689	-
	\$ 9,919,592	\$ 8,938,413	\$ 4,874,221	\$ 23,732,226	\$ 23,141,360	\$ 590,866

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019					
	Term to maturity				Trading	Other than Trading
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total		
Over-the-counter contracts						
Interest rate contracts						
Forward rate agreements	\$ 2,014,752	\$ 179,624	\$ 187	\$ 2,194,763	\$ 2,186,862	\$ 7,901
Swaps	3,294,746	5,026,410	3,331,025	11,652,181	11,180,497	471,684
Options purchased	83,247	462,599	174,042	719,888	719,888	-
Options written	77,601	464,906	182,690	725,197	725,197	-
Foreign exchange contracts						
Forward contracts	1,715,266	30,523	985	1,746,774	1,724,606	22,168
Cross currency swaps	79,264	50,416	55,166	184,846	177,622	7,224
Cross currency interest rate swaps	469,910	894,250	425,301	1,789,461	1,743,465	45,996
Options purchased	54,756	14,409	3,061	72,226	72,226	-
Options written	54,985	14,969	3,383	73,337	73,337	-
Credit derivatives (2)	2,693	14,724	3,437	20,854	20,341	513
Other contracts (3)	201,489	90,436	18,463	310,388	303,893	6,495
Exchange-traded contracts						
Interest rate contracts						
Futures – long positions	107,054	118,805	187	226,046	226,046	-
Futures – short positions	363,947	120,247	46	484,240	484,240	-
Options purchased	56,657	36,985	-	93,642	93,642	-
Options written	59,840	16,395	-	76,235	76,235	-
Foreign exchange contracts						
Futures – long positions	28	-	-	28	28	-
Futures – short positions	-	-	-	-	-	-
Other contracts	214,725	44,245	-	258,970	258,970	-
	\$ 8,850,960	\$ 7,579,943	\$ 4,198,173	\$ 20,629,076	\$ 20,067,095	\$ 561,981

(1) The derivative notional amounts are determined using the standardized approach for measuring counterparty credit risk (SA-CCR) in accordance with the Capital Adequacy Requirements (CAR).

(2) Credit derivatives with a notional value of \$0.5 billion (October 31, 2019 – \$0.5 billion) are economic hedges. Trading credit derivatives comprise protection purchased of \$26.3 billion (October 31, 2019 – \$12.6 billion) and protection sold of \$21.9 billion (October 31, 2019 – \$7.7 billion).

(3) Other contracts exclude loan related commitment derivatives of \$1.9 billion (October 31, 2019 – \$7.7 billion), which are not classified as derivatives under CAR guidelines.

Fair value of derivative instruments ⁽¹⁾

(Millions of Canadian dollars)	As at			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Positive	Negative	Positive	Negative
Held or issued for trading purposes				
Interest rate contracts				
Forward rate agreements	\$ 33	\$ 33	\$ 30	\$ 31
Swaps	44,732	37,453	39,669	32,570
Options purchased	7,498	-	5,898	-
Options written	-	8,916	-	6,756
	52,263	46,402	45,597	39,357
Foreign exchange contracts				
Forward contracts	10,765	10,190	11,263	11,755
Cross currency swaps ⁽²⁾	5,117	5,080	5,022	4,412
Cross currency interest rate swaps ⁽²⁾	19,880	21,826	22,076	21,999
Options purchased	1,292	-	1,242	-
Options written	-	910	-	898
	37,054	38,006	39,603	39,064
Credit derivatives	463	526	169	279
Other contracts	21,156	23,985	15,356	18,517
	110,936	108,919	100,725	97,217
Held or issued for other-than-trading purposes				
Interest rate contracts				
Swaps	1,959	1,410	848	742
	1,959	1,410	848	742
Foreign exchange contracts				
Forward contracts	76	85	116	118
Cross currency swaps	89	22	193	527
Cross currency interest rate swaps	2,084	132	904	501
	2,249	239	1,213	1,146
Credit derivatives	-	5	-	3
Other contracts	105	126	181	140
	4,313	1,780	2,242	2,031
Total gross fair values before:	115,249	110,699	102,967	99,248
Valuation adjustments determined on a pooled basis	(1,104)	(115)	(697)	5
Impact of netting agreements that qualify for balance sheet offset	(657)	(657)	(710)	(710)
	\$113,488	\$109,927	\$ 101,560	\$ 98,543

(1) The fair value reflects the impact of the election to characterize the daily variation margin as settlement of the related derivative fair values as permitted by certain central counterparties.

(2) Amounts have been revised from those previously presented.

Fair value of derivative instruments by term to maturity ⁽¹⁾

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Less than 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Less than 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total
Derivative assets	\$27,072	33,755	52,661	\$ 113,488	\$ 25,342	28,568	47,650	\$ 101,560
Derivative liabilities	26,507	32,885	50,535	109,927	25,495	26,503	46,545	98,543

(1) The fair value reflects the impact of the election to characterize the daily variation margin as settlement of the related derivative fair values permitted by certain central counterparties.

Interest rate benchmark reform ⁽¹⁾

We use interest rate contracts in fair value hedges and cash flow hedges to manage our exposure to interest rate risk of our existing and/or forecast assets and liabilities. We also use foreign denominated deposit liabilities in net investment hedges to manage the foreign exchange risk arising from our investments in foreign operations. The hedging instruments designated to manage these risks reference IBOR in multiple jurisdictions and will be affected by the Reform as the markets transition to alternative risk free or nearly risk-free rates by the end of 2021 or beyond.

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities (continued)

The following table presents the notional or principal amount of our hedging instruments which reference IBOR that will expire after 2021 and will be affected by the Reform. We continue to monitor the progress to assess which IBORs are impacted by the Reform. The notional or principal amounts of our hedging instruments also approximates the extent of the risk exposure we manage through hedging relationships:

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31, 2020	November 1, 2019
	Notional/Principal amounts	Notional/Principal amounts
Interest rate contracts		
USD LIBOR	\$ 40,676	\$ 26,709
GBP LIBOR	591	618
Non-derivative instruments		
USD LIBOR	2,362	888
GBP LIBOR	691	682
	\$ 44,320	\$ 28,897

(i) Excludes interest rate contracts and non-derivative instruments which reference rates in multi-rate jurisdictions, including the Canadian Dollar Offered Rate (CDOR), EURO Interbank Offered Rate and Australian Bank Bill Swap Rate (IBBSW).

Derivative-related credit risk

Credit risk from derivative transactions is generated by the potential for the counterparty to default on its contractual obligations when one or more transactions have a positive market value to us. Therefore, derivative-related credit risk is represented by the positive fair value of the instrument and is normally a small fraction of the contract's notional amount.

We subject our derivative transactions to the same credit approval, limit and monitoring standards that we use for managing other transactions that create credit exposure. This includes evaluating the creditworthiness of counterparties, and managing the size, diversification and maturity structure of the portfolio. Credit utilization for all products is compared with established limits on a continual basis and is subject to a standard exception reporting process. We use a single internal rating system for all credit risk exposure, as outlined in the internal ratings maps in the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis.

Offsetting is a technique that can reduce credit exposure from derivatives and is generally facilitated through the use of master netting agreements and achieved when specific criteria are met in accordance with our accounting policy in Note 2. A master netting agreement provides for a single net settlement of all financial instruments covered by the agreement in the event of default. However, credit risk is reduced only to the extent that our financial obligations to the same counterparty can be set off against obligations of the counterparty to us. We maximize the use of master netting agreements to reduce derivative-related credit exposure. Our overall exposure to credit risk that is reduced through master netting agreements may change substantially following the reporting date as the exposure is affected by each transaction subject to the agreement as well as by changes in underlying market rates. Measurement of our credit exposure arising out of derivative transactions is reduced to reflect the effects of netting in cases where the enforceability of that netting is supported by appropriate legal analysis as documented in our trading credit risk policies.

The use of collateral is another significant credit mitigation technique for managing derivative-related counterparty credit risk. Mark-to-market provisions in our agreements with some counterparties, typically in the form of a Credit Support Annex, provide us with the right to request that the counterparty pay down or collateralize the current market value of its derivatives positions when the value exceeds a specified threshold amount.

Replacement cost and credit equivalent amounts are determined in accordance with OSFI's non-modelled regulatory SA-CCR under the CAR guidelines. The replacement cost represents the total fair value of all outstanding contracts in a gain position after factoring in the master netting agreements and applicable margins, scaled by a regulatory factor. The credit equivalent amount is defined as the replacement cost plus an additional amount for potential future credit exposure also scaled by a regulatory factor. The risk-weighted equivalent is determined by applying appropriate risk-weights to the credit equivalent amount, including those risk weights reflective of model approval under the internal ratings based approach.

Derivative-related credit risk (1)

(Millions of Canadian dollars)	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	Replacement cost	Credit equivalent amount	Risk weighted equivalent (2)	Replacement cost	Credit equivalent amount	Risk weighted equivalent (2)
Over-the-counter contracts						
Interest rate contracts						
Forward rate agreements	\$ 30	\$ 191	\$ 79	\$ 18	\$ 73	\$ 19
Swaps	7,112	17,324	7,359	6,487	15,911	6,229
Options purchased	142	392	285	149	547	326
Options written	4	307	136	—	256	113
Foreign exchange contracts						
Forward contracts	2,796	17,641	4,537	2,333	15,822	3,899
Swaps	2,392	15,349	3,997	3,047	15,678	4,001
Options purchased	465	923	292	404	908	285
Options written	1	155	59	4	213	67
Credit derivatives	429	1,839	81	156	613	40
Other contracts	3,577	16,455	7,719	1,972	10,766	4,853
Exchange-traded contracts	3,137	8,842	177	5,439	19,630	393
	\$ 20,085	\$ 79,418	\$ 24,721	\$ 20,009	\$ 80,417	\$ 20,225

(1) The amounts presented are net of master netting agreements in accordance with CAR guidelines.

(2) The risk-weighted balances are calculated in accordance with CAR guidelines and exclude CVA of \$18 billion (October 31, 2019 – \$13 billion).

Replacement cost of derivative instruments by risk rating and by counterparty type

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020								
	Risk rating (1)					Counterparty type (2)			
	AAA, AA	A	BBB	BB or lower	Total	Banks	OECD governments	Other	Total
Gross positive replacement cost	\$ 30,097	\$ 44,736	\$ 18,392	\$ 22,024	\$ 115,249	\$ 49,146	\$ 22,109	\$ 43,994	\$ 115,249
Impact of master netting agreements and applicable margins	27,110	40,359	14,238	13,457	95,164	48,291	21,534	25,339	95,164
Replacement cost (after netting agreements)	\$ 2,987	\$ 4,377	\$ 4,154	\$ 8,567	\$ 20,085	\$ 855	\$ 575	\$ 18,655	\$ 20,085

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019								
	Risk rating (1)					Counterparty type (2)			
	AAA, AA	A	BBB	BB or lower	Total	Banks	OECD governments	Other	Total
Gross positive replacement cost	\$ 27,126	\$ 38,812	\$ 20,620	\$ 16,409	\$ 102,967	\$ 48,509	\$ 18,126	\$ 36,332	\$ 102,967
Impact of master netting agreements and applicable margins	23,146	35,088	16,719	8,005	82,958	47,376	17,705	17,877	82,958
Replacement cost (after netting agreements)	\$ 3,980	\$ 3,724	\$ 3,901	\$ 8,404	\$ 20,009	\$ 1,133	\$ 421	\$ 18,455	\$ 20,009

(1) Our internal risk ratings of AAA, AA, A and BBB represent investment grade ratings and ratings of BB or lower represent non-investment grade ratings, as outlined in the internal ratings maps in the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis.

(2) Counterparty type is defined in accordance with CAR guidelines.

Derivatives in hedging relationships

We apply hedge accounting to minimize volatility in earnings and capital caused by changes in interest rates or foreign exchange rates. Interest rate and currency fluctuations will either cause assets and liabilities to appreciate or depreciate in market value or cause variability in forecasted cash flows. When a hedging relationship is effective, gains, losses, revenue and expenses of the hedging instrument will offset the gains, losses, revenue and expenses of the hedged item.

Derivatives used in hedging relationships are recorded in Other Assets – Derivatives or Other Liabilities – Derivatives on the Balance Sheet. Foreign currency-denominated liabilities used in net investment hedging relationships are recorded in Deposits – Business and Government and Subordinated debentures on the Balance Sheet. Gains and losses relating to hedging ineffectiveness is recorded in Non-Interest income and amounts reclassified from hedge reserves in OCI to Income is recorded in Net-Interest income for cash flow hedges and Non-interest income for net investment hedges.

We assess and measure the effectiveness of a hedging relationship based on the change in the fair value or cash flows of the derivative hedging instrument relative to the change in the fair value or cash flows of the hedged item attributable to the hedged risk. When cash instruments are designated as hedges of foreign exchange risks, only changes in their value due to foreign exchange risk are included in the assessment and measurement of hedge effectiveness.

Potential sources of ineffectiveness can be attributed to differences between hedging instruments and hedged items:

- Mismatches in the terms of hedged items and hedging instruments, for example the frequency and timing of when interest rates are reset and frequency of payment.
- Difference in the discounting factors between the hedged item and the hedging instrument, taking into consideration the different reset frequency of the hedged item and hedging instrument.
- Hedging derivatives with a non-zero fair value at inception date of the hedging relationship, resulting in mismatch in terms with the hedged item.

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities (continued)

Below is a description of our risk management strategy for each risk exposure that we decide to hedge:

Interest rate risk

We use interest rate contracts to manage our exposure to interest rate risk by modifying the repricing characteristics of existing and/or forecasted assets and liabilities, including funding and investment activities. The swaps are designated in either a fair value hedge or a cash flow hedge and predominately reference IBORs across multiple jurisdictions. Certain swaps will be affected by the Reform as the market transitions to alternative risk free or nearly risk free rates by the end of 2021 or beyond.

For fair value hedges, we use interest rate contracts to manage the fair value movements of our fixed-rate instruments due to changes in benchmark interest. The interest rate swaps are entered into on a one-to-one basis to manage the benchmark interest rate risk, and its terms are critically matched to the specified fixed rate instruments.

We also use interest rate swaps in fair value hedges to manage interest rate risk from residential mortgage assets and funding liabilities. Our exposure from this portfolio changes with the origination of new loans, repayments of existing loans, and sale of securitized mortgages. Accordingly, we have adopted dynamic hedging for that portfolio, in which the hedge relationship is rebalanced on a more frequent basis, such as on a bi-weekly or on a monthly basis.

For cash flow hedges, we use interest rate swaps to manage the exposure to cash flow variability of our variable rate instruments as a result of changes in benchmark interest rates. The variable rate instruments and forecast transactions which reference certain IBORs will be affected by the Reform. Whilst some of the interest rate derivatives are entered into on a one-to-one basis to manage a specific exposure, other interest rate derivatives may be entered into for managing interest rate risks of a portfolio of assets and liabilities.

Foreign exchange risk

We manage our exposure to foreign currency risk with cross currency swaps in a cash flow hedge, and foreign exchange forward contracts in a net investment hedge. Certain cash instruments may also be designated in a net investment hedge, where applicable.

For cash flow hedges, we use cross currency swaps and forward contracts to manage the cash flow variability arising from fluctuations in foreign exchange rates on our issued foreign denominated fixed rate liabilities and highly probable forecasted transactions. The maturity profile and repayment terms of these swaps are matched to those of our foreign denominated exposures to limit our cash flow volatility from changes in foreign exchange rates.

For net investment hedges, we use a combination of foreign exchange forwards and cash instruments, such as foreign denominated deposit liabilities, some of which reference IBORs that will be affected by the Reform, to manage our foreign exchange risk arising from our investments in foreign operations. Our most significant exposures include U.S. dollar, British pound and Euro. When hedging net investments in foreign operations using foreign exchange forwards, only the undiscounted spot element of the foreign exchange forward is designated as the hedging instrument. Accordingly, changes in the fair value of the hedging instrument as a result of changes in forward rates and the effects of discounting are not included in the hedging effectiveness assessment. Foreign operations are only hedged to the extent of the liability or notional amount of the derivative; we generally do not expect to incur significant ineffectiveness on hedges of net investments in foreign operations.

Equity price risk

We use total return swaps in cash flow hedges to mitigate the cash flow variability of the expected payment associated with our cash settled share-based compensation plan for certain key employees by exchanging interest payments for indexed RBC share price change and dividend returns.

Credit risk

We predominantly use credit derivatives to economically hedge our credit exposures. We mitigate industry sector concentrations and single-name exposures related to our credit portfolio by purchasing credit derivatives to transfer credit risk to third parties.

Derivative instruments designated in hedging relationships

The following table presents the fair values of the derivative instruments and the principal amounts of the non-derivative liabilities, categorized by their hedging relationships, as well as derivatives that are not designated in hedging relationships.

Derivatives and non-derivative instruments (1)

	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Designated as hedging instruments in hedging relationships		Not designated in a hedging relationship		Designated as hedging instruments in hedging relationships		Not designated in a hedging relationship	
(Millions of Canadian dollars)	Fair value	Cash flow	Net investment		Fair value	Cash flow	Net investment	
Assets								
Derivative instruments	\$ 102	\$ 1	\$ 19	\$ 113,366	\$ 146	\$ 77	\$ 52	\$ 101,285
Liabilities								
Derivative instruments	298	30	58	109,541	187	526	70	97,760
Non-derivative instruments	—	—	28,702	n.a.	—	—	27,688	n.a.

(1) The fair value reflects the impact of the election to characterize the daily variation margin as settlement of the related derivative fair values as permitted by certain central counterparties.

n.a. not applicable

The following tables provide the maturity analysis of the notional amounts and the weighted average rates of the hedging instruments and their carrying amounts by types of hedging relationships:

Fair value hedges

	As at October 31, 2020					
	Notional amounts				Carrying amount (1)	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
(Millions of Canadian dollars, except average rates)						
Interest rate risk						
Interest rate contracts						
Hedge of fixed rate assets	\$ 14,410	\$ 28,182	\$ 6,709	\$ 49,301	\$ 1	\$ 298
Hedge of fixed rate liabilities	21,207	38,704	6,415	66,326	101	—
Weighted average fixed interest rate						
Hedge of fixed rate assets	1.5%	1.0%	2.0%	1.3%		
Hedge of fixed rate liabilities	1.7%	1.4%	1.8%	1.6%		

	As at October 31, 2019					
	Notional amounts				Carrying amount (1)	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
(Millions of Canadian dollars, except average rates)						
Interest rate risk						
Interest rate contracts						
Hedge of fixed rate assets	\$ 4,625	\$ 20,439	\$ 3,909	\$ 28,973	\$ 2	\$ 187
Hedge of fixed rate liabilities	16,003	48,361	9,065	73,429	144	—
Weighted average fixed interest rate						
Hedge of fixed rate assets	1.9%	2.2%	2.7%	2.2%		
Hedge of fixed rate liabilities	1.7%	1.8%	1.8%	1.7%		

(1) The carrying value reflects the impact of the election to characterize the daily variation margin as settlement of the related derivative fair values as permitted by certain central counterparties.

Cash flow hedges

	As at October 31, 2020					
	Notional amounts				Carrying amount (1)	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
(Millions of Canadian dollars, except average rates)						
Interest rate risk						
Interest rate contracts						
Hedge of variable rate assets	\$ 15,309	\$ 10,663	\$ 1,762	\$ 27,734	\$ —	\$ —
Hedge of variable rate liabilities	5,616	61,697	5,384	72,697	—	—
Weighted average fixed interest rate						
Hedge of variable rate assets	0.6%	1.4%	1.8%	1.0%		
Hedge of variable rate liabilities	1.9%	1.5%	1.4%	1.5%		
Foreign exchange risk						
Cross currency swaps	\$ 700	\$ 160	\$ —	\$ 860	\$ 1	\$ 2
Weighted average CAD-JPY exchange rate	0.01	—	—	0.01		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	—	1.52	—	1.52		
Weighted average USD-EUR exchange rate	—	—	—	—		

	As at October 31, 2019					
	Notional amounts				Carrying amount (1)	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
(Millions of Canadian dollars, except average rates)						
Interest rate risk						
Interest rate contracts						
Hedge of variable rate assets	\$ 17,327	\$ 11,729	\$ 1,696	\$ 30,752	\$ —	\$ —
Hedge of variable rate liabilities	200	54,610	4,803	59,613	—	—
Weighted average fixed interest rate						
Hedge of variable rate assets	2.1%	2.0%	2.6%	2.1%		
Hedge of variable rate liabilities	2.6%	1.9%	2.4%	2.0%		
Foreign exchange risk						
Cross currency swaps	\$ 2,937	\$ 63	\$ 88	\$ 3,088	\$ 2	\$ 526
Weighted average CAD-JPY exchange rate	—	—	—	—		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	—	1.48	1.55	1.52		
Weighted average USD-EUR exchange rate	1.33	—	—	1.33		

(1) The carrying value reflects the impact of the election to characterize the daily variation margin as settlement of the related derivative fair values as permitted by certain central counterparties.

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities (continued)**Net investment hedges**

(Millions of Canadian dollars, except average rates)	As at October 31, 2020					
	Notional/Principal				Carrying amount	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
Foreign exchange risk						
Foreign currency liabilities	\$ 7,722	\$ 18,706	\$ 2,274	\$ 28,702	n.a.	\$ 29,175
Weighted average CAD-USD exchange rate	1.29	1.31	1.31	1.30		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	—	1.51	1.50	1.51		
Weighted average CAD-GBP exchange rate	1.73	1.65	—	1.69		
Forward contracts	\$ 7,869	\$ —	\$ —	\$ 7,869	\$ 19	\$ 58
Weighted average CAD-USD exchange rate	1.33	—	—	1.33		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	1.56	—	—	1.56		
Weighted average CAD-GBP exchange rate	1.71	—	—	1.71		

(Millions of Canadian dollars, except average rates)	As at October 31, 2019					
	Notional/Principal				Carrying amount	
	Within 1 year	1 through 5 years	Over 5 years	Total	Assets	Liabilities
Foreign exchange risk						
Foreign currency liabilities	\$ 8,701	\$ 14,843	\$ 4,144	\$ 27,688	n.a.	\$ 27,859
Weighted average CAD-USD exchange rate	1.31	1.29	1.31	1.30		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	—	—	1.51	1.51		
Weighted average CAD-GBP exchange rate	—	1.69	—	1.69		
Forward contracts	\$ 5,355	\$ —	\$ —	\$ 5,355	\$ 52	\$ 70
Weighted average CAD-USD exchange rate	1.33	—	—	1.33		
Weighted average CAD-EUR exchange rate	1.47	—	—	1.47		
Weighted average CAD-GBP exchange rate	1.67	—	—	1.67		

n.a.: not applicable

The following tables present the details of the hedged items categorized by their hedging relationships:

Fair value hedges – assets and liabilities designated as hedged items

(Millions of Canadian dollars)	As at and for the year ended October 31, 2020					
	Carrying amount		Accumulated amount of fair value adjustments on the hedged item included in the carrying amount		Changes in fair values used for calculating hedge ineffectiveness	
	Assets	Liabilities	Assets	Liabilities	Balance sheet items:	
Interest rate risk						
Fixed rate assets ⁽¹⁾					Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail; Loans – Wholesale	\$ 879
Fixed rate liabilities ⁽¹⁾	\$49,272	\$ —	\$ 1,058	\$ —	Deposits – Business and government; Subordinated debentures	(1,142)

(Millions of Canadian dollars)	As at and for the year ended October 31, 2019					
	Carrying amount		Accumulated amount of fair value adjustments on the hedged item included in the carrying amount		Changes in fair values used for calculating hedge ineffectiveness	
	Assets	Liabilities	Assets	Liabilities	Balance sheet items:	
Interest rate risk						
Fixed rate assets ⁽¹⁾	\$ 29,985	\$ —	\$ 569	\$ —	Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail; Deposits – Business and government; Subordinated debentures	\$ 1,028
Fixed rate liabilities ⁽¹⁾	—	74,099	—	693		(2,045)

(1) As at October 31, 2020, the accumulated amount of fair value hedge adjustments remaining in the Balance Sheet for hedged items that have ceased to be adjusted for hedging gains and losses is a gain of \$32 million for fixed-rate assets and a loss of \$94 million for fixed-rate liabilities (October 31, 2019 – loss of \$53 million and \$170 million, respectively).

Cash flow and net investment hedges – assets and liabilities designated as hedged items

		As at and for the year ended October 31, 2020			
(Millions of Canadian dollars)	Balance sheet items:	Changes in fair values used for calculating hedge ineffectiveness	Cash flow hedge/foreign currency translation reserve		
			Continuing hedges	Discontinued hedges	
Cash flow hedges					
Interest rate risk					
Variable rate assets	Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail	\$ (484)	\$ 294	\$ 285	
Variable rate liabilities	Deposits – Business and government; Deposits – Personal	1,839	(1,540)	(523)	
Foreign exchange risk					
Fixed rate assets	Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail	2	6	–	
Fixed rate liabilities	Deposits – Business and government	(164)	–	–	
Net investment hedges					
Foreign exchange risk					
Foreign subsidiaries	n.a.	535	(6,363)	(421)	

		As at and for the year ended October 31, 2019			
(Millions of Canadian dollars)	Balance sheet items:	Changes in fair values used for calculating hedge ineffectiveness	Cash flow hedge/foreign currency translation reserve		
			Continuing hedges	Discontinued hedges	
Cash flow hedges					
Interest rate risk					
Variable rate assets	Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail	\$ (608)	\$ 163	\$ 84	
Variable rate liabilities	Deposits – Business and government; Deposits – Personal	1,274	(372)	70	
Foreign exchange risk					
Fixed rate assets	Securities – Investment, net of applicable allowance; Loans – Retail	(5)	(1)	–	
Fixed rate liabilities	Deposits – Business and government	125	9	–	
Net investment hedges					
Foreign exchange risk					
Foreign subsidiaries	n.a.	(7)	(5,407)	(871)	

n.a. not applicable

Effectiveness of designated hedging relationships

		For the year ended October 31, 2020			
(Millions of Canadian dollars)		Change in fair value of hedging instrument	Hedge ineffectiveness recognized in income (I)	Changes in the value of the hedging instrument recognized in OCI	Amount reclassified from hedge reserves to income
Fair value hedges					
Interest rate risk					
Interest rate contracts – fixed rate assets		\$ (931)	\$ (52)	\$ –	\$ –
Interest rate contracts – fixed rate liabilities		1,157	15	–	–
Cash flow hedges					
Interest rate risk					
Interest rate contracts – variable rate assets		501	16	532	200
Interest rate contracts – variable rate liabilities		(1,803)	1	(2,127)	(367)
Foreign exchange risk					
Cross currency swap – fixed rate assets		(2)	–	3	(5)
Cross currency swap – fixed rate liabilities		164	–	113	122
Net investment hedges					
Foreign exchange risk					
Foreign currency liabilities		(405)	5	(410)	–
Forward contracts		(124)	1	(125)	(28)

Note 8 Derivative financial instruments and hedging activities (continued)

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2019			
	Change in fair value of hedging instrument	Hedge ineffectiveness recognized in income (I)	Changes in the value of the hedging instrument recognized in OCI	Amount reclassified from hedge reserves to income
Fair value hedges				
Interest rate risk				
Interest rate contracts – fixed rate assets	\$ (1,060)	\$ (32)	\$ –	\$ –
Interest rate contracts – fixed rate liabilities	2,032	(13)	–	–
Cash flow hedges				
Interest rate risk				
Interest rate contracts – variable rate assets	605	8	582	(25)
Interest rate contracts – variable rate liabilities	(1,261)	(5)	(1,265)	220
Foreign exchange risk				
Cross currency swap – fixed rate assets	5	–	8	5
Cross currency swap – fixed rate liabilities	(125)	–	(193)	(106)
Net investment hedges				
Foreign exchange risk				
Foreign currency liabilities	(50)	–	(50)	–
Forward contracts	57	–	57	(2)

(I) Hedge ineffectiveness recognized in income included losses of \$94 million that are excluded from the assessment of hedge effectiveness and are offset by economic hedges (October 31, 2019 – \$70 million).

Reconciliation of components of equity

The following table provides a reconciliation by risk category of each component of equity and an analysis of other comprehensive income relating to hedge accounting:

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2020		For the year ended October 31, 2019	
	Cash flow hedge reserve	Foreign currency translation reserve	Cash flow hedge reserve	Foreign currency translation reserve
Balance at the beginning of the year	\$ (6)	\$ 4,221	\$ 688	\$ 4,147
Cash flow hedges				
Effective portion of changes in fair value:				
Interest rate risk	(1,595)		(683)	
Foreign exchange risk	115		(185)	
Equity price risk	(77)		108	
Net amount reclassified to profit or loss:				
Ongoing hedges:				
Interest rate risk	277		24	
Foreign exchange risk	(119)		104	
Equity price risk	53		(93)	
De-designated hedges:				
Interest rate risk	(110)		(219)	
Foreign exchange risk	–		–	
Net gain on hedge of net investment in foreign operations				
Foreign exchange denominated debt		(410)		(50)
Forward foreign exchange contracts		(125)		57
Foreign currency translation differences for foreign operations		813		66
Reclassification of losses (gains) on foreign currency translation to income		(21)		2
Reclassification of losses (gains) on net investment hedging activities to income		28		2
Tax on movements on reserves during the period	383	126	250	(3)
Balance at the end of the year	\$ (1,079)	\$ 4,632	\$ (6)	\$ 4,221

Note 9 Premises and equipment

	For the year ended October 31, 2020									
	Owned by the Bank (1), (2)						Right-of-use lease assets			
	Land	Buildings	Computer equipment	Furniture, fixtures and other equipment	Leasehold improvements	Work in process	Buildings	Equipment	Total	
(Millions of Canadian dollars)										
Cost										
Balance at beginning of period	\$153	\$1,395	\$2,062	\$1,557	\$3,001	\$432	\$4,956	\$363	\$13,919	
Additions	–	26	82	42	14	623	281	115	1,183	
Transfers from work in process	–	9	279	93	449	(830)	–	–	–	
Disposals	(1)	(4)	(157)	(42)	(124)	(2)	(58)	(57)	(445)	
Foreign exchange translation	1	4	7	4	10	(2)	38	1	63	
Other	(1)	(14)	(51)	30	33	(18)	(46)	(1)	(68)	
Balance at end of period	\$152	\$1,416	\$2,222	\$1,684	\$3,383	\$203	\$5,171	\$421	\$14,652	
Accumulated depreciation										
Balance at beginning of period	\$–	\$703	\$1,553	\$1,137	\$2,074	\$–	\$–	\$205	\$5,672	
Depreciation	–	47	267	109	224	–	600	86	1,333	
Disposals	–	(3)	(155)	(39)	(112)	–	(12)	(16)	(337)	
Foreign exchange translation	–	1	4	3	3	–	(2)	–	9	
Other	–	6	(17)	55	(1)	–	(2)	–	41	
Balance at end of period	\$–	\$754	\$1,652	\$1,265	\$2,188	\$–	\$584	\$275	\$6,718	
Net carrying amount at end of period	\$152	\$662	\$570	\$419	\$1,195	\$203	\$4,587	\$146	\$7,934	

	For the year ended October 31, 2019							
	Owned by the Bank (1), (2)						Right-of-use lease assets	
	Land	Buildings	Computer equipment	Furniture, fixtures and other equipment	Leasehold improvements	Work in process	Total	
(Millions of Canadian dollars)								
Cost								
Balance at beginning of period	\$153	\$1,399	\$2,123	\$1,373	\$2,726	\$264	\$8,038	
Additions (1)	–	–	195	129	81	591	996	
Transfers from work in process	–	4	84	82	262	(432)	–	
Disposals	–	(10)	(68)	(29)	(65)	–	(172)	
Foreign exchange translation	–	–	3	(1)	2	–	4	
Other	–	2	(12)	3	(5)	9	(3)	
Balance at end of period	\$153	\$1,395	\$2,325	\$1,557	\$3,001	\$432	\$8,863	
Accumulated depreciation								
Balance at beginning of period	\$–	\$669	\$1,556	\$1,051	\$1,930	\$–	\$5,206	
Depreciation	–	45	273	113	196	–	627	
Disposals	–	(8)	(61)	(26)	(56)	–	(151)	
Foreign exchange translation	–	–	1	–	1	–	2	
Other	–	(3)	(11)	(1)	3	–	(12)	
Balance at end of period	\$–	\$703	\$1,758	\$1,137	\$2,074	\$–	\$5,672	
Net carrying amount at end of period	\$153	\$692	\$567	\$420	\$927	\$432	\$3,191	

(1) As at October 31, 2020, we had total contractual commitments of \$94 million to purchase premises and equipment (October 31, 2019 – \$138 million).

(2) These amounts reflect certain transition adjustments made upon adoption of IFRS 16. Refer to Note 2 for further details.

Lease payments (IFRS 16)

Total lease payments for the year ended October 31, 2020 were \$1,338 million, of which \$654 million or 49% relates to variable payments and \$684 million or 51% relates to fixed payments.

Total variable lease payments not included in the measurement of lease liabilities were \$635 million for the year ended October 31, 2020.

Note 9 Premises and equipment (continued)**Lease commitments (IAS 17)****Operating lease commitments**

The minimum future lease payments under non-cancellable operating leases under IAS 17 were as follows:

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2019	
	Land and buildings	Equipment
Future minimum lease payments		
No later than one year	\$ 721	\$ 88
Later than one year and no later than five years	2,251	101
Later than five years	3,039	—
	6,011	189
Less: Future minimum sublease payments to be received	(25)	—
Net future minimum lease payments	\$ 5,986	\$ 189

Note 10 Goodwill and other intangible assets**Goodwill**

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2020									
	Canadian Banking	Caribbean Banking	Canadian Wealth Management	Global Asset Management	U.S. Wealth Management (including City National)	International Wealth Management	Insurance	Investor & Treasury Services	Capital Markets	Total
Balance at beginning of period	\$ 2,555	\$ 1,727	\$ 579	\$ 1,985	\$ 2,943	\$ 120	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$ 11,236
Acquisitions	2	—	6	—	1	—	—	—	—	9
Dispositions	—	(16)	—	—	—	—	—	—	—	(16)
Currency translations	—	8	2	16	34	1	—	1	11	73
Balance at end of period	\$ 2,557	\$ 1,719	\$ 587	\$ 2,001	\$ 2,978	\$ 121	\$ 112	\$ 149	\$ 1,078	\$ 11,302

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2019									
	Canadian Banking	Caribbean Banking	Canadian Wealth Management	Global Asset Management	U.S. Wealth Management (including City National)	International Wealth Management	Insurance	Investor & Treasury Services	Capital Markets	Total
Balance at beginning of period	\$ 2,528	\$ 1,729	\$ 579	\$ 1,986	\$ 2,870	\$ 118	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$ 11,137
Acquisitions	27	—	—	—	71	—	—	—	—	98
Dispositions	—	—	—	(20)	—	—	—	—	—	(20)
Currency translations	—	(2)	—	19	2	2	—	—	—	21
Balance at end of period	\$ 2,555	\$ 1,727	\$ 579	\$ 1,985	\$ 2,943	\$ 120	\$ 112	\$ 148	\$ 1,067	\$ 11,236

We perform our annual impairment test by comparing the carrying amount of each CGU to its recoverable amount. The recoverable amount of a CGU is represented by its value in use, except in circumstances where the carrying amount of a CGU exceeds its value in use. In such cases, the greater of the CGU's fair value less costs of disposal and its value in use is the recoverable amount. Our annual impairment test is performed as at August 1.

The environment is rapidly evolving and as a result, our economic outlook has a higher than usual degree of uncertainty, which may, in future periods, materially change the expected future cash flows of our CGUs and result in an impairment charge. Actual experience may differ materially from current expectations, including in relation to the duration and severity of the economic contraction and the ultimate timing and extent of a future recovery.

In our 2020 and 2019 annual impairment tests, the recoverable amounts of our Caribbean Banking and International Wealth Management CGUs were based on their fair value less costs of disposal. The recoverable amounts of all other CGUs tested were based on their value in use.

Value in use

We calculate value in use using a five-year discounted cash flow method. Future cash flows are based on financial plans agreed by management, estimated based on forecast results, business initiatives, capital required to support future cash flows and returns to shareholders. Key drivers of future cash flows include net interest margins and average interest-earning assets. The values assigned to these drivers over the forecast period are based on past experience, external and internal economic forecasts, and management's expectations of the impact of economic conditions on our financial results. Beyond the initial cash flow projection period, cash flows are assumed to increase at a constant rate using a nominal long-term growth rate (terminal growth rate), with the exception of our U.S. Wealth Management (including City National) CGU where we applied a mid-term growth rate consistent with our growth expectations for this business, reverting to the terminal growth rate after 10 years. Terminal growth rates are based on the current market assessment of gross domestic product and inflation for the countries within which the CGU operates. The discount rates used to determine the present value of each CGU's projected future cash flows are based on the bank-wide cost of capital, adjusted for the risks to which each CGU is exposed. CGU-specific risks include: country risk, business/operational risk, geographic risk (including political risk, devaluation risk, and government regulation), currency risk, and price risk (including product pricing risk and inflation).

As a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amounts of certain CGUs, including Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National), which are more sensitive to economic uncertainties, including interest rate movements, have declined, but continue to exceed carrying amounts despite impacts from the COVID-19 pandemic.

The estimation of value in use involves significant judgment in the determination of inputs to the discounted cash flow model and is most sensitive to changes in future cash flows, discount rates and terminal growth rates applied to cash flows beyond the forecast period. The sensitivity of the value in use to key inputs and assumptions used was tested by recalculating the recoverable amount using reasonably possible changes to those parameters. The post-tax discount rates were increased by 1%, terminal growth rates were decreased by 1%, and future cash flows were reduced by 10%. As at August 1, 2020, no reasonably possible change in an individual key input or assumption, as described, would result in a CGU's carrying amount exceeding its recoverable amount based on value in use.

The terminal growth rates and pre-tax discount rates used in our discounted cash flow models are summarized below.

	As at			
	August 1, 2020		August 1, 2019	
	Discount rate (1)	Terminal growth rate	Discount rate (1)	Terminal growth rate
Group of cash generating units				
Canadian Banking	9.5%	3.0%	10.2%	3.0%
Caribbean Banking	11.4	3.7	11.9	4.2
Canadian Wealth Management	10.4	3.0	11.2	3.0
Global Asset Management	10.5	3.0	11.1	3.0
U.S. Wealth Management (including City National)	10.7	3.0	11.2	3.0
International Wealth Management (2)	n.m.	n.m.	n.m.	n.m.
Insurance	10.2	3.0	11.0	3.0
Investor & Treasury Services	10.2	3.0	10.9	3.0
Capital Markets	12.0	3.0	11.8	3.0

(1) Pre-tax discount rates are determined implicitly based on post-tax discount rates.

(2) The recoverable amount for our International Wealth Management CGU is determined using a multiples-based approach.
n.m. not meaningful

Fair value less costs of disposal – Caribbean Banking

For our Caribbean Banking CGU, we calculated fair value less costs of disposal using a discounted cash flow method that projects future cash flows over a 5-year period. We also considered reasonably possible alternative scenarios, including market comparable transactions, which yielded valuations ranging from an immaterial surplus to an immaterial deficit. Cash flows are based on management forecasts, adjusted to approximate the considerations of a prospective third-party buyer. Cash flows beyond the initial 5-year period are assumed to increase at a constant rate using a nominal long-term growth rate. Future cash flows, terminal growth rates, and discount rates are based on the same factors noted above. This fair value measurement is categorized as level 3 in the fair value hierarchy as certain significant inputs are not observable. We use significant judgment to determine inputs to the discounted cash flow model which are most sensitive to changes in future cash flows, discount rates and terminal growth rates applied to cash flows beyond the forecast period. The sensitivity of the fair value less costs of disposal to key inputs and assumptions was tested by recalculating the recoverable amount using reasonably possible change to those parameters.

As a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amount of our Caribbean Banking CGU has declined. As at August 1, 2020, the recoverable amount of our Caribbean Banking CGU, based on fair value less costs of disposal, approximates its carrying amount (August 1, 2019 – the fair value less costs of disposal was 126% of its carrying amount). In determining the recoverable amount, forecast future cash flows were discounted using a pre-tax rate of 11.4% (August 1, 2019 – 11.9%), reflecting a lower interest rate environment, and the terminal growth rate used was 3.7% (August 1, 2019 – 4.2%), reflecting uncertainty due to the pandemic. A 50 bps change in the discount rate would increase and decrease the recoverable amount by \$335 million and \$288 million, respectively. A 50 bps change in the terminal growth rate would increase and decrease the recoverable amount by \$266 million and \$228 million, respectively. A reduction in the forecasted cash flows of 10% per annum would reduce the recoverable amount by \$392 million. Changes in these assumptions have been applied holding other individual factors constant. However, changes in one factor may be magnified or offset by related changes in other assumptions as impacts to the recoverable amount are highly interdependent and changes in assumptions may not have a linear effect on the recoverable amount of the CGU. In aggregate, the range of reasonably possible outcomes would not materially affect the recoverable amount of the CGU.

Fair value less costs of disposal – International Wealth Management

For our International Wealth Management CGU, we calculated fair value less costs of disposal using a multiples-based approach. Each business within the CGU was valued using either a Price-to-assets-under-administration (P/AUA) or Price-to-revenue (P/Rev) multiple, as appropriate, to reflect the considerations of a prospective third-party buyer. In 2020, we applied a P/AUA multiple of 2.25x to AUA as at August 1 (August 1, 2019 – 2.25x) and a P/Rev multiple of 2.5x (August 1, 2019 – 2.5x) to revenue for the 12 months preceding the testing date. These multiples represent our best estimate from a range of reasonably possible inputs based on precedent transactions for comparable businesses. This fair value measurement is categorized as level 3 in the fair value hierarchy as certain significant inputs are not observable.

The estimation of fair value less costs of disposal involves significant judgment in the determination of the appropriate valuation approach and inputs and is most sensitive to changes in the P/AUA and P/Rev multiples. The sensitivity of the fair value less costs of disposal to key inputs was tested by reducing each multiple to the low end of the range of reasonably possible inputs considered. As at August 1, 2020, no reasonably possible change in an individual key input or assumption, as described, would result in the CGU's carrying amount exceeding its recoverable amount based on fair value less costs of disposal.

Note 10 Goodwill and other intangible assets (continued)**Other intangible assets**

	For the year ended October 31, 2020					
	Internally generated software	Other software	Core deposit intangibles	Customer list and relationships	In process software	Total
(Millions of Canadian dollars)						
Gross carrying amount						
Balance at beginning of period	\$ 6,941	\$ 1,684	\$ 1,567	\$ 1,773	\$ 1,240	\$ 13,205
Additions	54	47	–	143	1,157	1,401
Acquisitions through business combinations	–	6	–	10	–	16
Transfers	936	193	–	–	(1,129)	–
Dispositions	(149)	(13)	–	–	(4)	(166)
Impairment losses	(116)	(4)	–	–	(10)	(130)
Currency translations	20	7	19	13	8	67
Other changes	(10)	(19)	–	(23)	(21)	(73)
Balance at end of period	\$ 7,676	\$ 1,901	\$ 1,586	\$ 1,916	\$ 1,241	\$ 14,320
Accumulated amortization						
Balance at beginning of period	\$ (5,256)	\$ (1,357)	\$ (627)	\$ (1,291)	\$ –	\$ (8,531)
Amortization charge for the year	(855)	(144)	(160)	(114)	–	(1,273)
Dispositions	147	12	–	–	–	159
Impairment losses	88	–	–	–	–	88
Currency translations	(14)	(6)	(6)	(9)	–	(35)
Other changes	6	(5)	–	23	–	24
Balance at end of period	\$ (5,884)	\$ (1,500)	\$ (793)	\$ (1,391)	\$ –	\$ (9,568)
Net balance at end of period	\$ 1,792	\$ 401	\$ 793	\$ 525	\$ 1,241	\$ 4,752

	For the year ended October 31, 2019					
	Internally generated software	Other software	Core deposit intangibles	Customer list and relationships	In process software	Total
(Millions of Canadian dollars)						
Gross carrying amount						
Balance at beginning of period	\$ 5,984	\$ 1,582	\$ 1,750	\$ 1,768	\$ 1,146	\$ 12,230
Additions	42	49	–	–	1,184	1,275
Acquisitions through business combinations	–	16	–	6	–	22
Transfers	1,009	42	–	–	(1,051)	–
Dispositions	–	(1)	–	–	–	(1)
Impairment losses	(94)	(6)	–	–	(42)	(142)
Currency translations	–	1	1	7	(2)	7
Other changes	–	1	(184)	(8)	5	(186)
Balance at end of period	\$ 6,941	\$ 1,684	\$ 1,567	\$ 1,773	\$ 1,240	\$ 13,205
Accumulated amortization						
Balance at beginning of period	\$ (4,501)	\$ (1,226)	\$ (654)	\$ (1,162)	\$ –	\$ (7,543)
Amortization charge for the year	(793)	(121)	(159)	(124)	–	(1,197)
Dispositions	–	–	–	–	–	–
Impairment losses	30	2	–	–	–	32
Currency translations	(1)	(1)	1	(6)	–	(7)
Other changes	9	(11)	185	1	–	184
Balance at end of period	\$ (5,256)	\$ (1,357)	\$ (627)	\$ (1,291)	\$ –	\$ (8,531)
Net balance at end of period	\$ 1,685	\$ 327	\$ 940	\$ 482	\$ 1,240	\$ 4,674

Note 11 Significant dispositions**Wealth Management**

On October 30, 2019, we completed the sale of our private debt Global Asset Management business in the United Kingdom to Dyal Capital Partners. As a result of the transaction, we recorded a pre-tax gain of \$142 million in Non-interest income – Other (\$134 million after-tax). The assets, liabilities and equity that were included in the disposal group are not significant.

Note 12 Joint ventures and associated companies

The following table summarizes the carrying value of our interests in joint ventures and associated companies accounted for under the equity method as well as our share of the income of those entities.

	joint ventures		Associated companies	
	As at and for the year ended			
(Millions of Canadian dollars)	October 31 2020	October 31 2019	October 31 2020	October 31 2019
Carrying amount	\$ 193	\$ 178	\$ 459	\$ 474
Share of:				
Net income	\$ 87	\$ 107	\$ (10)	\$ (31)

We do not have any joint ventures or associated companies that are individually material to our financial results.

During the year ended October 31, 2020, we recognized impairment losses of \$4 million with respect to our interests in joint ventures and associated companies (October 31, 2019 – impairment losses of \$2 million).

Certain of our subsidiaries, joint ventures and associates are subject to regulatory requirements of the jurisdictions in which they operate. When these subsidiaries, joint ventures and associates are subject to such requirements, they may be restricted from transferring to us our share of their assets in the form of cash dividends, loans or advances. As at October 31, 2020, restricted net assets of these subsidiaries, joint ventures and associates were \$37.7 billion (October 31, 2019 – \$34.9 billion).

Note 13 Other assets

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Accounts receivable and prepaids	\$ 4,600	\$ 4,569
Accrued interest receivable	2,362	2,866
Cash collateral	18,119	15,629
Commodity trading receivables	4,104	4,232
Deferred income tax asset	2,579	1,989
Employee benefit assets	143	147
Insurance-related assets		
Collateral loans	801	926
Policy loans	97	95
Reinsurance assets	949	748
Other	93	78
Investments in joint ventures and associates	652	652
Margin deposits	9,816	5,688
Precious metals	2,371	416
Receivable from brokers, dealers and clients	2,077	2,511
Taxes receivable	5,487	5,553
Other	4,671	2,974
	\$ 58,921	\$ 49,073

Note 14 Deposits

(Millions of Canadian dollars)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Demand (1)	Notice (2)	Term (3)	Total	Demand (1)	Notice (2)	Term (3)	Total
Personal	\$ 182,745	\$ 61,761	\$ 98,546	\$ 343,052	\$ 143,958	\$ 49,806	\$ 100,968	\$ 294,732
Business and government	315,472	16,585	292,254	624,311	253,113	13,867	298,502	565,482
Bank	12,502	956	31,064	44,522	8,363	920	16,508	25,791
	\$ 510,719	\$ 79,302	\$ 421,864	\$ 1,011,885	\$ 405,434	\$ 64,593	\$ 415,978	\$ 886,005
Non-interest-bearing (4)								
Canada	\$ 123,402	\$ 7,390	\$ 368	\$ 131,160	\$ 93,163	\$ 5,692	\$ 137	\$ 98,992
United States	43,831	–	–	43,831	34,632	–	–	34,632
Europe (5)	654	–	–	654	760	–	–	760
Other International	7,372	–	–	7,372	5,225	5	–	5,230
Interest-bearing (4)								
Canada	287,046	19,036	310,492	616,574	228,386	15,306	333,118	576,810
United States	7,190	52,046	57,037	116,273	4,704	39,626	41,776	86,106
Europe (5)	33,810	830	37,250	71,890	33,073	825	30,090	63,988
Other International	7,414	–	16,717	24,131	5,491	3,139	10,857	19,487
	\$ 510,719	\$ 79,302	\$ 421,864	\$ 1,011,885	\$ 405,434	\$ 64,593	\$ 415,978	\$ 886,005

(1) Demand deposits are deposits for which we do not have the right to require notice of withdrawal, which include both savings and chequing accounts.

(2) Notice deposits are deposits for which we can legally require notice of withdrawal. These deposits are primarily savings accounts.

(3) Term deposits are deposits payable on a fixed date, and include term deposits, guaranteed investment certificates and similar instruments.

(4) The geographical splits of the deposits are based on the point of origin of the deposits and where the revenue is recognized. As at October 31, 2020, deposits denominated in U.S. dollars, British pounds, Euro and other foreign currencies were \$147 billion, \$12 billion, \$47 billion and \$33 billion, respectively (October 31, 2019 – \$321 billion, \$23 billion, \$45 billion and \$31 billion, respectively).

(5) Europe includes the United Kingdom, Luxembourg, the Channel Islands, France and Italy.

Contractual maturities of term deposits

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Within 1 year:		
less than 3 months	\$ 121,144	\$ 94,585
3 to 6 months	62,892	62,814
6 to 12 months	78,676	92,507
1 to 2 years	32,950	50,055
2 to 3 years	42,201	31,852
3 to 4 years	26,749	31,373
4 to 5 years	24,651	21,130
Over 5 years	32,601	31,662
	\$ 421,864	\$ 415,978
Aggregate amount of term deposits in denominations of one hundred thousand dollars or more	\$ 388,000	\$ 379,000

Note 14 Deposits (continued)**Average deposit balances and average rates of interest**

	For the year ended			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Average balances	Average rates	Average balances	Average rates
(Millions of Canadian dollars, except for percentage amounts)				
Canada	\$ 725,021	1.02%	\$ 650,555	1.60%
United States	144,011	0.46	129,903	1.17
Europe	73,317	0.76	63,333	1.15
Other International	28,283	0.68	26,290	1.20
	\$ 970,632	0.90%	\$ 870,081	1.49%

Note 15 Insurance**Risk management**

Insurance risk is the risk of fluctuations in the timing, frequency or severity of insured events, relative to our expectations at the time of underwriting. We do not have a high degree of concentration risk due to our geographic diversity and business mix. Concentration risk is not a major concern for the life and health insurance business as it does not have a material level of region-specific characteristics. Reinsurance is also used for a majority of our businesses to lower our risk profile and limit the liability on a single claim. We manage underwriting and pricing risk through the use of underwriting guidelines which detail the class, nature and type of business that may be accepted, pricing policies by product line and centralized control of policy wordings. The risk that claims are handled or paid inappropriately is mitigated by using a range of information technology (IT) system controls and manual processes conducted by experienced staff. These, together with a range of detailed policies and procedures, ensure that all claims are handled in a timely, appropriate and accurate manner.

Reinsurance

In the ordinary course of business, our insurance operations reinsure risks to other insurance and reinsurance companies in order to lower our risk profile, limit loss exposure to large risks, and provide additional capacity for future growth. These ceding reinsurance arrangements do not relieve our insurance subsidiaries from our direct obligations to the insured parties. We evaluate the financial condition of the reinsurers and monitor our concentrations of credit risks to minimize our exposure to losses from reinsurer insolvency. Reinsurance amounts (ceded premiums) included in Non-interest income are shown in the table below.

Net premiums and claims

	For the year ended	
	October 31, 2020	October 31, 2019
(Millions of Canadian dollars)		
Gross premiums	\$ 4,515	\$ 4,209
Premiums ceded to reinsurers	(249)	(225)
Net premiums	\$ 4,266	\$ 3,984
Gross claims and benefits (1)	\$ 3,700	\$ 3,990
Reinsurers' share of claims and benefits	(316)	(241)
Net claims	\$ 3,384	\$ 3,749

(1) Includes the change in fair value of investments backing our policyholder liabilities, which are largely offset in revenue.

Insurance claims and policy benefit liabilities

All actuarial assumptions are set in conjunction with Canadian Institute of Actuaries Standards of Practice and OSFI requirements. The assumptions that have the greatest effect on the measurement of insurance liabilities, the processes used to determine them and the assumptions used as at October 31, 2020 are as follows:

Mortality and morbidity – Mortality estimates are based on standard industry insured mortality tables, adjusted where appropriate to reflect our own experience. Morbidity assumptions are made with respect to the rates of claim incidence and claim termination for health insurance policies and are based on a combination of industry and our own experience.

Future investment yield – Assumptions are based on the current yield rate, a reinvestment assumption and an allowance for future credit losses for each line of business, and are developed using interest rate scenario testing, including prescribed scenarios for determination of minimum liabilities as set out in the actuarial standards.

Policyholder behaviour – Under certain policies, the policyholder has a contractual right to change benefits and premiums, as well as convert policies to permanent forms of insurance. All policyholders have the right to terminate their policies through lapse. Lapses represent the termination of policies due to non-payment of premiums. Lapse assumptions are primarily based on our recent experience adjusted for emerging industry experience where applicable.

Significant insurance assumptions

	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Life Insurance		
Canadian Insurance		
Mortality rates (1)	0.11%	0.12%
Morbidity rates (2)	1.81	1.82
Future reinvestment yield (3)	3.82	3.69
Lapse rates (4)	0.50	0.50
International Insurance		
Mortality rates (1)	0.66	0.57
Future reinvestment yield (3)	3.05	3.06

(1) Average annual death rate for the largest portfolio of insured policies.

(2) Average net termination rate for the individual and group disability insurance portfolio.

(3) Ultimate reinvestment rate of the insurance operations.

(4) Ultimate policy termination rate (lapse rate) for the largest permanent life insurance portfolio that relies on higher termination rate to maintain its profitability (lapse-supported policies).

Insurance claims and policy benefit liabilities

The following table summarizes our gross and reinsurers' share of insurance liabilities at the end of the year.

	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
(Millions of Canadian dollars)	Gross	Ceded	Net	Gross	Ceded	Net
Life insurance policyholder liabilities						
Life, health and annuity	\$ 12,089	\$ 752	\$ 11,337	\$ 11,339	\$ 601	\$ 10,738
Investment contracts (1)	34	—	34	38	—	38
	\$ 12,123	\$ 752	\$ 11,371	\$ 11,377	\$ 601	\$ 10,776
Non-life insurance policyholder liabilities						
Unearned premium provision (1)	\$ 7	\$ —	\$ 7	\$ 29	\$ —	\$ 29
Unpaid claims provision	126	31	95	62	2	60
	\$ 133	\$ 31	\$ 102	\$ 91	\$ 2	\$ 89
	\$ 12,256	\$ 783	\$ 11,473	\$ 11,468	\$ 603	\$ 10,865

(1) Insurance liabilities for investment contracts and unearned premium provision are reported in Other liabilities on the Consolidated Balance Sheets.

Reconciliation of life insurance policyholder liabilities

	For the year ended					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
(Millions of Canadian dollars)	Gross	Ceded	Net	Gross	Ceded	Net
Balances at beginning of period	\$ 11,377	\$ 601	\$ 10,776	\$ 10,024	\$ 493	\$ 9,531
New and in-force policies (1)	735	141	594	1,479	103	1,376
Changes in assumption and methodology	15	10	5	(122)	5	(127)
Net change in investment contracts	(4)	—	(4)	(4)	—	(4)
Balances at end of period	\$ 12,123	\$ 752	\$ 11,371	\$ 11,377	\$ 601	\$ 10,776

(1) Includes the change in fair value of investments backing our policyholder liabilities.

The net increase in life insurance claims and policy benefit liabilities over the prior year was attributable to business growth and market movements on assets backing life and health liabilities, partially offset by asset and liability matching activities. During the year, we reviewed all key actuarial methods and assumptions which are used in determining the policy benefit liabilities resulting in a \$5 million net increase to insurance liabilities comprised of: (i) a decrease of \$74 million for revised actuarial reserves on interest rate risk; (ii) a decrease of \$75 million due to reinsurance contract renegotiations; (iii) an increase of \$137 million arising from insurance risk related assumption updates largely due to mortality, morbidity, and expense assumptions; and (iv) an increase of \$17 million due to valuation system and data changes.

Note 15 Insurance (continued)**Sensitivity analysis**

The following table presents the sensitivity of the level of insurance policyholder liabilities disclosed in this note to reasonably possible changes in the actuarial assumptions used to calculate them. The percentage change in each variable is applied to a range of existing actuarial modelling assumptions to derive the possible impact on net income. The analyses are performed where a single assumption is changed while holding other assumptions constant, which is unlikely to occur in practice.

(Millions of Canadian dollars, except for percentage amounts)	Change in variable	Net income impact for the year ended	
		October 31, 2020	October 31, 2019
Increase in market interest rates (1)	1%	\$ 5	\$ (7)
Decrease in market interest rates (1)	1	(11)	4
Increase in equity market values (2)	10	8	1
Decrease in equity market values (2)	10	(22)	(3)
Increase in maintenance expenses (3)	5	(37)	(33)
Life Insurance (3)			
Adverse change in annuitant mortality rates	2	(278)	(205)
Adverse change in assurance mortality rates	2	(70)	(60)
Adverse change in morbidity rates	5	(219)	(205)
Adverse change in lapse rates	10	(252)	(247)

- (1) Sensitivities for market interest rates include the expected current period earnings impact of a 100 basis points shift in the yield curve by increasing the current reinvestment rates while holding the assumed ultimate rates constant. The sensitivity consists of both the impact on assumed reinvestment rates in the actuarial liabilities and any changes in fair value of assets and liabilities from the yield curve shift.
- (2) Sensitivities to changes in equity market values are composed of the expected current period earnings impact from differences in the changes in fair value of the equity asset holdings and the partially offsetting impact on the actuarial liabilities.
- (3) Sensitivities to changes in maintenance expenses and life insurance actuarial assumptions include the expected current period earnings impact from recognition of increased liabilities due to an adverse change in the given assumption over the lifetime of all in-force policies.

Note 16 Segregated funds

We offer certain individual variable insurance contracts that allow policyholders to invest in segregated funds. The investment returns on these funds are passed directly to the policyholders. Amounts invested are at the policyholders' risk, except where the policyholders have selected options providing maturity and death benefit guarantees. A liability for the guarantees is recorded in Insurance claims and policy benefit liabilities.

Segregated funds net assets are recorded at fair value. All of our segregated funds net assets are categorized as Level 1 in the fair value hierarchy. The fair value of the segregated funds liabilities is equal to the fair value of the segregated funds net assets. Segregated funds net assets and segregated funds liabilities are presented on separate lines on the Consolidated Balance Sheets. The following tables present the composition of net assets and the changes in net assets for the year.

Segregated funds net assets

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Cash	\$ 35	\$ 31
Investment in mutual funds	1,886	1,631
Other assets (liabilities) net	1	1
	\$ 1,922	\$ 1,663

Changes in net assets

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Net assets at beginning of period	\$ 1,663	\$ 1,368
Additions (deductions):		
Deposits from policyholders	724	557
Net realized and unrealized gains (losses)	12	124
Interest and dividends	49	39
Payment to policyholders	(479)	(386)
Management and administrative fees	(47)	(39)
Net assets at end of period	\$ 1,922	\$ 1,663

Note 17 Employee benefits – Pension and other post-employment benefits**Plan characteristics**

We sponsor a number of programs that provide pension and post-employment benefits to eligible employees. The majority of beneficiaries of the pension plans are located in Canada and other beneficiaries of the pension plans are primarily located in the U.K. and the Caribbean. The pension arrangements including investment, plan benefits and funding decisions are governed by local pension committees or trustees, who are legally segregated from the Bank, or management. Significant plan changes require the approval of the Board of Directors.

Our defined benefit pension plans provide pension benefits based on years of service, contributions and average earnings at retirement. Our primary defined benefit pension plans are closed to new members. New employees are generally eligible to join defined contribution pension plans. The specific features of these plans vary by location. We also provide supplemental non-registered (non-qualified) pension plans for certain executives and senior management that are typically unfunded or partially funded.

Our defined contribution pension plans provide pension benefits based on accumulated employee and Bank contributions. The Bank contributions are based on a percentage of an employee's annual earnings and a portion of the Bank contribution may be dependent on the amount being contributed by the employee and their years of service.

Our primary other post-employment benefit plans provide health, dental, disability and life insurance coverage and cover a number of current and retired employees who are mainly located in Canada. These plans are unfunded unless required by legislation.

We measure our benefit obligations and pension assets as at October 31 each year. All plans are valued using the projected unit-credit method. We fund our registered defined benefit pension plans in accordance with actuarially determined amounts required to satisfy employee benefit obligations under current pension regulations. For our principal pension plan, the most recent funding actuarial valuation was completed on January 1, 2020, and the next valuation will be completed on January 1, 2021.

For the year ended October 31, 2020, total contributions to our pension plans (defined benefit and defined contribution plans) and other post-employment benefit plans were \$1,024 million and \$63 million (October 31, 2019 – \$551 million and \$72 million), respectively. For 2021, total contributions to our pension plans and other post-employment benefit plans are expected to be \$455 million and \$82 million, respectively.

Risks

By their design, the defined benefit pension and other post-employment benefit plans expose the Bank to various risks such as investment performance, reductions in discount rates used to value the obligations, increased longevity of plan members, future inflation levels impacting future salary increases as well as future increases in healthcare costs. These risks will reduce over time due to the membership closure of our primary defined benefit pension plans and migration to defined contribution pension plans.

The following table presents the financial position related to all of our material pension and other post-employment benefit plans worldwide, including executive retirement arrangements.

	As at			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Defined benefit pension plans	Other post-employment benefit plans	Defined benefit pension plans	Other post-employment benefit plans
(Millions of Canadian dollars)				
Canada				
Fair value of plan assets	\$ 15,044	\$ –	\$ 13,679	\$ 1
Present value of defined benefit obligation	15,408	1,863	14,428	1,722
Net surplus (deficit)	\$ (364)	\$ (1,863)	\$ (749)	\$ (1,721)
International				
Fair value of plan assets	\$ 980	\$ –	\$ 1,106	\$ –
Present value of defined benefit obligation	943	90	1,089	98
Net surplus (deficit)	\$ 37	\$ (90)	\$ 17	\$ (98)
Total				
Fair value of plan assets	\$ 16,024	\$ –	\$ 14,785	\$ 1
Present value of defined benefit obligation	16,351	1,953	15,517	1,820
Total net surplus (deficit)	\$ (327)	\$ (1,953)	\$ (732)	\$ (1,819)
Effect of asset ceiling	(1)	–	(1)	–
Total net surplus (deficit), net of effect of asset ceiling	\$ (328)	\$ (1,953)	\$ (733)	\$ (1,819)
Amounts recognized in our Consolidated Balance Sheets				
Employee benefit assets	\$ 143	\$ –	\$ 147	\$ –
Employee benefit liabilities	(471)	(1,953)	(880)	(1,819)
Total net surplus (deficit), net of effect of asset ceiling	\$ (328)	\$ (1,953)	\$ (733)	\$ (1,819)

Note 17 Employee benefits – Pension and other post-employment benefits (continued)

The following table presents an analysis of the movement in the financial position related to all of our material pension and other post-employment benefit plans worldwide, including executive retirement arrangements.

	As at or for the year ended			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Defined benefit pension plans (i)	Other post-employment benefit plans	Defined benefit pension plans (i)	Other post-employment benefit plans
(Millions of Canadian dollars)				
Fair value of plan assets at beginning of period	\$ 14,785	\$ 1	\$ 13,564	\$ 1
Interest income	447	–	532	–
Remeasurements				
Return on plan assets (excluding interest income)	793	–	910	–
Change in foreign currency exchange rate	17	–	9	–
Contributions – Employer	798	63	339	72
Contributions – Plan participant	48	19	48	18
Payments	(623)	(83)	(601)	(90)
Payments – amount paid in respect of settlements	(223)	–	–	–
Other	(18)	–	(16)	–
Fair value of plan assets at end of period	\$ 16,024	\$ –	\$ 14,785	\$ 1
Benefit obligation at beginning of period	\$ 15,517	\$ 1,820	\$ 13,218	\$ 1,622
Current service costs	367	46	297	39
Past service costs	–	(12)	1	–
Gains and losses on settlements	(5)	–	–	–
Interest expense	462	59	510	65
Remeasurements				
Actuarial losses (gains) from demographic assumptions	–	(5)	(4)	(7)
Actuarial losses (gains) from financial assumptions	791	68	1,977	196
Actuarial losses (gains) from experience adjustments	2	38	59	(23)
Change in foreign currency exchange rate	15	3	12	–
Contributions – Plan participant	48	19	48	18
Payments	(623)	(83)	(601)	(90)
Payments – amount paid in respect of settlements	(223)	–	–	–
Benefit obligation at end of period	\$ 16,351	\$ 1,953	\$ 15,517	\$ 1,820
Unfunded obligation	\$ 30	\$ 1,792	\$ 29	\$ 1,671
Wholly or partly funded obligation	16,321	161	15,488	149
Total benefit obligation	\$ 16,351	\$ 1,953	\$ 15,517	\$ 1,820

(i) For pension plans with funding deficits, the benefit obligations and fair value of plan assets as at October 31, 2020 were \$15,054 million and \$14,580 million, respectively (October 31, 2019 – \$14,529 million and \$13,449 million, respectively).

Pension and other post-employment benefit expense

The following table presents the composition of our pension and other post-employment benefit expense related to our material pension and other post-employment benefit plans worldwide.

	For the year ended			
	Pension plans		Other post-employment benefit plans	
	October 31, 2020	October 31, 2019	October 31, 2020	October 31, 2019
(Millions of Canadian dollars)				
Current service costs	\$ 367	\$ 297	\$ 46	\$ 39
Past service costs	–	1	(12)	–
Gains and losses on settlements	(5)	–	–	–
Net interest expense (income)	15	(22)	59	65
Remeasurements of other long term benefits	–	–	13	13
Administrative expense	18	16	–	–
Defined benefit pension expense	\$ 395	\$ 292	\$ 106	\$ 117
Defined contribution pension expense	226	212	–	–
	\$ 621	\$ 504	\$ 106	\$ 117

Service costs for the year ended October 31, 2020 totalled \$363 million (October 31, 2019 – \$293 million) for pension plans in Canada and \$4 million (October 31, 2019 – \$5 million) for International plans. Net interest expense (income) for the year ended October 31, 2020 totalled \$14 million (October 31, 2019 – \$(21) million) for pension plans in Canada and \$1 million (October 31, 2019 – \$(1) million) for International plans.

Pension and other post-employment benefit remeasurements

The following table presents the composition of our remeasurements recorded in OCI related to our material pension and other post-employment benefit plans worldwide.

	For the year ended			
	Defined benefit pension plans		Other post-employment benefit plans	
	October 31 2020	October 31 2019	October 31 2020	October 31 2019
(Millions of Canadian dollars)				
Actuarial (gains) losses:				
A Changes in demographic assumptions	\$ -	\$ (4)	\$ (14)	\$ (11)
Changes in financial assumptions	791	1,977	62	186
Experience adjustments	2	59	40	(22)
Return on plan assets (excluding interest based on discount rate)	(793)	(910)	-	-
	\$ -	\$ 1,122	\$ 88	\$ 153

Remeasurements recorded in OCI for the year ended October 31, 2020 were gains of \$7 million (October 31, 2019 – losses of \$1,102 million) for pension plans in Canada and losses of \$7 million (October 31, 2019 – losses of \$20 million) for International plans.

Investment policy and strategies

Defined benefit pension plan assets are invested prudently in order to meet our longer-term pension obligations. The pension plans' investment strategy is to hold a diversified mix of investments by asset class and geographic location in order to reduce investment-specific risk to the funded status while maximizing the expected returns to meet pension obligations. Investment of the plan's assets follows an asset/liability framework as investment is conducted with careful consideration of the pension obligation's sensitivity to interest rates and credit spreads which are key risk factors impacting the obligation's value. Factors taken into consideration in developing our asset mix include but are not limited to the following:

- the nature of the underlying benefit obligations, including the duration and term profile of the liabilities;
- the member demographics, including expectations for normal retirements, terminations, and deaths;
- the financial position of the pension plans;
- the diversification benefits obtained by the inclusion of multiple asset classes; and
- expected asset returns, including asset and liability correlations, along with liquidity requirements of the plan.

To implement our asset mix policy, we may invest in debt securities, equity securities, and alternative investments. Our holdings in certain investments, including common shares, debt securities rated lower than BBB and residential and commercial mortgages, cannot exceed a defined percentage of the market value of our defined benefit pension plan assets. We may use derivative instruments as either a synthetic investment to more efficiently replicate the performance of an underlying security, or as a hedge against financial risks within the plan. To manage our credit risk exposure, where derivative instruments are not centrally cleared, counterparties are required to meet minimum credit ratings and enter into collateral agreements.

Our defined benefit pension plan assets are primarily comprised of debt and equity securities and alternative investments. Our equity securities generally have unadjusted quoted market prices in an active market (Level 1) and our debt securities generally have quoted market prices for similar assets in an active market (Level 2). Alternative investments and other includes cash, hedge funds, and private fund investments including infrastructure, real estate leases, private equity and debt. In the case of private fund investments, no quoted market prices are usually available (Level 2 or Level 3). These fund assets are either valued by an independent valuator or priced using observable market inputs.

During the year ended October 31, 2020, the management of defined benefit pension investments focused on increased allocation to risk reducing investments and strategies, maintaining diversification, while striving to improve expected investment return. Over time, an increasing allocation to debt securities and a debt security overlay program are being used to reduce asset/liability duration mismatch and hence variability of the plan's funded status due to interest rate movement. Longer maturity debt securities, given their price sensitivity to movements in interest rates, are considered to be a good economic hedge to risk associated with the plan's liabilities, which are discounted using predominantly long maturity bond interest rates as inputs.

Asset allocation of defined benefit pension plans (1)

	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	Fair value	Percentage of total plan assets	Quoted in active market (2)	Fair value	Percentage of total plan assets	Quoted in active market (2)
(Millions of Canadian dollars, except percentages)						
Equity securities						
Domestic	\$ 1,493	9%	100%	\$ 1,544	10%	100%
Foreign	3,859	24	100	3,215	22	98
Debt securities						
Domestic government bonds	3,259	20	-	3,014	21	-
Foreign government bonds	81	1	-	396	3	-
Corporate and other bonds	3,701	23	-	3,458	23	-
Alternative investments and other	3,631	23	13	3,158	21	13
	\$ 16,024	100%	36%	\$ 14,785	100%	35%

(1) The asset allocation is based on the underlying investments held directly and indirectly through the funds as this is how we manage our investment policy and strategies.

(2) If our assessment of whether or not an asset was quoted in an active market was based on direct investments, 38% of our total plan assets would be classified as quoted in an active market (October 31, 2019 – 36%).

Note 17 Employee benefits – Pension and other post-employment benefits (continued)

The allocation of equity securities in our pension plans in Canada is 34% (October 31, 2019 – 33%) and that of our International plans is 20% (October 31, 2019 – 16%). The allocation of debt securities in our pension plans in Canada is 44% (October 31, 2019 – 47%) and that of our International plans is 42% (October 31, 2019 – 44%). The allocation of alternative investments and other in our pension plans in Canada is 22% (October 31, 2019 – 20%) and that of our International plans is 38% (October 31, 2019 – 40%).

As at October 31, 2020, the plan assets include 1 million (October 31, 2019 – 1 million) of our common shares with a fair value of \$96 million (October 31, 2019 – \$104 million) and \$32 million (October 31, 2019 – \$57 million) of our debt securities. For the year ended October 31, 2020, dividends received on our common shares held in the plan assets were \$4 million (October 31, 2019 – \$4 million).

Maturity profile

The following table presents the maturity profile of our defined benefit pension plan obligation.

	As at October 31, 2020		
	Canada	International	Total
(Millions of Canadian dollars, except participants and years)			
Number of plan participants	68,128	5,456	73,584
Actual benefit payments 2020	\$ 571	\$ 275	\$ 846
Benefits expected to be paid 2021	640	33	673
Benefits expected to be paid 2022	659	35	694
Benefits expected to be paid 2023	679	35	714
Benefits expected to be paid 2024	699	36	735
Benefits expected to be paid 2025	717	37	754
Benefits expected to be paid 2026-2030	3,821	186	4,007
Weighted average duration of defined benefit payments	16.1 years	21.4 years	16.4 years

Significant assumptions

Our methodologies to determine significant assumptions used in calculating the defined benefit pension and other post-employment benefit expense are as follows:

Discount rate

For the Canadian pension and other post-employment benefit plans, all future expected benefit payments at each measurement date are discounted at spot rates from a derived Canadian AA corporate bond yield curve. The derived curve is based on actual short and mid-maturity corporate AA rates and extrapolated longer term rates. The extrapolated corporate AA rates are derived from observed corporate A, corporate AA and provincial AA yields. For the International pension and other post-employment benefit plans, all future expected benefit payments at each measurement date are discounted at spot rates from a local AA corporate bond yield curve. Spot rates beyond 30 years are set to equal the 30-year spot rate. The discount rate is the equivalent single rate that produces the same discounted value as that determined using the entire discount curve. This valuation methodology does not rely on assumptions regarding reinvestment returns.

Rate of increase in future compensation

The assumptions for increases in future compensation are developed separately for each plan, where relevant. Each assumption is set based on the price inflation assumption and compensation policies in each market, as well as relevant local statutory and plan-specific requirements.

Healthcare cost trend rates

Healthcare cost calculations are based on both short and long term trend assumptions established using the plan's recent experience as well as market expectations.

Weighted average assumptions to determine benefit obligation

	As at			
	Defined benefit pension plans		Other post-employment benefit plans	
	October 31 2020	October 31 2019	October 31 2020	October 31 2019
Discount rate	2.7%	3.0%	3.0%	3.3%
Rate of increase in future compensation	3.3%	3.3%	n.a.	n.a.
Healthcare cost trend rates (1)				
– Medical	n.a.	n.a.	3.5%	3.5%
– Dental	n.a.	n.a.	3.1%	3.1%

(1) For our other post-employment benefit plans, the assumed trend rates used to measure the expected benefit costs of the defined benefit obligations are also the ultimate trend rates.
n.a. not applicable

Mortality assumptions

Mortality assumptions are significant in measuring our obligations under the defined benefit pension plans. These assumptions have been set based on country specific statistics. Future longevity improvements have been considered and included where appropriate. The following table summarizes the mortality assumptions used for material plans.

(In years)	As at							
	October 31, 2020				October 31, 2019			
	Life expectancy at 65 for a member currently at				Life expectancy at 65 for a member currently at			
	Age 65		Age 45		Age 65		Age 45	
	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female
Country								
Canada	23.8	24.1	24.7	25.1	23.7	24.1	24.7	25.0
United Kingdom	23.5	25.3	25.2	27.1	23.5	25.2	25.1	27.0

Sensitivity analysis

Assumptions adopted can have a significant effect on the value of the obligations for defined benefit pension and other post-employment benefit plans and are based on historical experience and market inputs. The increase (decrease) in obligation in the following table has been determined for key assumptions assuming all other assumptions are held constant. In practice, this is unlikely to occur, as changes in some of the assumptions may be correlated. The following table presents the sensitivity analysis of key assumptions for 2020.

(Millions of Canadian dollars)	Increase (decrease) in obligation	
	Defined benefit pension plans	Other post-employment benefit plans
Discount rate		
Impact of 100 bps increase in discount rate	\$ (2,364)	\$ (260)
Impact of 100 bps decrease in discount rate	3,052	332
Rate of increase in future compensation		
Impact of 50 bps increase in rate of increase in future compensation	63	–
Impact of 50 bps decrease in rate of increase in future compensation	(67)	–
Mortality rate		
Impact of an increase in longevity by one additional year	466	39
Healthcare cost trend rate		
Impact of 100 bps increase in healthcare cost trend rate	n.a.	75
Impact of 100 bps decrease in healthcare cost trend rate	n.a.	(63)

n.a. not applicable

Note 18 Other liabilities

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
Accounts payable and accrued expenses	\$ 1,500	\$ 1,598
Accrued interest payable	2,855	3,496
Cash collateral	19,433	16,195
Commodity liabilities	8,354	8,487
Deferred income	2,945	2,563
Deferred income taxes	52	82
Dividends payable	1,611	1,567
Employee benefit liabilities	2,424	2,699
Insurance related liabilities	341	387
Lease liabilities	5,357	49
Negotiable instruments	1,676	1,671
Payable to brokers, dealers and clients	5,108	3,241
Payroll and related compensation	7,476	7,416
Precious metals certificates	623	431
Provisions	618	581
Taxes payable	2,209	2,202
Other	7,249	5,472
	\$ 69,831	\$ 58,137

Note 19 Subordinated debentures

The debentures are unsecured obligations and are subordinated in right of payment to the claims of depositors and certain other creditors. The amounts presented below are net of our own holdings in these debentures, and include the impact of fair value hedges used for managing interest rate risk.

(Millions of Canadian dollars, except percentage and foreign currency)				As at	
Maturity	Earliest par value redemption date	Interest rate	Denominated in foreign currency (millions)	October 31, 2020	October 31, 2019
July 15, 2022		5.38%	US\$150	\$ 205	\$ 206
June 8, 2023		9.30%		110	110
December 6, 2024 ⁽¹⁾	December 6, 2019	2.99%		—	1,999
June 4, 2025 ^{(2), (3)}	June 4, 2020	2.48%		—	997
January 20, 2026 ⁽²⁾	January 20, 2021	3.31% ⁽⁴⁾		1,501	1,483
January 27, 2026 ⁽²⁾		4.65%	US\$1,500	2,148	2,023
September 29, 2026 ⁽²⁾	September 29, 2021	3.45% ⁽⁵⁾		1,017	1,009
November 1, 2027	November 1, 2022	4.75%	TTS300	59	59
July 25, 2029 ⁽²⁾	July 25, 2024	2.74% ⁽⁶⁾		1,559	1,486
December 23, 2029 ⁽²⁾	December 23, 2024	2.88% ⁽⁷⁾		1,578	—
June 30, 2030 ⁽²⁾	June 30, 2025	2.09% ⁽⁸⁾		1,247	—
October 1, 2083	Any interest payment date	⁽⁹⁾		224	224
June 29, 2085	Any interest payment date	⁽¹⁰⁾	US\$174	231	229
Deferred financing costs				\$ 9,879	\$ 9,825
				(12)	(10)
				\$ 9,867	\$ 9,815

The terms and conditions of the debentures are as follows:

- (1) On December 6, 2019, we redeemed all \$2,000 million of our outstanding 2.99% subordinated debentures due on December 6, 2024 for 100% of their principal amount plus interest accrued to, but excluding, the redemption date.
- (2) The notes include non-viability contingency capital (NVCC) provisions, necessary for the notes to qualify as Tier 2 regulatory capital under Basel III. NVCC provisions require the conversion of the instrument into a variable number of common shares in the event that OSFI deems the Bank non-viable or a federal or provincial government in Canada publicly announces that the Bank has accepted or agreed to accept a capital injection. In such an event, each note is convertible into common shares pursuant to an automatic conversion formula with a multiplier of 1.5 and a conversion price based on the greater of: (i) a floor price of \$5.00 and (ii) the current market price of our common shares based on the volume weighted average trading price of our common shares on the Toronto Stock Exchange. The number of shares issued is determined by dividing the par value of the note (including accrued and unpaid interest on such note) by the conversion price and then times the multiplier.
- (3) On June 4, 2020, we redeemed all \$1,000 million of our outstanding NVCC 2.48% subordinated debentures due on June 4, 2025 for 100% of their principal amount plus interest accrued to, but excluding, the redemption date.
- (4) Interest at stated interest rate until earliest par value redemption date, and thereafter at a rate of 2.35% above the 3-month CDOR.
- (5) Interest at stated interest rate until earliest par value redemption date, and thereafter at a rate of 1.12% above the 3-month CDOR.
- (6) Interest at stated interest rate until earliest par value redemption date, and thereafter at a rate of 0.98% above the 3-month CDOR.
- (7) Interest at stated interest rate until earliest par value redemption date, and thereafter at a rate of 0.89% above the 3-month CDOR.
- (8) Interest at stated interest rate until earliest par value redemption date, and thereafter at a rate of 1.31% above the 3-month CDOR.
- (9) Interest at a rate of 40 basis points above the 30-day Bankers' Acceptance rate.
- (10) Interest at a rate of 25 basis points above the U.S. dollar 3-month London Interbank Mean Rate (LIMEAN). In the event of a reduction of the annual dividend we declare on our common shares, the interest payable on the debentures is reduced pro rata to the dividend reduction and the interest reduction is payable with the proceeds from the sale of newly issued common shares.

All redemptions, cancellations and exchanges of subordinated debentures are subject to the consent and approval of OSFI, except for the debentures maturing July 15, 2022.

Maturity schedule

The aggregate maturities of subordinated debentures, based on the maturity dates under the terms of issue, are as follows:

(Millions of Canadian dollars)		As at
		October 31, 2020
Within 1 year	\$	—
1 to 5 years		315
5 to 10 years		9,109
Thereafter		455
	\$	9,879

Note 20 Equity

Share capital

Authorized share capital

Preferred – An unlimited number of First Preferred Shares and Second Preferred Shares without nominal or par value, issuable in series; the aggregate consideration for which all the First Preferred Shares and all the Second Preferred Shares that may be issued may not exceed \$20 billion and \$5 billion, respectively.

Common – An unlimited number of shares without nominal or par value may be issued.

Outstanding share capital

The following table details our common and preferred shares and other equity instruments outstanding.

	As at and for the year ended					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	Number of shares (thousands)	Amount	Dividends declared per share	Number of shares (thousands)	Amount	Dividends declared per share
<i>(Millions of Canadian dollars, except the number of shares and as otherwise noted)</i>						
Common shares issued						
Balance at beginning of period	1,430,678	\$ 17,645		1,439,029	\$ 17,635	
Issued in connection with share-based compensation plans ⁽¹⁾	1,043	80		1,900	136	
Purchased for cancellation ⁽²⁾	(7,860)	(97)		(10,251)	(126)	
Balance at end of period	1,423,861	\$ 17,628	\$ 4.29	1,430,678	\$ 17,645	\$ 4.07
Treasury – common shares						
Balance at beginning of period	(582)	\$ (58)		(235)	\$ (18)	
Purchases	(58,775)	(4,739)		(54,263)	(5,380)	
Sales	57,969	4,668		53,916	5,340	
Balance at end of period	(1,388)	\$ (129)		(582)	\$ (58)	
Common shares outstanding	1,422,473	\$ 17,499		1,430,096	\$ 17,587	
Preferred shares and other equity instruments issued						
First preferred ⁽¹⁾						
Non-cumulative, fixed rate						
Series W ⁽⁴⁾	–	\$ –	\$ 1.05	12,000	\$ 300	\$ 1.23
Series AA ⁽⁴⁾	–	–	0.95	12,000	300	1.11
Series AC ⁽⁴⁾	–	–	0.98	8,000	200	1.15
Series AE ⁽⁴⁾	–	–	0.96	10,000	250	1.13
Series AF ⁽⁴⁾	–	–	0.95	8,000	200	1.11
Series AG ⁽⁴⁾	–	–	0.96	10,000	250	1.13
Series BH	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
Series BI	6,000	150	1.23	6,000	150	1.23
Series BJ	6,000	150	1.31	6,000	150	1.31
Non-cumulative, 5-Year Rate Reset						
Series AZ	20,000	500	0.93	20,000	500	0.96
Series BB	20,000	500	0.91	20,000	500	0.96
Series BD	24,000	600	0.85	24,000	600	0.90
Series BF	12,000	300	0.90	12,000	300	0.90
Series BK	29,000	725	1.38	29,000	725	1.38
Series BM	30,000	750	1.38	30,000	750	1.38
Series BO	14,000	350	1.20	14,000	350	1.27
Non-cumulative, fixed rate/floating rate						
Series C-2 ⁽⁵⁾	15	23	US\$ 67.50	20	31	US\$ 67.50
Other equity instruments						
Limited recourse capital notes (LRCNs) ⁽⁶⁾						
Series 1 ⁽⁷⁾	1,750	1,750	4.50%	–	–	–
	168,765	\$ 5,948		227,020	\$ 5,706	
Treasury – preferred shares and other equity instruments						
Balance at beginning of period ⁽⁸⁾	34	\$ 1		114	\$ 3	
Purchases	(5,319)	(114)		(8,021)	(184)	
Sales	5,283	110		7,941	182	
Balance at end of period ⁽⁸⁾	(2)	\$ (3)		34	\$ 1	
Preferred shares and other equity instruments outstanding	168,763	\$ 5,945		227,054	\$ 5,707	

⁽¹⁾ Includes fair value adjustments to stock options of \$9 million (October 31, 2019 – \$29 million).⁽²⁾ During the year ended October 31, 2020, we purchased common shares for cancellation at an average cost of \$101.62 per share with a book value of \$12.34 per share.⁽³⁾ During the year ended October 31, 2019, we purchased common shares for cancellation at an average cost of \$100.41 per share with a book value of \$12.29 per share.⁽⁴⁾ First Preferred Shares were issued at \$25 per share with the exception of Non-Cumulative Fixed Rate/Floating Rate First Preferred Shares Series C-2 (Series C-2) which were issued at US\$1,000 per share (equivalent to US\$25 per depositary share).⁽⁵⁾ On October 1, 2020, we redeemed all 12 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series W, all 12 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series AA, all 8 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series AC, all 10 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series AE, all 8 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series AF, and all 10 million issued and outstanding Non-Cumulative First Preferred Shares Series AG, for cash at a redemption price of \$25 per share.⁽⁶⁾ On December 17, 2019, we purchased for cash 200 thousand depositary shares, each representing a one-fortieth interest in a share of Series C-2, for aggregate total consideration, including accrued dividends, of US\$5 million. The purchased depositary and underlying Series C-2 were subsequently cancelled.⁽⁷⁾ Each series of LRCNs (LRCN Series) were issued at a \$1,000 per note. The number of shares represent the number of notes issued and the dividends declared per share represent the annual interest rate percentage applicable to the notes issued as at the reporting date.⁽⁸⁾ On July 28, 2020, we issued \$1,750 million of LRCN Series 1 with recourse limited to assets held by a third party trustee in a consolidated trust. The trust assets in respect of LRCN Series 1 consist of \$1,750 million of our Non-Cumulative 5-Year Rate Reset First Preferred Shares Series BQ (Series BQ) issued concurrently with LRCN Series 1 at a price of \$1,000 per Series BQ.⁽⁹⁾ Positive amounts represent a short position in treasury instruments.

Note 20 Equity (continued)**Significant terms and conditions of preferred shares and other equity instruments**

As at October 31, 2020	Current annual yield	Premium	Current dividend per share (1)	Earliest redemption date (2)	Issue date	Redemption price (2), (3)
Preferred shares						
First preferred						
Non-cumulative, fixed rate						
Series BH (4)	4.90%		\$ 306250	November 24, 2020	June 5, 2015	\$ 26.00
Series BI (4)	4.90%		306250	November 24, 2020	July 22, 2015	26.00
Series BJ (4)	5.25%		328125	February 24, 2021	October 2, 2015	26.00
Non-cumulative, 5-Year Rate Reset (5)						
Series AZ (4)	3.70%	2.21%	231250	May 24, 2019	January 30, 2014	25.00
Series BB (4)	3.65%	2.26%	228125	August 24, 2019	June 3, 2014	25.00
Series BD (4)	3.20%	2.74%	200000	May 24, 2020	January 30, 2015	25.00
Series BF (4)	3.60%	2.62%	225000	November 24, 2020	March 13, 2015	25.00
Series BK (4)	5.50%	4.53%	343750	May 24, 2021	December 16, 2015	25.00
Series BM (4)	5.50%	4.80%	343750	August 24, 2021	March 7, 2016	25.00
Series BO (4)	4.80%	2.38%	300000	February 24, 2024	November 2, 2018	25.00
Non-cumulative, fixed rate/floating rate						
Series C-2 (6)	6.75%	4.052%	US\$16,875,000	November 7, 2023	November 2, 2015	US\$1,000.00
Other equity instruments						
Limited recourse capital notes (7)						
Series 1 (8)	4.50%	4.137%	n.a.	October 24, 2025	July 28, 2020	\$ 1,000.00

- (1) Non cumulative preferential dividends of each Series are payable quarterly, as and when declared by the Board of Directors, on or about the 24th day (7th day for Series C-2) of February, May, August and November.
- (2) Subject to the consent of OSFI and the requirements of the Bank Act (Canada), we may, on or after the dates specified above, redeem First Preferred Shares. In the case of Series AZ, BB, BD, BF, BK, BM, and BO, these may be redeemed for cash at a price per share of \$25 if redeemed on the earliest redemption date and on the same date every fifth year thereafter. In the case of BH, BI and BJ, these may be redeemed for cash at a price per share of \$26 if redeemed during the 12 months commencing on the earliest redemption date and decreasing by \$0.25 each 12-month period thereafter to a price per share of \$25 if redeemed four years from the earliest redemption date or thereafter. Series C-2 may be redeemed at a price of US\$1,000 on the earliest redemption date and any dividend payment date thereafter.
- (3) Subject to the consent of OSFI and the requirements of the Bank Act (Canada), we may purchase the First Preferred Shares of each Series for cancellation at the lowest price or prices at which, in the opinion of the Board of Directors, such shares are obtainable.
- (4) The preferred shares include NVCC provisions, necessary for the shares to qualify as Tier 1 regulatory capital under Basel III. NVCC provisions require the conversion of the instrument into a variable number of common shares in the event that OSFI deems the Bank non-viable or a federal or provincial government in Canada publicly announces that the Bank has accepted or agreed to accept a capital injection. In such an event, each preferred share is convertible into common shares pursuant to an automatic conversion formula with a multiplier of 1 and with a conversion price based on the greater of: (i) a floor price of \$5 and (ii) the current market price of our common shares based on the volume weighted average trading price of our common shares on the Toronto Stock Exchange. The number of shares issued is determined by dividing the preferred share value (\$25 plus declared and unpaid dividends) by the conversion price.
- (5) The dividend rate will reset on the earliest redemption date and every fifth year thereafter at a rate equal to the 5-year Government of Canada bond yield plus the premium indicated. The holders have the option to convert their shares into Non-Cumulative floating rate First Preferred Shares subject to certain conditions on the earliest redemption date and every fifth year thereafter at a rate equal to the three-month Government of Canada Treasury Bill rate plus the premium indicated.
- (6) The dividend rate will change on the earliest redemption date at a rate equal to the 3-month LIBOR plus the premium indicated. Series C-2 do not qualify as Tier 1 regulatory capital.
- (7) The current annual yield on each LRCN Series represents the annual interest rate applicable to the notes issued as at the reporting date. The payments of interest and principal in cash on the LRCN Series are made at our discretion, and non-payment of interest and principal in cash does not constitute an event of default. In the event of (i) non-payment of interest on any interest payment date, (ii) non-payment of the redemption price in case of a redemption of a LRCN Series, (iii) non-payment of principal at the maturity of a LRCN Series, or (iv) an event of default on a LRCN Series, holders of such LRCN Series will have recourse only to the assets (Trust Assets) held by a third party trustee in a consolidated trust in respect of such LRCN Series and each such noteholder will be entitled to receive its pro rata share of the Trust Assets. In such an event, the delivery of the Trust Assets for each LRCN Series will represent the full and complete extinguishment of our obligations under the related LRCN Series. The LRCNs include NVCC provisions, necessary for the shares to qualify as Tier 1 regulatory capital under Basel III. NVCC provisions require the conversion of the instrument into a variable number of common shares in the event that OSFI deems the Bank non-viable or a federal or provincial government in Canada publicly announces that the Bank has accepted or agreed to accept a capital injection. In such an event, each note is automatically redeemed and the redemption price will be satisfied by the delivery of Trust Assets, which will consist of common shares pursuant to an automatic conversion of the series of preferred shares that were issued concurrently with the related LRCN Series. Each series of preferred shares include an automatic conversion formula with a conversion price based on the greater of: (i) a floor price of \$5 and (ii) the current market price of our common shares based on the volume weighted average trading price of our common shares on the Toronto Stock Exchange. The number of common shares issued in respect of each series of preferred shares will be determined by dividing the preferred share value (\$1,000 plus declared and unpaid dividends) by the conversion price. The number of common shares delivered to each noteholder will be based on such noteholder's pro rata interest in the Trust Assets. Subject to the consent of OSFI, we may purchase LRCNs for cancellation at such price or prices and upon such terms and conditions as we in our absolute discretion may determine, subject to any applicable law restricting the purchase of notes.
- (8) LRCN Series 1 bear interest at a fixed rate of 4.5% per annum until November 24, 2025, and thereafter at a rate per annum, reset every fifth year, equal to the 5-Year Government of Canada Yield plus 4.137% until maturity on November 24, 2030. The interest is paid semi-annually on or about the 24th day of November and May. LRCN Series 1 is redeemable during the period from October 24 to and including November 24, commencing in 2025 and every fifth year thereafter to the extent we redeem Series BQ pursuant to their terms and subject to the consent of OSFI and requirements of the Bank Act (Canada).
- n.a. not applicable

Restrictions on the payment of dividends

We are prohibited by the Bank Act (Canada) from declaring any dividends on our preferred or common shares when we are, or would be placed as a result of the declaration, in contravention of the capital adequacy and liquidity regulations or any regulatory directives issued under the Act. We may not pay dividends on our common shares at any time unless all dividends to which preferred shareholders are then entitled have been declared and paid or set apart for payment.

Currently, these limitations do not restrict the payment of dividends on our preferred or common shares.

Dividend reinvestment plan

Our dividend reinvestment plan (DRIP) provides common and preferred shareholders with a means to receive additional common shares rather than cash dividends. The plan is only open to shareholders residing in Canada or the United States. The requirements of our DRIP are satisfied through either open market share purchases or shares issued from treasury. During 2020 and 2019, the requirements of our DRIP were satisfied through open market share purchases.

Shares available for future issuances

As at October 31, 2020, 42.9 million common shares are available for future issue relating to our DRIP and potential exercise of stock options and awards outstanding. In addition, we may issue up to 38.9 million common shares from treasury under the RBC Umbrella Savings and Securities Purchase Plan that was approved by shareholders on February 26, 2009.

Note 21 Share-based compensation

Stock option plans

We have stock option plans for certain key employees. Under the plans, options are periodically granted to purchase common shares. The exercise price for the majority of the grants is determined as the higher of the volume-weighted average of the trading prices per board lot (100 shares) of our common shares on the Toronto Stock Exchange (i) on the day preceding the day of grant; and (ii) the five consecutive trading days immediately preceding the day of grant. The exercise price for the remaining grants is the closing market share price of our common shares on the New York Stock Exchange on the date of grant. All options vest over a four-year period, and are exercisable for a period not exceeding 10 years from the grant date.

The compensation expense recorded for the year ended October 31, 2020, in respect of the stock option plans was \$7 million (October 31, 2019 – \$6 million). The compensation expense related to non-vested options was \$2 million at October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$3 million), to be recognized over the weighted average period of 1.9 years (October 31, 2019 – 1.8 years).

Analysis of the movement in the number and weighted average exercise price of options is set out below:

A summary of our stock option activity and related information

	For the year ended			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Number of options (thousands)	Weighted average exercise price (1)	Number of options (thousands)	Weighted average exercise price (1)
(Canadian dollars per share except share amounts)				
Outstanding at beginning of period	6,950	\$ 79.88	7,770	\$ 71.40
Granted	1,089	103.64	1,090	96.55
Exercised (2), (3)	(1,044)	65.39	(1,900)	55.05
Forfeited in the period	(22)	50.28	(10)	54.99
Outstanding at end of period	6,973	\$ 86.02	6,950	\$ 79.88
Exercisable at end of period	3,314	\$ 71.77	2,980	\$ 64.24

- (1) The weighted average exercise prices reflect the conversion of foreign currency-denominated options at the exchange rates as of October 31, 2020 and October 31, 2019. For foreign currency-denominated options exercised during the year, the weighted average exercise prices are translated using exchange rates as at the settlement date.
- (2) Cash received for options exercised during the year was \$68 million (October 31, 2019 – \$505 million) and the weighted average share price at the date of exercise was \$100.20 (October 31, 2019 – \$103.15).
- (3) New shares were issued for all stock options exercised in 2020 and 2019.

Options outstanding as at October 31, 2020 by range of exercise price

	Options outstanding			Options exercisable		
	Number outstanding (thousands)	Weighted average exercise price (1)	Weighted average remaining contractual life (years)	Number exercisable (thousands)	Weighted average exercise price (1)	
(Canadian dollars per share except share amounts and years)						
\$36.89 – \$69.17	1,112	\$ 55.07	2.16	1,112	\$ 55.07	
\$73.14 – \$74.39	880	74.30	4.98	880	74.30	
\$76.51 – \$78.59	653	77.85	4.19	653	77.85	
\$90.23 – \$96.55	2,477	93.01	6.68	669	90.23	
\$102.33 – \$104.70	1,851	103.71	8.17	–	–	
	6,973	\$ 86.02	5.90	3,314	\$ 71.77	

- (1) The weighted average exercise prices reflect the conversion of foreign currency-denominated options at the exchange rate as of October 31, 2020.

The weighted average fair value of options granted during the year ended October 31, 2020 was estimated at \$6.08 (October 31, 2019 – \$5.61). This was determined by applying the Black-Scholes model on the date of grant, taking into account the specific terms and conditions under which the options are granted, such as the vesting period and expected share price volatility estimated by considering the historic average share price volatility over a historical period corresponding to the expected option life. The following assumptions were used to determine the fair value of options granted:

Weighted average assumptions

	For the year ended	
	October 31, 2020	October 31, 2019
(Canadian dollars per share except percentages and years)		
Share price at grant date	\$ 104.80	\$ 94.09
Risk-free interest rate	1.64%	2.01%
Expected dividend yield	3.90%	3.77%
Expected share price volatility	13%	12%
Expected life of option	6 Years	6 Years

Note 21 Share-based compensation (continued)**Employee savings and share ownership plans**

We offer many employees an opportunity to own our common shares through savings and share ownership plans. Under these plans, the employees can generally contribute between 1% and 10% of their annual salary or benefit base for commission-based employees. For each contribution between 1% and 6%, we will match 50% of the employee contributions in our common shares. For the RBC Dominion Securities Savings Plan, our maximum annual contribution is \$4,500 per employee. For the RBC U.K. Share Incentive Plan, our maximum annual contribution is £1,500 per employee. For the year ended October 31, 2020, we contributed \$116 million (October 31, 2019 – \$112 million), under the terms of these plans, towards the purchase of our common shares. As at October 31, 2020, an aggregate of 36 million common shares were held under these plans (October 31, 2019 – 35 million common shares).

Deferred share and other plans

We offer deferred share unit plans to executives, certain key employees and non-employee directors of the Bank. Under these plans, participants may choose to receive all or a percentage of their annual variable short-term incentive bonus, commission, or directors' fee in the form of deferred share units (DSUs). The participants must elect to participate in the plan prior to the beginning of the year. DSUs earn dividend equivalents in the form of additional DSUs at the same rate as dividends on common shares. The participant is not allowed to convert the DSUs until retirement or termination of employment/directorship. The cash value of the DSUs is equivalent to the market value of common shares when conversion takes place.

We also offer unit awards for certain key employees within Capital Markets. The bonus is invested as RBC share units and a specified percentage vests on a specified number of anniversary dates each year. Each vested amount is paid in cash and is based on the original number of share units granted plus accumulated dividends, valued using the average closing price of RBC common shares during the five trading days immediately preceding the vesting date.

We offer performance deferred share award plans to certain key employees, all of which vest at the end of three years. Upon vesting, the award is paid in cash and is based on the original number of RBC share units granted plus accumulated dividends valued using the average closing price of RBC common shares during the five trading days immediately preceding the vesting date. A portion of the award under certain plans may be increased or decreased up to 25%, depending on our total shareholder return compared to a defined peer group of global financial institutions.

We maintain non-qualified deferred compensation plans for certain key employees in the United States. These plans allow eligible employees to defer a portion of their annual income and a variety of productivity and recruitment bonuses and allocate the deferrals among specified fund choices, including a RBC Share Accounted fund that tracks the value of our common shares.

The following table presents the units granted under the deferred share and other plans for the year.

Units granted under deferred share and other plans

	For the year ended			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Units granted (thousands)	Weighted average fair value per unit	Units granted (thousands)	Weighted average fair value per unit
(Units and per unit amounts)				
Deferred share unit plans	503	\$ 98.91	495	\$ 99.69
Capital Markets compensation plan unit awards	4,796	92.06	3,423	105.12
Performance deferred share award plans	2,409	104.14	2,471	96.39
Deferred compensation plans	92	103.49	116	94.06
Other share-based plans	759	100.55	1,210	96.28
	8,559	\$ 96.74	7,715	\$ 100.42

Our liabilities for the awards granted under the deferred share and other plans are measured at fair value, determined based on the quoted market price of our common shares and specified fund choices as applicable. Annually, our obligation is increased by additional units earned by plan participants, and is reduced by forfeitures, cancellations, and the settlement of vested units. In addition, our obligation is impacted by fluctuations in the market price of our common shares and specified fund units. For performance deferred share award plans, the estimated outcome of meeting the performance conditions also impacts our obligation.

The following tables present the units that have been earned by the participants, our obligations for these earned units under the deferred share and other plans, and the related compensation expenses (recoveries) recognized for the year.

Obligations under deferred share and other plans

	As at			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
	Units (thousands)	Carrying amount	Units (thousands)	Carrying amount
(Millions of Canadian dollars except units)				
Deferred share unit plans	5,221	\$ 486	5,288	\$ 562
Capital Markets compensation plan unit awards	9,560	874	8,820	937
Performance deferred share award plans	5,860	550	5,621	597
Deferred compensation plans (1)	2,685	250	3,072	326
Other share-based plans	1,828	167	1,787	185
	25,154	\$ 2,327	24,588	\$ 2,607

(1) Excludes obligations not determined based on the quoted market price of our common shares.

Compensation expenses recognized under deferred share and other plans

	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
(Millions of Canadian dollars)		
Deferred share unit plans	\$ (48)	\$ 77
Capital Markets compensation plan unit awards	115	274
Performance deferred share award plans	190	294
Deferred compensation plans	137	250
Other share-based plans	60	106
	\$ 454	\$ 1,001

Note 22 Income taxes

Components of tax expense

	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
(Millions of Canadian dollars)		
Income taxes (recoveries) in Consolidated Statements of Income		
Current tax		
Tax expense for current year	\$ 3,673	\$ 3,256
Adjustments for prior years	(106)	(26)
Recoveries arising from previously unrecognized tax loss, tax credit or temporary difference of a prior period	(25)	(31)
	3,542	3,199
Deferred tax		
Origination and reversal of temporary difference	(655)	(114)
Effects of changes in tax rates	6	29
Adjustments for prior years	98	(57)
Recoveries arising from previously unrecognized tax loss, tax credit or temporary difference of a prior period, net	(39)	(14)
	(590)	(156)
	2,952	3,043
Income taxes (recoveries) in Consolidated Statements of Comprehensive Income and Changes in Equity		
Other comprehensive income		
Net unrealized gains (losses) on debt securities and loans at fair value through other comprehensive income	43	51
Provision for credit losses recognized in income	3	-
Reclassification of net losses (gains) on debt securities and loans at fair value through other comprehensive income to income	(56)	(60)
Unrealized foreign currency translation gains (losses)	5	2
Net foreign currency translation gains (losses) from hedging activities	(138)	2
Reclassification of losses (gains) on net investment hedging activities to income	7	1
Net gains (losses) on derivatives designated as cash flow hedges	(410)	(200)
Reclassification of losses (gains) on derivatives designated as cash flow hedges to income	27	(50)
Remeasurements of employee benefit plans	(20)	(333)
Net fair value change due to credit risk on financial liabilities designated at fair value through profit or loss	(93)	18
Net gains (losses) on equity securities designated at fair value through other comprehensive income	6	5
Share-based compensation awards	7	(9)
Distributions on other equity instruments and issuance costs	(12)	-
	(631)	(573)
Total income taxes	\$ 2,321	\$ 2,470

Note 22 Income taxes (continued)

The effective tax rate of 20.5% increased 140 bps, mainly due to a decrease in income from lower tax rate jurisdictions in the current year and net favourable tax adjustments in the prior year, partially offset by higher tax-exempt income.

The following is an analysis of the differences between the income tax expense reflected in the Consolidated Statements of Income and the amounts calculated at the Canadian statutory rate.

Reconciliation to statutory tax rate

(Millions of Canadian dollars, except for percentage amounts)	For the year ended			
	October 31, 2020		October 31, 2019	
Income taxes at Canadian statutory tax rate	\$ 3,799	26.4%	\$ 4,217	26.5%
Increase (decrease) in income taxes resulting from:				
Lower average tax rate applicable to subsidiaries	(513)	(3.6)	(815)	(5.1)
Tax-exempt income from securities	(364)	(2.5)	(310)	(1.9)
Tax rate change	6	—	29	0.1
Other	24	0.2	(78)	(0.5)
Income taxes in Consolidated Statements of Income / effective tax rate	\$ 2,952	20.5%	\$ 3,043	19.1%

Deferred tax assets and liabilities result from tax loss and tax credit carryforwards and temporary differences between the tax basis of assets and liabilities and their carrying amounts on our Consolidated Balance Sheets.

Significant components of deferred tax assets and liabilities

(Millions of Canadian dollars)	As at and for the year ended October 31, 2020					
	Net asset beginning of period (1)	Change through equity	Change through profit or loss	Exchange rate differences	Other	Net asset end of period
Net deferred tax asset/(liability)						
Allowance for credit losses	\$ 716	\$ —	\$ 646	\$ —	\$ —	\$ 1,362
Deferred compensation	1,246	(7)	19	11	—	1,269
Business realignment charges	10	—	(1)	—	—	9
Tax loss and tax credit carryforwards	202	—	2	—	—	204
Deferred income	(60)	—	(76)	(2)	—	(138)
Financial instruments measured at fair value through other comprehensive income	(43)	(23)	(2)	—	—	(68)
Premises and equipment and intangibles	(831)	—	60	(10)	(3)	(784)
Deferred expense	45	5	(17)	1	—	34
Pension and post-employment related	631	20	(59)	—	—	592
Other	29	4	18	(4)	—	47
	\$ 1,945	\$ (1)	\$ 590	\$ (4)	\$ (3)	\$ 2,527
Comprising						
Deferred tax assets	\$ 2,027					\$ 2,579
Deferred tax liabilities	(82)					(52)
	\$ 1,945					\$ 2,527

(Millions of Canadian dollars)	As at and for the year ended October 31, 2019					
	Net asset beginning of period	Change through equity	Change through profit or loss	Exchange rate differences	Other	Net asset end of period
Net deferred tax asset/(liability)						
Allowance for credit losses	\$ 695	\$ —	\$ 23	\$ (2)	\$ —	\$ 716
Deferred compensation	1,033	9	197	7	—	1,246
Business realignment charges	3	—	7	—	—	10
Tax loss and tax credit carryforwards	203	—	(10)	—	9	202
Deferred income	(48)	—	(11)	(1)	—	(60)
Financial instruments measured at fair value through other comprehensive income	(8)	(33)	(1)	(1)	—	(43)
Premises and equipment and intangibles	(858)	—	(4)	(4)	(3)	(869)
Deferred expense	55	36	(47)	1	—	45
Pension and post-employment related	295	339	(6)	3	—	631
Other	21	3	8	(3)	—	29
	\$ 1,391	\$ 354	\$ 156	\$ —	\$ 6	\$ 1,907
Comprising						
Deferred tax assets	\$ 1,475					\$ 1,989
Deferred tax liabilities	(84)					(82)
	\$ 1,391					\$ 1,907

(1) These amounts reflect the transition adjustment made upon adoption of IFRS 16. Refer to Note 2 for further details.

The tax loss and tax credit carryforwards amount of deferred tax assets primarily relates to losses and tax credits in our Canadian, U.S., and Caribbean operations. Deferred tax assets of \$204 million were recognized at October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$202 million) in respect of tax losses and tax credits incurred in current or preceding years for which recognition is dependent on the projection of future taxable profits. Management's forecasts support the assumption that it is probable that the results of future operations will generate sufficient taxable income to utilize the deferred tax assets. The forecasts rely on continued liquidity and capital support to our business operations, including tax planning strategies implemented in relation to such support.

As at October 31, 2020, unused tax losses and tax credits of \$389 million and \$305 million (October 31, 2019 – \$413 million and \$365 million) available to be offset against potential tax adjustments or future taxable income were not recognized as deferred tax assets. This amount includes unused tax losses of \$nil which expire within one year (October 31, 2019 – \$1 million), \$10 million which expire in two to four years (October 31, 2019 – \$7 million) and \$379 million which expire after four years (October 31, 2019 – \$405 million). There are no tax credits that will expire in one year (October 31, 2019 – \$nil), \$143 million that will expire in two to four years (October 31, 2019 – \$60 million) and \$162 million that will expire after four years (October 31, 2019 – \$305 million).

The amount of temporary differences associated with investments in subsidiaries, branches and associates and interests in joint ventures for which deferred tax liabilities have not been recognized in the parent bank is \$21.7 billion as at October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$17.9 billion).

Tax examinations and assessments

During the year, we received proposal letters (the Proposals) from the Canada Revenue Agency (CRA), in respect of the 2015 taxation year, which suggest that Royal Bank of Canada owes additional taxes of approximately \$337 million as they denied the deductibility of certain dividends. The Proposals are consistent with the reassessments received for taxation years 2012 to 2014 of approximately \$756 million of additional income taxes and the reassessments received for taxation years 2009 to 2011 of approximately \$434 million of additional income taxes and interest in respect of the same matter. These amounts represent the maximum additional taxes owing for those years.

Legislative amendments introduced in the 2015 Canadian Federal Budget resulted in disallowed deduction of dividends from transactions with Taxable Canadian Corporations including those hedged with Tax Indifferent Investors, namely pension funds and non-resident entities with prospective application effective May 1, 2017. The dividends to which the Proposals and reassessments relate include both dividends in transactions similar to those which are the target of the 2015 legislative amendments and dividends which are unrelated to the legislative amendments.

It is possible that the CRA will reassess us for significant additional income tax for subsequent years on the same basis. In all cases, we are confident that our tax filing position was appropriate and intend to defend ourselves vigorously.

Note 23 Earnings per share

	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
(Millions of Canadian dollars, except share and per share amounts)		
Basic earnings per share		
Net income	\$ 11,437	\$ 12,871
Dividends on preferred shares and distributions on other equity instruments	(268)	(269)
Net income attributable to non-controlling interests	(5)	(11)
Net income available to common shareholders	11,164	12,591
Weighted average number of common shares (in thousands)	1,423,915	1,434,779
Basic earnings per share (in dollars)	\$ 7.84	\$ 8.78
Diluted earnings per share		
Net income available to common shareholders	\$ 11,164	\$ 12,591
Dilutive impact of exchangeable shares	13	15
Net income available to common shareholders including dilutive impact of exchangeable shares	11,177	12,606
Weighted average number of common shares (in thousands)	1,423,915	1,434,779
Stock options (1)	1,054	2,011
Issuable under other share-based compensation plans	755	742
Exchangeable shares (2)	3,046	3,150
Average number of diluted common shares (in thousands)	1,428,770	1,440,682
Diluted earnings per share (in dollars)	\$ 7.82	\$ 8.75

(1) The dilutive effect of stock options was calculated using the treasury stock method. When the exercise price of options outstanding is greater than the average market price of our common shares, the options are excluded from the calculation of diluted earnings per share. For the year ended October 31, 2020, an average of 2,809,041 outstanding options with an average exercise price of \$100.88 were excluded from the calculation of diluted earnings per share. For the year ended October 31, 2019, an average of 767,225 outstanding options with an average exercise price of \$102.33 were excluded from the calculation of diluted earnings per share.

(2) Includes exchangeable preferred shares.

Note 24 Guarantees, commitments, pledged assets and contingencies**Guarantees and commitments**

We use guarantees and other off-balance sheet credit instruments to meet the financing needs of our clients.

The table below summarizes our maximum exposure to credit losses related to our guarantees and commitments provided to third parties. The maximum exposure to credit risk relating to a guarantee is the maximum risk of loss if there was a total default by the guaranteed parties, without consideration of possible recoveries under recourse provisions, insurance policies or from collateral held or pledged. The maximum exposure to credit risk relating to a commitment to extend credit is the full amount of the commitment. In both cases, the maximum risk exposure is significantly greater than the amount recognized as a liability in our Consolidated Balance Sheets.

	Maximum exposure to credit losses	
	As at	
	October 31, 2020	October 31, 2019
(Millions of Canadian dollars)		
Financial guarantees		
Financial standby letters of credit	\$ 17,141	\$ 16,608
Commitments to extend credit		
Backstop liquidity facilities	40,212	36,305
Credit enhancements	2,664	1,692
Documentary and commercial letters of credit	286	268
Other commitments to extend credit	239,077	225,911
Other credit-related commitments		
Securities lending indemnifications	77,953	91,625
Performance guarantees	7,040	7,061
Sponsored member guarantees	1,302	—
Other	1,030	787

Our credit review process, our policy for requiring collateral security, and the types of collateral security held are generally the same for guarantees and commitments as for loans. Our clients generally have the right to request settlement of, or draw on, our guarantees and commitments within one year. However, certain guarantees can only be drawn if specified conditions are met. These conditions, along with collateral requirements, are described below. We believe that it is highly unlikely that all or substantially all of the guarantees and commitments will be drawn or settled within one year, and contracts may expire without being drawn or settled.

Financial guarantees*Financial standby letters of credit*

Financial standby letters of credit represent irrevocable assurances that we will make payments in the event that a client cannot meet its payment obligations to the third party. For certain guarantees, the guaranteed party can request payment from us even though the client has not defaulted on its obligations. The term of these guarantees generally have a term of five to seven years.

Our policy for requiring collateral security with respect to these instruments and the types of collateral security held is generally the same as for loans. When collateral security is taken, it is determined on an account-by-account basis according to the risk of the borrower and the specifics of the transaction. Collateral security may include cash, securities and other assets pledged.

Commitments to extend credit*Backstop liquidity facilities*

Backstop liquidity facilities are provided to ABCP conduit programs administered by us and third parties as an alternative source of financing in the event that such programs are unable to access commercial paper markets, or in limited circumstances, when predetermined performance measures of the financial assets owned by these programs are not met. The average remaining term of these liquidity facilities is approximately four years.

The terms of the backstop liquidity facilities do not require us to advance money to these programs in the event of bankruptcy or insolvency and generally do not require us to purchase non-performing or defaulted assets.

Credit enhancements

We provide partial credit enhancement to multi-seller ABCP programs administered by us to protect commercial paper investors in the event that the collections on the underlying assets together with the transaction-specific credit enhancements or the liquidity facilities prove to be insufficient to pay for maturing commercial paper. Each of the asset pools is structured to achieve a high investment-grade credit profile through credit enhancements from us and other third parties related to each transaction. The average remaining term of these credit facilities is approximately three years.

Documentary and commercial letters of credit

Documentary and commercial letters of credit, which are written undertakings by us on behalf of a client authorizing a third party to draw drafts on us up to a stipulated amount under specific terms and conditions, where some are collateralized based on the underlying agreement with the client and others are collateralized by cash deposits or other assets of the third party which may include the underlying shipment of goods to which they relate.

Other commitments to extend credit

Commitments to extend credit represent unused portions of authorizations to extend credit in the form of loans, reverse repurchase agreements, bankers' acceptances or letters of credit where we do not have the ability to unilaterally withdraw the credit extended to the borrower.

Other credit-related commitments**Securities lending indemnifications**

In securities lending transactions, we act as an agent for the owner of a security, who agrees to lend the security to a borrower for a fee, under the terms of a pre-arranged contract. The borrower must fully collateralize the security loaned at all times. As part of this custodial business, an indemnification may be provided to securities lending customers to ensure that the fair value of securities loaned will be returned in the event that the borrower fails to return the borrowed securities and the collateral held is insufficient to cover the fair value of those securities. These indemnifications normally terminate without being drawn upon. The term of these indemnifications varies, as the securities loaned are recallable on demand. Collateral held for our securities lending transactions typically includes cash, securities that are issued or guaranteed by the Canadian government, U.S. government or other OECD countries or high quality debt or equity instruments.

Performance guarantees

Performance guarantees represent irrevocable assurances that we will make payments to third party beneficiaries in the event that a client fails to perform under a specified non-financial contractual obligation. Such obligations typically include works and service contracts, performance bonds, and warranties related to international trade. The term of these guarantees can range up to three to seven years.

Our policy for requiring collateral security with respect to these instruments and the types of collateral security held is generally the same as for loans. When collateral security is taken, it is determined on an account-by-account basis according to the risk of the borrower and the specifics of the transaction. Collateral security may include cash, securities and other assets pledged.

Sponsored member guarantees

For certain overnight repurchase and reverse repurchase transactions, we act as a sponsoring member to eligible clients to clear transactions through the Fixed Income Clearing Corporation (FICC). We also provide a guarantee to FICC for the prompt and full payment and performance of our sponsored member clients' respective obligations under the FICC rules. The guarantees are fully collateralized by cash and securities issued or guaranteed by the U.S. government.

Indemnifications

In the normal course of our operations, we provide indemnifications which are often standard contractual terms to counterparties in transactions such as purchase and sale contracts, fiduciary, agency, licensing, custodial and service agreements, clearing system arrangements, participation as a member of exchanges, director/officer contracts and leasing transactions. These indemnification agreements may require us to compensate the counterparties for costs incurred as a result of changes in laws and regulations (including tax legislation) or as a result of litigation claims or statutory sanctions that may be suffered by the counterparty as a consequence of the transaction. The terms of these indemnification agreements vary based on the contract. The nature of the indemnification agreements prevents us from making a reasonable estimate of the maximum potential amount we could be required to pay to counterparties. Historically, we have not made any significant payments under such indemnifications.

Uncommitted amounts

Uncommitted amounts represent undrawn credit facilities for which we have the ability to unilaterally withdraw the credit extended to the borrower at any time. These include both retail and commercial commitments. As at October 31, 2020, the total balance of uncommitted amounts was \$317 billion (October 31, 2019 – \$287 billion).

Other commitments

We invest in private companies, directly or through third-party investment funds, including Small Business Investment Companies, real estate funds and Low Income Housing Tax Credit funds. These funds are generally structured as closed-end limited partnerships wherein we hold a limited partner interest. For the year ended October 31, 2020, we have unfunded commitments of \$882 million (October 31, 2019 – \$684 million) representing the aggregate amount of cash we are obligated to contribute as capital to these partnerships under the terms of the relevant contracts.

Pledged assets and collateral

In the ordinary course of business, we pledge assets and enter into collateral agreements with terms and conditions that are usual and customary to our regular lending, borrowing and trading activities recorded on our Consolidated Balance Sheets. The following are examples of our general terms and conditions on pledged assets and collateral:

- The risks and rewards of the pledged assets reside with the pledgor.
- The pledged asset is returned to the pledgor when the necessary conditions have been satisfied.
- The right of the pledgee to sell or re-pledge the asset is dependent on the specific agreement under which the collateral is pledged.
- If there is no default, the pledgee must return the comparable asset to the pledgor upon satisfaction of the obligation.

We are also required to provide intraday pledges to the Bank of Canada when we use the Large Value Transfer System (LVTS), which is a real-time electronic wire transfer system that continuously processes all Canadian dollar large-value or time-critical payments throughout the day. The pledged assets earmarked for LVTS activities are normally released back to us at the end of the settlement cycle each day. Therefore, the pledged assets amount is not included in the table below. For the year ended October 31, 2020, we had on average \$3.4 billion of assets pledged intraday to the Bank of Canada on a daily basis (October 31, 2019 – \$4.9 billion). There are infrequent occasions where we are required to take an overnight advance from the Bank of Canada to cover a settlement requirement. In which case an equivalent value of the pledged assets would be used to secure the advance. There were no overnight advances taken on October 31, 2020 and October 31, 2019.

Note 24 Guarantees, commitments, pledged assets and contingencies (continued)**Assets pledged against liabilities and collateral assets held or re-pledged**

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31 2020	October 31 2019
Sources of pledged assets and collateral		
Bank assets		
Loans	\$ 99,302	\$ 80,542
Securities	59,479	55,544
Other assets	27,934	21,316
	186,715	157,402
Client assets (1)		
Collateral received and available for sale or re-pledging	438,686	448,338
Less: not sold or re-pledged	(37,879)	(49,325)
	400,807	399,013
	\$ 587,522	\$ 556,415
Uses of pledged assets and collateral		
Securities borrowing and lending	\$ 127,852	\$ 146,590
Obligations related to securities sold short	36,647	34,686
Obligations related to securities lent or sold under repurchase agreements	252,425	229,905
Securitization	45,440	47,254
Covered bonds	62,131	42,103
Derivative transactions	35,044	26,448
Foreign governments and central banks	6,456	5,963
Clearing systems, payment systems and depositories	6,380	4,804
Other	15,147	18,662
	\$ 587,522	\$ 556,415

(1) Primarily relates to Obligations related to securities lent or sold under repurchase agreements, Securities lent and Derivative transactions.

Note 25 Legal and regulatory matters

We are a large global institution that is subject to many different complex legal and regulatory requirements that continue to evolve. We are and have been subject to a variety of legal proceedings, including civil claims and lawsuits, regulatory examinations, investigations, audits and requests for information by various governmental regulatory agencies and law enforcement authorities in various jurisdictions. Some of these matters may involve novel legal theories and interpretations and may be advanced under criminal as well as civil statutes, and some proceedings could result in the imposition of civil, regulatory enforcement or criminal penalties. We review the status of all proceedings on an ongoing basis and will exercise judgment in resolving them in such manner as we believe to be in our best interest. This is an area of significant judgment and uncertainty and the extent of our financial and other exposure to these proceedings after taking into account current accruals could be material to our results of operations in any particular period. The following is a description of our significant legal proceedings.

London interbank offered rate (LIBOR) regulatory investigations and litigation

Royal Bank of Canada and other U.S. dollar panel banks have been named as defendants in private lawsuits filed in the U.S. with respect to the setting of U.S. dollar LIBOR including a number of class action lawsuits which have been consolidated before the U.S. District Court for the Southern District of New York. The complaints in those private lawsuits assert claims against us and other panel banks under various U.S. laws, including U.S. antitrust laws, the U.S. Commodity Exchange Act, and state law.

In addition to the LIBOR actions, in January 2019, a number of financial institutions, including Royal Bank of Canada and RBC Capital Markets LLC, were named in a purported class action in New York alleging violations of the U.S. antitrust laws and common law principles of unjust enrichment in the setting of LIBOR after the Intercontinental Exchange took over administration of the benchmark interest rate from the British Bankers' Association in 2014.

On March 26, 2020, Royal Bank of Canada and RBC Capital Markets LLC were dismissed from the purported class action in New York alleging violations of the U.S. antitrust laws and common law principles of unjust enrichment in the setting of LIBOR after the Intercontinental Exchange took over administration of the benchmark interest rate from the British Bankers' Association in 2014. On April 24, 2020, the plaintiffs filed a notice of appeal. Based on the facts currently known, it is not possible at this time for us to predict the ultimate outcome of these proceedings or the timing of their resolution.

Royal Bank of Canada Trust Company (Bahamas) Limited proceedings

On April 13, 2015, a French investigating judge notified Royal Bank of Canada Trust Company (Bahamas) Limited (RBC Bahamas) of the issuance of an *ordonnance de renvoi* referring RBC Bahamas and other unrelated persons to the French *tribunal correctionnel* to face the charge of complicity in estate tax fraud relating to actions taken relating to a trust for which RBC Bahamas serves as trustee. RBC Bahamas believes that its actions did not violate French law and contested the charge in the French court. On January 12, 2017, the French court acquitted all parties including RBC Bahamas and on June 29, 2018, the French appellate court affirmed the acquittals. The acquittals were appealed and the hearing took place on November 25, 2020. The court's decision is expected to be issued in January 2021.

On October 28, 2016, Royal Bank of Canada was granted an exemption by the U.S. Department of Labor that allows Royal Bank of Canada and its current and future affiliates to continue to qualify for the Qualified Professional Asset Manager (QPAM) exemption under the Employee Retirement Income Security Act despite any potential conviction of RBC Bahamas in the French proceeding for a temporary one year period from the date of conviction. On November 3, 2020, the Solicitor of Labor of the U.S.

Department of Labor issued an opinion stating that a conviction under non-U.S. law is not a disqualifying event for purposes of the QPAM exemption. Based on that opinion, any conviction in a French court would not trigger disqualification of Royal Bank of Canada and its current and future affiliates under the QPAM exemption.

RBC Bahamas continues to review the trustee's and the trust's legal obligations, including liabilities and potential liabilities under applicable tax and other laws. Based on the facts currently known, it is not possible at this time to predict the ultimate outcome of these matters; however, we believe that the ultimate resolution will not have a material effect on our consolidated financial position, although it may be material to our results of operations in the period it occurs.

Interchange fees litigation

Since 2011, seven proposed class actions have been commenced in Canada: *Bancroft-Snell v. Visa Canada Corporation, et al.*, 9085-4886 Quebec Inc. v. Visa Canada Corporation, et al., *Coburn and Watson's Metropolitan Home v. Bank of America Corporation, et al. (Watson)*, *Macaronies Hair Club and Laser Centre Inc. v. BofA Canada Bank, et al.*, 1023926 Alberta Ltd. v. Bank of America Corporation, et al., *The Crown & Hand Pub Ltd. v. Bank of America Corporation, et al.*, and *Hella Baby Equipment Inc. v. BofA Canada Bank, et al.* The defendants in each action are VISA Canada Corporation (Visa), MasterCard International Incorporated (MasterCard), Royal Bank of Canada and other financial institutions. The plaintiff class members are Canadian merchants who accept Visa and/or MasterCard branded credit cards for payment. The actions allege, among other things, that from March 2001 to the present, Visa and MasterCard conspired with their issuing banks and acquirers to set default interchange rates and merchant discount fees and that certain rules (Honour All Cards and No Surcharge) have the effect of increasing the merchant discount fees. The actions include claims of civil conspiracy, breach of the Competition Act (the Act) interference with economic relations and unjust enrichment. The claims seek unspecified general and punitive damages. In *Watson*, a decision to partially certify the action as a class proceeding was released on March 27, 2014, and was appealed. On August 19, 2015, the British Columbia Court of Appeal struck the plaintiff class representative's cause of action under section 45 of the Act and reinstated the plaintiff class representative's cause of action in civil conspiracy by unlawful means, among other rulings. In October 2016, the trial court in *Watson* denied a motion by the plaintiff to revive the stricken section 45 Competition Act claim, and also denied the plaintiff's motion to add new causes of action. The Supreme Court of Canada declined the B.C. class action plaintiffs' request to appeal the decision striking the plaintiffs' cause of action under section 45 of the Competition Act. In October 2020, the parties agreed to adjourn the *Watson* trial.

In 9085-4886 Quebec Inc. v. Visa Canada Corporation, et al., the Quebec court dismissed the Competition Act claims by Quebec merchants for post-2010 damages and certified a class action as to the remaining claims. The merchants appealed and on July 25, 2019, the Quebec Court of Appeal allowed the appeal to also authorize the merchants to proceed under section 45 of the Competition Act for claims after March 12, 2010 and for claims under section 49 of the Competition Act.

Foreign exchange matters

Various regulators are conducting inquiries regarding potential violations of antitrust law by a number of banks, including Royal Bank of Canada, regarding foreign exchange trading.

Beginning in 2015, putative class actions were brought against Royal Bank of Canada and/or RBC Capital Markets, LLC in the United States and Canada. These actions were each brought against multiple foreign exchange dealers and allege, among other things, collusive behaviour in global foreign exchange trading. In August 2018, the U.S. District Court entered a final order approving RBC Capital Markets' pending settlement with class plaintiffs. In November 2018, certain institutional plaintiffs who had previously opted-out of participating in the settlement filed their own lawsuit in US District Court. In May 2020, the US District Court dismissed Royal Bank of Canada from the November 2018 lawsuit brought by certain institutional plaintiffs who had previously opted-out of participating in the August 2018 settlement with class plaintiffs. The Canadian class actions and one other U.S. action that is purportedly brought on behalf of different classes of plaintiffs remain pending.

In its discretion Royal Bank of Canada may choose to resolve claims, litigations, or similar matters at any time. Based on the facts currently known, it is not possible at this time to predict the ultimate outcome of the Foreign Exchange Matters or the timing of their ultimate resolution.

Other matters

We are a defendant in a number of other actions alleging that certain of our practices and actions were improper. The lawsuits involve a variety of complex issues and the timing of their resolution is varied and uncertain. Management believes that we will ultimately be successful in resolving these lawsuits, to the extent that we are able to assess them, without material financial impact to the Bank. This is, however, an area of significant judgment and the potential liability resulting from these lawsuits could be material to our results of operations in any particular period.

Various other legal proceedings are pending that challenge certain of our other practices or actions. While this is an area of significant judgment and some matters are currently inestimable, we consider that the aggregate liability, to the extent that we are able to assess it, resulting from these other proceedings will not be material to our consolidated financial position or results of operations.

Note 26 Related party transactions

Related parties

Related parties include associated companies, post-employment benefit plans for the benefit of our employees, key management personnel (KMP), the Board of Directors (Directors), close family members of KMP and Directors, and entities which are, directly or indirectly, controlled by, jointly controlled by or significantly influenced by KMP, Directors or their close family members.

Key management personnel and Directors

KMP are defined as those persons having authority and responsibility for planning, directing and controlling our activities, directly or indirectly. They include the senior members of our organization called the Group Executive (GE). The GE is comprised of the President and Chief Executive Officer and individuals that report directly to him, including the Chief Administrative Officer, Chief Financial Officer, Chief Human Resources Officer, Chief Risk Officer, and Group Heads for RBC Ventures & Corporate Development, Wealth Management, Insurance and Investor & Treasury Services, Capital Markets, Technology & Operations, and Personal & Commercial Banking. The Directors do not plan, direct, or control the activities of the entity; they oversee the management of the business and provide stewardship.

Note 26 Related party transactions (continued)

Compensation of Key management personnel and Directors

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020 (1)	October 31 2019
Salaries and other short-term employee benefits (2)	\$ 21	\$ 26
Post-employment benefits (3)	2	2
Share-based payments	32	44
	\$ 55	\$ 72

- (1) During the year ended October 31, 2020, certain executives who were members of the Bank's Group Executive as at October 31, 2019, left the Bank and therefore, were no longer part of KMP. Compensation for the year ended October 31, 2020, attributable to the former executives, including benefits and share-based payments relating to awards granted in prior years was \$37 million.
- (2) Includes the portion of the annual variable short-term incentive bonus that certain executives elected to receive in the form of BSUs. Refer to Note 21 for further details. Directors receive retainers but do not receive salaries and other short-term employee benefits.
- (3) Directors do not receive post-employment benefits.

Stock options, stock awards and shares held by Key management personnel, Directors and their close family members

(Millions of Canadian dollars, except number of units)	As at			
	October 31, 2020 (1)		October 31, 2019	
	No. of units held	Value	No. of units held	Value
Stock options (2)	1,912,482	\$ 15	2,372,714	\$ 51
Other non-option stock based awards (2)	869,756	81	1,481,096	157
RBC common and preferred shares	206,652	19	463,362	49
	2,988,890	\$ 115	4,317,172	\$ 257

- (1) During the year ended October 31, 2020, certain executives who were members of the Bank's Group Executive as at October 31, 2019, left the Bank and therefore, were no longer part of KMP. Total shareholdings and options held upon their departure was 1,400,184 units, with a value of \$91 million.
- (2) Directors do not receive stock options or any other non-option stock based awards.

Transactions, arrangements and agreements involving Key management personnel, Directors and their close family members

In the normal course of business, we provide certain banking services to KMP, Directors, and their close family members. These transactions were made on substantially the same terms, including interest rates and security, as for comparable transactions with persons of a similar standing and did not involve more than the normal risk of repayment or present other unfavourable features.

As at October 31, 2020, total loans to KMP, Directors and their close family members were \$6 million (October 31, 2019 – \$8 million). We have no stage 3 allowance or provision for credit losses relating to these loans as at and for the years ended October 31, 2020 and October 31, 2019. No guarantees, pledges or commitments have been given to KMP, Directors or their close family members.

Joint ventures and associates

In the normal course of business, we provide certain banking and financial services to our joint ventures and associates, including loans, interest and non-interest bearing deposits. These transactions meet the definition of related party transactions and were made on substantially the same terms as for comparable transactions with third parties.

As at October 31, 2020, loans to joint ventures and associates were \$215 million (October 31, 2019 – \$222 million) and deposits from joint ventures and associates were \$15 million (October 31, 2019 – \$180 million). We have no stage 3 allowance or provision for credit losses relating to loans to joint ventures and associates as at and for the years ended October 31, 2020 and October 31, 2019. \$1 million of guarantees have been given to joint ventures and associates for the year ended October 31, 2020 (October 31, 2019 – \$1 million).

Other transactions, arrangements or agreements involving joint ventures and associates

(Millions of Canadian dollars)	As at or for the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Commitments and other contingencies	\$ 589	\$ 430
Other fees received for services rendered	43	47
Other fees paid for services received	117	128

Note 27 Results by business segment

Composition of business segments

For management purposes, based on the products and services offered, we are organized into five business segments: Personal & Commercial Banking, Wealth Management, Insurance, Investor & Treasury Services and Capital Markets.

Personal & Commercial Banking provides a broad suite of financial products and services to individuals and businesses for their day-to-day banking, investing and financing needs through two businesses: Canadian Banking and Caribbean & U.S. Banking. In Canada, we provide a broad suite of financial products and services through our large branch network, automated teller

machines, and mobile sales network. In the Caribbean and the U.S., we offer a broad range of financial products and services in targeted markets. Non-interest income in Personal & Commercial Banking mainly comprises Service charges, Mutual fund revenue and Card service revenue.

Wealth Management serves high net worth and ultra-high net worth individual and institutional clients with a comprehensive suite of advice-based solutions and strategies to help them achieve their financial goals through our line of businesses in Canada, the U.S., the U.K., Europe and Asia, including Canadian Wealth Management, U.S. Wealth Management (including City National), Global Asset Management, and International Wealth Management. Non-interest income in Wealth Management mainly comprises Investment management and custodial fees, Mutual fund revenue and Securities brokerage commissions.

Insurance has operations in Canada and globally, operating under two business lines: Canadian Insurance and International Insurance, providing a wide range of life, health, home, auto, travel, wealth, annuities and reinsurance advice and solutions as well as creditor and business insurance services to individual, business and group clients. In Canada, we offer our products and services through our proprietary distribution channels, comprised of the field sales force, advice centers and online, as well as through independent insurance advisors and affinity relationships. Outside Canada, we operate in reinsurance and retrocession markets globally offering life, disability and longevity reinsurance products. Non-interest income in Insurance comprises Insurance premiums, investment and fee income.

Investor & Treasury Services is a provider of asset, cash management, transaction banking, and treasury services to institutional clients worldwide. We also provide Canadian dollar cash management, correspondent banking and trade finance for financial institutions globally and short-term funding and liquidity management for the bank. Non-interest income in Investor & Treasury Services mainly comprises Investment management and custodial fees.

Capital Markets provides expertise in banking, finance and capital markets to corporations, institutional investors, asset managers, governments and central banks around the world in our two main business lines: Corporate and Investment Banking and Global Markets. In North America, we offer a full suite of products and services which include corporate and investment banking, equity and debt origination and distribution, as well as sales and trading. Outside North America, we have a select presence in the U.K. & Europe, Australia, Asia & other markets. In the U.K. & Europe, we offer a diversified set of capabilities in our key sectors of expertise such as energy, mining and infrastructure, industrial, consumer, healthcare, technology and financial services. Non-interest income in Capital Markets mainly includes Trading revenue, Underwriting and other advisory fees and Credit fees.

All other enterprise level activities that are not allocated to these five business segments, such as enterprise funding, securitizations, net charges associated with unattributed capital, and consolidation adjustments, including the elimination of the Taxable equivalent basis (Teb) gross-up amounts, are included in Corporate Support. Teb adjustments gross up income from certain tax-advantaged sources from Canadian taxable corporate dividends and U.S. tax credit investments recorded in Capital Markets to their effective tax equivalent value with the corresponding offset recorded in the provision for income taxes. Management believes that these Teb adjustments are necessary for Capital Markets to reflect how it is managed and enhances the comparability of revenue across our taxable and tax-advantaged sources. Our use of Teb adjustments may not be comparable to similarly adjusted amounts at other financial institutions. The Teb adjustment for the year ended October 31, 2020 was \$513 million (October 31, 2019 – \$450 million).

Geographic segments

For geographic reporting, our segments are grouped into Canada, United States and Other International. Transactions are primarily recorded in the location that best reflects the risk due to negative changes in economic conditions and prospects for growth due to positive economic changes. This location frequently corresponds with the location of the legal entity through which the business is conducted and the location of our clients. Transactions are recorded in the local currency and are subject to foreign exchange rate fluctuations with respect to the movement in the Canadian dollar.

Management reporting framework

Our management reporting framework is intended to measure the performance of each business segment as if it were a stand-alone business and reflects the way that the business segment is managed. This approach is intended to ensure that our business segments' results include all applicable revenue and expenses associated with the conduct of their business and depicts how management views those results. We regularly monitor these segment results for the purpose of making decisions about resource allocation and performance assessment. These items do not impact our consolidated results.

The expenses in each business segment may include costs or services directly incurred or provided on their behalf at the enterprise level. For other costs not directly attributable to one of our business segments, we use a management reporting framework that uses assumptions and methodologies for allocating overhead costs and indirect expenses to our business segments and that assists in the attribution of capital and the transfer pricing of funds to our business segments in a manner that consistently measures and aligns the economic costs with the underlying benefits and risks of that specific business segment. Activities and business conducted between our business segments are generally at market rates. All other enterprise level activities that are not allocated to our five business segments are reported under Corporate Support.

Our assumptions and methodologies used in our management reporting framework are periodically reviewed by us to ensure that they remain valid. The capital attribution methodologies involve a number of assumptions that are revised periodically.

Note 27 Results by business segment (continued)

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2020									
	Personal & Commercial Banking	Wealth Management	Insurance	Investor & Treasury Services	Capital Markets (1)	Corporate Support (1)	Total	Canada	United States	Other International
Net interest income (2)	\$ 12,568	\$ 2,860	\$ -	\$ 329	\$ 5,135	\$ (57)	\$ 20,835	\$ 14,185	\$ 4,959	\$ 1,691
Non-interest income	5,163	9,360	5,361	1,982	4,749	(269)	26,346	13,510	6,775	6,061
Total revenue	17,731	12,220	5,361	2,311	9,884	(326)	47,181	27,695	11,734	7,752
Provision for credit losses	2,891	214	-	6	1,239	1	4,351	2,881	949	521
Insurance policyholder benefits, claims and acquisition expense	-	-	3,683	-	-	-	3,683	1,993	-	1,690
Non-interest expense	7,946	9,212	592	1,589	5,362	57	24,758	12,513	8,380	3,865
Net income (loss) before income taxes	6,894	2,794	1,086	716	3,283	(384)	14,389	10,308	2,405	1,676
Income taxes (recoveries)	1,807	639	255	180	507	(436)	2,952	2,516	209	227
Net income	\$ 5,087	\$ 2,155	\$ 831	\$ 536	\$ 2,776	\$ 52	\$ 11,437	\$ 7,792	\$ 2,196	\$ 1,449
Non-interest expense includes:										
Depreciation and amortization	\$ 929	\$ 879	\$ 58	\$ 217	\$ 517	\$ 6	\$ 2,606	\$ 1,587	\$ 725	\$ 294
Impairment of other intangibles	-	1	-	7	6	28	42	40	1	1
Total assets	\$ 509,679	\$ 129,706	\$ 21,253	\$ 230,695	\$ 688,054	\$ 45,161	\$ 1,624,548	\$ 911,932	\$ 431,473	\$ 281,143
Total assets include:										
Additions to premises and equipment and intangibles	\$ 722	\$ 704	\$ 46	\$ 101	\$ 452	\$ 559	\$ 2,584	\$ 1,454	\$ 706	\$ 424
Total liabilities	\$ 509,682	\$ 129,673	\$ 21,311	\$ 230,618	\$ 688,314	\$ (41,817)	\$ 1,537,781	\$ 825,034	\$ 431,570	\$ 281,177

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended October 31, 2019									
	Personal & Commercial Banking	Wealth Management	Insurance	Investor & Treasury Services	Capital Markets (1)	Corporate Support (1)	Total	Canada	United States	Other International
Net interest income (2)	\$ 12,653	\$ 2,993	\$ -	\$ (44)	\$ 4,043	\$ 104	\$ 19,749	\$ 14,375	\$ 4,058	\$ 1,316
Non-interest income	5,212	9,150	5,710	2,389	4,245	(453)	26,253	14,037	6,411	5,805
Total revenue	17,865	12,143	5,710	2,345	8,288	(349)	46,002	28,412	10,469	7,121
Provision for credit losses	1,448	117	-	-	299	-	1,864	1,512	282	70
Insurance policyholder benefits, claims and acquisition expense	-	-	4,085	-	-	-	4,085	2,800	-	1,285
Non-interest expense	7,768	8,813	606	1,725	5,096	131	24,139	12,175	7,994	3,970
Net income (loss) before income taxes	8,649	3,213	1,019	620	2,893	(480)	15,914	11,925	2,193	1,796
Income taxes (recoveries)	2,247	663	213	145	227	(452)	3,043	2,748	133	162
Net income	\$ 6,402	\$ 2,550	\$ 806	\$ 475	\$ 2,666	\$ (28)	\$ 12,871	\$ 9,177	\$ 2,060	\$ 1,634
Non-interest expense includes:										
Depreciation and amortization	\$ 632	\$ 593	\$ 48	\$ 143	\$ 408	\$ -	\$ 1,824	\$ 1,176	\$ 486	\$ 162
Impairment of other intangibles	-	-	-	44	2	64	110	20	54	36
Total assets	\$ 481,720	\$ 106,579	\$ 19,012	\$ 144,406	\$ 634,313	\$ 42,905	\$ 1,428,935	\$ 753,142	\$ 399,792	\$ 276,001
Total assets include:										
Additions to premises and equipment and intangibles	\$ 408	\$ 565	\$ 44	\$ 142	\$ 491	\$ 621	\$ 2,271	\$ 1,326	\$ 669	\$ 276
Total liabilities	\$ 481,745	\$ 106,770	\$ 19,038	\$ 144,378	\$ 634,126	\$ (40,747)	\$ 1,345,310	\$ 669,543	\$ 399,800	\$ 275,967

(1) Taxable equivalent basis.

(2) Interest revenue is reported net of interest expense as we rely primarily on net interest income as a performance measure.

Note 28 Nature and extent of risks arising from financial instruments

We are exposed to credit, market and liquidity and funding risks as a result of holding financial instruments. Our risk measurement and objectives, policies and methodologies for managing these risks are disclosed in the shaded text along with those tables specifically marked with an asterisk (*) in the Credit risk section of Management's Discussion and Analysis. These shaded text and tables are an integral part of these Consolidated Financial Statements.

Concentrations of credit risk exist if a number of our counterparties are engaged in similar activities, are located in the same geographic region or have comparable economic characteristics such that their ability to meet contractual obligations would be similarly affected by changes in economic, political or other conditions.

Concentrations of credit risk indicate the relative sensitivity of our performance to developments affecting a particular industry or geographic location. The amounts of credit exposure associated with certain of our on- and off-balance sheet financial instruments are summarized in the following tables.

(Millions of Canadian dollars, except percentage amounts)	As at October 31, 2020								
	Canada	%	United States	%	Europe	%	Other International	%	Total
On-balance sheet assets other than derivatives (1)	\$ 688,945	69%	\$ 200,521	20%	\$ 68,058	7%	\$ 40,736	4%	\$ 998,260
Derivatives before master netting agreements (2), (3)	22,761	20%	28,074	24%	56,229	49%	8,185	7%	115,249
	\$ 711,706	64%	\$ 228,595	21%	\$ 124,287	11%	\$ 48,921	4%	\$ 1,113,509
Off-balance sheet credit instruments (4)									
Committed and uncommitted (5)	\$ 394,732	66%	\$ 162,589	27%	\$ 34,892	6%	\$ 6,535	1%	\$ 598,748
Other	62,329	60%	12,697	12%	27,232	26%	2,208	2%	104,466
	\$ 457,061	65%	\$ 175,286	25%	\$ 62,124	9%	\$ 8,743	1%	\$ 703,214

(Millions of Canadian dollars, except percentage amounts)	As at October 31, 2019								
	Canada	%	United States	%	Europe	%	Other International	%	Total
On-balance sheet assets other than derivatives (1)	\$ 646,567	69%	\$ 189,240	20%	\$ 60,554	6%	\$ 50,642	5%	\$ 947,003
Derivatives before master netting agreements (2), (3)	19,544	19%	23,250	23%	53,752	52%	6,421	6%	102,967
	\$ 666,111	64%	\$ 212,490	20%	\$ 114,306	11%	\$ 57,063	5%	\$ 1,049,970
Off-balance sheet credit instruments (4)									
Committed and uncommitted (5)	\$ 367,907	67%	\$ 148,326	27%	\$ 29,462	5%	\$ 5,774	1%	\$ 551,469
Other	67,410	58%	15,246	13%	31,934	28%	1,491	1%	116,081
	\$ 435,317	65%	\$ 163,572	25%	\$ 61,396	9%	\$ 7,265	1%	\$ 667,555

(1) Includes assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed, loans and customers' liability under acceptances. The largest concentrations in Canada are Ontario at 56% (October 31, 2019 - 56%), the Prairies at 16% (October 31, 2019 - 16%), British Columbia and the territories at 14% (October 31, 2019 - 14%) and Quebec at 10% (October 31, 2019 - 10%). No industry accounts for more than 25% (October 31, 2019 - 35%) of total on-balance sheet credit instruments. The classification of our sectors aligns with our view of credit risk by industry.

(2) A further breakdown of our derivative exposures by risk rating and counterparty type is provided in Note 8.

(3) Excludes valuation adjustments determined on a pooled basis.

(4) Balances presented are contractual amounts representing our maximum exposure to credit risk.

(5) Represents our maximum exposure to credit risk. Retail and wholesale commitments respectively comprise 46% and 54% of our total commitments (October 31, 2019 - 43% and 57%). The largest concentrations in the wholesale portfolio relate to financial services at 15% (October 31, 2019 - 13%), utilities at 12% (October 31, 2019 - 11%), Real estate & related at 10% (October 31, 2019 - 9%), Other services at 8% (October 31, 2019 - 7%), and Oil & gas at 7% (October 31, 2019 - 7%). The classification of our sectors aligns with our view of credit risk by industry.

Note 29 Capital management

Regulatory capital and capital ratios

OSFI formally establishes risk-based capital and leverage targets for deposit-taking institutions in Canada. We are required to calculate our capital ratios using the Basel III framework. Under Basel III, regulatory capital includes Common Equity Tier 1 (CET1), Tier 1 and Tier 2 capital. CET1 capital mainly consists of common shares, retained earnings and other components of equity. Regulatory adjustments under Basel III include deductions of goodwill and other intangibles, certain deferred tax assets, defined benefit pension fund assets, investments in banking, financial and insurance entities, and the shortfall of provisions to expected losses. Tier 1 capital comprises predominantly CET1 and Additional Tier 1 items including non-cumulative preferred shares and LRCNs that meet certain criteria. Tier 2 capital includes subordinated debentures that meet certain criteria, certain loan loss allowances and non-controlling interests in subsidiaries Tier 2 instruments. Total capital is the sum of Tier 1 and Tier 2 capital.

Regulatory capital ratios are calculated by dividing CET1, Tier 1 and Total capital by risk-weighted assets. The leverage ratio is calculated by dividing Tier 1 capital by an exposure measure. The exposure measure consists of total assets (excluding items deducted from Tier 1 capital) and certain off-balance sheet items converted into credit exposure equivalents. Adjustments are also made to derivatives and secured financing transactions to reflect credit and other risks.

Note 29 Capital management (continued)

During 2020 and 2019, we complied with all capital and leverage requirements, including the domestic stability buffer, imposed by OSFI.

(Millions of Canadian dollars, except percentage amounts and as otherwise noted)	As at	
	October 31 2020	October 31 2019
Capital ⁽¹⁾		
CET1 capital	\$ 68,082	\$ 62,184
Tier 1 capital	74,005	67,861
Total capital	84,928	77,888
Risk-weighted Assets (RWA) used in calculation of capital ratios ⁽¹⁾		
Credit risk	\$ 448,821	\$ 417,835
Market risk	27,374	28,917
Operational risk	70,047	66,104
Total RWA	\$ 546,242	\$ 512,856
Capital ratios and Leverage ratio ⁽¹⁾		
CET1 ratio	12.5%	12.1%
Tier 1 capital ratio	13.5%	13.2%
Total capital ratio	15.5%	15.2%
Leverage ratio	4.8%	4.3%
Leverage ratio exposure (billions)	\$ 1,552.9	\$ 1,570.5

(1) Capital, RWA, and capital ratios are calculated using OSFI's Capital Adequacy Requirements (CAR) guideline and the Leverage ratio is calculated using OSFI's Leverage Requirements (LR) guideline as updated in accordance with the regulatory guidance issued in fiscal 2020 by OSFI in response to the COVID-19 pandemic. Both the CAR guideline and LR guideline are based on the Basel III framework.

Note 30 Offsetting financial assets and financial liabilities

Offsetting within our Consolidated Balance Sheets may be achieved where financial assets and liabilities are subject to master netting arrangements that provide the currently enforceable right of offset and where there is an intention to settle on a net basis, or realize the assets and settle the liabilities simultaneously. For derivative contracts and repurchase and reverse repurchase arrangements, this is generally achieved when there is a market mechanism for settlement (e.g., central counterparty exchange or clearing house) which provides daily net settlement of cash flows arising from these contracts. Margin receivables and margin payables are generally offset as they settle simultaneously through a market settlement mechanism.

Amounts that do not qualify for offsetting include master netting arrangements that only permit outstanding transactions with the same counterparty to be offset in an event of default or occurrence of other predetermined events. Such master netting arrangements include the International Swaps and Derivatives Association Master Agreement or certain derivative exchange or clearing counterparty agreements for derivative contracts, global master repurchase agreement and global master securities lending agreements for repurchase, reverse repurchase and other similar secured lending and borrowing arrangements.

The amount of financial collateral received or pledged subject to master netting arrangements or similar agreements but do not qualify for offsetting refers to the collateral received or pledged to cover the net exposure between counterparties by enabling the collateral to be realized in an event of default or the occurrence of other predetermined events. Certain amounts of collateral are restricted from being sold or re-pledged unless there is an event of default or the occurrence of other predetermined events.

The following tables provide the amount of financial instruments that have been offset on the Consolidated Balance Sheets and the amounts that do not qualify for offsetting but are subject to enforceable master netting arrangements or similar agreements. The amounts presented are not intended to represent our actual exposure to credit risk.

Financial assets subject to offsetting, enforceable master netting arrangements or similar agreements

(Millions of Canadian dollars)	As at October 31, 2020							
	Amounts subject to offsetting and enforceable netting arrangements							
	Amounts subject to master netting arrangements or similar agreements but do not qualify for offsetting on the balance sheet ⁽¹⁾							Total amount recognized on the balance sheet
	Gross amounts of financial assets before balance sheet offsetting	Amounts of financial liabilities offset on the balance sheet	Net amount of financial assets presented on the balance sheet	Impact of master netting agreements	Financial collateral received ⁽²⁾	Net amount	Amounts not subject to enforceable netting arrangements	
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	\$ 347,327	\$ 35,783	\$ 311,544	\$ 36	\$ 310,128	\$ 1,380	\$ 1,471	\$ 311,015
Derivative assets ⁽³⁾	99,515	657	98,858	69,300	18,627	10,951	14,610	113,488
Other financial assets	445	192	253	7	50	201	-	253
	\$ 447,307	\$ 36,632	\$ 410,675	\$ 69,338	\$ 328,805	\$ 12,532	\$ 16,081	\$ 426,756

	As at October 31, 2019							
	Amounts subject to offsetting and enforceable netting arrangements							
	Amounts subject to master netting arrangements or similar agreements but do not qualify for offsetting on the balance sheet (1)							
	Gross amounts of financial assets before balance sheet offsetting	Amounts of financial liabilities offset on the balance sheet	Net amount of financial assets presented on the balance sheet	Impact of master netting agreements	Financial collateral received (2)	Net amount	Amounts not subject to enforceable netting arrangements	Total amount recognized on the balance sheet
(Millions of Canadian dollars)								
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	\$ 374,617	\$ 65,420	\$ 305,197	\$ 527	\$ 303,539	\$ 1,131	\$ 1,764	\$ 306,961
Derivative assets (3)	88,996	710	88,286	62,524	15,458	10,104	13,274	101,560
Other financial assets	994	281	713	1	89	623	—	713
	\$ 464,607	\$ 70,411	\$ 394,196	\$ 63,052	\$ 319,086	\$ 12,058	\$ 15,038	\$ 409,234

(1) Financial collateral is reflected at fair value. The amount of financial instruments and financial collateral disclosed is limited to the net balance sheet exposure, and any over collateralization is excluded from the table.

(2) Includes cash collateral of \$15.2 billion (October 31, 2019 - \$11.8 billion) and non-cash collateral of \$333.8 billion (October 31, 2019 - \$307.5 billion).

(3) Includes cash margin of \$4.9 billion (October 31, 2019 - \$3.8 billion) which offset against the derivative balance on the balance sheet.

Financial liabilities subject to offsetting, enforceable master netting arrangements or similar agreements

	As at October 31, 2020							
	Amounts subject to offsetting and enforceable netting arrangements							
	Amounts subject to master netting arrangements or similar agreements but do not qualify for offsetting on the balance sheet (1)							
	Gross amounts of financial liabilities before balance sheet offsetting	Amounts of financial assets offset on the balance sheet	Net amount of financial liabilities presented on the balance sheet	Impact of master netting agreements	Financial collateral pledged (2)	Net amount	Amounts not subject to enforceable netting arrangements	Total amount recognized on the balance sheet
(Millions of Canadian dollars)								
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	\$ 309,130	\$ 35,783	\$ 273,347	\$ 36	\$ 272,871	\$ 440	\$ 884	\$ 274,231
Derivative liabilities (3)	96,138	657	95,481	69,300	16,232	9,949	14,446	109,927
Other financial liabilities	358	192	166	2	—	164	—	166
	\$ 405,626	\$ 36,632	\$ 368,994	\$ 69,138	\$ 289,103	\$ 10,553	\$ 15,330	\$ 384,324

	As at October 31, 2019							
	Amounts subject to offsetting and enforceable netting arrangements							
	Amounts subject to master netting arrangements or similar agreements but do not qualify for offsetting on the balance sheet (1)							
	Gross amounts of financial liabilities before balance sheet offsetting	Amounts of financial assets offset on the balance sheet	Net amount of financial liabilities presented on the balance sheet	Impact of master netting agreements	Financial collateral pledged (2)	Net amount	Amounts not subject to enforceable netting arrangements	Total amount recognized on the balance sheet
(Millions of Canadian dollars)								
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	\$ 294,758	\$ 69,420	\$ 225,338	\$ 527	\$ 224,811	\$ 305	\$ 1,248	\$ 226,586
Derivative liabilities (3)	84,624	710	83,914	62,524	13,540	7,850	14,629	98,543
Other financial liabilities	492	281	211	1	—	210	—	211
	\$ 379,874	\$ 70,411	\$ 309,463	\$ 63,052	\$ 238,046	\$ 8,365	\$ 15,877	\$ 325,340

(1) Financial collateral is reflected at fair value. The amount of financial instruments and financial collateral disclosed is limited to the net balance sheet exposure, and any over collateralization is excluded from the table.

(2) Includes cash collateral of \$13.5 billion (October 31, 2019 - \$11.5 billion) and non-cash collateral of \$275.6 billion (October 31, 2019 - \$236.5 billion).

(3) Includes cash margin of \$2 billion (October 31, 2019 - \$1.3 billion) which offset against the derivative balance on the balance sheet.

Note 31 Recovery and settlement of on-balance sheet assets and liabilities

The table below presents an analysis of assets and liabilities recorded on our Consolidated Balance Sheets by amounts to be recovered or settled within one year and after one year, as at the balance sheet date, based on contractual maturities and certain other assumptions outlined in the footnotes below. As warranted, we manage the liquidity risk of various products based on historical behavioural patterns that are often not aligned with contractual maturities. Amounts to be recovered or settled within one year, as presented below, may not be reflective of our long-term view of the liquidity profile of certain balance sheet categories.

(Millions of Canadian dollars)	As at					
	October 31, 2020			October 31, 2019		
	Within one year	After one year	Total	Within one year	After one year	Total
Assets						
Cash and due from banks (1)	\$ 117,375	\$ 1,513	\$ 118,888	\$ 24,822	\$ 1,488	\$ 26,310
Interest-bearing deposits with banks	39,013	–	39,013	38,345	–	38,345
Securities						
Trading (2)	126,309	9,762	136,071	137,772	8,762	146,534
Investment, net of applicable allowance	34,728	105,015	139,743	17,283	85,187	102,470
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	313,013	2	313,015	306,828	133	306,961
Loans						
Retail	97,223	360,753	457,976	108,382	317,704	426,086
Wholesale	51,296	157,359	208,655	48,737	147,133	195,870
Allowance for loan losses	–	–	(5,639)	–	–	(3,100)
Segregated fund net assets	–	1,922	1,922	–	1,663	1,663
Other						
Customers' liability under acceptances	18,507	–	18,507	18,062	–	18,062
Derivatives (2)	110,217	3,271	113,488	99,792	1,768	101,560
Premises and equipment	–	7,934	7,934	–	3,191	3,191
Goodwill	–	11,302	11,302	–	11,236	11,236
Other intangibles	–	4,752	4,752	–	4,674	4,674
Other assets	46,953	11,968	58,921	38,775	10,298	49,073
	\$ 954,634	\$ 675,553	\$ 1,624,548	\$ 838,798	\$ 593,237	\$ 1,428,935
Liabilities						
Deposits (3)	\$ 852,734	\$ 159,151	\$ 1,011,885	\$ 719,933	\$ 166,072	\$ 886,005
Segregated fund net liabilities	–	1,922	1,922	–	1,663	1,663
Other						
Acceptances	18,618	–	18,618	18,091	–	18,091
Obligations related to securities sold short	26,754	2,531	29,285	32,668	2,401	35,069
Obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	269,260	4,971	274,231	226,582	4	226,586
Derivatives (2)	108,407	1,520	109,927	97,415	1,128	98,543
Insurance claims and policy benefit liabilities	1,798	10,417	12,215	1,726	9,675	11,401
Other liabilities	48,844	20,987	69,831	41,612	16,525	58,137
Subordinated debentures	–	9,867	9,867	1,999	7,816	9,815
	\$ 1,326,415	\$ 211,366	\$ 1,537,781	\$ 1,140,026	\$ 205,284	\$ 1,345,310

(1) Cash and due from banks are assumed to be recovered within one year, except for cash balances not available for use by the Bank.

(2) Trading securities classified as FVTPL and trading derivatives are presented as within one year as this best represents in most instances the short-term nature of our trading activities. Non-trading derivatives are presented according to the recovery or settlement of the hedging transaction.

(3) Demand deposits of \$511 billion (October 31, 2019 – \$405 billion) are presented as within one year due to their being repayable on demand or at short notice on a contractual basis. In practice, these deposits relate to a broad range of individuals and customer types which form a stable base for our operations and liquidity needs.

Note 32 Parent company information

The following table presents information regarding the legal entity of Royal Bank of Canada with its subsidiaries presented on an equity accounted basis.

Condensed Balance Sheets

(Millions of Canadian dollars)	As at	
	October 31 2020	October 31 2019
Assets		
Cash and due from banks	\$ 109,397	\$ 14,264
Interest-bearing deposits with banks	21,603	22,279
Securities	146,524	118,716
Investments in bank subsidiaries and associated corporations (1)	41,029	37,234
Investments in other subsidiaries and associated corporations	76,358	73,785
Assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	134,037	123,755
Loans, net of allowance for loan losses	554,173	526,078
Other assets	171,622	152,422
	\$ 1,254,743	\$ 1,068,533
Liabilities and shareholders' equity		
Deposits	\$ 782,637	\$ 681,509
Net balances due to bank subsidiaries (1)	42,157	2,678
Net balances due to other subsidiaries	36,421	36,594
Other liabilities	297,261	254,678
	1,158,476	975,459
Subordinated debentures	9,603	9,551
Shareholders' equity	86,664	83,523
	\$ 1,254,743	\$ 1,068,533

(1) Bank refers primarily to regulated deposit-taking institutions and securities firms.

Condensed Statements of Income and Comprehensive Income

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Interest and dividend income (1)	\$ 23,596	\$ 27,630
Interest expense	9,548	14,966
Net interest income	14,048	12,664
Non-interest income (2)	4,792	5,569
Total revenue	18,840	18,233
Provision for credit losses	3,888	1,730
Non-interest expense	9,580	9,212
Income before income taxes	5,372	7,291
Income taxes	1,139	1,568
Net income before equity in undistributed income of subsidiaries	4,233	5,723
Equity in undistributed income of subsidiaries	7,199	7,137
Net income	\$ 11,432	\$ 12,860
Other comprehensive income (loss), net of taxes	(1,137)	(1,441)
Total comprehensive income	\$ 10,295	\$ 11,419

(1) Includes dividend income from investments in subsidiaries and associated corporations of \$27 million (October 31, 2019 - \$27 million).

(2) Includes a nominal share of profit (loss) from associated corporations (October 31, 2019 - nominal).

Note 32 Parent company information (continued)**Condensed Statements of Cash Flows**

(Millions of Canadian dollars)	For the year ended	
	October 31 2020	October 31 2019
Cash flows from operating activities		
Net income	\$ 11,432	\$ 12,860
Adjustments to determine net cash from operating activities:		
Change in undistributed earnings of subsidiaries	(7,199)	(7,137)
Change in deposits, net of securitizations	101,128	39,238
Change in loans, net of securitizations	(30,833)	(31,744)
Change in trading securities	404	2,350
Change in obligations related to assets sold under repurchase agreements and securities loaned	26,716	12,449
Change in assets purchased under reverse repurchase agreements and securities borrowed	(10,282)	(15,814)
Change in obligations related to securities sold short	(3,032)	797
Other operating activities, net	685	(8,149)
Net cash from (used in) operating activities	89,019	4,850
Cash flows from investing activities		
Change in interest-bearing deposits with banks	676	(2,018)
Proceeds from sales and maturities of investment securities	74,849	37,963
Purchases of investment securities	(101,551)	(39,461)
Net acquisitions of premises and equipment and other intangibles	(1,243)	(1,266)
Change in cash invested in subsidiaries	1,484	332
Change in net funding provided to subsidiaries	39,306	4,616
Net cash from (used in) investing activities	13,521	166
Cash flows from financing activities		
Issuance of subordinated debentures	2,750	1,500
Repayment of subordinated debentures	(3,000)	(1,100)
Issue of common shares, net of issuance costs	70	105
Common shares purchased for cancellation	(814)	(1,030)
Issue of preferred shares and other equity instruments, net of issuance costs	1,745	350
Redemption of preferred shares and other equity instruments	(1,508)	(950)
Dividends paid on shares and distributions paid on other equity instruments	(6,333)	(6,025)
Repayment of lease liabilities	(317)	
Net cash from (used in) financing activities	(7,407)	(7,150)
Net change in cash and due from banks	95,133	(2,134)
Cash and due from banks at beginning of year	14,264	16,398
Cash and due from banks at end of year	\$ 109,397	\$ 14,264
Supplemental disclosure of cash flow information		
Amount of interest paid	\$ 10,335	\$ 14,574
Amount of interest received	22,340	25,883
Amount of dividends received	1,977	1,694
Amount of income taxes paid	917	1,789

Note 33 Subsequent events

On November 2, 2020, we issued \$1,250 million of LRCN Series 2, at a price per note of \$1,000, with recourse limited to assets held by a third party trustee in a consolidated trust. The trust assets in respect of LRCN Series 2 consist of \$1,250 million of our Non-Cumulative 5-Year Rate Reset First Preferred Shares Series BR (Series BR) issued concurrently with LRCN Series 2 at a price of \$1,000 per Series BR. LRCN Series 2 bear interest at a fixed rate of 4% per annum until February 24, 2026, and thereafter at a rate per annum, reset every fifth year, equal to the 5-Year Government of Canada Yield plus 3.617% until maturity on February 24, 2081.

Management's Report on Internal Control over Financial Reporting

Management of Royal Bank of Canada is responsible for establishing and maintaining adequate internal control over financial reporting. Internal control over financial reporting is a process designed by, or under the supervision of, the President and Chief Executive Officer and Chief Financial Officer and effected by the Board of Directors, management and other personnel to provide reasonable assurance regarding the reliability of financial reporting and the preparation of financial statements for external purposes in accordance with International Financial Reporting Standards as issued by the International Accounting Standards Board. It includes those policies and procedures that:

- Pertain to the maintenance of records that, in reasonable detail, accurately and fairly reflect the transactions related to and dispositions of our assets;
- Provide reasonable assurance that transactions are recorded as necessary to permit preparation of financial statements in accordance with generally accepted accounting principles, and our receipts and expenditures are made only in accordance with authorizations of our management and directors; and
- Provide reasonable assurance regarding prevention or timely detection of unauthorized acquisition, use, or disposition of our assets that could have a material effect on our financial statements.

Due to its inherent limitations, internal control over financial reporting may not prevent or detect misstatements on a timely basis. Also, projections of any evaluation of the effectiveness of internal control over financial reporting to future periods are subject to the risk that the controls may become inadequate because of changes in conditions, or that the degree of compliance with the policies or procedures may deteriorate.

Management evaluated, under the supervision of and with the participation of the President and Chief Executive Officer and Chief Financial Officer, the effectiveness of our internal control over financial reporting as of October 31, 2020, based on the criteria set forth in *Internal Control – Integrated Framework (2013)* issued by the Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission. Based on that evaluation, management concluded that, as of October 31, 2020, internal control over financial reporting was effective based on the criteria established in the *Internal Control – Integrated Framework (2013)*.

The effectiveness of our internal control over financial reporting as of October 31, 2020, has been audited by PricewaterhouseCoopers LLP, Independent Registered Public Accounting Firm, as stated in their Report of Independent Registered Public Accounting Firm, which appears herein.

David I. McKay
President and Chief Executive Officer

Rod Bolger
Chief Financial Officer

Toronto, December 1, 2020

2 【主な資産・負債及び収支の内容】

上記「第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

3 【その他】

(1) 後発事象

2020年11月2日、当行は、LRCNシリーズ2を、1口当たり1,000ドルの価格で1,250百万ドル発行した。LRCNシリーズ2には、2026年11月24日まで年利4%の固定金利が付き、それ以降は2081年2月24日の満期までカナダの5年物国債の利回りプラス3.617%の金利（年利、5年利率見直し型）が付く。

2021年1月20日、当行は、2026年1月20日に満期を迎える発行済NVCC3.319%劣後無担保社債1,500百万ドルを、元本の100%および償還日まで（同日を除く。）の経過利息ですべて償還した。

2021年1月28日、当行は、NVCC劣後無担保社債1,000百万ドルを発行した。この社債には、2025年6月30日まで年利1.67%の固定金利が付き、それ以降は2033年1月28日の満期まで3ヶ月のCDORプラス0.55%の金利が付く。

(2) 訴訟およびその他

上記「1 財務書類」の監査済年次連結財務諸表の注記22「法人所得税」の「税務調査および査定」および注記25「訴訟」を参照のこと。

4 【カナダと日本における会計原則及び会計慣行の相違】

金融商品

分類

IFRS第9号「金融商品」では、金融資産は当初認識時に、償却原価で測定されるもの、純損益を通じて公正価値（以下「FVTPL」という。）で測定されるもの、またはその他の包括利益を通じて公正価値（以下「FVOCI」という。）で測定されるものの3つの測定カテゴリーのうち、いずれかの区分に分類される。分類区分により、金融商品の当初認識後の測定方法が決定される。

金融資産を償却原価、FVTPLまたはFVOCIのいずれかの区分へ分類する際は（a）金融商品の管理に関する事業モデルおよび（b）契約上のキャッシュ・フローの特性の両方を評価する。

- ・ FVTPLで測定するものとして指定されていない金融資産（公正価値オプション）は、当該金融資産が、契約上の元本および利息であるキャッシュ・フローの回収のために金融資産を保有すること（以下「HTC」という。）を目的とする事業モデルの中で保有され、かつ、金融商品の契約条件により、元本および元本残高に対する利息の支払のみ（以下「SPPI」という。）であるキャッシュ・フローが生じる場合に、償却原価で測定されるものとして分類および測定される。売却はこの目的に付随的なものであり、重要性がないか頻度が低いことが予想される。
- ・ FVTPLで測定するものとして指定されていない金融資産（公正価値オプション）は、当該金融資産が、契約上のキャッシュ・フローの回収と売却（以下「HTC&S」という。）の両方が目的の達成に不可欠である事業モデルの中で保有され、金融商品の契約条件により、特定の日にSPPIであるキャッシュ・フローが生じる場合に、FVOCIで測定するものとして分類および測定される。
- ・ その他の金融資産はすべてFVTPLに分類および測定される。
- ・ 資本性金融商品は、資産が売買目的で保有されておらず、企業結合において取得企業が認識した条件付対価でなく、FVOCIで測定するものとして指定するという取消不能の選択を当行が行う場合を除き、FVTPLで測定される。この選択は、金融商品ごとに実施される。
- ・ デリバティブには、(i)その価値が特定された基礎変数に応じて変動し、(ii)当初の純投資を全く要しないか、または市場要因の変動に対する反応が類似する他の種類の契約について必要な当初の純投資よりも小さく、(iii)将来のある日に決済される金融商品が含まれる。

IFRSでは、金融負債は以下に示される負債を除き、償却原価に分類および事後測定される。

- ・ 売買目的保有の金融負債（キャッシュ・フロー・ヘッジに指定されたデリバティブを除くデリバティブ金融商品を含む。）。
- ・ 当初認識時にFVTPLで測定するものとして指定された金融負債
- ・ 金融保証契約
- ・ 市場金利を下回る金利で貸付金を提供するコミットメント

日本GAAPでは、有価証券は、売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社株式および関連会社株式、またはその他有価証券に分類しなければならない。売買目的有価証券には、短期間の価格変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券が含まれる。満期保有目的の債券には、償還期限まで所有するという積極的な意思と能力に基づいて保有する社債およびその他の負債性証券が含まれる。その他有価証券には、売買目的有価証券、満期保有目的の債券、ならびに子会社株式および関連会社株式ではない有価証券が含まれる。

特定の日に返済（通常は利息付）を受けることを条件に、貸手が借手に現金またはその他の資産を引き渡すことにより生じる、負債性証券ではない非デリバティブ金融資産は、貸付金または債権に分類される。金融負債の分類に関する特定の指針はない。

デリバティブとは、(i) 基礎変数、想定元本および／または決済金額を有し、(ii) 当初純投資が不要であるか、またはその他の契約と比べて当初純投資をほとんど必要とせず、また (iii) 純額決済を要求または容認するか、もしくは実質的に純額決済と異ならない効果を有する金融商品である。

分類変更

IFRSでは、金融商品を当初認識時に特定のカテゴリーに分類した後、別のカテゴリーへの振替/分類変更が認められる状況を限定している。

- ・ 当初認識時に、純損益を通じて公正価値(以下「FVTPL」という。)で測定するものとして自主的に指定された金融資産または金融負債は、保有期間中は同カテゴリーから分類変更することはできない。言い換えると、金融資産または金融負債は、当初認識時にしか自主的にFVTPLに指定できない。しかし、ヘッジ手段として指定された、または再指定されたデリバティブはこの限りではない。
- ・ FVOCIで測定される資本性金融商品である金融資産の分類変更は認められない。
- ・ 非デリバティブ金融資産は、特定の金融資産の管理に関する企業の事業モデルの目的が変更された場合にのみ、分類が変更される。そのような変更は非常に稀であるとされ、外部的または内部的な変化の結果として企業の最高幹部により決定される。これらの変更は、企業の事業活動にとって重要であり、外部当事者に証明できるものでなくてはならない。

日本GAAPでは、売買目的またはその他有価証券から満期保有目的への分類変更は一般に認められていない。売買目的からその他有価証券への分類変更については、限られた状況においてのみ認められている(企業の経営者が外部の事業環境の変化または経営管理方針の変更によりトレーディング業務の廃止を決定した場合には、当該企業は売買目的として分類した有価証券をすべてその他有価証券に分類変更することができる。)

公正価値オプション

IFRSは、企業が当該指定をしないとすれば償却原価またはFVTOCIで測定していたであろう金融商品を、主として短期間のうちに売却もしくは買戻しを行う目的で取得したかまたは発生したものでなくても、当初認識時にFVTPLとして指定するという取消不能の選択(公正価値オプション)を行うことを認めている。IFRS(金融機関監督庁(OSFI)の要求事項による補足を含む。)では、金融商品は以下の要件を満たす場合に限り、公正価値オプションを通じてFVTPLとして分類することができる。

- (i) 金融資産については、(i) 当該資産の測定またはそれらに関連する利得もしくは損失の認識を異なったベースで行うことから生じる測定上または認識上の不整合を、その指定により解消または大幅に削減する場合(会計上のミスマッチ)、または(ii) IFRS第9号の適用範囲ではない、主契約である金融商品または非金融商品に組込デリバティブが含まれており、当該デリバティブが主契約に密接に関連していない場合。

- (ii) 金融負債については、(i)その指定により会計上のミスマッチを解消する場合、(ii)金融負債が、文書化されたリスク管理戦略または投資戦略に従って、公正価値ベースで管理されるポートフォリオの一部であり、経営幹部に対しても社内的にそのベースで報告されている場合、または(iii)主契約である金融商品または非金融商品に組込デリバティブが含まれており、当該デリバティブが主契約に密接に関連していない場合。

加えて、OSFIは通常、年間の総収益が62.5百万カナダドルを下回る会社への貸出金およびモーゲージ、または個人に対する貸出金およびモーゲージ、もしくはそれらの貸出金およびモーゲージで構成されるポートフォリオについては、公正価値オプションを使用しないように要求している。

日本GAAPには、公正価値オプションはない。

事後測定

FVTPLで測定するものに分類された金融資産(有効なヘッジ手段として指定されていないデリバティブ資産を含む。)は、公正価値で測定される。ただし、売却またはその他の処分によって生じる予想取引コストは差し引かれない。公正価値の変動は、当期の純損益に認識される。FVTPLで測定するものに分類されたまたは指定された金融負債(ヘッジ手段として指定されていないデリバティブ負債を含む。)は公正価値で測定される。当行自らの信用リスクに起因するFVTPLで測定するものに指定されたこれら負債の公正価値の変動は、その他の包括利益(以下「OCI」という。)に認識される。OCIでの認識額は、その後に純損益に振り替えられない。

償却原価に分類され測定される金融資産および金融負債に係る収益および費用は、実効金利法を用いて認識され、損失評価引当金を控除して表示される。

FVOCIに分類され測定される負債性金融資産は、公正価値で計上され、公正価値の変動(税効果考慮後)はOCIに認識される。ただし、実効金利法を使用して計算された利息、信用減損に係る利得および損失、ならびに為替差損益は純損益に認識される。

FVOCIに分類され測定される資本性金融資産は、公正価値で計上され、公正価値の変動(税効果考慮後)はOCIに認識される。ただし、企業の支払を受ける権利が確定している、投資の回収を目的としない配当は純損益に認識される。

認識の中止に際し、OCIに認識した負債性金融商品に係る利得および損失の累計額は純損益に振り替えられる。それに対し、資本性金融商品に係る利得および損失の累計額は認識の中止時においても純損益に振り替えられることはない。

デリバティブ商品(ヘッジ関係に指定されたものも含む。)は公正価値で測定される。デリバティブ商品の公正価値の変動は、当期の純損益に認識される。ただし、キャッシュ・フロー・ヘッジまたは在外営業活動体に対する純投資の為替エクスポージャーのヘッジとして指定されたデリバティブの有効部分を除く。これらはOCIで認識される。

IFRSでは、公正価値は、測定日時点で、現在の市場の状況下で市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格として定義される。デリバティブ商品を含む金融資産および金融負債の公正価値を算定する際には、企業自身の信用リスクおよび相手先の信用リスクを考慮する。IFRSは、特定の要件が満たされた場合に、会計方針の選択により、金融商品のポートフォリオの公正価値を正味のオープン・リスク・ポジションに基づいて測定するという例外措置を認めている。当行は、この方針を選択適用し、デリバティブを主とする金融商品の特定のポートフォリオの公正価値を、市場リスクまたは信用リスクに対する正味エクスポージャーに基づいて算定している。

取引コストは、FVTPLで測定するものとして分類された金融商品に関して生じる場合、費用計上される。FVTPLで測定するもの以外に分類された金融資産(例えば、償却原価およびFVOCI)の当該資産の取得に直接起因する取引コストは、当初の公正価値、または関連当事者取引の場合は当初認識額の一部として資産計上される。FVTPLで測定するもの以外に分類された負債の発行に伴い発生する取引コストは、負債の当初認識額から控除される。

日本GAAPでは、売買目的有価証券は、公正価値で計上され、公正価値の変動額は各期の純損益に認識される。満期保有目的に分類された有価証券、ならびに貸出金および債権は、利息法または定額法による償却原価で計上される。その他有価証券として分類された有価証券は、公正価値で計上され、評価差額金(税効果考慮後)は純資産の部のOCIに含まれる。認識の中止に際し、その他有価証券として分類された有価証券に係る、OCIに認識された利得および損失の累計額は純損益に振り替えられる。金融負債は、貸借対照表に、償却原価で計上することが要求される。

デリバティブ商品は公正価値で測定され、公正価値の変動は各期の純損益に認識される。ただし、ヘッジ会計に準拠しているデリバティブ商品を除く(下記の「ヘッジ会計」参照)。

時価とは、公正な評価額をいい、市場において形成されている取引価格、もしくは気配価格または指標等のその他市場相場価格に基づく価額をいう。市場価格がない場合には、公正価値として、合理的に計算された価額(適宜、信用リスクに関する調整が行われる。)が用いられる。

日本GAAPでは、金融資産(デリバティブを除く。)の取得により生じる取引コストは、当初認識時の算定額(取得原価)に加算される。ただし、当該コストが経常的に発生する費用で、個々の金融資産との対応関係が明確でない場合は、当初認識時に含めないことができる。また、社債発行費は、原則費用計上されるが、繰延資産として計上することもできる。その他の付随費用は、発生主義に基づいて認識される。

組込デリバティブ商品

IFRSでは、組込デリバティブは、デリバティブでない主契約も含んだ複合または混合金融商品に組み込まれており、組込デリバティブがなかった場合に契約によって求められるであろうキャッシュ・フローの一部または全部を、特定の金利、金融商品価格、コモディティ価格、外国為替レート、価格もしくはレートの指数、信用格付けもしくは信用インデックス、またはその他の変数(非金融変数の場合には、変数が契約当事者に固有のものではない場合に限る)に応じて修正することになるものである。

混合契約にIFRS第9号の適用範囲内の金融資産である主契約が含まれる場合、混合契約（すべての組込特性を含む）は、IFRS第9号に基づく分類において全体として評価される。組込デリバティブは区分されず、混合契約がSPPI要件を満たさない場合でも、混合契約である資産は、全体としてFVTPLで測定される。

主契約がIFRS第9号の適用範囲にない金融負債または金融資産である場合、組込デリバティブは当初認識時に主契約からの区分処理について評価される。かかる組込デリバティブは、(a)組込デリバティブの経済的特徴およびリスクが主契約の経済的特徴に密接に関連していない、(b)組込デリバティブと同一条件の独立の金融商品ならばデリバティブの定義を満たしている、(c)混合金融商品が、公正価値で測定して公正価値変動を純損益に認識するもの(FVTPL)でない場合は、主契約から分離され、デリバティブとして会計処理しなければならない。

組込デリバティブが主契約との区分を求められるようになった場合、単独のデリバティブ商品に関する既存の会計原則に基づき測定される。異なるリスク・エクスポージャーを有する複数の組込デリバティブがある場合、それぞれ容易に分離でき、独立しているものは個々に会計処理される。

日本GAAPでは、(a)組込デリバティブにより関連する金融資産または金融負債の元本が毀損する可能性がある、(b)独立した金融商品がデリバティブの定義を満たす、(c)複合金融商品が、公正価値で測定され公正価値変動を純損益に認識するものでない場合、組込デリバティブは主契約から分離され、デリバティブとして会計処理される。したがって、日本GAAPは、組込デリバティブの特徴およびリスクが主契約である金融資産または金融負債の特徴およびリスクと密接に関連していない組込デリバティブについて、組込デリバティブにより金融資産または金融負債の元本が毀損しない場合には組込デリバティブは主契約から分離されないという点において、IFRSと異なる。日本GAAPには、複数の組込デリバティブの分離に関する特定の指針はない。

金融保証

IFRSでは、金融保証契約とは、特定の債務者が負債性金融商品の当初または変更後の条件に従った期日の到来時に支払を行わないことにより保証契約保有者に発生する損失を、その保証契約保有者に対し補償することを契約発行者に要求する契約をいう。契約発行者は、契約を一定の条件を満たすことを条件として保険契約として会計処理することを選択する場合を除いて、金融保証契約の定義を満たす契約はすべて金融負債として会計処理する。債務不履行により発生した損失以外の、変数(例えば、金利、信用格付等)の変動に応じて支払が求められる、あるいはデリバティブの定義を満たす金融保証契約は、デリバティブとして会計処理される。

金融保証契約は、当初、保証の発行を引き受けた債務の公正価値で認識される。当初認識後は、金融保証契約は、(i)当初認識額から収益認識累計額を控除した金額(償却累計額)と(ii)IFRS第9号に基づいて算定された損失評価引当金のうちいずれか高い方の金額で測定される。ただし、これらの要件は、金融保証契約が当初FVTPLに指定された場合、または金融保証契約が他の当事者への金融資産・金融負債の譲渡時に締結されるかまたは保持されており、かつ金融資産の認識中止を妨げるか継続的関与を生じさせる場合には、適用されない。

日本GAAPでは、保証の発行に際して金融機関が引き受けた債務は、「支払承諾」として貸借対照表に認識される。対照勘定として、「支払承諾見返」が資産に計上される。当該債務および対照勘定は、保証額で当初認識される。

金融資産の認識の中止

IFRSでは、金融資産またはその一部の認識が中止されるのは、(i)キャッシュ・フローに対する権利が失効している時、(ii)譲渡人がキャッシュ・フローに対する権利、およびリスクと経済価値のほとんどすべてを移転している場合、(iii)リスクと経済価値のほとんどすべてを移転も保持もしていないが、金融資産に対する支配が移転している場合である。リスクと経済価値のほとんどすべてを移転も保持もしておらず、かつ金融資産に対する支配が移転していない場合には、譲渡人はその継続的関与の範囲で金融資産を認識することになる。

日本GAAPでは、(i)金融資産の契約上の権利を行使したとき、(ii)契約に基づく権利を喪失したとき、または(iii)契約上の権利に対する支配が譲受人に移転したときに金融資産の認識は中止される。

負債および資本

IFRSでは、各金融商品またはその構成部分は、当初の認識時の契約上の合意の実質、ならびに金融負債および資本性金融商品の定義に従って、負債または資本として当初認識時に分類される。企業が発行する金融商品(優先株式を含む。)で、現金またはその他の金融資産を譲渡する契約上の義務を含んでいるもの、または保有者による転換に基づく可変数の普通株式の発行により決済することができるもの、および関連する未払の分配金は、負債として分類される。同様に、保有者の選択による転換社債は、金融負債および資本部分から構成される。負債として分類される金融商品(またはその構成部分)に係る配当金および利益分配金は、損益計算書上、支払利息として表示される。

例外規定として、プッタブル金融商品ならびに清算時にのみ企業の純資産に対する比例的な持分を他の当事者に引き渡す義務を企業に課す金融商品もしくはその構成部分は、IFRSの下での一定の条件を満たす場合に資本性金融商品として分類される。

日本GAAPでは、発行体の金融商品は、通常、その商品の法的な形式に従って負債または資本のいずれかに分類される。優先株式は資本とみなされる。転換社債は、その構成部分(主契約である社債および転換権)または単一の混合金融商品のいずれかで表示される。ただし、企業が構成部分の区分処理を選択した場合、日本GAAPに基づく区分処理の方法およびその結果算定される構成部分の帳簿価額はIFRSに基づくものと異なる可能性がある。また、転換権が行使されなかった場合には、資本に認識していた金額はその金融商品の期限到来時に純損益に認識しなければならない。

償却原価で測定する金融資産の減損

IFRSでは、金融資産の減損は3つのステージから成る予想信用損失(以下「ECL」という。)減損モデルに基づき測定される。

ECLは金融資産の予想存続期間にわたる信用損失の確率加重した見積りである。信用損失は、予想回収不能額の現在価値である。回収不能額は、a)契約に従って企業が受け取るべきキャッシュ・フローと、b)企業が受け取ると見込んでいるキャッシュ・フローとの差額である。ECLの見積りには、過去の事象や現在の状況に関する情報および将来の経済状況の予測(将来予測的情報)といった、過大なコストや労力を掛けずに利用可能な合理的で裏付け可能な情報を反映することが求められる。

未使用のローン・コミットメント(代表的には、未使用分に対する限度額のあるクレジットカードを含むリボルビング信用枠)については、回収不能額は、a)コミットメントの保有者がローンの引き出しを行った場合に企業が受け取るべき契約上のキャッシュ・フローと、b)コミットメントが使用された場合に企業が受け取ると見込んでいるキャッシュ・フローとの差額である。

損失評価引当金(以下「ACL」という。)はすべての金融資産に対して設定される。ただし、減損評価の対象ではない、FVTPLで測定するものとして指定した金融資産およびFVOCIで測定するものとして指定した資本性商品を除く。

各貸借対照表日のACLは、3つのステージから成るECL減損モデルに従って測定される。

- ・ 正常な金融資産
 - ・ ステージ1 金融資産の当初認識時から、資産の当初認識時以降の信用リスクが相対的に著しく増大した日までの間は、報告日から12ヶ月間にわたり債務不履行から生じると予想される信用損失相当の損失評価引当金が認識される。
 - ・ ステージ2 金融資産の当初認識時以降に信用リスクが相対的に著しく増大した場合は、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の損失評価引当金が認識される。
- ・ 減損した金融資産
 - ・ ステージ3 報告日において信用が減損しているとみなされるが、購入時または組成時に信用減損していなかった金融資産は、資産の残存期間にわたる予想信用損失相当の損失評価引当金が認識される。この損失評価引当金は、帳簿価額総額(または減損調整前の償却原価)と将来キャッシュ・フローを資産の当初実効金利で割引いた現在価値との差額として測定される。金利収益は、当該資産の帳簿価額総額ではなく、損失評価引当金控除後の帳簿価額をもとに計算される。

金融商品の予想存続期間は、ECLが測定される最長の期間であり、金融資産に係る信用リスクに対するエクスポージャーが存在する契約期間(延長オプションを含む。)に基づくものである。ローン・コミットメントおよび金融保証契約については、当該期間は企業が信用を供与する現在の契約上の義務を有する最長の契約期間である。

一部の金融商品には、ローンと未使用コミットメント部分の両方を含んでいるものがあり、企業が返済を要求し未使用コミットメントを解約する契約上の能力は、信用損失に対する企業のエクスポージャーを契約上の通知期間に限定しない。このような商品について(かつ、当該商品についてのみ)、企業のECLの測定は、企業が信用リスクに晒される期間、かつ、ECLが信用リスク管理行動によって軽減されない期間(たとえ当該期間が最長の契約期間を超えて延長される場合でも)にわたる行う。

残存期間にわたるECLが認識された金融資産について、信用リスクがその後改善し、残存期間にわたるECLの認識要件が満たされなくなった場合、損失評価引当金は12ヶ月のECLに相当する金額で測定される。

日本GAAPでは、償却原価で計上される満期保有目的の有価証券の公正価値が帳簿価額(償却原価)を下回って著しく下落した場合、当該資産の帳簿価額は見積公正価値まで減額される。

債権は取得価額から貸倒引当金を控除した金額とされる。日本GAAPでは、貸倒見積高の算定にあたっては、債務者の財政状態および経営成績等に応じて、債権を次の3つに区分する必要がある。

一般債権は経営状態に重大な問題が生じていない債務者に対する債権である。一般債権の貸倒見積高は、過去の貸倒実績率等合理的な基準により見積られる。

貸倒懸念債権は、経営破綻の状態には至っていないが、債務の弁済に重大な問題が生じているか、または生じる可能性の高い債務者に対する債権である。貸倒懸念債権の貸倒見積高は、次のいずれかの方法により見積られる。

- ① 債権額から担保の処分見込額および保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態および経営成績を考慮して貸倒見積高を算定する方法(財務内容評価法)。
- ② 債権の元本の回収および利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、(a)合理的に見積られた、当初の約定利率で割り引いたキャッシュ・フローと、(b)債権の帳簿価額との差額を貸倒見積高とする方法(キャッシュ・フロー見積法)。

破産更生債権等は、経営破綻または実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権である。貸倒見積高は、債権額から担保の処分見込額および保証による回収見込額を減額した残額とする。

満期保有目的の有価証券の減損損失の戻入処理は認められていない。債権の貸倒引当金は、貸倒見積高に基づいて修正される。

FVOCIで測定する負債性金融商品である金融資産の減損

IFRSでは、FVOCIで測定される負債性金融商品である金融資産について純損益に認識された貸倒引当金繰入額は、償却原価で測定する金融資産と同様の原則に基づき算定される。ただし、これらの金融資産の帳簿価額は公正価値であるため、財政状態計算書において損失評価引当金は計上されない。

日本GAAPでは、その他有価証券の公正価値が帳簿価額を下回って著しく下落した場合、OCI累計額に認識された未実現損失の累計額はOCI累計額から消去され、当該期間の純損益に認識される。減損損失の戻入処理は認められていない。

ヘッジ会計

IFRS第9号で認められる通り、当行は、IFRS第9号に基づくヘッジ会計原則ではなく、国際会計基準第39号に基づく現行のヘッジ会計原則を引き続き適用することを選択している。そのため、以下の原則はIAS第39号に基づくものである。

IFRSでは、デリバティブについてヘッジ会計を適用するための要件、および認められたヘッジ戦略としての公正価値ヘッジ、キャッシュ・フロー・ヘッジ、在外営業活動体に対する純投資のヘッジのそれぞれについてヘッジ会計をどのように適用しなければならないかについて規定している。

公正価値ヘッジ関係においては、ヘッジ対象の帳簿価額は、ヘッジ対象リスクに起因した公正価値の変動に応じて修正され、当該期間の純損益に認識される。ヘッジ対象の公正価値の変動は、ヘッジ関係が有効な範囲で、ヘッジ手段のデリバティブの公正価値の変動と相殺され、純損益に認識される。ヘッジ会計が中止された場合には、ヘッジ対象の帳簿価額は調整されず、ヘッジ対象の帳簿価額に対する公正価値調整額の累計額は、ヘッジ対象の残存期間にわたり償却され、当期純利益に計上される。

キャッシュ・フロー・ヘッジ関係においては、ヘッジ手段のデリバティブの公正価値の変動の有効部分は、OCIに認識される。非有効部分については、当該期間の純損益に認識される。ヘッジ会計が中止された場合には、OCIに認識されていた累計額は、ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動が純損益に影響を与える期間に純損益に振り替えられる。

在外営業活動体に対する純投資の為替エクスポージャーのヘッジにおいては、ヘッジ手段(デリバティブまたは非デリバティブ)に係る為替差損益の有効部分は、OCIに認識される。非有効部分については、当該期間の純損益に認識される。これまでOCIに認識されていた金額またはその一部は、在外営業活動体の処分または一部の処分が行われた時点で、純損益に振り替えられる。

採用しているヘッジ戦略にかかわらず、法律または規制、もしくは新たな法律または規制の導入の結果として生じた、清算機関とのヘッジ手段として利用しているデリバティブの更改の場合には、ヘッジ会計の終了とはならない。

ヘッジ会計の中止は、ヘッジ手段がもはやヘッジとして有効ではないと判断された場合、ヘッジ手段またはヘッジ対象が終了または売却された場合、もしくは予定取引の実行可能性が非常に高いとはいえなくなった場合に行われる。

今後の金利指標改革（以下「改革」という。）に対応して、当行は最近公表されたIFRS第9号「金融商品」、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」、IFRS第7号「金融商品：開示」の修正（以下「修正」という。）を2019年11月1日より早期適用した。この修正は、代替的な金利へ移行する前の期間に生じる金利指標改革（以下「改革」という。）に伴う不確実性の影響について、救済措置を設けるためにヘッジ会計の特定の規定を暫定的に修正するものである。当行は、銀行間取引金利（以下「IBOR」という。）に基づくキャッシュ・フローから新たなリスクフリーの金利に基づくキャッシュ・フローへの移行が行われた時点、または救済措置の適用されたヘッジ関係が中止された時点で、これら修正の適用を終了する。

日本GAAPでは、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」が、デリバティブにヘッジ会計を適用するために満たすべき基準を規定している。

デリバティブ金融商品について、会計基準により定められたヘッジ会計の要件を満たす場合には、原則として「繰延ヘッジ会計」（ヘッジ手段の公正価値の変動に係る損益を繰り延べ、ヘッジ対象に係る損益が認識されるのと同じ会計期間に認識する。）を適用する。適格なヘッジについて繰延べられた利得または損失は、OCI累計額に計上することが求められる。ヘッジ対象である資産または負債に係る相場変動等を損益に反映させることができる場合には、「時価ヘッジ会計」（ヘッジ手段とヘッジ対象の両方の損益を同一の会計期間に認識する。）を適用できる。

日本GAAPは、公正価値ヘッジおよびキャッシュ・フロー・ヘッジを区別していない。ただし、在外営業活動体に対する純投資の為替エクスポージャーのヘッジの原則は、IFRSと日本GAAPで類似している。

日本GAAPでは、ヘッジ関係が高い有効性を保っている場合、ヘッジ手段のデリバティブに係る損益の非有効部分は、純資産に有効部分とともに繰り延べられるか、または非有効部分が合理的に区分できる場合は純損益に認識することができる。

日本GAAPでは、ヘッジ関係にあるヘッジ手段のデリバティブに係る契約更改に関する規定はない。ヘッジ関係にある契約期間中の契約更改は、ヘッジ会計の終了となる。

2020年9月、企業会計基準委員会は実務対応報告第40号「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」を公表した。本実務対応報告は、2023年3月31日以前に終了する期間までにヘッジ会計が適用される適格金融商品について救済措置を提供している。日本GAAPの実務対応報告は、実行可能性が非常に高いというヘッジ会計適用要件に対するIFRSの修正と趣旨は同じである。

企業結合、のれんおよびその他の無形資産

IFRSにおいて事業とは、顧客への財またはサービスの提供、（配当金または利息等の）投資収益の生成または通常の活動から他の収益を生み出す目的で実施し管理することができる、活動および資産の統合された組合せと定義される。すべての企業結合は、取得法を用いて会計処理される。取得した識別可能な資産および引き受けた負債は、取得日公正価値で測定される。別途記載のある場合を除き、非支配持分（該当ある場合）は、識別可能資産および負債の公正価値に対する非支配持分の比例的な取り分で認識されている。のれんは、取得した事業に対して支払われた価格が、取得した識別可能な純資産の取得日における公正価値を超過する金額を表す。取得した識別可能な純資産の公正価値が支払われた価格を上回る場合は、負ののれんまたは割安購入益のいずれかが生じ、これは純損益に認識される。IFRSでは、のれんは企業結合から生じる相乗効果から利益を受け取ることが見込まれる資金生成単位（以下「CGU」という。）またはCGUグループに配分される。この配分は、のれんが内部で監視されるレベル（企業の事業セグメントの規模に制限される）に基づいて行われる。

のれんの減損は年に1回、あるいは事象または状況が減損していることを示している場合はより頻繁に評価される。のれんを含むCGUの帳簿価額が回収可能価額（売却コスト控除後の公正価値または使用価値のいずれか高い方の金額と定義される）を上回る場合、そのCGUは減損しているとみなされる。使用価値は、CGUから生じる見積将来キャッシュ・フローの現在価値である。減損損失は、減損が識別された期間の純損益に認識される。減損損失は、まずのれんを減額することで配分され、残りはCGUのその他の資産にそれぞれの帳簿価額に基づいて比例配分される。のれんの減損損失のその後の戻入は認められない。のれんは償却されない。

のれんが配分されているCGUの一部を売却する際、売却されるCGU部分に関連するのれんの帳簿価額は、その売却損益の算定に含まれる。帳簿価額はCGUの合計額のうち売却対象部分に関連する公正価値に基づいて算定される。

その他の無形資産は、区別できるか、契約上の権利またはその他の法的権利から生じたものであり、かつその公正価値が信頼をもって測定できる場合、のれんとは区分して認識される。耐用年数を確定できるその他の無形資産は、その見積耐用年数にわたり定額法で償却され、年1回減損の兆候の有無について検討される。減損損失は純損益に認識される。

各報告日現在で、以前に認識した減損損失が減少していることが示されている場合、その他の無形資産の帳簿価額は、回収可能価額と、減損が認識されていなかったとした場合に算定されていたであろう帳簿価額(償却控除後)のいずれか低い方の金額まで修正される。

日本GAAPでは、企業結合の会計処理にパーチェス法の適用が求められる。日本GAAPに基づくパーチェス法は、IFRSに基づく取得法と類似しているが、非支配株主持分の測定を取得日における被取得企業の識別可能資産に対する現在の持分で行うことのみが認められている点は除く。日本GAAPでは、IFRSと異なり、非支配株主持分を公正価値で直接測定することは認められていない。

のれんは、譲渡対価が識別可能純資産の公正価値を上回る金額を表し、負ののれんはその逆を表す。のれんは合理的な基準でそれぞれの資産グループに配分される。のれんは20年以内の期間にわたり定額法により償却され、減損も評価される。減損を評価する際に、のれんを合理的な基準でそれぞれの資産グループに配分することができる。負ののれんは識別可能資産および負債の認識および測定を再評価した後に、利益として認識される。

日本GAAPでは、減損損失は資産の減損の兆候が存在する場合に減損テストを行う。減損のテストでは、資産の帳簿価額が資産からの割引前将来予想キャッシュ・フローを超過する場合に減損損失を認識することとし、回収可能価額を算定し、帳簿価額と回収可能価額の差額を算定して減損損失として測定する。のれんを含む資産グループに帰属する減損損失は最初にのれんに配分され、その後各資産の帳簿価額に基づく比例按分等の合理的な基準によりその他の資産に配分される。

取得したその他の無形資産は、分離可能かつ移転可能な場合に個別に認識される。取得原価は、分離可能なその他の無形資産を含むすべての取得資産に配分される。

日本GAAPでは、その他の無形資産はすべて、通常定額法で償却される。

のれんおよびその他の無形資産に係る減損損失の戻入処理は認められていない。

従業員の将来給付

IAS第19号「従業員給付」では、確定給付制度に関して、従業員の将来給付に係る負債および費用は、将来給付の対価として、従業員が勤務を提供したときに認識される。

確定給付負債(資産)の純額は、各報告日現在で測定されなければならない。確定給付債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除したものとして算定され、確定給付資産の純額は資産上限額に対する制限に係る影響が調整される。確定給付債務の現在価値は、予測単位積増方式を用いて計算されており、従業員の退職時までの報酬水準ならびに健康、歯科、就業不能、生命保険の費用の予測に基づいている。IFRSは確定給付制度に関する数理計算上の評価の実施時期を指定しておらず、数理計算上の評価日から報告日までのその後の重要な事象(市場価格および金利の変動を含む。)について調整することにより、期末より前に実施することが可能である。

確定給付費用には、当期勤務費用、過去勤務費用に対する調整(制度改訂、縮小あるいは清算に係る利得または損失から生じる。)、確定給付負債(資産)の純額に係る利息純額、および確定給付負債(資産)の純額の再測定に関する、従業員確定給付費用が含まれる。

確定給付負債(資産)の純額の再測定は、(i)数理計算上の差異(確定給付債務の現在価値の増加または減少により生じる。)、(ii)制度資産に係る収益(確定給付負債(資産)の純額に係る利息純額に含まれる金額を除く。)、および(iii)資産上限額の影響の変動(確定給付負債(資産)の純額に係る利息純額に含まれる金額を除く。)からなる。従業員退職後給付に係る確定給付負債(資産)の純額の再測定はOCIに認識され、その後の期間に純損益に振り替えられることはない。しかし、OCIを通じて認識した累計額を資本の別の項目に振り替えることはできる。その他の長期従業員給付に係る確定給付負債(資産)の純額の再測定は、純損益に即時認識される。

過去勤務費用は全額、(i)制度改訂または縮小が発生したとき、(ii)制度改訂または縮小がリストラクチャリングの一環として発生した場合に、その関連するリストラクチャリングのコストが認識されるとき、および(iii)制度改訂または縮小が解雇給付に関係している場合に、その関連する解雇給付が認識されるとき、のいずれか早い日に従業員給付費用として直ちに認識される。

確定給付債務は、優良社債の利回り、または十分に厚みのある優良社債の市場がない場合は国債の利回りをを用いて割り引かれる。制度資産は公正価値で評価される。確定給付負債(資産)の純額に係る利息純額は、報告期間の開始日時点の確定給付債務を測定するのに用いられる割引率を適用することによって算定し、拠出および給付支払による確定給付負債(資産)の純額の期中の変動を考慮に入れる。

確定給付制度資産がその債務を上回っている場合、認識される資産純額は制度からの返還または制度への将来掛金の減額の形で利用可能な経済的便益の現在価値に限定される。

縮小は過去勤務費用を生じさせ、(i)縮小がリストラクチャリングの一環として発生した場合に、その関連するリストラクチャリングのコストが認識されるとき、(ii)縮小が解雇給付に関係している場合に、その関連する解雇給付が認識されるとき、および(iii)縮小が発生したとき、のいずれか早い日に認識される。清算による利得および損失は、清算が発生したときに純損益に認識される。

日本GAAPでは、「退職給付に関する会計基準」に準拠して、退職給付は数理計算による評価方法に基づいて認識される。

IFRSとは異なり、数理計算上の差異は、(a)制度の対象となる従業員グループの見積平均残存勤務期間以内の一定の期間にわたって償却されるか、(b)発生した期に費用処理される。

IFRSとは異なり、過去勤務費用はすべて、(a)従業員の平均残存勤務期間以内の一定の期間にわたり規則的な方法により償却されるか、(b)発生時に費用処理される。

純損益に認識されていない数理計算上の差異および過去勤務費用は、税効果考慮後に純資産の部(OCI累計額)に認識され、不足額または超過額は負債(退職給付に係る負債)または資産(退職給付に係る資産)として認識され、調整はなされない。当期に発生した数理計算上の差異および過去勤務費用のうち、純損益に認識されていない部分はOCIに認識される。過去の期間にOCI累計額に認識された数理計算上の差異および過去勤務費用のうち、当期の純損益に認識された部分は、組替調整を行う。

確定給付債務は、期末における長期国債、政府機関債および優良社債の利回りに基づいた利率を用いて割り引かれる。ただし、期中に割引率に著しい変動がない場合には、前期の割引率を使用することができる。

利息費用は、報告期間の期首の退職給付債務の測定に用いられた割引率の適用により算定され、資産の期待運用収益は、報告期間の期首の年金資産に係る期待運用収益率に基づいて算定される。

日本GAAPでは、確定給付制度の制度資産が債務を上回る際に実施される、資産上限額のテストに関する特定の指針は規定していない。

年金以外の退職後給付および雇用後給付について包括的な会計基準は存在せず、発生時に費用計上される。

株式に基づく報酬

IFRSでは、従業員に付与された持分決済型の株式に基づく報酬(株式、ストック・オプション、または他の資本性金融商品)は、付与日現在の資本性金融商品の公正価値に基づいて測定され、認識される。報酬費用は、従業員のサービスが提供される期間(権利確定期間)にわたって、勤務条件を満たしている場合の資本性金融商品の数に基づき認識され、これに対応して資本が増加する。IFRSは、権利が確定したストック・オプションが行使されずに失効しても、過去に認識した報酬費用の戻入を認めていない。

現金決済型の株式に基づく報酬取引について、受け取った財またはサービスおよび発生した負債は、当初、その負債の公正価値で測定される。各報告日および決済日に負債が公正価値で再測定され、公正価値の変動はその期間の純損益に認識される。

日本GAAPでは、会社法(2006年5月1日)の発行日より後に従業員に付与された持分決済型の株式に基づく報酬は、発行された資本性金融商品の公正な評価額に基づいて測定され、認識される。日本GAAPでは、報酬費用の認識、新株予約権の純資産への計上が求められている。IFRSと異なり、失効したストック・オプションに対応する新株予約権は、権利が確定したストック・オプションが行使されずに失効した時点で純損益に認識される。会社法の発行日より前に付与されたものについては、包括的な会計基準が存在しなかったため、費用は認識されなかった。日本GAAPは、現金決済型の株式に基づく報酬取引に関する会計処理については言及していない。

子会社(組成された企業を含む)の連結

IFRS第10号「連結財務諸表」では、企業の連結は支配の概念に基づいており、継続的に判定される。ある企業が別の企業(組成された企業(以下「投資先」という。)を含む。)に対する支配を有している場合、連結が要求される。企業が(i)投資先に対するパワー、(ii)投資先への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャーまたは権利、および、(iii)企業のリターンの額に影響を及ぼすように投資先に対するパワーを用いる能力を有する場合、支配は存在する。

企業は、投資先の関連性のある活動を指図する現在の能力を投資者に与える既存の権利を有する場合には、投資先に対するパワーを有している。企業が、議決権の過半数を直接的にまたは子会社を通じて間接的に所有する場合、あるいは議決権がないまたは決定的な要因とならない場合でも、その他の要因((i)投資先の目的および設計、(ii)関連性のある活動は何か、および当該活動に関する意思決定がどのように行われるか、ならびに(iii)企業の権利が関連性のある活動を指図する現在の能力を投資者に与えているかどうかを含む。)を考慮する必要がある場合、パワーが存在している可能性がある。

投資先に対するパワー、および変動リターンに対するエクスポージャーまたは権利を有する企業が、主に自らの便益のためにそのパワーを用いる能力を有している場合、当該企業は本人であり、支配を有していると考えられる。企業が主にその他の投資者/持分保有者の便益のためにそのパワーを用いる能力を有している場合は、当該企業は代理人であり、支配を有しているとは考えられない。

IFRSに基づき連結が必要な場合、在外子会社の財務諸表が現地のGAAPに準拠している場合は、親会社との連結前に、IFRS(つまり親会社が適用しているGAAP)に従って作成されなければならない。

日本GAAPでは、IFRSと同様に、子会社および特別目的事業体の連結は支配の概念に基づいている。親会社およびその子会社(在外子会社を含む。)が採用する会計原則および手続は統一され、同一の取引および事象は一貫して処理される。ただし、日本GAAPの親会社との連結目的においては、在外子会社の財務諸表(在外特別目的事業体を含む。)の作成にIFRSの使用が認められている。

以下の特定の項目がグループの連結財務諸表にとって重要である場合、これらの項目については、連結手続上日本GAAPと整合するように修正されなければならない。

- (1) のれんの償却(のれんが償却されていない場合のみ)
- (2) OCIで認識されその後損益にリサイクルされていない確定給付制度に係る数値計算上の差異
- (3) 開発段階で発生した無形資産の資産計上
- (4) 投資不動産の公正価値測定、ならびに有形固定資産および無形資産の再評価モデル
- (5) FVOCIとして分類および測定する資本性金融商品の組替調整(2019年11月1日以降)

日本GAAPでは、特定の特別目的会社(例えば、資産の流動化に関する法律に基づいて設立された特別目的会社)については、特別目的会社が適正な価額で譲り受けた資産から生ずる収益を当該特別目的会社が発行する証券の所有者に享受させることを目的として設立され、当該特別目的会社の事業がその目的に従い適切に遂行されているときは、当該特別目的会社に資産を譲渡した会社から独立しているものと認め、当該特別目的会社に資産を譲渡した会社の子会社に該当しないものと推定される。したがって、当該要件を満たす特別目的会社は、連結の範囲に含まれないことになる。

共同支配の取決めに對する持分の会計処理

IFRS第11号「共同支配の取決め」では、企業は、関与している共同支配の取決めの種類を、共同支配事業または共同支配企業のいずれかに決定しなければならない。その際は、共同支配の取決めから生じる権利および義務を検討する。共同支配事業とは、取決めに対する共同支配を有する企業が当該取決めに関する特定の資産に対する権利および特定の負債に対する義務を有している共同支配の取決めである。共同支配企業とは、取決めの共同支配を有する企業が当該取決めの純資産に対する権利を有している共同支配の取決めである。

IFRSは、共同支配事業者に対して、当該取決めに対する持分に関する資産および負債を認識し測定することを要求しており、共同支配投資者に対して、当該共同支配の取決めに対する持分の会計処理に関して、持分法を適用することを要求している。

日本GAAPでは、共同支配の取決めに関するそれ自体の会計基準はない。企業会計基準第21号「企業結合に関する会計基準」に従って、共同支配企業に対する持分には持分法が用いられる。

売却目的で保有する非流動資産および非継続事業

IFRSでは、非流動資産(または処分グループ)は、その帳簿価額が継続的使用ではなく主に売却取引により回収される場合に、売却目的保有に分類される。この条件を満たすためには、資産は現状のままで直ちに売却が可能でなければならない、その売却の可能性が非常に高くなければならない。

売却目的保有に分類された非流動資産(または処分グループ)は、帳簿価額と売却コスト控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定され、重要性がある場合には貸借対照表上区分表示される。売却目的保有に分類された非流動資産(または処分グループ)に関連する収益または費用の累計額は認識され、損益計算書において区分表示される。ただし、非流動資産(または処分グループ)が売却目的保有に分類された場合、比較貸借対照表は修正再表示されない。

売却目的保有に分類された資産は償却または減価償却されない。

IFRSでは、非継続事業とはすでに処分されたか、または売却目的保有に分類されている企業の構成単位で、(i)独立の主要な事業分野または営業地域を表す、(ii)独立の主要な事業分野または営業地域を処分する統一された計画の一部である、または(iii)転売のみを目的に取得した子会社である。

非継続事業は損益計算書上、区分表示され、関連するキャッシュ・フロー情報が開示される。非継続事業についての損益計算書およびキャッシュ・フローの比較情報は再表示される。

日本GAAPでは、売却目的保有の非流動資産および非継続事業に関して明記した会計上の指針はない。

固定資産の減損

IFRSでは、固定資産は事象または状況の変化が、その帳簿価額が回収可能でないことを示す場合には減損の兆候の有無について検討されテストが実施される。

減損損失は、固定資産の帳簿価額がその回収可能価額(売却コスト控除後の資産の公正価値とその使用価値のいずれか高い方の金額)を上回る場合に認識される。その後、評価された回収可能価額が増加した場合、過去に認識した減損損失を戻し入れ、当該資産の帳簿価額はその回収可能価額まで増加される。減損損失の戻入による資産の帳簿価額の増加額は、過年度に当該資産について認識された減損損失がなかった場合に算定されていたであろう帳簿価額(償却または減価償却控除後)を上回ることはいない。

日本GAAPでは、固定資産の減損損失は、その帳簿価額が固定資産の使用および使用後の処分により生じると見込まれる割引前キャッシュ・フローの総額を上回る場合に認識される。減損損失は、固定資産の帳簿価額が回収可能価額(処分費用見込額控除後の資産の時価またはその使用価値のいずれか高い方の金額)を上回る金額として測定される。評価された回収可能価額がその後増加しても、減損損失は戻し入れない。

引当金

IFRSでは、過去の事象から生じる法的債務あるいは推定的債務について、資源の流出の可能性が高く、その金額を信頼性をもって見積ることができる場合に認識される。

引当金は、発生が見込まれる支出の最善の見積りとして測定され、割引の影響が大きい場合は割り引かれる。最善の見積額を算定する際に、関連するリスクと不確実性が考慮される。引当金は各報告期間末に再検討され、新たな最善の見積りを反映するように修正される。

補填の権利は、回収がほぼ確実である場合に、関連する引当金額を上限として、別個の資産として認識される。

国際財務報告解釈指針委員会(以下「IFRIC」という。)第21号「賦課金」は、IAS第37号「引当金」の適用範囲にある賦課金支払負債の会計処理を示すものである。また、時期および金額が確定している賦課金支払負債の会計処理も示す。この解釈指針では、債務を回避する現実的な契機が存在しない場合でも、法令で特定された債務発生事象が生じるまで賦課金は認識されないことを明確化している。債務発生事象が一定の期間にわたり発生する場合、負債は徐々に認識される。

日本GAAPでは、引当金は、(i)将来の特定の費用または損失の発生可能性が高く、(ii)その発生が当期以前の事象に起因し、(iii)その金額を合理的に見積ることができる場合に認識される。引当金はIFRSと同様に発生が見込まれる支出の最善の見積りとして測定される。

将来の支出の割引や、補填の権利の認識について明記した規定はない。

資本調達費用および株式発行費用

IFRSでは、発行する金融商品は、現金またはその他の金融資産を譲渡する契約上の義務がない場合は資本として分類される。資本性金融商品の発行に直接起因する取引費用は、手取金額からの控除(税効果考慮後)として資本に含める。

自己の資本性金融商品(自己株式)の企業による買戻しは資本からの控除として認識される。自己株式の売却に関連する利得または損失は、純損益ではなく利益剰余金に認識される。

日本GAAPでは、株式の発行に関連する取引費用は、通常、発生時に費用計上される。ただし、企業規模拡大のための財務活動に係る場合には、繰延資産に計上することができ、3年以内のその効果が及ぶ期間で定額法を用いて償却する。

1株当たり利益

IFRSでは、1株当たり利益は、普通株主に帰属する純損益を、期中発行済普通株式の加重平均株式数(自己株式を除く。)で除して計算される。普通株主に帰属する純損益は、優先株主の優先配当額、優先株式の償還に係る利得(損失)(税効果考慮後)、および非支配持分に帰属する純損益を控除した後の金額で算定される。

希薄化後1株当たり利益には、将来、株主が普通株式を受け取ることができる有価証券または契約に基づき、追加の普通株式が発行されることが想定される場合、そのような権利における条件が満たされる範囲で、その希薄化効果が反映される。

発行済コール・オプション、ワラントおよびそれらの同等物の希薄化効果は、希薄化後1株当たり利益に反映されなければならない。IFRSでは、行使価格が発行体の普通株式の平均市場価格を下回っているストック・オプションは行使されたものとみなし、受取金は普通株式を当期中の平均市場価格で買い戻すのに使用されたと仮定される。ストック・オプションにより発行され、受取金で買い戻される普通株式の増加数は、希薄化後1株当たり利益の計算に含められる。

転換可能証券の希薄化効果は、希薄化後1株当たり利益に反映されなければならない。IFRSでは分子は、転換可能優先商品のリターン、転換可能金融負債に係るその他の収益変動額、および希薄化性転換可能証券の転換を仮定した場合に生じる自由裁量のない収益または損失の変動(税効果考慮後)により調整される。転換可能証券は、期首(または発行日の方が遅い場合には、発行日)に転換されたと仮定され、その結果生じる普通株式が分母に含まれる。

報告日前または財務諸表の完成前のいずれかにおいて、普通株式に係る株式配当または株式分割により発行済普通株式数が増加する場合、または逆株式分割により減少する場合、基本および希薄化後1株当たり利益の計算は、すべての表示期間についてかかる変動を反映するよう遡及調整される。

日本GAAPは、希薄化後1株当たり利益の開示が、1株当たり損失になる場合には要求されないことを除いて、前述のIFRSの基準とは異なる。

外貨換算

外貨建ての貨幣性資産および負債は、貸借対照表日現在の為替レートで企業の機能通貨に換算される。為替差損益は各期の純損益に認識される。

取得原価で測定される非貨幣性資産および負債は、取引日の為替レートで求められた金額のままである。公正価値で測定された非貨幣性資産および負債は、公正価値が算定された時の為替レートで換算される。

収益および費用は、対象となる取引が発生した日に換算されていた場合に求められていたであろう表示通貨による金額とほぼ同じ金額となるような方法で換算される。

在外営業活動体の資産および負債は、貸借対照表日現在の為替レートで換算される。収益および費用(減価償却費および償却費を含む。)は、収益および費用項目が期中に純損益に認識された日の換算レートで換算される。

在外営業活動体の財務諸表(または実質的に在外営業活動体に対する純投資の一部である貨幣性項目)の換算による為替差損益の純額は、OCIに(税引後で)認識され、在外営業活動体に対する純投資が処分または一部処分される際に、純損益に振り替えられる。

日本GAAPでは、機能通貨・表示通貨の概念がないことを除いて、IFRSの基準と重要な差異はない。したがって、親会社および連結子会社はその資産、負債、収益および費用をそれぞれの国の通貨で測定している。

法人所得税

IFRSでは、繰延税金資産および負債は、報告日における財務報告上の資産および負債の帳簿価額と、税務上の金額との一時差異に関連して認識される。繰延税金は、企業結合ではなく、かつ会計上の利益にも課税所得にも影響を与えない取引による資産または負債の当初認識に係る一時差異については、認識されない。繰延税金は、報告日までに制定されたか実質的に制定されている税率または税法に基づき、一時差異が解消する期に適用される税率で測定される。

繰延税金資産は、税務上の繰越欠損金、繰越税額控除および将来減算一時差異について、それらを利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で認識される。繰延税金資産は、各報告日に再検討され、関連する税金の便益を実現させるだけの十分な課税所得を稼得する可能性が高くなった範囲で減額される。また、未認識の繰延税金資産についてもその妥当性が、各報告日に再検討される。

当期税金負債または資産は、報告日現在で制定または実質的に制定されている税率を用いて、納付または還付予定額のうち、未納または未収分について認識される。

当期税金および繰延税金は、企業結合に関連する範囲、または資本あるいはOCIに直接認識される項目に関連する範囲を除いて、純損益に認識される。

当期税金資産および負債、ならびに繰延税金資産および負債はいずれも、同一の納税主体、または同一の報告グループ(純額決済を意図している)内の別の納税主体のいずれかに対して、同一の税務当局が課している法人所得税であり、かつ企業が相殺する法的強制力のある権利を有している場合に、相殺することができる。

日本GAAPでは、繰延税金資産の評価は回収可能性に基づいている。日本GAAPでは、繰延税金資産の回収可能性は、将来の課税所得、既存の一時差異についての将来的な解消のタイミング、およびタックス・プランニングの戦略等の入手可能な証拠を考慮するより詳細な規定となっている。繰延税金資産の帳簿価額は、繰延税金資産の一部またはすべての便益を実現するために十分な課税所得が生じる可能性が高くなった範囲で減額される。

繰延税金負債および繰延税金資産は、当該負債が決済され、または当該資産が回収される期の施行後の税率(立法化後の税率)で計上される。

保険

生命保険

現在、IFRSでは保険契約の測定モデルに関する規定はないため、IFRS第4号「保険契約」(以下「IFRS第4号」という。)が認めるところにより、保険負債は、カナダ・アクチュアリー協会が定める基準に準拠したカナダGAAPに従いカナダ資産負債法(以下「CALM」という。)により測定している。保険負債(未収再保険金控除後)は、将来の保険料および正味投資収入の見積額と合算の上、保有契約に係る将来の給付金、契約者配当金、税金(所得税を除く。)および費用の見積額の支払に十分となる額を表している。

保険負債総額の算定は、死亡率、罹病率、保険契約の失効および解約、投資利回り、契約者配当金、運営費用および契約維持費に関する現在の仮定を用いた保険契約に係るキャッシュ・フローの予測を基に行っている。仮定はそれぞれ、安全割増調整後の最善の見積りである。キャッシュ・フロー総額は、保険負債に対応する投資の収益率を用いて割り引いている。

保険負債の評価に用いるキャッシュ・フローは、未収再保険金の計算に用いた出再保険に係る予測キャッシュ・フローを反映させるよう調整を行っている。この未収再保険金は、評価日現在の有効な再保険契約を基に算定した給付金額を表しており、貸借対照表上、関連した保険負債とは別個に表示している。

保険収益は、保険契約者の支払期日到来時に認識し、生命保険商品に係る繰延新契約費は、CALMに従い未払保険金および保険給付負債に含めて認識している。据置年金保険に対して受領した保険料は、預り金として会計処理せず、保険収益に含めている。

IFRS第4号において定義される保険契約に限り、前述のIFRSの規定の適用対象となる。カナダの生命保険会社は、通常、収益認識時期のミスマッチを回避するために、保険負債に対応する運用資産を純損益を通じて公正価値で測定する(FVTPL)資産に指定している。分離勘定で保有する運用資産は、貸借対照表上、負債に対応する資産として認識している。

日本GAAPでは、保険会社の運用資産の認識および測定には一般的な会計原則が適用される。売買目的有価証券およびその他有価証券は公正価値で評価され、満期保有目的有価証券は償却原価で評価される。貸付金は、貸倒引当金控除後の元本残高で計上される。投資不動産および有形固定資産には定期的に減損テストを実施しなければならない。実務上、保険会社の貸借対照表上の資産項目はすべて、規制当局の要求に従い定期的に資産査定を実施しなければならない。

また、日本GAAPに基づく保険会社に特有なことであるが、資産・負債管理(ALM)目的上保有される確定満期の金融商品(有価証券)は、一定の条件が満たされる場合、償却原価に基づいて計上され、純資産の部において未実現保有損益は認識されない。さらに、保険会社は、条件を満たす場合、金利変動リスクの繰延ヘッジをポートフォリオ単位で利用することができる。

日本GAAPでは、新契約費は資産計上されず、発生した期間の損益として認識される。

日本GAAPでは、生命保険の保険負債は、主に、(i)責任準備金、(ii)危険準備金、(iii)保険契約者配当準備金および(iv)普通支払備金および既発生未報告(以下「IBNR」という。)の支払備金から構成される。

責任準備金—この準備金は、保有契約に基づく将来の保険給付に備えて積み立てる保険会社の債務である。準備金の積立方法は、保険業法および関連規則に規定されている。平準純保険料式責任準備金は、主に、将来の保険給付に対する準備金の基礎である。特定の契約群の場合、準備金の前提条件は、保険会社全体で統一的な準備金水準を維持する目的で規制当局によって規定されている(標準責任準備金)。第三分野保険商品(すなわち、個人向け傷害保険、医療保険、介護保険)に対する準備金の十分性は、ストレス・テストに基づき評価され、必要な場合には不足を解消するために準備金を積み増す。

危険準備金—この準備金は、重要な前提条件(例えば、金利、死亡率、罹病率等)の通常の変動を上回る不利な動きに備えて積立てられる。現在、この準備金には4つの下位区分がある。

- I. 保険リスク
- II. 予定利率リスク
- III. 変額商品の最低保証リスク
- IV. 第三分野商品の保険リスク

保険契約者配当準備金—この準備金は、有配当契約に対する保険契約者へ配当金を支払うために積立てられる。

普通支払備金および既発生未報告の支払備金—この準備金は、損害保険(後述)に類似した既発生保険給付に備えて積立てられる。

損害保険

IFRSの免除規定を選択適用した結果、損害保険に係る支払備金および責任準備金は、報告日現在の状況を見積りを行っている。当該準備金には、報告日前に発生した保険事故による保険金支払に係る最終的なコストのすべて(被災残存財産、保険代位、再保険、インフレ、調整費用および保険金請求者に支払う金利等)を考慮している。支払備金総額には、貸借対照表日までの報告済既発生事象に対する備金および既発生未報告備金(IBNR備金)の見積合計額が含まれる。IBNR備金は、報告遅延の既発生事象と報告済支払備金の過少見積りの両方に対応するため、数理計算上の予測方法を用いて算定される。

IFRSでは、平衡準備金または未発生自然災害事象に対する準備金の計上は認められていない。これらは偶発事象とみなされ、規制自己資本要件によりカバーされている。

IFRSは、支払備金の算定に貨幣の時間的価値を含めることを容認しているが、要求はしていない。ただし、規制上の財務報告規則では、規制当局への財務報告においては割引計算を適用することが求められている。割引後支払備金は、割引率として保険会社の自己ポートフォリオの利回りを用いて貨幣の時間的価値を反映しており、割引額は通常、数理計算上算定された不利な変動に対する安全割増の増加により大部分が相殺される。

保険料収益は、関連する新契約費用とともに繰り延べられ、保険契約期間にわたり収益に認識される。未経過保険料および繰延新契約費用の評価は、保険契約の未経過部分にわたる予想結果を考慮に入れた回収可能性テストの対象となる。

保険料収益、保険金およびその他の費用、ならびに保険資産および保険負債は再保険を含めた総額で開示される。

IFRS第4号において定義される保険契約に限り、前述のIFRSの規定の適用対象となる。損害保険会社は、投資を売却可能に指定するのが最も一般的である。

日本GAAPでは、損害保険の保険負債は、主に、(i)責任準備金および(ii)支払備金から構成される。日本GAAPでは、新契約費を資産計上する実務はなく、発生した期間に損益として認識される。保険会社が保有する運用資産の会計処理に関しては、生命保険での説明を参照のこと。

責任準備金—責任準備金はいくつかの準備金項目から構成され、その金額は保険業法および関連規則の規定に従って算定される。責任準備金の中心的項目(「普通責任準備金」と呼ばれる。)は、(a)未経過保険料(収入保険料の未経過部分について時間基準で通常決定される。)と(b)支払保険金および事業費ならびに支払備金繰入を反映した初年度収支残との、いずれか大きい方である。強制加入の自動車損害賠償責任保険および地震保険のような特定の契約種類の場合、準備金の計算は各商品を規制する法律の規定に従う。損害保険会社も、生命保険分野に類似した第三分野商品(すなわち、個人向けの傷害保険、医療保険および介護保険)について負債十分性テストの対象となる。損害保険会社は、強制加入の自動車損害賠償責任保険および地震保険を除くすべての保険種類に対して、保有契約から発生する将来キャッシュ・フローの分析に基づく責任準備金の十分性を評価し、必要な場合には積立不足を解消するために責任準備金を積み増す。

これらの責任準備金の構成項目の他に、自然災害等の大規模なリスクに備えて異常危険準備金を積立てる。異常危険準備金は、要約すると、収入保険料に準備金係数を乗じたものとして算定される。異常危険準備金は、各保険種類グループごとにあらかじめ設定されたベンチマーク(基準値)を上回る不利な損害率が発生した場合に、その超えた額を取り崩すことが許容される。生命保険分野に要求されている通常を上回るリスクに係る危険準備金の下位区分ⅡおよびⅣが損害保険分野にも適用される。

支払備金—支払備金は、発生した損害に備えるものである。支払備金は、(i)報告済損害に対する普通支払備金および(ii)未報告の損害に対する既発生未報告備金(IBNR備金)から構成される。普通支払備金は、保険会社の最善の見積りに基づいて報告済みの保険金支払請求事案ごとに算定される。IBNR備金は、保険数理上の評価技法を用いて算定される。

利息および手数料

IFRS第15号では、企業は、顧客に財またはサービスを移転する契約に関して、契約に基づく履行義務を完了または充足し、かつ企業が契約における履行義務に配分した対価を回収する可能性が高い場合に、収益を認識しなければならない。IFRS第15号は主に、顧客との該当するサービス契約の手数料から生じる収益の認識に影響を与える。

受取利息(支払利息)は稼得した(発生した)期に純損益に認識され、実効金利法を用いて測定される。受取配当金は、支払を受ける権利が確定した時に認識される。

FVTPLで計上されるもの以外の金融商品の取得に関連する手数料は、実効金利の計算に含められる。FVTPLで計上される金融商品の手数料は、発生時に純損益に認識される。

投資運用および保管手数料ならびに投資信託報酬は、通常、日次または期間末の純資産価額に対する一定割合として計算され、契約条件に応じて月次、四半期ごと、半年ごとまたは一年ごとに支払われる。投資運用および保管手数料は、当行の顧客が投資運用会社の投資能力を求める場合に、通常、運用資産(以下「AUM」という。)を基に算定されるか、または、投資戦略が顧客または指定の第三者の運用会社から指示される場合に、管理資産(以下「AUA」という。)を基に算定される。投資信託報酬は、投資信託の日次の純資産価額(以下「NAV」という。)を基に算定される。投資運用手数料および保管手数料ならびに投資信託報酬は、認識した収益の重要な取消が生じない可能性が非常に高い場合に、顧客へのサービス提供期間にわたり認識される。

有価証券委託手数料およびサービス手数料のうち、特定の取引形態でのサービス提供に関連するものは、サービスの履行時に認識される。サービスが一定の期間にわたり提供される場合は、サービスが提供されるにつれて収益を認識する。

引受業務手数料およびその他のアドバイザー手数料は、通常、発行により調達した資金に対する割合で表され、サービスが完了した時点で認識される。アドバイザー手数料はサービスが提供される期間にわたり認識され、収益の金額の重要な取消が生じない可能性が非常に高い範囲でのみ認識される。

カード・サービス収益は、売上交換収益を含み、取引額に対する固定割合として計算され、カード取引が決済された時点で認識される。年会費は、固定報酬で、当行は12ヶ月間にわたり認識している。

シンジケート・ローンのアレンジや未実行与信枠による信用供与により稼得される与信手数料は、提供するサービスの性質に基づいて認識される。

日本GAAPでは、2018年3月に企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」が公表され、当行であれば、2021年11月1日以後開始する事業年度からに該当する。早期適用も認められる。企業会計基準第29号の原則は、上記の領域を含めて、IFRS第15号に基づく原則と実質的に類似している。

現行の日本GAAPでは、受取利息および支払利息は名目利率を用いて測定される。金融資産(デリバティブを除く。)の取得に関連する取引費用は、当該資産の取得原価に含められる。ただし、当該取引費用が通常発生するもので、金融資産に明確に関連したものであるといえない場合には、取得原価に含めないことができる。債務の発行費用は、通常発生時に費用計上されるが、社債発行費については繰延資産として認識することもできる。

また、現行の日本GAAPでは、収益の区分ごと(財の販売、役務の提供、および利息/ロイヤルティ/配当等)の具体的な指針はないが、役務報酬に関する現行の日本の会計実務はIFRSの規定に類似しており、役務報酬はIFRSと同様、適用される役務契約に基づき認識される。

リース

当行は、2019年11月1日よりIFRS第16号「リース」を適用した。当行はIFRS第16号の経過措置にて認められる通り、比較期間の数値を修正再表示しない方針を採用した。したがって、IFRS第16号は当行の2019年11月1日から開始する財務報告期間にのみに影響し、移行調整額は期首剰余金に計上された。

契約開始時に、企業は契約がリースであるか、またはリースを含んでいるかを判定する。契約が特定された資産の使用からの経済的便益のほとんどすべてを得る権利および特定された資産の使用を指図する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合は、当該契約はリースであるか、またはリースを含んでいる。IFRS第16号の会計原則はすべてのリース契約に適用され、借手はオペレーティング・リースまたはファイナンス・リースを区別することは求められない。

リース開始日において、借手は使用権資産およびそれに対応するリース負債を認識する。ただし、リース料がリース期間にわたり定額法で営業費用として計上される短期リースおよび少額資産リースを除く。リースに延長または解約オプションが含まれ、当該オプションを行使することが合理的に確実である場合、それらはリース期間に含まれる。

リース負債は、リース開始日現在で支払われていないリース料の現在価値で当初測定され、割引率は、借手が容易に入手可能である場合はリースの計算利率が用いられ、そうでない場合は、借手の追加借入利率が用いられる。当初認識後、借手はリース負債を以下のように測定する。

- ・ 発生した利息を反映するように帳簿価額を増額
- ・ 支払われたリース料を反映するように帳簿価額を減額
- ・ 以下を反映するように帳簿価額を再測定
 - ・ 該当がある場合は、リースの見直しまたはリースの条件変更
 - ・ 改定後の実質的な固定リース料

使用権資産の当初測定はリース負債の当初測定額に基づき行われ、開始日以前に支払ったリース料、発生した当初直接コスト、および資産の解体、除去、または原状回復により生じるコストの見積りから、受け取ったリースインセンティブを控除する調整が行われる。

リースの開始日以降、借手は使用権資産を減価償却累計額および減損累計額控除後の取得原価に基づいて測定し、該当がある場合は、リース負債の再測定について調整する。使用権資産は、(a)解約不能リース期間（借手がリースを延長するオプションを行使することが合理的に確実である場合は当該オプションの対象期間および／または借手がリースを解約するオプションを行使しないことが合理的に確実である場合は当該オプションの対象期間を含む。）と(b)耐用年数のうちいずれか短い期間で減価償却されるが、借手に所有権が移転する場合または借手が購入オプションを行使することが合理的に確実である場合は、使用権資産の耐用年数が用いられる。

IAS第36号「資産の減損」の会計原則を適用して使用権資産の減損を評価する。当該評価では帳簿価額とその回収可能価額を比較して減損損失を算定する。減損損失を認識した後は、使用権資産の将来の減価償却費は、見直し後の帳簿価額を反映するように調整される。

日本GAAPでは、契約がリースを含むか否かに関するIFRSのような詳細なガイダンスはない。

リースは、定量的な要件も含め、リースが解約不能であり、フルペイアウトが求められる場合にファイナンス・リースに分類される。ファイナンス・リースでは、借手は貸手の購入価額が明らかかどうか、また、所有権が移転するか否かにより、リース資産および将来のリース料相当のリース負債は、貸手の購入価額や、リース料の現在価値または見積現金購入価額に基づいて測定される。

オペレーティング・リースでは、借手のリース料はリースの期間を通じて費用として認識される。

第 7 【外国為替相場の推移】

最近 5 年間のカナダドルと日本円間の為替相場は、日本国内において時事に関する事項を掲載する 2 紙以上の日刊新聞紙に掲載されているため、記載を省略する。

第 8 【本邦における提出会社の株式事務等の概要】

該当事項なし。

第9 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当行には、親会社等に該当する会社は存在しない。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から本書提出までの間に、次の書類を提出している。

(1) 有価証券報告書およびその添付書類	2020年3月6日に関東財務局長に提出
(2) 半期報告書およびその添付書類	2020年7月31日に関東財務局長に提出
(3) 発行登録書（募集）およびその添付書類	2020年10月29日に関東財務局長に提出
(4) 発行登録書（売出）およびその添付書類	2020年10月29日に関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

第1 【保証会社情報】

該当事項なし。

第2 【保証会社以外の会社の情報】

該当事項なし。

第3 【指数等の情報】

該当事項なし。

(訳文)
独立監査人の監査報告書

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ
株主および取締役会各位

監査意見

私どもは、添付の連結財務諸表が、国際会計基準審議会が公表した国際財務報告基準(以下「IFRS」という。)に準拠して、2020年および2019年10月31日現在のロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびその子会社(以下、併せて「銀行」という。)の財政状態、ならびに同日に終了した年度に関する経営成績およびキャッシュ・フローを、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査範囲

銀行の連結財務諸表は、以下のものから構成される。

- ・ 2020年および2019年10月31日現在の連結貸借対照表
- ・ 同日に終了した事業年度の連結損益計算書
- ・ 同日に終了した事業年度の連結包括利益計算書
- ・ 同日に終了した事業年度の連結持分変動計算書
- ・ 同日に終了した事業年度の連結キャッシュ・フロー計算書
- ・ 連結財務諸表に対する注記(重要な会計方針およびその他の説明情報を含む。)

開示が必要な特定の事項は、連結財務諸表に対する注記の中ではなく、Management's Discussion and Analysisの中に表示されている。これらの開示は、連結財務諸表から相互参照され、監査済として識別されている(訳者注:本書においては「第一部 第3 2 事業等のリスク」および「第一部 第3 3(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」)。

監査意見の根拠

私どもは、カナダにおいて一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して監査を行った。本基準のもとでの私どもの責任は、本報告書の「連結財務諸表監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。

私どもは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

独立性

私どもは、カナダにおける私どもの連結財務諸表監査に関連する倫理規定に準拠して、銀行から独立している。私どもは、その他の倫理上の責任についても規定に準拠している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、2020年10月31日に終了した事業年度の連結財務諸表監査において監査人の職業的専門家としての判断によって特に重要であると決定された事項をいう。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表監査の全体的な過程および監査意見の形成において対応した事項であり、私どもは、当該事項に対して個別の意見を表明するものではない。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項に対する監査上の対応手 続

信用損失引当金(以下「ACL」という。)

連結財務諸表に対する注記2「重要な会計方針、見積りおよび判断の要約」、注記4「有価証券」ならびに注記5「貸出金および信用損失引当金」を参照のこと。

銀行の金融資産に対するACLは2020年10月31日現在6,262百万ドルであり、これは貸借対照表日現在の金融資産に対する予想信用損失の経営者の見積りを表している。正常金融資産は、当初認識時から資産の信用リスクが当初認識時より相対的に著しく増大しない限りステージ1に分類される。正常金融資産の信用リスクが当初認識時より相対的に著しく増大した場合は、ステージ2に移動される。金融資産は、信用減損しているとみなされた場合にステージ3に分類される。経営者により開示されている通り、予想信用損失の測定には、マクロ経済変数に基づいてモデル化された金融資産のデフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャー(報告日まで割り引かれる。)等の相互関連する多数のインプットおよび仮定が含まれるため、その計算は複雑である。

経営者は、ステージ1およびステージ2の予想信用損失の見積りに、将来のマクロ経済に関する5つの異なるシナリオの見積もりを行っている。各シナリオには起こりうる結果を広範囲で捉えるためにマクロ経済変数の予測が含まれ、また、シナリオは報告日時点での各シナリオの結果の範囲の相対的発生可能性に関する経営者の予想に基づいて確率加重される。注記5に記載されている通り、COVID-19による世界的なパンデミックは経営者のACLの決定に重大な影響を与えており、経営者は高度な判断を用いることが必要とされる。その結果、ACLの不確実性は通常よりも高く、また使用されたインプットは本質的に変化する可能性があるため、将来の期間においてステージ1およびステージ2のACLの見積額は大きく変動する可能性がある。

監査上の主要な検討事項に対応するために実施した私どものアプローチには、特に、以下の手続が含まれる。

- ・ ACLの見積りに関連する内部統制の有効性を、COVID-19によりもたらされた経済的混乱についての検討も織り込みながら、(i)デフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャーのモデルに関する統制、(ii)将来のマクロ経済に関する複数のシナリオの設計、マクロ経済変数の予測およびこれらシナリオの確率加重に関する統制、(iii)ACLを計算する上での基礎となるインプットデータの網羅性と正確性に関する統制、ならびに(iv)専門家の信用判断の利用に関連する統制を含めて検証した。
- ・ ステージ1およびステージ2のACLの見積りに関する経営者のプロセスを、COVID-19によりもたらされた経済的混乱に関する経営者の検討も含めて検証した。
 - －ステージ1およびステージ2のACLの見積りに用いられた、デフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャーのモデルの適切性を評価した。
 - －基礎データの網羅性、正確性および関連性を検証した。
 - －ACLの見積りに用いられた重要なインプットや仮定(これには、a)将来のマクロ経済シナリオの設計、b)予測されたマクロ経済変数、c)シナリオに割り当てられた確率加重を含む。)についての妥当性を評価した。
 - －経営者の専門家の信用判断の利用について評価した。
- ・ 将来のマクロ経済シナリオの設計およびマクロ経済変数の予測において経営者が使用したインプットおよび仮定の妥当性の評価には、これらの仮定と外部の市場データや業界データとの整合性の評価を含めた。
- ・ 専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させ、(i)ACLの計算の適切性の検証、(ii)ACLの計算に用いられた、一部モデルにより算出される相互に関連するインプッ

現在および将来の環境において内在する不確実性に対処し、銀行のモデル結果には捉えられていない関連するすべてのリスク要因を反映するために、経営者は専門家の信用判断を用いている。経営者は、パンデミックから生じる前例のないマクロ経済シナリオの影響、将来の損失を完全には軽減できない可能性のある銀行および政府主導の支払支援プログラムの一時的な効果、COVID-19の影響を受けた特に脆弱なセクターへの影響について、量的および定性的な調整を行っている。

私どもは、以下の理由により、本事項を監査上の主要な検討事項として決定した。

- (i) 経営者は、a) 将来のマクロ経済シナリオの設計、b) マクロ経済変数の予測、c) シナリオの確率加重、およびd) モデルで考慮されていない特性の反映を目的とした専門家の信用判断の利用に重要な判断が求められる。
 - (ii) COVID-19の経済的影響により見積上の不確実性が高いため、監査人の重要な判断が求められる。
 - (iii) ACLの見積りは、多数のデータ、相互関連するインプットおよび仮定(一部はモデルにより算出される。)が含まれる複雑な計算であるため、監査証拠の評価には重点的監査対応手続が必要である。
 - (iv) 監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用する。
-

トおよび仮定(これには、a) 将来のマクロ経済シナリオ、b) マクロ経済変数の予測、およびc) シナリオに配分された確率加重を含む。)の評価、ならびに(iii) 利用された専門家の信用判断の妥当性の評価を行った。

一部の資金生成単位(以下「CGU」という。)の のれんの減損評価

連結財務諸表に対する注記2「重要な会計方針、見積りおよび判断の要約」および注記10「のれんおよびその他の無形資産」を参照のこと。

経営者は、各CGUの帳簿価額と回収可能価額を比較して毎年8月1日にのれんの減損テストを実施している。経営者は、事業計画に基づき将来キャッシュ・フローを予測する割引キャッシュ・フロー・モデルにより、各CGUの回収可能価額を算定している。各CGUの予想将来キャッシュ・フローを現在価値にするために使用される割引率は、各CGUがさらされるリスク調整後の銀行全体の資本コストをベースにしている。経営者は、各CGUについて、最初のキャッシュ・フローの予測期間を超えたキャッシュ・フローについては、一定の永久成長率を使用して一定の割合で増加すると仮定している。

経営者により開示されている通り、COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額は減少した。2020年10月31日現在、カリビアン・バンキングCGUに割り当てられたのれんは1,719百万ドルであったが、経営者は、減損テストにおいて回収可能価額が帳簿価額に近似していると判断した。CGUの回収可能価額は、CGUの帳簿価額が使用価値を上回る場合を除き、使用価値である。CGUの帳簿価額が使用価値を上回る場合は、CGUの処分コスト控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い金額が回収可能価額となる。経営者は、カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額を処分コスト控除後の公正価値として見積り、将来キャッシュ・フローは第三者に売却する場合の対価に近似するよう調整が加えられている。経営者は、2020年度のカリビアン・バンキングCGUの回収可能価額の算定において、金利環境の悪化を反映した税引前レート11.4%を用いて予想将来キャッシュ・フローを割り引き、パンデミックに起因する不確実性を反映して、永久成長率は3.7%を使用している。経営者はまた、比較可能な市場取引を含め、合理的に

監査上の主要な検討事項に対応するための私どものアプローチには、特に、以下の手順が含まれる。

- ・カリビアン・バンキング、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUの回収可能価額の決定に係る統制を含む、経営者ののれんの減損テストに係る統制の有効性を検証した。
- ・各CGUの回収可能価額の決定に関する経営者のプロセスを検証した。
 - －割引キャッシュ・フロー・モデルの適切性を評価した。
 - －モデルに使用された基礎データの網羅性、正確性および関連性の検証を行った。
 - －経営者が用いた、a)割引率、b)永久成長率、c)将来キャッシュ・フロー、およびd)カリビアン・バンキングCGUの場合は、第三者に売却する場合の対価に近似させるための調整(カリビアン・バンキングCGUの市場における比較可能な取引との整合性の評価を含む。)を含む、重要な仮定を評価した。
- ・将来キャッシュ・フローに関連する経営者の仮定の評価には、(i)各CGUの現在および過去の業績、(ii)外部の市場データや業界データ、および(iii)監査の他の領域で入手した監査証拠との整合性を踏まえて、経営者が用いた仮定が合理的であったかの評価手順が含まれていた。
- ・専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させて、(i)経営者の割引キャッシュ・フロー・モデルの適切性、ならびに(ii)特定の重要な仮定(これには、a)割引率、b)永久成長率、およびc)カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額と市場における比較可能な取引との整合性の評価を含む。)の妥当性を評価した。

考え得る代替シナリオを検討した。そこでは、カリビアン・バンキングCGUの評価は重要性のない黒字から重要性のない赤字の範囲とされている。

経営者により開示されている通り、COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、金利変動を含む経済的不確実性の影響を比較的受けやすいキャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)等の特定のCGUの回収可能価額は減少したが、COVID-19のパンデミックの影響にもかかわらず、引き続き帳簿価額を上回っている。2020年10月31日現在、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUに割り当てられたのれんは、それぞれ1,078百万ドルおよび2,978百万ドルであった。キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUの回収可能価額は、各CGUの使用価値であり、割引キャッシュ・フロー法により見積もられている。

経営者により開示されている通り、各CGUの回収可能価額の見積りには、重要な判断を用いる必要があり、またモデルは、将来キャッシュ・フロー、割引率および永久成長率の変動に最も影響を受ける。環境は急速に変化しており、その結果、経営者の経済見通しは通常よりも不確実性が高く、将来の期間においてCGUの予想将来キャッシュ・フローを大幅に変動させ、減損費用が発生する可能性がある。実績は、景気後退の期間および深刻度、ならびに将来における最終的な回復時期および回復度合いに関するものも含めて、現在の予想とは大幅に異なる可能性がある。

私どもは、以下の理由により、カリビアン・バンキング、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUののれんの減損評価に関連する手続を監査上の主要な検討事項として決定した。

- (i) 各CGUの回収可能価額の決定には、a) 将来キャッシュ・フロー、b) 割引率、c) 永久成長率、ならびにd) カリビアン・バンキング

CGUの場合は、処分コスト控除後の公正価値見積りにおける、1)第三者に売却した場合の対価に近似させるためのキャッシュ・フローの調整、および2)市場における比較可能な取引の検討を含む、経営者の重要な判断が求められる。

- (ii) 経営者の各CGUの回収可能価額の計算に関する監査手続の実施および監査証拠の評価には、特に回収可能価額の減少を踏まえると、監査人の主観的な判断が必要である。
 - (iii) 監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用する。
-

不確実な税務ポジション

連結財務諸表に対する注記2「重要な会計方針、見積りおよび判断の要約」および注記22「法人税等」を参照のこと。

銀行は、営業活動を行っている様々な管轄区域の法人所得税法に従っており、複雑な税法の解釈については経営者と関係税務当局との間で異なる可能性がある。経営者により開示されている通り、関連税法の解釈および税金費用の算定において銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている不確実な税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)を評価する際には、重要な判断が求められる。経営者は、四半期ベースで再評価を行い、入手可能な情報に基づき最善の見積りを織り込んでいるが、銀行の税務ポジションに関する関連税務当局の決定に基づき追加的な負債および税金費用が発生する可能性がある。

一部では、銀行は、取引からの配当金(納税義務のない投資者との取引を含む。)について税額控除を否認する指摘を受けている。

私どもは、以下の理由により、本事項を監査上の主要な検討事項として決定した。

- (i) 経営者は、a) 関連税法の解釈、およびb) 銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)の評価に、重要な判断(高度な見積りの不確実性を含む。)が求められる。
- (ii) 不確実な税務ポジションの評価に関する監査手続の実施には、監査人の主観的判断が必要となる。
- (iii) 監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用する。

監査上の主要な検討事項に対応するための私どものアプローチには、特に、以下の手続が含まれる。

- ・ 不確実な税務ポジションの評価に関連する統制の有効性および税金費用に対する影響を検証した。
- ・ 経営者の(i) 銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている不確実な税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)の評価、および(ii) 不確実な税務ポジションに関連する税金費用の見積りに用いたプロセスについて検証した。
 - － 使用された方法の適切性を評価した。
 - － 使用された基礎データの網羅性、正確性および関連性を検証した。
 - － 関係税務当局とやり取りをレビューした。
 - － 銀行内部および外部の弁護士に質問をした。
 - － 経営者が使用した重要な仮定の妥当性を評価した。
- ・ 専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させて、a) 関連税法の適用、b) 関係税務当局が税務ポジションを容認する可能性が高いか、およびc) 経営者が用いた証拠を含む、重要な仮定を評価した。

その他の記載内容

経営者は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容は、年次報告書のうち、Management's Discussion and Analysis、ならびに連結財務諸表およびそれに対する監査報告書以外の情報である。

私どもの連結財務諸表に対する監査意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、したがって、私どもは当該その他の記載内容に対していかなる保証の結論も表明しない。

連結財務諸表監査における私どもの責任は、上記で特定したその他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表または私どもが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか考慮すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な虚偽記載の兆候があるかどうか検討することにある。

私どもは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽記載があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私どもは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者および統治責任者の責任

経営者は、IFRSに準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示すること、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制について責任を有している。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、銀行が継続企業として存続する能力があるかどうかを評価し、必要がある場合には当該継続企業の前提に関する事項を開示する責任を有し、また、経営者が銀行の清算若しくは事業停止の意図があるか、またはそうする以外に現実的な代替案がない場合を除き、継続企業の前提に基づいて財務諸表を作成する責任を有している。

統治責任者の責任は、銀行の財務報告プロセスの監視を行うことにある。

連結財務諸表監査に対する監査人の責任

私どもの監査の目的は、全体としての連結財務諸表に、不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を含む監査報告書を公表することにある。合理的な保証は、高い水準の保証であるが、カナダにおいて一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して行った監査が、すべての重要な虚偽表示を常に発見することを確約(guarantee)するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私どもは、カナダにおいて一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持する。私どもはまた、以下の事項を行う。

- ・不正または誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、取引等の記録からの除外、虚偽の陳述、および内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、銀行の内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・経営者が採用した会計方針の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、銀行の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められると結論付ける場合は、監査報告書において連結財務諸表上の関連する開示に注意を喚起すること、または重要な不確実性に関する連結財務諸表の開示が十分でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。私どもの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。ただし、将来の事象や状況により、銀行は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・関連する注記を含めた全体としての連結財務諸表の表示、構成および内容を検討し、連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するため、銀行内の企業および事業活動の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。私どもは、グループ監査の指示、監督および実施について責任を有する。私どもは、私どもの監査意見に単独で責任を負う。

私どもは、統治責任者に対して、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、および監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項を報告している。

また、私どもは、統治責任者に、独立性についての職業倫理に関する規定を遵守している旨、並びに独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、および該当する場合、関連するセーフガードについて報告を行う。

私どもは、統治責任者に報告した事項のうち、当年度の連結財務諸表監査で特に重要な事項を、監査上の主要な検討事項と決定する。私どもは、これらの事項を監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めてまれではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

本独立監査人の監査報告書の対象である監査のエンゲージメント・パートナーは、サミュエル・メイである。

プライスウォーターハウスクーパース エルエルピー

勅許職業会計士

公認会計士

トロント市、カナダ

2020年12月1日

[次へ](#)

Independent auditor's report

To the Shareholders and Board of Directors of Royal Bank of Canada

Our opinion

In our opinion, the accompanying consolidated financial statements present fairly, in all material respects, the financial position of Royal Bank of Canada and its subsidiaries (together, the Bank) as at October 31, 2020 and 2019, and its financial performance and its cash flows for the years then ended in accordance with International Financial Reporting Standards as issued by the International Accounting Standards Board (IFRS).

What we have audited

The Bank's consolidated financial statements comprise:

- the consolidated balance sheets as at October 31, 2020 and 2019;
- the consolidated statements of income for the years then ended;
- the consolidated statements of comprehensive income for the years then ended;
- the consolidated statements of changes in equity for the years then ended;
- the consolidated statements of cash flows for the years then ended; and
- the notes to the consolidated financial statements, which include significant accounting policies and other explanatory information.

Certain required disclosures have been presented elsewhere in the Management's Discussion and Analysis, rather than in the notes to the consolidated financial statements. These disclosures are cross-referenced from the consolidated financial statements and are identified as audited.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with Canadian generally accepted auditing standards. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's responsibilities for the audit of the consolidated financial statements* section of our report.

We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Independence

We are independent of the Bank in accordance with the ethical requirements that are relevant to our audit of the consolidated financial statements in Canada. We have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with these requirements.

Key audit matters

Key audit matters are those matters that, in our professional judgment, were of most significance in our audit of the consolidated financial statements for the year ended October 31, 2020. These matters were addressed in the context of our audit of the consolidated financial statements as a whole, and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

<i>Key audit matter</i>	<i>How our audit addressed the key audit matter</i>

Allowance for Credit Losses (ACL)

Refer to Note 2, Summary of significant accounting policies, estimates and judgments, Note 4, Securities and Note 5, Loans and allowance for credit losses to the consolidated financial statements.

The Bank's ACL for financial assets was \$6,262 million as at October 31, 2020 and represents management's estimate of expected credit losses on financial assets as at the balance sheet date. Performing financial assets are categorized as Stage 1 from initial recognition to the date on which the asset has experienced a significant increase in credit risk relative to its initial recognition. Performing financial assets transfer into Stage 2 following a significant increase in credit risk relative to the initial recognition. Financial assets are categorized as Stage 3 when considered to be credit-impaired. As disclosed by management, the measurement of expected credit losses is a complex calculation that involves a large number of interrelated inputs and assumptions such as the financial asset's probability of default, loss given default and exposure at default, which are modelled based on macroeconomic variables, and discounted to the reporting date.

Management's estimation of expected credit losses in Stage 1 and Stage 2 considers five distinct future macroeconomic scenarios, each of which includes a forecast of all relevant macroeconomic variables, designed to capture a wide range of possible outcomes, and which are probability-weighted according to management's expectation of the relative likelihood of the range of outcomes that each scenario represents at the reporting date. As disclosed in Note 5, the COVID-19 global pandemic significantly impacted management's determination of the ACL and required the application of heightened judgment. As a result, the ACL has a higher than usual degree of uncertainty and the inputs used are inherently subject to change, which may materially change the estimate of Stage 1 and Stage 2 ACL in future periods.

To address the uncertainties inherent in the current and future environment and to reflect all relevant risk factors not captured in the Bank's modelled results, management applied expert credit judgment; management applied quantitative and qualitative adjustments for the impacts of the unprecedented macroeconomic scenarios arising from the pandemic, the temporary effects of the bank and government led payment support programs, which may not completely mitigate future losses, and the impacts to particularly vulnerable sectors affected by COVID-19.

We determined that this is a key audit matter due to: (i) the significant judgment required by management when a) designing future macroeconomic scenarios, b) forecasting macroeconomic variables, c) probability-weighting scenarios and d) applying expert

Our approach to addressing the matter involved the following procedures, amongst others:

- testing the effectiveness of controls relating to the estimation of the ACL, incorporating consideration of the economic disruption caused by COVID-19, including controls over: (i) the probability of default, loss given default and exposure at default models, (ii) the design of multiple future macroeconomic scenarios, the forecasting of macroeconomic variables, and the probability-weighting of these scenarios, (iii) the completeness and accuracy of the data inputs underlying the ACL calculation, and (iv) the application of expert credit judgment;
- testing management's process for estimating the Stage 1 and Stage 2 ACL, including their consideration of the economic disruption caused by COVID-19:
 - evaluating the appropriateness of the probability of default, loss given default and exposure at default models used in the estimation of the Stage 1 and Stage 2 ACL;
 - testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data;
 - evaluating the reasonableness of significant inputs and assumptions used in the estimation of the ACL, including: a) the design of future macroeconomic scenarios, b) the forecasted macroeconomic variables, c) the probability-weights assigned to the scenarios; and
 - evaluating management's application of expert credit judgment;
- evaluating the reasonableness of management's inputs and assumptions used in the design of the future macroeconomic scenarios and the forecasted macroeconomic variables included evaluating the consistency of these assumptions with external market and industry data; and
- using professionals with specialized skill and knowledge to assist in testing (i) the appropriateness of the ACL calculation, (ii) evaluating the interrelated inputs and assumptions used in the ACL calculation, some of which are model-based, including: a) the future macroeconomic scenarios, b) the forecasted macroeconomic variables and c) the probability-weights assigned to the scenarios, and (iii) evaluating the reasonableness of expert credit judgment applied.

credit judgment to reflect characteristics not already considered in the models;

(ii) a high degree of estimation uncertainty due to the economic impacts of COVID-19 which led to a high degree of auditor judgment;

(iii) significant audit effort necessary to evaluate audit evidence as the estimation of the ACL is a complex calculation that involves a large volume of data, interrelated inputs and assumptions, some of which are model based; and

(iv) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.

Goodwill Impairment Assessment of Certain Cash Generating Units (CGUs)

Refer to Note 2, Summary of significant accounting policies, estimates and judgments, and Note 10, Goodwill and other intangible assets to the consolidated financial statements.

Management conducts a goodwill impairment test as of August 1 of each year by comparing the carrying value of each CGU to its recoverable amount. Management calculates the recoverable amount of each CGU using a discounted cash flow model that projects future cash flows based on management forecasts. The discount rates used to determine the present value of each CGU's projected future cash flows are based on the bank-wide cost of capital, adjusted for the risks to which each CGU is exposed. For each of the CGUs, cash flows beyond the initial cash flow forecast period are assumed by management to increase at a constant terminal growth rate.

As disclosed by management, as a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU has declined. The goodwill allocated to the Caribbean Banking CGU as at October 31, 2020 was \$1,719 million and management determined in the impairment test that the recoverable amount approximates the carrying amount. The recoverable amount of a CGU is represented by its value in use, except in circumstances where the carrying amount of a CGU exceeds its value in use. In such cases, the greater of the CGU's fair value less costs of disposal and its value in use is the recoverable amount. Management estimated the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU as the fair value less costs of disposal, and future cash flows were adjusted to approximate the considerations of a prospective third-party buyer. In determining the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU, management discounted forecast future cash flows using a pre-tax rate of 11.4% in 2020, reflecting a lower interest rate environment, and the terminal growth rate used was 3.7%, reflecting uncertainty due to the pandemic. Management also considered reasonably possible alternative scenarios, including market comparable transactions, which yielded valuations of the Caribbean Banking CGU ranging from an immaterial surplus to an immaterial deficit.

As management has also disclosed, as a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amounts of certain CGUs, including Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National), which are more sensitive to economic uncertainties, including interest rate movements, have declined, but continue to exceed carrying amounts despite impacts from the COVID-19 pandemic. As at October 31, 2020 the goodwill allocated to the Capital Markets and U.S. Wealth

Our approach to addressing the matter involved the following procedures, amongst others:

- testing the effectiveness of controls relating to management's goodwill impairment test, including controls over the determination of the recoverable amount of the Caribbean Banking, Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs;
- testing management's process for determining the recoverable amount of each of these CGUs:
 - evaluating the appropriateness of the discounted cash flow models;
 - testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data used in the models; and
 - evaluating the significant assumptions used by management, including a) discount rates, b) terminal growth rates, c) future cash flows, and d) adjustments made thereto to approximate the considerations of a prospective third-party buyer for the Caribbean Banking CGU, including evaluating consistency with market comparable transactions for the Caribbean Banking CGU;
- evaluating management's assumptions related to future cash flows involved assessing whether the assumptions used by management were reasonable considering the consistency with (i) current and past performance of each CGU, (ii) external market data and industry data, and (iii) evidence obtained in other areas of the audit; and
- using professionals with specialized skill and knowledge to assist in evaluating (i) the appropriateness of management's discounted cash flow models, and (ii) the reasonableness of certain significant assumptions, including a) discount rates, b) terminal growth rates, and c) evaluating consistency of the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU with market comparable transactions.

Management (including City National) CGUs was \$1,078 million and \$2,978 million, respectively. The recoverable amounts of the Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs are represented by each CGU's value in use, estimated using a discounted cash flow method.

As disclosed by management, the estimation of the recoverable amount of each CGU requires the use of significant judgment; and the models are most sensitive to changes in future cash flows, discount rates, and terminal growth rates. The environment is rapidly evolving and as a result, management's economic outlook has a higher than usual degree of uncertainty, which may, in future periods, materially change the expected future cash flows of the CGUs and result in an impairment charge. Actual experience may differ materially from current expectations, including in relation to the duration and severity of the economic contraction and the ultimate timing and extent of a future recovery.

We determined that performing procedures relating to goodwill impairment assessment of the Caribbean Banking, Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs is a key audit matter due to:

- (i) the significant judgment required by management when determining the recoverable amount of each CGU, including a) future cash flows, b) discount rates, c) terminal growth rates, and d) for the Caribbean Banking CGU where the fair value less costs of disposal was estimated, 1) adjustments made to the cash flows to approximate the considerations of a prospective third-party buyer and 2) consideration of market comparable transactions;
 - (ii) a high degree of auditor judgment and subjectivity in performing procedures over management's calculation of the recoverable amount of each CGU, and evaluating audit evidence, especially in light of the decline in recoverable amounts; and
 - (iii) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.
-

Uncertain Tax Positions

Refer to Note 2, Summary of significant accounting policies, estimates and judgments, and Note 22, Income taxes to the consolidated financial statements.

The Bank is subject to income tax laws in various jurisdictions where it operates and the complex tax laws are potentially subject to different interpretations by management and the relevant taxation authorities. As disclosed by management, significant judgment is required in the interpretation of the relevant tax laws, and in assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions to determine tax provisions, which includes management's best estimate of uncertain tax positions that are under audit or appeal by the relevant taxation authorities. Management performs a review on a quarterly basis to incorporate its best assessment based on information available, but additional liability and income tax expense could result based on the acceptance of the Bank's tax positions by the relevant tax authorities.

In some cases, the Bank has received reassessments denying the tax deductibility of dividends from transactions including those with Tax Indifferent Investors.

We determined that this is a key audit matter due to: (i) the significant judgment required by management, including a high degree of estimation uncertainty, when a) interpreting the relevant tax laws, and b) assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions, which includes management's best estimate of tax positions that are under audit or appeal by relevant taxation authorities; (ii) a high degree of auditor judgment and subjectivity in performing procedures to evaluate the uncertain tax positions; and (iii) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.

Our approach to addressing the matter involved the following procedures, amongst others:

- testing the effectiveness of controls relating to the evaluation of uncertain tax positions and the impact on tax provisions;
- testing management's process used in (i) assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions, which includes management's best estimate of tax positions that are under audit or appeal by relevant taxation authorities and (ii) estimating provisions relating to uncertain tax positions:
 - evaluating the appropriateness of the methods used;
 - testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data used;
 - reviewing correspondence with relevant taxation authorities;
 - inquiring of the Bank's internal and external legal counsel; and
 - evaluating the reasonableness of significant assumptions used by management; and
- using professionals with specialized skill and knowledge to assist in evaluating the significant assumptions, including a) the application of relevant tax laws, b) whether it is probable that the relevant tax authorities will accept the tax positions, and c) evidence used by management.

Other information

Management is responsible for the other information. The other information comprises the Management's Discussion and Analysis and the information, other than the consolidated financial statements and our auditor's report thereon, included in the annual report.

Our opinion on the consolidated financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the consolidated financial statements, our responsibility is to read the other information identified above and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the consolidated financial statements or our knowledge obtained in the audit, or otherwise appears to be materially misstated.

If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of management and those charged with governance for the consolidated financial statements

Management is responsible for the preparation and fair presentation of the consolidated financial statements in accordance with IFRS, and for such internal control as management determines is necessary to enable the preparation of consolidated financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the consolidated financial statements, management is responsible for assessing the Bank's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless management either intends to liquidate the Bank or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Bank's financial reporting process.

Auditor's responsibilities for the audit of the consolidated financial statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with Canadian generally accepted auditing standards will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these consolidated financial statements.

As part of an audit in accordance with Canadian generally accepted auditing standards, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Bank's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by management.

- Conclude on the appropriateness of management's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Bank's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the consolidated financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Bank to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the consolidated financial statements, including the disclosures, and whether the consolidated financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.
- Obtain sufficient appropriate audit evidence regarding the financial information of the entities or business activities within the Bank to express an opinion on the consolidated financial statements. We are responsible for the direction, supervision and performance of the group audit. We remain solely responsible for our audit opinion.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

We also provide those charged with governance with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence, and to communicate with them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence, and where applicable, related safeguards.

From the matters communicated with those charged with governance, we determine those matters that were of most significance in the audit of the consolidated financial statements of the current period and are therefore the key audit matters. We describe these matters in our auditor's report unless law or regulation precludes public disclosure about the matter or when, in extremely rare circumstances, we determine that a matter should not be communicated in our report because the adverse consequences of doing so would reasonably be expected to outweigh the public interest benefits of such communication.

The engagement partner on the audit resulting in this independent auditor's report is Samuel May.

PricewaterhouseCoopers LLP

Chartered Professional Accountants, Licensed Public Accountants

Toronto, Canada
December 1, 2020

(※) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出会社が別途保管しております。

[次へ](#)

(訳文)

独立登録会計事務所の監査報告書

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ
株主および取締役会各位

財務諸表および財務報告に係る内部統制に対する意見

私どもは、添付のロイヤル・バンク・オブ・カナダおよびその子会社(以下、併せて「銀行」という。)の2020年および2019年10月31日現在の連結貸借対照表、同日に終了した事業年度の関連する連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結持分変動計算書および連結キャッシュ・フロー計算書、ならびに関連する注記(以下、総称して「連結財務諸表」という。)について監査を行った。私どもはまた、トレッドウェイ委員会支援組織委員会(以下「COSO」という。)が発行した「内部統制の統合的枠組み(2013年版)」で確立された規準に基づいて、2020年10月31日現在の銀行の財務報告に係る内部統制監査を行った。

私どもは、上述の連結財務諸表が、国際会計基準審議会が公表した国際財務報告基準(以下「IFRS」という。)に準拠して、2020年および2019年10月31日現在の銀行の財政状態、ならびに同日に終了した事業年度に関する経営成績およびキャッシュ・フローを、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。私どもは、また、銀行が2020年10月31日現在において、COSOにより公表された「内部統制の統合的枠組み(2013年版)」で確立された規準に基づいて、すべての重要な点において財務報告に係る有効な内部統制を維持しているものと認める。

監査意見の根拠

銀行の経営者は連結財務諸表、財務報告に係る有効な内部統制の維持、および付属の財務報告に係る内部統制の経営者報告書に含まれる財務報告に係る内部統制の有効性の評価について責任を負っている。私どもの責任は、私どもの実施した監査に基づいて、銀行の連結財務諸表および銀行の財務報告に係る内部統制に対する意見を表明することにある。私どもは、米国公開企業会計監視委員会(以下「PCAOB」という。)に登録された会計事務所であり、米国連邦証券法、ならびに米国証券取引委員会およびPCAOBの適用規則および規制に準拠して、銀行から独立していることが要求される。

私どもは、PCAOBの基準に準拠して監査を行った。これらの基準は、連結財務諸表に不正または誤謬による重要な虚偽の表示がないか、また財務報告に係る有効な内部統制がすべての重要な点において維持されているかどうかについて合理的な保証を得るために、私どもが監査を計画し、実施することを要求している。

私どもの連結財務諸表の監査には、不正または誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクを評価するための手続および当該リスクに対応する手続を実施することが含まれる。当該手続には、連結財務諸表の金額および開示に関する証拠の試査による検証手続の実施が含まれる。また、私どもの監査には、経営者が適用した会計原則ならびに経営者が行った重要な見積りを評価し、全体としての連結財務諸表の表示を評価することが含まれる。財務報告に係る内部統制に対する私どもの監査には、財務報告に係る内部統制の理解、重要な欠陥が存在するリスクの評価、および評価したリスクに基づく内部統制の整備および運用の有効性の検証および評価が含まれる。さらに、私どもの監査には、私どもがその状況において必要であると考えたその他の手続の実施も含まれる。私どもは、私どもの監査が、私どもの意見に対して合理的な基礎を提供しているものと確信している。

財務報告に係る内部統制の定義および限界

会社の財務報告に係る内部統制は、財務報告の信頼性、および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠した外部報告目的の財務諸表の作成に関し、合理的な保証を提供できるように立案された手続である。会社の財務報告に係る内部統制には、以下の方針および手続が含まれる。(i) 会社の資産の取引および処分を、合理的に詳細、正確かつ適正に反映する記録の維持に関係するもの、(ii) 一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠した財務諸表を作成するために必要な取引が記録されていることについて、また会社の収入および支出が会社の経営者および取締役の承認に基づいてのみ発生していることについて、合理的な保証を提供するもの、ならびに(iii) 財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性のある会社の資産の未承認の取得、使用または処分の防止または適時発見に関して合理的な保証を提供する方針および手続が含まれる。

財務報告に係る内部統制には固有の限界があることから、虚偽の表示が防止または発見されない可能性がある。また、将来の期間における有効性の評価の予測には、状況の変化により統制が不十分となるリスク、または方針もしくは手続の遵守の程度が低下するリスクが存在する。

監査上の主要な検討事項

下記に報告された監査上の主要な検討事項は、当期の連結財務諸表監査において発生し、監査委員会に報告されたまたは報告が求められた事項で、(i) 連結財務諸表の重要な勘定または開示に関連するもの、また(ii) 私どもが特に困難な、主観的な、または複雑な判断を用いたものである。連結財務諸表全体に対する私どもの意見は、監査上の主要な検討事項を報告することにより何ら変わることはなく、また、私どもの下記の監査上の主要な検討事項の報告は、監査上の主要な検討事項またはそれらが関連する勘定科目または開示について別個の意見を提供するものではない。

信用損失引当金(以下「ACL」という。)

連結財務諸表に対する注記2、4および5に記載されている通り、銀行の金融資産に対するACLは2020年10月31日現在6,262百万ドルであり、これは貸借対照表日現在の金融資産に対する予想信用損失の経営者の見積りを表している。正常金融資産は、当初認識時から資産の信用リスクが当初認識時より相対的に著しく増大しない限りステージ1に分類される。正常金融資産の信用リスクが当初認識時より相対的に著しく増大した場合は、ステージ2に移動される。金融資産は、信用減損しているとみなされた場合にステージ3に分類される。経営者により開示されている通り、予想信用損失の測定には、マクロ経済変数に基づいてモデル化された金融資産のデフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャー(報告日まで割り引かれる。)等の相互関連する多数のインプットおよび仮定が含まれるため、その計算は複雑である。経営者は、ステージ1およびステージ2の予想信用損失の見積りに、将来のマクロ経済に関する5つの異なるシナリオの見積もりを行っている。各シナリオには起こりうる結果を広範囲で捉えるためにマクロ経済変数の予測が含まれ、また、シナリオは報告日時点での各シナリオの結果の範囲の相対的発生可能性に関する経営者の予想に基づいて確率加重される。注記5に記載されている通り、COVID-19による世界的なパンデミックは経営者のACLの決定に重大な影響を与えており、経営者は高度な判断を用いることが必要とされる。その結果、ACLの不確実性は通常よりも高く、また使用されたインプットは本質的に変化する可能性があるため、将来の期間においてステージ1およびステージ2のACLの見積額は大きく変動する可能性がある。現在および将来の環境において内在する不確実性に対処し、銀行のモデル結果には捉えられていない関連するすべてのリスク要因を反映するために、経営者は専門家の信用判断を用いている。経営者は、パンデミックから生じる前例のないマクロ経済シナリオの影響、将来の損失を完全には軽減できない可能性のある銀行および政府主導の支払支援プログラムの一時的な効果、COVID-19の影響を受けた特に脆弱なセクターへの影響について、定量的および定性的な調整を行っている。

私どもがACLの見積りに関連する手続の実施を監査上の主要な検討事項として決定するにあたり、主に検討したのは、(i)経営者は、a)将来のマクロ経済シナリオの設計、b)マクロ経済変数の予測、c)シナリオの確率加重、およびd)モデルで考慮されていない特性の反映を目的とした専門家の信用判断の利用に重要な判断が求められること、(ii)COVID-19の経済的影響により見積り上の不確実性が高かったため、この点でも監査人の重要な判断が求められること、(iii)ACLの見積りは、多数のデータ、相互関連するインプットおよび仮定(一部はモデルにより算出される。)が含まれる複雑な計算であるため、監査証拠の評価には重点的監査対応手続が必要であること、ならびに(iv)監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用するということである。

連結財務諸表全体に対する私どもの意見を形成するにあたり、私どもは監査上の主要な検討事項に対応する手続を実施し、また監査証拠を評価した。これらの手続には、ACLの見積りに関連する内部統制の有効性を、COVID-19によりもたらされた経済的混乱についての検討も織り込みながら、(i)デフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャーのモデルに関する統制、(ii)将来のマクロ経済に関する複数のシナリオの設計、マクロ経済変数の予測およびこれらシナリオの確率加重に関する統制、(iii)ACLを計算する上での基礎となるインプットデータの網羅性と正確性に関する統制、ならびに(iv)専門家の信用判断の利用に関連する統制を含めて検証することが含まれた。また、これらの手続には、ステージ1およびステージ2のACLの見積りに関する経営者のプロセスを、COVID-19によりもたらされた経済的混乱に関する経営者の検討を含めて検証することが含まれ、特に、(i)ステージ1およびステージ2のACLの見積りに用いられた、デフォルト率、デフォルト時損失率、およびデフォルト時エクスポージャーのモデルの適切性の評価、(ii)基礎データの網羅性、正確性および関連性の検証、(iii)ACLの見積りに用いられた重要なインプットや仮定(これには、a)将来のマクロ経済シナリオの設計、b)予測されたマクロ経済変数、c)シナリオに割り当てられた確率加重を含む。)についての妥当性の評価、(iv)経営者の専門家の信用判断の利用の評価により構成された。将来のマクロ経済シナリオの設計およびマクロ経済変数の予測において経営者が使用したインプットおよび仮定の妥当性の評価には、これらの仮定と外部の市場データや業界データとの整合性の評価が含まれた。また、専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させ、(i)ACLの計算の適切性の検証、(ii)ACLの計算に用いられた、一部モデルにより算出される相互に関連するインプットおよび仮定(これには、a)将来のマクロ経済シナリオ、b)マクロ経済変数の予測、およびc)シナリオに配分された確率加重を含む。)の評価、ならびに(iii)利用された専門家の信用判断の利用の妥当性の評価を行った。

一部の資金生成単位(以下「CGU」という。)ののれんの減損評価

連結財務諸表に対する注記2および10に記載されている通り、経営者は、各CGUの帳簿価額と回収可能価額を比較して毎年8月1日にのれんの減損テストを実施している。経営者は、事業計画に基づき将来キャッシュ・フローを予測する割引キャッシュ・フロー・モデルにより、各CGUの回収可能価額を算定している。各CGUの予想将来キャッシュ・フローを現在価値にするために使用される割引率は、各CGUがさらされるリスク調整後の銀行全体の資本コストをベースにしている。経営者は、各CGUについて、最初のキャッシュ・フローの予測期間を超えたキャッシュ・フローについては、一定の永久成長率を使用して一定の割合で増加すると仮定している。経営者により開示されている通り、COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額は減少した。注記10に記載されている通り、2020年10月31日現在、カリビアン・バンキングCGUに割り当てられたのれんは1,719百万ドルであったが、経営者は、減損テストにおいて回収可能価額が帳簿価額に近似していると判断した。CGUの回収可能価額は、CGUの帳簿価額が使用価値を上回る場合を除き、使用価値である。CGUの帳簿価額が使用価値を上回る場合は、CGUの処分コスト控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い金額が回収可能価額となる。経営者は、カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額を処分コスト控除後の公正価値として見積り、将来キャッシュ・フローは第三者に売却する場合の対価に近似するように調整が加えられている。経営者は、2020年度のカリビアン・バンキングCGUの回収可能価額の算定において、金利環境の悪化を反映した税引前レート11.4%を用いて予想将来キャッシュ・フローを割引き、パンデミックに起因する不確実性を反映して、永久成長率は3.7%を使用している。経営者はまた、比較可能な市場取引を含め、合理的に考え得る代替シナリオを検討した。そこでは、カリビアン・バンキングCGUの評価は重要性のない黒字から重要性のない赤字の範囲とされている。。経営者により開示されている通り、COVID-19に端を発した経済的混乱の結果、金利変動を含む経済的不確実性の影響を比較的受けやすいキャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)等の特定のCGUの回収可能価額は減少したが、COVID-19のパンデミックの影響にもかかわらず、引き続き帳簿価額を上回っている。2020年10月31日現在、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUに割り当てられたのれんは、それぞれ1,078百万ドルおよび2,978百万ドルであった。キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUの回収可能価額は、各CGUの使用価値であり、割引キャッシュ・フロー法により見積もられている。経営者により開示されている通り、各CGUの回収可能価額の見積りには、重要な判断を用いる必要があり、またモデルは、将来キャッシュ・フロー、割引率および永久成長率の変動に最も影響を受ける。環境は急速に変化しており、その結果、経営者の経済見通しは通常よりも不確実性が高く、将来の期間においてCGUの予想将来キャッシュ・フローを大幅に変動させ、減損費用が発生する可能性がある。実績は、景気後退の期間および深刻度、ならびに将来における最終的な回復時期および回復度合いに関するものも含めて、現在の予想とは大幅に異なる可能性がある。

私どもがカリビアン・バンキング、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUののれんの減損評価に関連する手続の実施を監査上の主要な検討事項として決定するにあたり、主に検討したのは、(i)各CGUの回収可能価額の決定には、a)将来キャッシュ・フロー、b)割引率、c)永久成長率、ならびにd)カリビアン・バンキングCGUの場合は、処分コスト控除後の公正価値見積りにおける、1)第三者に売却する場合の対価に近似させるためのキャッシュ・フローの調整、および2)市場における比較可能な取引の検討を含む、経営者の重要な判断が求められること、(ii)経営者の各CGUの回収可能価額の計算に関する監査手続の実施および監査証拠の評価には、特に回収可能価額の減少を踏まえると、監査人の主観的な判断が必要であること、ならびに(iii)監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用するということである。

連結財務諸表全体に対する私どもの意見を形成するにあたり、私どもは監査上の主要な検討事項に対応する手続を実施し、また監査証拠を評価した。これらの手続には、カリビアン・バンキング、キャピタル・マーケットおよびUSウェルス・マネジメント(シティ・ナショナルを含む。)CGUの回収可能価額の決定に係る統制を含む、経営者ののれんの減損テストに係る統制の有効性の検証が含まれた。また、これらの手続には、各CGUの回収可能価額の決定に関する経営者のプロセスの検証が含まれ、特に、(i)割引キャッシュ・フロー・モデルの適切性の評価、(ii)モデルに使用された基礎データの網羅性、正確性および関連性の検証、(iii)経営者が用いた、a)割引率、b)永久成長率、c)将来キャッシュ・フロー、およびd)カリビアン・バンキングCGUの場合は、第三者に売却する場合の対価に近似させるための調整(カリビアン・バンキングCGUの市場における比較可能な取引との整合性の評価を含む。)を含む、重要な仮定の評価により構成された。将来キャッシュ・フローに関連する経営者の仮定の評価には、(i)各CGUの現在および過去の業績、(ii)外部の市場データや業界データ、および(iii)監査の他の領域で入手した監査証拠との整合性を踏まえて、経営者が用いた仮定が合理的であったかの評価手続が含まれていた。また、専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させて、(i)経営者の割引キャッシュ・フロー・モデルの適切性、ならびに(ii)特定の重要な仮定(これには、a)割引率、b)永久成長率、およびc)カリビアン・バンキングCGUの回収可能価額と市場における比較可能な取引との整合性の評価を含む。)の妥当性を評価した。

不確実な税務ポジション

連結財務諸表に対する注記2に記載されている通り、銀行は、営業活動を行っている様々な管轄区域の法人所得税法に従っており、複雑な税法の解釈については経営者と関係税務当局との間で異なる可能性がある。経営者により開示されている通り、関連税法の解釈および税金費用の算定において銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている不確実な税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)を評価する際には、重要な判断が求められる。経営者は、四半期ベースで再評価を行い、入手可能な情報に基づき最善の見積りを織り込んでいるが、銀行の税務ポジションに関する関連税務当局の決定に基づき追加的な負債および税金費用が発生する可能性がある。一部では、注記22に記載されている通り、銀行は、取引からの配当金(納税義務のない投資者との取引を含む。)について税額控除を否認する指摘を受けている。

私どもが不確実な税務ポジションに関連する手続の実施を監査上の主要な検討事項として決定するにあたり、主に検討したのは、(i)経営者は、a)関連税法の解釈、およびb)銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)の評価に、重要な判断(高度な見積上の不確実性を含む。)が求められること、(ii)不確実な税務ポジションの評価に関する監査手続の実施には、監査人の主観的判断が必要となること、ならびに(iii)監査上の対応として、専門的能力および知識を有する職業的専門家を利用するということである。

連結財務諸表全体に対する私どもの意見を形成するにあたり、私どもは監査上の主要な検討事項に対応する手続を実施し、また監査証拠を評価した。これらの手続には、不確実な税務ポジションの評価に関連する統制の有効性および税金費用に対する影響の検証が含まれた。また、これらの手続では特に、経営者の(i)銀行の税務ポジションが容認される可能性(関係税務当局の調査または不服審査の対象となっている不確実な税務ポジションに関する経営者の最善の見積りを含む。)の評価、および(ii)不確実な税務ポジションに関連する税金費用の見積り(該当がある場合)に用いたプロセスについての検証が含まれた。これには、(i)使用された方法の適切性の評価、(ii)使用された基礎データの網羅性、正確性および関連性の検証、(iii)関係税務当局とやり取りのレビュー、(iv)銀行内部および外部の弁護士への質問、(v)経営者が使用した重要な仮定の妥当性の評価が含まれた。また、専門的能力および知識を有する職業的専門家を関与させて、a)関連税法の適用、b)関係税務当局が税務ポジションを容認する可能性が高いか、およびc)経営者が用いた証拠を含む、重要な仮定を評価した。

プライスウォーターハウスクーパース エルエルピー

勅許職業会計士

公認会計士

トロント市、カナダ

2020年12月1日

私どもは2016年より銀行の監査人を務めている。

[前へ](#) [次へ](#)

Report of Independent Registered Public Accounting Firm

To the Shareholders and Board of Directors of Royal Bank of Canada

Opinions on the Financial Statements and Internal Control over Financial Reporting

We have audited the accompanying consolidated balance sheets of Royal Bank of Canada and its subsidiaries (together, the Bank) as of October 31, 2020 and 2019, and the related consolidated statements of income, comprehensive income, changes in equity and cash flows for the years then ended, including the related notes (collectively referred to as the consolidated financial statements). We also have audited the Bank's internal control over financial reporting as of October 31, 2020, based on criteria established in *Internal Control - Integrated Framework* (2013) issued by the Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission (COSO).

In our opinion, the consolidated financial statements referred to above present fairly, in all material respects, the financial position of the Bank as of October 31, 2020 and 2019, and its financial performance and its cash flows for the years then ended in conformity with International Financial Reporting Standards as issued by the International Accounting Standards Board. Also in our opinion, the Bank maintained, in all material respects, effective internal control over financial reporting as of October 31, 2020, based on criteria established in *Internal Control - Integrated Framework* (2013) issued by the COSO.

Basis for Opinions

The Bank's management is responsible for these consolidated financial statements, for maintaining effective internal control over financial reporting, and for its assessment of the effectiveness of internal control over financial reporting, included in the accompanying Management's Report on Internal Control over Financial Reporting. Our responsibility is to express opinions on the Bank's consolidated financial statements and on the Bank's internal control over financial reporting based on our audits. We are a public accounting firm registered with the Public Company Accounting Oversight Board (United States) (PCAOB) and are required to be independent with respect to the Bank in accordance with the U.S. federal securities laws and the applicable rules and regulations of the Securities and Exchange Commission and the PCAOB.

We conducted our audits in accordance with the standards of the PCAOB. Those standards require that we plan and perform the audits to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements are free of material misstatement, whether due to error or fraud, and whether effective internal control over financial reporting was maintained in all material respects.

Our audits of the consolidated financial statements included performing procedures to assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements, whether due to error or fraud, and performing procedures that respond to those risks. Such procedures included examining, on a test basis, evidence regarding the amounts and disclosures in the consolidated financial statements. Our audits also included evaluating the accounting principles used and significant estimates made by management, as well as evaluating the overall presentation of the consolidated financial statements. Our audit of internal control over financial reporting included obtaining an understanding of internal control over financial reporting, assessing the risk that a material weakness exists, and testing and evaluating the design and operating effectiveness of internal control based on the assessed risk. Our audits also included performing such other procedures as we considered necessary in the circumstances. We believe that our audits provide a reasonable basis for our opinions.

Definition and Limitations of Internal Control over Financial Reporting

An entity's internal control over financial reporting is a process designed to provide reasonable assurance regarding the reliability of financial reporting and the preparation of financial statements for external purposes in accordance with generally accepted accounting principles. An entity's internal control over financial reporting includes those policies and procedures that (i) pertain to the maintenance of records that, in reasonable detail, accurately and fairly reflect the transactions and dispositions of the assets of the entity; (ii) provide reasonable assurance that transactions are recorded as necessary to permit preparation of financial statements in accordance with generally accepted accounting principles, and that receipts and expenditures of the entity are being made only in accordance with authorizations of management and directors of the entity; and (iii) provide reasonable assurance regarding prevention or timely detection of unauthorized acquisition, use, or disposition of the entity's assets that could have a material effect on the financial statements.

Because of its inherent limitations, internal control over financial reporting may not prevent or detect misstatements. Also, projections of any evaluation of effectiveness to future periods are subject to the risk that controls may become inadequate because of changes in conditions, or that the degree of compliance with the policies or procedures may deteriorate.

Critical Audit Matters

The critical audit matters communicated below are matters arising from the current period audit of the consolidated financial statements that were communicated or required to be communicated to the audit committee and that (i) relate to accounts or disclosures that are material to the consolidated financial statements and (ii) involved our especially challenging, subjective, or complex judgments. The communication of critical audit matters does not alter in any way our opinion on the consolidated financial statements, taken as a whole, and we are not, by communicating the critical audit matters below, providing separate opinions on the critical audit matters or on the accounts or disclosures to which they relate.

Allowance for Credit Losses (ACL)

As described in Notes 2, 4 and 5 to the consolidated financial statements, the Bank's ACL for financial assets was \$6,262 million as at October 31, 2020 and represents management's estimate of expected credit losses on financial assets as at the balance sheet date. Performing financial assets are categorized as Stage 1 from initial recognition to the date on which the asset has experienced a significant increase in credit risk relative to its initial recognition. Performing financial assets transfer into Stage 2 following a significant increase in credit risk relative to the initial recognition. Financial assets are categorized as Stage 3 when considered to be credit-impaired. As disclosed by management, the measurement of expected credit losses is a complex calculation that involves a large number of interrelated inputs and assumptions such as the financial asset's probability of default, loss given default and exposure at default, which are modelled based on macroeconomic variables, and discounted to the reporting date. Management's estimation of expected credit losses in Stage 1 and Stage 2 considers five distinct future macroeconomic scenarios, each of which includes a forecast of all relevant macroeconomic variables, designed to capture a wide range of possible outcomes, and which are probability-weighted according to management's expectation of the relative likelihood of the range of outcomes that each scenario represents at the reporting date. As disclosed in Note 5, the COVID-19 global pandemic significantly impacted management's determination of the ACL and required the application of heightened judgment. As a result, the ACL has a higher than usual degree of uncertainty and the inputs used are inherently subject to change, which may materially change the estimate of Stage 1 and Stage 2 ACL in future periods. To address the uncertainties inherent in the current and future environment and to reflect all relevant risk factors not captured in the Bank's modelled results, management applied expert credit judgment; management applied quantitative and qualitative adjustments for the impacts of the unprecedented macroeconomic scenarios arising from the pandemic, the temporary effects of the bank and government led payment support programs, which may not completely mitigate future losses, and the impacts to particularly vulnerable sectors affected by COVID-19.

The principal considerations for our determination that performing procedures relating to the estimation of the ACL is a critical audit matter are: (i) there was significant judgment required by management when a) designing future macroeconomic scenarios, b) forecasting macroeconomic variables, c) probability-weighting scenarios and d) applying expert credit judgment to reflect characteristics not already considered in the models; (ii) there was a high degree of estimation uncertainty due to the economic impacts of COVID-19, which also led to a high degree of auditor judgment; (iii) there was significant audit effort necessary to evaluate audit evidence as the estimation of the ACL is a complex calculation that involves a large volume of data, interrelated inputs and assumptions, some of which are model-based; and (iv) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.

Addressing the matter involved performing procedures and evaluating audit evidence in connection with forming our overall opinion on the consolidated financial statements. These procedures included testing the effectiveness of controls relating to the estimation of the ACL, incorporating consideration of the economic disruption caused by COVID-19, including controls over: (i) the probability of default, loss given default and exposure at default models, (ii) the design of multiple future macroeconomic scenarios, the forecasting of macroeconomic variables, and the probability-weighting of these scenarios, (iii) the completeness and accuracy of the data inputs underlying the ACL calculation, and (iv) the application of expert credit judgment. These procedures also included testing management's process for estimating the Stage 1 and Stage 2 ACL, including their consideration of the economic disruption caused by COVID-19, which consisted of, among others: (i) evaluating the appropriateness of the probability of default, loss given default and exposure at default models used in the estimation of the Stage 1 and Stage 2 ACL, (ii) testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data, and (iii) evaluating the reasonableness of significant inputs and assumptions used in the estimation of the ACL, including: a) the design of future macroeconomic scenarios, b) the forecasted macroeconomic variables, c) the probability-weights assigned to the scenarios, and iv) evaluating management's application of expert credit judgment. Evaluating the reasonableness of management's inputs and assumptions used in the design of the future macroeconomic scenarios and the forecasted macroeconomic variables included evaluating the consistency of these assumptions with external market and industry data. Professionals with specialized skill and knowledge were used to assist in (i) testing the appropriateness of the ACL calculation, (ii) evaluating the interrelated inputs and assumptions used in the ACL calculation, some of which are model-based, including: a) the future macroeconomic scenarios, b) the forecasted macroeconomic variables and c) the probability-weights assigned to the scenarios, and (iii) evaluating the reasonableness of expert credit judgment applied.

Goodwill Impairment Assessment of Certain Cash Generating Units (CGUs)

As described in Notes 2 and 10 to the consolidated financial statements, management conducts a goodwill impairment test as of August 1 of each year by comparing the carrying value of each CGU to its recoverable amount. Management calculates the recoverable amount of each CGU using a discounted cash flow model that projects future cash flows based on management forecasts. The discount rates used to determine the present value of each CGU's projected future cash flows are based on the bank-wide cost of capital, adjusted for the risks to which each CGU is exposed. For each of the CGUs, cash flows beyond the initial cash flow forecast period are assumed by management to increase at a constant terminal growth rate. As disclosed by management, as a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU has declined. As described in Note 10, as at October 31, 2020, the goodwill allocated to the Caribbean Banking CGU was \$1,719 million and management determined in the impairment test that the recoverable amount approximates the carrying amount. The recoverable amount of a CGU is represented by its value in use, except in circumstances where the carrying amount of a CGU exceeds its value in use. In such cases, the greater of the CGU's fair value less costs of disposal and its value in use is the recoverable amount. Management estimated the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU as the fair value less costs of disposal, and future cash flows were adjusted to approximate the considerations of a prospective third-party buyer. In determining the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU, management discounted forecast future cash flows using a pre-tax rate of 11.4% in 2020, reflecting a lower interest rate environment, and the terminal growth rate used was 3.7%, reflecting uncertainty due to the pandemic. Management also considered reasonably possible alternative scenarios, including market comparable transactions, which yielded valuations of the Caribbean Banking CGU ranging from an immaterial surplus to an immaterial deficit. As management has also disclosed, as a result of the economic disruptions triggered by COVID-19, the recoverable amounts of certain CGUs, including Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National), which are more sensitive to economic uncertainties, including interest rate movements, have declined, but continue to exceed carrying amounts despite impacts from the COVID-19 pandemic. As at October 31, 2020 the goodwill allocated to the Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs was \$1,078 million and \$2,978 million, respectively. The recoverable amounts of the Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs are represented by each CGU's value in use, estimated using a discounted cash flow method. As disclosed by management, the estimation of the recoverable amount of each CGU requires the use of significant judgment; and the models are most sensitive to changes in future cash flows, discount rates, and terminal growth rates. The environment is rapidly evolving and as a result, management's economic outlook has a higher than usual degree of uncertainty, which may, in future periods, materially change the expected future cash flows of the CGUs and result in an impairment charge. Actual experience may differ materially from current expectations, including in relation to the duration and severity of the economic contraction and the ultimate timing and extent of a future recovery.

The principal considerations for our determination that performing procedures relating to the goodwill impairment assessment of the Caribbean Banking, Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs is a critical audit matter are: (i) there was significant judgment required by management when determining the recoverable amount of each CGU, including a) future cash flows, b) discount rates, c) terminal growth rates, and d) for the Caribbean Banking CGU where the fair value less costs of disposal was estimated, 1) adjustments made to the cash flows to approximate the considerations of a prospective third-party buyer and 2) consideration of market comparable transactions; (ii) there was a high degree of auditor judgment and subjectivity in performing procedures over management's calculation of the recoverable amount of each CGU, and evaluating audit evidence, especially in light of the decline in recoverable amounts; and (iii) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.

Addressing the matter involved performing procedures and evaluating audit evidence in connection with forming our overall opinion on the consolidated financial statements. These procedures included testing the effectiveness of controls relating to management's goodwill impairment test, including controls over the determination of the recoverable amount of the Caribbean Banking, Capital Markets and U.S. Wealth Management (including City National) CGUs. These procedures also included testing management's process for determining the recoverable amount of each of these CGUs, which consisted of, among others: (i) evaluating the appropriateness of the discounted cash flow models, (ii) testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data used in the models, and (iii) evaluating the significant assumptions used by management, including a) discount rates, b) terminal growth rates, c) future cash flows, and d) adjustments made thereto to approximate the considerations of a prospective third-party buyer for the Caribbean Banking CGU, including evaluating consistency with market comparable transactions for the Caribbean Banking CGU. Evaluating management's assumptions related to future cash flows involved assessing whether the assumptions used by management were reasonable considering the consistency with (i) current and past performance of each CGU, (ii) external market data and industry data, and (iii) evidence obtained in other areas of the audit. Professionals with specialized skill and knowledge were used to assist in evaluating (i) the appropriateness of management's discounted cash flow models, and (ii) the reasonableness of certain significant assumptions, including a) discount rates, b) terminal growth rates, and c) evaluating consistency of the recoverable amount of the Caribbean Banking CGU with market comparable transactions.

Uncertain Tax Positions

As described in Note 2 to the consolidated financial statements, the Bank is subject to income tax laws in various jurisdictions where it operates and the complex tax laws are potentially subject to different interpretations by management and the relevant taxation authorities. As disclosed by management, significant judgment is required in the interpretation of the relevant tax laws, and in assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions to determine tax provisions, which includes management's best estimate of uncertain tax positions that are under audit or appeal by the relevant taxation authorities. Management performs a review on a quarterly basis to incorporate its best assessment based on information available, but additional liability and income tax expense could result based on the acceptance of the Bank's tax positions by the relevant tax authorities. In some cases, as described in Note 22, the Bank has received reassessments denying the tax deductibility of dividends from transactions including those with Tax Indifferent Investors.

The principal considerations for our determination that performing procedures relating to the uncertain tax positions is a critical audit matter are that: (i) there was significant judgment required by management, including a high degree of estimation uncertainty, when a) interpreting the relevant tax laws, and b) assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions, which includes management's best estimate of tax positions that are under audit or appeal by relevant taxation authorities; (ii) there was a high degree of auditor judgment and subjectivity in performing procedures to evaluate the uncertain tax positions; and (iii) the audit effort included the use of professionals with specialized skill and knowledge.

Addressing the matter involved performing procedures and evaluating audit evidence in connection with forming our overall opinion on the consolidated financial statements. These procedures included testing the effectiveness of controls relating to the evaluation of uncertain tax positions and the impact on tax provisions. These procedures also included, among others, testing management's process used in (i) assessing the probability of acceptance of the Bank's tax positions, which includes management's best estimate of tax positions that are under audit or appeal by relevant taxation authorities and (ii) estimating provisions relating to uncertain tax positions, if applicable. This involved: (i) evaluating the appropriateness of the methods used, (ii) testing the completeness, accuracy, and relevance of underlying data used, (iii) reviewing correspondence with relevant taxation authorities, (iv) making inquiries of the Bank's internal and external legal counsel, and (v) evaluating the reasonableness of significant assumptions used by management. Professionals with specialized skill and knowledge were used to assist in evaluating the significant assumptions, including a) the application of relevant tax laws, b) whether it is probable that the relevant tax authorities will accept the tax positions, and c) evidence used by management.

PricewaterhouseCoopers LLP

Chartered Professional Accountants, Licensed Public Accountants

Toronto, Canada
December 1, 2020

We have served as the Bank's auditor since 2016.

(※) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出会社が別途保管しております。

[前へ](#)